志木市の文化財　第78集

城山遺跡 第96地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

埼玉県志木市教育委員会

調査区全景（モザイク空中写真）

ＴＰ８　第１文化層　石器・礫出土状況（東から）／奥は第３文化層

ＴＰ８　第２文化層　石器・礫出土状況（東から）

縄文時代

７号住居跡　貝類・縄文土器出土状況（東から）

縄文時代

住居跡から出土した諸磯式土器

弥生時代

10 号住居跡　弥生土器・石器出土状況（南西から）

弥生時代

10 号住居跡出土　弥生時代中期宮ノ台式土器・石器・異形土製品

古墳時代

315 号住居跡　遺物出土状況（南から）

古墳時代

315 号住居跡出土　古墳時代後期（7 世紀中葉）の土師器・紡錘車・鎌・鉄鏃・刀子・砥石

平安時代

住居跡から出土した平安時代の遺物

中近世

68 号溝跡（西から）

中近世

69 号溝跡（西から）

は　じ　め　に

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『城山遺跡第 96 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和元年度から令和２年度にかけて実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15 カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

城山遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　　言

1．本書は、令和元年度～令和２年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する城山遺跡第 96 地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、市営墓地拡張工事に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である志木市からの委任を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。

3．埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業の支援業務を株式会社東京航業研究所（代表取締役　中本直士）に委託した。

4．発掘作業は令和元年５月 27 日から 11 月２日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和３年３月 25 日まで行った。

5．本書は尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡が監修し、編集は遠竹陽一郎が行った。執筆は第１章第１節を尾形、第１章第２節と第２章第１節を徳留、第２章第２・３節・第３章第２～７節・第４章第２・４～６節を遠竹、第３章第１節・第４章第１節を坂下、第４章第３節を宅間が担当した。遺物の観察は石器・石製品を坂下・竹内、縄文時代から平安時代の土器・土製品を柳井、中世以降の土器・陶磁器を根田、金属製品を遠竹が主に行った。

6．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

7．　調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一（～令和元年度）
〃	北村竜一（令和２年度～）
教育政策部次長	北村竜一（～令和元年度）
〃	大熊克之（令和２年度～）
生涯学習課長	原田謙二（～令和元年度）
〃	山本　勲（令和２年度～）
生涯学習課副課長	中原敦也（令和２年度～）
生涯学習課主幹	中原敦也（～令和元年度）
	浅見千穂（令和２年度～）
生涯学習課主査	浅見千穂（～令和元年度）
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
〃	徳留彰紀（令和２年度～）
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀（～令和元年度）
〃	大久保　聡

生涯学習課主事補　鈴木楓月
調査担当者　尾形則敏
徳留彰紀
大久保　聡
志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
深瀬　克（委員）
上野守嘉（委員）
新田泰男（委員）
金子博一（委員）（令和２年４月１日～）
高橋　豊（委員）（～令和２年３月31日）

【株式会社東京航業研究所】
○発掘作業
調査員　遠竹陽一郎
現場代理人　鈴木智之
調査補助員　小森暁生・根田洋平・坂下貴則
作業員　伊藤　茂・稲川信子・大川早苗・梶原優太・上川明美・栗原雅基・小池幹男・小坂信雄・小林義明・坂　有子・榊原健二・佐野紀夫・白尾　司・空　博己・高瀬之夫・竹村洋一・立川栄二・田中雅弘・為石　篤・並木智子・古間果那子・増澤勝実・真仁田晃子・三邊有希・吉田美和
測量　大久保聡・樫尾哲夫・川下由光・高田拓郎・奈治原亮年・八島大介
機材整備　向井正憲
○整理作業・報告書刊行作業
調査員　遠竹陽一郎
調査補助員　小森暁生・根田洋平・坂下貴則・宅間清公
作業員　大川亜弓・大久保文子・岡田ヒサコ・荻島里江・栗原雅基・兼目恵美・酒井成男・島崎美代子・高橋　昇・田上達恵・田口陽祐・竹内あい・東條高士・中原はつね・中山幸恵・西村由美子・野　島　泉・羽鳥久子・布施比登美・松山純示・三原浩之・宮崎浩子・村井建三・持田つる子・森田　望・柳井維都花・柳澤美樹・大和　修・山羽　孝

８．発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。
埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館
石川日出志・江原　順・大屋道則・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・

斉藤　純・齋藤欣延・斯波　治・鈴木一郎・柴田　徹・照林敏郎・野沢　均・
早坂廣人・堀　善之・前田秀則・村山　卓・柳井章宏・山本　龍・和田晋治

9．本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成31年4月26日付け　教文資第4－203号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和2年3月26日付け　教文資第7－154号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第2図　1：5,000　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行
株式会社ゼンリン

2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4. 遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位は㎝である。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　口：口径　底：底径　厚：器厚

9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｕ＝旧石器時代の石器集中地点　礫＝旧石器時代の礫群　Ｊ＝縄文時代の住居跡

Ｙ＝弥生時代中期～古墳時代前期の住居跡　Ｈ＝古墳時代後期・平安時代の住居跡

Ｓ＝縄文時代の集石　Ｄ＝土坑　Ｍ＝溝跡　道＝道路状遺構　Ｐ＝ピット

Ｔ＝掘立柱建築遺構　方＝方形周溝墓　ＦＰ＝炉穴

目　　次

巻頭図版／はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境…… 1
　第１節　市域の地形と遺跡…… 1
　第２節　遺跡の概要 …… 7
第２章　発掘調査の概要…… 16
　第１節　調査に至る経緯…… 16
　第２節　調査の方法と経過…… 18
　第３節　基本層序…… 22
第３章　検出された遺構と遺物…… 26
　第１節　旧石器時代…… 26
　第２節　縄文時代…… 59
　第３節　弥生時代中期～古墳時代前期…… 106
　第４節　古墳時代後期…… 126
　第５節　平安時代…… 231
　第６節　中世以降…… 241
　第７節　遺構外出土遺物…… 283
第４章　調査のまとめ…… 304
　第１節　旧石器時代…… 304
　第２節　縄文時代…… 307
　第３節　弥生時代中期～古墳時代前期…… 309
　第４節　古墳時代後期…… 310
　第５節　平安時代…… 316
　第６節　中世以降…… 317

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．放射性炭素年代測定…… 325
　Ⅱ．城山遺跡第 96 地点出土炭化材の樹種同定 …… 327
　Ⅲ．城山遺跡第 96 地点出土黒曜石の産地推定 …… 334

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）……2
第 2 図　城山遺跡の調査地点（1／3,000）……9
第 3 図　確認調査時の遺構分布（1／300）…… 17
第 4 図　調査区画図（1／1,000）…… 18
第 5 図　基本土層の位置（1／300）…… 22
第 6 図　基本層序 1（1／60）…… 23
第 7 図　基本層序 2（1／60）…… 24
第 8 図　遺構分布図（1／300）…… 25
第 9 図　ＴＰ配置図（1／300）…… 26
第 10 図　第 1 ～ 3 文化層概略図（1／100）…… 27
第 11 図　9 号石器集中地点　器種別分布図
（1／60・1／3）・組成グラフ …… 29
第 12 図　9 号石器集中地点　石質別分布図
（1／60・1／3）・組成グラフ …… 30
第 13 図　9 号石器集中地点出土石器 1（2／3）…… 31
第 14 図　9 号石器集中地点出土石器 2（2／3）…… 32
第 15 図　9 号石器集中地点出土石器 3（2／3）…… 33
第 16 図　9 号石器集中地点出土石器 4（2／3）…… 34
第 17 図　9 号石器集中地点出土石器 5（2／3）…… 35
第 18 図　10 号石器集中地点　器種別・石質分布図
（1／60・1／3）・組成グラフ …… 36
第 19 図　10 号石器集中地点出土石器 1（1／3・2／3）
…… 37
第 20 図　10 号石器集中地点出土石器 2（2／3）…… 38
第 21 図　11 号石器集中地点　器種別分布図
（1／60）・組成グラフ …… 39
第 22 図　11 号石器集中地点　石質別分布図
（1／60・1／3）・組成グラフ …… 40
第 23 図　11 号石器集中地点出土石器 1（2／3）…… 41
第 24 図　11 号石器集中地点出土石器 2（2／3）…… 42
第 25 図　11 号石器集中地点出土石器 3（2／3）…… 43
第 26 図　10 号礫群　出土状態微細図（1／60）…… 44
第 27 図　10 号礫群　重量別分布図（1／60）・組成グラフ
…… 45
第 28 図　11 号礫群　重量別分布図・出土状態微細図
（1／60）・組成グラフ …… 46
第 29 図　遺構外出土石器（2／3・1／60）…… 48
第 30 図　縄文時代遺構全体図（1／300）…… 59
第 31 図　4 号住居跡（1／60）…… 60
第 32 図　4 号住居跡遺物出土状態・炉跡
（1／60・1／30）…… 61
第 33 図　4 号住居跡出土遺物（2／3・1／4）…… 61
第 34 図　5 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 63
第 35 図　5 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 63
第 36 図　6 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 65
第 37 図　6 号住居跡出土遺物（2／3・1／3・1／4）
…… 66
第 38 図　7 号住居跡・遺物出土状態・炉跡
（1／60・1／30）…… 68
第 39 図　7 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 69
第 40 図　8 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 73
第 41 図　8 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 74
第 42 図　9 号住居跡・炉跡（1／60・1／30）…… 76
第 43 図　9 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 77
第 44 図　9 号住居跡出土遺物 1（1／3・1／4）…… 78
第 45 図　9 号住居跡出土遺物 2（1／3・1／4）…… 79
第 46 図　10 号住居跡・炉跡（1／60・1／30）…… 83
第 47 図　10 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 84
第 48 図　10 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 84
第 49 図　11・13・14 号住居跡（1／60）…… 86
第 50 図　11・13・14 号住居跡遺物出土状態（1／60）87
第 51 図　11・13・14 号住居跡出土遺物
（1／3・1／4）…… 87
第 52 図　12 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 89
第 53 図　12 号住居跡（1／60）…… 90
第 54 図　12 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 90
第 55 図　6 号集石・出土遺物（1／60・1／3）…… 92
第 56 図　7 号集石（1／60）…… 92
第 57 図　炉穴（1／60）…… 94
第 58 図　炉穴出土遺物（1／3）…… 94
第 59 図　縄文時代土坑 1（1／60）…… 100
第 60 図　縄文時代土坑 2（1／60）…… 101
第 61 図　1095 号土坑出土遺物（1／3・1／4）…… 102
第 62 図　1096 号土坑出土遺物（1／3）…… 102

第 63 図　1097 号土坑出土遺物（1／3）…… 103
第 64 図　1121 号土坑出土遺物（1／3）…… 103
第 65 図　1125 号土坑出土遺物（2／3・1／3・1／4）
…… 103
第 66 図　1127 号土坑出土遺物（1／3）…… 104
第 67 図　1131 号土坑出土遺物（1／3）…… 104
第 68 図　189 号ピット（1／60）…… 105
第 69 図　189 号ピット出土遺物（1／4）…… 105
第 70 図　弥生時代中期～古墳時代前期遺構全体図
（1／300）…… 106
第 71 図　8 号住居跡（1／60）…… 107
第 72 図　8 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 108
第 73 図　8 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 108
第 74 図　9 号住居跡（1／60）…… 109
第 75 図　9 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 110
第 76 図　9 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）…… 111
第 77 図　10 号住居跡（1／60）…… 112
第 78 図　10 号住居跡炉跡・遺物出土状態 1
（1／60・1／30）…… 113
第 79 図　10 号住居跡遺物出土状態 2
（1／60・1／30）…… 114
第 80 図　10 号住居跡（1／60）…… 115
第 81 図　10 号住居跡出土遺物 1（1／4）…… 116
第 82 図　10 号住居跡出土遺物 2（1／3・1／4）… 117
第 83 図　10 号住居跡出土遺物 3（1／3・1／4）… 118
第 84 図　10 号住居跡出土遺物 4（1／3・1／4）… 119
第 85 図　11 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 123
第 86 図　11 号住居跡出土遺物（1／4）…… 124
第 87 図　1 号方形周溝墓（1／60）…… 125
第 88 図　古墳時代後期遺構全体図（1／300）…… 126
第 89 図　301 号住居跡（1／60）…… 127
第 90 図　301 号住居跡遺物出土状態・カマド
（1／60・1／30）…… 128
第 91 図　301 号住居跡出土遺物（1／4）…… 129
第 92 図　302 号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 130
第 93 図　303 号住居跡（1／60）…… 131
第 94 図　303 号住居跡カマド・遺物出土状態
（1／30・1／60）…… 132
第 95 図　303 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）… 133
第 96 図　304 号住居跡（1／60）…… 136
第 97 図　304 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 137
第 98 図　304 号住居跡・カマド
（1／60・1／30）…… 138
第 99 図　304 号住居跡出土遺物 1（1／4）…… 139
第 100 図　304 号住居跡出土遺物 2
（1／2・1／4）…… 140
第 101 図　305 号住居跡（1／60）…… 143
第 102 図　305 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 144
第 103 図　305 号住居跡カマド（1／30）…… 145
第 104 図　305 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）… 145
第 105 図　306 号住居跡（1／60）…… 147
第 106 図　306 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 148
第 107 図　306 号住居跡カマド（1／30・1／60）… 149
第 108 図　306 号住居跡出土遺物 1（1／4）…… 150
第 109 図　306 号住居跡出土遺物 2（1／4）…… 151
第 110 図　306 号住居跡出土遺物 3（1／4）…… 152
第 111 図　308 号住居跡（1／60）…… 155
第 112 図　308 号住居跡遺物出土状態・
カマド（1／60・1／30）…… 156
第 113 図　308 号住居跡出土遺物（1／4）…… 157
第 114 図　309 号住居跡（1／60）…… 158
第 115 図　309 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 159
第 116 図　309 号住居跡カマド（1／30）…… 160
第 117 図　309 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）… 161
第 118 図　311 号住居跡（1／60）…… 163
第 119 図　311 号住居跡・遺物出土状態（1／60）… 164
第 120 図　311 号住居跡カマド（1／30）…… 165
第 121 図　311 号住居跡出土遺物 1（1／4）…… 166
第 122 図　311 号住居跡出土遺物 2（1／4）…… 167
第 123 図　311 号住居跡出土遺物 3（1／3・1／4）168
第 124 図　312 号住居跡・遺物出土状態（1／60）… 171
第 125 図　312 号住居跡カマド（1／30）…… 172
第 126 図　312 号住居跡出土遺物（1／4）…… 173
第 127 図　313 号住居跡（1／60）…… 174
第 128 図　313 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 175
第 129 図　313 号住居跡・カマド（1／60・1／30）176
第 130 図　313 号住居跡出土遺物 1（1／4）…… 177
第 131 図　313 号住居跡出土遺物 2（1／4）…… 178

第 132 図　313 号住居跡出土遺物３（１／２・１／４）　179
第 133 図　314 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　182
第 134 図　314 号住居跡カマド（１／30）……　183
第 135 図　314 号住居跡出土遺物１（１／４）……　184
第 136 図　314 号住居跡出土遺物２（１／４）……　185
第 137 図　315 号住居跡（１／60）……　187
第 138 図　315 号住居跡・遺物出土状態１（１／60）　188
第 139 図　315 号住居跡・遺物出土状態２（１／60）　189
第 140 図　315 号住居跡カマド（１／30）……　190
第 141 図　315 号住居跡出土遺物１（１／３・１／４）　191
第 142 図　315 号住居跡出土遺物２（１／４）……　192
第 143 図　315 号住居跡出土遺物３（１／４）……　193
第 144 図　315 号住居跡出土遺物４（１／４）……　194
第 145 図　315 号住居跡出土遺物５（１／３・１／４）　195
第 146 図　316 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　199
第 147 図　316 号住居跡出土遺物（１／４）……　199
第 148 図　317 号住居跡（１／60）……　201
第 149 図　317 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　202
第 150 図　317 号住居跡カマド（１／30）……　203
第 151 図　317 号住居跡出土遺物（１／４）……　204
第 152 図　318 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　206
第 153 図　318 号住居跡出土遺物（１／４）……　207
第 154 図　319 号住居跡（１／60）……　208
第 155 図　319 号住居跡遺物出土状態・カマド
（１／60・１／30）……　209
第 156 図　319 号住居跡出土遺物１（１／４）……　210
第 157 図　319 号住居跡出土遺物２（１／４）……　211
第 158 図　320 号住居跡（１／60）……　213
第 159 図　320 号住居跡遺物出土状態（１／60）……　214
第 160 図　320 号住居跡出土遺物（１／４）……　214
第 161 図　321 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　216
第 162 図　321 号住居跡カマド（１／30）……　217
第 163 図　321 号住居跡出土遺物１（１／４）……　218
第 164 図　321 号住居跡出土遺物２（１／４）……　219
第 165 図　321 号住居跡出土遺物３（１／４）……　220
第 166 図　321 号住居跡出土遺物４（１／４）……　221
第 167 図　321 号住居跡出土遺物５（１／４）……　222
第 168 図　321 号住居跡出土遺物６（１／４）……　223
第 169 図　321 号住居跡出土遺物７
（１／３・１／４）……　224
第 170 図　平安時代遺構全体図（１／300）……　231
第 171 図　300 号住居跡・出土遺物
（１／60・１／４）……　232
第 172 図　307 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　233
第 173 図　307 号住居跡カマド（１／30）……　234
第 174 図　307 号住居跡出土遺物（１／４）……　235
第 175 図　310 号住居跡・遺物出土状態（１／60）…　236
第 176 図　310 号住居跡カマド（１／30）……　237
第 177 図　310 号住居跡出土遺物（１／３・１／４）…　237
第 178 図　12 号掘立柱建物遺構（１／60）……　239
第 179 図　12 号掘立柱建物遺構（１／60）……　240
第 180 図　中世以降の遺構全体図（１／300）……　241
第 181 図　68 号溝跡（１／60）……　243
第 182 図　68 号溝跡出土遺物（１／３・１／４）……　243
第 183 図　69 号溝跡（１／60）……　244
第 184 図　69 号溝跡出土遺物（１／３・１／４）……　244
第 185 図　68 号溝跡（１／100）……　245
第 186 図　69 号溝跡（１／100）……　245
第 187 図　３号道路状遺構（１／100）……　247
第 188 図　３号道路状遺構（１／60）……　249
第 189 図　Ａ群２類　方形の土坑（１／60）……　251
第 190 図　Ｂ群２類　幅狭長方形の土坑（１／60）…　253
第 191 図　Ｂ群３類　幅広長方形の土坑１（１／60）　255
第 192 図　Ｂ群３類　幅広長方形の土坑２（１／60）　257
第 193 図　Ｃ群　円形・楕円形の土坑（１／60）……　261
第 194 図　Ｆ群　Ｔ字形の土坑・遺物出土状態（１／30）
……　265
第 195 図　土坑出土遺物（１／１・１／３・１／４）…　266
第 196 図　173 号ピット（１／30）……　267
第 197 図　ピット全体図（１／300）……　268
第 198 図　ピット区分図１（１／100）……　269
第 199 図　ピット区分図２（１／100）……　270
第 200 図　ピット区分図３（１／100）……　271
第 201 図　ピット区分図４（１／100）……　272
第 202 図　ピット区分図５（１／100）……　273
第 203 図　縄文時代遺構外出土遺物１（１／３・１／４）284
第 204 図　縄文時代遺構外出土遺物２（１／３・１／４）285
第 205 図　縄文時代遺構外出土遺物３（１／３）……　286

第 206 図　縄文時代遺構外出土遺物４（１／３・１／４）287
第 207 図　縄文時代遺構外出土遺物５（１／３）…… 288
第 208 図　縄文時代遺構外出土遺物６（２／３・１／４）296
第 209 図　縄文時代遺構外出土遺物７（１／４）…… 297
第 210 図　縄文時代遺構外出土遺物８（１／４）…… 298
第 211 図　弥生時代遺構外出土遺物（１／３・１／４） 300
第 212 図　古墳時代遺構外出土遺物（１／３・１／４） 302
第 213 図　中世以降遺構外出土遺物１（１／３・１／４）302
第 214 図　中世以降遺構外出土遺物２
（１／１・１／３・１／４）…… 303
第 215 図　暦年較正結果 …… 327
第 216 図　望月ダイアグラム
（Rb 分率図／城山遺跡　第 96 地点）…… 341
第 217 図　望月ダイアグラム
（Rb 分率図／城山遺跡　第 96 地点）…… 341
第 218 図　望月ダイアグラム
（Rb 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）… 342
第 219 図　望月ダイアグラム
（Sr 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）…… 342
第 220 図　望月ダイアグラム
（Rb 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）… 343
第 221 図　望月ダイアグラム
（Sr 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）…… 343

表　目　次

第 1 表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第 2 表　城山遺跡調査一覧（1） …… 10
城山遺跡調査一覧（2） …… 11
城山遺跡調査一覧（3） …… 12
第 3 表　志木市の発掘調査報告書一覧（1） …… 13
志木市の発掘調査報告書一覧（2） …… 14
志木市の発掘調査報告書一覧（3） …… 15
第 4 表　発掘調査工程表（1） …… 19
発掘調査工程表（2） …… 20
発掘調査工程表（3） …… 21
第 5 表　９号石器集中地点出土石器（1） …… 49
９号石器集中地点出土石器（2） …… 50
第 6 表　10 号石器集中地点出土石器 …… 51
第 7 表　11 号石器集中地点出土石器（1）…… 51
11 号石器集中地点出土石器（2）…… 52
第 8 表　10 号礫群出土礫属性表（1）…… 53
10 号礫群出土礫属性表（2）…… 54
10 号礫群出土礫属性表（3）…… 55
10 号礫群出土礫属性表（4）…… 56
10 号礫群出土礫属性表（5）…… 57
第 9 表　10 号礫群接合礫属性表（1）…… 57
10 号礫群接合礫属性表（2）…… 58
第 10 表　11 号礫群出土礫属性表 …… 58
第 11 表　11 号礫群接合礫属性表 …… 58
第 12 表　遺構外出土石器 …… 58
第 13 表　４号住居跡出土遺物一覧 …… 62
第 14 表　５号住居跡出土遺物一覧 …… 64
第 15 表　６号住居跡出土遺物一覧（1） …… 66
６号住居跡出土遺物一覧（2） …… 67
第 16 表　７号住居跡出土遺物一覧（1） …… 69
７号住居跡出土遺物一覧（2） …… 70
第 17 表　７号住居跡出土貝類計量表（1） …… 70
７号住居跡出土貝類計量表（2） …… 71
第 18 表　７号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 … 71
第 19 表　７号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表 … 72
第 20 表　７号住居跡出土陸産貝類数量表 …… 72
第 21 表　８号住居跡出土遺物一覧 …… 74
第 22 表　８号住居跡出土貝類計量表 …… 75
第 23 表　８号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 … 75
第 24 表　８号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表 … 75
第 25 表　８号住居跡出土陸産貝類数量表 …… 75
第 26 表　９号住居跡出土遺物一覧（1） …… 80
９号住居跡出土遺物一覧（2） …… 81
第 27 表　９号住居跡出土貝類計量表 …… 82
第 28 表　９号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 … 82
第 29 表　９号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表 … 82
第 30 表　10 号住居跡出土遺物一覧 …… 85
第 31 表　11・13・14 号住居跡出土遺物一覧 …… 88

第 32 表　12 号住居跡出土遺物一覧 …… 91
第 33 表　6 号集石出土遺物一覧 …… 92
第 34 表　集石出土礫観察表 …… 92
第 35 表　19 号炉穴出土遺物一覧 …… 94
第 36 表　21 号炉穴出土遺物一覧 …… 94
第 37 表　1095 号土坑出土遺物一覧 …… 102
第 38 表　1096 号土坑出土遺物一覧 …… 102
第 39 表　1097 号土坑出土遺物一覧 …… 103
第 40 表　1121 号土坑出土遺物一覧 …… 103
第 41 表　1125 号土坑出土遺物一覧 …… 104
第 42 表　1127 号土坑出土遺物一覧 …… 104
第 43 表　1131 号土坑出土遺物一覧 …… 104
第 44 表　189 号ピット出土遺物一覧 …… 105
第 45 表　8 号住居跡出土遺物一覧 …… 108
第 46 表　9 号住居跡出土遺物一覧 …… 111
第 47 表　10 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 120
10 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 121
10 号住居跡出土遺物一覧（3）…… 122
第 48 表　11 号住居跡出土遺物一覧 …… 124
第 49 表　301 号住居跡出土遺物一覧 …… 129
第 50 表　303 号住居跡出土遺物一覧 …… 134
第 51 表　304 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 141
304 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 142
第 52 表　305 号住居跡出土遺物一覧 …… 146
第 53 表　306 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 153
306 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 154
第 54 表　308 号住居跡出土遺物一覧 …… 157
第 55 表　309 号住居跡出土遺物一覧 …… 162
第 56 表　311 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 169
311 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 170
第 57 表　312 号住居跡出土遺物一覧 …… 173
第 58 表　313 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 180
313 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 181
第 59 表　314 号住居跡出土遺物一覧 …… 186
第 60 表　315 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 195
315 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 196
315 号住居跡出土遺物一覧（3）…… 197
315 号住居跡出土遺物一覧（4）…… 198
第 61 表　316 号住居跡出土遺物一覧 …… 199
第 62 表　317 号住居跡出土遺物一覧 …… 205
第 63 表　318 号住居跡出土遺物一覧 …… 207
第 64 表　319 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 211
319 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 212
第 65 表　320 号住居跡出土遺物一覧 …… 215
第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（1）…… 224
321 号住居跡出土遺物一覧（2）…… 225
321 号住居跡出土遺物一覧（3）…… 226
321 号住居跡出土遺物一覧（4）…… 227
321 号住居跡出土遺物一覧（5）…… 228
321 号住居跡出土遺物一覧（6）…… 229
321 号住居跡出土遺物一覧（7）…… 230
第 67 表　300 号住居跡出土遺物一覧 …… 232
第 68 表　307 号住居跡出土遺物一覧 …… 235
第 69 表　310 号住居跡出土遺物一覧 …… 238
第 70 表　68 号溝跡出土遺物一覧 …… 243
第 71 表　69 号溝跡出土遺物一覧 …… 249
第 72 表　土坑集計表 …… 250
第 73 表　1077 号土坑出土遺物一覧 …… 266
第 74 表　1089 号土坑出土遺物一覧 …… 266
第 75 表　1098 号土坑出土遺物一覧 …… 266
第 76 表　1102 号土坑出土遺物一覧 …… 267
第 77 表　1109 号土坑出土遺物一覧 …… 267
第 78 表　1118 号土坑出土遺物一覧 …… 267
第 79 表　1123 号土坑出土遺物一覧 …… 267
第 80 表　ピット一覧（1）…… 274
ピット一覧（2）…… 275
ピット一覧（3）…… 276
ピット一覧（4）…… 277
ピット一覧（5）…… 278
ピット一覧（6）…… 279
ピット一覧（7）…… 280
ピット一覧（8）…… 281
ピット一覧（9）…… 282
第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（1）…… 289
縄文時代遺構外出土遺物一覧（2）…… 290
縄文時代遺構外出土遺物一覧（3）…… 291
縄文時代遺構外出土遺物一覧（4）…… 292
縄文時代遺構外出土遺物一覧（5）…… 293

縄文時代遺構外出土遺物一覧（６） …… 294
縄文時代遺構外出土遺物一覧（７） …… 295
縄文時代遺構外出土遺物一覧（８） …… 298
縄文時代遺構外出土遺物一覧（９） …… 299
第 82 表　弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物一覧 …… 301
第 83 表　古墳時代遺構外出土遺物一覧 …… 302
第 84 表　中世以降遺構外出土遺物一覧 …… 303
第 85 表　城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別器種組成 …… 305
第 86 表　城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別石質組成 …… 306
第 87 表　城山遺跡出土礫群の出土層準別集計表 …… 306
第 88 表　縄文時代住居跡出土貝類一覧 …… 308
第 89 表　縄文時代住居跡出土陸産貝類一覧 …… 308
第 90 表　測定試料および処理 …… 325
第 91 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 … 326
第 92 表　遺構別の樹種同定結果 …… 328
第 93 表　樹種同定結果一覧（１） …… 332
樹種同定結果一覧（２） …… 333
第 94 表　分析の各種条件 …… 337
第 95 表　試料のＸ線強度 …… 338
第 96 表　試料の元素濃度 …… 339
第 97 表　推定された判別群 …… 340

図版目次

図版１
１．ＴＰ１北壁（南から）　２．ＴＰ１西壁（東から）
３．ＴＰ２北壁（南から）　４．ＴＰ２東壁（西から）
５．ＴＰ３北壁（南から）　６．ＴＰ３西壁（東から）
７．ＴＰ４北壁（南から）　８．ＴＰ４西壁（東から）
図版２
１．ＴＰ５北壁（南から）　２．ＴＰ５西壁（東から）
３．ＴＰ６北壁（南から）　４．ＴＰ６東壁（西から）
５．ＴＰ７北壁（南から）　６．ＴＰ７西壁（東から）
７．ＴＰ８北壁西側(南から）　８．ＴＰ８北壁東側(南から）
図版３
１．ＴＰ８西壁北側（東から）
２．ＴＰ８西壁中の南壁（北から）
３．ＴＰ８西壁南側（東から）　４．ＴＰ８東壁（西から）
５．ＴＰ９北壁（南から）　６．ＴＰ９西壁（東から）
７．ＴＰ 10 北壁（南から）　８．ＴＰ 10 西壁（東から）
図版４
１．ＴＰ 11 北壁（南から）　２．ＴＰ 11 東壁（西から）
３．ＴＰ 12 北壁（南から）　４．ＴＰ 12 西壁（東から）
５．ＴＰ２　遺物出土状態（北から）
６．ＴＰ２　遺物出土状態（西から）
７．ＴＰ７　遺物出土状態（東から）
８．ＴＰ７　遺物出土状態（北東から）
図版５
１．ＴＰ８　９号石器集中地点・10 号礫群（南から）
２．ＴＰ８　９号石器集中地点・10 号礫群（南西から）
３．ＴＰ８　10 号礫群（南から）
４．ＴＰ８　10 号礫群北側（東から）
５．ＴＰ８　10 号礫群東側（東から）
図版６
１．ＴＰ８　10 号礫群南側（南から）
２．ＴＰ８　10 号石器集中地点（南から）
３．ＴＰ８　10 号石器集中地点（東から）
４．ＴＰ８　11 号石器集中地点・11 号礫群（南東から）
５．ＴＰ８　11 号石器集中地点・11 号礫群（東から）
図版７
１．４号住居跡（西から）　２．４号住居跡　掘方（西から）
３．４号住居跡　炉跡（北から）
４．４号住居跡炉跡燃焼面　５．５号住居跡（南から）
６．５号住居跡掘方（南から）
７．５号住居跡遺物出土状態（西から）
８．５号住居跡遺物出土状態（南から）
図版８
１．６号住居跡 (南から）
２．６号住居跡遺物出土状態（南から）
３．６号住居跡遺物出土状態（北から）

４．６号住居跡遺物出土状態（東から）
５．６号住居跡炉跡（南から）
６．６号住居跡焼土 (南から）
７．７号住居跡（南から）　８．７号住居跡炉跡（南から）

図版９

１．７号住居跡貝・遺物出土状態（南から）
２．７号住居跡遺物出土状態（南東から）
３．７号住居跡貝出土状態（南東から）
４．７号住居跡貝層断面（東から）
５．８号住居跡（東から）
６．８号住居跡貝・遺物出土状態（東から）
７．８号住居跡貝・遺物出土状態（南から）
８．８号住居跡貝出土状態（東から）

図版 10

１．８号住居跡貝出土状態（西から）
２．８号住居跡貝出土状態（西から）
３．９号住居跡（南東から）
４．９号住居跡掘方（南東から）
５．９号住居跡炉跡（南東から）
６．９号住居跡遺物出土状態（南東から）
７．９号住居跡遺物出土状態（南東から）
８．９号住居跡遺物出土状態（南西から）

図版 11

１．９号住居跡遺物出土状態（東から）
２．９号住居跡遺物出土状態（南西から）
３．９号住居跡Ｐ１貝出土状態（南東から）
４．９号住居跡Ｐ２貝出土状態（南東から）
５．10 号住居跡（西から）
６．10 号住居跡炉跡（南東から）
７．11・13 号住居跡（西から）
８．14 号住居跡（西から）

図版 12

１．12 号住居跡（西から）
２．12 号住居跡貝出土状態（西から）
３．12 号住居跡遺物出土状態（北から）
４．12 号住居跡遺物出土状態（南から）
５．６号集石礫出土状態（南から）
６．６号集石（南から）
７．７号集石礫出土状態（南西から）
８．７号集石（南西から）

図版 13

１．18 号炉穴（南から）　２．19 号炉穴（北から）
３．20 号炉穴（南東から）　４．21 号炉穴（北東から）
５．22 号炉穴（北西から）　６．1086 号土坑（南から）
７．1095 号土坑（南から）
８．1095 号土坑遺物出土状態（南から）

図版 14

１．1096 号土坑・1097 号土坑（西から）
２．1103 号土坑（東から）　３．1104 号土坑（南から）
４．1105 号土坑（南から）　５．1107 号土坑（北から）
６．1114 号土坑（南から）　７．1116 号土坑（南西から）
８．1117 号土坑（西から）

図版 15

１．1121 号土坑（南から）　２．1125 号土坑（北東から）
３．1127 号土坑（北から）　４．1128 号土坑（東から）
５．1129 号土坑（東から）
６．1130 号土坑・187 号ピット（東から）
７．1131 号土坑（北西から）
８．189 号ピット遺物出土状態（南から）

図版 16

１．８号住居跡（南から）　２．８号住居跡掘方（南から）
３．８号住居跡炭化物・遺物出土状態（南から）
４．８号住居跡炭化物出土状態（北東から）
５．９号住居跡(南東から）　６．９号住居跡掘方(南東から）
７．９号住居跡遺物出土状態（南から）
８．９号住居跡炭化物出土状態（南東から）

図版 17

１．10 号住居跡（南西から）
２．10 号住居跡掘方（南西から）
３．10 号住居跡炉跡（南西から）
４．10 号住居跡焼土検出状況（南西から）
５．10 号住居跡貯蔵穴（東から）
６．10 号住居跡遺物出土状態（東から）
７．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）
８．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）

図版 18

１．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）
２．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）

３．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）
４．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）
５．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）
６．10 号住居跡遺物出土状態（西から）
７．10 号住居跡遺物出土状態（北から）
８．10 号住居跡遺物出土状態（南から）
図版 19
１．10 号住居跡遺物出土状態（西から）
２．10 号住居跡遺物出土状態（東から）
３．10 号住居跡遺物出土状態（南から）
４．10 号住居跡遺物出土状態（南西から）
５．10 号住居跡炭化物出土状態（南から）
６．10 号住居跡遺物出土状態（北から）
７．10 号住居跡遺物出土状態（北から）
８．10 号住居跡遺物出土状態（東から）
図版 20
１．11 号住居跡（南から）　２．11 号住居跡掘方（南から）
３．11 号住居跡遺物出土状態（南から）
４．11 号住居跡遺物出土状態（東から）
５．１号方形周溝墓（南から）
図版 21
１．301 号住居跡（南から）
２．301 号住居跡掘方（南から）
３．301 号住居跡遺物出土状態（南から）
４．301 号住居跡遺物出土状態（南から）
５．301 号住居跡カマド（南から）
６．301 号住居跡カマド掘方（南から）
７．302 号住居跡（北西から）
８．302 号住居跡掘方（北西から）
図版 22
１．302 号住居跡遺物出土状態（北西から）
２．302 号住居跡遺物出土状態（東から）
３．303 号住居跡（南西から）
４．303 号住居跡掘方（南西から）
５．303 号住居跡遺物出土状態（南東から）
６．303 号住居跡遺物出土状態（南から）
７．303 号住居跡カマド（南東から）
８．303 号住居跡カマド掘方（南東から）
図版 23
１．304 号住居跡（東から）
２．304 号住居跡焼土・炭化物・遺物出土状態（東から）
３．304 号住居跡焼土・炭化物出土状態（西から）
４．304 号住居跡炭化物出土状態（北から）
５．304 号住居跡炭化物出土状態（東から）
６．304 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
７．304 号住居跡カマド（南から）
８．304 号住居跡カマド掘方（南から）
図版 24
１．305 号住居跡（東から）
２．305 号住居跡掘方（東から）
３．305 号住居跡ローム検出状況（東から）
４．305 号住居跡遺物出土状態（北東から）
５．305 号住居跡カマド（南から）
６．305 号住居跡カマド掘方（南から）
７．306 号住居跡（南から）
８．306 号住居跡掘方（南から）
図版 25
１．306 号住居跡遺物出土状態（南から）
２．306 号住居跡遺物出土状態（南西から）
３．306 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
４．306 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
５．306 号住居跡カマド（南から）
６．306 号住居跡カマド掘方（南から）
７．308 号住居跡（南から）
８．308 号住居跡掘方（南から）
図版 26
１．308 号住居跡遺物出土状態（南から）
２．308 号住居跡遺物出土状態（東から）
３．308 号住居跡カマド（南から）
４．308 号住居跡カマド掘方（南から）
５．309 号住居跡（南東から）
６．309 号住居跡掘方（南東から）
７．309 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
８．309 号住居跡遺物出土状態（南から）
図版 27
１．309 号住居跡カマド（南西から）
２．309 号住居跡カマド掘方（南西から）

3．311 号住居跡（南から）
4．311 号住居跡掘方（南から）
5．311 号住居跡遺物出土状態（南から）
6．311 号住居跡遺物出土状態（東から）
7．311 号住居跡遺物出土状態（西から）
8．311 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

図版 28
1．311 号住居跡カマド（南から）
2．311 号住居跡カマド掘方（南から）
3．311 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
4．311 号住居跡生粘土断面（南西から）
5．312 号住居跡（西から）
6．312 号住居跡掘方（西から）
7．312 号住居跡遺物出土状態（西から）
8．312 号住居跡遺物出土状態（南西から）

図版 29
1．312 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（西から）
2．312 号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）
3．312 号住居跡カマド（西から）
4．312 号住居跡カマド掘方（西から）
5．313 号住居跡（南から）
6．313 号住居跡掘方（南から）
7．313 号住居跡遺物出土状態（南から）
8．311 号住居跡遺物出土状態（南東から）

図版 30
1．313 号住居跡カマド（南から）
2．313 号住居跡カマド掘方（南から）
3．314 号住居跡（南から）
4．314 号住居跡掘方（南から）
5．314 号住居跡遺物出土状態（南から）
6．314 号住居跡遺物出土状態（南から）
7．314 号住居跡遺物出土状態（西から）
8．314 号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）

図版 31
1．314 号住居跡カマド（南から）
2．314 号住居跡カマド掘方（南から）
3．315 号住居跡（南から）
4．315 号住居跡遺物出土状態（南から）
5．315 号住居跡遺物出土状態（西から）

図版 32
1．315 号住居跡遺物出土状態（南から）
2．315 号住居跡遺物出土状態（東から）
3．315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
4．315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
5．315 号住居跡カマド（南から）
6．315 号住居跡カマド掘方（南から）
7．315 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
8．315 号住居跡生粘土断面（東から）

図版 33
1．316 号住居跡（南から）
2．316 号住居跡掘方（南から）
3．316 号住居跡遺物出土状態（東から）
4．316 号住居跡遺物出土状態（北から）
5．317 号住居跡（南から）
6．317 号住居跡掘方（南から）
7．317 号住居跡遺物出土状態（北から）
8．317 号住居跡炉跡Ａ・炉跡Ｂ（南から）

図版 34
1．317 号住居跡カマドＡ（南から）
2．317 号住居跡カマドＡ掘方（南から）
3．317 号住居跡カマドＢ（西から）
4．317 号住居跡カマドＢ掘方（西から）
5．318 号住居跡（北から）
6．318 号住居跡掘方（北東から）
7．318 号住居跡遺物出土状態（北東から）
8．318 号住居跡遺物出土状態（東から）

図版 35
1．319 号住居跡（南東から）
2．319 号住居跡掘方（南東から）
3．319 号住居跡遺物出土状態（南東から）
4．319 号住居跡遺物出土状態（北東から）
5．319 号住居跡生粘土・遺物出土状態（北東から）
6．319 号住居跡遺物出土状態（東から）
7．319 号住居跡カマド（南東から）
8．319 号住居跡カマド掘方（南東から）

図版 36
1．320 号住居跡（南から）
2．320 号住居跡粘土・山砂・遺物出土状態（南から）

３．320 号住居跡粘土・遺物出土状態（南から）
４．320 号住居跡生粘土断面（南西から）
５．321 号住居跡（南から）
６．321 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
７．321 号住居跡カマド（南から）
８．321 号住居跡カマド掘方（南から）

図版 37
１．300 号住居跡（南から）
２．300 号住居跡掘方（南から）
３．300 号住居跡遺物出土状態（南から）
４．300 号住居跡遺物出土状態（西から）
５．307 号住居跡（南から）
６．307 号住居跡掘方（南から）
７．307 号住居跡遺物出土状態（南から）
８．307 号住居跡遺物出土状態（東から）

図版 38
１．307 号住居跡硬化ローム検出状況（南から）
２．307 号住居跡Ｐ１断面（南から）
３．307 号住居跡カマド（南から）
４．307 号住居跡カマド掘方（南から）
５．310 号住居跡（南から）
６．310 号住居跡カマド遺物出土状態（北から）
７．310 号住居跡カマド（西から）
８．310 号住居跡カマド掘方（西から）

図版 39
１．68 号溝跡Ｃ・Ｄグリッド（東から）
２．68 号溝跡Ｅグリッド（東から）
３．68 号溝跡Ｆグリッド（東から）
４．68 号溝跡Ｈ～Ｋグリッド（西から）
５．69 号溝跡Ｄ・Ｅグリッド（東から）
６．69 号溝跡Ｆ～Ｋグリッド（西から）
７．３号道路状遺構Ｂ～Ｆグリッド（東から）
８．３号道路状遺構Ｇ～Ｋグリッド（西から）

図版 40
１．1090 号土坑硬化面検出状況（南から）
２．1090 号土坑（南から）　３．1092 号土坑（南から）
４．1109 ～ 1113 号土坑・145 号ピット（南から）
５．1077 号土坑（南から）　６．1078 号土坑（西から）
７．1084 号土坑（南から）　８．1089 号土坑（南から）

図版 41
１．1098 号土坑（南から）
２．1075・1079・1080・1081 号土坑（南から）
３．1076 号土坑（東から）　４．1083 号土坑（北から）
５．1085 号土坑（南から）　６．1087 号土坑（南から）
７．1088 号土坑（西から）　８．1091 号土坑（南から）

図版 42
１．1093 号土坑（南から）　２．1118 号土坑（南から）
３．1120 号土坑（東から）　４．1124 号土坑（東から）
５．1126 号土坑（西から）　６．1074 号土坑（南東から）
７．1122 号土坑（東から）　８．1082 号土坑（北から）

図版 43
１．1094 号土坑（北から）　２．1099 号土坑（南から）
３．1100 号土坑焼土検出状況（東から）
４．1100 号土坑（東から）
５．1101 号土坑焼土検出状況（南から）
６．1101 号土坑（南から）　７．1102 号土坑（南から）
８．1106 号土坑・141 号ピット（南から）

図版 44
１．1108 号土坑（南から）　２．1115 号土坑（南西から）
３．1123 号土坑（東から）
４．1073 号土坑検出状況（南から）
５．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）
６．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）
７．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）
８．1073 号土坑焼土・炭化物出土状態（南から）

図版 45
１．1073 号土坑焼土検出状況（南から）
２．1073 号土坑（南から）
３．1119 号土坑検出状況（南から）
４．1119 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）
５．1119 号土坑骨・炭化物出土状態（南から）
６．1119 号土坑（南から）
７．縄文時代遺構外遺物（168）出土状態（北東から）
８．弥生時代中期～古墳時代前期
　遺構外遺物（５）出土状態（東から）

図版 46
９号石器集中地点出土遺物１

図版 47

9 号石器集中地点出土遺物 2

図版 48

9 号石器集中地点出土遺物 3

図版 49

1．9 号石器集中地点出土遺物 4

2．10 号石器集中地点出土遺物 1

図版 50

10 号石器集中地点出土遺物 2

図版 51

1．10 号石器集中地点出土遺物 3

2．11 号石器集中地点出土遺物 1

図版 52

11 号石器集中地点出土遺物 2

図版 53

1．旧石器時代遺構外出土遺物

2．4 号住居跡出土遺物

3．5 号住居跡出土遺物

図版 54

1．6 号住居跡出土遺物　2．7 号住居跡出土遺物

図版 55

1．8 号住居跡出土遺物　2．9 号住居跡出土遺物 1

図版 56

9 号住居跡出土遺物 2

図版 57

1．10 号住居跡出土遺物

2．11・13・14 号住居跡出土遺物

図版 58

1．12 号住居跡出土遺物　2．6 号集石出土遺物

3．炉穴出土遺物

図版 59

1．1095 号土坑出土遺物　2．1096 号土坑出土遺物

3．1097 号土坑出土遺物　4．1121 号土坑出土遺物

5．1125 号土坑出土遺物　6．1127 号土坑出土遺物

7．1131 号土坑出土遺物　8．189 号ピット出土遺物

図版 60

1．8 号住居跡出土遺物　2．9 号住居跡出土遺物

3．10 号住居跡出土遺物 1

図版 61

10 号住居跡出土遺物 2

図版 62

10 号住居跡出土遺物 3

図版 63

10 号住居跡出土遺物 4

図版 64

1．11 号住居跡出土遺物　2．301 号住居跡出土遺物

図版 65

303 号住居跡出土遺物

図版 66

304 号住居跡出土遺物 1

図版 67

304 号住居跡出土遺物 2

図版 68

1．305 号住居跡出土遺物　2．306 号住居跡出土遺物 1

図版 69

306 号住居跡出土遺物 2

図版 70

306 号住居跡出土遺物 3

図版 71

1．308 号住居跡出土遺物　2．309 号住居跡出土遺物

図版 72

311 号住居跡出土遺物 1

図版 73

311 号住居跡出土遺物 2

図版 74

311 号住居跡出土遺物 3

図版 75

1．312 号住居跡出土遺物　2．313 号住居跡出土遺物 1

図版 76

313 号住居跡出土遺物 2

図版 77

313 号住居跡出土遺物 3

図版 78

314 号住居跡出土遺物 1

図版 79

1．314 号住居跡出土遺物 2

2．315 号住居跡出土遺物 1

図版 80
315 号住居跡出土遺物 2
図版 81
315 号住居跡出土遺物 3
図版 82
315 号住居跡出土遺物 4
図版 83
1．316 号住居跡出土遺物　2．317 号住居跡出土遺物
2．318 号住居跡出土遺物
図版 84
319 号住居跡出土遺物
図版 85
1．320 号住居跡出土遺物　2．321 号住居跡出土遺物 1
図版 86
321 号住居跡出土遺物 2
図版 87
321 号住居跡出土遺物 3
図版 88
321 号住居跡出土遺物 4
図版 89
321 号住居跡出土遺物 5
図版 90
321 号住居跡出土遺物 6
図版 91
321 号住居跡出土遺物 7
図版 92
321 号住居跡出土遺物 8
図版 93
1．300 号住居跡出土遺物　2．307 号住居跡出土遺物
3．310 号住居跡出土遺物
図版 94
1．68 号溝跡出土遺物　2．69 号溝跡出土遺物
3．中世以降の土坑出土遺物
図版 95
縄文時代遺構外出土遺物 1
図版 96
縄文時代遺構外出土遺物 2
図版 97
縄文時代遺構外出土遺物 3
図版 98
縄文時代遺構外出土遺物 4
図版 99
縄文時代遺構外出土遺物 5
図版 100
縄文時代遺構外出土遺物 6
図版 101
1．弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物
2．古墳時代後期遺構外出土遺物
図版 102
1．中世以降遺構外出土遺物
2．城山遺跡第 96 地点出土貝類
図版 103
城山遺跡第 96 地点出土貝類・魚歯・魚骨
図版 104
城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 1
図版 105
城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 2
図版 106
城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 3

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.05㎢（註１）、人口約７万５千人の自然と文化の調和する都市である。

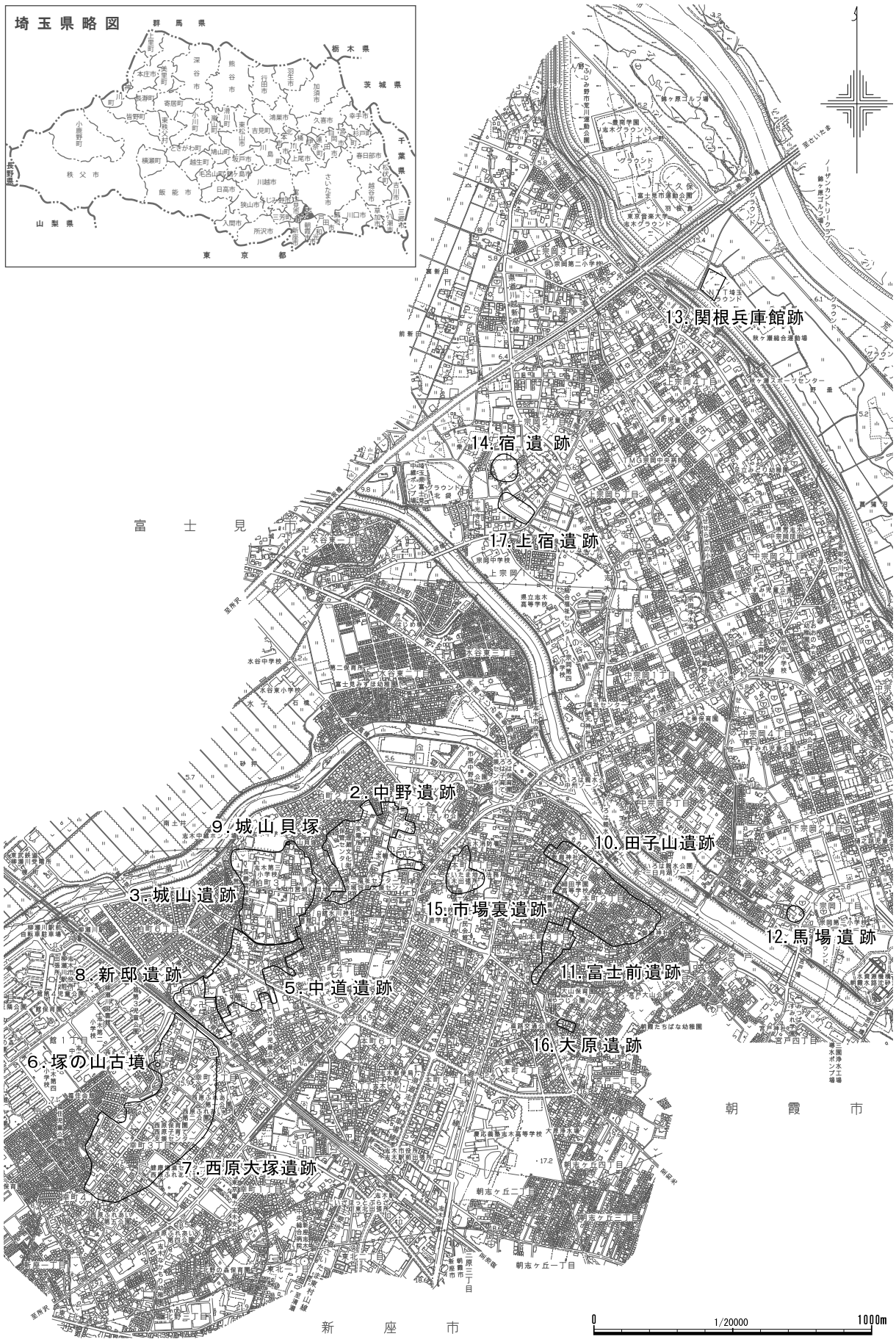
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成 30 年 12 月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）

№.	遺 跡 名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　　野	67,620 ㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄 (早～晩)、弥 (後)、古 (前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　　山	82,100 ㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄 (草創～晩)、弥 (後)、古 (前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　　道	54,420 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄 (早～後)、弥 (後)、古 (前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 ㎡	林	古墳？	古　墳？	古　墳？	なし
7	西原大塚	164,960 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄 (前～晩)、弥 (後)、古 (前･後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　　邸	20,080 ㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄 (早～中)、古 (前･後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文･弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 ㎡	林	貝　塚	縄 (前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 ㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄 (草創～晩)、弥 (後)、古 (後)、奈･平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830 ㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥 (後) ～古 (前)、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬　　場	2,800 ㎡	畑	集落跡	古 (前)	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 ㎡	グランド	館 跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 ㎡	水　田	館 跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 ㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥 (後) ～古 (前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　　原	1,700 ㎡	宅　地	不 明	近世以降？	溝跡	なし
17	上　　宿	8,600 ㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合　　計		519,240 ㎡					

令和２年 12 月 28 日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

令和２年12月28日現在

が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した 13 遺跡に塚（つか）の山（やま）古墳（６）、城山貝塚（しろやまかいづか）（９）を加えた 15 遺跡である（第１図・第１表）。

（２）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成６（1994）年度には２か所、平成７年（1995）度には１か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第 224 地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成 11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約 60 点出土している。平成 27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第 91 ⑰地点からは、礫群１基が検出された。

また、城山遺跡では、平成 13（2001）年に発掘調査が実施された第 42 地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の２か所で石器集中地点が検出されている。平成 20・21 年に発掘調査が実施された第 62 地点（道路・駐車場部分）でも１か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成 23（2011）年に発掘調査が実施された第 71 地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点２か所、礫群９基が検出された。令和元（2019）年には第 96 地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

２．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成４（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第 16 地点から爪形文系土器１点、平成６（1994）年に発掘調査が実施された城山第 21 地点から多縄文系土器３点、第 22 地点から爪形文系土器１点、平成 10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 51 地点から有茎尖頭器１点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成 18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 65 地点で検出された早期末葉（条痕文系）の 10 号住居跡１軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成 23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 121 地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器･石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で 180 軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成 27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第 76 地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壷を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１か所、平成 25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 85 地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成 26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第 204 地点や平成 27・28（2016･2017）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢＣ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第 96 地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは、壷、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成 27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点の 21 号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約 600 軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122 号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成 24（2012）年に発掘調査が実施された第 179 地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅釧が出土している。

昭和 62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成 15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成 18（2006）年に実施された中道遺跡第 65 地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10 号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることが注目される。また、平成 11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第 45 地点では、一辺 20 mを超える市内最大規模の 17 号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壷、吉ヶ谷式系の壷、在地系の壷などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壷が出土している。なお、鳥形土製品１と壷形土器４点の計５点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

４．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第２地点の１号住居跡と平成 15（2003）年に発掘調査が実施された第８地点の２～８号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成７（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第 37 地点 19 号住居跡は、５世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

５世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に６世紀後半から７世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い５世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、６世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第８地点で初めて古墳時代後期（７世紀中葉）の住居跡が１軒検出されている。この住居跡は、3 × 3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、５世紀後半から７世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約 230 軒、次いで中野遺跡で約 55 軒、中道遺跡と田子山遺跡で 16 軒ずつ、新邸遺跡で１軒を数える。

また住居跡以外では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 24 地点から、６世紀後半以降のものと考えられる 4.1 × 4.7 mの不整円形で２か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が１基確認されている。さらに、平成 14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第 81 地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約 33 mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見が期待されている。

５．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成８（1996）年に発掘調査が実施された第 35 地点の 128 号住居跡から、印面に「冨」１文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、

これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片１点、布目瓦の小破片２点などが出土している。平成 20・21（2008・2009）年の城山遺跡第 62 地点の調査では、平安時代の 241 号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶（ふじゅしんぽう）が２枚とその近くからは鉄鎌１点と土錘１点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第 24 地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして 100 基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第 31 地点の 44 号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。
なお、以上のうち、城山遺跡 128 号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第 241 号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成 25 年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記（たてむらきゅうき）』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記（かいこくざっき）』（註３）に登場する「大石信濃守館（おおいししなのかみのやかた）」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊（おおつかじゅうぎょくぼう）」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。
また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第 29 地点の 127 号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第 35 地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130 号土坑については鋳造遺構、134 号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成 27・28（2015・2016）年に発掘調査された第 89 地点の調査により、第 35 地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成 13（2001）年度の第 42 地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234 号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第 21 地点から、当市では初めて、鎧（よろい）の札（さね）である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19 世紀前半の 86 号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成 11 ～ 14（1999 ～ 2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第 49 地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した 67 号土坑、その他、ピット列・土

坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27（2015）年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新た土坑 45 基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット 231 本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑５基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『舘村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の中道遺跡第 37 地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と 13 世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院（しょうりんざんかんのんじだいじゅいん）」関連遺構と考えられる。その後、平成 25（2013）年には、第 74 地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第２節　遺跡の概要

城山遺跡は、志木市柏町３丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約 1.2㎞、柳瀬川駅の東約 0.8㎞に位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約 12 m、低地との比高差は約５ｍである。

遺跡内には住宅や小学校、神社・墓地などが所在しており、閑静な住宅地と言える。近年は、2,000㎡を超えるような大規模な土木工事はないものの、個人住宅や分譲住宅などの小・中規模の土木工事が増加している。平成 22・23 年に分譲住宅建設に伴う第 62 地点、平成 23 年度に共同住宅建設に伴う第 72 地点や分譲住宅建設に伴う第 71 地点が実施されている。近年では、個人住宅建設を中心に僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況で、本地点の調査により、畑地はほぼ見当たらない状態となったと言える。

本遺跡は、これまでに 100 地点の調査（令和２年 12 月 31 日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。下記に、これまで検出した遺物・遺構の概要を時代ごとに示す。

旧石器時代では、第 42 地点で石器集中地点１か所、第 63 地点で石器集中地点１か所、第 71 地点で石器集中地点２か所、礫群９か所を検出している。

縄文時代では、草創期の遺物として第 16・22 地点から爪形文系土器２点、第 21 地点から多縄文系土器３点が出土している。前期では、市史編さん事業に伴い発掘調査を実施したＡ地点で諸磯式期の住居跡１軒、第 46 地点から前期末葉の住居跡１軒、第 59 地点から諸磯式期の住居跡１軒が検出されている。また、遺跡内には、当該期の斜面貝塚として知られる市指定文化財「城山貝塚」が所在する。中期では、第４地点から加曽利ＥⅡ式期の住居跡１軒を検出している。

弥生時代では、第 71 地点で後期の住居跡２軒、第 76 地点で後期の住居跡２軒が検出されている。

古墳時代では、遺跡全体から中・後期の住居跡 200 軒以上が検出されており、大集落が形成されていたことが判明している。特に、第１地点では 53 軒、第 42 地点では 16 軒、第 58・60 地点では 52 軒と、当該期の住居跡が濃密に分布している状況が看取できる。

奈良時代では、住居跡の検出はないものの、第 42 地点１号ピットから偏向唐草文の軒平瓦１点が出土している。

平安時代では、９世紀前半から 10 世紀にかけての住居跡約 30 件が検出されている。特に、第 35 地点 128 号住居跡出土の印面に「冨」と記された銅印と、第 62 地点 241 号住居跡出土の冨壽神寶２点・鉄鎌１点・土錘１点は、それぞれ市指定文化財となっている。

中・近世では、「柏の城」関連の大堀を含めた溝跡・井戸跡・土坑が多数検出されている。特に、第１地点で検出された上幅 12.2 m・深さ 4.7 mを測る１号溝跡、第 71 地点の 59 号溝跡などは、市指定文化財「舘村旧記」に記された絵図と合わせ、城の縄張りを解明するための基盤となる遺構である。また、第 35 地点からは鋳造遺構や溶解炉、鉄滓（スラッグ）、鋳型など鋳物師に関連する資料が出土している。

［註］

註１　平成 26 年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から 9.05㎢に変更された。

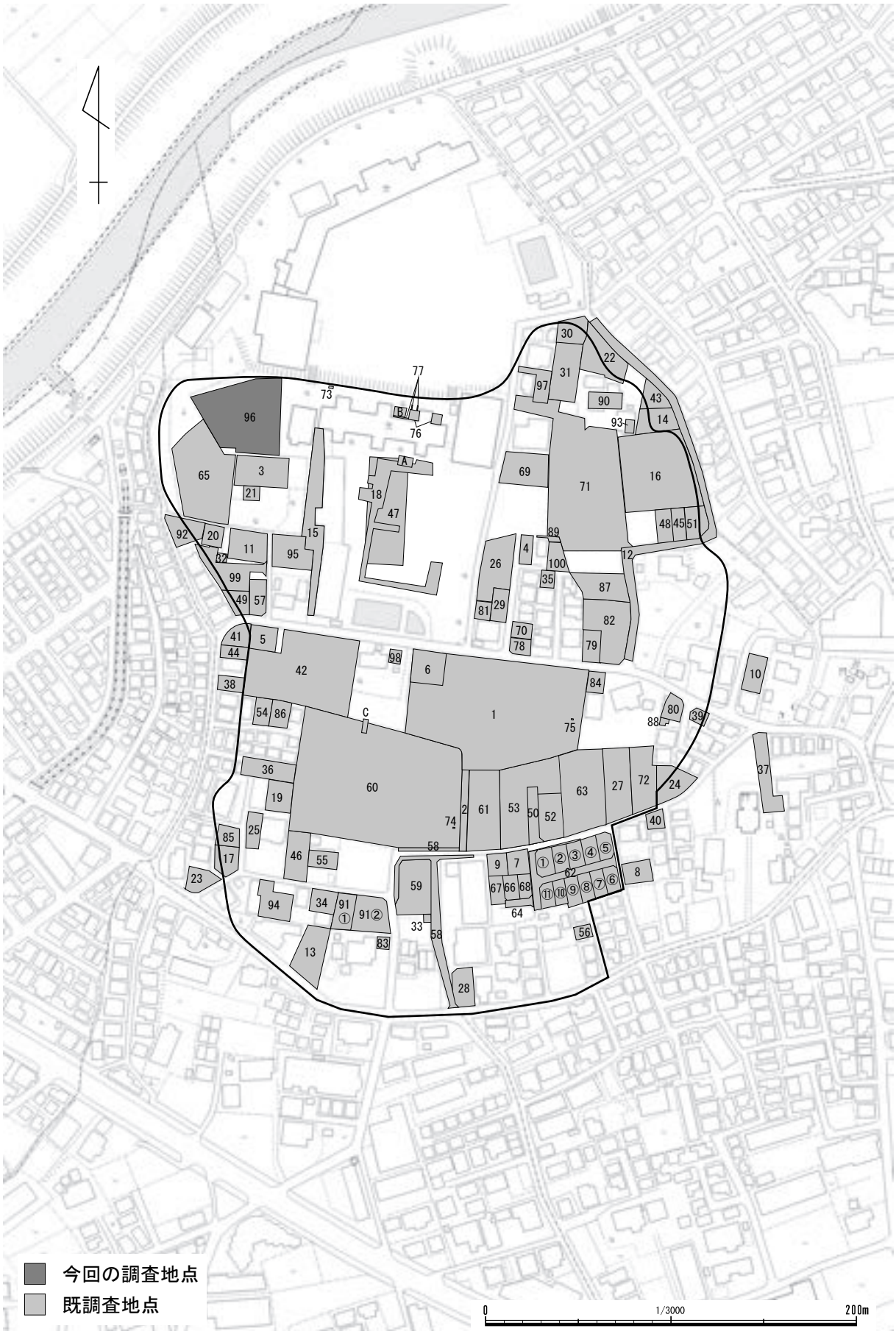
註２　『舘村旧記』は、舘村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒（なぬしみやはらなかえもんなかつね）が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）６月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「廻回雑記」に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号

2002「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号



令和２年 12 月 28 日現在

第２図　城山遺跡の調査地点（１／3,000）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺　構　の　概　要	報告書No.
A地点	90.00	－	昭和49年7月29日～8月4日	学術調査	(縄文前期)住居跡1軒(弥生後期)住居跡1軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史原始・古代編』
C地点	30.00	－	昭和55年7月20日～8月21日	学術調査	(中世)柏城大堀跡	1984『志木市史原始・古代編』
B地点	50.00	－	昭和57年3月25日～3月31日	学術調査	(古墳後期)住居跡2軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史原始・古代編』
第1・2地点	4,964.39	－	昭和60年4月8日～11月26日	共同住宅建設	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡53軒(奈良・平安)住居跡6軒(中・近世)土坑31基・溝跡5本・井戸跡9基・ピット	No.5
第3地点	300.00	－	昭和61年7月16日～9月27日	学術調査	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡3軒(中・近世)土坑16基、溝跡2本	No.7
第4地点	98.28	－	昭和62年6月19日～7月1日	個人住宅建設	(縄文中期)埋甕1基(弥生後期)住居跡1軒(平安)土坑2基(中世)土坑1基(不明)土坑1基	No.8
第5地点	125.00	昭和63年6月10日	－	共同住宅建設	検出されなかった	No.9
第6地点	166.08	－	昭和62年12月12日～27日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒・土坑1基(中・近世)土坑7基	No.10
第7地点	130.00	平成元年11月17日	平成元年11月20日～12月2日	宅地造成	(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡1軒	No.11
第8地点	132.13	平成元年11月23日	－	共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第9地点	115.71	平成元年12月4日	平成元年12月5日～28日	宅地造成	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)土坑5基	No.11
第10地点	330.49	平成2年3月16日	－	共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第11地点	192.00	平成2年4月6日	平成2年4月7日～20日	個人住宅建設	(縄文早期)炉穴2基(縄文前期)土坑1基(縄文中期)住居跡1軒・土坑2基(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑3基・井戸跡1基	No.12
第12地点	1,074.00	平成2年4月19日～24日	平成2年4月25日～5月22日	道路改良工事	(中・近世)土坑2基・溝跡4基・井戸跡1基	No.17
第13地点	400.44	平成2年5月7日	平成2年5月8日～17日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒	No.17
第14地点	181.90	平成4年5月1日	－	個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第15地点	560.00	－	平成4年7月21日～8月26日	道路工事	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)溝跡2本・土坑1基	No.27
第16地点	1,556.00	－	平成4年10月2日～12月12日	共同住宅建設	(縄文)遺物包含層・集石1基(古墳後期)住居跡1軒(中・近世)土坑1基・井戸跡2基・溝跡2本	No.27
第17地点	130.56	平成5年3月22日	－	個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第18地点	115.45	平成5年6月3日	平成5年6月3日～7月29日	雨水流出抑制工事	(縄文)土坑1基(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡8軒(中・近世)土坑6基・溝跡6本	No.44
第19地点	361.93	平成5年10月28日	平成5年11月1日～24日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	No.44
第20地点	100.38	平成5年12月24日	平成6年1月13日～17日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(不明)土坑2基	No.15
第21地点	48.00	－	平成6年2月18日～2月24日	樹木土壌改良	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡2軒(近世)土坑3基	No.44
第22地点	498.13	平成6年3月2日	平成6年3月9日～31日	共同住宅建設	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡1軒	No.44
第23地点	157.94	平成6年5月31日	－	個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第24地点	277.68	平成6年7月6日	－	個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第25地点	127.38	平成6年7月15日	平成6年7月21日～8月1日	個人住宅建設	(古墳中期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(近世)土坑1基・溝跡1本(不明)土坑1基	No.16
第26地点	410.00	平成6年8月18日	平成6年8月22日～10月21日	共同住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡7軒(平安)住居跡4軒・土坑1基(中・近世)土坑6基・溝跡4本(不明)土坑1基	No.59
第27地点	371.52	平成7年1月30日	平成7年2月27日～4月10日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中・近世)土坑15基・溝跡2本・井戸跡1基	No.67
第28地点	233.30	平成6年12月13日	平成7年1月10日～2月21日	事務所建設	(縄文前期)土坑1基(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	No.67
第29地点	146.41	平成7年4月5日	平成7年4月11日～5月2日	個人住宅建設	(縄文早期)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑11基・溝跡1本・ピット群	No.18
第30地点	200.85	平成7年4月24日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	No.18
第31地点	164.27	平成7年6月6日	－	個人住宅建設	検出されなかった	No.18
第32地点	59.62	平成7年11月14日	平成7年11月15日～17日	倉庫建設	(中世)ピット1本(不明)土坑1基	No.18
第33地点	30.00	平成8年6月12日	－	防火水槽設置	検出されなかった	No.20
第34地点	162.00	平成8年7月12日	平成8年7月15日～8月3日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡3基(平安)土坑1基	No.20
第35地点	84.40	平成8年11月15日	平成8年11月18日～12月25日	個人住宅建設	(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡2軒(中・近世)鋳造土坑1基・溶解炉1基、土坑13基・井戸跡1基・ピット	No.20
第36地点	361.18	平成10年4月23日	－	駐車場建設	盛土保存適用	No.21
第37地点	430.00	平成11年11月5日	－	駐車場建設	検出されなかった	No.24
第38地点	120.38	平成12年7月25日	－	分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26

第２表　城山遺跡調査一覧（１）

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺　構　の　概　要	報告書№
第 39 地点	94.97	平成 12 年 8 月 21 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	№ 26
第 40 地点	76.32	平成 12 年 12 月 7 日	－	個人住宅建設	検出されなかった	№ 26
第 41 地点	140.33	平成 12 年 12 月 12 日	－	個人住宅建設	検出されなかった (現地踏査)	№ 26
第 42 地点	2,106.89	平成 12 年 12 月 18 日	平成 13 年 2 月 23 日 ～ 6 月 29 日	共同住宅建設	(旧石器) 石器集中地点 2 か所 (縄文) 土坑 21 基・炉穴 1 基 (古墳後期) 住居跡 16 軒 (平安) 住居跡 5 軒・土坑 13 基 (中世以降) 土坑 151 基・溝跡 4 本・井戸跡 8 基・ピット群	№ 33
第 43 地点	117.00	平成 13 年 5 月 29 日	－	分譲住宅建設	検出されなかった	№ 28
第 44 地点	132.30	平成 13 年 6 月 20 日	－	分譲住宅建設	検出されなかった (現地踏査)	№ 28
第 45 地点	100.00	平成 15 年 1 月 31 日	－	個人住宅建設	検出されなかった	№ 30
第 46 地点	348.29	平成 15 年 2 月 18 日	平成 15 年 2 月 28 日 ～ 4 月 30 日	個人住宅建設	(縄文前期) 住居跡 1 軒 (古墳中･後期) 住居跡 5 軒 (平安) 住居跡 1 軒､溝跡 1 本 (中世以降) 土坑 23 基･地下室 1 基･井戸跡 4 基・道路状遺構 1 本	№ 38
第 47 地点	1,200.00	平成 15 年 2 月 21 日	－	仮設校舎建設	検出されなかった (現地踏査)	№ 30
第 48 地点	100.00	平成 15 年 3 月 14 日	－	個人住宅建設	検出されなかった (現地踏査)	№ 30
第 49 地点	232.23	平成 15 年 8 月 26 日	平成 17 年 1 月 11 日 ～ 2 月 3 日	個人住宅建設	(縄文) 土坑 1 基 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (中世以降) 土坑 5 基・地下室 1 基・井戸跡 1 基	№ 41
第 50 地点	199.54	平成 15 年 9 月 5 日	－	道路新設工事	工事立会い	№ 38
第 51 地点	200.19	平成 15 年 9 月 16 日	－	個人住宅建設	検出されなかった (現地踏査)	№ 38
第 52 地点	300.42	平成 15 年 10 月 14 日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 38
第 53 地点	771.53	平成 15 年 11 月 12 日	－	宅地造成	盛土保存適用	№ 38
第 54 地点	122.70	平成 16 年 8 月 11 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	№ 38
第 55 地点	115.10	平成 16 年 10 月 8 日	平成 16 年 10 月 12 日 ～ 12 月 1 日	個人住宅建設	(縄文) 土坑 2 基 (古墳後期) 住居跡 3 軒 (平安) 溝跡 1 本 (近世) 土坑 2 基	№ 38
第 56 地点	80.01	平成 17 年 4 月 11 日	－	個人住宅建設	検出されなかった	№ 41
第 57 地点	165.30	平成 15 年 8 月 26 日	平成 17 年 8 月 29 日 ～ 9 月 24 日	個人住宅建設	(縄文) 土坑 3 基 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (中世以降) 土坑 6 基・土坑墓 1 基・地下室 1 基	№ 41
第 58 地点	880.77	平成 18 年 4 月 18 日 ～ 21 日	平成 18 年 6 月 29 日 ～ 8 月 28 日	道路新設工事	(縄文) 土坑 3 基･炉穴 1 基 (古墳後期) 住居跡 20 軒 (奈良･平安) 掘立柱建築遺構 2 棟、溝跡 1 本 (中世以降) 土坑 72 基・溝跡 4 本・道路状遺構 1 基	№ 43
第 59 地点	495.94	平成 18 年 4 月 6 日	平成 18 年 4 月 10 日 ～ 6 月 22 日	個人住宅及び倉庫建設	(縄文前期) 住居跡 1 軒 (古墳後期) 住居跡 4 軒 (平安) 住居跡 2 軒・掘立柱建築遺構 2 棟 (近世) 土坑 1 基	№ 49
第 60 地点	5,322.66	平成 18 年 12 月 20 日 ～ 22 日	平成 19 年 2 月 15 日 ～ 6 月 12 日	福祉施設建設	(縄文) 土坑 1 基、炉穴 3 基、集石 3 基 (古墳後期) 住居跡 32 軒 (奈良･平安) 住居跡 10 軒 (中世以降) 土坑 141 基･溝跡 8 本・井戸跡 5 基	№ 43
第 61 地点	710.96	平成 19 年 7 月 18・19 日	平成 19 年 8 月 27 日 ～ 10 月 9 日	分譲住宅建設	(縄文) 土坑 4 基 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (平安) 住居跡 2 軒 (中世以降) 土坑 28 基・地下室 1 基・井戸跡 1 基・溝跡 2 本	№ 42
第 62 － 1 地点	516.49	平成 20 年 10 月 29・30 日	平成 20 年 11 月 17 日 ～ 12 月 26 日	分譲住宅建設	(旧石器) 石器ブロック 1 カ所 (縄文) 土坑 3 基 (古墳中・後期) 住居跡 17 軒・土坑 1 基 (平安) 住居跡 3 軒・土坑 2 基 (中世以降) 土坑 51 基・地下室 1 基・溝跡 2 本	№ 52
第 62 － 2 地点	1,076.95	平成 20 年 12 月 18・19 日	平成 21 年 2 月 2 日 ～ 6 月 17 日			
第 62 ①地点	120.80	－	平成 22 年 7 月 2 日 ～ 7 月 22 日	個人住宅建設	(古墳後期) 住居跡 1 軒・(中世以降) 土坑 5 基	№ 62
第 62 ②地点	100.20	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第 62 ③地点	100.24	－	平成 21 年 11 月 4 日 ～ 11 月 16 日	個人住宅建設	(縄文) 炉穴 2 基 (古墳後期) 住居跡 2 軒・(中世以降) 土坑 3 基	№ 62
第 62 ④地点	100.23	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第 62 ⑤地点	91.75	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第 62 ⑥地点	112.63	－	平成 21 年 9 月 3 日 ～ 9 月 10 日	個人住宅建設	(中世以降) 土坑 3 基・溝跡 3 本	№ 62
第 62 ⑦地点	116.72	－	平成 21 年 11 月 9 日 ～ 11 月 16 日	個人住宅建設	(古墳後期) 住居跡 1 軒・(中世以降) 土坑 2 基・溝跡 1 本	№ 62
第 62 ⑧地点	119.88	－	平成 22 年 11 月 17 日 ～ 11 月 29 日	個人住宅権設	(古墳後期) 住居跡 1 軒・円形周溝簿 1 基 (中世以降) 土坑 4 基	№ 62
第 62 ⑨地点	131.20	－	平成 22 年 8 月 23 日 ～ 8 月 30 日	個人住宅建設	(古墳中・後期) 住居跡 1 軒	№ 62
第 62 ⑩地点	92.48	－	平成 22 年 6 月 17 日 ～ 7 月 23 日	個人住宅建設	(古墳後期) 住居跡 4 軒 (中世以降) 土坑 1 基	№ 62
第 62 ⑪地点	91.12	－	平成 22 年 1 月 22 日 ～ 2 月 5 日	個人住宅建設	(古墳後期) 住居跡 2 軒 (中世以降) 土坑 3 基	№ 62
第 63 地点	974.89	平成 22 年 1 月 26・27 日	平成 22 年 3 月 8 日 ～ 5 月 7 日	共同住宅建設	(旧石器) 石器集中地点 3 か所 (縄文) 土坑 1 基 (古墳後期) 住居跡 14 軒・土坑 10 基 (平安) ピット 34 本 (中世以降) 土坑 97 基・井戸跡 3 基・溝跡 2 本	№ 50
第 64 地点	387.11	平成 22 年 1 月 28 日	平成 22 年 2 月 22 日 ～ 3 月 30 日	分譲住宅建設	(古墳中・後期) 住居跡 6 軒 (中世以降) 土坑 4 基	№ 57
第 65 地点	1,725.32	－	－	市営墓地内道路舗装及び給排水設備工事	検出されなかった	№ 55

第２表　城山遺跡調査一覧（２）

調査地点	面積(㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺　構　の　概　要	報告書No.
第 66 地点	101.09	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	No. 62
第 67 地点	104.06	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	No. 62
第 68 地点	101.51	－	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	No. 62
第 69 地点	405.00	平成 22 年 12 月 6 日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	No. 62
第 70 地点	101.16	平成 22 年 12 月 6 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	No. 62
第 71 地点	2,858.75	平成 23 年 3 月 2 日～9 日	平成 23 年 8 月 8 日～12 月 22 日	分譲住宅建設	(旧石器) 礫群 2 か所 (弥生後期～古墳前期) 住居跡 2 軒 (古墳) 住居跡 2 基 (奈良・平安) 住居跡 3 軒 (中世以降) 土坑 112 基・地下室 6 基・井戸跡 5 基・溝跡 6 本・ピット群	No. 58
第 71 ①地点	156.30	－	－	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第 72 地点	487.38	平成 23 年 3 月 16・17 日	平成 23 年 6 月 6 日～7 月 15 日	共同住宅建設	(縄文) 土坑 4 基 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (平安) 住居跡 2 基 (中世以降) 土坑 28 基・地下室 1 基・井戸跡 1 基・溝跡 2 本	No. 53
第 73 地点	4.50	－	－	除染作業	工事立会	No. 62
第 74 地点	0.60	－	－	除染作業	工事立会	No. 62
第 75 地点	0.70	－	－	除染作業	工事立会	No. 62
第 76 地点	55.00	－	－	防災用トイレ設置工事	(縄文) 土坑 1 基・炉穴 3 基 (弥生後期～古墳前期) 住居跡 2 軒 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (奈良・平安) 掘立柱建築遺構 1 棟 (中世以降) 掘立柱建築遺構 1 棟・土坑 6 基など	No. 56
第 77 地点	9.60	－	－	配水管の試験掘り及び切回し	工事立会／検出されなかった	未
第 78 地点	103.28	平成 24 年 6 月 7 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 79 地点	165.42	平成 25 年 4 月 23 日	平成 25 年 5 月 16 日～7 月 19 日	個人住宅建設	(縄文) 炉穴 1 基・陥穴 1 基 (弥生後期～古墳前期) 住居跡 2 軒 (古墳後期) 住居跡 2 軒 (平安) 住居跡 2 軒・掘立柱建築遺構 1 棟 (中世以降) 土坑 11 基・井戸跡 2 基など	未
第 80 地点	94.60	平成 25 年 6 月 18 日	平成 26 年 4 月 7 日～5 月 20 日	個人住宅建設	(古墳後期) 住居跡 1 軒 (中世以降) 土坑 7 基･井戸跡 1 基･溝跡 1 本	未
第 81 地点	80.97	平成 25 年 6 月 17 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 82 地点	685.66	平成 25 年 11 月 28・29 日	平成 26 年 1 月 27 日～3 月 25 日 (H25 年度) 平成 26 年 4 月 1 日～5 月 16 日 (H26 年度)	分譲住宅建設	(縄文) 土坑 7 基 (古墳後期) 住居跡 1 軒 (平安) 住居跡 2 軒・掘立柱建築遺構 1 棟 (中世以降) 土坑 75 基・地下室 1 基・井戸跡 7 基・溝跡 1 本・掘立柱建築遺構 1 棟	No. 64
第 83 地点	89.48	平成 26 年 2 月 7 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 84 地点	100.00	平成 26 年 2 月 25 日	－	駐車場建設	盛土保存適用	未
第 85 地点	142.35	平成 26 年 2 月 7 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 86 地点	121.71	平成 27 年 4 月 10 日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第 87 地点	389.83	平成 27 年 8 月 21 日	平成 27 年 10 月 1 日～10 月 16 日	共同住宅建設	(縄文) 炉穴 2 基 (近世以降) 土坑 1 基	No. 72
第 88 地点	25.00	平成 27 年 10 月 19 日	－	コンクリート打設	盛土保存適用	未
第 89 地点	19.80	—	平成 28 年 3 月 10 日～6 月 16 日	個人住宅外構部	(平安) 住居跡 1 軒 (中世) 溝跡 1 本 (近世) 鋳造関連遺物集中	未
第 90 地点	123.38	平成 27 年 3 月 8 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 91 地点	566.00	平成 28 年 4 月 27・28 日	－	宅地造成	盛土保存適用	未
第 91 ①地点	198.00	—	平成 28 年 9 月 26 日～11 月 11 日	分譲住宅建設	(縄文) 炉穴 2 基 (古墳後期) 住居跡 4 軒 (中世以降) 土坑 14 基	No. 73
第 91 ②地点	368.00	—	－	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第 92 地点	294.08	—	－	共同住宅建設	工事立会	未
第 93 地点	37.26	平成 28 年 8 月 29 日	－	車庫物入れ建設	盛土保存適用	未
第 94 地点	327.00	平成 29 年 6 月 1 日	－	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第 95 地点	260.13	平成 29 年 9 月 29 日	－	分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第 96 地点	1,737.74	平成 30 年 7 月 17～20・23 日	令和元年 5 月 20 日～10 月 31 日	市営墓地拡張	(旧石器) 石器集中地点 3 か所・礫群 2 か所 (縄文) 住居跡 11 軒・集石 2 基・炉穴 5 基・土坑 18 基 (弥生中期～古墳前期) 住居跡 4 軒・方形周溝墓 1 基・(古墳後期) 住居跡 19 軒 (平安) 住居跡 3 軒・掘立柱建築遺構 1 基 (中世以降) 溝跡 2 本・道路状遺構 1 本・土坑 41 基	本報告書
第 97 地点	132.90	令和元年 11 月 12 日	－	駐車場建設	盛土保存適用	未
第 98 地点	40.00	令和元年 11 月 26 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第 99 地点	416.12	令和 2 年 2 月 12 日～14 日	令和 2 年 8 月 24 日～11 月 14 日	分譲住宅建設	(縄文) 土坑 4 基 (弥生) 住居跡 1 基 (古墳後期)3 軒 (中世以降)37 基	未
第 100 地点	416.12	令和 2 年 10 月 28 日	－	個人住宅建設	盛土保存適用	未

第２表　城山遺跡調査一覧（３）

No.	報　告　書　名 （所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財第４集	志木市教育委員会	井上國夫・落合静男 谷井　彪・宮野和明
2	西原大塚遺跡第３地点　中野遺跡第２地点　発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第１集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
3	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第２集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第２地点　西原大塚遺跡第４地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第３集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第４集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏 神山健吉
6	中道遺跡発掘調査報告書 （中道遺跡第１地点）	1988	志木市遺跡調査会調査報告第５集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
7	城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書 （城山遺跡第３地点）	1987	志木市の文化財第 11 集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群Ⅰ （城山遺跡第４地点　中野遺跡第６地点　中道遺跡第６地点　西原大塚遺跡第６地点）	1989	志木市の文化財第 13 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅱ （西原大塚遺跡第８地点　田子山遺跡第１地点　西原大塚遺跡第９地点　西原大塚遺跡第 10 地点　中野遺跡第９地点）	1990	志木市の文化財第 14 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	西原大塚遺跡第７地点　新邸遺跡第３地点　中野遺跡第７地点　中野遺跡第８地点　城山遺跡第６地点　発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第 15 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅲ （西原大塚遺跡第 11 地点　城山遺跡第 7･9 地点）	1991	志木市の文化財第 16 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅳ （城山遺跡第 11 地点　中野遺跡第 12 地点　田子山遺跡第 6･7 地点）	1992	志木市の文化財第 17 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	中道遺跡第 12 地点　中道遺跡第 13 地点　田子山遺跡第４地点　田子山遺跡第５地点　発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第 18 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	志木市遺跡群Ⅴ （市場裏遺跡第３地点　中野遺跡第 18 地点）	1993	志木市の文化財第 20 集	志木市教育委員会	尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅵ （中野遺跡第 31 地点　田子山遺跡第 29 地点　城山遺跡第 20 地点）	1995	志木市の文化財第 21 集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅶ （西原大塚遺跡第 32 地点　中道遺跡第 33 地点　城山遺跡第 25 地点　田子山遺跡第 32 地点　田子山遺跡第 37 地点）	1996	志木市の文化財第 23 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・ 深井恵子
17	城山遺跡第 12 地点　城山遺跡第 13 地点　西原大塚遺跡第 14 地点　中野遺跡第 11 地点　中野遺跡第 16 地点　市場裏遺跡第１地点　田子山遺跡第 10 地点　中道遺跡第 21 地点　田子山遺跡第 13 地点　西原大塚遺跡第 21 地点　市場裏遺跡第２地点　中道遺跡第 26 地点　発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第 24 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
18	志木市遺跡群Ⅷ （城山遺跡第 29 地点　城山遺跡第 32 地点　田子山遺跡第 39 地点　田子山遺跡第 41 地点　田子山遺跡第 42 地点　中道遺跡第 36 地点　中道遺跡第 37 地点　西原大塚遺跡第 34 地点　中野遺跡第 41 地点）	1997	志木市の文化財第 25 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
19	西原大塚の遺跡　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報	1998	－	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
20	志木市遺跡群９ （中野遺跡第 43 地点　富士前遺跡第 15 地点　田子山遺跡第 47 地点　田子山遺跡第 48 地点　田子山遺跡第 49 地点　中道遺跡第 41 地点　城山遺跡第 34 地点　城山遺跡第 35 地点　西原大塚遺跡第 36 地点）	1999	志木市の文化財第 27 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
21	志木市遺跡群 10 （西原大塚遺跡第 37 地点　西原大塚遺跡第 39 地点　中道遺跡第 44 地点）	2000	志木市の文化財第 28 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	埋蔵文化財調査報告書１	2000	志木市の文化財第 29 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡第 45 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第６集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト㈱	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳・上田　寛
24	志木市遺跡群 11 （中野遺跡第 50 地点　西原大塚遺跡第 43 地点）	2001	志木市の文化財第 30 集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 内野美津江
25	埋蔵文化財調査報告書２	2001	志木市の文化財第 31 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
26	志木市遺跡群 12 （田子山遺跡第 69 地点　西原大塚遺跡第 47 地点）	2002	志木市の文化財第 32 集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・ 深井恵子

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（１）

No.	報　告　書　名 （所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
27	埋蔵文化財調査報告書３	2002	志木市の文化財第 34 集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・深井恵子・佐々木　潤
28	志木市遺跡群 13 （田子山遺跡第 78 地点　西原大塚遺跡第 54 地点）	2003	志木市の文化財第 35 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
29	中野遺跡第 49 地点－東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調 査報告－	2004	志木市遺跡調査会調査報告第７集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木　修
30	志木市遺跡群 14 （田子山遺跡第 81 地点　西原大塚遺跡第 65 地点）	2004	志木市の文化財第 36 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木　修
31	西原大塚遺跡第 111 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第８集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
32	西原大塚遺跡第 110 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第９集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
33	城山遺跡第 42 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 10 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
34	志木市遺跡群 15 （西原大塚遺跡第 67 地点）	2006	志木市の文化財第 37 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
35	新邸遺跡第８地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 11 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
36	中道遺跡第 65 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 12 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 青柳美雪
37	西原大塚遺跡 Ⅰ～Ⅲ　西原特定土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第 13 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川佳幸
38	志木市遺跡群 16 （城山遺跡第 46 地点　城山遺跡第 55 地点））	2008	志木市の文化財第 38 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
39	西原大塚遺跡第 138 地点　西原大塚遺跡第 154 地点　埋蔵文化 財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 14 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
40	西原大塚遺跡第 120 地点　西原大塚遺跡第 131 地点　田子山遺 跡第 97 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 15 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
41	志木市遺跡群 17 （城山遺跡第 49 地点　城山遺跡第 57 地点　西原大塚遺跡第 113 地点　西原大塚遺跡第 124 地点）	2008	志木市の文化財第 39 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
42	城山遺跡第 61 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 16 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
43	城山遺跡第 58・60 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 17 集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容 鈴木　徹・中村真理
44	埋蔵文化財調査報告書４	2009	志木市の文化財第 40 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
45	志木市遺跡群 18 （田子山遺跡第 93 地点　田子山遺跡第 93 地点　西原大塚遺跡第 137 地点　西原大塚遺跡第 137 地点）	2009	志木市の文化財第 41 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
46	西原大塚遺跡第 108 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第 42 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏 坂上直嗣・青池紀子他
47	中野遺跡第 71 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2010	志木市の文化財第 43 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・内野美津江
48	市場裏遺跡第 13 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 44 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 青木　修
49	志木市遺跡群 19 （城山遺跡第 59 地点）	2011	志木市の文化財第 45 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
50	城山遺跡第 63 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 46 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 坂上直嗣・青池紀子他
51	西原大塚遺跡第 169 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 47 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏
52	城山遺跡第 62 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 48 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
53	城山遺跡第 72 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 49 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 村上孝司・青池紀子他
54	田子山遺跡第 121 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 50 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形則敏 藤波啓容
55	志木市遺跡群 20 （田子山遺跡第 107 地点　新邸遺跡第 10 地点　西原大塚遺跡第 159 地点）	2013	志木市の文化財第 51 集	志木市教育委員会	尾形則敏・徳留彰紀 深井恵子・青木　修
56	城山遺跡第 76 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 52 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 白崎智隆
57	城山遺跡第 64 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 53 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（２）

No.	報　告　書　名 （所収遺跡地点名）	刊行年	シリーズ名	発　行　者	編　著　者
58	城山遺跡第 71 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 54 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫
59	西原大塚遺跡第 174 ①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 55 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 藤波啓容・松木綾子
60	西原大塚遺跡第 179 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第 56 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 二瓶秀幸・本山直子
61	中野遺跡第 78 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第 57 集	志木市教育委員会	大久保　聡・尾形則敏 青木　修
62	志木市遺跡群 21 （城山遺跡第 62 ①～⑪地点　西原大塚遺跡第 165 地点　西原大塚遺跡第 166 地点　西原大塚遺跡第 171 地点）	2014	志木市の文化財第 58 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 深井恵子・青木　修
63	埋蔵文化財調査報告書 5 （城山遺跡第 26 地点）	2014	志木市の文化財第 59 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 深井恵子・青木　修
64	城山遺跡第 82 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第 60 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 宮下孝優
65	田子山遺跡第 131 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第 61 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 宮下孝優
66	富士前遺跡第 23 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第 62 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 清水理史・川田馨秋 鎌田　翔
67	埋蔵文化財調査報告書 6 （城山遺跡第 27･28 地点　中道遺跡第 56 地点）	2015	志木市の文化財第 63 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
68	志木市遺跡群 22 （西原大塚遺跡第 172 ①～④地点）	2015	志木市の文化財第 64 集	志木市教育委員会	德留彰紀・尾形則敏 深井恵子
69	田子山遺跡第 132 ①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書		志木市の文化財第 65 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 深井恵子
70	埋蔵文化財調査報告書 7 （中道遺跡第 38・39 地点）	2016	志木市の文化財第 66 集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子 青木　修
71	中野遺跡第 91 ①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第 67 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 宅間清公・田中浩江 岩崎岳彦
72	市場裏遺跡第 23 地点　城山遺跡第 87 地点　西原大塚遺跡第 207 地点　中野遺跡第 95 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第 68 集	志木市教育委員会	德留彰紀・尾形則敏・青木　修
73	中道遺跡第 76 地点　城山遺跡第 91 ①地点　西原大塚遺跡第 211 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2018	志木市の文化財第 69 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 深井恵子・青木　修
74	志木市遺跡群 23 （西原大塚遺跡第 180 地点　西原大塚遺跡第 182 地点　西原大塚遺跡第 183 地点　西原大塚遺跡第 184 地点）	2018	志木市の文化財第 70 集	志木市教育委員会	大久保　聡・尾形則敏 深井恵子
75	埋蔵文化財調査報告書 8 （田子山遺跡第 51 地点　中野遺跡第 55 地点　中野遺跡第 57 地点）	2018	志木市の文化財第 71 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 深井恵子
76	西原大塚遺跡第 213 地点　中野遺跡第 102 地点　中野遺跡第 104 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2019	志木市の文化財第 72 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 深井恵子・青木　修
77	中道遺跡第 87 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書		志木市の文化財第 73 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 林　邦雄
78	西原大塚遺跡第 224 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第 74 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 成島一成・西川忠春
79	西原大塚遺跡第 220 地点　西原大塚遺跡第 222 地点　西原大塚遺跡第 227 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第 75 集	志木市教育委員会	大久保　聡・尾形則敏
80	西原大塚遺跡第 216 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第 76 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 青木　修
81	田子山遺跡第 160 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第 77 集	志木市教育委員会	尾形則敏・大久保　聡 石川安司・小林陽子 清水理史
82	城山遺跡第 96 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第 78 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貴則・宅間清公
83	西原大塚遺跡第 228 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第 79 集	志木市教育委員会	尾形則敏・德留彰紀 大久保聡・小森暁生 宅間清公
84	西原大塚遺跡第 231 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第 80 集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏
85	志木市遺跡群 24 （市場裏遺跡第 21 地点　西原大塚遺跡第 199 地点　城山遺跡第 79 地点）	2021	志木市の文化財第 81 集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形則敏 德留彰紀

第３表　志木市の発掘調査報告書一覧（３）

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成 30 年６月、志木市から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ市営墓地拡張工事計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。

これに対し、教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード 11228 － 09 － 003）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

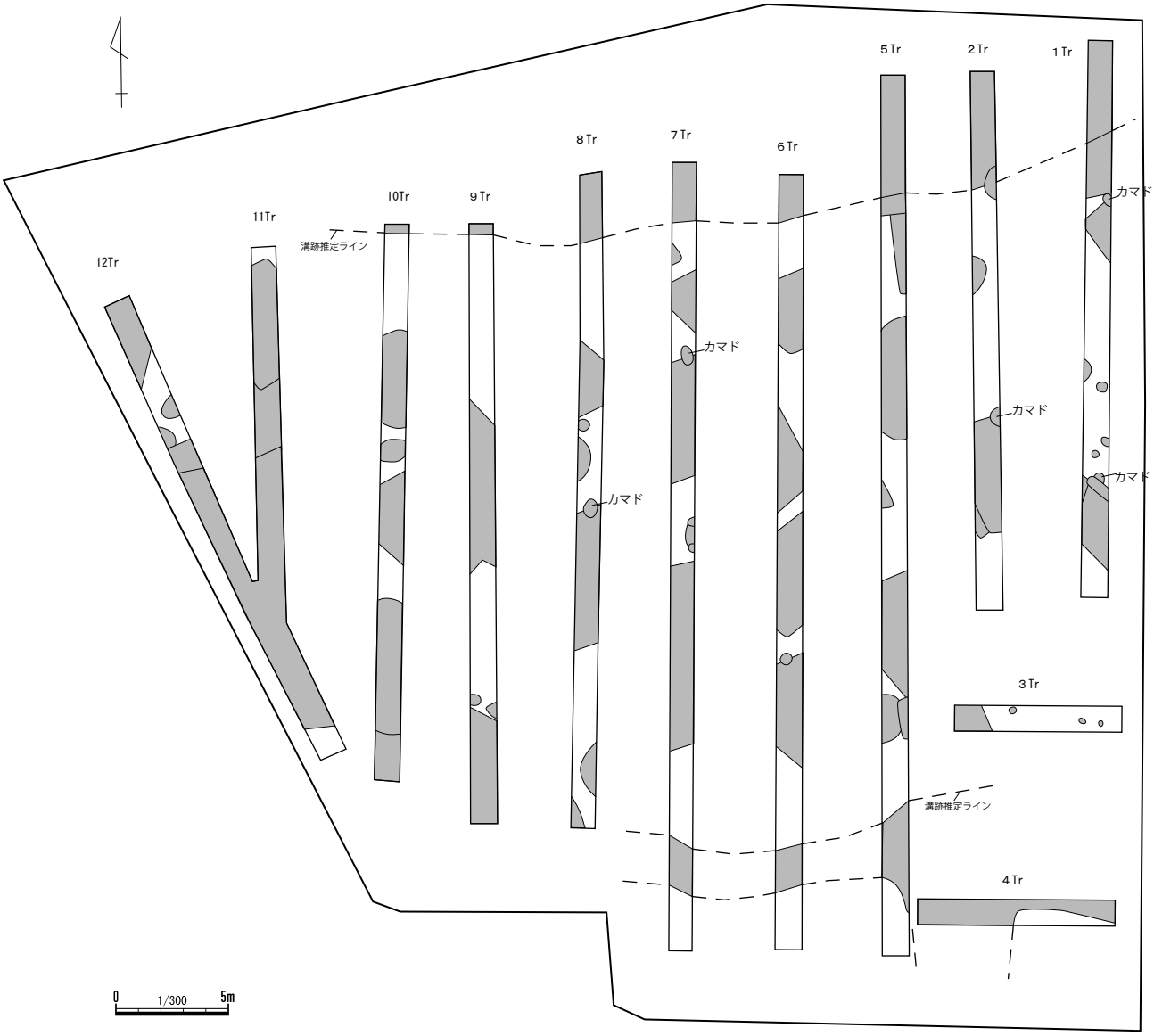
２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成 30 年７月５日、教育委員会は、土木工事主体者である環境推進課より確認調査依頼書を受理し、城山遺跡第 96 地点として、７月 17 ～ 20 日・23 日に確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区南北方向に 10 本（１～２・５～ 12 Ｔｒ、東西方向に２本のトレンチ（３・４Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡５軒・集石１基・土坑６基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡１軒、古墳時代後期～平安時代の住居跡 23 軒、中世以降の土坑７基・溝跡３本・柱穴 11 本を確認した。教育委員会は、この結果をただちに志木市に報告し、保存措置について協議を行った。

その結果、今回の土木工事計画は市営墓地拡張工事であり、墓地は「埼玉県埋蔵文化財発掘調査等取り扱い基準」に規定する「恒久的な構造物の設置」に相当することから、城山遺跡第 96 地点埋蔵文化財保存事業（以下、「保存事業」）として記録保存（発掘調査）を実施することに決定した。また、保存事業の実施にあたっては、民間調査組織の支援を受けることとなった。

平成 31 年３月 19 日に志木市から教育委員会へ保存事業に係る予算の執行委任がなされたことを受け、４月 23 日に指名競争入札を実施した結果、支援業務を委託する民間調査組織が㈱東京航業研究所（代表取締役　中本直士）に決定し、５月 13 日に委託契約を締結した。

教育委員会は、４月 26 日付けで埋蔵文化財発掘の通知及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に、５月 27 日から発掘調査を実施した。



第３図　確認調査時の遺構分布（１／300）

第２節　調査の方法と経過

発掘調査は、令和元年５月 27 日から 11 月２日まで実施した。重機の進入路や残土置場などの関係から、調査範囲を３区画に分割した（第４図）。２区と３区の調査期間は一部重複する。ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第４表の発掘調査工程表に示した。

５月 27 日～ 31 日：

重機・機材等を搬入、調査区を設定し、１区東側から表土掘削を開始した。遺構確認を行い、試掘調査で確認された住居跡の他､焼土と骨片の分布（1073D）や硬化面を伴う溝（３道）などを検出した。

６月３日～７月 24 日

検出状況の記録の後、１区北側の遺構から着手し、南側へと調査を進めていった。

７月 25 日：１区の空中写真撮影をドローンを用いて実施した。

７月 26 日～８月２日：

残りの調査と並行して､基本土層の確認および旧石器時代の調査のためのテストピット（ＴＰ１～６）を設定し、精査した。

８月５日・６日：

１区の埋戻作業を行った。

８月７日～ 14 日：

２区の表土掘削を行った。

８月 15 日～９月２日：

１区からの続く 68 Ｍ・３道、住居跡を切る 69 Ｍから精査を開始した。また、貝の分布が観察された７Ｊは貝の検出に時間を要することが予想されたため、早々に着手した。

９月３日：２区（69 Ｍ・318 Ｈ周辺）の空中写真撮影をドローンを用いて実施した。

９月４日～ 13 日：

遺構精査と並行して、空中写真を撮影した範囲にＴＰ７・８を設定し、精査を行った。ＴＰ８を６日と９日に拡張した。10 Ｙと 315 Ｈは、遺物の出土状況が良好だったので、現地説明会まで出土状況を維持した。

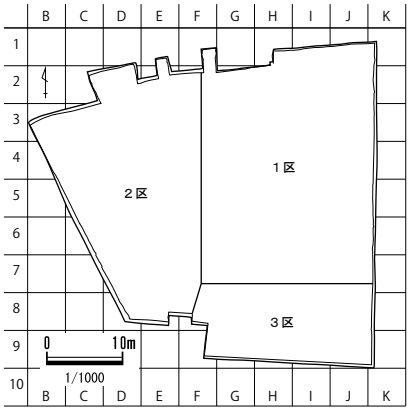
９月 14 日：現地説明会を実施。

９月 17 日～ 30 日：

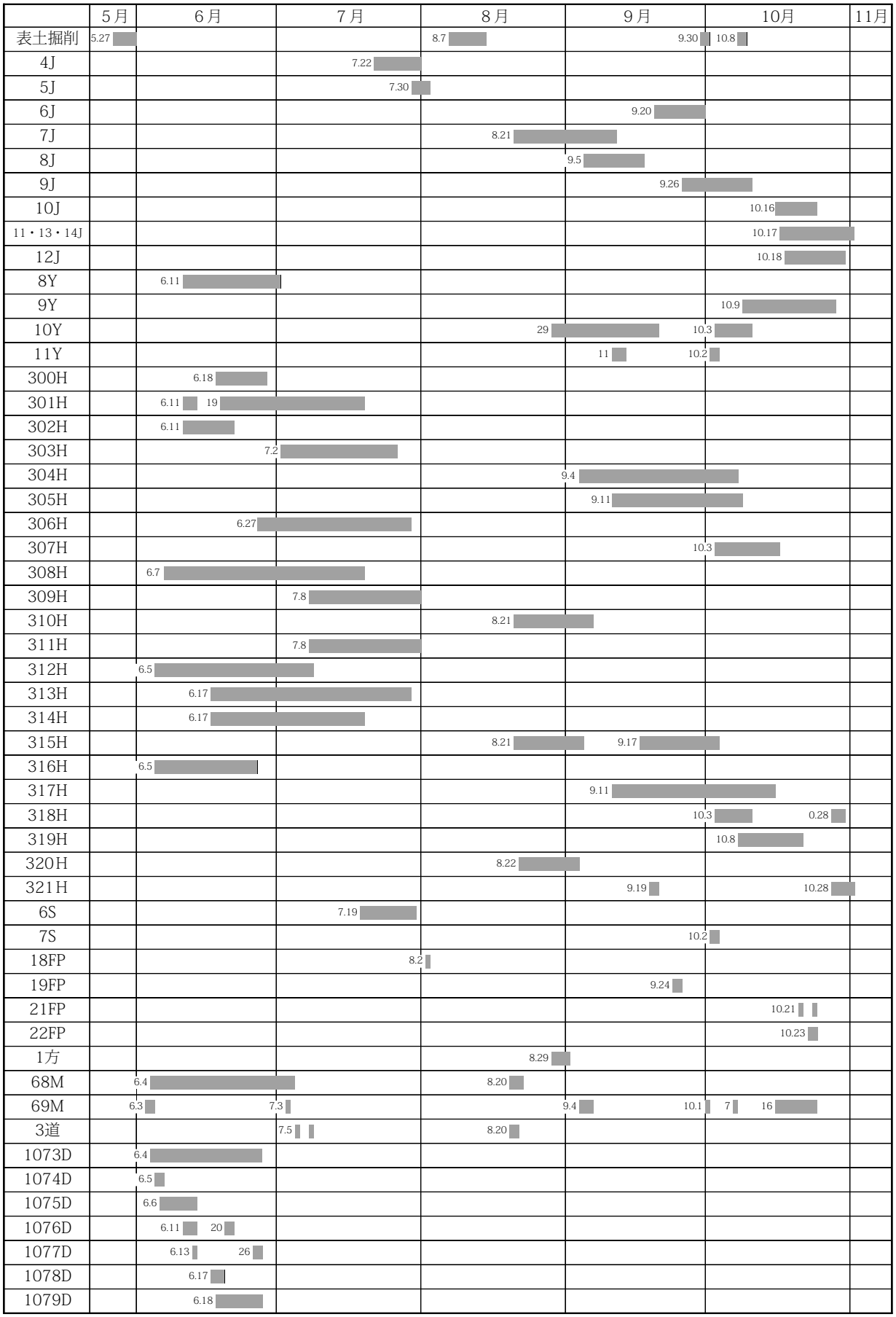
現地説明会が終了したので、10 Ｙ、315 Ｈの遺物の取り上げを行った。２区は、調査が終了した区画から埋戻しを行う方針に変更した。25 日に２区（７・８Ｊ周辺）の空中写真撮影を実施した。25 日と 27 日にＴＰ８を拡張した。30 日に２区（６Ｊ周辺）の空中写真撮影と３区東側の表土掘削を行った。

10 月１日～ 31 日：

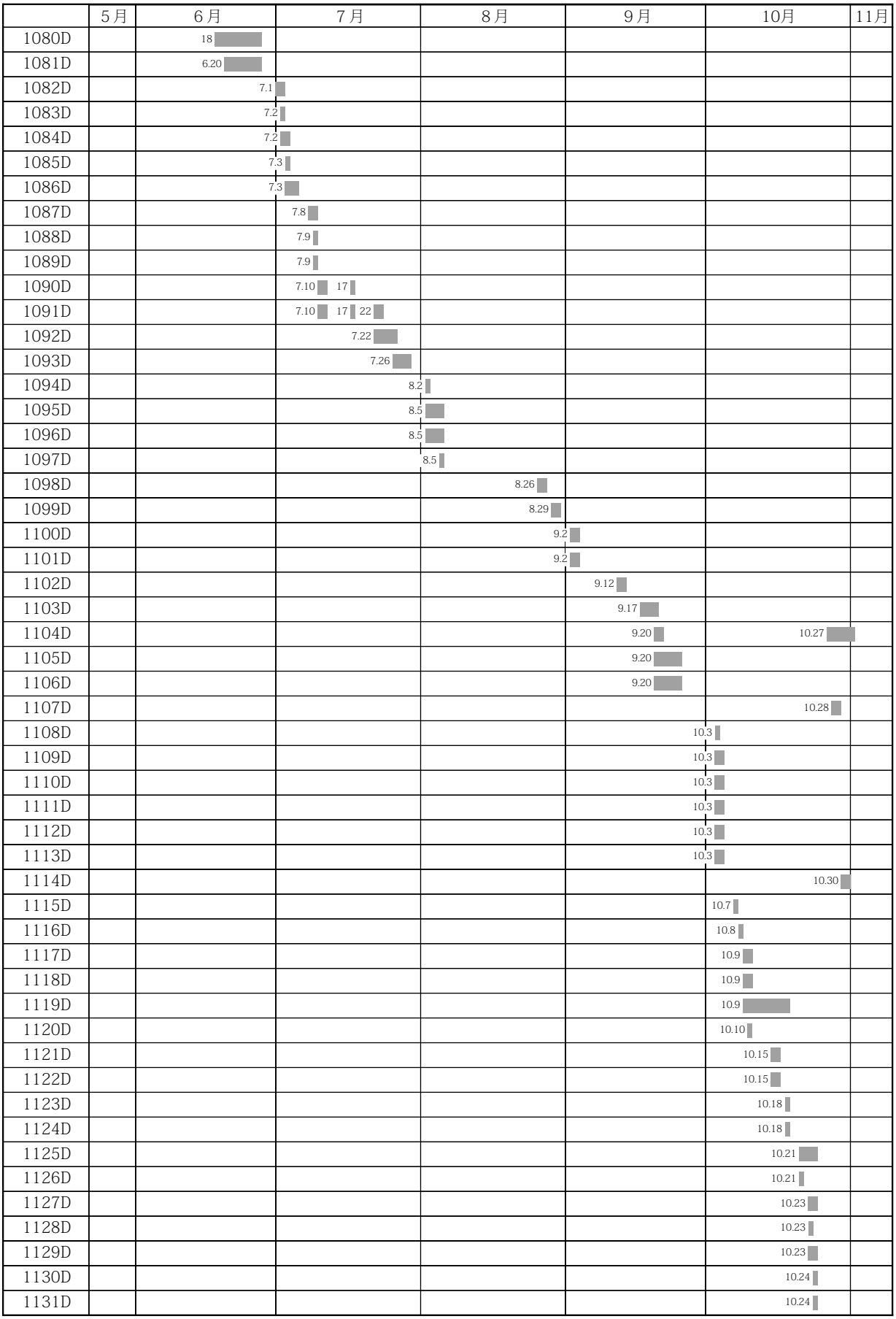
１日に３区東側の表土掘削が終了し、３区の遺構精査に着手した。７日に２区（304 Ｈ周辺）空中写真撮影を実施した。８日にＴＰ８の拡張、３区西側の表土掘削を行った。24 日に３区の



第４図　調査区画図（１／ 1,000）



第４表　発掘調査工程表（１）



第４表　発掘調査工程表（２）

	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月
TP1			7.30				
TP2			7.30				
TP3			7.31				
TP4			7.29				
TP5			7.30				
TP6			7.31				
TP7					9.4		
TP8					9.4	10.7	
TP9						10.15　28	
TP10						10.16　23	
TP11						10.24	
TP12						10.24	
埋戻作業			8.5		10.4		11.2

第４表　発掘調査工程表（３）

空中写真撮影を実施した。24 日に３区のテストピット（ＴＰ 11・12）に着手し、29 日に掘削・記録を終え、３区の調査を終了したを。31 日に２区（11・12 Ｊ周辺）の空中写真撮影を実施し、２区の調査を終了した。

11 月１日～２日：

２日に埋戻し作業が終了し、重機・機材・仮設ハウス等を搬出した。

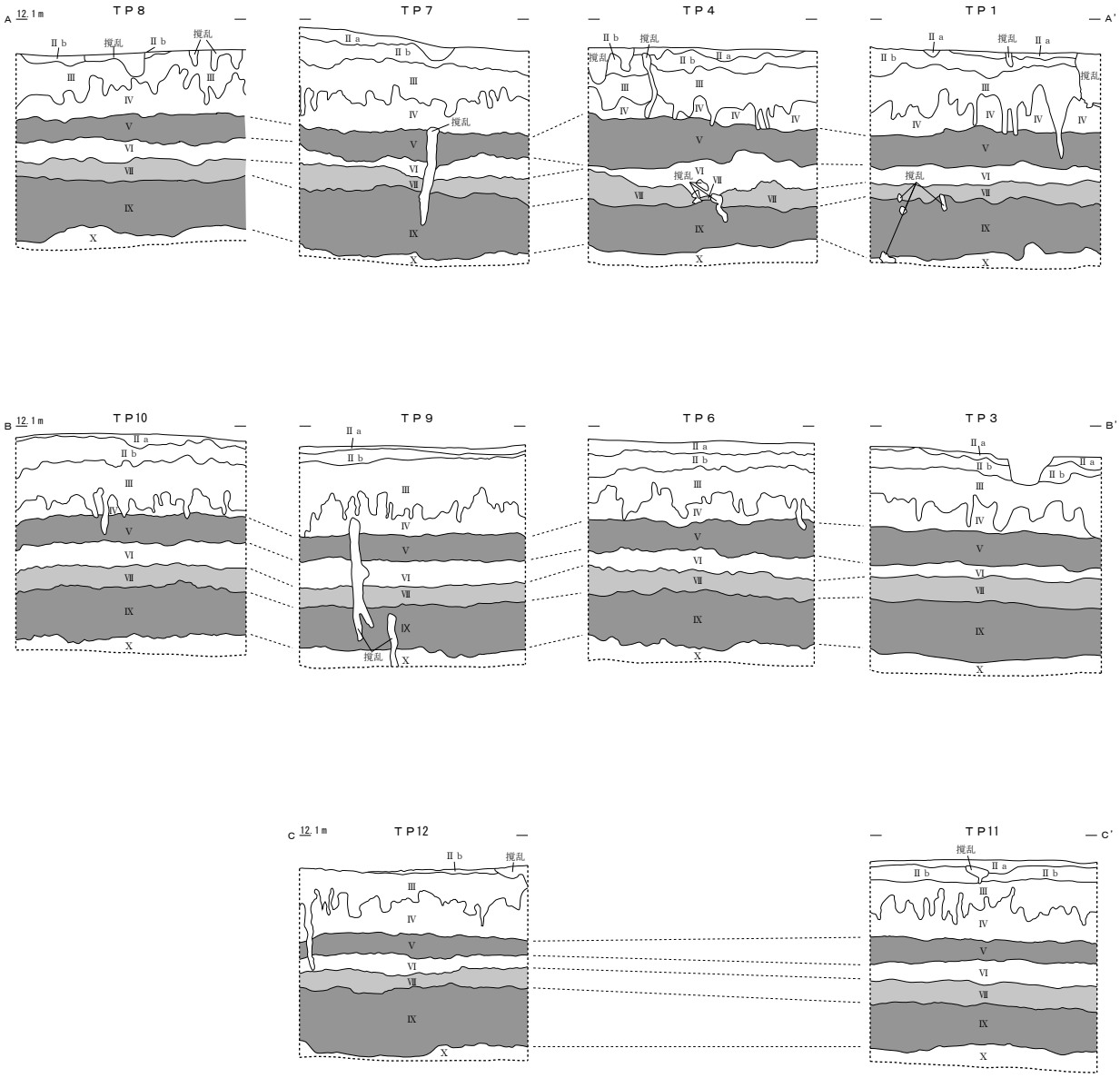
フォトグラメトリについて

ここで、本調査で行った測量手法について説明する。遺構断面図は、メジャーで計測し、方眼紙に作図する伝統的な手法、遺構平面図はデジタル写真測量、基準点や遺物の出土点の計測、遺構平面図の補足測量にはトータルステーションを使用した。カマド平面図、遺物出土状況微細図、テストピットの断面図は、デジタル写真から作成したオルソ（正射投影）画像をベースにし、デジタルトレースした。オルソ画像は、フォトグラメトリ（対象を複数方向から撮影した写真から３Ｄモデルを作成する技術）により３Ｄモデルを生成し、任意の方向（平面図なら天頂方向から、断面図なら面に正対する方向）に投影することにより作成する。ディテールは３Ｄモデルに貼り付けられたテクスチャによって、写真画質で表現される。凹凸や色調の変化の乏しいもの（硬化範囲など）は、釘描きやスプレーなどでマーキングしておくと、トレース段階で拾いやすい。また、３Ｄモデルを生成するので、任意の位置の断面（エレベーション）を起こしたり、高さを計測したりすることもできる。本調査では、遺構だけでなく、一部の遺物の図化においても、フォトグラメトリを用いた手法を活用している。なお、今回、３Ｄモデル生成の際に使用したアプリケーションは、Agisoft　PhotoScan Professional Version1.2.6 である。

第３節　基本層序

基本層序の確認のため、旧石器時代の調査を兼ねたテストピットを 12 か所設定した（第５図）。テストピットは２×２ｍを基本とし、立川ローム第Ｘ層が確認できるまで掘削した。遺構確認面は概ねⅡａ層中である。Ⅱａ層は縄文時代の堆積層の下部にあたる。Ⅱｂ層は青柳スコリアを含む。Ⅲ層からＸ層は立川ローム第Ⅲ層から第Ｘ層に相当する。第Ⅷ層は確認されなかった。第５図の等高線は表土を剥いだ遺構確認面のものである。北側の落ち込みは、現代の造成により削られたもので、旧地形を表すものではない。確認面はほぼ平坦である。ロームの堆積状況も、細かな傾斜はみられるが、全体としては、平坦な印象を受ける。

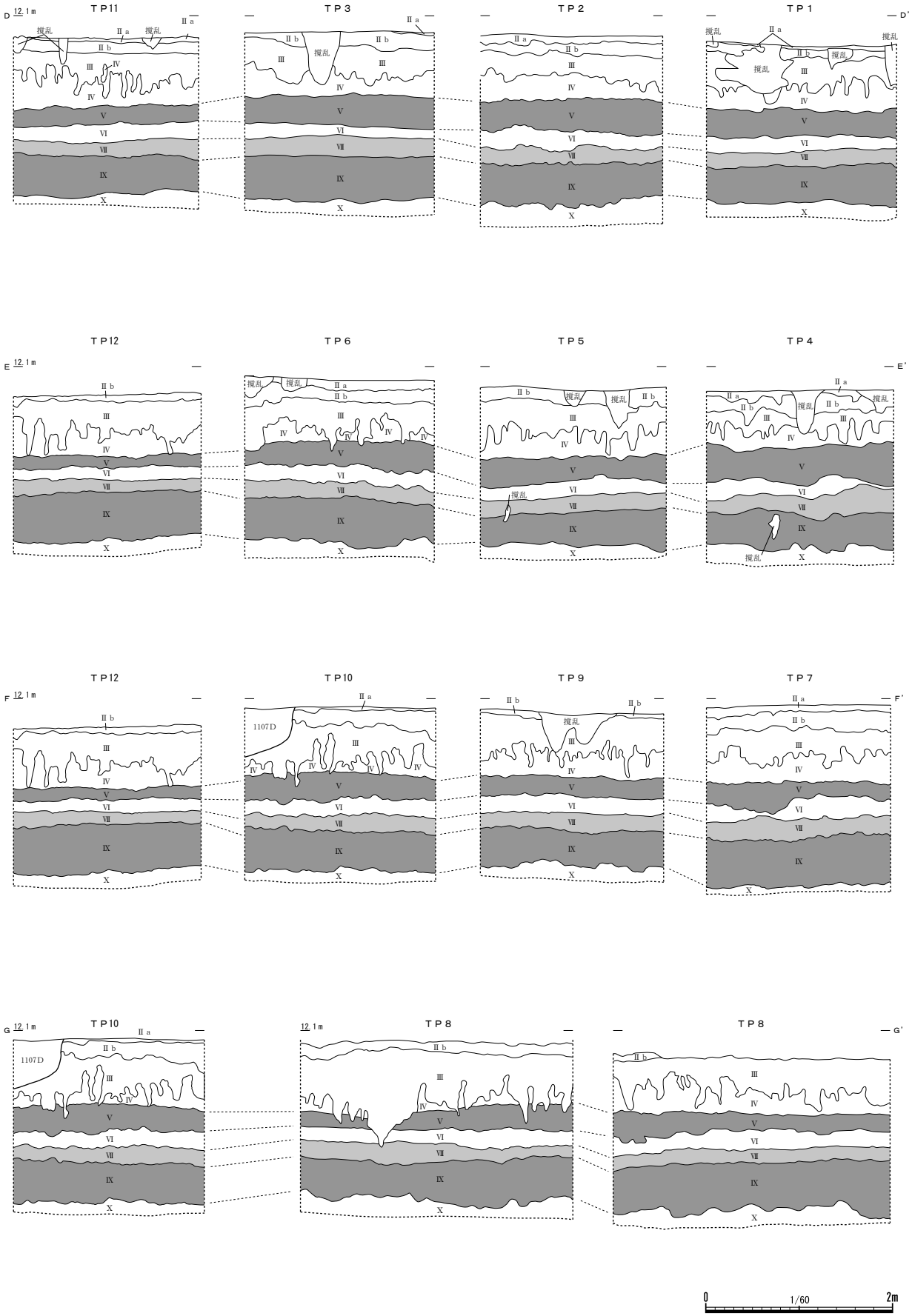
第５図　基本土層の位置（１／３00）



基本土層
Ⅱａ層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ０～２㎜）を中量含む。
Ⅱｂ層　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　締りやや弱い、粘性やや強い。黒色スコリア(φ0.５～１㎜)を微量、赤色スコリア(φ0.５～１㎜)を微量、青柳スコリアを含む。
Ⅲ層　明黄褐色土（10YR6/6）　締りやや弱い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ0.５～１㎜）を微量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を微量含む。ソフトローム層。
Ⅳ層　明黄褐色土（10YR6/6）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ２～４㎜）を多量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を中量含む。
Ⅴ層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ２～４㎜）を中量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を中量含む。
Ⅵ層　明黄褐色土（10YR6/6）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ１～２㎜）を微量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を少量含む。
Ⅶ層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ１～２㎜）を少量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を中量含む。
Ⅸ層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ１～２㎜）を中量、赤色スコリア（φ１～２㎜）を少量含む。
Ⅹ層　明黄褐色土（10YR6/6）　締り非常に強い、粘性やや強い。黒色スコリア（φ0.５～１㎜）を中量、赤色スコリア（φ0.５～１㎜）を中量含む。

0　1/60　2m

第６図　基本層序１（１／60）



第７図　基本層序２（１／60）

第８図　遺構分布図（１／300）

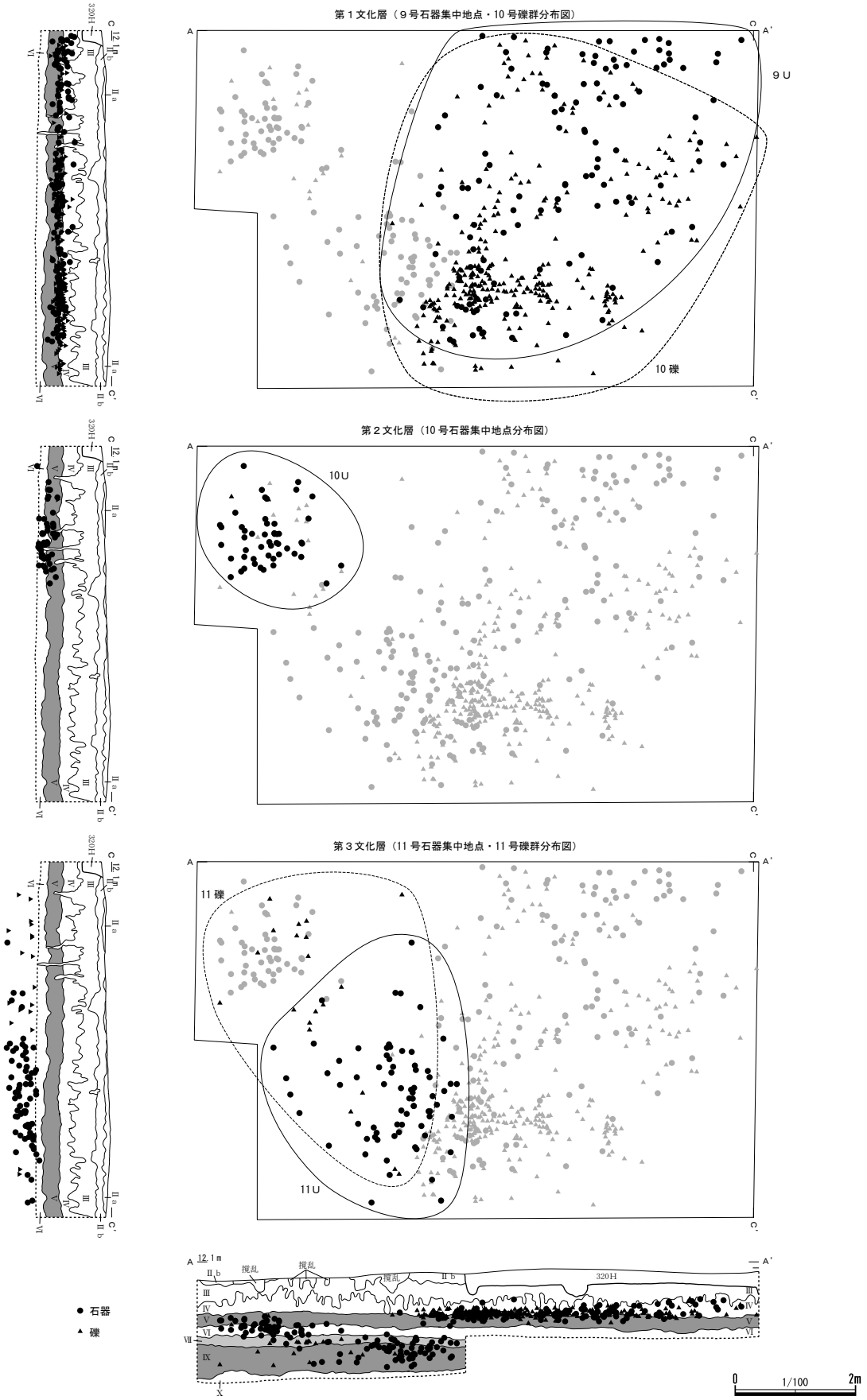
第３章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

（１）概要

旧石器時代の調査は、調査区内に 12 か所のテストピット（ＴＰ１～ 12）を設定し、精査を行った結果、石器 248 点、礫 323 点の計 571 点の遺物を確認した。ＴＰ２で２点、ＴＰ７で１点、ＴＰ 11（撹乱）で１点の石器が出土した以外は、全てＴＰ８から出土した（第９図）。

第９図　ＴＰ配置図（１／ 300）



第 10 図　第１～３文化層概略図（１／100）

ＴＰ８では、石器集中地点３か所（９～ 11 号石器集中地点）、礫群２か所（10・11 号礫群）を検出した。焼土や炭化物は確認されていない。

遺構を層位的にみると、９号石器集中地点・10 号礫群が立川ローム第Ⅳ層下部～Ⅴ層上部、10 号石器集中地点が立川ローム第Ⅴ～Ⅶ層上部、11 号石器集中地点・11 号礫群が立川ローム層第Ⅶ層下部～Ⅸ層から検出されている。このことから、今回の調査では、３枚の文化層を設定した（第 10 図）。

第１文化層は、立川ローム第Ⅳ層下部～Ⅴ層上部を出土層準とする。９号石器集中地点と 10 号礫群を検出した。石器 121 点、礫 301 点が出土し、石器の内訳はナイフ形石器７点、抉入石器２点、二次加工ある剥片１点、微細剥離痕ある剥片１点、石核４点、剥片 84 点、砕片 22 点である。石質別では、黒曜石 89 点、安山岩 22 点、チャート６点、頁岩３点、碧玉１点である。

第２文化層は、立川ローム第Ⅴ～Ⅶ層上部を出土層準とする。10 号石器集中地点を検出した。石器 50 点、礫 12 点が出土し、石器の内訳は二次加工ある剥片１点、石核２点、剥片 38 点、砕片９点である。石質別では、チャート 45 点、頁岩５点である。

第３文化層は、立川ローム第Ⅶ層下部～Ⅸ層を出土層準とする。11 号石器集中地点と 11 号礫群を検出した。石器 72 点、礫 10 点が出土し、石器の内訳はナイフ形石器１点、楔形石器１点、剥片 58 点、砕片 12 点である。石質別では、チャート 68 点、黒曜石２点、頁岩２点である。

（２）石器集中地点

９号石器集中地点

遺　構（第 11・12 図）

[位　置]（D・Ｅ－２・３）グリッド。

[平面分布] 南北 5.11 m以上、東西 5.69 m以上の範囲に石器が分布する。南西方向の分布限界は概ね押さえられていると思われるが、北東方向の分布は調査区外に及ぶと考えられる。南西と北東に分布の集中が分かれるようにも見えるが、境界は明確でない。10 号礫群と平面分布が重複する。

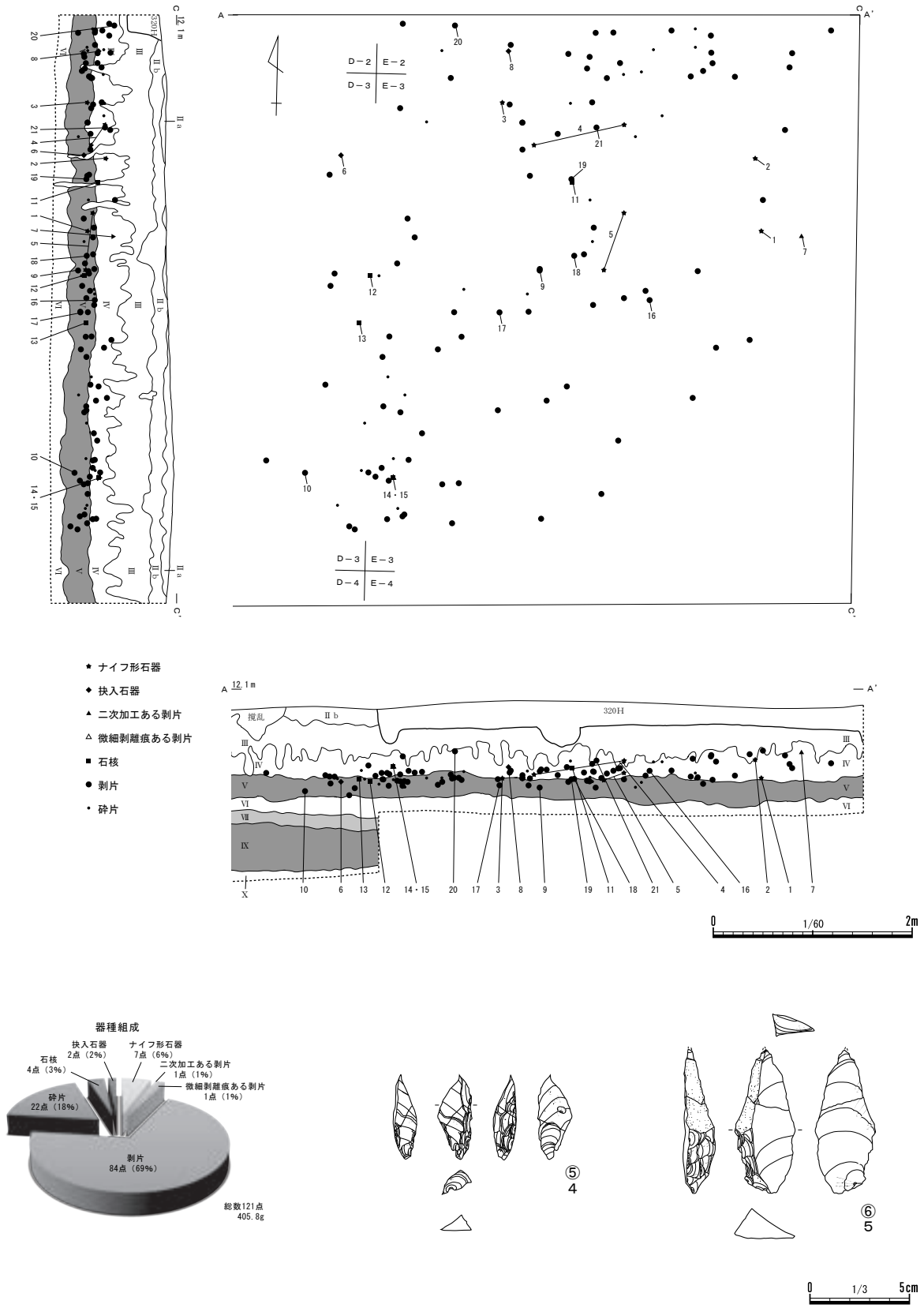
[出土層位] 立川ローム第Ⅳ層下部から第Ⅴ層上部に集中した分布傾向がある。立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅵ層上面まで分布の広がりが認められる。10 号礫群と垂直分布が重複する。

[出土石器] 石器の総点数は 121 点である。内訳は、ナイフ形石器７点（接合後５点）、抉入石器２点、二次加工ある剥片１点、微細剥離痕ある剥片１点、石核４点、剥片 84 点、砕片 22 点である。石質別では、黒曜石 89 点、安山岩 22 点、チャート６点、頁岩３点、碧玉１点である。

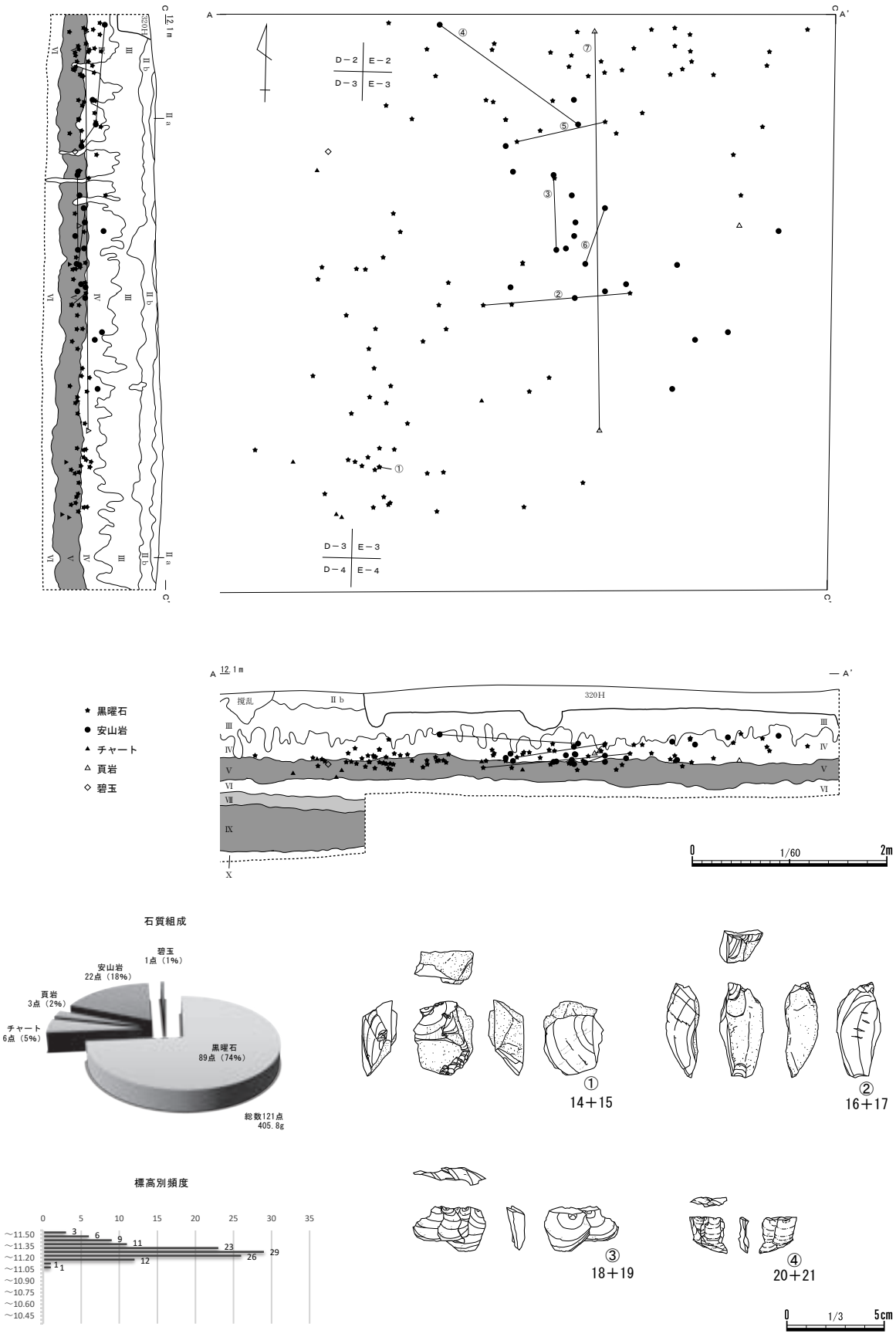
遺　物（第 13 ～ 17 図、図版 46 ～ 48、図版 49 －１、第５表）

１は、黒色頁岩製のナイフ形石器である。先端部左側縁と基部右側縁を整形する。先端部は新規欠損である。２は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。基部を欠損する。３は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。基部を折損する。先端部に衝撃剥離が認められる。４は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。５は、安山岩製のナイフ形石器である。６は、碧玉製の抉入石器である。左側縁に刃部を作り出している。７は、黒曜石製の抉入石器である。８は、安山岩製の二次加工ある剥片である。９は、チャート製の石刃状の剥片である。10 は、チャート製の幅広の縦長剥片である。裏面右側縁は新規欠損である。11 ～ 13 は、黒曜石製の石核である。いずれも礫面を残し、原石は小型で、不定形な剥片剥離を示している。

①（14 ＋ 15）･②（16 ＋ 17）は、黒曜石製の石核に不定形剥片が接合する。③（18 ＋ 19）･④（20



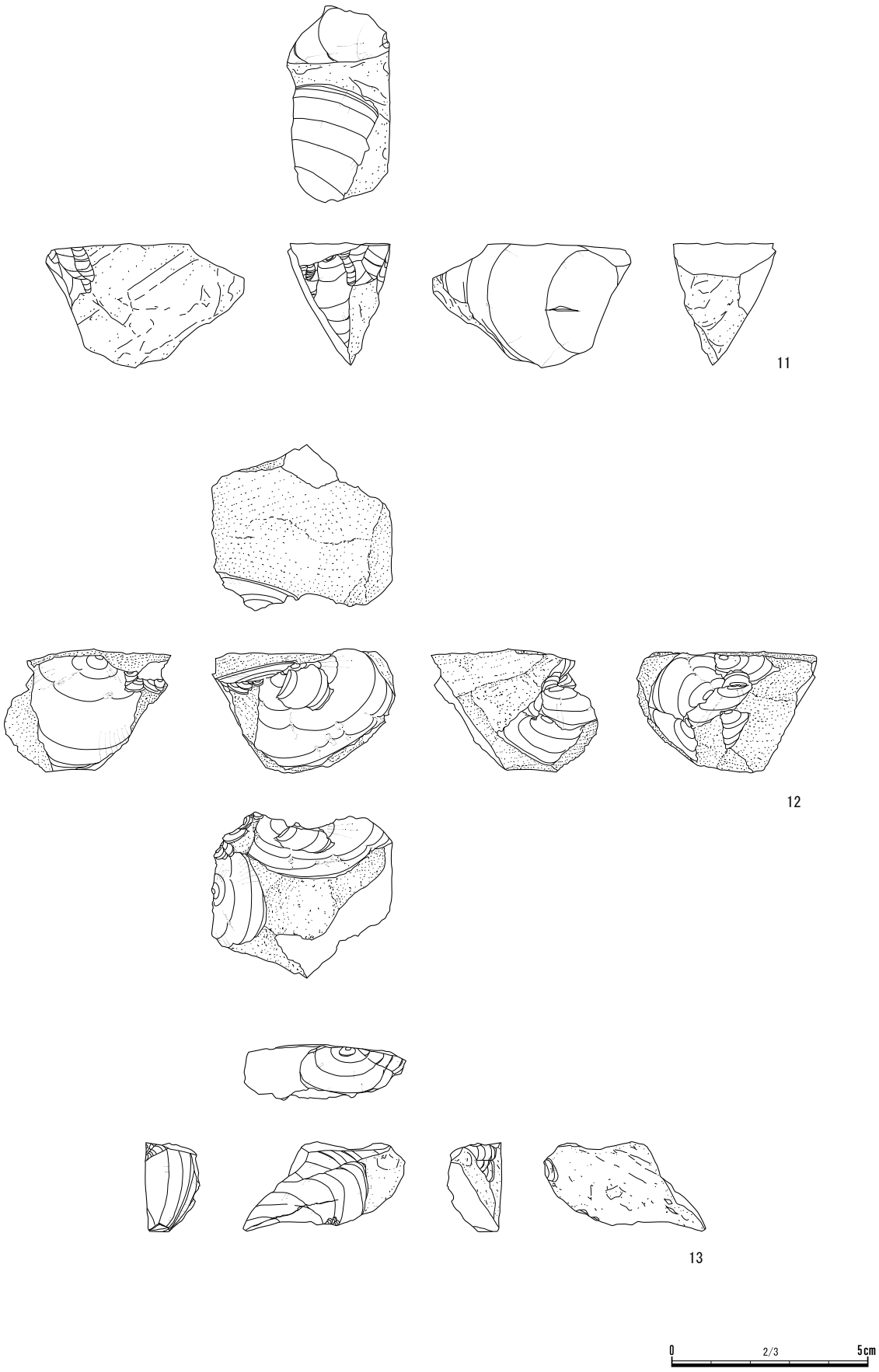
第 11 図　９号石器集中地点　器種別分布図（１／60・１／３）・組成グラフ



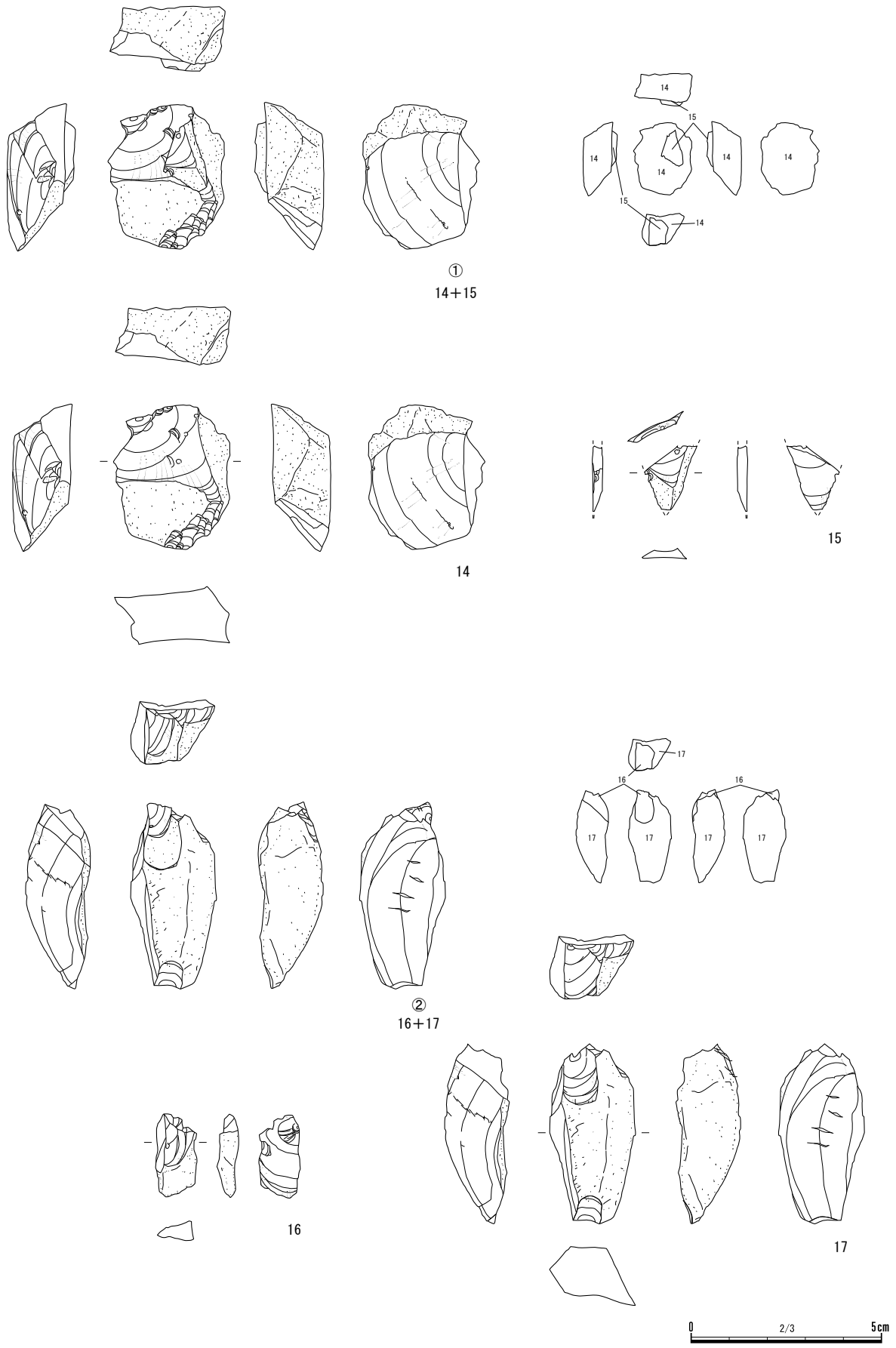
第 12 図　９号石器集中地点　石質別分布図（１／60・１／３）・組成グラフ

第 13 図　９号石器集中地点出土石器１（２／３）

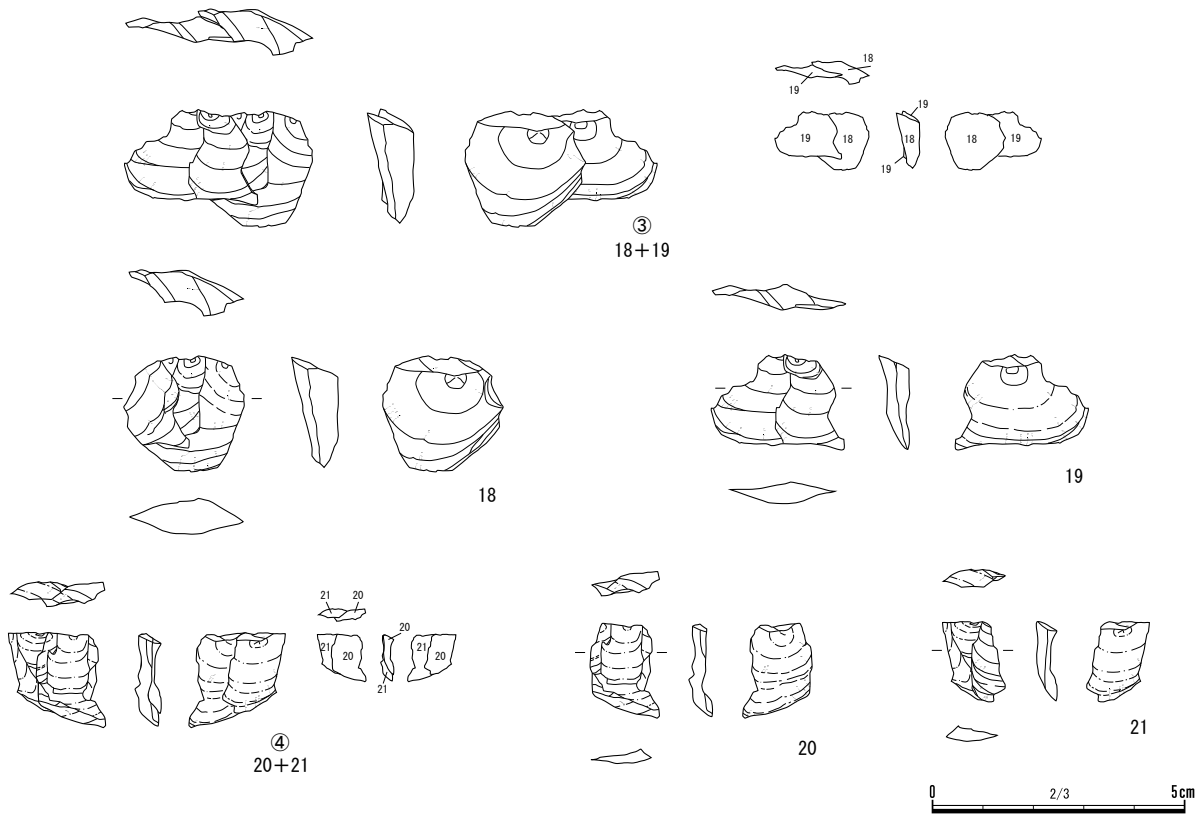
第 14 図　９号石器集中地点出土石器２（２／３）



第 15 図　９号石器集中地点出土石器３（２／３）



第 16 図　９号石器集中地点出土石器４（２／３）



第 17 図　９号石器集中地点出土石器５（２／３）

＋ 21）は、石核は残されていないものの、おそらく盤状石核からの不定形剥片の連続剥離と思われる。いずれも安山岩製である。⑦（図版 49 － 1 －⑦）は、頁岩製の剥片である。

10 号石器集中地点

遺　構（第 18 図）

[位　置]（Ｄ－２・３）グリッド。

[平面分布] 南北 1.98 m、東西 2.04 mの範囲に石器が分布する。概ね分布の中心は押さえられたと考えられる。

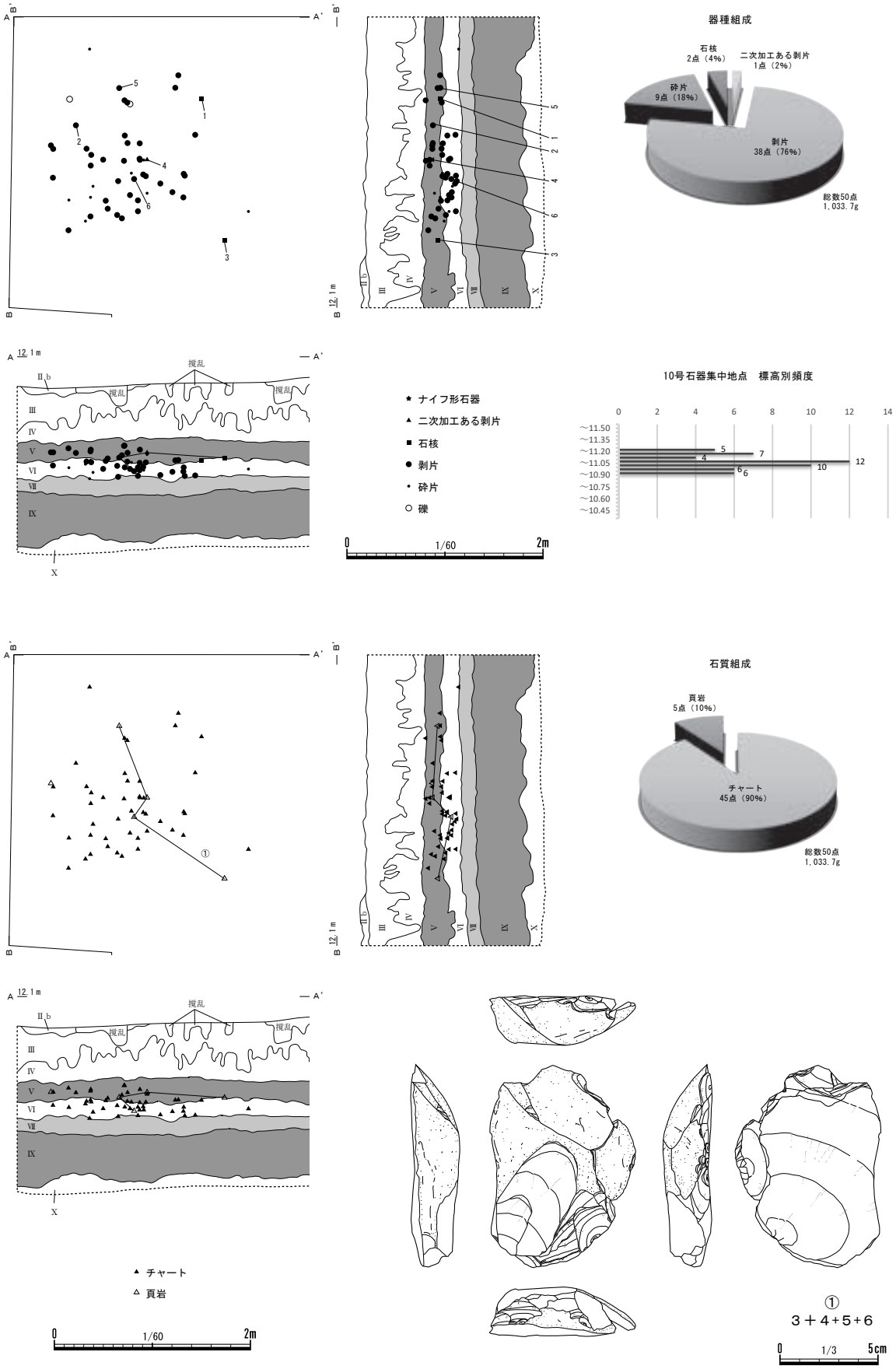
[出土層位] 立川ローム第Ｖ層下部から第Ⅵ層上部に集中した分布傾向がある。立川ローム第Ｖ層上部から第Ⅶ層上面まで分布の広がりが認められる。

[出土石器] 石器の総点数は 50 点である。内訳は、二次加工ある剥片 1 点、石核２点、剥片 38 点、砕片９点である。石質別では、チャート 45 点、頁岩５点である。なお、礫２点が出土したが、礫群としては認識できなかった。

遺　物（第 19・20 図、図版 49 － 2 、図版 50、図版 51 － 1 、第６表）

１は、チャート製の石核とした。いわゆる二重パティナが認められる。剥片剥離の打撃意図も不明確である。同一個体と思われる剥片・砕片は出土していない。２は、チャート製の剥片で、打面再生剥片と思われる。

①（３＋４＋５＋６）は、盤状石核からの求心的な横長剥片の連続剥離が行われている。頁岩製である。石核は表裏上下面の打撃・剥離痕から両極剥離による分割と思われる。４・５を剥離したあと、打面を表面左に移し、６及び３の石核に痕跡が残される数枚の剥片を剥離している。



第 18 図　10 号石器集中地点　器種別・石質分布図（１／60・１／３）・組成グラフ

第 19 図　10 号石器集中地点出土石器１（１／３・２／３）

第 20 図　10 号石器集中地点出土石器２（２／３）

11 号石器集中地点

遺　　構（第 21・22 図）

[位　　置]（Ｄ－３・４）グリッド。

[平面分布] 南北 4.37 m、東西 3.10 mの範囲に石器が分布する。概ね分布の中心は押さえられた。11 号礫群と平面分布が重複する。

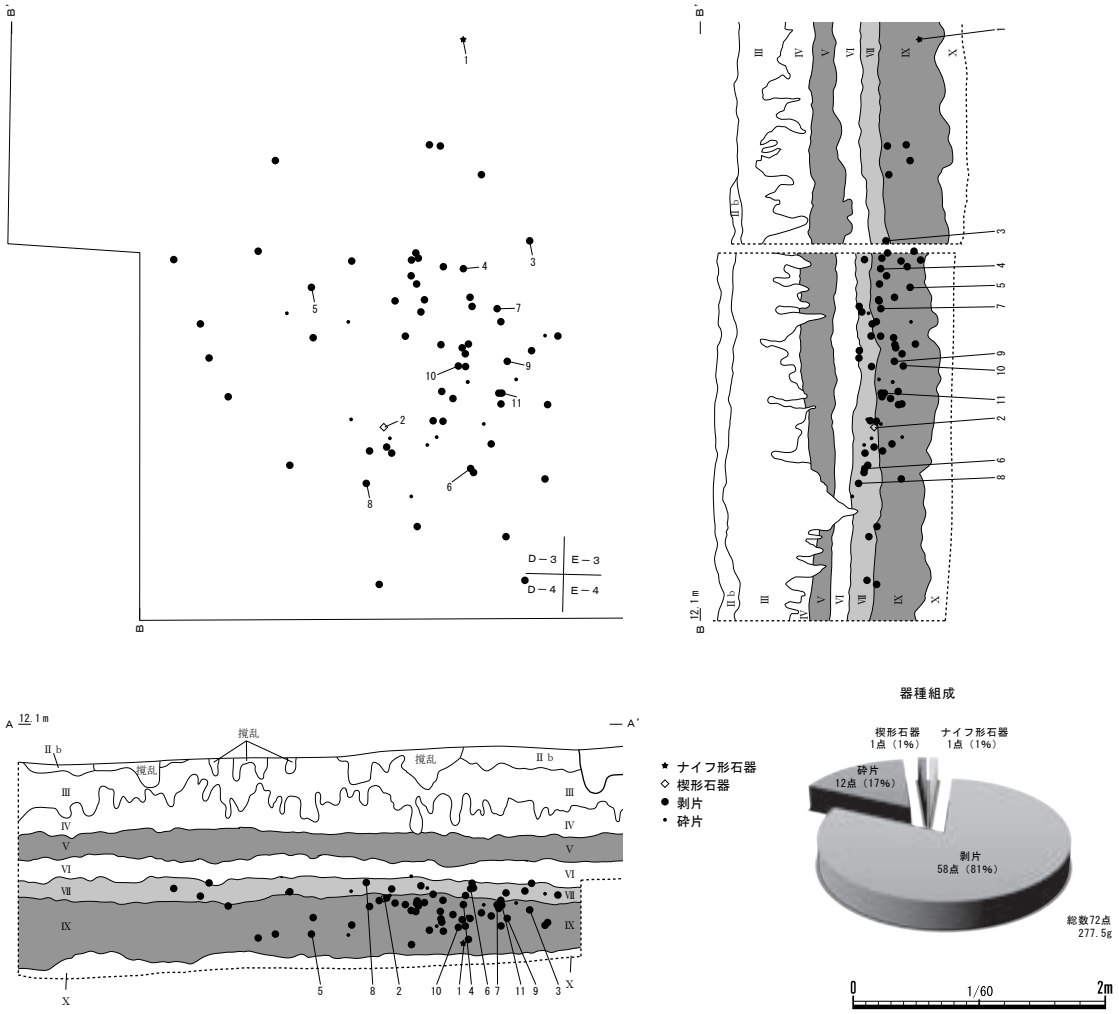
[出土層位] 立川ローム第Ⅶ層下部から第Ⅸ層上部に集中した分布傾向がある。立川ローム第Ⅶ層上面から第Ⅸ層下部まで分布の広がりが認められる。11 号礫群と垂直分布が重複する。

[出土石器] 石器の総点数は 72 点である。内訳は、ナイフ形石器 1 点、楔形石器 1 点、剥片 58 点、砕片 12 点である。石質別では、チャート 68 点、黒曜石 2 点、頁岩 2 点である。

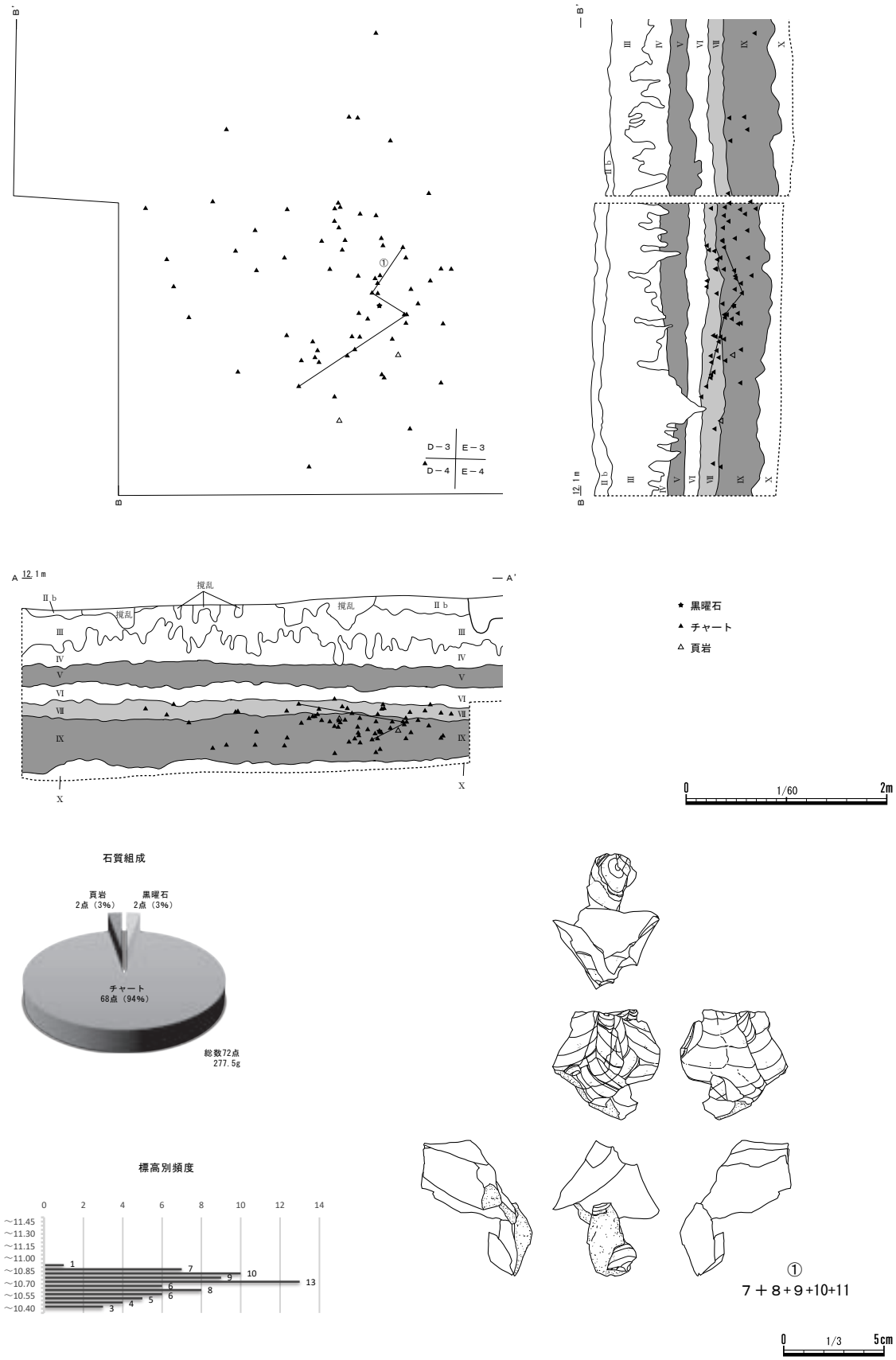
遺　　物（第 23 ～ 25 図、図版 51 －２、図版 52、第７表）

１は、チャート製の一側縁加工のナイフ形石器である。基部は節理割れである。２は、チャート製の楔形石器である。３は、チャート製の剥片で、打面再生剥片と思われる。４は、チャート製の剥片で、石核の調整剥片と考えられる。５は、チャート製の剥片で、打面再生剥片と思われる。３とは石質の色調が異なり、より小型の別個体である。６は、チャート製の石刃状の剥片である。

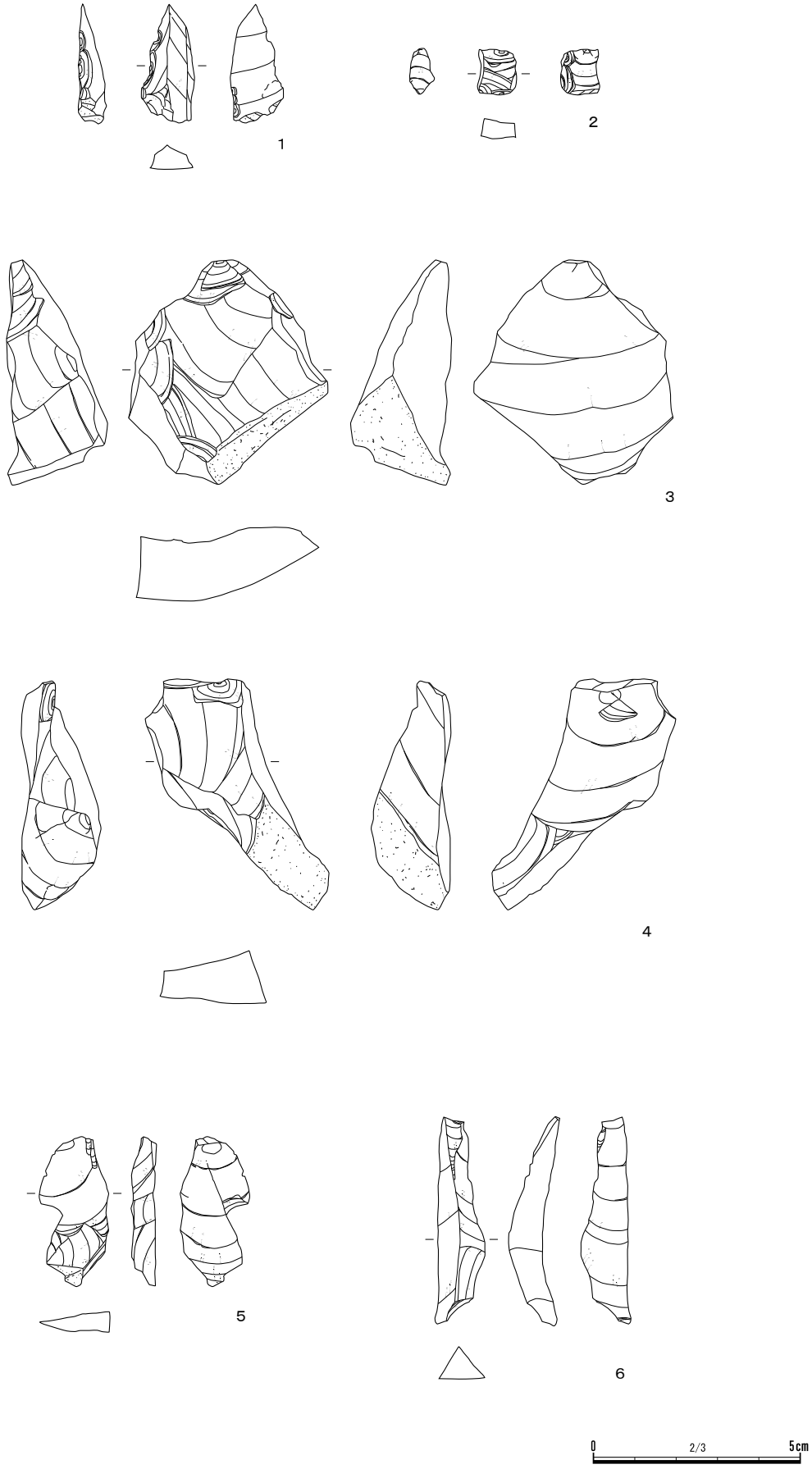
①（７＋８＋９＋ 10 ＋ 11）は、打面転位を伴う不定形剥片の剥片剥離で、チャート製である。



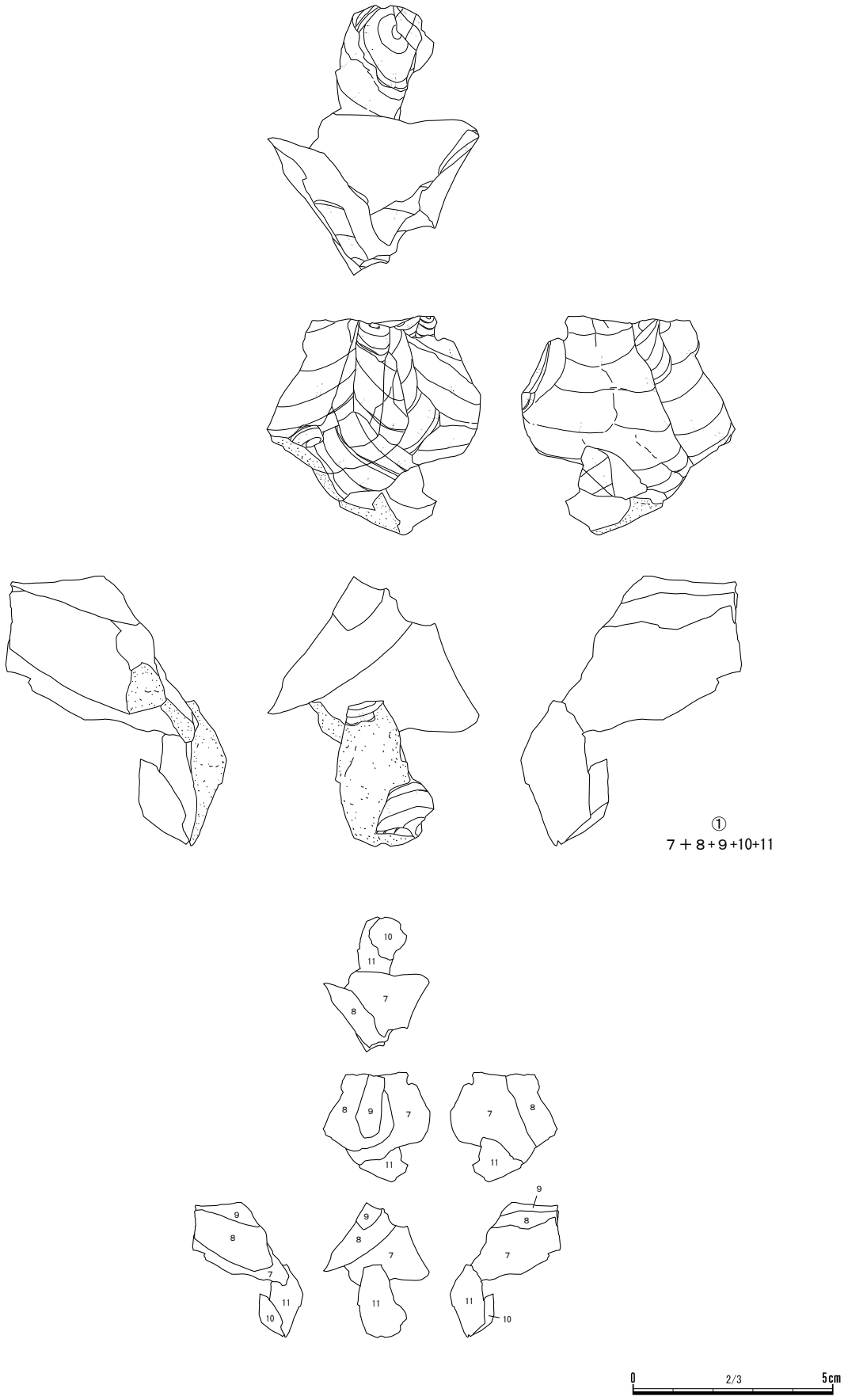
第 21 図　11 号石器集中地点　器種別分布図（１／ 60）・組成グラフ



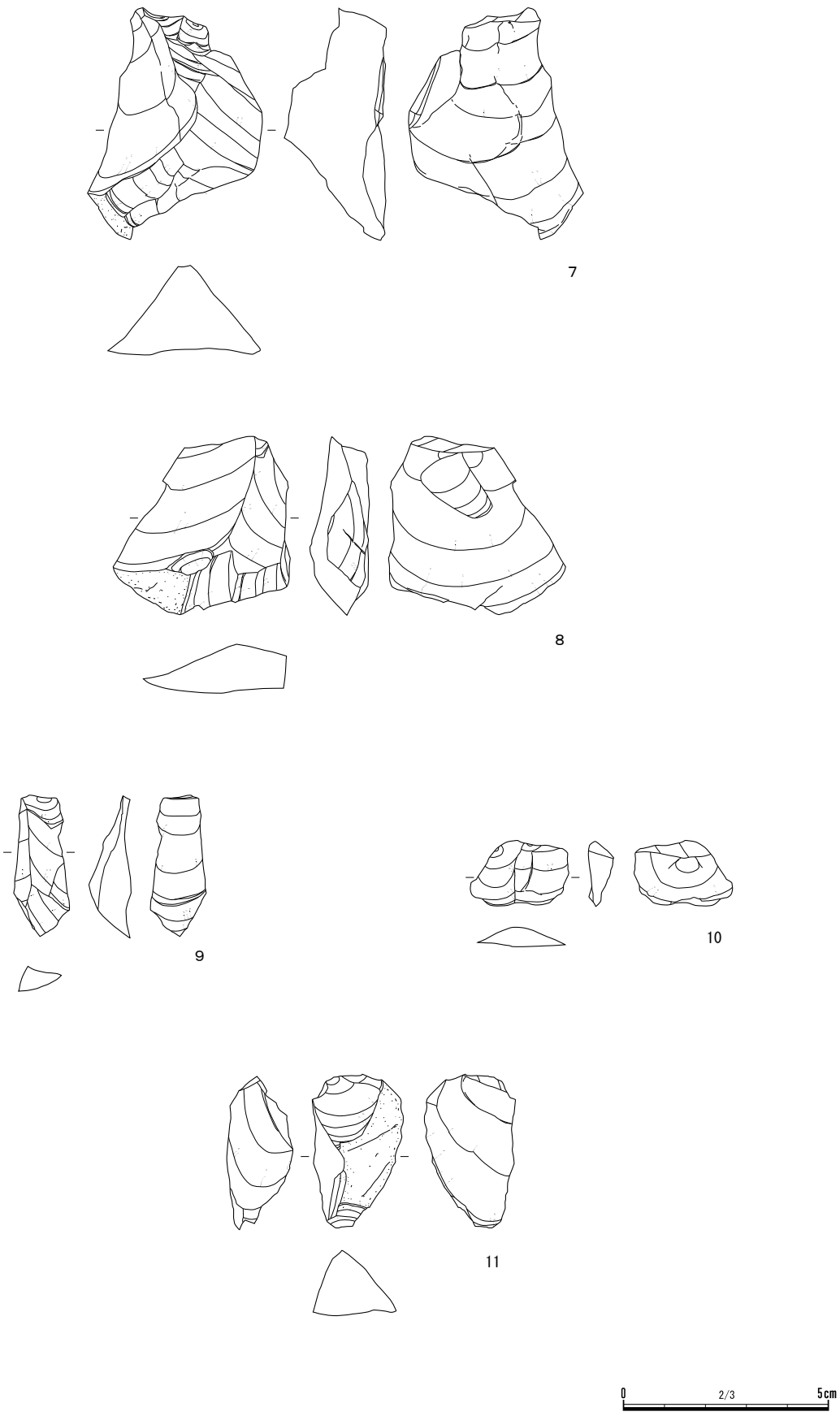
第 22 図　11 号石器集中地点　石質別分布図（1／60・1／3）・組成グラフ



第 23 図　11 号石器集中地点出土石器１（２／３）



第 24 図　11 号石器集中地点出土石器２（２／３）



第 25 図　11 号石器集中地点出土石器３（２／３）

（３）礫群

10 号礫群

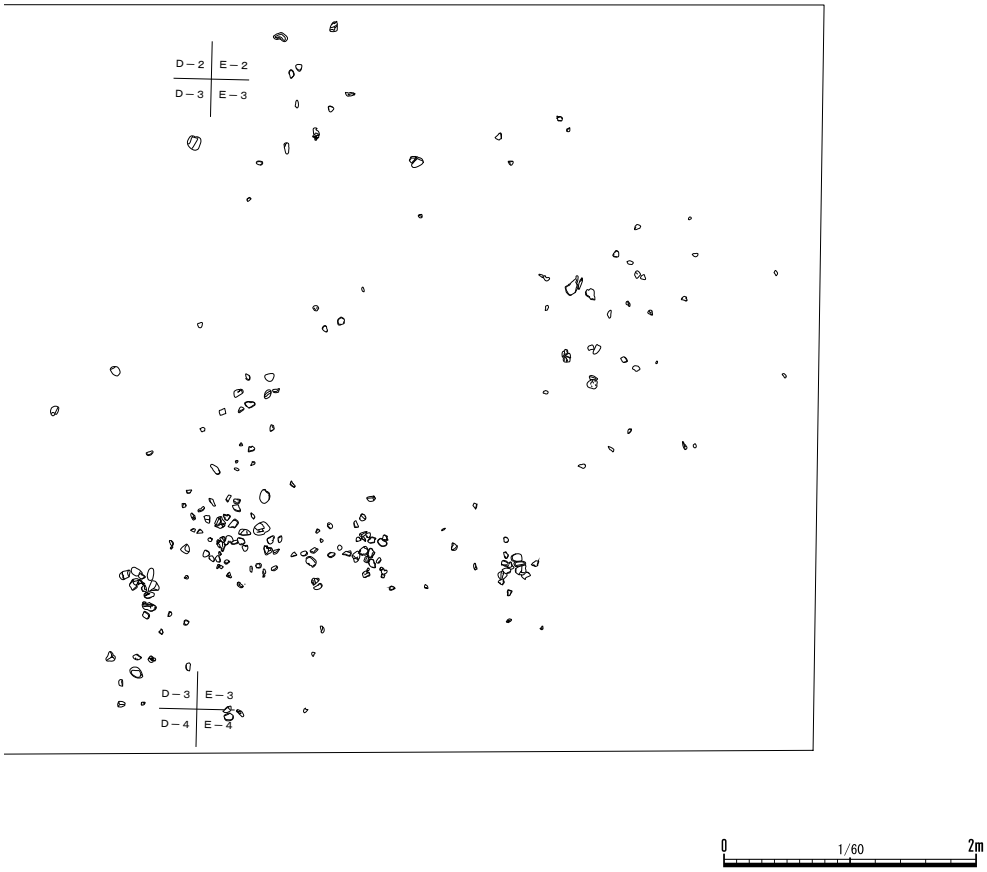
遺　構（第 26・27 図、第８・９表）

[位　　置]（Ｅ－２、Ｄ・Ｅ－３）グリッド。

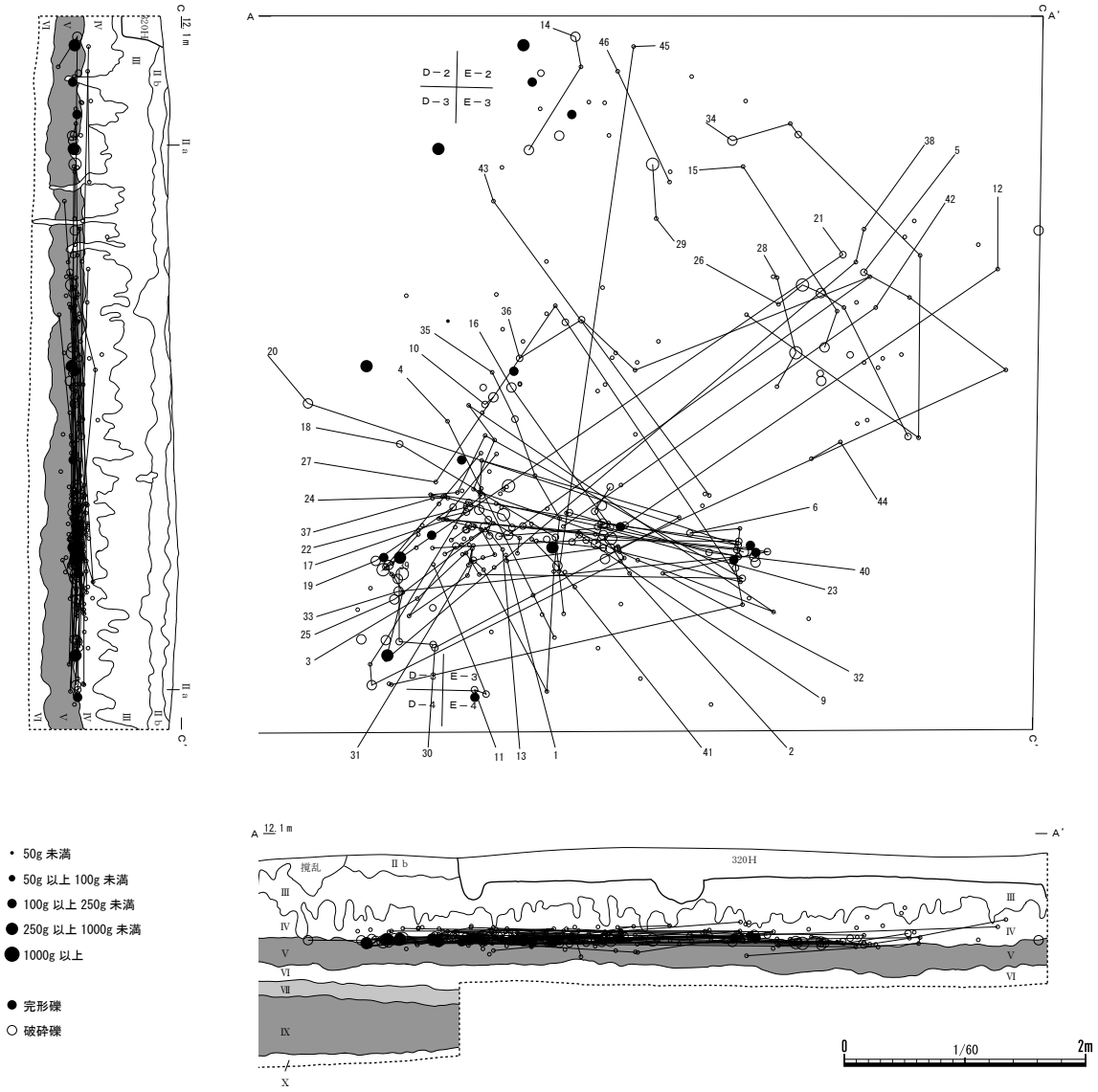
[平面分布] 南北 5.55 m、東西 5.67 mの範囲に礫が分布する。分布の中心は押さえられたが、北側の調査区外に分布が延びている可能性は考えられる。分布の中心が南・北・東に分かれるようにも見えるが、境界は明確でない。９号石器集中地点と平面分布が重複する。

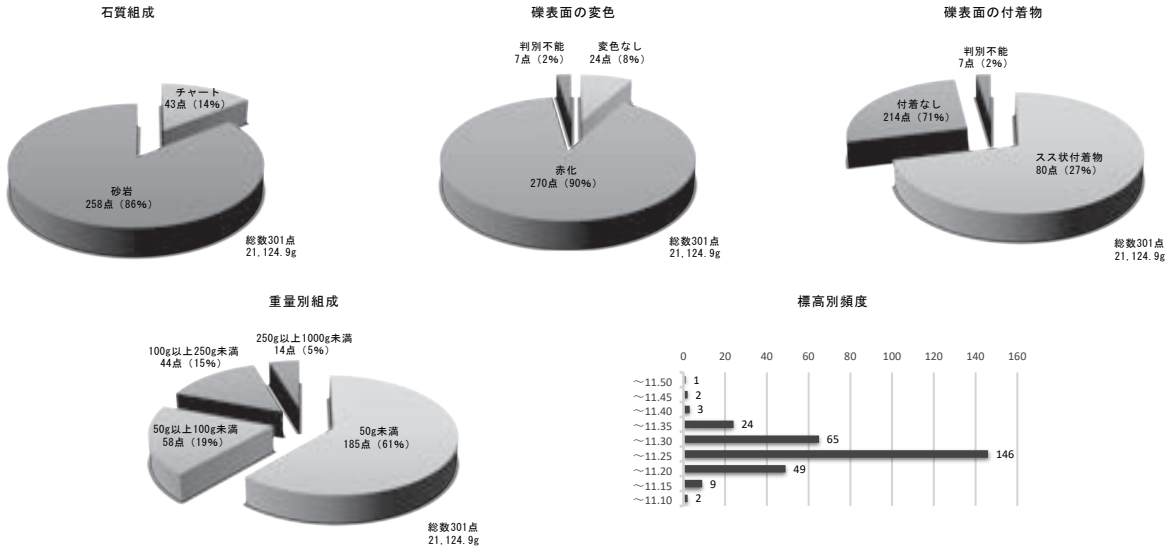
[出土層位] 立川ローム第Ⅳ層下部と第Ⅴ層上面の境界に強く集中した分布傾向がある。この傾向は、重量別の垂直分布で特に顕著に確認できる。立川ローム第Ⅲ層下部から第Ⅴ層下部まで分布の広がりが認められる。９号石器集中地点と垂直分布が重複する。

[礫 構 成] 礫の総点数は 301 点である。完形礫は 18 点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩 258 点、チャート 43 点である。重量別の組成では 50g 未満が 184 点、50 ～ 100g 未満が 58 点、100g ～ 250g 未満が 44 点、250g ～ 1000g 未満が 14 点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの 270 点、表面に付着物が認められるもの 80 点、破断面が赤化するもの 250 点、破断面に付着物が認められるもの 54 点である。接合資料は 44 例である。

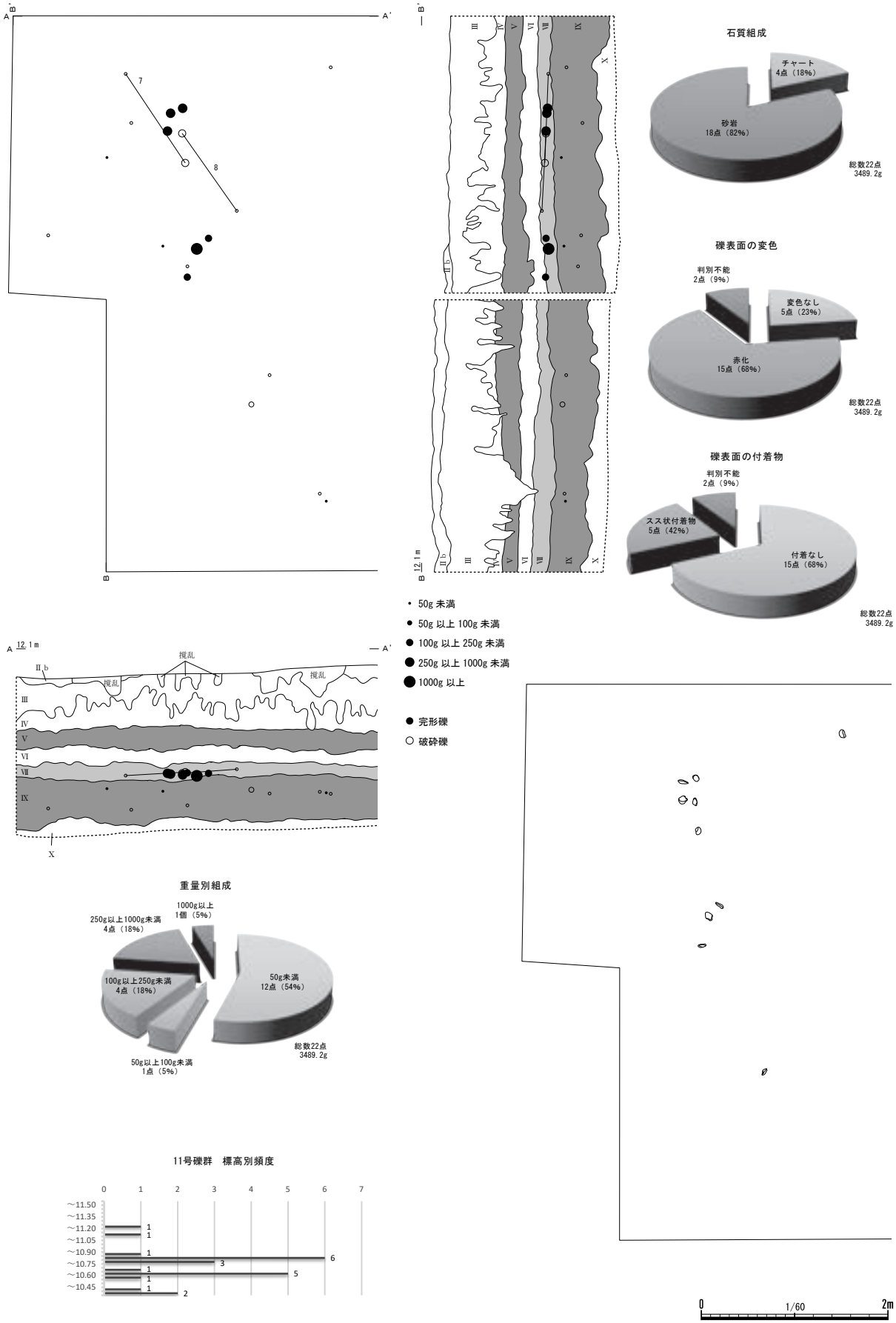


第 26 図　10 号礫群　出土状況微細図（１／ 60）





第 27 図　10 号礫群　重量別分布図（1／60）・組成グラフ



第 28 図　11 号礫群　重量別分布図・出土状況微細図（1／60）・組成グラフ

11 号礫群

遺　　構（第 28 図、第 10・11 表）

[位　　置]（Ｄ－２・３）グリッド。

[平面分布] 南北 2.19 m、東西 1.83 mの範囲に礫が分布する。10・11 号石器集中地点と平面分布が重複する。

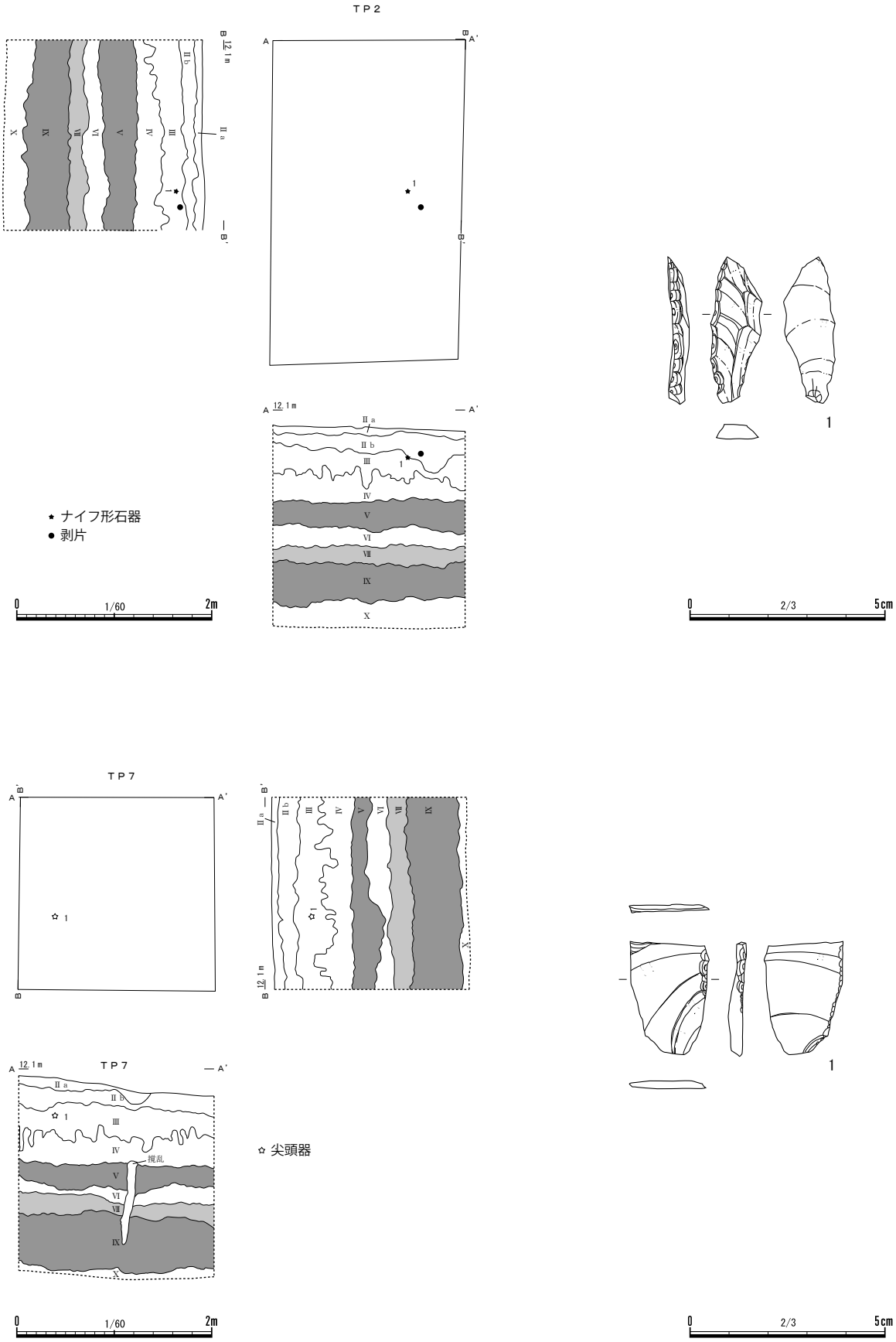
[出土層位] 立川ローム第Ⅶ層に集中した分布傾向がある。この傾向は、重量別の垂直分布でも顕著である。立川ローム第Ⅶ層上部から第Ⅸ層下部まで分布の広がりが認められる。11 号石器集中地点と垂直分布が重複する。

[礫 構 成] 礫の総点数は 22 点である。完形礫は 8 点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩 18 点、チャート 4 点である。重量別の組成では 50g 未満が 11 点、50 ～ 100g 未満が 1 点、100g ～ 250g 未満が 4 点、250g ～ 1000g 未満が 4 点、1000 g 以上が 1 点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの 14 点、表面に付着物が認められるもの 4 点、破断面が赤化するもの 7 点、破断面に付着物が認められるものは認められなかった。接合資料は 2 例である。

（4）遺構外出土石器（第 29 図、図版 53 － 1 、第 12 表）

ＴＰ８以外のテストピットから出土した旧石器は、ＴＰ２で２点、ＴＰ７で１点、ＴＰ 11（撹乱）で１点の計４点である。内訳は、ＴＰ２が安山岩製のナイフ形石器１点と凝灰岩製の剥片１点、ＴＰ７が頁岩製の尖頭器１点、ＴＰ 11 が黒曜石製の剥片１点である。

ＴＰ２－１は、安山岩製の一側縁加工のナイフ形石器である。ＴＰ７－１は、頁岩製の周縁加工の尖頭器と思われる。



第 29 図　遺構外出土石器（２／３・１／60）

挿図番号	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
図版 49- 1 -⑦	59	頁岩	剥片	33.5	17.6	5.7	4.80	⑦			写真	59+176 ／節理割れ
	70	黒曜石	剥片	20.3	19.8	4.3	1.10		単	無	×	
	71	黒曜石	砕片	4.0	5.4	1.6	0.04		欠	無	×	
第 17 図 20	72	安山岩	剥片	1.9	1.4	0.5	0.60	④			○	72+89
	73	黒曜石	剥片	12.0	3.5	2.1	0.09		点	有	×	
	74	黒曜石	砕片	6.7	4.3	3.8	0.10		欠	無	×	縦割れ
	75	チャート	剥片	24.6	15.9	5.2	1.40		欠	無	×	
	77	黒曜石	剥片	12.9	6.7	3.9	0.20		欠	有	×	
第 14 図 7	78	黒曜石	抉入石器	3.6	3.5	1.5	13.60				○	
	81	黒曜石	剥片	8.8	10.7	2.4	0.17		礫	有	×	
	83	安山岩	剥片	13.5	12.2	2.5	0.30		単	無	×	
	84	安山岩	剥片	9.7	10.6	1.8	0.20		単	無	×	
	86	黒曜石	剥片	11.8	10.3	4.8	0.40		欠	無	×	縦割れ
	87	黒曜石	砕片	8.4	6.3	1.9	0.08		線	無	×	
	88	安山岩	剥片	10.4	7.3	1.8	0.14		単	無	×	
第 17 図 21	89	安山岩	剥片	1.6	1.2	0.4	0.50	④			○	72+89
	90	黒曜石	剥片	7.8	13.5	5.5	0.35		点	無	×	末端部欠
	91	黒曜石	剥片	17.4	12.7	3.4	0.40		欠	無	×	調整剥片
	92	黒曜石	砕片	5.3	4.9	1.5	0.07		欠	無	×	
	93	黒曜石	砕片	7.0	5.9	3.0	0.13		欠	有	×	
	94	黒曜石	砕片	4.7	7.1	0.7	0.01		欠	無	×	
	95	黒曜石	剥片	13.1	20.1	5.0	1.00		欠	無	×	
	96	黒曜石	砕片	6.1	7.6	1.7	0.05		複	無	×	
	97	黒曜石	剥片	9.3	15.2	2.3	0.24		単	有	×	
	98	黒曜石	剥片	15.5	13.8	2.7	0.30		欠	無	×	縦割れ
	99	黒曜石	剥片	11.9	19.7	3.7	0.50		欠	有	×	
	100	黒曜石	剥片	10.7	10.9	2.7	0.20		欠	無	×	
	101	黒曜石	剥片	11.2	13.7	3.8	0.40		単	無	×	
	102	黒曜石	剥片	13.4	14.0	2.8	0.40		礫	有	×	
	103	黒曜石	剥片	14.4	17.0	5.2	1.10		単	無	×	
第 13 図 1	104	頁岩	ナイフ形石器	7.7	2.8	0.9	13.40				○	黒色頁岩
第 14 図 8	105	安山岩	二次加工ある剥片	2.0	2.8	1.0	4.20				○	
	107	安山岩	剥片	13.4	10.3	2.3	0.19		単	無	×	
	109	安山岩	剥片	16.1	10.8	5.3	0.40		単	無	×	
	110	安山岩	剥片	13.0	17.0	3.2	0.50		単	無	×	
	111	安山岩	剥片	11.5	8.3	3.7	0.24		単	無	×	
第 16 図 16	112	黒曜石	剥片	2.2	1.1	0.6	1.10	②			○	112+460
第 13 図 5	113	安山岩	ナイフ形石器	3.1	2.1	1.0	4.00	⑥			○	113+118
	114	安山岩	砕片	7.9	9.6	1.5	0.08		単	無	×	
	115	安山岩	剥片	21.3	17.9	4.1	0.80		単	無	×	
	116	安山岩	剥片	24.2	30.5	8.4	4.50		単	無	×	
第 17 図 18	117	安山岩	剥片	2.3	2.4	0.9	3.60	③	単		○	117+195
第 13 図 5	118	安山岩	ナイフ形石器	4.9	3.0	1.6	19.20	⑥			○	113+118
	119	安山岩	剥片	19.2	22.2	6.4	1.70		単	無	×	
	120	安山岩	剥片	18.2	15.2	2.3	0.40		単	無	×	
	121	黒曜石	剥片	29.1	33.5	4.6	2.60		単	有	×	
	122	安山岩	砕片	9.1	8.0	2.4	0.15		単	無	×	
	127	黒曜石	砕片	8.7	4.0	1.3	0.04		欠	無	×	
	128	黒曜石	剥片	12.9	7.5	2.5	0.17		複	無	×	
	129	黒曜石	剥片	14.4	14.6	1.3	0.20		欠	無	×	
	130	黒曜石	剥片	11.2	4.6	1.4	0.05		欠	無	×	
	131	黒曜石	剥片	6.9	14.6	1.6	0.25		欠	有	×	縦割れ
	135	黒曜石	剥片	14.4	9.4	5.9	0.60		欠	無	×	
	136	黒曜石	剥片	10.1	5.7	2.1	0.08		欠	無	×	
	137	黒曜石	砕片	8.8	4.4	2.3	0.08		欠	無	×	
	138	黒曜石	剥片	11.6	8.8	1.8	0.09		欠	無	×	
	139	黒曜石	剥片	6.3	14.9	3.8	0.35		欠	有	×	
	140	黒曜石	剥片	27.3	30.3	13.3	8.70		礫	有	×	
	143	黒曜石	剥片	13.8	18.4	2.4	0.35		欠	無	×	
	144	黒曜石	剥片	12.1	10.1	1.3	0.11		線	無	×	
第 16 図 15	146-1	黒曜石	微細剥離痕ある剥片	1.7	1.3	0.3	0.40	①	欠	有	○	146-1+146-2

第５表　９号石器集中地点出土石器（１）

挿図番号	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
第 16 図 14	146-2	黒曜石	石核	3.8	3.0	1.5	18.70	①	-		○	146-1+146-2
	147	黒曜石	剥片	12.3	15.3	3.5	0.34		欠	無	×	
	148	黒曜石	剥片	13.1	20.3	3.6	0.50		欠	無	×	末端部欠
	149	黒曜石	剥片	18.0	9.4	2.5	0.35		欠	無	×	
	150	黒曜石	砕片	9.8	8.3	1.5	0.08		線	無	×	
	151	黒曜石	剥片	6.6	12.4	2.4	0.12		線	無	×	末端部欠
	153	黒曜石	剥片	15.3	9.9	9.9	0.80		欠	無	×	末端部欠
	156	黒曜石	剥片	8.8	17.0	5.5	0.80		欠	無	×	
	157	チャート	剥片	37.7	21.5	11.4	5.80		礫	有	×	
	158	黒曜石	剥片	11.4	12.0	2.2	0.22		礫	有	×	
	159	黒曜石	剥片	11.9	14.1	3.2	0.38		欠	無	×	
	160	黒曜石	剥片	31.4	28.6	14.8	11.20		単	無	×	
第 13 図 2	162	黒曜石	ナイフ形石器	3.8	1.8	1.0	5.30		欠	無	○	切出形
第 13 図 4	163	黒曜石	ナイフ形石器	2.6	1.8	0.9	2.30	⑤	欠	無	○	163+165
第 15 図 11	164	黒曜石	石核	3.2	5.1	2.6	34.60		-		○	
第 13 図 4	165	黒曜石	ナイフ形石器	2.8	1.7	1.1	3.20	⑤			○	163+165
	166	黒曜石	剥片	39.6	31.6	20.0	19.60		礫	有	×	末端部欠
第 14 図 6	167	碧玉	抉入石器	3.7	4.1	1.9	24.10				○	
	168	黒曜石	剥片	30.2	49.8	24.0	41.70		欠	無	×	原石破砕
第 15 図 12	169	黒曜石	石核	3.2	4.7	4.3	49.70		-	有	○	
第 15 図 13	170	黒曜石	石核	2.3	4.1	1.5	10.10		-		○	
	171	黒曜石	砕片	6.4	6.0	1.8	0.04		線	無	×	末端部欠
図版 49- 1 - ⑨	176	頁岩	剥片	29.8	15.0	6.2	3.20	⑦			写真	59+176 ／節理割れ
	190	黒曜石	砕片	6.5	6.0	0.8	0.03		線	無	×	
第 13 図 3	193	黒曜石	ナイフ形石器	4.4	2.3	1.4	8.10		欠	無	○	切出形／衝撃剥離
	194-1	黒曜石	剥片	5.9	11.7	2.2	0.13		礫	有	×	末端部欠
	194-2	黒曜石	剥片	9.9	5.4	3.0	0.17		線	有	×	
第 17 図 19	195	安山岩	剥片	1.9	2.6	0.6	1.70	③	単		○	117+195
	196	安山岩	砕片	7.5	4.1	2.3	0.05		欠	無	×	縦割れ
	197	安山岩	剥片	15.5	16.0	3.8	0.80		単	無	×	
	199	黒曜石	砕片	4.9	6.4	0.6	0.03		欠	無	×	
	200	黒曜石	剥片	35.7	27.1	13.1	9.90		欠	無	×	
	201	黒曜石	剥片	15.0	18.7	5.0	1.00		単	無	×	
	203	黒曜石	剥片	14.3	7.2	2.6	0.26		単	無	×	
	206	黒曜石	剥片	20.3	15.7	4.2	0.70		欠	無	×	
	207	黒曜石	砕片	8.4	7.0	1.6	0.08		単	無	×	
	208	黒曜石	剥片	13.1	14.8	2.9	0.40		礫	有	×	
	209	黒曜石	剥片	10.4	7.9	1.8	0.10		線	無	×	
	422	黒曜石	砕片	6.1	5.0	1.6	0.05		単	無	×	縦割れ
	426	黒曜石	砕片	5.9	8.0	5.2	0.21		欠	有	×	
	440	黒曜石	剥片	24.0	28.5	7.2	3.40		欠	無	×	
	446	黒曜石	剥片	11.8	26.3	3.7	0.70		単	無	×	
	448	黒曜石	剥片	10.0	13.4	2.7	0.17		欠	無	×	
	449	黒曜石	剥片	7.6	10.8	5.4	0.33		線	有	×	
	450	黒曜石	砕片	7.6	7.0	1.4	0.09		線	有	×	
	451	黒曜石	剥片	5.8	8.7	2.2	0.09		欠	無	×	末端部欠
	453	黒曜石	剥片	14.9	6.2	5.7	0.39		欠	有	×	縦割れ
	454	黒曜石	剥片	11.1	6.2	3.5	0.27		欠	有	×	
	459	黒曜石	剥片	19.6	9.6	4.8	0.60		欠	無	×	縦割れ
第 17 図 17	460	黒曜石	剥片	4.7	2.3	1.7	16.00	②	欠	無	○	112+460 ／原石破砕
	463	黒曜石	剥片	12.3	6.6	3.8	0.23		欠	無	×	
第 14 図 9	464	チャート	剥片	32.5	21.0	7.0	3.40		礫	有	○	
	465	黒曜石	剥片	14.0	10.4	3.0	0.41		欠	無	×	
	466	黒曜石	砕片	5.3	8.1	1.6	0.08		複	無	×	縦割れ
第 14 図 10	467	チャート	剥片	59.5	41.2	10.8	21.90		単	無	○	
	469	黒曜石	剥片	14.3	18.3	2.8	0.45		線	無	×	
	471	黒曜石	剥片	9.5	15.2	3.0	0.22		単	無	×	
	472	チャート	剥片	25.3	12.0	4.9	1.00		単	無	×	
	473	チャート	剥片	23.6	14.2	5.2	1.70		欠	無	×	
	474	黒曜石	砕片	5.3	7.1	2.7	0.09		欠	有	×	

第５表　９号石器集中地点出土石器（２）

挿図番号	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
第19図1	1	チャート	石核	113.3	84.4	64.0	799.80				○	
第20図3	2	頁岩	石核	9.4	6.3	2.5	178.30	①			○	2+3+12+52
第20図4	3	頁岩	二次加工ある剥片	4.9	4.1	1.2	25.00	①			○	2+3+12+52
	4	チャート	砕片	9.1	4.4	2.4	0.10		欠	無	×	
	5	チャート	剥片	12.9	13.5	1.5	0.30		欠	無	×	
	6	チャート	剥片	24.4	14.2	5.4	1.90		単	無	×	
	7	チャート	剥片	10.2	7.7	1.1	0.07		欠	無	×	
	8	チャート	剥片	12.7	10.3	1.5	0.20		欠	無	×	
	9	チャート	剥片	15.1	14.9	1.7	0.30		線	無	×	
	10	チャート	剥片	7.1	11.0	2.0	0.12		線	無	×	
	11	チャート	剥片	8.9	8.7	2.1	0.10		欠	無	×	
第20図5	12	頁岩	剥片	2.6	3.5	0.8	4.30	①			○	2+3+12+52
	13	チャート	剥片	11.4	4.6	1.5	0.07		単	無	×	
	15	チャート	剥片	9.0	14.0	1.8	0.20		単	無	×	
	16	チャート	剥片	13.5	24.6	8.1	2.20		欠	無	×	
	17	チャート	剥片	12.3	10.0	1.4	0.10		欠	無	×	
	18	チャート	剥片	13.8	11.3	1.3	0.20		点	無	×	
	19	チャート	剥片	22.7	14.2	3.0	0.90		欠	無	×	
	20	チャート	剥片	11.9	7.6	1.8	0.10		複	無	×	
	21	チャート	砕片	7.9	6.6	3.0	0.17		欠	有	×	
	22	チャート	剥片	12.2	11.2	2.3	0.30		複	無	×	下半部欠
	23	チャート	剥片	5.2	9.9	2.3	0.10		単	無	×	
	24	チャート	砕片	5.6	8.1	2.0	0.04		欠	無	×	
	25	チャート	剥片	12.9	8.0	2.5	0.20		複	無	×	末端部欠／縦割れ
	26	チャート	剥片	15.6	12.6	1.8	0.30		複	無	×	末端部欠
	27	チャート	砕片	6.9	8.3	1.6	0.08		単	無	×	
第19図2	29	チャート	剥片	17.8	11.8	4.5	1.00		複	無	○	調整剥片
	30	頁岩	剥片	31.6	13.1	3.9	1.60		単	無	×	
	31	チャート	剥片	12.9	9.5	2.6	0.20		欠	無	×	末端部欠
	32	チャート	剥片	13.8	20.1	3.2	0.80		欠	無	×	
	33	チャート	剥片	10.8	6.2	4.3	0.21		欠	無	×	
	34	チャート	剥片	12.2	13.7	3.2	0.40		欠	無	×	
	35	チャート	剥片	8.3	12.4	2.2	0.21		欠	無	×	
	36	チャート	砕片	5.1	7.5	1.3	0.03		線	無	×	
	37	チャート	砕片	9.5	7.2	2.0	0.06		線	無	×	
	38	チャート	砕片	5.4	8.5	1.4	0.07		欠	無	×	
	39	チャート	剥片	9.8	5.4	2.6	0.10		欠	有	×	
	40	チャート	剥片	23.0	10.1	5.1	1.00		欠	無	×	
	41	チャート	砕片	4.6	5.9	1.9	0.05		線	無	×	
	42	チャート	剥片	11.5	4.6	1.4	0.07		単	無	×	縦割れ
	43	チャート	剥片	7.7	9.6	1.7	0.08		欠	無	×	
	44	チャート	剥片	11.3	7.1	0.8	0.08		欠	無	×	
	45	チャート	剥片	23.8	12.9	4.7	1.20		欠	無	×	
	46	チャート	剥片	22.0	10.1	3.2	0.40		単	無	×	
	47	チャート	剥片	18.4	11.6	3.0	0.40		線	無	×	
	48	チャート	剥片	9.2	6.9	1.7	0.12		複	無	×	
	49	チャート	剥片	12.5	9.6	1.2	0.14		欠	無	×	
	50	チャート	砕片	3.9	5.4	0.6	0.05		欠	無	×	
	51	チャート	剥片	10.3	7.6	3.0	0.22		礫	有	×	
第20図6	52	頁岩	剥片	2.8	4.2	0.8	9.80	①			○	2+3+12+52

第６表　10号石器集中地点出土石器

挿図番号	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
第23図1	476	チャート	ナイフ形石器	2.9	1.3	0.7	2.10				○	
	477	チャート	剥片	21.3	19.3	2.9	1.60		複	無	×	
	478	チャート	剥片	31.4	29.2	6.8	4.60		単	有	×	
	479	チャート	剥片	59.2	32.9	15.6	21.40		欠	無	×	
第23図3	480	チャート	剥片	53.5	50.1	23.0	43.00		単	有	○	
	481	チャート	剥片	16.0	8.6	7.3	0.62		欠	有	×	
第25図7	482	チャート	剥片	5.6	4.3	2.5	33.40	①			○	482+503+520+522+558
	483	チャート	剥片	26.1	18.4	3.7	1.50		欠	無	×	
第23図4	484	チャート	剥片	55.8	48.3	18.9	26.20		単	有	○	
	485	チャート	剥片	20.1	11.5	5.3	0.90		欠	無	×	
	486	チャート	剥片	10.4	11.2	4.1	0.31		欠	無	×	

第７表　11号石器集中地点出土石器（１）

挿図番号	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
	487	チャート	剥片	6.9	21.8	6.0	0.40		単	無	×	
	488	チャート	剥片	23.9	27.8	3.8	2.70		欠	無	×	調整剥片／縦割れ
	489	チャート	剥片	18.8	6.4	2.5	0.20		欠	無	×	
	490	チャート	剥片	30.8	24.9	15.2	8.60		欠	有	×	
	491	チャート	剥片	15.3	10.6	1.9	0.24		欠	無	×	
	492	チャート	剥片	20.6	18.6	5.1	2.00		欠	有	×	
	493	チャート	剥片	29.8	24.1	11.3	5.20		単	無	×	調整剥片
	494	チャート	剥片	32.4	12.4	4.3	1.20		欠	無	×	
	495	チャート	砕片	7.0	6.7	2.6	0.10		複	無	×	
第 23 図 5	497	チャート	剥片	36.1	16.8	5.7	3.40		単	無	○	
	498	チャート	砕片	9.4	6.4	1.3	0.06		点	無	×	
	499	チャート	剥片	12.9	13.8	4.6	0.48		欠	無	×	
	501	チャート	砕片	7.3	5.8	1.7	0.08		欠	無	×	
	502	チャート	剥片	11.7	12.4	4.1	0.43		礫	有	×	
第 25 図 8	503	チャート	剥片	4.3	4.3	1.5	24.20	①			○	482+503+520+522+558
第 23 図 2	504	チャート	楔形石器	1.1	0.9	0.6	0.83				○	
	505	チャート	砕片	4.5	3.1	3.4	0.08		欠	有	×	
	506	チャート	剥片	20.5	14.1	3.7	0.70		単	無	×	
	507	チャート	砕片	3.7	9.5	1.6	0.06		欠	無	×	
	508	頁岩	剥片	40.0	48.9	9.2	17.90		単	無	×	黒色頁岩
	511	チャート	剥片	12.2	15.3	5.3	1.00		単	無	×	下半部欠
	512	チャート	剥片	14.2	9.6	2.7	0.31		欠	無	×	
	513	チャート	剥片	13.2	10.4	1.7	0.24		単	無	×	
第 23 図 6	514	チャート	剥片	49.5	11.5	8.1	3.40		欠	無	○	
	515	チャート	剥片	16.0	27.7	7.3	2.20		欠	無	×	
	516	チャート	剥片	12.7	6.8	2.7	0.28		欠	無	×	縦割れ
	517	頁岩	剥片	55.9	24.8	10.6	12.70		欠	無	×	石刃
	518	チャート	砕片	9.1	5.9	2.8	0.15		線	無	×	
	519	チャート	剥片	10.3	5.0	3.6	0.17		礫	有	×	
第 25 図 11	520	チャート	剥片	3.7	2.2	1.6	11.10	①			○	482+503+520+522+558
	521	チャート	砕片	7.3	6.3	1.2	0.04		線	無	×	
第 25 図 9	522	チャート	剥片	3.5	1.4	1.0	2.60	①			○	482+503+520+522+558
	523	チャート	剥片	7.2	11.7	2.8	0.14		単	無	×	
	524	チャート	砕片	8.0	9.2	1.7	0.08		線	無	×	
	525	チャート	剥片	33.8	23.2	2.7	2.10		欠	無	×	
	526	チャート	砕片	6.6	9.3	2.7	0.12		礫	有	×	
	527	チャート	剥片	11.6	6.2	1.8	0.10		単	無	×	
	528	チャート	剥片	26.7	11.2	3.5	0.90		欠	無	×	
	529	チャート	剥片	11.0	15.8	3.7	0.37		線	無	×	
	530	チャート	剥片	14.2	17.5	5.1	1.20		欠	有	×	縦割れ
	532	チャート	剥片	20.3	39.9	17.3	14.40		欠	有	×	
	533	チャート	剥片	14.1	7.0	3.9	0.44		欠	有	×	
	535	チャート	剥片	15.9	17.7	6.2	1.00		単	無	×	
	544	チャート	剥片	33.9	16.0	5.7	2.40		欠	無	×	
	549	チャート	剥片	23.8	14.2	7.3	1.30		欠	無	×	
	551	チャート	剥片	21.3	12.0	2.5	0.70		欠	無	×	
	552	チャート	剥片	10.8	3.3	2.7	0.09		点	無	×	縦割れ
	553	チャート	剥片	18.9	20.6	3.1	0.80		複	無	×	
	554	チャート	剥片	21.2	11.6	7.2	0.90		礫	有	×	
	555	チャート	剥片	25.2	17.4	2.8	1.30		線	無	×	
	556	チャート	砕片	6.9	6.4	1.6	0.06		欠	無	×	
	557	チャート	剥片	12.8	8.4	2.2	0.18		欠	無	×	
第 25 図 10	558	チャート	剥片	1.6	2.4	0.6	1.80	①			○	482+503+520+522+558
	559	チャート	剥片	18.3	22.8	4.5	1.80		単	無	×	
	560	チャート	剥片	10.3	10.0	5.0	0.41		礫	有	×	
	561	チャート	剥片	25.7	11.9	5.4	0.90		欠	無	×	縦割れ
	562	チャート	剥片	8.7	10.0	3.5	0.20		欠	無	×	
	563	チャート	剥片	17.5	25.7	7.8	3.30		欠	無	×	
	564	チャート	剥片	21.1	17.9	7.1	1.70		欠	有	×	
	531-1	黒曜石	砕片	6.8	2.4	2.0	0.04		欠	無	×	
	531-2	黒曜石	砕片	3.4	4.3	1.7	0.06		単	無	×	

第７表　11 号石器集中地点出土石器（２）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
55	10礫	砂岩	15.4	27.0	15.1	11.30	D	○	×	○	×		
56	10礫	砂岩	24.9	28.8	32.3	27.90	D	○	×	○	×	27	
57	10礫	砂岩	18.8	14.3	9.6	2.60	E	○	×	○	×		
58	10礫	砂岩	17.9	14.0	22.7	6.20	D	○	×	○	×		
60	10礫	砂岩	20.2	12.5	8.2	2.10	E	×	×	×	×		
61	10礫	砂岩	10.4	17.4	22.9	6.70	D	○	×	○	×	22	
62	10礫	砂岩	15.6	13.0	12.5	1.90	E	○	×	○	×		
63	10礫	砂岩	15.7	14.1	7.6	2.10	E	○	×	○	×		
64	10礫	砂岩	18.9	34.4	19.0	25.60	D	○	×	○	×	25	
65	10礫	砂岩	38.8	12.7	5.7	2.40	E	○	×	○	×		
66	10礫	砂岩	15.4	5.3	11.4	1.00	E	○	×	○	×		
67	10礫	チャート	20.9	15.0	12.1	4.70	D	○	×	○	×		
68	10礫	砂岩	15.0	7.0	7.6	0.50	E	○	×	○	×		
69	10礫	砂岩	7.2	8.7	6.4	0.42	E	○	×	○	×		
76	10礫	砂岩	48.7	18.8	9.0	7.10	D	○	×	○	○	45	
79	10礫	砂岩	43.4	23.0	11.0	6.80	D	○	×	○	×	46	
80	10礫	砂岩	46.4	20.2	16.1	15.50	D	○	○	○	×		
82	10礫	砂岩	23.3	16.4	3.7	1.10	E	○	○	○	×		
85	10礫	砂岩	19.0	14.3	2.6	0.50	E	○	×	○	×	46	
106	10礫	チャート	21.8	20.5	10.8	4.20	E	○	×	○	×		
108	10礫	砂岩	18.7	3.8	6.8	0.40	E	○	×	×	×		
123	10礫	砂岩	23.6	7.5	10.4	2.20	E	○	×	○	×		
124	10礫	チャート	16.4	15.5	10.5	2.20	E	○	×	○	×		
125	10礫	砂岩	20.7	14.5	12.0	3.40	C	×	×	×	×		
126	10礫	砂岩	6.9	12.5	16.1	1.30	E	×	×	×	×		
132	10礫	砂岩	20.9	24.2	5.8	3.30	E	×	×	×	×		
133	10礫	砂岩	55.4	39.7	28.2	50.30	D	○	×	○	×	36	
134	10礫	砂岩	-	-	-	16.70	E	×	×	×	×		小片計測不能
141	10礫	チャート	18.5	11.8	10.1	2.00	E	○	×	○	×		
142	10礫	チャート	25.9	21.2	15.4	9.00	D	○	×	○	×		
145	10礫	砂岩	19.2	16.3	6.0	2.60	C	×	×	×	×		
152	10礫	砂岩	29.6	14.9	4.6	2.30	E	○	○	○	×		
154	10礫	チャート	30.6	19.9	15.6	11.70	D	○	×	○	×		
155	10礫	チャート	23.6	14.5	12.0	2.50	E	○	×	○	×		
161	10礫	砂岩	2.4	14.6	9.9	0.40	E	○	×	×	×		
172	10礫	砂岩	32.7	36.5	15.7	22.60	D	○	×	○	×	38	
173	10礫	砂岩	29.7	41.4	24.0	33.00	D	○	○	○	○	35	
174	10礫	チャート	24.9	26.6	12.8	6.10	D	×	×	×	×		
175	10礫	砂岩	10.8	21.8	24.9	5.40	E	○	×	○	×		
178	10礫	チャート	25.7	19.9	8.5	5.60	D	○	×	○	×		
179	10礫	チャート	30.0	22.8	12.5	7.30	D	○	×	○	×		
180	10礫	砂岩	44.1	20.2	18.0	15.60	D	○	×	○	×	36	
181	10礫	砂岩	31.1	9.6	9.6	2.30	D	○	×	○	○		
182	10礫	砂岩	27.5	20.3	10.7	6.50	D	○	×	○	×	24	
183	10礫	砂岩	31.4	29.7	17.4	12.60	D	○	×	○	×	40	
184	10礫	砂岩	35.4	26.0	8.6	8.50	D	○	×	×	×		
185	10礫	砂岩	17.9	16.3	6.8	1.70	E	×	×	×	×		
186	10礫	チャート	29.2	30.5	13.5	8.30	D	○	×	○	×		
187	10礫	砂岩	33.3	23.4	17.3	16.30	D	○	×	○	×		
188	10礫	チャート	35.3	31.1	19.1	19.00	D	○	×	○	×	3	
189	10礫	砂岩	33.8	16.2	10.8	3.90	E	○	○	○	×	25	
191	10礫	砂岩	25.4	19.0	18.7	6.40	E	○	×	×	○	35	
192	10礫	砂岩	28.5	25.0	8.3	4.70	D	○	×	○	×	37	
198	10礫	砂岩	28.0	8.8	4.1	1.10	E	○	×	○	×		
202	10礫	砂岩	14.6	6.3	2.4	0.24	E	○	×	×	×		
204	10礫	砂岩	16.4	6.8	5.0	0.56	E	○	×	○	×		
205	10礫	砂岩	35.5	29.1	13.4	14.80	D	×	×	×	×		
210	10礫	砂岩	86.1	35.8	40.6	153.30	C	○	○	○	×	14	
211	10礫	砂岩	110.8	67.5	38.3	326.00	A	×	×	-	-		
212	10礫	砂岩	61.3	51.1	22.7	66.20	D	○	×	○	×		
213	10礫	砂岩	67.7	48.3	27.3	100.10	A	○	×	-	-		
214	10礫	砂岩	-	-	-	22.70	E	×	×	×	×		小片計測不能
215	10礫	砂岩	65.0	29.4	17.8	23.20	D	○	×	○	○		
216	10礫	砂岩	59.4	47.0	33.2	110.40	A	×	×	-	-		
217	10礫	砂岩	83.4	50.9	31.8	144.30	C	×	×	×	×		
218	10礫	砂岩	88.8	41.3	25.0	108.80	C	○	○	○	×	14	
219	10礫	砂岩	60.4	32.4	18.3	34.30	D	×	×	×	×		

第８表　10号礫群出土礫属性表（１）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
220	10礫	砂岩	108.6	102.7	57.1	935.00	A	×	×	-	-		
221	10礫	砂岩	39.2	35.6	16.8	37.20	D	○	×	○	×	43	
222	10礫	砂岩	51.0	35.9	26.9	47.30	D	○	×	○	×	27	
223	10礫	砂岩	59.4	29.7	39.5	89.60	C	○	○	○	×		
224	10礫	砂岩	66.7	53.9	24.8	94.50	D	○	×	○	×	36	
225	10礫	砂岩	33.6	34.6	14.6	18.70	D	○	×	○	×		
226	10礫	砂岩	31.9	21.2	30.2	14.00	D	○	×	○	×	29	
227	10礫	砂岩	98.3	96.9	50.6	416.90	C	○	○	○	○	29	
228	10礫	砂岩	52.6	44.8	22.5	47.80	D	○	×	○	○	15	
229	10礫	砂岩	49.3	47.0	37.7	110.70	D	○	×	○	×	34	
230	10礫	砂岩	34.0	41.7	20.4	42.30	D	○	×	○	×	34	
231	10礫	砂岩	39.5	45.8	32.9	71.70	D	○	○	○	○	34	
232	10礫	チャート	23.9	24.8	8.9	6.00	D	○	×	○	×		
233	10礫	砂岩	52.4	20.3	30.6	31.70	D	○	×	○	×	38	
234	10礫	砂岩	67.0	47.9	25.7	74.40	D	○	○	○	×	21	
235	10礫	砂岩	51.1	29.1	11.8	24.90	D	○	×	○	×	38	
236	10礫	チャート	63.4	46.0	27.3	66.00	D	○	×	○	×	5	
237	10礫	砂岩	35.7	26.1	35.5	37.50	D	○	○	○	×	36	
238	10礫	砂岩	31.6	27.7	34.2	26.70	D	○	○	○	○	34	
239	10礫	砂岩	36.8	23.1	18.5	22.30	D	○	×	○	×	12	
240	10礫	チャート	44.3	33.4	19.4	30.10	E	○	×	○	×	5	
241	10礫	砂岩	35.3	38.9	26.6	44.90	D	○	×	○	×	42	
242	10礫	砂岩	45.5	28.3	19.9	13.30	D	×	×	×	×		
243	10礫	砂岩	60.9	40.4	23.8	46.60	D	○	○	○	×	15	
244	10礫	砂岩	97.5	71.6	30.9	179.00	D	○	×	○	×	26	
245	10礫	砂岩	173.3	103.6	60.2	857.00	C	○	×	○	×	26	
246	10礫	砂岩	41.3	24.0	15.5	29.30	D	○	×	○	×	28	
247	10礫	砂岩	25.6	57.6	29.9	13.90	D	○	×	○	×	26	
248	10礫	砂岩	86.5	67.2	43.3	280.40	C	○	○	○	○	28	
249	10礫	砂岩	52.8	42.6	22.7	28.90	D	○	○	○	×	28	
250	10礫	砂岩	81.2	66.5	23.8	138.80	C	○	○	○	×	15	
251	10礫	砂岩	66.3	37.4	27.0	56.20	D	○	○	○	×		
252	10礫	砂岩	82.4	74.3	28.4	153.50	C	○	○	○	×		
253	10礫	砂岩	50.2	39.4	30.1	56.60	D	○	×	○	×		
254	10礫	砂岩	62.8	46.9	17.4	45.80	D	×	×	×	×		
255	10礫	砂岩	34.9	26.5	14.6	10.60	D	○	○	○	○		
256	10礫	チャート	41.9	21.4	16.0	17.00	D	○	×	○	×	5	
257	10礫	砂岩	26.6	24.6	17.5	14.30	D	○	×	○	×	34	
258	10礫	砂岩	70.3	38.8	24.6	50.50	D	○	×	○	×	26	
259	10礫	砂岩	43.9	23.6	13.2	12.10	D	○	○	○	×		
260	10礫	砂岩	56.1	23.8	12.2	15.20	D	○	×	×	×	44	
261	10礫	砂岩	56.3	35.6	10.8	17.60	D	○	×	×	×	44	
262	10礫	砂岩	60.0	25.6	24.3	158.60	C	○	○	○	×	20	
263	10礫	砂岩	81.7	68.4	45.9	359.20	A	×	×	-	-		
264	10礫	砂岩	39.9	29.7	34.8	48.20	A	○	○	×	×		
265	10礫	砂岩	59.8	29.3	29.9	51.30	D	○	×	○	×	18	
266	10礫	チャート	36.6	25.6	23.1	29.60	D	○	○	○	○	4	
267	10礫	砂岩	52.7	42.5	17.0	44.80	D	○	×	○	×	22	
268	10礫	砂岩	50.2	57.9	31.2	84.60	D	○	×	○	×	10	
269	10礫	砂岩	-	-	-	71.60	E	×	×	×	×		小片計測不能
270	10礫	砂岩	71.4	57.1	33.9	158.60	C	○	○	○	×	10	
271	10礫	砂岩	35.4	28.3	18.2	29.30	D	○	×	○	×	35	
272	10礫	砂岩	76.7	57.0	43.6	219.30	A	○	○	-	-		
273	10礫	砂岩	-	-	-	38.00	E	×	×	×	×		小片計測不能
274	10礫	砂岩	76.1	52.5	36.1	160.60	C	○	○	○	×	16	
275	10礫	砂岩	52.9	36.1	26.6	52.40	D	○	○	○	○	35	
276	10礫	砂岩	50.5	50.9	8.8	26.50	D	○	×	○	×	22	
277	10礫	砂岩	35.2	36.7	17.8	21.70	D	○	×	○	×	37	
278	10礫	砂岩	40.9	44.5	25.5	36.10	D	○	×	○	×	36	
279	10礫	砂岩	55.7	33.0	21.0	37.20	D	○	×	○	×	21	
280	10礫	砂岩	39.2	17.5	5.9	4.00	D	○	×	○	×	30	
281	10礫	砂岩	98.5	41.4	30.0	176.70	A	○	○	-	-		
282	10礫	砂岩	41.2	23.8	15.3	14.70	D	○	×	○	×	27	
283	10礫	砂岩	77.5	28.6	14.4	27.40	D	○	×	○	×	37	
284	10礫	砂岩	53.2	20.6	18.3	37.00	D	○	×	○	×	22	
285	10礫	チャート	54.9	33.7	27.5	47.00	D	○	○	○	○	2	
286	10礫	砂岩	104.5	74.9	36.1	331.20	B	○	○	○	×		

第８表　10号礫群出土礫属性表（２）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
287	10礫	砂岩	48.8	32.7	28.5	42.10	D	○	○	○	○	35	
288	10礫	砂岩	29.2	32.8	31.7	38.40	D	○	×	○	○	37	
289	10礫	砂岩	57.8	23.0	19.6	21.20	D	○	×	○	×	37	
290	10礫	砂岩	51.9	59.2	19.7	61.20	D	○	×	○	×	22	
291	10礫	砂岩	47.6	37.7	30.1	48.60	D	○	×	○	×		
292	10礫	砂岩	67.5	52.9	28.2	63.50	D	○	○	○	○	19	
293	10礫	砂岩	56.1	47.1	14.2	45.70	D	○	×	○	×	22	
294	10礫	砂岩	48.6	24.4	13.5	18.30	D	○	×	○	×	33	
295	10礫	砂岩	35.4	25.4	17.1	18.10	D	○	×	○	×	22	
296	10礫	砂岩	50.2	29.3	31.2	45.70	D	○	×	○	×	17	
297	10礫	砂岩	79.7	47.1	35.7	167.60	D	○	×	○	×	30	
298	10礫	砂岩	31.0	30.2	15.7	17.30	D	○	×	○	×		
299	10礫	砂岩	66.1	42.7	27.0	84.70	D	○	×	○	×	31	
300	10礫	砂岩	73.9	34.0	24.3	57.30	D	○	×	○	×	31	
301	10礫	砂岩	45.5	38.8	22.1	38.20	D	○	×	○	×	31	
302	10礫	砂岩	49.6	37.8	23.1	37.00	D	○	×	○	○	31	
303	10礫	砂岩	61.3	46.6	25.3	104.10	C	○	×	○	×	13	
304	10礫	砂岩	96.3	49.2	20.1	93.60	C	○	○	○	○	30	
305	10礫	砂岩	120.5	88.6	58.6	814.40	B	○	○	○	○	24	
306	10礫	砂岩	58.8	46.0	21.4	49.90	D	○	×	○	×	31	
307	10礫	砂岩	43.1	45.9	25.7	58.00	D	○	×	○	×	35	
308	10礫	砂岩	28.8	21.6	14.9	9.30	D	○	○	○	○		
309	10礫	砂岩	50.5	48.0	27.6	41.30	D	○	○	○	×	25	
310	10礫	砂岩	52.9	40.4	16.3	27.00	D	○	×	○	×	31	
311	10礫	砂岩	51.5	41.2	32.7	73.00	D	○	×	○	×	13	
312	10礫	砂岩	73.4	17.6	59.2	78.60	D	○	×	○	×	16	
313	10礫	砂岩	74.2	71.0	40.4	172.20	D	○	○	○	○	36	
314	10礫	砂岩	62.3	51.4	28.2	96.60	D	○	○	○	○	24	
315	10礫	砂岩	54.2	36.1	30.0	63.30	D	○	○	○	○	32	
316	10礫	砂岩	62.7	39.0	22.7	49.40	D	○	○	○	×	30	
317	10礫	砂岩	38.6	28.1	10.2	8.90	D	○	×	○	×	37	
318	10礫	砂岩	29.4	19.9	11.4	7.40	D	○	×	○	×	37	
319	10礫	砂岩	51.2	52.5	31.8	78.90	D	○	○	○	○	35	
320	10礫	砂岩	57.4	29.8	29.0	39.20	D	○	×	×	×	35	
321	10礫	砂岩	56.2	18.6	13.4	14.20	D	○	×	○	×	31	
322	10礫	砂岩	44.7	42.1	15.7	30.40	D	○	×	○	×	13	
323	10礫	チャート	34.0	31.6	24.2	28.00	D	○	×	○	×	1	
324	10礫	チャート	17.8	22.6	14.0	5.30	D	○	×	○	×	1	
325	10礫	砂岩	63.1	38.5	22.0	37.30	D	○	×	○	×	30	
326	10礫	砂岩	46.4	31.0	14.8	17.00	D	○	×	○	×		
327	10礫	砂岩	36.2	20.1	12.4	14.20	D	○	×	○	×	38	
328	10礫	砂岩	72.9	69.3	49.2	225.80	A	○	○	-	-		
329	10礫	砂岩	46.6	36.2	15.7	25.10	D	○	×	○	×	11	
330	10礫	砂岩	88.4	66.6	43.1	232.90	C	○	○	○	○	19	
331	10礫	砂岩	52.2	30.0	20.9	47.20	D	○	×	○	○	38	
332	10礫	砂岩	91.2	55.2	36.1	225.40	A	○	○	-	-		
333	10礫	砂岩	96.8	51.9	48.0	301.70	A	○	○	-	-		
334	10礫	砂岩	54.9	41.5	22.3	53.00	D	○	○	○	○	38	
335	10礫	砂岩	77.3	73.2	48.9	280.90	C	○	○	○	○	21	
336	10礫	砂岩	15.6	50.6	48.9	38.50	D	○	○	○	×	38	
337	10礫	砂岩	24.8	51.3	31.5	256.60	B	○	○	×	×		
338	10礫	砂岩	76.0	69.0	52.7	225.50	C	○	○	○	×		
339	10礫	砂岩	112.4	59.1	26.6	215.50	C	○	○	○	○	33	
340	10礫	砂岩	48.4	61.2	31.3	124.40	C	○	○	○	○	25	
341	10礫	チャート	41.1	31.3	28.9	30.20	D	○	×	○	×	3	
342	10礫	チャート	42.6	35.6	34.8	75.90	D	○	×	○	×		
343	10礫	砂岩	49.4	29.4	21.3	22.50	D	○	×	○	×	35	
344	10礫	砂岩	80.6	59.7	41.6	208.70	C	○	×	○	×		
345	10礫	砂岩	56.0	41.8	35.4	110.30	D	○	○	○	○	27	
346	10礫	砂岩	49.7	40.0	34.3	51.10	D	×	×	×	×	39	
347	10礫	砂岩	113.9	77.6	58.7	507.00	A	○	○	-	-		
348	10礫	砂岩	29.7	50.8	22.3	47.40	D	○	○	○	×	27	
349	10礫	砂岩	50.7	55.0	30.6	122.20	D	○	×	○	○	27	
350	10礫	チャート	32.7	21.5	16.1	13.50	D	○	×	○	×	6	
351	10礫	砂岩	69.2	34.9	22.3	58.30	D	○	○	×	×	30	
352	10礫	砂岩	71.7	46.5	23.3	67.90	D	○	×	○	×	11	
353	10礫	砂岩	71.7	55.6	39.5	224.30	A	○	×	-	-		

第８表　10号礫群出土礫属性表（３）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
354	10礫	砂岩	79.0	38.5	23.3	68.50	C	○	×	○	×	11	
355	10礫	チャート	33.5	27.3	12.3	10.10	D	○	×	○	×	4	
356	10礫	砂岩	65.8	20.9	22.4	42.10	D	○	○	○	○	18	
357	10礫	チャート	44.9	38.1	31.7	46.30	D	×	×	○	×	1	
358	10礫	砂岩	55.4	28.7	33.3	58.60	D	○	×	○	×		
359	10礫	砂岩	68.5	25.2	25.5	57.10	D	○	○	○	○	18	
360	10礫	チャート	90.7	63.0	48.5	429.80	A	○	×	-	-		
361	10礫	砂岩	56.5	50.7	44.2	109.70	D	○	×	○	×	41	
362	10礫	砂岩	65.8	33.9	17.8	35.20	D	○	○	○	×	45	
363	10礫	砂岩	42.0	30.7	20.6	30.20	D	○	×	○	×	35	
364	10礫	砂岩	60.3	35.2	33.0	86.90	D	○	○	○	×	40	
365	10礫	砂岩	23.1	30.5	22.9	13.70	D	○	×	○	×	42	
366	10礫	砂岩	60.4	39.9	25.0	77.00	D	○	○	○	○	9	
367	10礫	砂岩	27.1	55.1	38.0	65.50	D	○	×	○	○	9	
368	10礫	砂岩	42.2	66.4	35.1	84.20	D	○	×	○	×	23	
369	10礫	砂岩	65.6	30.4	32.9	76.10	D	○	○	○	○	12	
370	10礫	砂岩	40.9	63.7	38.5	151.20	D	○	○	○	○		
371	10礫	砂岩	61.1	26.3	28.2	54.40	D	○	×	○	○	12	
373	10礫	砂岩	43.6	30.0	27.6	50.90	D	○	×	○	×	23	
374	10礫	チャート	47.5	41.2	12.7	28.40	D	○	×	○	○		
375	10礫	砂岩	65.2	47.7	33.3	81.50	D	○	×	○	×	16	
376	10礫	砂岩	57.0	32.8	39.6	72.00	D	○	×	○	×	12	
377	10礫	チャート	74.5	68.0	36.8	235.40	A	○	○	-	-		
378	10礫	チャート	72.0	56.4	42.2	226.50	B	○	○	○	○	2	
379	10礫	チャート	72.7	56.7	44.0	252.60	B	○	×	○	×		
380	10礫	砂岩	77.1	66.6	55.7	235.40	C	○	○	○	○	12	
381	10礫	チャート	49.7	33.7	22.8	54.60	D	○	×	○	×	01	
382	10礫	チャート	83.4	43.3	44.4	130.00	D	○	×	○	×	05	
383	10礫	チャート	40.7	44.4	27.1	43.80	D	○	×	○	×	05	
384	10礫	チャート	51.4	47.8	39.2	125.80	B	○	×	○	×		
385	10礫	砂岩	27.2	23.1	12.2	7.30	D	○	×	○	×	27	
386	10礫	砂岩	47.8	42.6	20.8	39.30	D	○	×	○	×	27	
387	10礫	砂岩	49.0	28.1	15.5	19.30	D	○	○	○	×	27	
388	10礫	チャート	40.5	27.9	23.8	27.90	D	○	×	○	×	2	
389	10礫	砂岩	37.6	29.2	17.8	18.90	D	○	×	○	○	32	
390	10礫	砂岩	39.5	32.6	16.1	26.10	D	○	×	○	×	43	
391	10礫	砂岩	42.5	14.4	5.9	3.10	E	○	×	×	×	30	
392	10礫	チャート	60.1	42.3	29.2	97.40	D	○	×	○	×	06	
393	10礫	砂岩	56.1	39.0	18.0	65.80	D	○	×	○	○	40	
394	10礫	チャート	20.1	43.0	37.1	40.00	D	○	×	○	×	6	
395	10礫	砂岩	45.1	44.1	30.0	64.10	D	×	×	×	×	23	
396	10礫	砂岩	84.5	65.5	25.8	184.70	A	○	×	-	-		
397	10礫	砂岩	44.7	58.3	26.6	85.00	D	○	×	○	×	17	
398	10礫	砂岩	56.0	60.9	29.8	131.40	D	○	×	○	×	17	
399	10礫	砂岩	69.0	40.6	27.1	65.70	D	○	○	○	○	33	
400	10礫	砂岩	75.6	61.3	43.4	224.00	A	○	×	-	-		
401	10礫	チャート	71.4	53.2	35.2	92.00	D	×	×	×	×	6	
402	10礫	砂岩	63.4	35.6	25.1	71.20	D	○	○	○	○	37	
403	10礫	砂岩	100.2	49.3	29.2	192.50	A	○	○	-	-		
404	10礫	砂岩	90.3	64.7	24.3	195.40	B	○	×	○	×		
405	10礫	砂岩	73.8	63.7	40.5	220.70	C	○	○	○	-		
406	10礫	砂岩	65.1	40.1	27.3	64.30	D	○	○	○	○	32	
407	10礫	チャート	48.3	35.9	18.4	33.40	D	○	×	○	×	06	
408	10礫	砂岩	42.0	26.0	20.6	18.50	D	○	×	○	×	22	
409	10礫	砂岩	17.3	32.6	25.0	14.90	D	○	×	○	×	35	
410	10礫	砂岩	57.8	40.5	20.6	47.50	D	○	×	○	×	22	
411	10礫	砂岩	49.4	68.3	33.1	111.10	D	○	○	○	○	22	
412	10礫	砂岩	80.0	31.9	27.6	67.40	D	○	×	○	×	22	
413	10礫	砂岩	77.0	70.4	37.2	155.60	D	○	○	○	○		
414	10礫	砂岩	63.4	34.0	15.5	31.50	D	○	×	×	×	20	
415	10礫	砂岩	47.4	33.2	16.5	22.10	D	○	×	○	×	36	
416	10礫	砂岩	45.6	51.0	25.7	78.30	D	○	○	○	×	27	
417	10礫	砂岩	75.3	42.4	20.9	62.10	D	○	×	○	×	31	
418	10礫	砂岩	71.8	46.8	29.9	75.00	D	-	-	○	○	31	
419	10礫	砂岩	20.2	17.1	9.8	2.40	E	○	×	○	×	38	
420	10礫	チャート	34.8	25.3	16.0	13.10	D	○	×	○	×	6	
421	10礫	砂岩	75.9	32.0	24.6	87.30	D	○	×	○	×	39	

第８表　10号礫群出土礫属性表（４）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
423	10礫	砂岩	44.7	36.0	24.2	40.80	D	○	×	○	×	38	
424	10礫	砂岩	43.4	25.5	10.0	11.10	D	○	×	○	×	31	
425	10礫	砂岩	8.6	25.1	10.9	2.10	E	○	×	○	×	23	
427	10礫	砂岩	19.4	10.6	5.1	0.70	E	-	-	×	×		
428	10礫	砂岩	29.4	18.2	10.1	4.50	E	○	○	○	○		
429	10礫	砂岩	8.4	5.3	1.7	0.08	E	-	-	×	×		
430	10礫	砂岩	27.0	11.6	3.7	1.20	E	○	×	○	×		
431	10礫	砂岩	28.1	14.4	9.1	4.80	E	○	×	○	×	41	
432	10礫	砂岩	28.7	15.9	6.9	3.70	E	○	×	○	×		
433	10礫	チャート	62.4	33.3	35.4	79.50	D	○	×	○	×	05	
434	10礫	砂岩	74.2	49.0	26.5	96.30	C	○	×	○	×	20	
435	10礫	チャート	18.5	10.1	9.8	2.10	E	○	×	○	×		
436	10礫	砂岩	16.7	14.4	17.8	4.50	E	○	×	○	×		
437	10礫	砂岩	29.0	18.3	12.8	5.70	E	○	×	○	×	26	
438	10礫	砂岩	7.8	5.2	2.3	0.09	E	○	×	○	×		
439	10礫	砂岩	26.3	21.3	14.0	7.00	D	○	×	○	×		
441	10礫	砂岩	11.5	9.0	2.8	1.40	E	-	-	○	×		
442	10礫	砂岩	46.6	20.5	17.9	14.00	D	-	-	○	○	31	
443	10礫	砂岩	20.4	17.5	6.5	2.30	E	-	-	○	×		
444	10礫	砂岩	8.3	27.5	17.2	3.80	E	○	×	○	×		
447	10礫	砂岩	11.5	9.1	2.9	0.23	E	-	-	○	×		
452	10礫	砂岩	14.8	38.3	18.8	10.00	D	○	×	○	○	37	
455	10礫	砂岩	17.7	14.7	17.9	5.00	E	○	×	○	×		
456	10礫	砂岩	21.1	14.4	9.5	1.60	E	○	×	○	×		
457	10礫	砂岩	52.5	13.8	14.7	15.90	D	○	×	○	×	22	
458	10礫	チャート	15.7	16.0	8.4	1.40	E	○	×	○	×		
462	10礫	砂岩	10.9	9.4	11.3	1.40	E	○	×	○	×		
468	10礫	砂岩	23.3	16.5	6.4	2.60	E	○	×	○	×	14	
470	10礫	砂岩	37.1	29.8	13.5	16.00	D	○	×	○	×		
565	10礫	砂岩	19.4	42.5	24.3	20.10	D	○	×	○	×	34	
566	10礫	砂岩	69.0	46.6	39.6	130.50	B	○	○	○	×		
372-1	10礫	砂岩	57.1	45.5	30.9	110.00	C	○	○	○	×	23	
372-2	10礫	砂岩	63.2	25.8	20.6	1.40	D	○	○	○	×	12	

完形度：A（完形）、B（９割以上）、C（５割以上）、D（５割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第８表　10号礫群出土礫属性表（５）

接合番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合点数	備考
1	10礫	チャート	64.2	51.7	34.5	134.0	A	○	×	-	-	４点	323+324+357+381
2	10礫	チャート	89.7	65.7	41.0	301.0	B	○	○	○	○	３点	285+378+388
3	10礫	チャート	43.4	40.1	26.2	49.0	C	○	×	○	×	２点	188+341
4	10礫	チャート	36.2	36.3	26.9	39.3	D	○	○	○	○	２点	266+355
5	10礫	チャート	111.4	70.8	63.5	365.0	C	○	×	○	×	６点	236+240+256+382+383+433
6	10礫	チャート	102.0	65.0	60.3	288.0	C	○	×	○	×	６点	350+392+394+401+407+420
9	10礫	砂岩	59.1	50.8	38.3	142.0	A	○	×	○	×	２点	366+367
10	10礫	砂岩	106.8	60.1	34.4	243.0	A	○	○	○	×	２点	268+270
11	10礫	砂岩	94.6	54.5	25.4	162.0	B	○	×	○	×	３点	329+352+354
12	10礫	砂岩	77.0	74.6	59.8	459.0	B	○	○	○	×	５点	239+369+371+376+380
13	10礫	砂岩	101.0	45.3	34.1	207.0	B	○	×	○	×	３点	303+311+322
14	10礫	砂岩	88.7	59.2	37.8	264.0	B	○	○	○	×	３点	210+218+468
15	10礫	砂岩	120.7	65.9	24.2	233.0	B	○	○	○	○	３点	228+243+250
16	10礫	砂岩	95.5	65.2	45.2	320.0	B	○	×	○	×	３点	274+312+375
17	10礫	砂岩	109.7	58.4	31.0	262.0	B	○	×	○	×	３点	296+397+398
18	10礫	砂岩	74.4	44.1	42.2	188.0	B	○	○	○	○	４点	265+356+359+372-2
19	10礫	砂岩	87.5	74.8	45.9	296.0	B	○	○	○	○	２点	292+330
20	10礫	砂岩	115.3	55.4	40.8	286.0	B	○	×	○	×	３点	262+414+434
21	10礫	砂岩	92.3	64.9	56.1	392.0	B	○	○	○	×	３点	234+279+365
22	10礫	砂岩	119.2	88.4	32.6	449.0	B	○	×	○	×	10点	276+284+290+293+295+408+410+411+412+457
23	10礫	砂岩	110.6	64.5	37.2	271.0	B	○	○	○	×	４点	368+372+373+395
24	10礫	砂岩	126.7	93.5	56.9	908.0	B	○	○	○	○	３点	182+305+314
25	10礫	砂岩	78.1	50.0	43.8	197.0	C	○	○	○	○	５点	64+189+309+340+425
26	10礫	砂岩	173.3	111.9	60.7	1,119.0	C	○	○	○	○	５点	244+245+247+258+437
27	10礫	砂岩	123.6	57.6	163.1	563.7	C	○	○	○	○	12点	56+61+222+267+282+345+348+349+385+386+387+416
28	10礫	砂岩	100.1	66.0	44.3	322.0	C	○	×	○	×	３点	246+248+249
29	10礫	砂岩	97.2	101.6	45.4	427.0	C	○	○	○	○	２点	226+227

第９表　10号礫群接合礫属性表（１）

接合番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合点数	備考
30	10礫	砂岩	118.8	66.7	53.4	414.0	C	○	○	○	×	7点	280+297+304+316+325+351+391
31	10礫	砂岩	132.3	72.5	39.3	472.0	C	○	×	○	×	11点	299+300+301+302+306+310+321+417+418+424+442
32	10礫	砂岩	72.2	53.5	39.0	146.0	C	○	○	○	○	3点	315+389+406
33	10礫	砂岩	111.2	62.1	38.9	299.0	C	○	○	○	○	3点	294+339+399
34	10礫	砂岩	86.4	53.6	45.1	286.0	C	○	○	○	○	6点	229+230+231+238+257+565
35	10礫	砂岩	90.0	90.0	45.3	407.0	C	○	○	○	○	11点	173+191+271+275+287+307+319+320+343+363+409
36	10礫	砂岩	132.0	75.4	45.7	434.0	C	○	○	○	○	8点	133+180+192+224+237+278+313+415
37	10礫	砂岩	100.4	59.6	35.7	206.0	C	○	○	○	○	8点	277+283+288+289+317+318+402+452
38	10礫	砂岩	100.9	74.5	63.7	429.0	C	○	○	○	○	9点	172+233+235+327+331+334+336+419+423
39	10礫	砂岩	115.0	38.4	27.8	138.0	C	○	×	○	×	2点	346+421
40	10礫	砂岩	61.8	37.9	50.8	165.0	C	○	○	○	○	3点	183+364+393
41	10礫	砂岩	54.4	49.4	40.6	114.0	C	○	×	○	×	2点	361+431
42	10礫	砂岩	41.0	34.4	38.9	58.4	D	○	○	○	×	2点	241+365
43	10礫	砂岩	69.4	35.6	15.9	63.2	D	○	×	○	×	2点	221+390
44	10礫	砂岩	53.0	49.3	14.2	32.7	D	○	×	○	×	2点	260+261
45	10礫	砂岩	65.3	37.1	18.7	42.0	D	○	○	○	○	2点	76+362
46	10礫	砂岩	43.2	27.0	11.7	7.6	D	○	×	○	×	2点	79+85

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第９表　10号礫群接合礫属性表（２）

遺物番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
14	11礫	砂岩	12.3	3.2	2.0	0.09	E	-	-	×	×		
28	11礫	砂岩	85.1	59.2	43.2	287.80	B	○	×	○	×		
53	11礫	砂岩	25.9	21.3	8.9	4.50	E	×	×	×	×	7	
54	11礫	砂岩	55.1	37.9	19.4	40.00	D	○	×	○	×	8	
475	11礫	砂岩	51.2	32.2	28.6	37.40	D	○	×	○	×		
496	11礫	砂岩	9.5	6.9	4.6	0.23	E	×	×	×	×		
500	11礫	砂岩	81.2	42.1	28.7	91.50	C	×	×	×	×		
509	11礫	砂岩	7.8	3.3	0.6	0.02	E	-	-	×	×		
510	11礫	チャート	8.0	5.0	4.4	0.25	A	○	×	-	-		
536	11礫	砂岩	17.7	15.2	4.2	1.00	E	×	×	×	×		
537	11礫	砂岩	34.3	23.4	20.5	17.00	A	○	×	-	-		
538	11礫	砂岩	117.6	48.0	43.3	266.40	A	○	×	-	-		
539	11礫	チャート	80.5	61.5	42.7	261.60	A	○	×	-	-		
540	11礫	砂岩	107.4	89.7	39.0	428.10	A	○	×	-	-		
541	11礫	砂岩	84.5	57.1	32.7	179.60	B	○	○	○	×	8	
542	11礫	砂岩	72.3	61.9	34.8	222.60	B	○	○	○	×	7	
543	11礫	チャート	36.9	19.3	14.4	13.00	A	×	×	-	-		
545	11礫	砂岩	114.5	56.8	22.5	204.10	A	○	○	-	-		
546	11礫	砂岩	144.0	89.8	77.3	1,250.80	A	○	○	-	-		
547	11礫	チャート	21.9	8.4	5.9	1.30	E	○	×	○	×		
548	11礫	砂岩	99.8	60.1	35.5	180.20	A	○	○	-	-		
550	11礫	砂岩	20.8	13.0	4.6	1.70	E	○	×	○	×		

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第 10 表　11 号礫群出土礫属性表

接合番号	礫群	石質	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合点数	備考
7	11礫	砂岩	71.9	62.1	34.7	226.0	A	○	○	○	×	2点	53+542
8	11礫	砂岩	87.6	56.7	35.6	219.0	A	○	○	○	×	2点	54+541

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第 11 表　11 号礫群接合礫属性表

挿図番号	出土位置	遺物番号	石質	器種	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	接合	打面	礫面	実測	備考
1	ＴＰ２	1	頁岩	ナイフ形石器	3.7	1.3	0.6	2.60				○	
	ＴＰ２	2	凝灰岩	剥片	55.1	27.4	10.0	22.20				×	
1	ＴＰ７	1	頁岩	尖頭器	2.9	2.0	0.5	2.50				○	周縁調整

第 12 表　遺構外出土石器

第２節　縄文時代

（1）概　要

縄文時代の遺構は住居跡 11 軒、土坑２基、炉穴５基、土坑 18 基、ピット７基を検出した。住居跡の時期の内訳は、前期が５Ｊ、７Ｊ、８Ｊ、９Ｊ、12 Ｊの５軒、中期が４Ｊ、６Ｊ、10 Ｊの３軒、詳細な時期を決めかねるが、前期から中期と思われる 11 Ｊ・13 Ｊ・14 Ｊの３軒である。７Ｊからは、総重量 29,758.0g ものマガキ・ヤマトシジミを主体とする貝類が出土した。縄文時代の遺構から、まとまった貝類の出土は、城山遺跡では初の事例となる。８Ｊ、９Ｊ、12 Ｊからも少量ながら貝類が出土しており、前期の住居跡５軒中４軒から貝類が出土することとなった。

第 30 図　縄文時代遺構全体図（１／300）

（２）住居跡

４号住居跡

遺　構（第 31・32 図）

［位　置］（Ｉ－２）グリッド。

［検出状況］北側を 68 Ｍ、1078 Ｄに切られる。

［構　造］**平面形**：楕円形と思われる。**規模**：長軸 3.06m 以上／短軸 2.75m 以上／深さ 19㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―３°―Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で全体的に軟弱である。貼床は１～３㎝の厚さで施されていた。**炉**：石囲埋甕炉。平面形は円形と思われる。長軸 77㎝／短軸 59㎝／深さ 23㎝。中央部に炉体土器（１）を伴い、その周囲が被熱により赤化していた。周縁部に礫が配置されていた。**柱穴**：主柱穴はＰ１・３の２本と思われる。深さ 16 ～ 68㎝。覆土は黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土・褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　土］４層に分層できた。

［遺　物］縄文土器の深鉢、石皿、石鏃が出土した。炉に炉体土器（１）を伴う。

［時　期］縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ式期）。

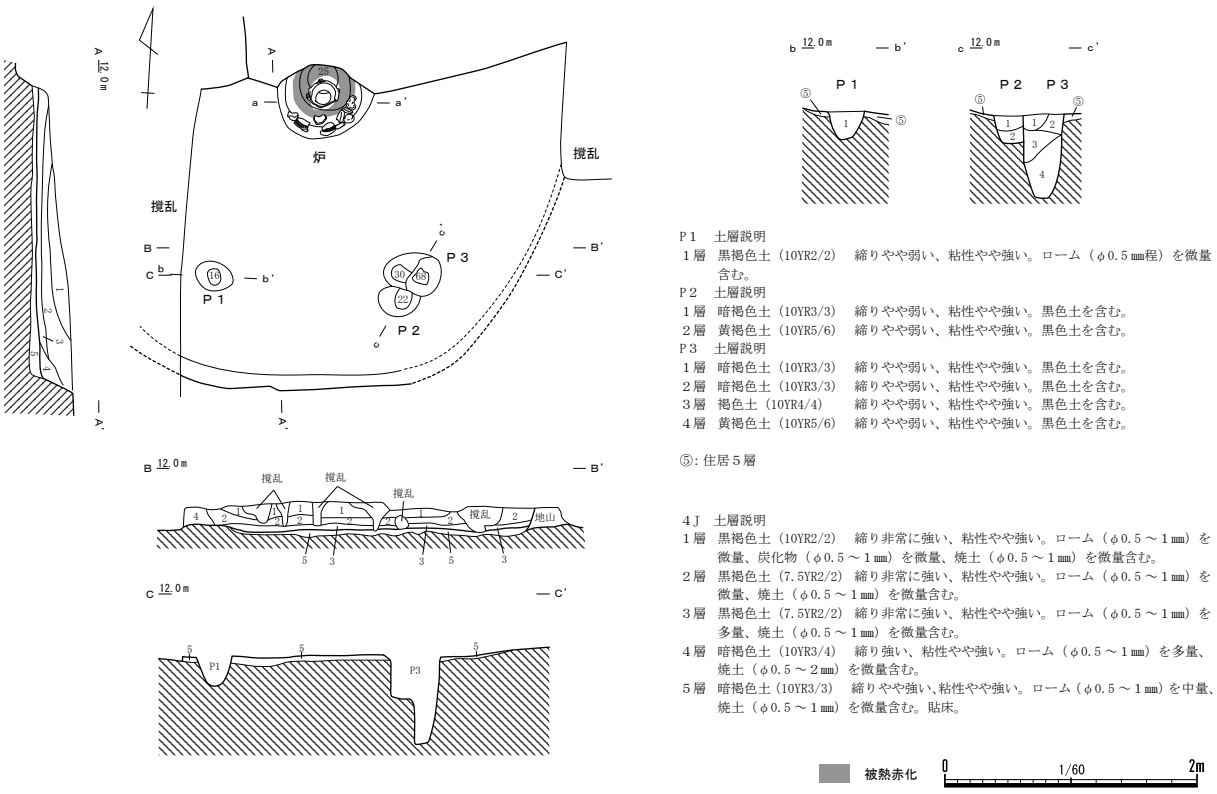
遺　物（第 33 図、図版 53 －２、第 13 表）

［土　器］（第 33 図１～６、図版 53 －２－１～６、第 13 表）

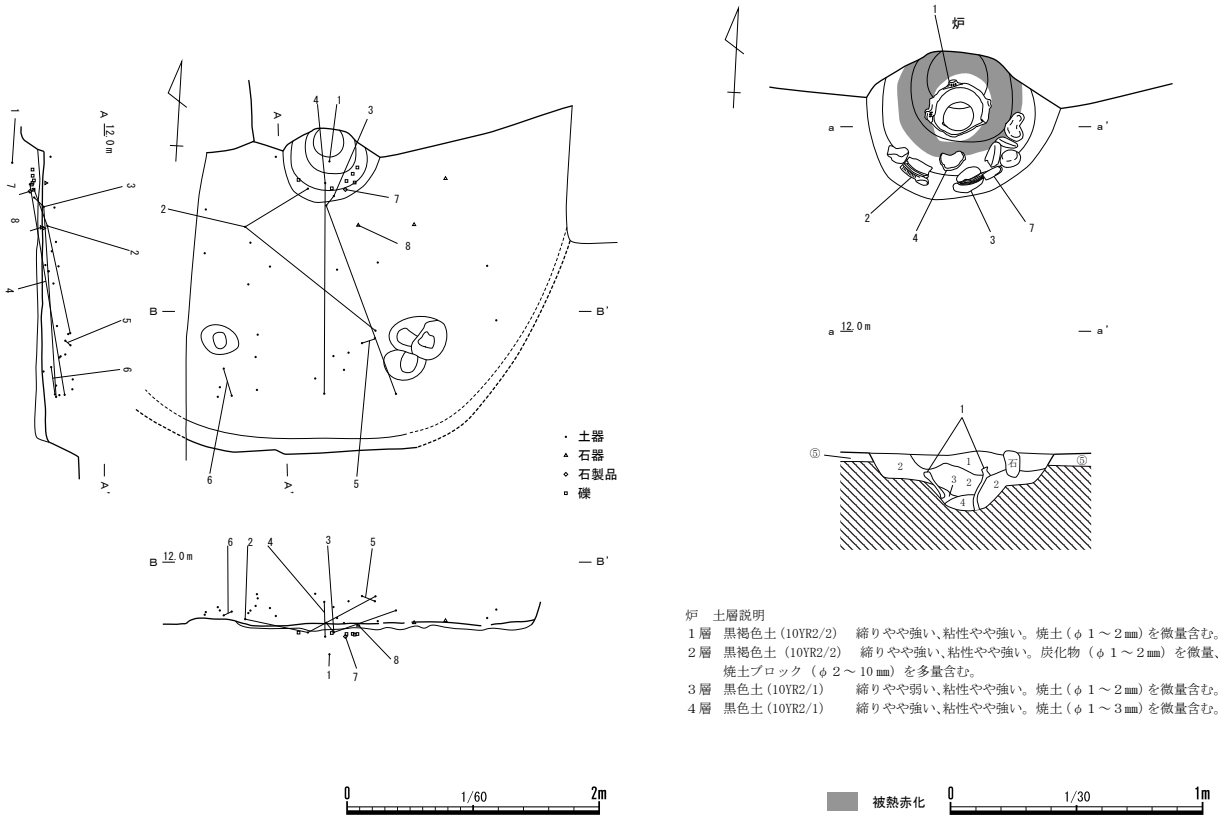
１は加曽利Ｅ２式の深鉢、２は曽利式の深鉢口縁部、３～５は連弧文土器の深鉢胴部、６は加曽利Ｅ式の浅鉢胴部である。

［石　器］（第 33 図７・８、図版 53 －２－７・８、第 13 表）

７は石皿、８は石鏃である。

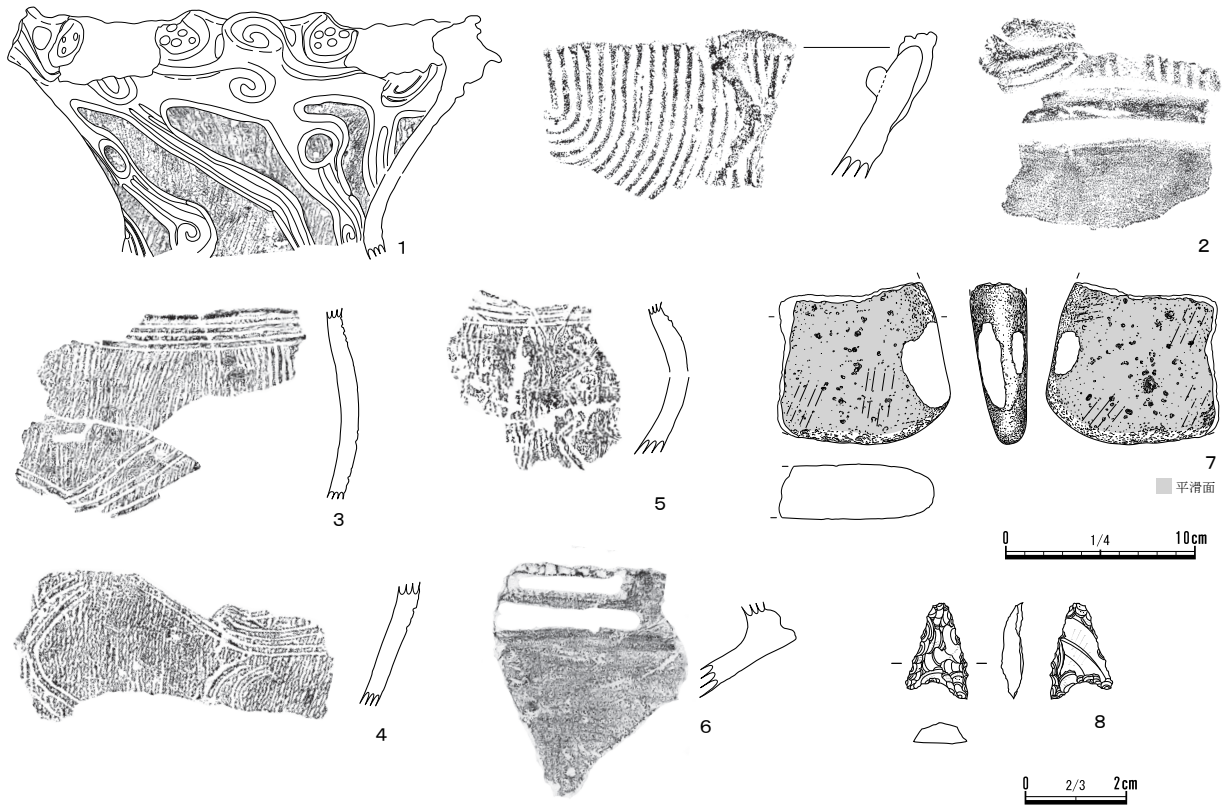


第 31 図　４号住居跡（１／60）



炉　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ１～２㎜）を微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。炭化物（φ１～２㎜）を微量、焼土ブロック（φ２～10㎜）を多量含む。
３層　黒色土（10YR2/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ１～２㎜）を微量含む。
４層　黒色土（10YR2/1）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ１～３㎜）を微量含む。

第 32 図　４号住居跡遺物出土状態・炉跡（１／60・１／30）



第 33 図　４号住居跡出土遺物（２／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 33 図 1 図版 53-2-1	深鉢	炉中央（炉体土器）	口縁～頸部 40％	高　[13.2] 口　24.0	明褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英中量／角閃石少量	口縁部４単位の突起、突起内部に渦巻き状の沈線／各突起の両脇に沈線円形区画、円形刺突充填／撚糸文／沈線による渦巻き文・円形文	加曽利Ｅ２式
第 33 図 2 図版 53-2-2	深鉢	炉内、中央南側の覆土中（床上５・23㎝）	口縁部片	厚　1.3	にぶい橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・石英中量	突起／半截竹管による重弧文	曽利式
第 33 図 3 図版 53-2-3	深鉢	炉内、南壁っ付近の覆土中（床上 12 ㎝	胴部片	厚　1.0	明赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子中量	撚糸文（Ｌ）／沈線により弧を描く	連弧文式
第 33 図 4 図版 53-2-4	深鉢	炉内、南壁付近の覆土中（床上 19 ㎝）	胴部片	厚　0.9	明赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子中量	撚糸文（Ｌ）／沈線により弧を描く	連弧文式
第 33 図 5 図版 53-2-5	深鉢	Ｐ３西側の覆土中（床上 19･23㎝）	肩部片	厚　1.0	赤褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・角閃石中量	集線状工具で地文を施す／肩部に３条の横位沈線、胴部に２条の縦位沈線を波状に施す	連弧文式
第 33 図 6 図版 53-2-6	浅鉢	南壁付近の覆土中（床上８・11㎝）	胴部片	厚　1.2	にぶい橙色～子褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	肩部に２条の沈線を平行に施す	加曽利Ｅ式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 33 図 7 図版 53-2-7	石皿	炉内	上部から左側を欠損	閃緑岩	[91.3]	[85.6]	[30.2]	348.7	形状は扁平で平滑面が大きく広がっている／一部に擦痕がみとめられる	
第 33 図 8 図版 53-2-8	石鏃	炉南側の床面上	完形	黒曜石	18.9	12.2	4.2	0.8	凹基無茎で脚の長さが違う／表は急角度の調整が行われている／先端部は丸みをおびる	

第 13 表　４号住居跡出土遺物一覧

５号住居跡

遺　構（第 34 図）

［位　　置］（Ｉ－３・４）グリッド。

［検出状況］1095 Ｄを切り、122 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：円形。**規模**：長軸 2.68m ／短軸 2.43m ／深さ 28㎝。**壁**：緩やかにやや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：－。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で住居中央南側が硬化していた。貼床は３～ 12㎝の厚さで施されていた。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：貼床下からＰ１とＰ２を検出した。深さ 32・29㎝。覆土はローム粒を含む極暗褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］８層に分層できた。

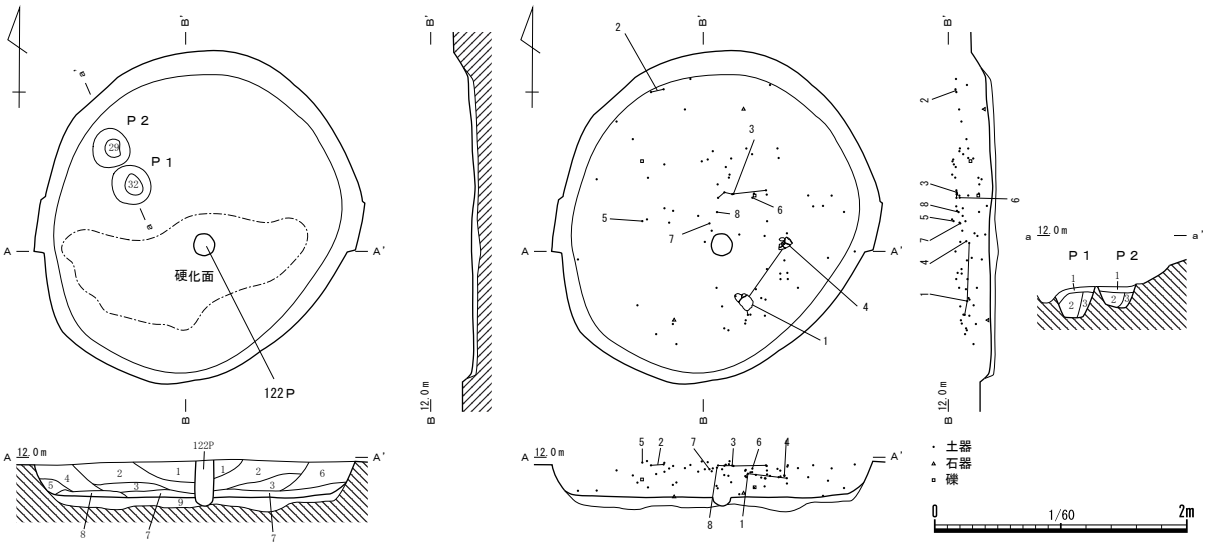
［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯ｂ式期）。

遺　物（第 35 図、図版 53 －３、第 14 表）

［土　　器］（第 35 図１～８、図版 53 －３－１～８、第 14 表）

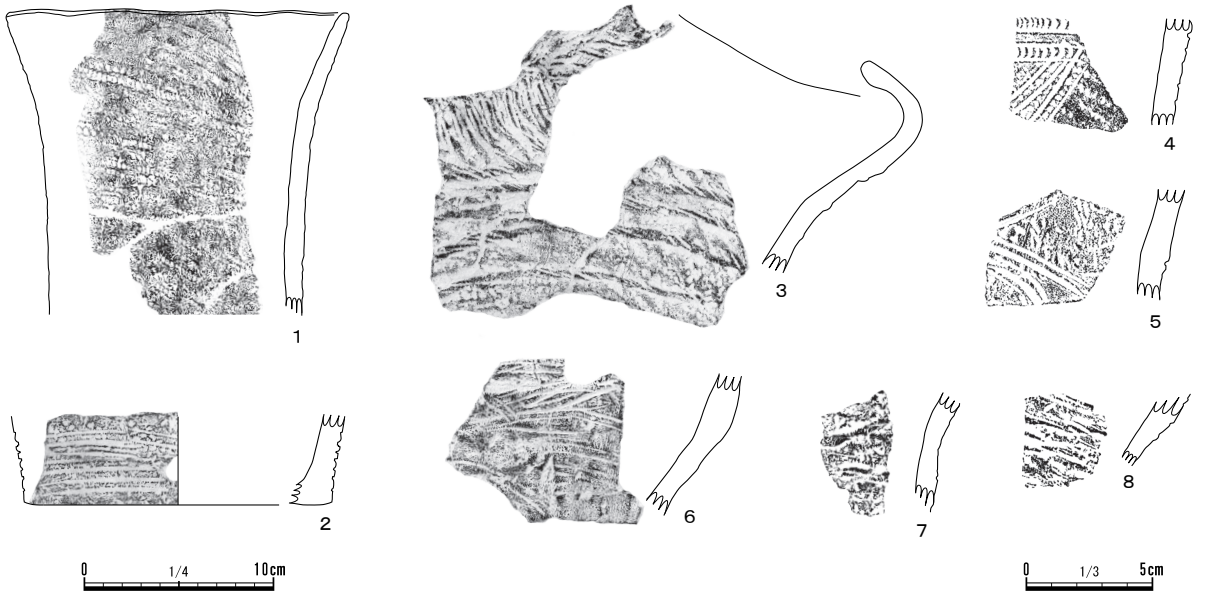
１は諸磯ｂ式の深鉢、２は諸磯ｂ式の深鉢底部、３は諸磯ｂ式の深鉢口縁部、４～８は諸磯ｂ式の深鉢胴部である。



５Ｊ　土層説明
１層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１㎜程）を微量含む。
２層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１㎜程）を少量、焼土（φ１㎜程）を少量含む。
３層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ１㎜程）を中量含む。
４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ２㎜程）を少量含む。
５層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ２㎜程）を少量含む。
６層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１㎜程）を少量、焼土（φ１㎜程）を微量含む。
７層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ロームブロック（φ５㎜程）を中量、焼土（φ２㎜程）を少量含む。
８層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性強い。ロームブロック（φ８㎜程）を多量含む。
９層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に極多量含む。貼床。

Ｐ１　土層説明
１層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に少量含む。
２層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～１㎜)を全体的に微量、焼土(φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
２層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～１㎜)を全体的に少量、焼土(φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。

第 34 図　５号住居跡・遺物出土状態（１／60）



第 35 図　５号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 35 図 1 図版 53- 3 -1	深鉢	南東側の覆土中（床上 16 ～ 20cm）	口縁～胴部 20%	高　[16.2] 口　18.2	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量／小礫少量	縄文（直前段多条、R ｛L 4｝）、４条のＬの内１本だけ細い	諸磯ｂ式
第 35 図 2 図版 53- 3 -2	深鉢	北西壁付近の覆土中（床上 27cm）	胴～底部 5%	高　[4.7] 底　(16.4)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	平行沈線	諸磯ｂ式
第 35 図 3 図版 53- 3 -3	深鉢	中央北側の覆土中（床上 26 ～ 27 cm）	口～胴部片	厚　0.8	褐色	砂粒多量／白色粒子・長石中量／小礫少量	波状口縁／口縁部に連続する沈線／口縁部に浮線文（縦に雑なキザミ）／頸部浮線文（キザミ）	諸磯ｂ式
第 35 図 4 図版 53- 3 -4	深鉢	東側の覆土中（床上 19 cm）	胴部片	厚　0.9	黒褐色～にぶい黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英・雲母中量	２条の爪形文／斜位平行沈線	諸磯ｂ式
第 35 図 5 図版 53- 3 -5	深鉢	西側の覆土中（床上 29 cm）	胴部片	厚　1.1	にぶい黄橙色～にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	撚糸文（Ｌ）／平行沈線による斜位直線文・弧線文	諸磯ｂ式
第 35 図 6 図版 53- 3 -6	深鉢	中央北西側の覆土中（床上 24cm）	胴部片	厚　1.2	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	集合沈線	諸磯ｂ式
第 35 図 7 図版 53- 3 -7	深鉢	中央の覆土中（床上 23 cm）	胴部片	厚　0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・角閃石・小礫中量	上部に縄文（ＲＬ）、２条の浮線文（キザミ）	諸磯ｂ式
第 35 図 8 図版 53- 3 -8	深鉢	中央の覆土中（床上 25 cm）	胴部片	厚　0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・角閃石・小礫中量	浮線文（キザミ）	諸磯ｂ式

第 14 表　５号住居跡出土遺物一覧

６号住居跡

遺　構（第 36 図）

［位　置］（Ｆ・Ｇ－６・７）グリッド。

［検出状況］1 方、138・139・142・143 Ｐに切られる。190 ～ 195 Ｐと重複するが先後関係は不明である。

［構　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 5.12m ／短軸 4.82m ／深さ 30cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―７°―Ｅ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で住居中央付近が部分的に硬化していた。**炉**：中央やや北寄りに位置する。１方やピットに壊され、僅かに被熱による赤化が確認された。平面形は楕円形。長軸 40cm／短軸 33cm。**柱穴**：Ｐ１からＰ８の８本を検出した。深さ 24 ～ 77cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・極暗褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　土］６層に分層できた。全体的に焼土を微量含む、暗褐～黒褐色土を基調とする。

［遺　物］縄文土器の深鉢、打製石斧、磨製石斧、石皿、石錘、玦状耳飾が出土した。12 の玦状耳飾は 1 方の精査時に溝底から出土したものである。本遺構に帰属するものと考えられるため、ここで報告する。

［時　期］縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式後半）。

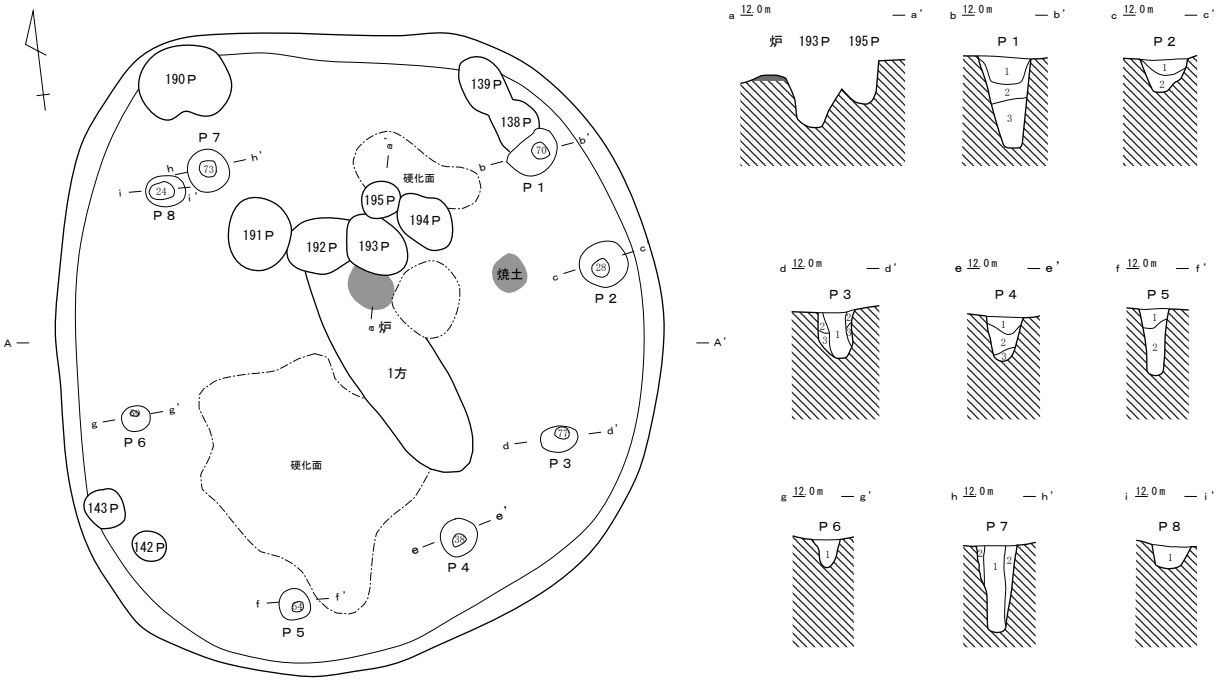
遺　物（第 37 図、図版 54 －１、第 15 表）

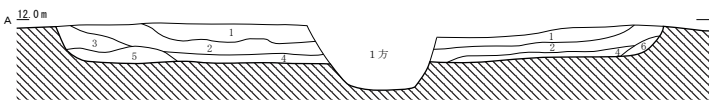
［土　器］（第 37 図１～６、図版 54 －１－１～６、第 15 表）

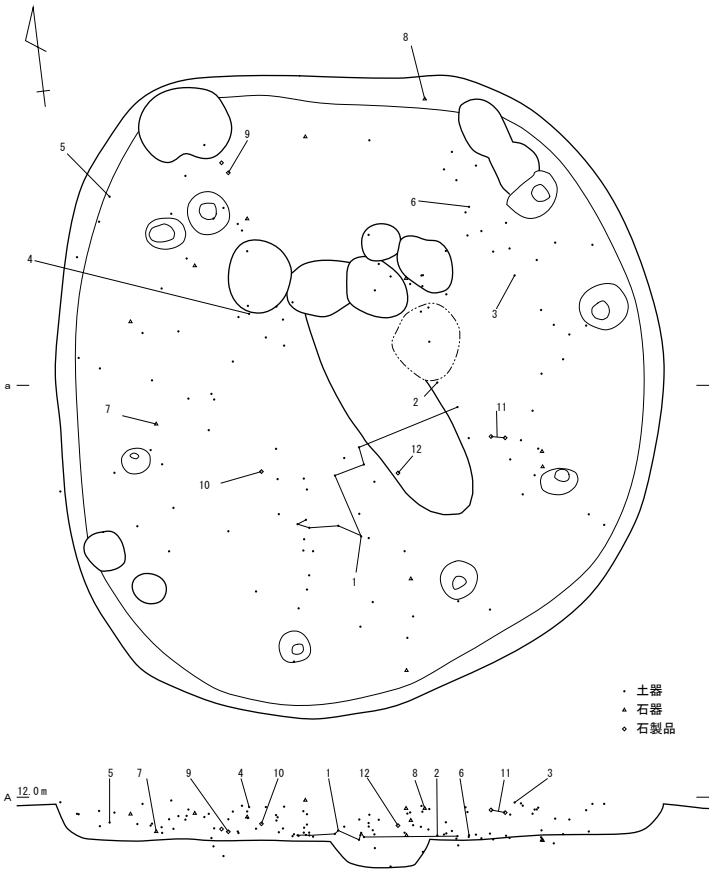
１は曽利式の深鉢、２～４は曽利式の深鉢胴部、５・６は加曽利ＥⅢ式の深鉢口縁部である。

［石　器］（第 37 図７～ 12、図版 54 －１－７～ 12、第 15 表）

７は打製石斧、８は磨製石斧、９は石皿、10 は石錘、11・12 は玦状耳飾である。



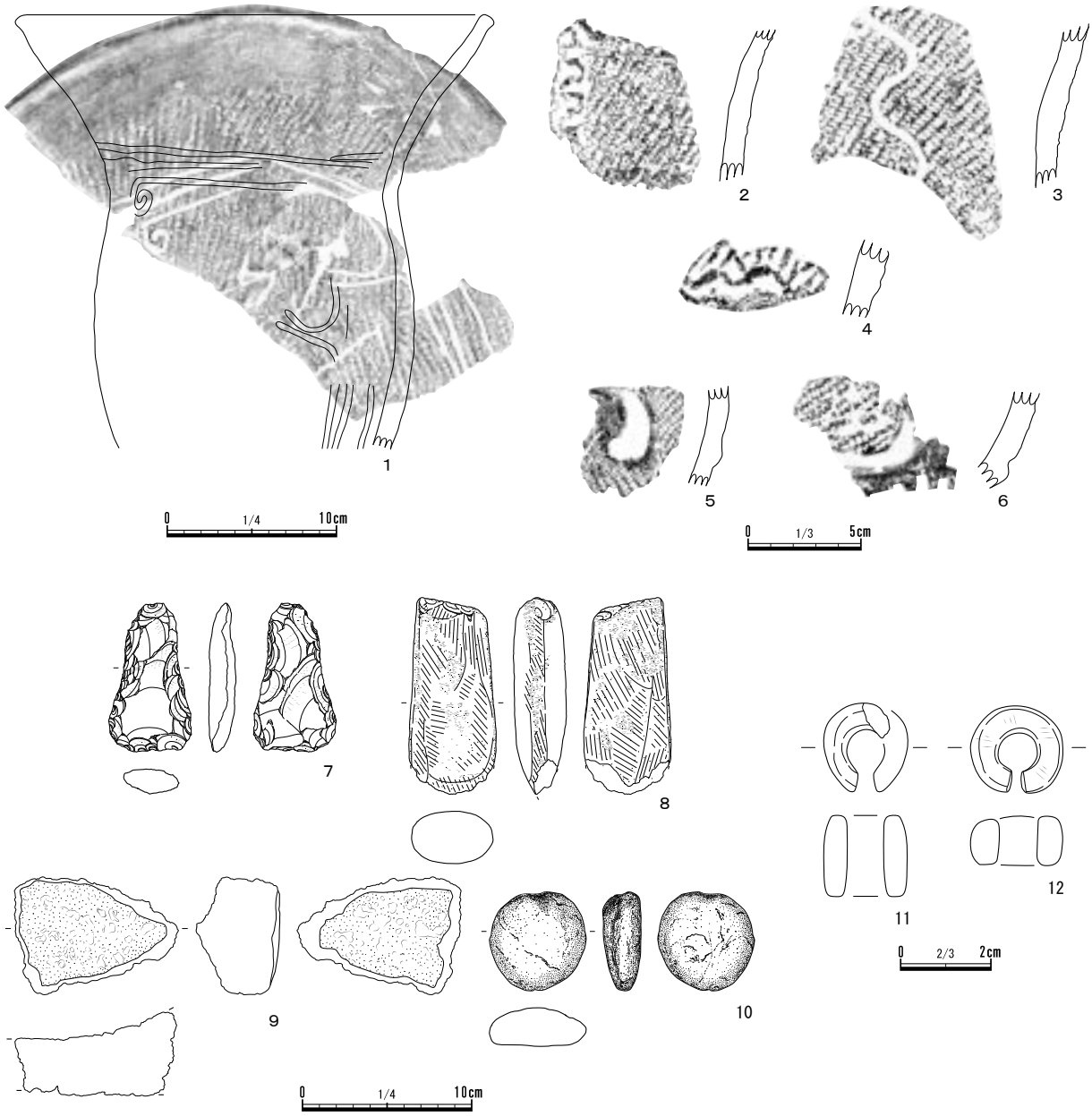




６Ｊ　土層説明
１層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
６層　暗褐色土(10YR3/3)　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。
Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量含む。
３層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
２層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に中量含む。
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
Ｐ７　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ８　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

被熱赤化　0　1/60　2m

第36図　６号住居跡・遺物出土状態（１／60）



第 37 図　６号住居跡出土遺物（２／３・１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 37 図 1 図版 54- 1 -1	深鉢	中央南側の床面上・覆土中（床上３～７cm）	口縁～胴部30％	高　[25.7] 口　(28.2)	にぶい黄褐色～灰黄褐色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	頸～胴中部に縦縄文（ＲＬ）／胴下部に斜縄文（ＲＬ）／頸部に２～３条の横位沈線、一部渦巻き文／胴部に３条の縦位沈線、左端沈線は左側に屈曲する	曽利式
第 37 図 2 図版 54- 1 -2	深鉢	中央東側の覆土中（床上 3cm）	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	縦縄文（ＲＬ）／縦位隆帯（左右交互にキザミを施し蛇行状を呈す）	曽利式
第 37 図 3 図版 54- 1 -3	深鉢	中央北東側の覆土中（床上 29cm）	胴部片	厚　1.2	褐色～黄褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・長石中量	縦縄文（ＲＬ）／縦位に蛇行する沈線	曽利式
第 37 図 4 図版 54- 1 -4	深鉢	中央北西側の覆土中（床上 26cm）	胴部片	厚　1.2	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	地文は半裁竹管による縦位条線／横位に蛇行隆線を貼付	曽利式

第 15 表　６号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 37 図 5 図版 54- 1 -5	深鉢	北西壁付近の覆土中(床上 14cm)	口縁部片、口唇部欠損	厚　0.9	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	右側に縦縄文（ＲＬ)、左側に縄文（ＲＬ）／隆帯を指でなぞり沈線を施す	加曽利ＥⅢ式
第 37 図 6 図版 54- 1 -6	深鉢	北東側の覆土中（床上 3cm）	口縁部片、口唇部欠損	厚　1.2	黒褐色～にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英中量	沈線区画、縄文（ＬＲ）／胴部に向かって２条の縦位沈線	加曽利ＥⅢ式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 37 図 7 図版 54- 1 -7	打製石斧	西側の覆土中（床上 6 cm）	完形	ホルンフェルス	87.6	48.7	15.9	74.1	撥形／刃部から両側縁部にかけて連続する調整がみられる	
第 37 図 8 図版 54- 1 -8	磨製石斧	北壁付近の覆土中（床上 25cm）	刃部欠損	緑色岩	[116.0]	[51.5]	31.1	313.4	定角式磨製石斧／基端部は欠損したのち剥離→敲打により再調整か／全体に敲打痕が残り、刃部にかけて丁寧に研磨している	
第 37 図 9 図版 54- 1 -9	石皿	北東側の覆土中（床上 6cm）	部分	安山岩	[96.8]	[70.8]	[49.7]	344.2	表は凹状を呈し、裏面はかなり平端／全体的に風化著しい	
第 37 図 10 図版 54- 1 -10	石錘？	中央南西側の覆土中(床上 13cm)	完形	砂岩	58.1	56.8	22.6	106.2	上端部に自然のくぼみがあり、下部に切れ込み状のくぼみがある／上端部は非常に平滑になっており、石錘と考えた	
第 37 図 11 図版 54- 1 -11	玦状耳飾	中央東側の覆土中（床上 21cm）	50%	滑石	径 (18.5)	孔径 (8.4)	17.9	5.4	指貫形でやや馬蹄状になっており、切れ目部にかけて幅が細くなっている／断面は隅丸長方形で肉厚／光沢あり	
第 37 図 12 図版 54- 1 -12	玦状耳飾	1 方調査時に出土（ほぼ床面レベル）	完形	滑石	径 (20.5)	孔径 (8.7)	10.9	6.6	指貫形／断面は隅丸長方形で肉厚／表面は光沢あり、丁寧に研磨されている	

第 15 表　６号住居跡出土遺物一覧（２）

７号住居跡

遺　　構（第 38 図）

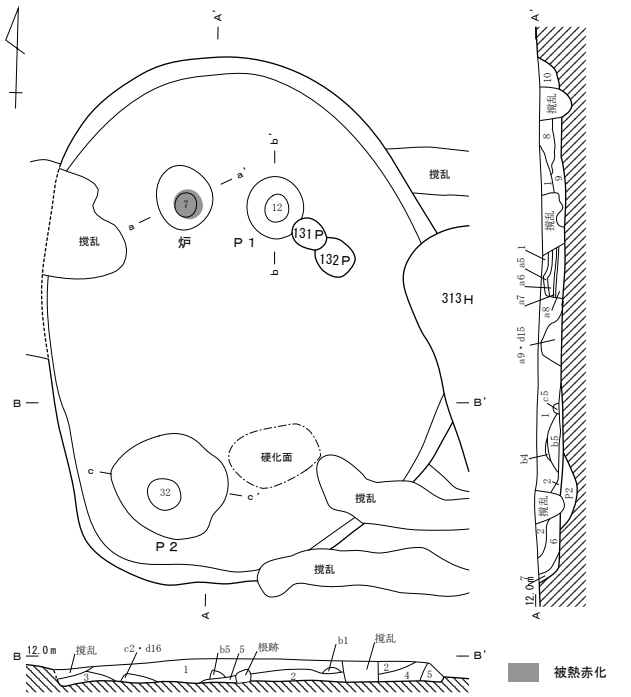
［位　　置］（Ｆ・Ｇ－４）グリッド。

［検出状況］313 Ｈ、131・132 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 4.20m ／短軸 3.25m ／深さ 13cm。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―２°―Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で部分的に硬化していた。**炉**：地床炉。住居中央北側に位置する。平面形は楕円。長軸 51cm／短軸 45cm／深さ５cm。中央部に被熱による赤化が確認できた。覆土は焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。**貯蔵穴**：南西に位置するＰ２が貯蔵穴の可能性がある。平面形は楕円形。長軸 92cm／短軸 83cm／深さ 32cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。**柱穴**：Ｐ１を検出した。深さ 12cm。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］10 層に分層できた。マガキ・ヤマトシジミを主体とする混土貝層が確認された。

［貝　　層］マガキを主体とする層、ヤマトシジミを主体とする層が、互層となっている状況が観察された。重なりの多い所で、上からヤマトシジミ（ａ３）→マガキ（ａ４）→ヤマトシジミ（ａ５）→マガキ（ａ６）→ヤマトシジミ（ａ７）→マガキ（ａ８）という状況が確認できた。確認された貝類の種類と重量は、マガキ（23,287.8g)、ヤマトシジミ（6,400.5g)、ハマグリ（9.3g)、ウネナシトマヤガイ（53.0g)、オオタニシ（3.6g)、チリメンカワニナ（0.8g)、マツカサガイ（3.0g）である（詳細は第 17 ～ 19 表を参照)。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ（97 個)、ヒメコハクガイ（23 個)、オカチョウジガイ（63 個)、マルシタラカイ（７個）が確認された（第 20 表)。貝類以外には、魚歯（５



７Ｊ　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

３層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

４層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。ロームは左部に偏る

５層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。

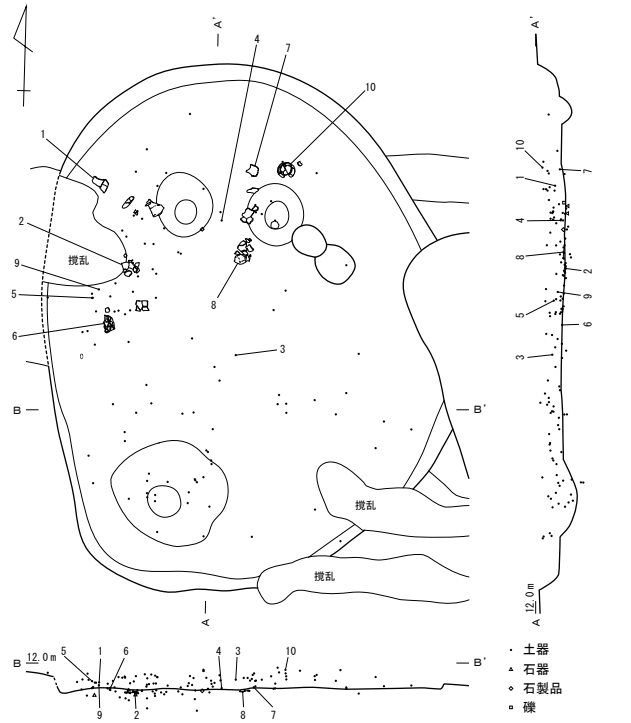
６層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～50㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

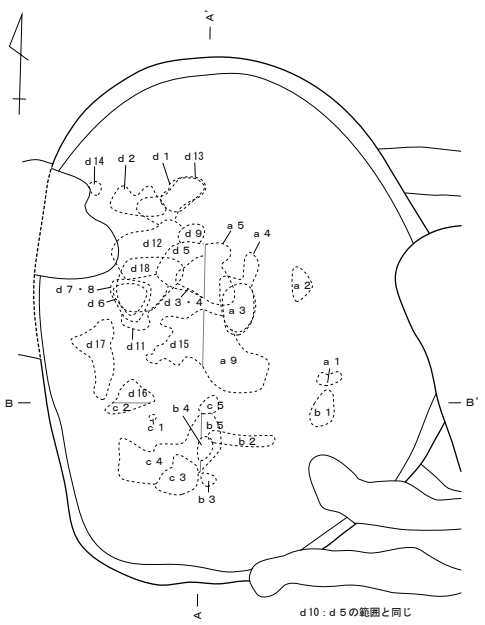
７層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

８層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、褐色土(φ0.5～1㎜)を多量含む。

９層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～50㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

10 層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を少量含む。褐色土は左部に偏る。





貝層分布状況

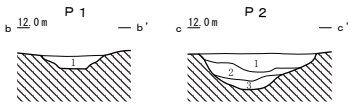
ヤマトシジミ		d 6	d 3	a 3		d 1	d 2
マガキ		d 7	d 4	a 4			d 14
ヤマトシジミ	d 9	d 8	d 5＝a 5			d 13	
マガキ		d 11	d 10	a 6		d 12	
ヤマトシジミ				a 7		d 18	
マガキ				a 8	d 15＝a 9		

c 3（マガキ）　b 4（ヤマトシジミ）

間層

カキ　c 4＝b 5　c 5　d 16＝c 2　d 17（ヤマトシジミ・マガキ）

貝層堆積模式図



Ｐ１　土層説明

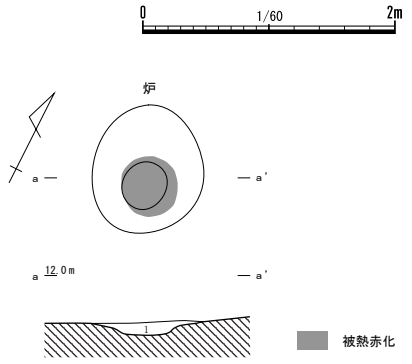
１層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量、貝（φ5～30㎜）を上部に微量含む。

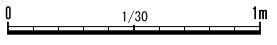
２層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

３層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を極多量、褐色土(φ0.5～1㎜)を斑状に微量含む。



炉　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土（φ１～２㎜）を下部に斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。



第 38 図　７号住居跡・遺物出土状態・炉跡（１／60・１／30）

点、タイか)、魚骨（椎骨１点、顎骨か５片)、陸棲動物の骨（２片）が出土している。

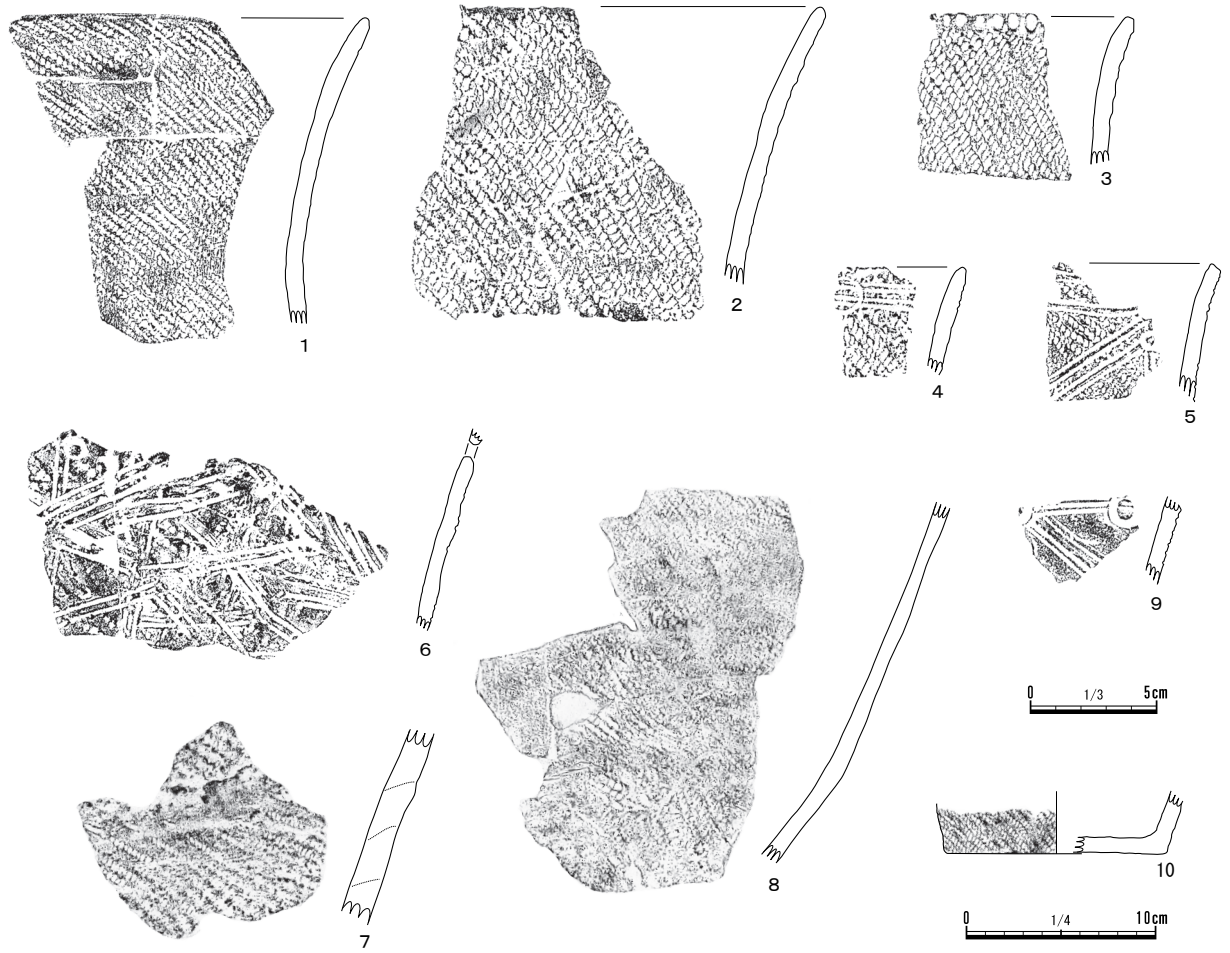
［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。北西の一群は、貝層除去後に出土したものが多い。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯ａ式期)。

遺　　物（第 39 図、図版 54 － 2、第 16 表）

［土　　器］（第 39 図１～ 10、図版 54 － 2 － 1 ～ 10、第 16 表）

１～５は諸磯ａ式の深鉢口縁部、６は諸磯ａ式の深鉢胴部、７は黒浜式の深鉢胴部、８・９は諸磯ａ式の深鉢胴部、10 は諸磯式の深鉢底部である。



第 39 図　７号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 39 図 1 図版 54-2-1	深鉢	北東壁付近の覆土中(床上 9cm)	口縁～胴部片	厚　0.8	赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 39 図 2 図版 54-2-2	深鉢	西側の床面上	口縁～胴部片	厚　0.7	灰褐色	砂粒・白色粒子やや多量／石英・角閃石・小礫中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 39 図 3 図版 54-2-3	深鉢	中央の覆土中（床上 11 cm）	口縁部片	厚　0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量／小礫少量	縄文（ＲＬ）／口縁部に押捺	諸磯ａ式

第 16 表　７号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 39 図 4 図版 54-2-4	深鉢	中央北側の覆土中（床上 4cm）	口縁部片	厚　0.7	明褐色	砂粒やや多量／白色粒子・長石・角閃石・小礫中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／円形刺突	諸磯ａ式
第 39 図 5 図版 54-2-5	深鉢	西側の覆土中（床上 10cm）	口縁部片	厚　0.8	褐灰色～黒褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・長石・角閃石・小礫中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／円形刺突	諸磯ａ式
第 39 図 6 図版 54-2-6	深鉢	西側の床面上	口縁～胴部片、口唇部欠損	厚　0.7	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・小礫中量	平行沈線により雑な米字文を描く／焼成後、上部に５㎜の穿孔	諸磯ａ式
第 39 図 7 図版 54-2-7	深鉢	北側の覆土中（床上５cm）	胴部片	厚　1.0	明褐色～灰黄褐色	砂粒・白色粒子中量／小礫少量	縄文（ＲＬ）	黒浜式 繊維土器
第 39 図 8 図版 54-2-8	深鉢	中央北側の覆土中（床面上）	胴部片	厚　0.6	褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 39 図 9 図版 54-2-9	深鉢	西側の覆土中（床上６cm）	胴部片	厚　0.6	赤褐色	砂粒・白色粒子・白色針状物質中量	平行沈線、米字文か？→円形刺突	諸磯ａ式
第 39 図 10 図版 54-2-10	深鉢	北東側の覆土中（床上 19cm）	底部 5％	高　[3.3] 底　11.8	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量	縄文（ＲＬ）	諸磯式

第 16 表　７号住居跡出土遺物一覧（２）

採取番号	採取時の主体貝種	採取体積 (cc)	採取重量 (g)	マガキ (g)	ヤマトシジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナシトマヤガイ (g)	オオタニシ (g)	チリメンカワニナ (g)	マツカサガイ (g)	イシガイ (g)	合　計 (g)
a1	マガキ	600	310	91.2	1.1							92.3
a2	マガキ・ヤマトシジミ	2,000	1,240	295.6	67.3		0.2					363.1
a3	ヤマトシジミ	2,300	1,538	282.5	474.2		2.2					758.9
a4	マガキ	2,200	1,290	638.5	47.0		0.1					685.6
a5	ヤマトシジミ	1,200	820	55.8	219.8							275.6
a6	マガキ	2,100	1,256	672.6	43.7		0.5					716.8
a7	ヤマトシジミ	600	364	67.6	46.1		0.2					113.9
a8	マガキ	10,800	6,412	2,534.8	69.4		2.2					2,606.4
a9	マガキ	10,500	6,263	221.9	65.9		2.2					290
a10	マガキ	400	233	48.2								48.2
b1	マガキ	800	424	116.0	0.8		0.1					116.9
b2	マガキ	500	314	89.2	9.3		0.7					99.2
b3	マガキ	100	90	7.8								7.8
b4	ヤマトシジミ	100	105	9.5	22.3							31.8
b5	マガキ	1,300	937	233.7	16.4		0.1					250.2
c1	マガキ・ヤマトシジミ	10	15	6.4								6.4
c2	マガキ	200	154	26.4								26.4
c3	マガキ	1,900	1,314	1.7	1.1		2.5					5.3
c4	マガキ	17,100	10,889	1,932.0	262.2		5					2,199.2
c5	マガキ	700	484	111.8	8.6		0.3					120.7
d1	ヤマトシジミ	3,500	2,209	117.2	1182.9							1,300.1
d2	ヤマトシジミ	1,700	1,143	61.1	194.3		0.4					255.8
d3	ヤマトシジミ	600	361	26.4	112.7							139.1
d4	マガキ	1,800	837	428.8	82.8							511.6
d5	ヤマトシジミ	2,000	1,285	197.3	476.4							673.7
d6	ヤマトシジミ	200	180	12.9	68.5							81.4
d7	マガキ	700	419	225.1	26.1		0.1					251.3
d8	ヤマトシジミ	2,800	1,815	196.0	836.4		1.3					1,033.7
d9	ヤマトシジミ	400	263	9.6	7.6							17.2

第 17 表　７号住居跡出土貝類計量表（１）

採取番号	採取時の主体貝種	採取体積 (cc)	採取重量 (g)	マガキ (g)	ヤマトシジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナシトマヤガイ (g)	オオタニシ (g)	チリメンカワニナ (g)	マツカサガイ (g)	イシガイ (g)	合　計 (g)
d10	マガキ	16,900	10,125	4,132.1	277.5	1.8	8.7					4,420.1
d11	マガキ	15,200	9,112	4,315.6	528.1		11.5	2.8	0.8			4,858.8
d12	マガキ	9,900	6,037	219.4	122.4		1.1					342.9
d13	マガキ→ヤマトシジミ→マガキ	9,300	5,907	1,725.2	39.4		3.5			3.0		1,771.1
d14	マガキ	800	547	128.7	13.6		0.4					142.7
d15	マガキ	15,500	7,278	3,347.3	82.9		5.2					3,435.4
d16	マガキ	1,800	4,896	169.5	11.6		0.2					181.3
d17	マガキ・ヤマトシジミ	2,600	1,704	94.7	18.2		0.5					113.4
d18	ヤマトシジミ	8,500	5,456	437.7	963.9	7.5	3.8	0.8				1,413.7
合　計		149,610	94,026	23,287.8	6,400.5	9.3	53.0	3.6	0.8	3.0		29,758.0

第 17 表　７号住居跡出土貝類計量表（２）

採取番号	マガキ							ヤマトシジミ						
	左殻		右殻		不明	小計		左殻		右殻		不明	小計	
	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	重量 (g)	数量
a1	45.2	8	1.3	2	44.7	91.2	10					1.1	1.1	
a2	81.7	20	77.8	15	136.1	295.6	35	16.1	17	28.9	28	22.3	67.3	45
a3	44.2	18	68.5	10	169.8	282.5	28	188.4	157	132.9	106	152.9	474.2	263
a4	243.2	21	73.9	6	321.4	638.5	27	18.1	19	21.2	26	7.7	47.0	45
a5	1.8	13	1.8	6	34.2	55.8	19	84.1	23	7.4	73	65.3	219.8	96
a6	287.0	31	138.1	18	247.5	672.6	49	14.7	17	22.7	24	6.3	43.7	41
a7	4.0	2			63.6	67.6	2	26.3	22	6.7	44	13.1	46.1	66
a8	1,157.3	138	337.1	46	14.4	2,534.8	184	2.1	23	37.5	45	11.8	69.4	68
a9	486.7	90	42.8	49	1,132.4	221.9	139	26.1	24	19.0	19	2.8	65.9	43
a10	22.4	8	8.9	3	16.9	48.2	11							
b1	28.2	12	38.6	7	49.2	116.0	19			0.5	2	0.3	0.8	2
b2	45.6	13	3.0	2	4.6	89.2	15	4.4	4	0.5	1	4.4	9.3	5
b3	5.0	2			2.8	7.8	2							
b4		10		5	9.5	9.5	15	9.3		7.5		5.5	22.3	
b5	83.4	22	5.8	12	99.5	233.7	34	5.5	7	3.6	5	7.3	16.4	12
c1					6.4	6.4								
c2	1.0				16.4	26.4								
c3	11.1	4	68.9	8	2.7	1.7	12	3.2	6	2.3	4	4.6	1.1	10
c4	461.0	128	431.5	118	139.5	1,932.0	246	92.8	90	81.2	72	88.2	262.2	162
c5	1.7	13	27.8	4	73.3	111.8	17	3.1	5	2.1	3	3.4	8.6	8
d1	35.7	11	3.3	1	78.2	117.2	12	388.2	252	533.0	329	261.7	1,182.9	581
d2	9.3	6	3.4	1	48.4	61.1	7	59.7	50	63.4	49	71.2	194.3	99
d3	2.5	1	8.4	2	15.5	26.4	3	34.6	38	36.5	29	41.6	112.7	67
d4	255.4	26	93.4	9	8.0	428.8	35	29.1	28	39.1	34	14.6	82.8	62
d5	44.1	11	23.6	17	129.6	197.3	28	161.4	169	245.8	250	69.2	476.4	419
d6	2.4	1	5.3	2	5.2	12.9	3	19.7	17	2.4	19	28.4	68.5	36
d7	64.1	7	12.4	12	58.6	225.1	19	3.3	4	12.6	14	1.2	26.1	18
d8	43.7	11	4.4	7	111.9	196.0	18	385.2	329	324.6	285	126.6	836.4	614
d9			1.6	1	8.0	9.6	1	5.0	5			2.6	7.6	5
d10	1,477.7	306	942.4	190	1,712.0	4,132.1	496	13.7	154	86.8	104	6.0	277.5	258
d11	1,112.9	264	1,257.9	308	1,944.8	4,315.6	572	223.1	229	216.3	215	88.7	528.1	444
d12	451.4	86	63.4	99	118.6	219.4	185	51.5	60	4.0	51	3.9	122.4	111
d13	577.2	100	417.0	52	731.0	1,725.2	152	126.3	91	195.5	143	68.6	39.4	234
d14	4.6	10	31.1	13	93.0	128.7	23	6.5	10	4.2	9	2.9	13.6	19
d15	89.9	180	128.2	145	1,428.2	3,347.3	325	36.6	45	22.8	34	23.5	82.9	79
d16	3.1	10	35.6	6	13.8	169.5	16	2.3	3	4.4	3	4.9	11.6	6
d17	11.8	11	47.0	24	35.9	94.7	35	21.2	24	2.7	26	66.3	18.2	50
d18	94.4	26	43.9	10	299.4	437.7	36	423.7	435	444.3	460	95.9	963.9	895
合計	7,290.7	1,620	4,448.1	1,210	9,425.0	23,287.8	2,830	2,485.3	2,357	2,612.4	2,506	1,374.8	6,400.5	4,863

第 18 表　７号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
a2	3	40.0	58.0	9.5	4	36.5	55.3	8.2	6	20.9	22.8	1.2	12	24.7	23.8	1.3
a3					2	50.0	78.0	18.2	45	19.4	21.0	1.1	11	21.3	20.6	1.5
a4	8	44.6	69.5	13.0	3	46.3	72.3	16.8	2	51.4	16.5	0.4	10	19.9	20.2	0.7
a5									8	21.4	21.6	1.0	8	24.1	23.5	1.5
a6	2	45.0	66.5	11.8	5	44.8	72.6	13.6	3	20.3	20.0	1.0	4	23.8	22.8	1.3
a7									11	19.1	23.0	1.2	4	23.5	22.8	1.4
a8	28	52.4	82.4	23.6	4	31.5	55.0	7.5	4	21.9	22.0	1.1	4	25.0	24.5	1.3
a9	5	43.0	85.4	20.8	6	51.2	85.0	27.3	7	21.9	23.7	1.1	5	22.4	22.2	1.1
b1					2	47.0	86.5	12.6					1	16.0	18.0	0.4
b2	3	39.0	64.0	8.2	2	20.0	33.5	1.8	2	18.8	24.5	1.3	1	17.0	16.0	0.4
b4									9	23.8	21.3	0.9	3	25.0	23.7	1.4
b5	2	45.0	85.5	15.1	3	37.3	56.7	6.5								
c3					1	62.0	122.0	50.0								
c4					12	39.3	58.4	8.4								
c5									1	44.0	20.0	0.5	1	21.0	22.0	0.5
d1	1	35.0	52.0	9.0					69	13.3	22.7	1.8	32	27.4	26.9	2.3
d2									11	20.6	20.0	1.0				
d3									3	23.3	19.7	0.8	5	22.4	22.2	1.5
d4	3	52.7	99.7	28.1	2	43.5	71.5	18.2	7	21.1	19.0	0.9	6	20.5	20.3	1.2
d5	3	32.0	53.7	7.4	2	30.0	36.0	1.4	31	14.9	20.4	1.4	63	21.0	20.8	1.1
d6									4	21.9	21.0	0.9	3	21.0	20.7	1.1
d7	3	57.3	32.0	6.2									1	25.0	22.0	1.5
d8					2	37.5	52.5	9.3	42	16.2	23.8	1.5	26	23.3	22.9	1.3
d9					1	30.0	22.0	1.6								
d10	28	47.1	70.1	13.9	25	44.3	70.4	14.9	39	25.8	19.7	0.8	26	21.8	21.4	0.9
d11	16	46.4	82.9	20.3	19	70.6	40.8	13.7	61	20.9	21.2	1.1	63	22.9	22.2	1.1
d12					27	41.8	67.1	14.1	12	34.4	18.8	0.6				
d13	9	50.3	83.9	19.4	21	45.9	66.0	11.9	49	16.1	22.3	1.4	61	23.5	22.9	1.5
d14									6	25.0	18.2	0.7	6	16.2	16.3	0.5
d15	9	43.4	64.8	10.4	16	72.0	38.6	17.7	1	28.8	22.0	0.8	7	22.4	21.6	0.9
d16	1	35.0	56.0	4.5	1	50.0	65.0	16.4	2	60.0	17.5	0.3				
d17	1	53.0	26.0	2.5	2	30.0	19.0	0.7	13	23.4	20.1	0.9	5	21.4	19.4	0.9
d18					2	36.0	58.0	8.2	95	19.5	23.0	1.2	103	24.1	22.7	1.2
全体	124	47.3	74.0	16.7	164	48.5	60.0	13.5	543	18.3	21.7	1.2	471	23.1	22.4	1.3

（n：計測個体数／殻長・殻高：平均値、単位㎜／重量：平均値、単位 g）

第 19 表　7 号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

採取番号	ヒメベッコウマイマイ	ヒメベッコウマイマイ（幼貝）	ヒメコハクガイ	ヒメコハクガイ（幼貝）	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ（幼貝）	マルシタラカイ	合　計
a4	2		2					4
a5	1				2			3
a8	5				1	1		7
a9	5							5
c4	2	10	4	1		10		27
c5						1		1
d1	2	1				1		4
d4		1						1
d5	3	3	1		4			11
d8	1			1	3	1		6
d9				2				2
d10	2	3	6		1			12
d11	26	4	1		9	17	1	58
d12	5	1			1	2	1	10
d13	2			2				4
d15	12	2		1	2	2	4	23
d18		4	2		3	2	1	12
合計	68	29	16	7	26	37	7	190

第 20 表　7 号住居跡出土陸産貝類数量表

８号住居跡

遺　　構（第 40 図）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－３・４）グリッド。

［検出状況］19FP を切り、137 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：楕円形。**規模**：長軸 2.97m ／短軸 2.37m ／深さ 27㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：N―58°―W。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で全体的に軟弱である。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］２層に分層できた。マガキを主体とする混土貝層を検出した。

［貝　　層］貝層は大きく３つの範囲（貝①～③）で検出された。確認された貝類の種類と重量は、マガキ（677.0g）、ヤマトシジミ（26.6g）、ハマグリ（11.2g）、ウネナシトマヤガイ（1.6g）である（詳細は第 39 ～ 41 表を参照）。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ（7 個）、ヒメコハクガイ（4 個）、オカチョウジガイ（２個）、マルシタラカイ（１個）、ヒダリマキゴマガイ（19 個）が確認された（第 25 表）。貝類以外の動物遺存体は確認されなかった。

［遺　　物］縄文土器の深鉢、石皿が出土した。主要な遺物は、床面からは大分高い位置からの出土で、貝層の出土レベルも同じくらいである。分布範囲も重複するので、同時期に廃棄された可能性が考えられる。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯ａ式期）。

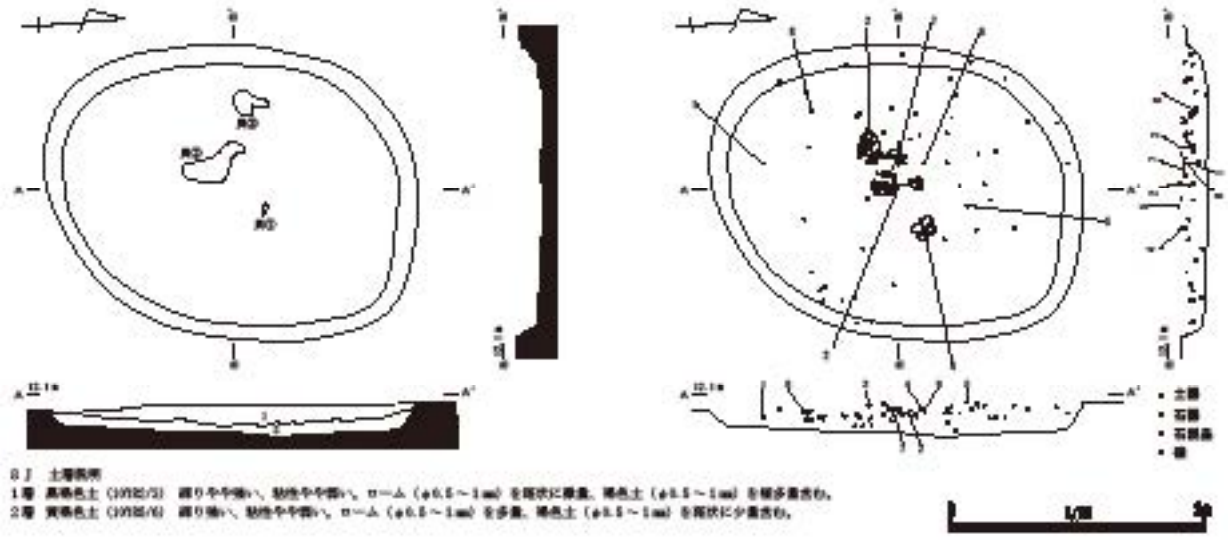
遺　　物（第 41 図、図版 55 －１、第 21 表）

［土　　器］（第 41 図１～７、図版 55 －１－１～７、第 21 表）

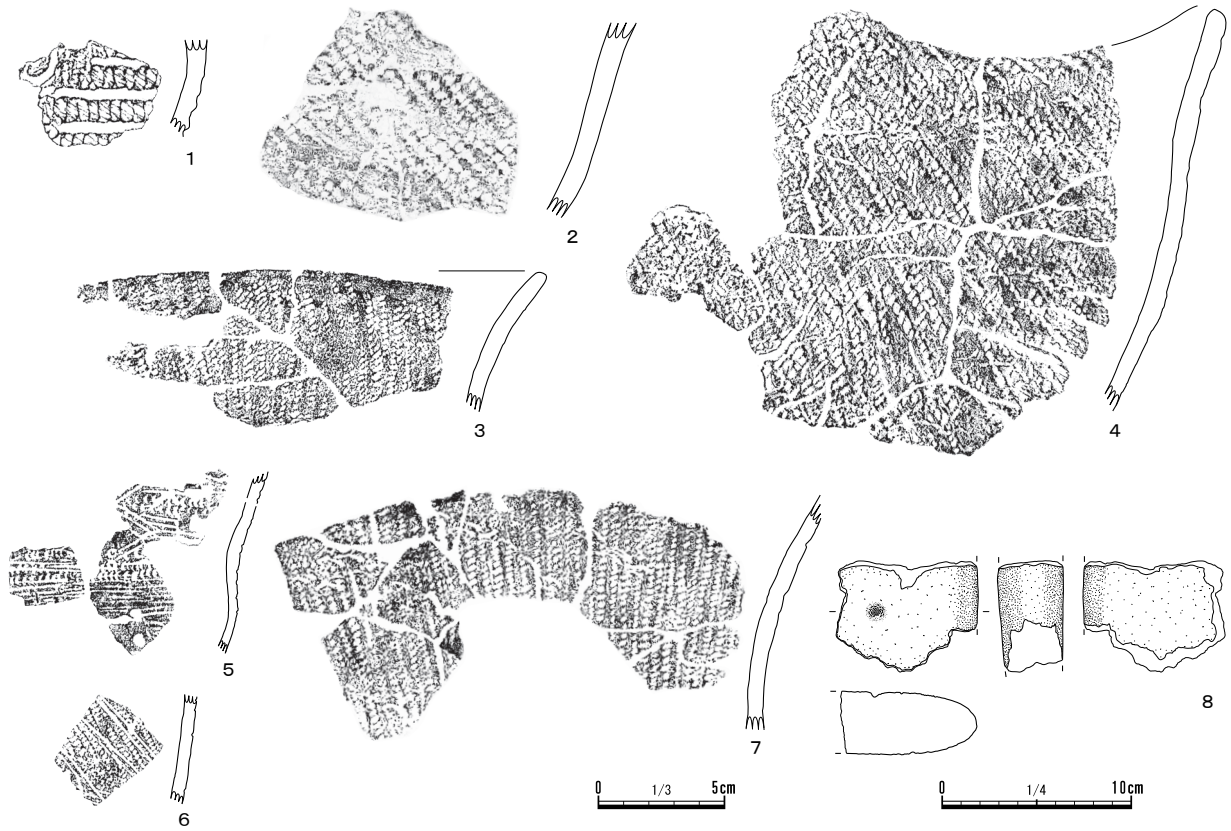
１・２は黒浜式の深鉢胴部、３・４は諸磯ａ式の深鉢口縁部、５は諸磯ａ式の小型の深鉢胴部、６・７は諸磯ａ式の深鉢胴部である。

［石 製 品］（第 41 図８、図版 55 －１－８、第 21 表）

８は石皿である。



第 40 図　８号住居跡・遺物出土状態（１／ 60）



第 41 図　８号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 41 図 1 図版 55- 1 -1	深鉢	南側の覆土中（床上 11 cm）	胴部片	厚 0.7	にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量	直前段多条ＲＬを軸縄にＬ・Ｌを付加する付加条縄文	黒浜式 繊維土器
第 41 図 2 図版 55- 1 -2	深鉢	中央の覆土中（床上 11・21cm）	胴部片	厚 0.8	明褐色	砂粒・白色粒子中量／小礫少量	縄文（ＲＬ）	黒浜式 繊維土器
第 41 図 3 図版 55- 1 -3	深鉢	中央西側の覆土中（床上 20cm）	口縁部片	厚 0.7	赤褐色	砂粒・白色粒子やや多量／長石・角閃石少量	斜縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 41 図 4 図版 55- 1 -4	深鉢	中央東側の覆土中（床上 17cm）	口縁部片	厚 0.8	赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・長石・石英・小礫中量	縄文（直前段多条、Ｒ｛Ｌ３｝）／３条のＬの内１本だけ細い／下部に結節／波状口縁	諸磯ａ式
第 41 図 5 図版 55- 1 -5	小型 深鉢	中央北側の覆土中（床上 23cm）	胴部片	厚 0.6	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	平行沈線／上部に２条の爪形文、中央部に爪形文、円形刺突	諸磯ａ式
第 41 図 6 図版 55- 1 -6	深鉢	中央西側の覆土中（床上 15cm）	胴部片	厚 0.5	褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	縄文（ＲＬ）→斜位平行沈線	諸磯ａ式
第 41 図 7 図版 55- 1 -7	深鉢	中央西側の覆土中（床上 17 ～ 18 cm）	胴部片	厚 0.7	赤褐色	砂粒やや多量・白色粒子。黒色粒子・長石・小礫中量	斜縄文（ＲＬ）／結節	諸磯ａ式

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 41 図 8 図版 55- 1 -8	石皿	南西側の覆土中（床上 8cm）	部分	安山岩	[75.1]	[58.4]	[33.2]	215.7	全体に大きく欠損／平端な石で表面に凹部がみられる／平滑面は見られない	

第 21 表　８号住居跡出土遺物一覧

採取番号	採取体積(cc)	採取重量(g)	マガキ(g)	ヤマトシジミ(g)	ハマグリ(g)	ウネナシトマヤガイ(g)	オオタニシ(g)	チリメンカワニナ(g)	マツカサガイ(g)	イシガイ(g)	合　計
貝①	100	36.0	2.5								2.5
貝②	4,700	2,619.0	566.8	14.4		1.0					582.2
貝③	1,200	691.0	107.7	12.2	11.2	0.6					131.7
合計	6,000	3,346.0	677.0	26.6	11.2	1.6					716.4

第 22 表　８号住居跡出土貝類計量表

採取番号	マガキ							ヤマトシジミ						
	左殻		右殻		不明	小計		左殻		右殻		不明	小計	
	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	重量 (g)	数量
貝①	0.2	2			2.3	2.5	2							
貝②	146.0	33	166.6	29	254.2	566.8	62	4.2	6	6.0	7	4.2	14.4	13
貝③	17.2	7	27.3	6	63.2	107.7	13	7.3	10	2.2	5	2.7	12.2	15
合計	163.4	42	193.9	35	319.7	677.0	77	11.5	16	8.2	12	6.9	26.6	28

第 23 表　８号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
貝②	6	39.7	70.0	9.5	4	43.0	72.8	13.9	2	21.4	22.5	1.1	1	25.0	25.0	1.2
貝③	1	45.0	65.0	8.7					3	24.2	20.7	0.9				
全体	7	40.4	69.3	9.4	4	43.0	72.8	13.9	5	23.0	21.4	0.9	1	25.0	25.0	1.2

（n：計測個体数／殻長・殻高：平均値、単位㎜／重量：平均値、単位 g）

第 24 表　８号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

採取番号	ヒメベッコウマイマイ	ヒメベッコウマイマイ（幼貝）	ヒメコハクガイ	ヒメコハクガイ（幼貝）	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ（幼貝）	マルシタラカイ	ヒダリマキゴマガイ	合　計
貝②	3	1	3	1		2	1	16	27
貝③	3							3	6
全体	6	1	3	1		2	1	19	33

第 25 表　８号住居跡出土陸産貝類数量表

９号住居跡

遺　構（第 42・43 図）

［位　置］（Ｅ・Ｆ－６・７）グリッド。

［検出状況］３道、315 Ｈ、７Ｓに切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸長方形。**規模**：長軸 5.01m／短軸 4.75m／深さ 26㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―42°―Ｅ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で全体的に軟弱である。貼床は１～７㎝の厚さで施されていた。**炉**：地床炉。中央北東側に位置する。平面形は楕円形。長軸 49㎝／短軸 37㎝／深さ 3㎝。中央部に被熱による赤化が確認できた。**柱穴**：Ｐ１からＰ３の３本が主柱穴と思われる。深さ 64 ～ 88㎝。覆土はローム粒・炭化物を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。Ｐ１・２において貝層を確認した。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　土］４層に分層できた。

［遺　物］縄文土器の深鉢、土器片錘、打製石斧、磨製石斧、砥石、軽石が出土した。

［貝　層］出土状況から、柱の抜き取りなどの後の窪地に貝を廃棄したものと考えらえる。確認された貝の種類と重量は、マガキ（2,426.6g）、ヤマトシジミ（1,398.8g）、ウネナシトマヤガイ（2.4g）、オオタニシ（17.7g）、チリメンカワニナ（21.1g）である（詳細は第 27 ～ 29 表参照）。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ（１個）、ニッポンマイマイ（1 個）が確認された。貝類以外の動物遺存体は確認されなかった。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯ａ～ｂ式期）。

遺　　物（第 44・45 図、図版 55 － 2、図版 56、第 26 表）

［土　　器］（第 44・45 図 1 ～ 29、図版 55 － 2 － 1 ～ 8、図版 56 － 9 ～ 29、第 26 表）

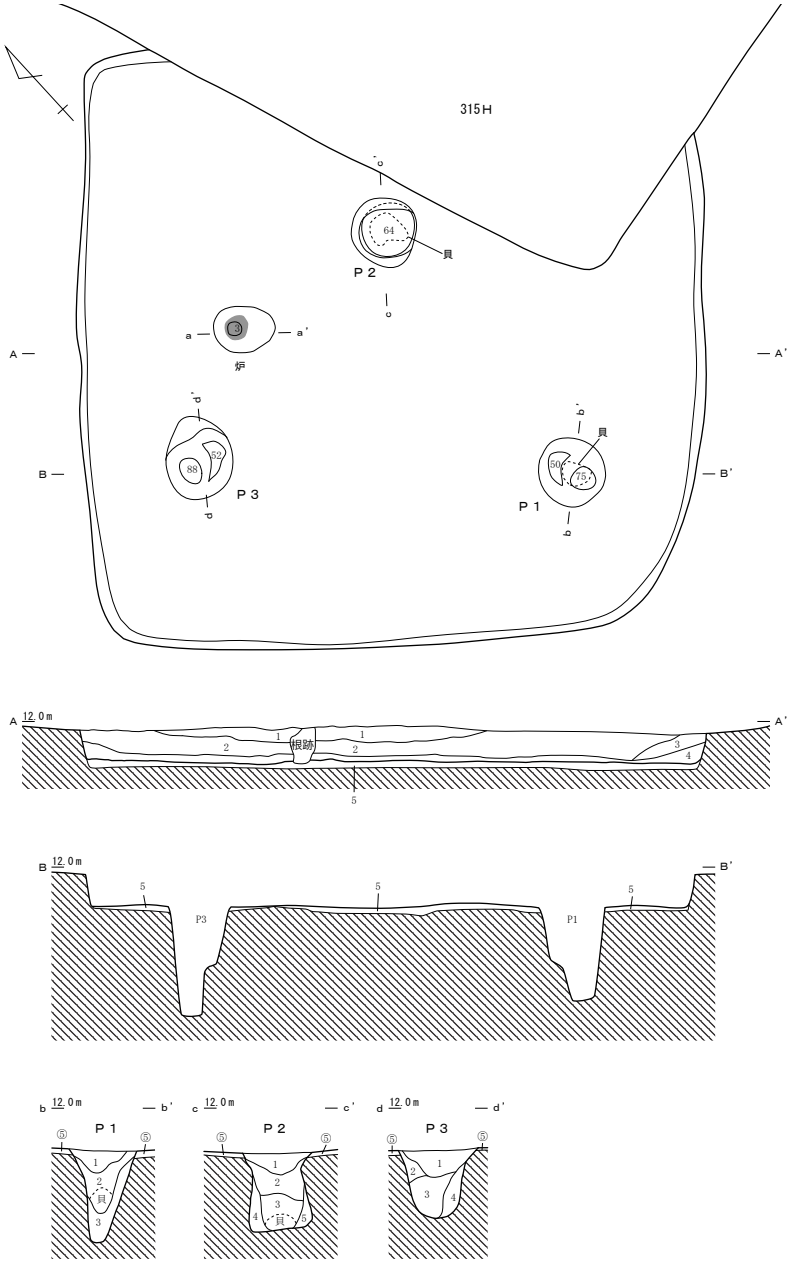
1 ～ 6 ・12 ～ 14 は諸磯ａ式の深鉢口縁部、15 ～ 23 諸磯ａ式の深鉢胴部、 7 ・ 8 は諸磯ａ式の深鉢底部、 9 は黒浜式の深鉢口縁部、10・11 は黒浜式の深鉢胴部、24・25 は諸磯ｂ式の深鉢口縁部、26 ～ 28 は諸磯ｂ式の深鉢胴部、29 は浮島式の深鉢底部付近である。

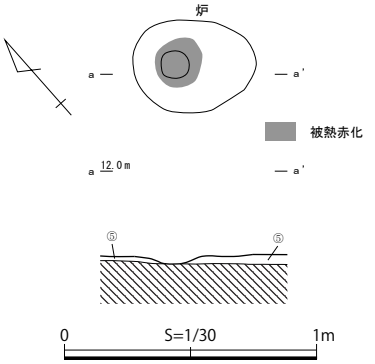
［土 製 品］（第 45 図 30・31、図版 56 － 30・31、第 26 表）

30 は諸磯ｂ式、31 は諸磯式の土器を用いた土器片錘である。

［石　　器］（第 45 図 32 ～ 36、図版 56 － 32 ～ 36、第 26 表）

32 は打製石斧、33・34 は磨製石斧、35 は砥石、36 は軽石である。





９J　土層説明

１層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

２層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

３層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ60 ～ 150㎜）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を多量含む。

４層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ50 ～ 150㎜）に中量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を中量含む。

５層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量含む。貼床。

Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、炭化物（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

２層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、貝を全体的に中量含む。

３層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、炭化物（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

２層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

３層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、貝を全体的に中量含む。

４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量、炭化物（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

５層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量含む。

Ｐ３　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を微量含む。

２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を多量含む。

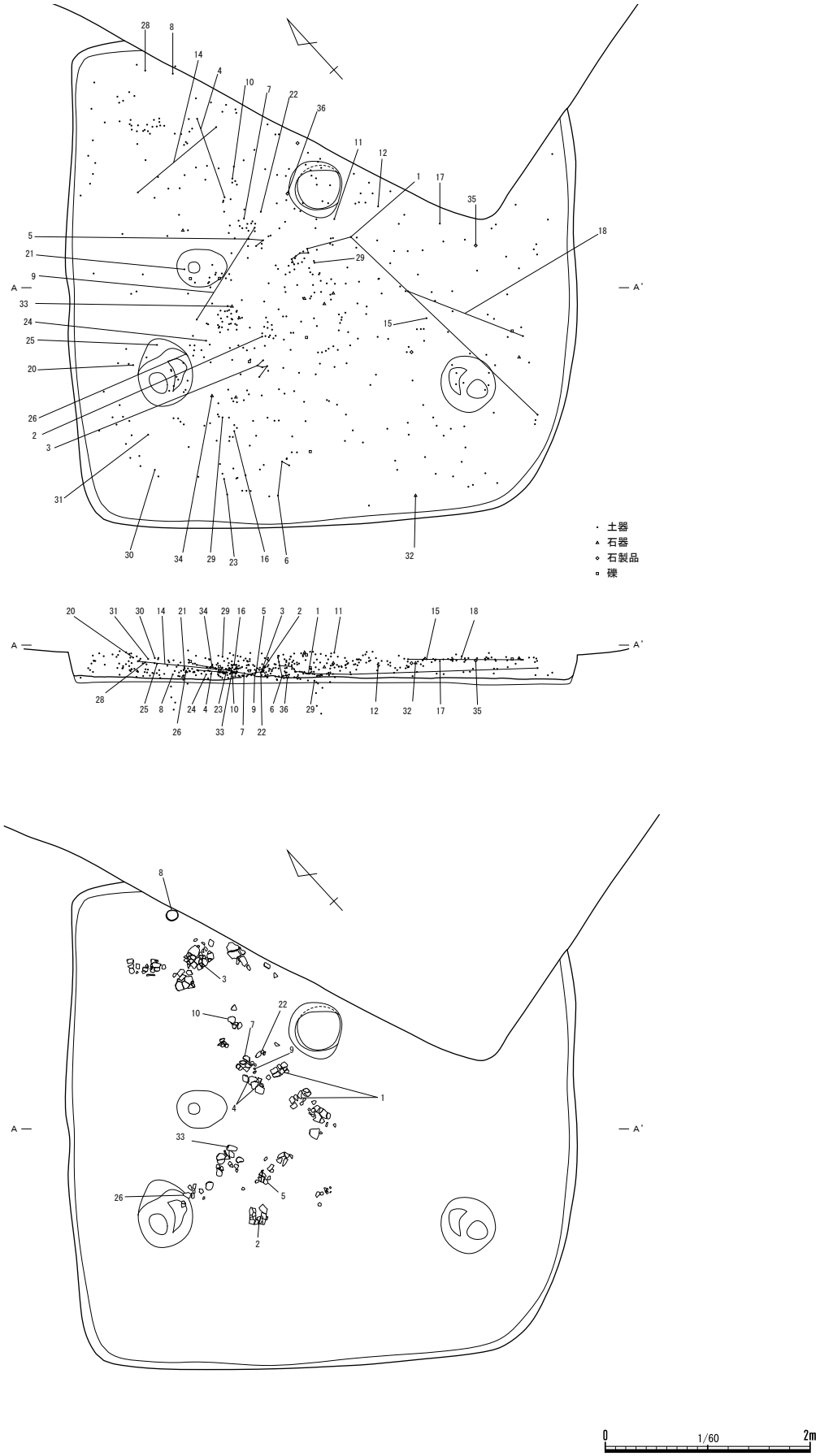
３層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

４層　褐色土（7.5YR4/6）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

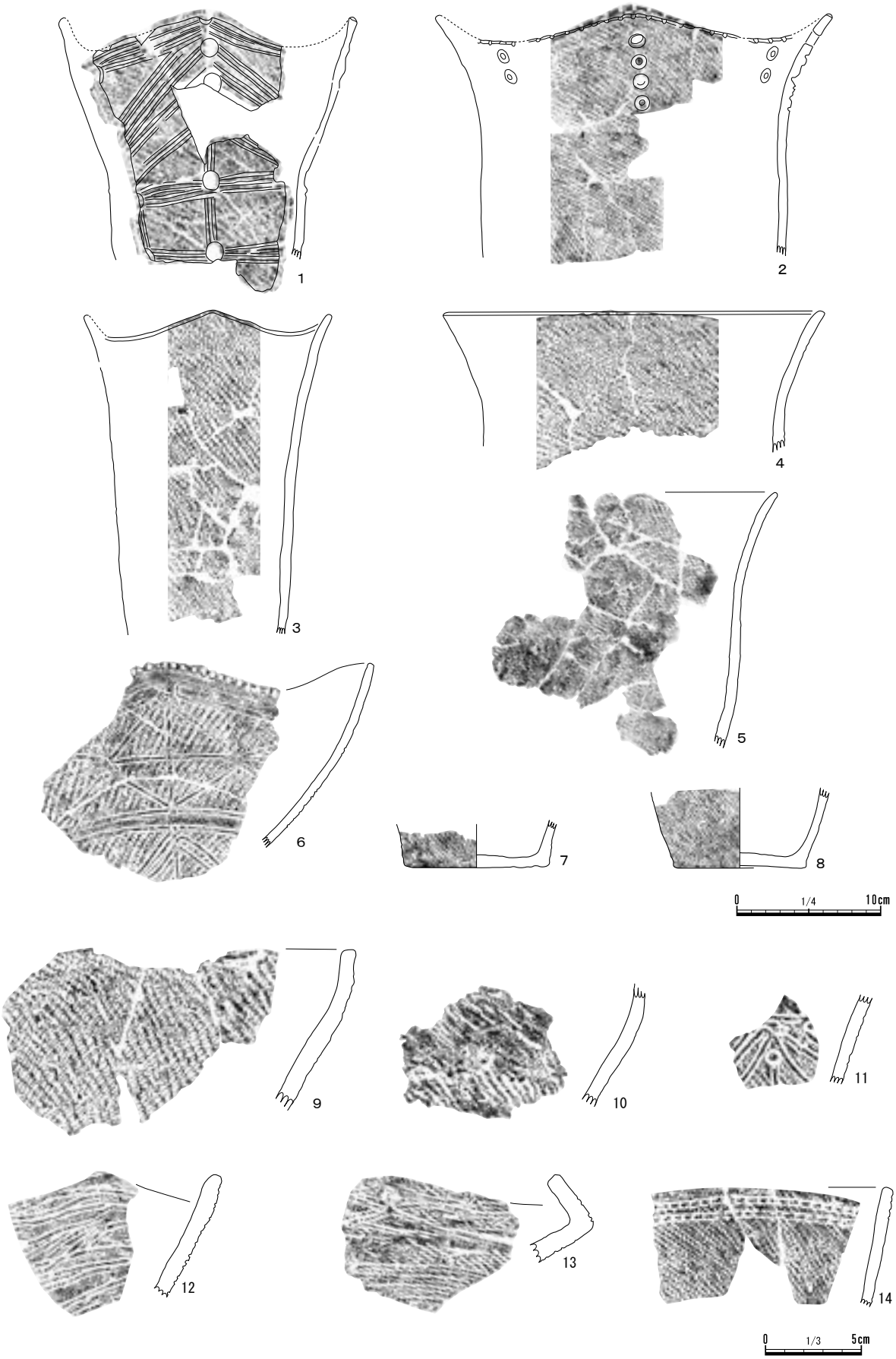
⑤: 住居５層

被熱赤化　0　1/60　2m

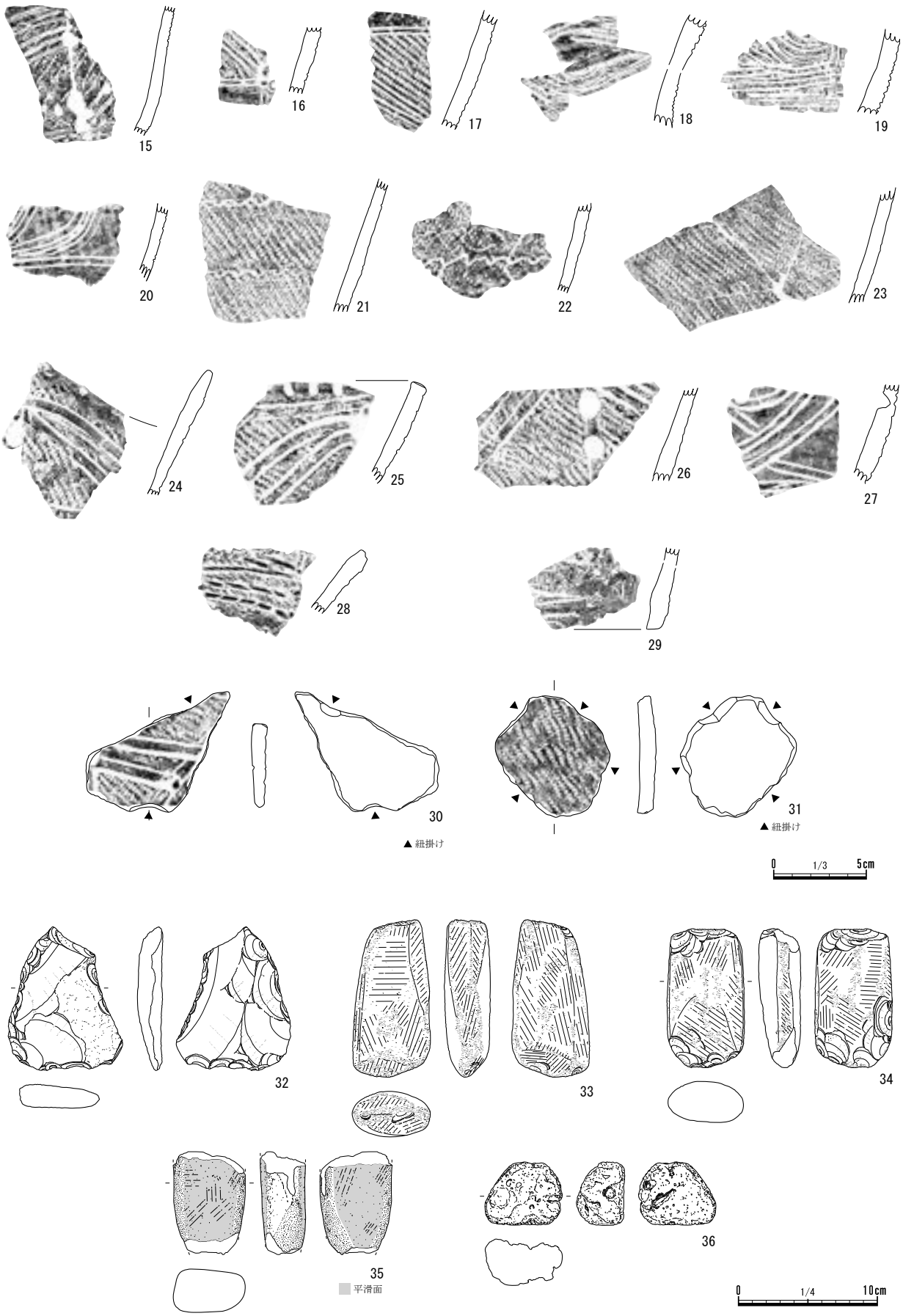
第 42 図　９号住居跡・炉跡（１／ 60・１／ 30）



第 43 図　９号住居跡遺物出土状態（１／60）



第 44 図　９号住居跡出土遺物１（１／３・１／４）



第 45 図　９号住居跡出土遺物２（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 44 図 1 図版 55-2-1	深鉢	ほぼ中央の床面上・覆土中（床上 4 ～ 10cm）、南コーナー付近の覆土中（床上 7 cm）	口縁～胴部 10%	高 [9.8] 口 (26.6)	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線米字か？＋交差に指による円形刺突	諸磯ａ式
第 44 図 2 図版 55-2-2	深鉢	中央西側の床面上・覆土中（床上 5 ～ 7cm）	口縁～胴部 20%	高 [16.7] 口 (27.6)	明赤褐色	砂粒・白色粒子中量	４単位の波状口縁／波状の山部分の下に円形穿孔１個と円形刺突が３個縦に並ぶ／波状の谷部分下に円形刺突	諸磯ａ式
第 44 図 3 図版 55-2-3	深鉢	北側の覆土中（床上３～ 5cm）	口縁～胴部 80%	高 [21.9] 口 17.2	にぶい赤褐色	砂粒多量／白色粒子中量	４単位の波状口縁／縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 44 図 4 図版 55-2-4	深鉢	中央北側の床面上・覆土中（床上 3・4cm）	口縁～胴部 20%	高 [16.7] 口 (27.6)	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石・長石・小礫少量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 44 図 5 図版 55-2-5	深鉢	中央西側の覆土中（床上 5cm）	口縁片	厚 0.7	暗赤褐色～にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子中量	縄文（ＲＬ）／３か所に結節	諸磯ａ式
第 44 図 6 図版 55-2-6	深鉢	南西壁付近の床面上・覆土中（床上 17cm）	口縁～胴部片	厚 0.6	明褐色	砂粒・白色粒子・長石・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線による米字文／交差に円形刺突／口縁部キザミ	諸磯ａ式
第 44 図 7 図版 55-2-7	深鉢	中央北側の床面上	胴～底部 10%	高 [3.1] 底 10	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	縄文（ＲＬ）／下部に結節あり	諸磯ａ式
第 44 図 8 図版 55-2-8	深鉢	北コーナー付近の床面上	胴～底部 10%	高 [5.2] 底 9.1	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 44 図 9 図版 56-9	深鉢	中央西側の床面上、西側の覆土中（床上 10cm）	口縁～胴部片	厚 1.0	赤褐色～黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・小礫中量	縄文（ＲＬ）	黒浜式 繊維土器
第 44 図 10 図版 56-10	深鉢	北側の覆土中（床上３cm）	胴部片	厚 0.7	橙色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・石英中量	縄文（無節Ｒ）	黒浜式 繊維土器
第 44 図 11 図版 56-11	深鉢	中央東側の覆土中（床上 22cm）	胴部片	厚 0.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・長石中量／角閃石少量	縄文（ＲＬ）／平行沈線、米字文か？／円形刺突	黒浜式 繊維土器
第 44 図 12 図版 56-12	深鉢	中央東側の覆土中（床上 9cm）	口縁部片	厚 0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子中量	集合沈線／波状口縁	諸磯ａ式
第 44 図 13 図版 56-13	浅鉢？	南側の覆土中	口縁部片	厚 1.0	にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・長石・石英中量	口縁上側に平行沈線／口縁下側、上部縄文（ＲＬ）、下部集合沈線／波状口縁	諸磯ａ式
第 44 図 14 図版 56-14	深鉢	北側の覆土中（床上 6・14cm）	口縁～胴部片	厚 0.6	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量	口縁部に２条の有節平行線／縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 45 図 15 図版 56-15	深鉢	中央南側の覆土中（床上 16cm）	胴部片	厚 0.6	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	縄文（ＬＲ）／平行沈線、米字文か？／三か所に指による円形刺突	諸磯ａ式
第 45 図 16 図版 56-16	深鉢	西側の覆土中（床上 11 cm）	胴部片	厚 0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／交差に円形刺突	諸磯ａ式
第 45 図 17 図版 56-17	深鉢	中央東側の覆土中（床上 14cm）	胴部片	厚 0.8	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／上部と下部に平行沈線	諸磯ａ式
第 45 図 18 図版 56-18	深鉢	南東側の覆土中（床上 15・16cm）	頸部片	厚 0.9	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	平行沈線	諸磯ａ式

第 26 表　９号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 45 図 19 図版 56-19	深鉢	覆土中	胴部片	厚　　1.0	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・小礫中量	平行沈線	諸磯ａ式
第 45 図 20 図版 56-20	深鉢	北西壁付近の覆土中（床上 17cm）	胴部片	厚　　0.6	灰黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	平行沈線	諸磯ａ式
第 45 図 21 図版 56-21	深鉢	炉範囲内の覆土中（床上 8cm）	胴部片	厚　　0.7	にぶい黄橙色～第	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／２か所に結節	諸磯ａ式
第 45 図 22 図版 56-22	深鉢	中央北側の覆土中（床上 3cm）	胴部片	厚　　0.7	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石・石英・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／１か所に結節	諸磯ａ式
第 45 図 23 図版 56-23	深鉢	南西壁付近の覆土中（床上 2・3cm）	胴部片	厚　　0.8	にぶい橙色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	縄文（ＲＬ）／下部に結節	諸磯ａ式
第 45 図 24 図版 56-24	深鉢	中央西側の覆土中（床上 4cm）	口縁部片	厚　　0.8	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／指による円形刺突／波状口縁	諸磯ｂ式
第 45 図 25 図版 56-25	深鉢	Ｐ３範囲内の覆土中（床上 11cm）	口縁部片	厚　　0.8	にぶい褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・角閃石・小礫中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／口縁部にキザミ	諸磯ｂ式
第 45 図 26 図版 56-26	深鉢	Ｐ３範囲内の覆土中（床上 4cm）	胴部片	厚　　0.8	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／指による円形刺突	諸磯ｂ式
第 45 図 27 図版 56-27	深鉢	覆土中	胴部片	厚　　1.0	暗褐色	砂粒・　白色粒子・黒色粒子・石英中量	平行沈線／内面に焼成後穿孔	諸磯ｂ式
第 45 図 28 図版 56-28	深鉢	北コーナー付近の覆土中（床上 13cm）	胴部片	厚　　0.7	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子中量	縄文（ＲＬ）／４か所に浮線文（キザミ）	諸磯ｂ式
第 45 図 29 図版 56-29	深鉢	中央の床面上	胴部片	厚　　0.9	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	横位沈線？	浮島式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 45 図 30 図版 56-30	土器片錘	西コーナー付近の覆土中（床上 17cm）	－	7.8	6.5	0.8	32.8	土器片を使用した錘／直角３角形を呈する／２か所に紐掛けがみられる	諸磯ｂ式
第 45 図 31 図版 56-31	土器片錘	西コーナー付近の覆土中（床上 16cm）	－	6.5	6.2	1.0	40.2	土器片を使用した錘／ひし形を呈する／４か所に紐掛けがみられる	諸磯式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 45 図 32 図版 56-32	打製石斧	南コーナー付近の覆土中（床上 12cm）	完形	ホルンフェルス	103.1	82.4	18.3	157.3	撥形／全体に辺縁部の調整のみで成形している	
第 45 図 33 図版 56-33	磨製石斧	中央西側の覆土中（床上 3cm）	基端部欠損	緑色岩	112.9	55.9	33.2	373.7	定角式磨製石斧／基端・刃部が欠損したのち、刃部は両面から剥離→敲打→研磨され、急角度であるが刃部を取り戻そうとしている／基端部は欠損後敲打でそのままの形状で研磨している	
第 45 図 34 図版 56-34	磨製石斧	西側の覆土中（床上 9cm）	基端・刃部欠損	緑色岩	100.1	55.9	30.4	298.3	幅広い定角式磨製石斧／基端・刃部欠損後、基端部は剥離と敲打を行う／刃部も同様で研磨には至っていない	
第 45 図 35 図版 56-35	砥石	東側の覆土中（床上 15cm）	上・下部欠損	砂岩	[74.1]	[51.9]	[32.7]	187.7	粗い砥石で自然石の平らな面を使用／幅は狭いが他部分より平滑になっている／風化が進んでいる	
第 45 図 36 図版 56-36	軽石	中央北側の床面上	完形	軽石	55.7	45.4	34.7	23.9	加工痕等なし	

第 26 表　９号住居跡出土遺物一覧（２）

採取番号	採取体積(cc)	採取重量(g)	マガキ(g)	ヤマトシジミ(g)	マシジミ(g)	ハマグリ(g)	ウネナシトマヤガイ(g)	オオタニシ(g)	チリメンカワニナ(g)	イシガイ(g)	合　計
Ｐ１	7,400	4,268	2,115.6	1,106.2			2.2	0.0			3,224.0
Ｐ２	3,000	1,580	311.0	292.6			0.2	17.7	21.1	4.5	647.1
合計	10,400	5,848	2,426.6	1,398.8			2.4	17.7	21.1	4.5	3,871.1

第 27 表　９号住居跡出土貝類計量表

採取番号	マガキ							ヤマトシジミ						
	左殻		右殻		不明	小計		左殻		右殻		不明	小計	
	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	重量(g)	数量
Ｐ１	949.8	48	642.6	81	523.2	2,115.6	129	540.6	218	487.6	206	78.0	1,106.2	424
Ｐ２	116.8	6	100.8	4	93.4	311.0	10	117.2	31	115.8	39	59.6	292.6	70
合計	1,066.6	54	743.4	85	616.6	2,426.6	139	657.8	249	603.4	245	137.6	1,398.8	494

第 28 表　９号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
Ｐ１	13	45.2	86.5	16.0	18	42.6	71.3	11.7	105	15.9	25.2	1.6	130	24.8	24.1	1.5
Ｐ２	3	43.3	74.3	11.4	2	51.0	81.5	21.7	21	10.0	26.0	2.6	24	25.2	23.9	1.5
全体	16	44.8	84.2	15.1	20	43.4	72.3	12.7	126	14.4	25.4	1.8	154	24.8	24.0	1.5

（n：計測個体数／殻長・殻高：平均値、単位㎜／重量：平均値、単位 g）

第 29 表　９号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

10 号住居跡

遺　　構（第 46・47 図）

［位　　置］（Ｄ－６・７）グリッド。

［検出状況］305 Ｈ、12 Ｔ、1115 Ｄに切られる。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸 5.70m ／短軸 3.25m ／深さ 36㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―８°―Ｗ。**壁溝**：検出した範囲で全周する。上幅 20 ～ 33㎝／下幅 7 ～ 11㎝／深さ 4 ～ 10㎝。**床面**：平坦で部分的に硬化していた。**炉**：中央北側と思われる場所に位置する。315 Ｈに削られ、被熱した範囲が残存していた。平面形は楕円形。長軸 131㎝／短軸 69㎝。中央部に被熱による赤化が確認できた。**柱穴**：Ｐ１からＰ３は主柱穴と思われる。深さ 55 ～ 67㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］縄文土器の深鉢、磨石が出土した。

［時　　期］縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅡ式期）。

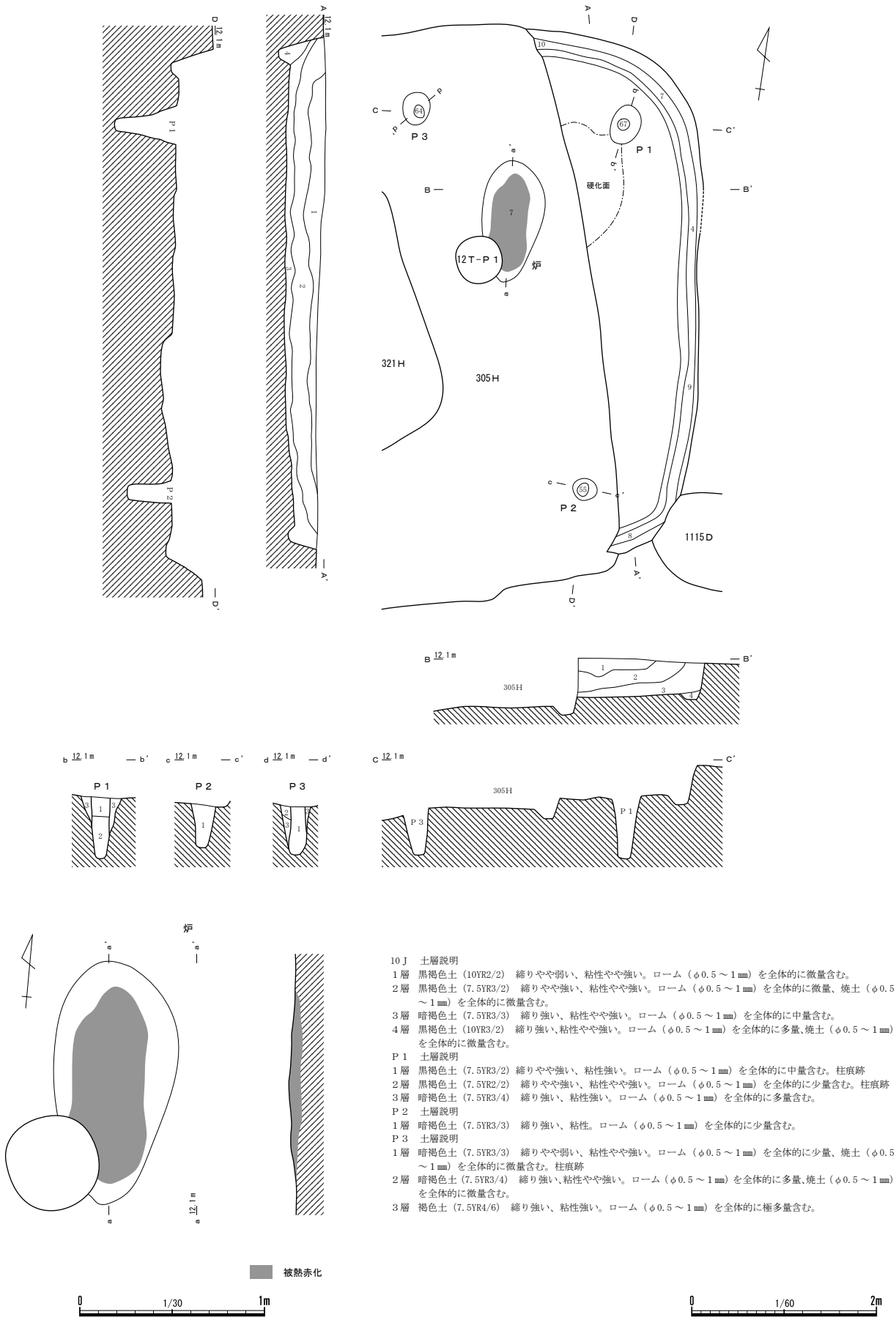
遺　　物（第 48 図、図版 57 －１、第 30 表）

［土　　器］（第 48 図１～５、図版 57 －１－１～５、第 30 表）

１は曽利式の深鉢口縁部、２は加曽利ＥⅡ式の深鉢口縁部、３～５は加曽利ＥⅡ式の深鉢胴部である。

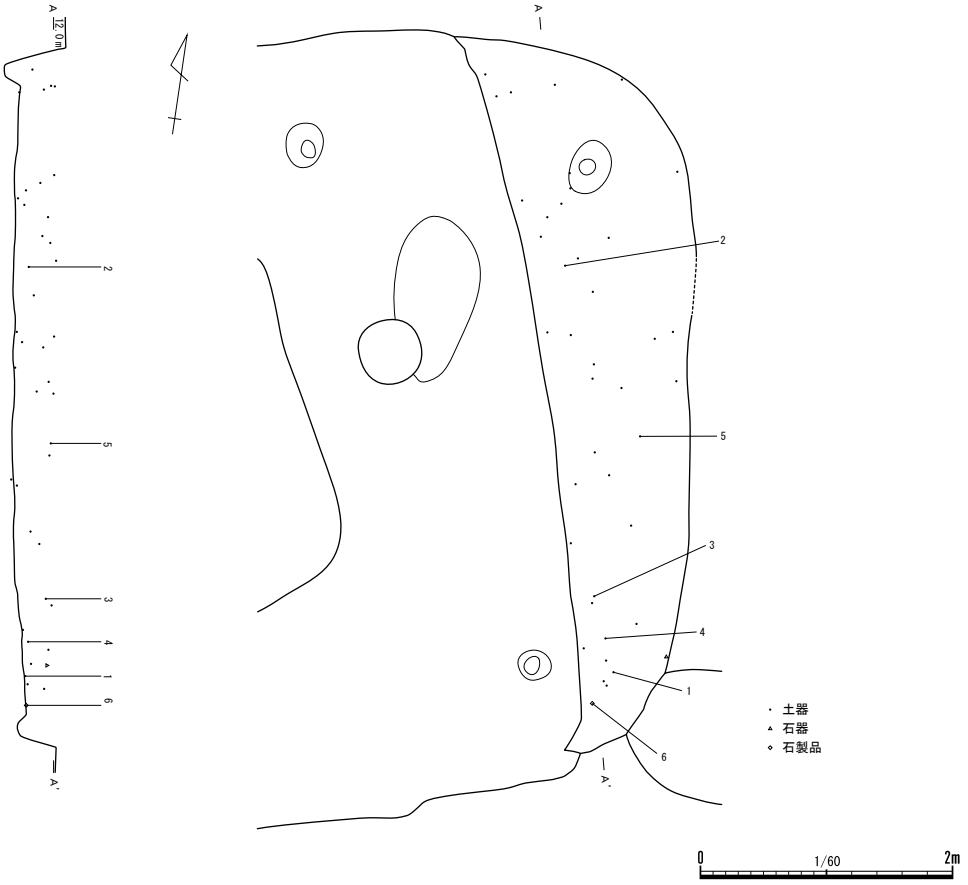
［石　　器］（第 48 図６、図版 57 －１－６、第 30 表）

６は磨石である。

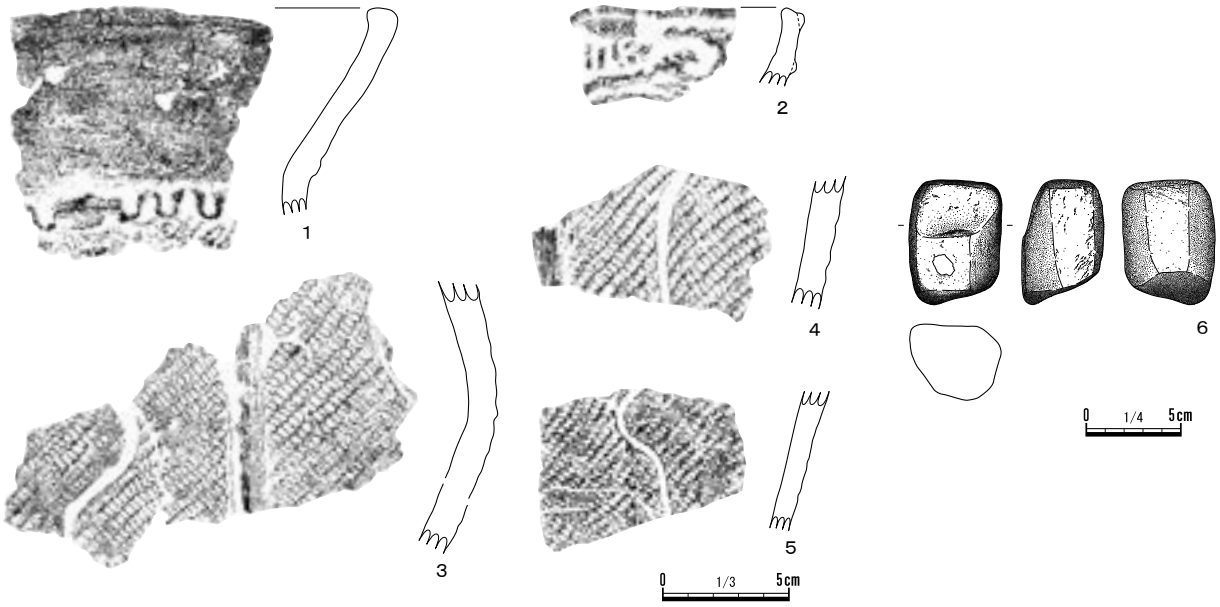


10Ｊ　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。
４層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。柱痕跡
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。柱痕跡
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

第 46 図　10 号住居跡・炉跡（1／60・1/30）



第 47 図　10 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）



第 48 図　10 号住居跡出土遺物（1 ／ 3 ・ 1 ／ 4）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 48 図 1 図版 57- 1 -1	深鉢	南東コーナー付近の床面上	口縁部片	厚　　1.0	灰褐色～褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量／角閃石少量	縄文（ＬＲ）／隆帯（上下交互にキザミ）	曽利式
第 48 図 2 図版 57- 1 -2	深鉢	北東側の覆土中（床上 16cm）	口縁部片	厚　　0.8	明赤褐色～灰黄褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	口唇部に沈線／口縁上部と下部に隆帯／口縁部に縦位沈線＋横Ｓ字	加曽利Ｅ Ⅱ式
第 48 図 3 図版 57- 1 -3	深鉢	南東コーナー付近の覆土中（床上 21cm）	胴部片	厚　　1.2	橙色～暗褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縦縄文（ＲＬ）／縦位隆帯	加曽利Ｅ Ⅱ式
第 48 図 4 図版 57- 1 -4	深鉢	南東コーナー付近の覆土中（床上 4cm）	胴部片	厚　　1.1	橙色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縦縄文（ＲＬ）／縦位隆帯／縦位沈線	加曽利Ｅ Ⅱ式
第 48 図 5 図版 57- 1 -5	深鉢	東壁中央付近の覆土中（床上 33cm）	胴部片	厚　　0.8	にぶい黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	縦縄文（ＲＬ）／蛇行する沈線	加曽利Ｅ Ⅱ式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 48 図 6 図版 57- 1 -6	磨石	南東コーナー付近の床面上	完形	ホルンフェルス	65.9	48.9	43.6	209.6	柱状の石器で、下面は平滑になっている	

第 30 表　10 号住居跡出土遺物一覧

11・13・14 号住居跡

遺　　構（第 49・50 図）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［検出状況］1098 Ｄ、310・318 Ｈに切られる。1114 Ｄと重複するが先後関係は不明である。

北側の調査区境で検出したため、住居の半分以上が調査区外である。３軒の住居の重複と思われる。11 Ｊが 13 Ｊを切り、13 Ｊが 14 Ｊを切る。

まず、各住居跡に限定できる事項を述べる。

11 号住居跡

［構　　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸 3.49m ／短軸 0.24m ／深さ 41cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―35°―Ｅ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で住居中央寄りの範囲が硬化していた。

［覆　　土］４層に分層できた。

13 号住居跡

［構　　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸 5.12m ／短軸 3.37m ／深さ 24cm。**壁**：緩やかに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―44°―Ｅ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で全体的に軟弱である。

［覆　　土］４層に分層できた。

14 号住居跡

［構　　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸 4.46m ／短軸 2.12m ／深さ－cm。**壁**：不明。**主軸方位**：Ｎ―22°―Ｗ。**壁溝**：検出した範囲で全周する。上幅 17 ～ 26cm／下幅６～ 10cm／深さ６～ 22cm。**床面**：13 Ｊに削られ残存していない。

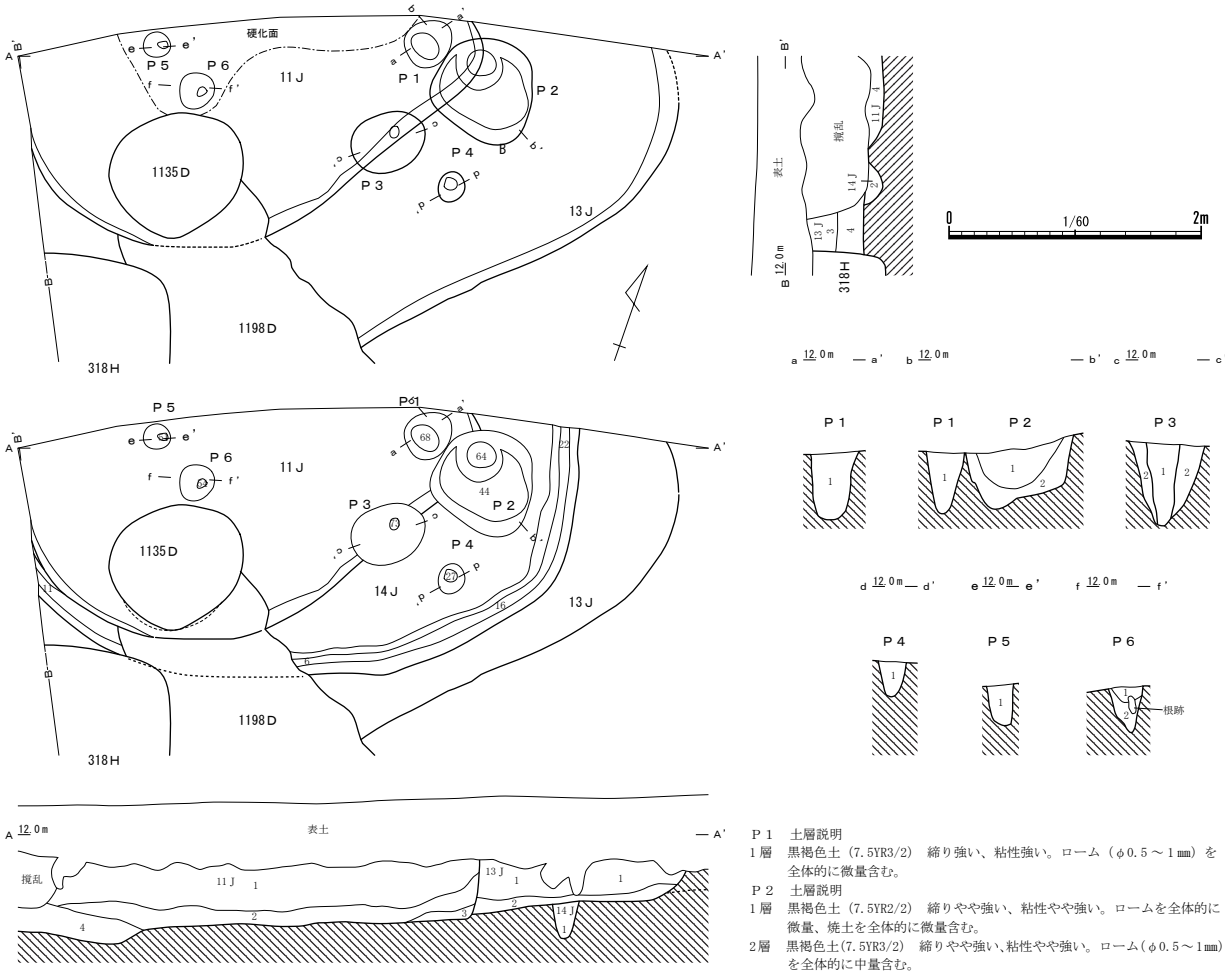
［覆　　土］２層に分層できた。

次に、各住居跡への帰属が困難な事項を述べる。

［構　　造］炉：検出されなかった。柱穴：Ｐ１からＰ６の６本を検出した。深さ 27 ～ 73㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。Ｐ２・３・４が 11 Ｊの外部に位置することから、11 Ｊには帰属しないと考えられる以外は、どの住居に帰属するかの判断はできなかった。入口施設：検出されなかった。

［遺　　物］縄文土器の深鉢、石皿・凹石が出土した。出土遺物を明確に遺構と結びつけることができなかった。遺物は大きく、縄文時代前期後半、中期初頭、中期後半の時期のものが出土している。

［時　　期］新旧関係と出土遺物の時期の分布を機械的に当てはめると、11 Ｊが縄文時代中期後半、13 Ｊが前期後半から中期初頭、14 Ｊが前期後半となるが、断定は難しいため、３軒の住居跡とも縄文時代前期後半から中期後半としておく。



11Ｊ　土層説明
1層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量含む。
2層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に多量、焼土(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に少量含む。
3層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に多量、焼土(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に微量含む。
4層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に極多量含む。

13Ｊ　土層説明
1層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に微量、焼土(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に微量含む。
2層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ロームを多量含む。
3層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。
4層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

14Ｊ　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ロームを中量、焼土を微量含む。
2層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）

Ｐ１　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

Ｐ２　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ロームを全体的に微量、焼土を全体的に微量含む。
2層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に中量含む。

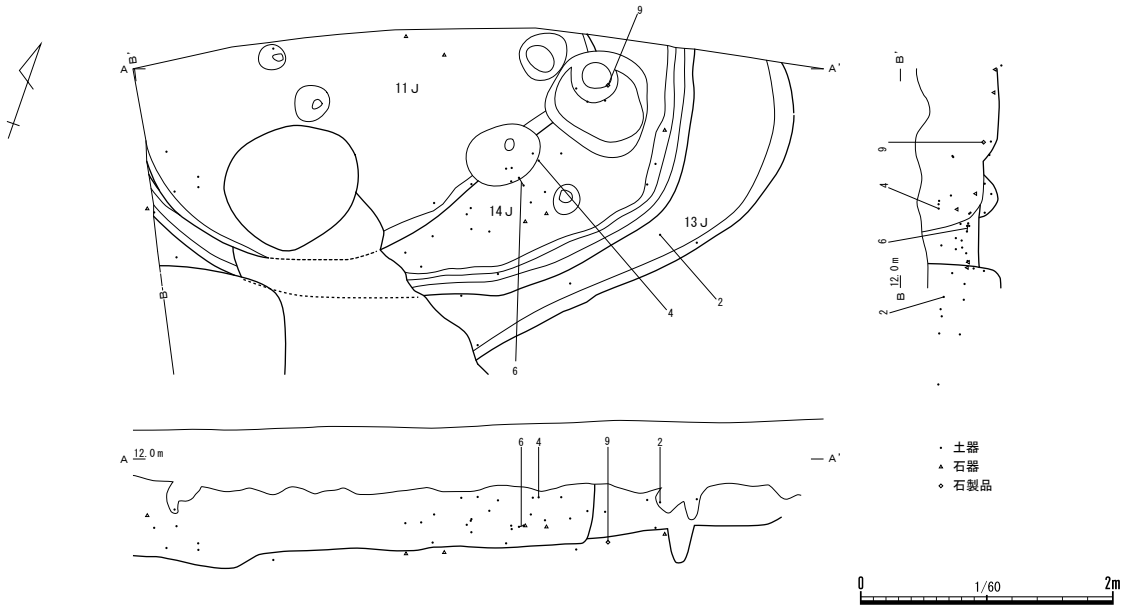
Ｐ３　土層説明
1層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に少量含む。
2層　黒褐色土（7.5YR2/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量含む。

Ｐ４　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量含む。

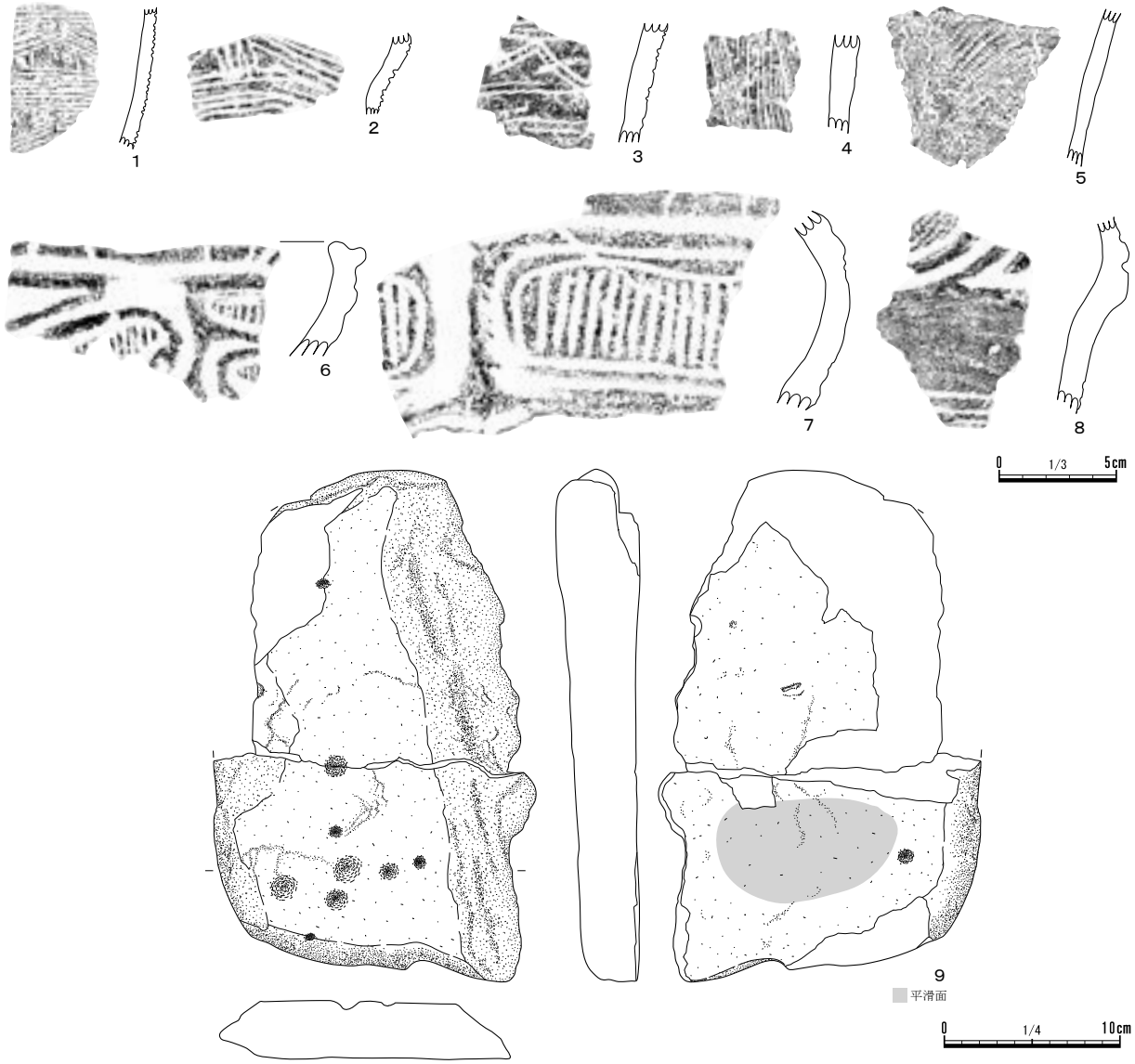
Ｐ５　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。

Ｐ６　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量含む。
2層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に極多量含む。

第 49 図　11・13・14 号住居跡（1／60）



第 50 図　11・13・14 号住居跡遺物出土状態（1／60）



第 51 図　11・13・14 号住居跡出土遺物（1／3・1／4）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第51図1 図版57-２-1	深鉢	覆土中	胴部片	厚　0.6	にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・長石中量	平行沈線、米字文か？	諸磯ａ式
第51図2 図版57-２-2	深鉢	13Ｊ南東壁付近（床上20cm）	胴部片	厚　0.7	赤褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子やや多量／赤色粒子・小礫中量	平行沈線	諸磯ａ式
第51図3 図版57-２-3	深鉢	覆土中	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子やや多量／赤色粒子・小礫中量	平行沈線、米字文か？	諸磯ａ式
第51図4 図版57-２-4	深鉢	Ｐ３際、13・14Ｊ範囲内の覆土中（13Ｊ床上36cm）	胴部片	厚　1.1	褐色～にぶい橙色	砂粒・白色粒子やや多量／赤色粒子・小礫中量	平行沈線	諸磯ｂ式以降
第51図5 図版57-２-5	深鉢	覆土中	胴部片	厚　0.7	にぶい赤褐色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・長石中量	縦縄文（ＲＬ）／３か所結節	五領ヶ台式
第51図6 図版57-２-6	深鉢	Ｐ３際、13・14Ｊ範囲内の覆土中（13Ｊ床上24･25cm）	口縁部片	厚　1.1	灰黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	口唇沈線／口縁部沈線区画、沈線充填	加曽利ＥⅠ式
第51図7 図版57-２-7	深鉢	覆土中	口縁部片	厚　1.2	明黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・角閃石・シャモット中量	沈線区画、縦位沈線充填	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式
第51図8 図版57-２-8	深鉢	覆土中	胴部片	厚　1.2	灰黄褐色～黒褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英中量	沈線区画、縄文（ＲＬ）充填	加曽利ＥⅠ～Ⅱ式

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第51図9 図版57-２-9	石皿・凹石	Ｐ２範囲内の覆土中（13Ｊのほぼ床面レベル）	80%	緑泥片岩	[290.7]	[183.2]	47.8	2677.4	表裏とも平端面に凹あり、裏面下部には平滑面を有する。	

第31表　11・13・14号住居跡出土遺物一覧

遺　物（第51図、図版57－２、第31表）

［土　器］（第51図１～８、図版57－２－１～８、第31表）

１～３は諸磯ａ式の深鉢胴部、４は諸磯ｂ式以降の深鉢胴部、５は五領ヶ台式の深鉢胴部、６は加曽利ＥⅠ式の深鉢口縁部、７は加曽利ＥⅠ～Ⅱ式の深鉢口縁部付近、８は加曽利ＥⅠ～Ⅱ式の深鉢胴部である。

［石　器］（第51図９、図版57－２－９、第31表）

９は石皿・凹石である。

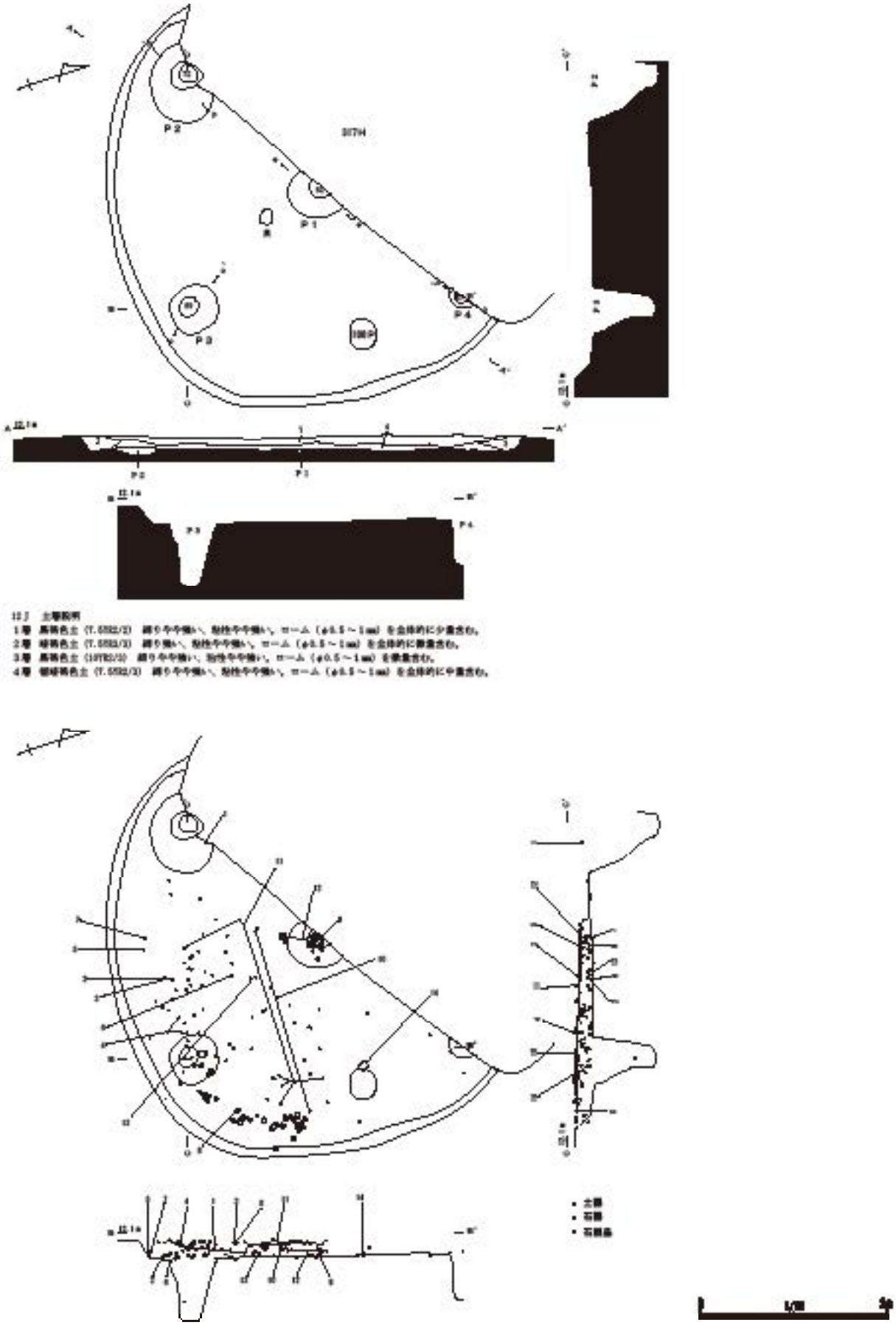
12号住居跡

遺　構（第52・53図）

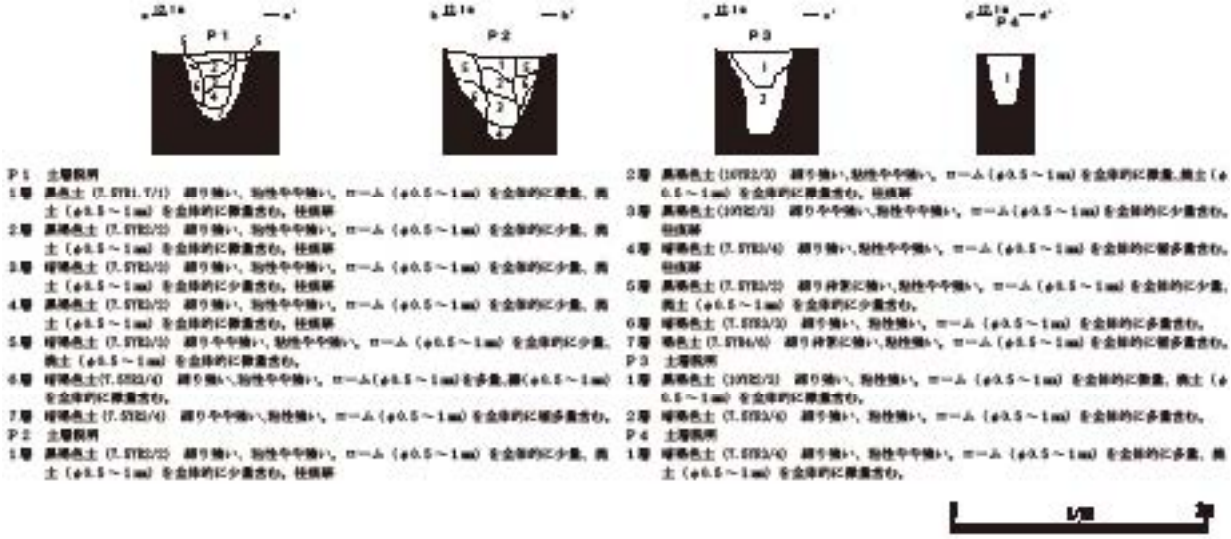
［位　置］（Ｃ・Ｄ－４）グリッド。

［検出状況］317Ｈ、188Ｐに切られる。

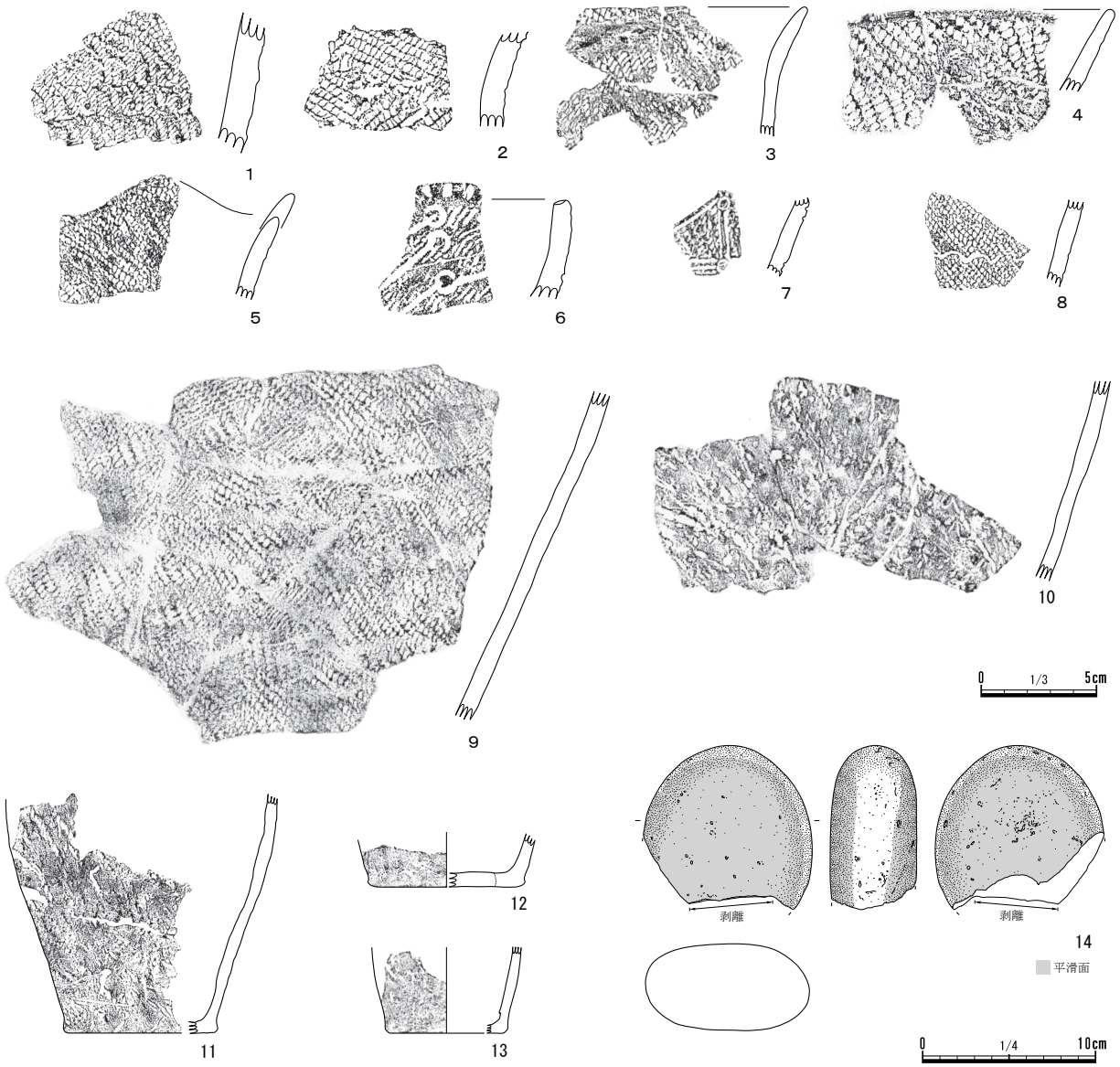
［構　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸4.29m／短軸4.24m／深さ17cm。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：N―72°―W。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で全体的に軟弱である。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：Ｐ１からＰ４は主柱穴と思われる。深さ27～72cm。覆土はローム粒・



第 52 図　12 号住居跡・遺物出土状態（１／60）



第 53 図　12 号住居跡（１／ 60）



第 54 図　12 号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

焼土粒を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］４層に分層できた。中央南側で貝層を検出した。

［貝　　層］確認された貝類の種類と重量はマガキ（62.2g）である。

［遺　　物］縄文土器の深鉢、磨石が出土した。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯ａ式期）。

遺　　物（第 54 図、図版 58 － 1 、第 32 表）

［土　　器］（第 54 図 1 ～ 13、図版 58 － 1 － 1 ～ 13、第 32 表）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 54 図 1 図版 58- 1 -1	深鉢	Ｐ２範囲内の覆土中（床上 12cm）	胴部片	厚　1.2	にぶい黄褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子中量	縄文（0 段多条ＲＬ）／ループ文	黒浜式 繊維土器
第 54 図 2 図版 58- 1 -2	深鉢	南壁中央付近の覆土中（床上 3cm）	胴部片	厚　1.1	明黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量	縄文（Ｌ）と縦縄文（ＬＲ）を用いた菱形文	黒浜式 繊維土器
第 54 図 3 図版 58- 1 -3	深鉢	中央南側の覆土中（床上 16cm）	口縁部片	厚　1.1	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 54 図 4 図版 58- 1 -4	深鉢	南壁中央付近の覆土中（床上 13 ～ 20cm）	口縁部片	厚　0.6	明黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英・角閃石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯ａ式
第 54 図 5 図版 58- 1 -5	深鉢	南壁中央付近の覆土中（床上 5cm）	口縁部片	厚　0.7	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子。石英中量	波状口縁／縄文（直前段多条、Ｒ｛Ｌ４｝）／４条のＬの内１本だけ細い	諸磯ａ式
第 54 図 6 図版 58- 1 -6	深鉢	南壁中央付近の覆土中（床面上）	口縁部片	厚　0.9	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	波状口縁／口縁部キザミ／縄文（ＬＲ？）／上部円形刺突→沈線／下部沈線	諸磯ａ式
第 54 図 7 図版 58- 1 -7	深鉢	南壁中央付近の覆土中（床上 3cm）	口縁部片	厚　0.7	にぶい褐色	砂粒やや多量／白色粒子中量	縄文（ＲＬ）／平行沈線／交差に円形刺突	諸磯ａ式
第 54 図 8 図版 58- 1 -8	深鉢	南東コーナー付近の覆土中（床上 16cm）	胴部片	厚　0.7	黒褐色～褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	縄文（ＲＬ）／２か所に結節	諸磯ａ式
第 54 図 9 図版 58- 1 -9	深鉢	Ｐ１範囲内の覆土中（床上２～ 7cm）	胴部片	厚　0.7	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・石英・長石・角閃石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯式
第 54 図 10 図版 58- 1 -10	深鉢	中央南西側・東壁付近の覆土中（床上 15 ～ 18 cm）	胴部片	厚　0.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／角閃石・雲母少量	付加条縄文（ＲＬ＋Ｌ）	諸磯式
第 54 図 11 図版 58- 1 -11	深鉢	中央南側・東側の覆土中（床上７～ 20cm）	胴部 5%	高　[13.7] 底　(8.8)	明褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	付加条縄文（ＲＬ＋Ｌか？）	諸磯式
第 54 図 12 図版 58- 1 -12	深鉢	Ｐ１範囲および周辺、床上 9cm	胴～底部 5%	高　[3.1] 底　(9.0)	赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子中量／長石・白色針状物質少量	無文	諸磯式
第 54 図 13 図版 58- 1 -13	深鉢	中央南側の覆土中（床上 7cm）	胴～底部 5%	高　[5.0] 底　(7.0)	褐色	砂粒多量／白色粒子・石英中量	無文	諸磯式

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 54 図 14 図版 58- 1 -14	磨石	東側のほぼ床面上	下部欠損	頁岩	[97.6]	[95.0]	[49.9]	723.8	緻密な石質で、非常に平滑な面を表裏面に持つ／下部を大きく欠損する／欠損後連続する細かい剥離が連続している	

第 32 表　12 号住居跡出土遺物一覧

１・２は黒浜式の深鉢胴部、３～６は諸磯ａ式の深鉢口縁部、７・８は諸磯ａ式の深鉢胴部、９・10 は諸磯式の深鉢胴部、11 ～ 13 は諸磯式の深鉢底部である。

［石　　器］（第 54 図 14、図版 58 － 1 － 14、第 32 表）

14 は磨石である。

（３）集石

６号集石

遺　　構（第 55 図、第 34 表）

［位　　置］（Ｉ・Ｊ－２）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面皿形。**規模**：1.28m × 1.03m。**深さ**：17㎝。**長軸方位**：Ｎ―９°―Ｗ。**覆土**：単層。炭化物を含む暗褐色土である。

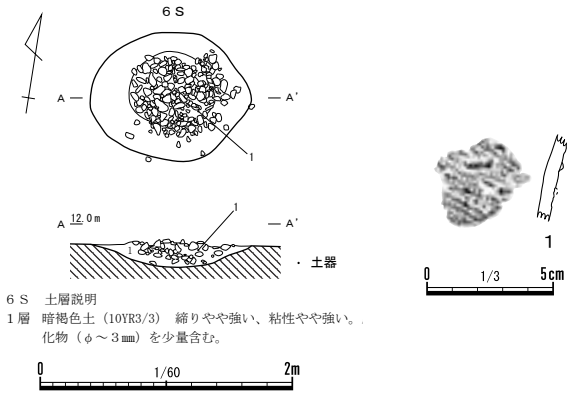
［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代前期。

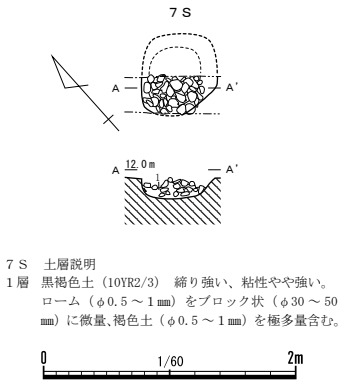
遺　　物（第 55 図、図版 58 － 2、第 33 表）

［土　　器］（第 55 図１、図版 58 － 2 － 1、第 33 表）

１は諸磯ｂ式の深鉢である。



第 55 図　６号集石・出土遺物
（１／60・１／３）



第 56 図　７号集石（１／60）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 55 図 1 図版 58- 2 -1	深鉢	底上 18㎝	胴部片	厚　　0.5	明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	縄文（ＲＬ）／浮線文（爪形文）	諸磯ｂ式

第 33 表　６号集石出土遺物一覧

遺　構	総点数	総重量 (g)	平均重量 (g)	完形数	焼成数	タール・煤 付着数	砂岩	チャート	ホルン フェルス	備　考
６ S	638	47,128.2	73.9	40 6.3%	526 82.4%	8 1.3%	577 90.4%	40 6.3%	21 3.3%	
７ S	83	12,218.3	147.2	20 24.1	61 73.5%	2 2.4%	79 95.2%	3 3.6%	1 1.2%	

第 34 表　集石出土礫観察表

７号集石

遺　　構（第 56 図、第 34 表）

［位　　置］（Ｆ－６）グリッド。

［構　　造］９Ｊを切る。９Ｊのベルトで検出したため、両端を欠く。平面楕円形と思われ、断面浅いＵ字形。**規模**：0.54m 以上× 0.52m 以上。**深さ**：17㎝。**長軸方位**：Ｎ―76°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］遺物は出土しなかった。

［時　　期］縄文時代前期後葉以降。

（４）炉穴

18 号炉穴

遺　　構（第 57 図）

［位　　置］（Ｈ－６・７）グリッド。

［構　　造］1096 Ｄを切る。平面楕円形、断面は不整な皿形。底面中央が被熱により赤化する。**規模**：1.17m × 0.83m。**深さ**：19㎝。**長軸方位**：Ｎ―44°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。焼土粒を含む極暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］縄文時代早期か。

19 号炉穴

遺　　構（第 57 図）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド。

［構　　造］８Ｊ、140 Ｐに切られる。平面不整形、断面皿形。遺構中央の底面が被熱により赤化する。**規模**：2.48m × 2.04m。**深さ**：42㎝。**長軸方位**：Ｎ―64°―Ｗ。**覆土**：７層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代前期。

遺　　物（第 58 図、図版 58 －３、第 35 表）

［土　　器］（第 58 図１～３、図版 58 －３－１～３、第 35 表）

１は縄文時代早期の深鉢胴部、２は黒浜式の深鉢胴部、３は諸磯ａ式の深鉢胴部である。

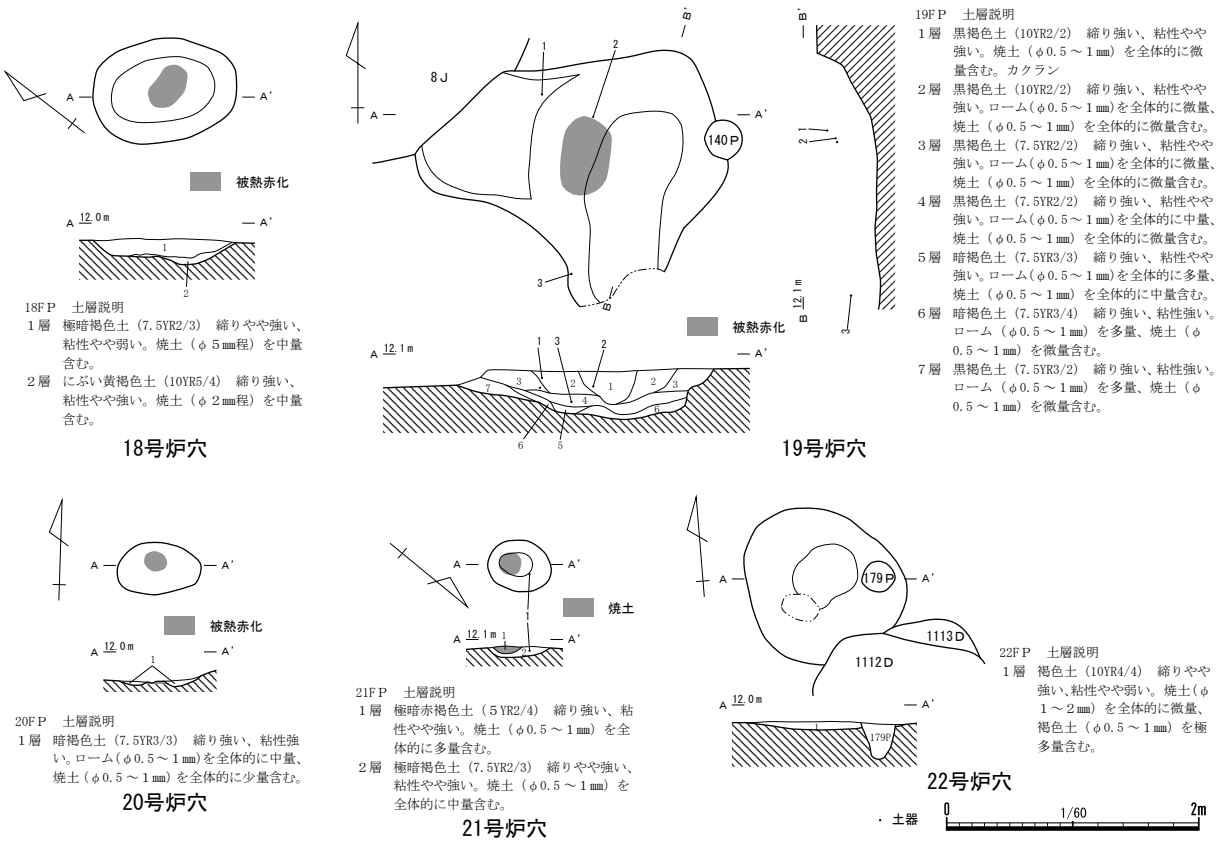
20 号炉穴

遺　　構（第 57 図）

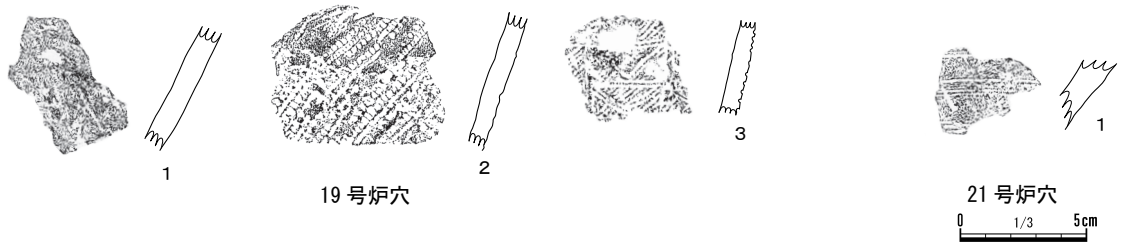
［位　　置］（Ｅ－５）グリッド。

［構　　造］10 Ｙに切られる。平面楕円形、断面緩いＷ字形。中央部が赤化する。被熱した部分が硬化し残ったのか、周囲より一段高くなっている。**規模**：0.67m × 0.42m。**深さ**：８㎝。**長軸方位**：Ｎ―88°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒、焼土粒を含む暗褐色土である。

［遺　　物］出土しなかった。



第 57 図　炉穴（１／60）



第 58 図　炉穴出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 58 図 1 図版 58- ３-1	深鉢	底上 21㎝	胴部片	厚　　0.9	赤褐色～暗赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	無文	早期 繊維土器
第 58 図 2 図版 58- ３-2	深鉢	底上 40㎝	胴部片	厚　　0.8	にぶい褐色～橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	縄文（ＬＲ）	黒浜式 繊維土器
第 58 図 3 図版 58- ３-3	深鉢	底上 33㎝	胴部片	厚　　0.7	褐色～黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・長石中量	縄文（ＬＲ？）／平行沈線、米字文か？	諸磯ａ式

第 35 表　19 号炉穴出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 58 図 1 図版 58- ３-1	深鉢	底上 5㎝	胴部片	厚　　1.0	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・長石中量／角閃石少量	横位擦痕調整	前期後半

第 36 表　21 号炉穴出土遺物一覧

［時　　期］縄文時代早期か。

21 号炉穴

遺　　構（第 57 図）

［位　　置］（Ｃ－４・５）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面皿形。**規模**：0.51m × 0.41m。**深さ**：９㎝。**長軸方位**：Ｎ―19°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。焼土を主体とする極暗赤褐色土と焼土粒を含む極暗褐色土が堆積する。

［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代前期後半。

遺　　物（第 58 図、図版 58 －３、第 36 表）

［土　　器］（第 58 図１、図版 58 －３－１、第 36 表）

１は縄文時代前期後半の深鉢胴部である。

22 号炉穴

遺　　構（第 57 図）

［位　　置］（Ｈ・Ｉ－７・８）グリッド。

［構　　造］1112･1113 Ｄ、179 Ｐに切られる。1103 Ｄと重複するが、先後関係は不明。平面楕円形、断面皿形。底面中央が被熱し硬化するが、赤化には至らず。**規模**：1.33m × 1.19m。**深さ**：８㎝。**長軸方位**：Ｎ―38°―Ｗ。**覆土**：単層。焼土粒を含む褐色土である。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］縄文時代期早期か。

（５）土坑

1086 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｊ－２）グリッド。

［構　　造］301 Ｈに切られる。平面楕円形、断面浅いＵ字形。**規模**：1.04m × 0.89m。**深さ**：21㎝。**長軸方位**：Ｎ―75°―Ｅ。**覆土**：３層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器が出土した。

［時　　期］縄文時代。

1095 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｉ－３・４）グリッド。

［構　　造］５Ｊに切られる。平面楕円形、断面Ｕ字形。**規模**：1.43m × 1.22m。**深さ**：44㎝。**長軸方位**：Ｎ―12°―Ｅ。**覆土**：５層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器の深鉢、磨製石斧、石皿が出土した。

［時　　期］縄文時代前期後葉（諸磯式期）。

遺　　物（第 61 図、図版 59 － 1 、第 37 表）

［土　　器］（第 61 図 1 ～ 3 、図版 59 － 1 － 1 ～ 3 、第 37 表）

1 は諸磯ａ式の深鉢胴部、２は諸磯ｂ式の深鉢胴部、３は諸磯式の深鉢胴部である。

［石 製 品］（第 61 図 4 ・ 5 、図版 59 － 1 － 4 ・ 5 、第 37 表）

4 は磨製石斧、５は石皿である。

1096 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｈ－６・７）グリッド。

［構　　造］１方、18 ＦＰ、1097 Ｄに切られる。不整楕円形、断面概ね箱形。**規模**：1.38m 以上× 1.19m。**深さ**：33㎝。**長軸方位**：Ｎ―21°―Ｅ。**覆土**：７層に分層。焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代早期～前期。

遺　　物（第 62 図、図版 59 － 2 、第 38 表）

［土　　器］（第 62 図 1 ～ 3 、図版 59 － 2 － 1 ～ 3 、第 38 表）

１・２は縄文時代早期の深鉢胴部、３は諸磯式の深鉢胴部である。

1097 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｈ－７）グリッド。

［構　　造］1096 Ｄを切る。平面楕円形、断面箱形。**規模**：0.72m × 0.63m。**深さ**：50㎝。**長軸方位**：Ｎ―69°―Ｗ。**覆土**：３層に分層。ローム粒、焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代中期後半。

遺　　物（第 63 図、図版 59 － 3 、第 39 表）

［土　　器］（第 63 図 1 、図版 59 － 3 － 1 、第 39 表）

1 は縄文時代中期後半の深鉢胴部である。

1103 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｈ－７・８）グリッド。

［構　　造］22 ＦＰと重複するが、先後関係は不明。平面楕円形、断面皿形。**規模**：1.39m × 1.08m。**深さ**：19㎝。**長軸方位**：Ｎ―２°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒、褐色土粒を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］縄文時代。

1104 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｈ－８）グリッド。

［構　　造］69 Ｍに切られる。平面楕円形、断面皿形。**規模**：1.09m × 0.85m 以上。**深さ**：17㎝。**長軸方位**：Ｎ―５°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む暗褐色である。

［遺　　物］縄文土器が出土した。

［時　　期］縄文時代。

1105 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

［構　　造］単独。平面円形、断面逆台形。**規模**：1.15m × 1.11m。**深さ**：21㎝。**長軸方位**：Ｎ―35°―Ｅ。**覆土**：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器が出土した。

［時　　期］縄文時代。

1107 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ－６）グリッド。

［構　　造］単独。平面不整楕円形、断面概ね箱形。**規模**：1.29m × 1.11m。**深さ**：49㎝。**長軸方位**：Ｎ―87°―Ｗ。**覆土**：５層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］縄文時代。

1114 号土坑

遺　　構（第 59 図）

［位　　置］（Ｂ－３）グリッド。

［構　　造］1098 Ｄに切られる。11 Ｊと重複するが先後関係は不明。平面楕円形、断面箱形。**規模**：1.07m × 0.95m。**深さ**：74㎝。**長軸方位**：Ｎ―44°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器が出土した。

［時　　期］縄文時代。

1116 号土坑

遺　　構（第 60 図）

［位　　置］（Ｅ－５）グリッド。

［構　　造］10 Ｙに切られる。平面楕円形。断面皿形。**規模**：1.59m × 1.12m。**深さ**：15㎝。**長軸方位**：Ｎ―67°―Ｅ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］縄文時代。

1117 号土坑

遺　構（第 60 図）

［位　置］（Ｊ－９）グリッド。

［構　造］151・152 Ｐに切られる。平面円形、断面皿形。規模：1.37m × 1.33m。深さ：23㎝。長軸方位：Ｎ―49°―Ｅ。覆土：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　物］縄文土器が出土した。

［時　期］縄文時代。

1121 号土坑

遺　構（第 60 図）

［位　置］（Ｈ－９）グリッド。

［構　造］単独。平面楕円形、断面概ねＶ字形。規模：1.43m × 1.15m。深さ：59㎝。長軸方位：Ｎ―76°―Ｗ。覆土：６層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　期］縄文時代前期。

遺　物（第 64 図、図版 59 － 4 、第 40 表）

［土　器］（第 64 図１・２、図版 59 － 4 － 1 ・２、第 40 表）

１は縄文時代早期前半の深鉢胴部、２は縄文時代前期の深鉢胴部である。

1125 号土坑

遺　構（第 60 図）

［位　置］（Ｄ－４）グリッド。

［構　造］単独。平面楕円形、断面概ね箱形。規模：1.68m × 1.6m。深さ：38㎝。長軸方位：Ｎ―70°―Ｗ。覆土：４層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　物］縄文土器の深鉢、敲石、石鏃が出土した。

［時　期］縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ式期）。

遺　物（第 65 図、図版 95 － 5 、第 41 表）

［土　器］（第 65 図１～４、図版 59 － 5 － 1 ～４、第 41 表）

１は黒浜式の深鉢胴部、２は曽利Ｉｂ式の深鉢胴部、３は縄文時代中期の深鉢口縁部、４は諸磯式の深鉢底部である。

［石 製 品］（第 65 図５・６、図版 59 － 5 － 5 ・６、第 41 表）

５は敲石、６は石鏃である。

1127 号土坑

遺　構（第 60 図）

［位　置］（Ｆ－８）グリッド。

［構　造］69 Ｍに切られる。平面楕円形、断面浅いＵ字形。規模：2.03m 以上× 1.76m 以上。深さ：30㎝。長軸方位：Ｎ―51°―Ｗ。覆土：３層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。
［時　　期］縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ式期）。
遺　　物（第 66 図、図版 59 － 6 、第 42 表）
［土　　器］（第 66 図１～２、図版 59 － 6 － 1 ～２、第 42 表）
　１は加曽利ＥⅠ式の深鉢口縁部、２は加曽利Ｅ式の深鉢胴部である。

1128 号土坑

遺　　構（第 60 図）
［位　　置］（Ⅰ－７）グリッド。
［構　　造］単独。平面楕円形、断面皿形。**規模**：1.04m × 1.01m。**深さ**：19㎝。**長軸方位**：N―79°―Ｅ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器が出土した。
［時　　期］縄文時代。

1129 号土坑

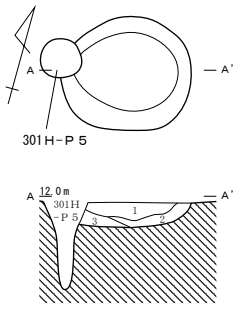
遺　　構（第 60 図）
［位　　置］（Ｈ－７）グリッド。
［構　　造］単独。平面円形、断面皿形。**規模**：1.04m × 1.01m。**深さ**：13㎝。**長軸方位**：N―67°―Ｅ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器が出土した。
［時　　期］縄文時代。

1130 号土坑

遺　　構（第 60 図）
［位　　置］（Ｈ－８）グリッド。
［構　　造］187 Ｐに切られる。平面楕円形、断面概ね逆台形。**規模**：1.30m × 0.65m。**深さ**：21㎝。**長軸方位**：N―14°―W。**覆土**：単層。ローム粒を含む褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器が出土した。
［時　　期］縄文時代。

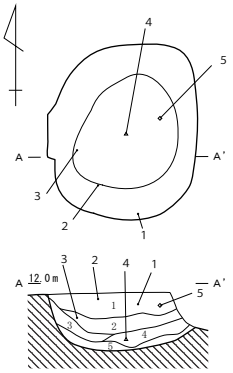
1131 号土坑

遺　　構（第 60 図）
［位　　置］（Ｇ－８）グリッド。
［構　　造］単独。平面不整楕円形、断面不整形。坑底　が円形に一段下がる。**規模**：1.17m × 0.58m。**深さ**：52㎝。**長軸方位**：N―44°―Ｅ。**覆土**：３層に分層。褐色土粒を含む暗褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器が出土した。
［時　　期］縄文時代前期後葉。
遺　　物（第 67 図、図版 59 － 7、第 43 表）



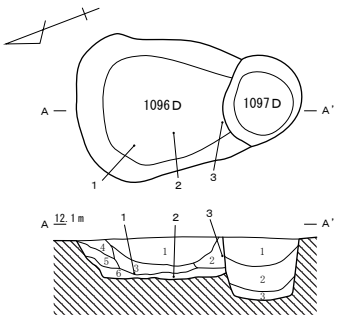
1086D　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。だみー
２層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～5㎜）を全体的に微量含む。だみー
３層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。だみー

1086号土坑



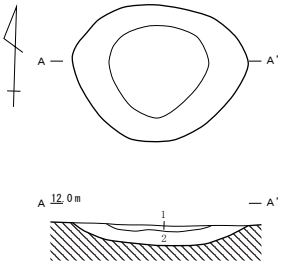
1095D　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～5㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に中量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

1095号土坑



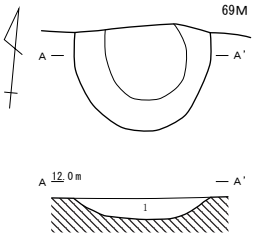
1096D　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。焼土（φ１～２㎜）をブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや弱い。焼土（φ１～２㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
６層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
1097D　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。焼土（φ２～４㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～30㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。

1096・1097号土坑



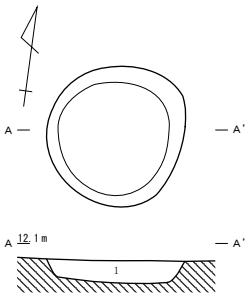
1103D　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。

1103号土坑



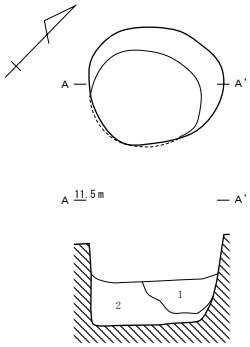
1104D　土層説明
１層　暗褐色土(10YR3/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

1104号土坑



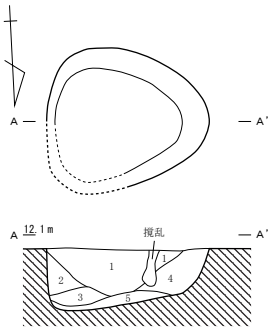
1105D　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

1105号土坑



1114D　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量含む。

1114号土坑



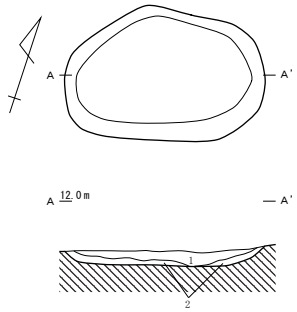
1107D　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
３層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
５層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

1107号土坑

・土器
▲石器
◇石製品

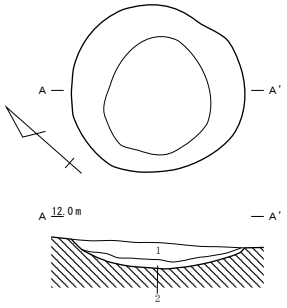
0　1/60　2m

第59図　縄文時代土坑１（１／60）



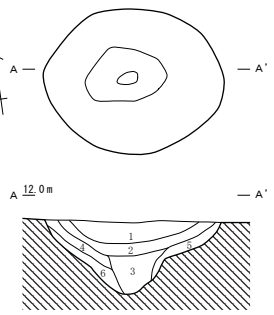
1116D　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
２層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

1116号土坑



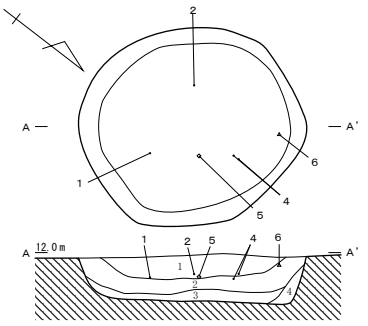
1117D　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
２層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状（φ40～150㎜）に多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～50㎜）に少量含む。

1117号土坑



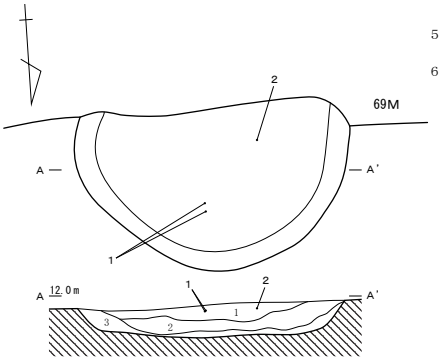
1121D　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、焼土（φ1㎜程）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状（φ40～60㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
４層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)をブロック状（φ100～150㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ100～150㎜）に中量含む。
５層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.3～1㎜)を多量、褐色土（φ0.3～1㎜）を少量含む。
６層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を少量含む。

1121号土坑



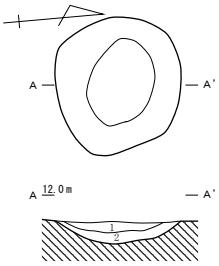
1125D　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

1125号土坑



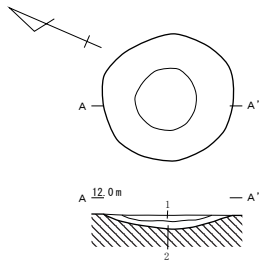
1127D　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。焼土（φ2～10㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、焼土（φ1～5㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　暗褐色土(10YR3/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。

1127号土坑



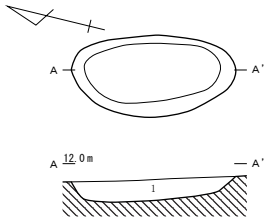
1128D　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、焼土（φ1～2㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
２層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.3～1㎜）を斑状に少量含む。

1128号土坑



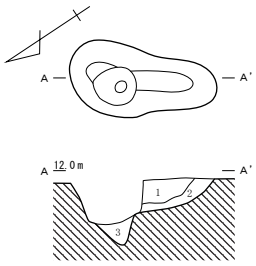
1129D　土層説明
１層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。
２層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を部分的に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

1129号土坑



1130D　土層説明
１層　褐色土（10YR4/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～40㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

1130号土坑



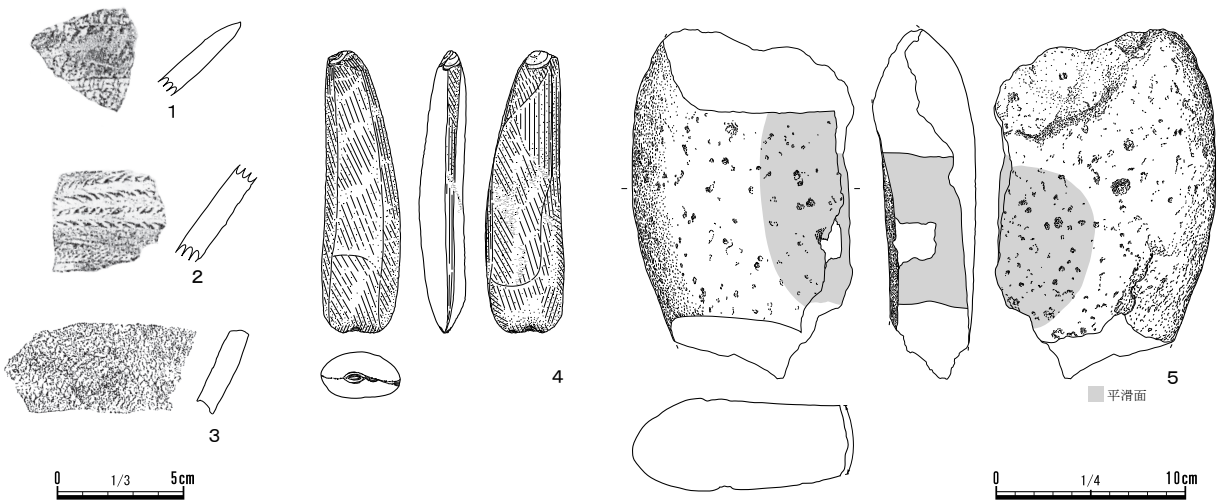
1131D　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　褐色土（10YR4/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～40㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
３層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

1131号土坑

・土器
▲ 石器
◇ 石製品

0　1/60　2m

第60図　縄文時代土坑２（１／60）

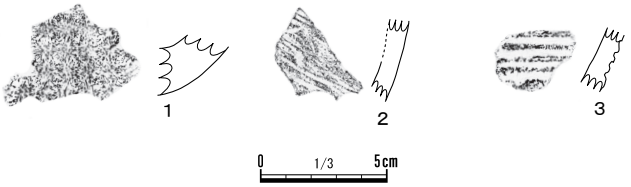


第 61 図　1095 号土坑出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 61 図 1 図版 59- 1 -1	深鉢	底上 39cm	胴部片	厚　0.8	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	２条の連続爪形文	諸磯ａ式
第 61 図 2 図版 59- 1 -2	深鉢	底上 43cm	口縁部片	厚　1.0	褐色～黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	浮線文（矢羽状のキザミ）	諸磯ｂ式
第 61 図 3 図版 59- 1 -3	深鉢	底上 28cm	胴部片	厚　0.9	にぶい褐色～橙色	砂粒やや多量／白色粒子中量	縄文（ＲＬ）	諸磯式

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 61 図 4 図版 59- 1 -4	磨製石斧	底上 11cm	基端部欠損	緑色岩	149.0	41.7	24.7	243.8	基端部は使用により破損／刃部も剥離痕が研磨により消えかかっている／全体に研磨が施されている	
第 61 図 5 図版 59- 1 -5	石皿	底上 38cm	部分	緑色岩	[185.0]	[117.0]	[54.6]	1488.4	上下右側を大きく欠損／右側縁部の割れ口は使用により平滑になっている／再利用か？表裏とも中央部に平滑面を持つ	

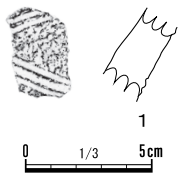
第 37 表　1095 号土坑出土遺物一覧



第 62 図　1096 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 62 図 1 図版 59- 2 -1	深鉢	底上 4cm	胴部片	厚　1.5	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	底部付近。無文。	早期 繊維土器
第 62 図 2 図版 59- 2 -2	深鉢	底上 1cm	胴部片	厚　0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子中量	貝殻条痕／内面に剥離あり	早期 繊維土器
第 62 図 3 図版 59- 2 -3	深鉢	底上 18cm	胴部片	厚　0.7	にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	横位平行沈線	諸磯式

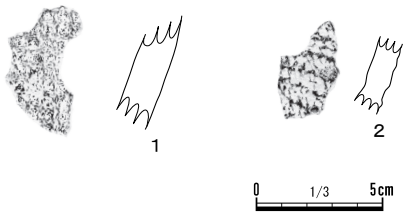
第 38 表　1096 号土坑出土遺物一覧



第 63 図　1097 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 63 図 1 図版 59- 3 -1	深鉢	覆土中	胴部片	厚　　1.5	赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子中量／石英少量	斜位平行沈線	中期後半

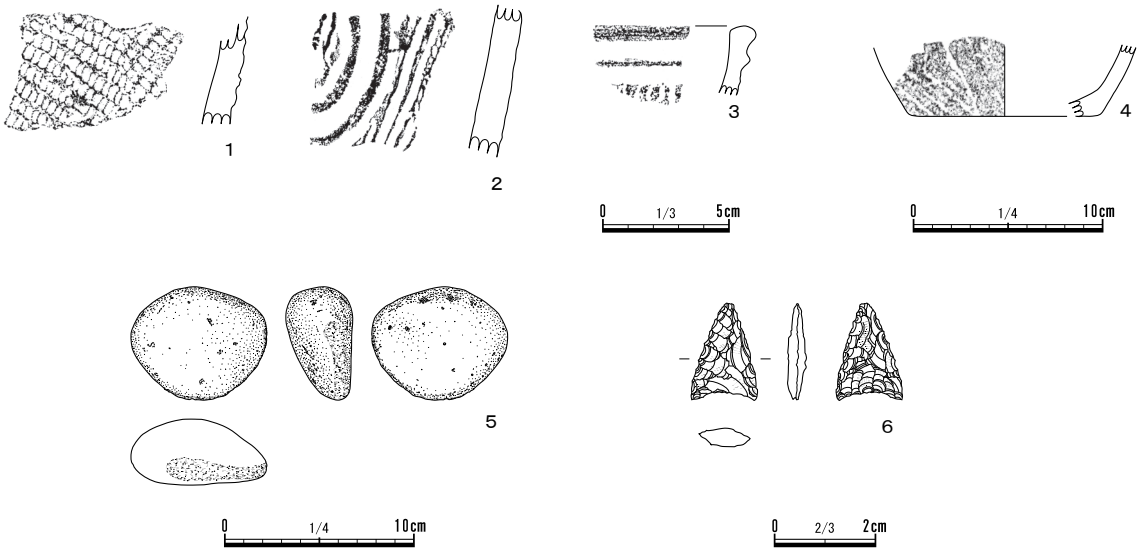
第 39 表　1097 号土坑出土遺物一覧



第 64 図　1121 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 64 図 1 図版 59- 4 -1	深鉢	覆土中	胴部片	厚　　1.4	橙色～黒褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	無文	早期前半 繊維土器
第 64 図 2 図版 59- 4 -2	深鉢	覆土中	胴部片	厚　　0.9	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量／礫少量	縄文（ＲＬ）	前期

第 40 表　1121 号土坑出土遺物一覧



第 65 図　1125 号土坑出土遺物（２／３・１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 65 図 1 図版 59- 5 -1	深鉢	底上 20cm	胴部片	厚　1.1	灰黄褐色～にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英少量	縄文（ＲＬ）	黒浜式 繊維土器
第 65 図 2 図版 59- 5 -2	深鉢	底上 23cm	胴部片	厚　1.2	橙色～黒褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	２条の隆帯、施文２類？／撚糸文（Ｌ）	曽利Ｉｂ式
第 65 図 3 図版 59- 5 -3	深鉢	覆土中	口縁部片	厚　0.7	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	隆帯	中期
第 65 図 4 図版 59- 5 -4	深鉢	底上 19・23cm	胴～底部	厚　0.8	にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・長石・角閃石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯式

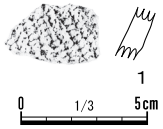
挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 65 図 5 図版 59- 5 -5	敲石	底上 21cm	完形	砂岩	71.9	60.0	35.1	168.8	上部は幅が広く厚みがあるが、下部は幅が狭く薄くなっている／下端部より右側面にかけて帯状に敲打痕がみられる	
第 65 図 6 図版 59- 5 -6	石鏃	底上 30cm	完形	チャート	19.2	12.9	3.6	0.8	凹基無茎／先端部ややまるくなる	

第 41 表　1125 号土坑出土遺物一覧

第 66 図　1127 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 66 図 1 図版 59- 6 -1	深鉢	底上 21・22cm	口縁部片	厚　0.8	にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縦縄文（ＲＬ）／隆帯区画	加曽利ＥＩ式
第 66 図 2 図版 59- 6 -2	深鉢	底上 23cm	胴部片	厚　1.0	褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	縦縄文（ＲＬ）／縦位蛇行する沈線／縦位隆帯	加曽利Ｅ式

第 42 表　1127 号土坑出土遺物一覧



第 67 図　1131 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 67 図 1 図版 59- 7 -1	深鉢	覆土中	胴部片	厚　0.8	にぶい赤褐色	砂粒多量／白色粒子・長石中量	縄文（ＲＬ）	諸磯式

第 43 表　1131 号土坑出土遺物一覧

［土　　器］（第 67 図１、図版 59 － 7 － 1 、第 43 表）

１は諸磯式の深鉢胴部である。

（6）ピット

縄文時代のピットは、出土遺物が乏しく、時期の判定は主に覆土によったものである。加曽利Ｅ式の深鉢が出土した 189 号ピットは、この項で報告し、他のピットは第 80 表に諸属性を、平面図を第 197 ～ 202 図に掲載した。

189 号ピット

遺　　構（第 68 図）

［位　　置］（Ｄ－４）グリッド。

［構　　造］単独。平面円形、断面皿形。規模：53㎝× 52㎝。深さ：12㎝。長軸方位：Ｎ―16°―Ｗ。覆土：単層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

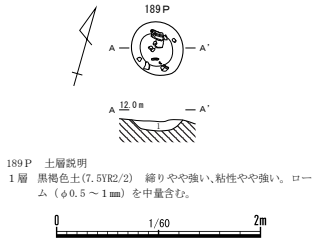
［遺　　物］縄文土器の深鉢が出土した。

［時　　期］縄文時代中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）。

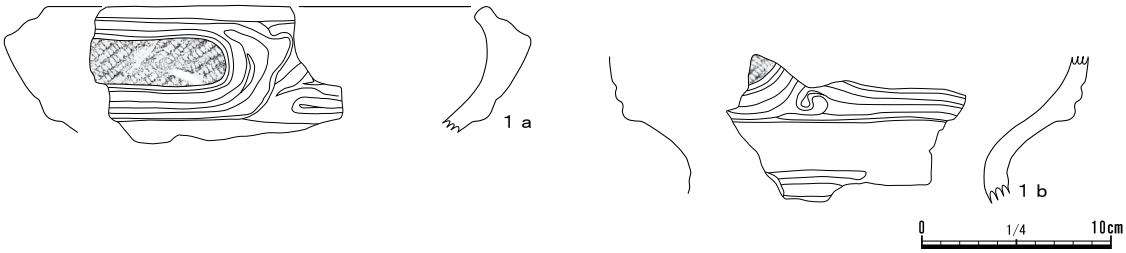
遺　　物（第 69 図、図版 59 － 8 、第 44 表）

［土　　器］（第 69 図１、図版 59 － 8 － 1 、第 44 表）

１ａ・ｂは加曽利ＥⅠ式の深鉢で、同一個体と考えられる。



第 68 図　189 号ピット（１／ 60）



第 69 図　189 号ピット出土遺物（１／４）

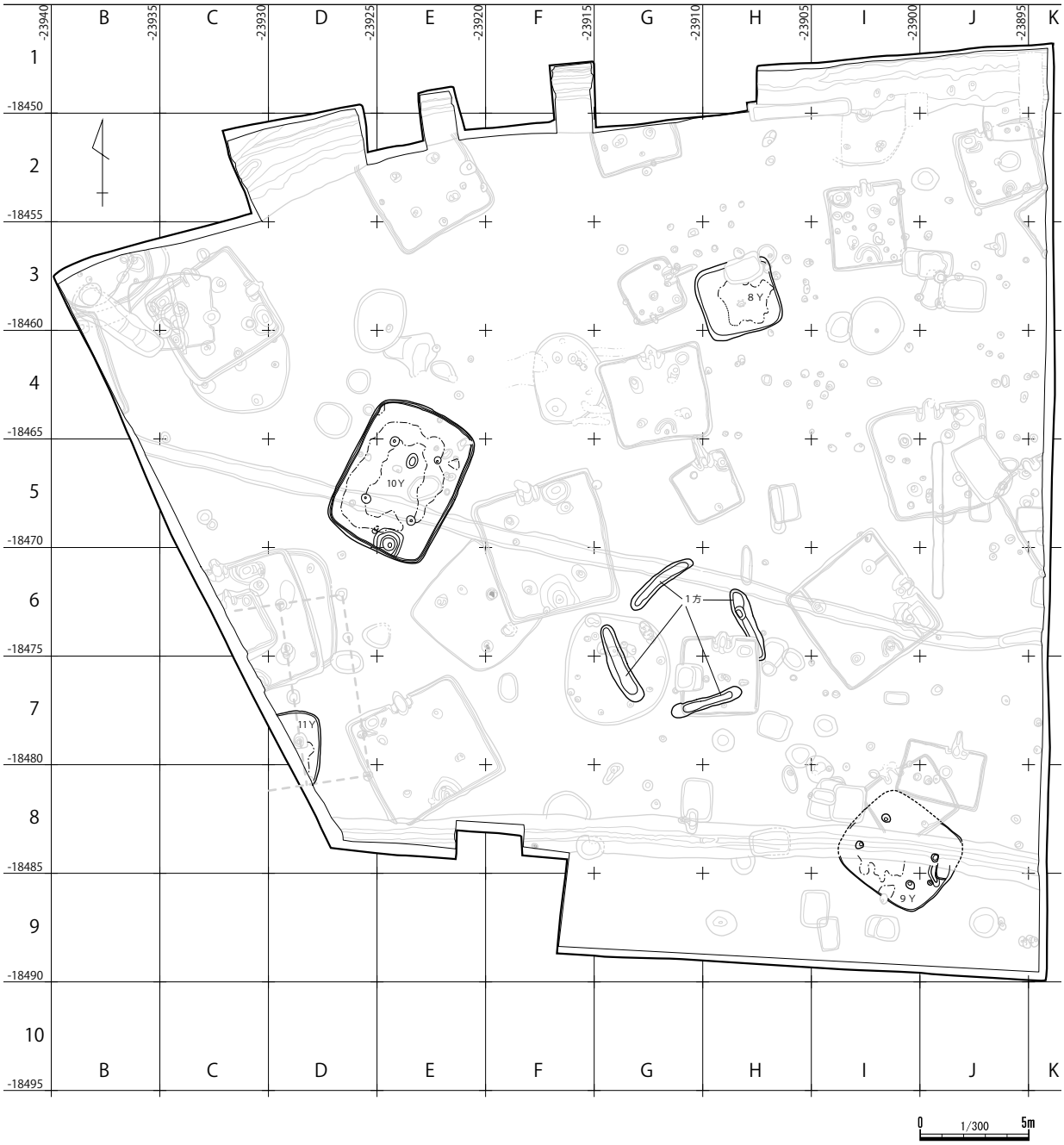
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 69 図 1 図版 59- 8 -1	深鉢	底上７～ 10 ㎝	口縁～ 頸部 15%	高　[10.3] 口　(23.5)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量／角 閃石・雲母少量	隆帯と沈線による区画、縄文（LR）充填	加曽利Ｅ Ⅰ式

第 44 表　189 号ピット出土遺物一覧

第３節　弥生時代中期～古墳時代前期

（1）概　要

弥生時代中期～古墳時代前期の遺構は、住居跡４軒（８～ 11 Ｙ）と方形周溝墓１基（１方）を検出した。遺構の時期の内訳は、10 Ｙが弥生時代中期後葉、11 Ｙが弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭、８Ｙ、９Ｙが古墳時代前期初頭、１方は詳細時期不明である。弥生時代中期の住居跡は、市内初の事例、方形周溝墓も城山遺跡では初出である。10 Ｙからは、多量の焼土や炭化材が検出されており、焼失住居と推測される。遺物が豊富で、多数の壷・甕・高坏に伴い、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁など石器・石製品がセットで出土した。また、用途不明の異形土製品が出土している。



第 70 図　弥生時代中期～古墳時代前期遺構全体図（１／ 300）

（２）住居跡

８号住居跡

遺　　構（第 71・72 図）

［位　　置］（Ｈ－３・４）グリッド。

［検出状況］1074・1076 Ｄ、33・77 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形。**規模**：長軸 3.64m ／短軸 3.41m ／深さ 26㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―17°―Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で住居中央部が硬化していた。貼床は２～ 14㎝の厚さで施されていた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］８層に分層できた。

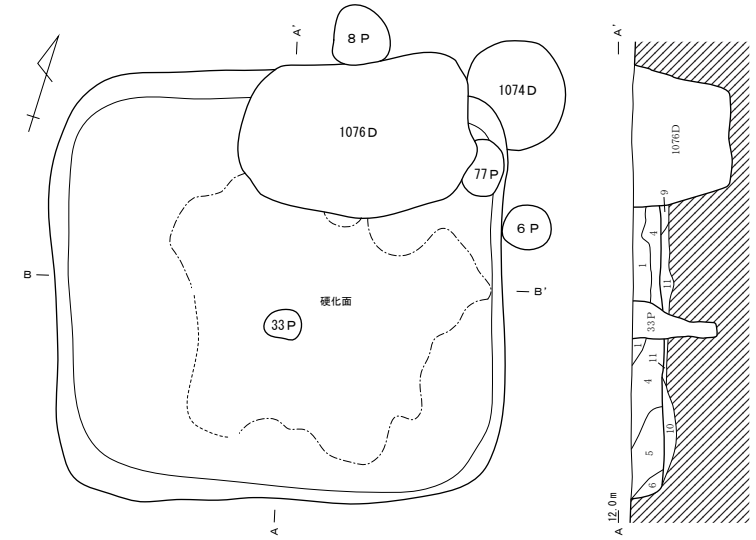
［遺　　物］壷・台付甕・高坏・坩・坏が出土した。南コーナー付近にて、炭化材を検出した。

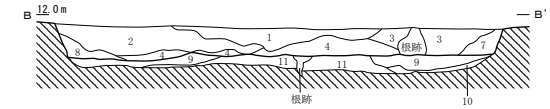
［時　　期］古墳時代前期初頭。

遺　　物（第 73 図、図版 60 －１、第 45 表）

［土　　器］（第 73 図１～４、図版 60 －１－１～４、第 45 表）

１は坩、２は坏、３は高坏、４は台付甕である。





８Ｙ　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。ロームは右側下部

３層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

４層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

５層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

６層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む

７層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を多量含む。

８層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を多量含む。

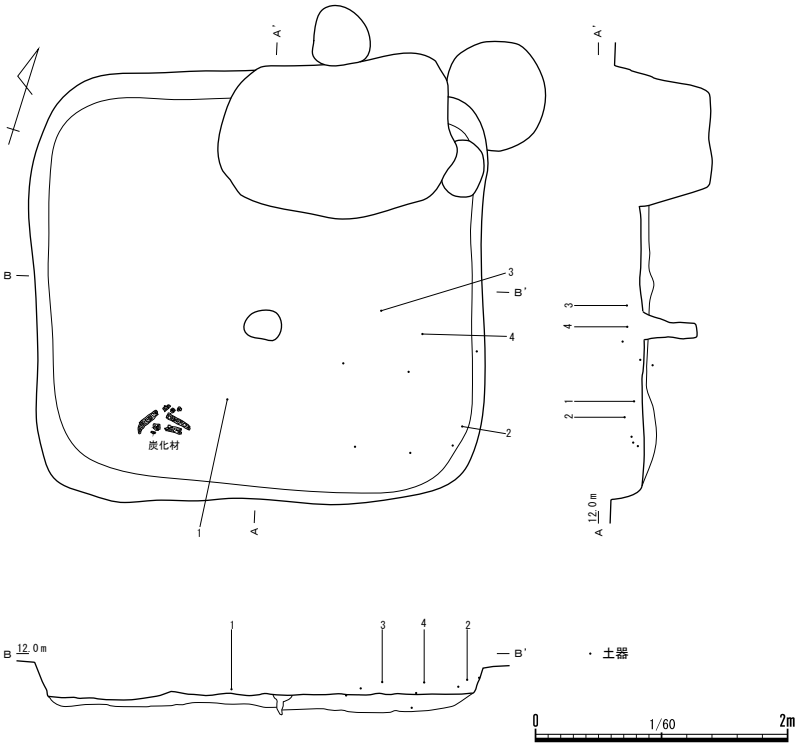
９層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状・ブロック状（φ50㎜程）に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を多量含む。貼床。

10 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に少量含む。貼床。

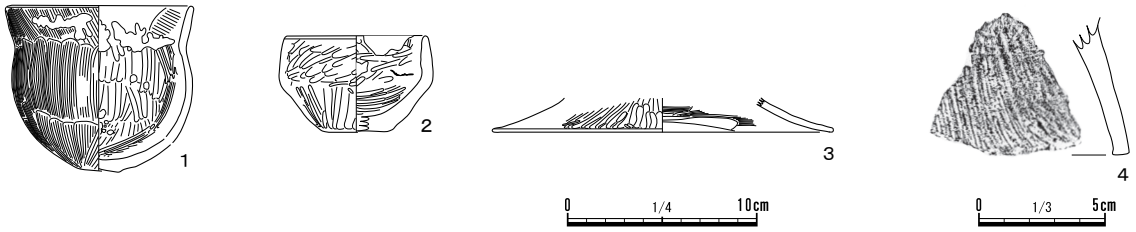
11 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に微量含む。貼床。

0　1/60　2m

第 71 図　８号住居跡（１／ 60）



第 72 図　８号住居跡遺物出土状態（１／60）



第 73 図　８号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 73 図 1 図版 60- 1 -1	坩	中央南側の覆土中（床上 6cm）	口縁～底部 40%	高 8.8 口 10.0 底 2.1	明赤褐色	砂粒・白色粒子中量	内外面剥離あり／内面：口縁部ハケナデ・ヘラナデ、胴部～底部ミガキ／外面：口縁～胴部ハケナデ、底部ナデ
第 73 図 2 図版 60- 1 -2	坏	南東コーナーの覆土中（床上 14cm）	口縁～底部 40%	高 5.0 口 (7.7) 底 (3.6)	にぶい橙色	砂粒・石英中量	内面剥離あり／口縁部は内傾する／内面：ミガキ／外面：ミガキ
第 73 図 3 図版 60- 1 -3	高坏	中央西側の覆土中（床上 12cm）	脚部	高 [1.8] 底 18.2	にぶい黄橙色	砂粒・シャモット中量	脚部大きく広がり低い／内面：ハケナデ・ヘラナデ／外面：ミガキ
第 73 図 4 図版 60- 1 -4	台付甕	東壁中央付近の覆土中（床上 12cm）	台部片	厚 0.7	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・シャモット中量	内面：ヘラナデ／外面：台部ハケナデ、底部ナデ

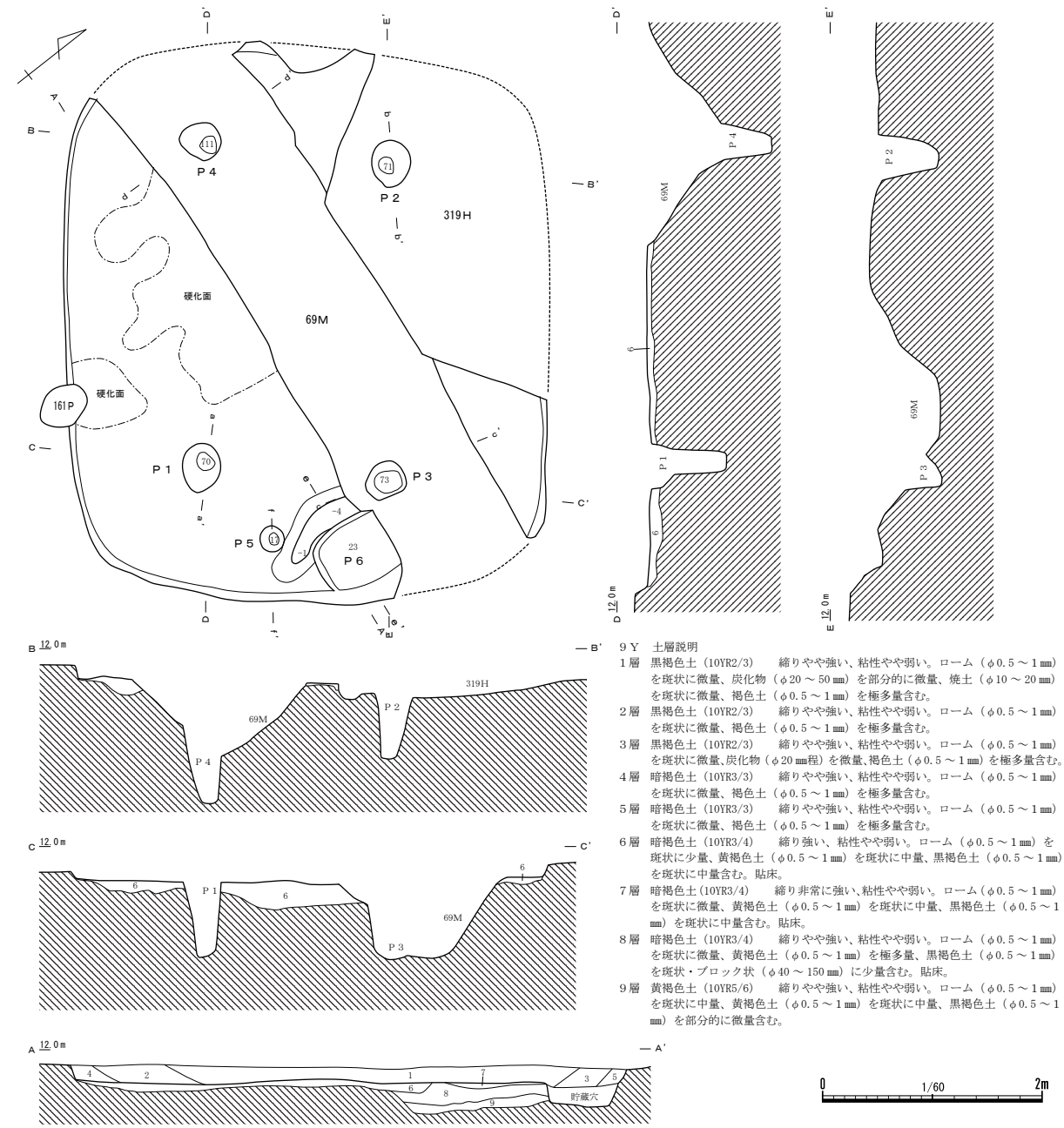
第 45 表　８号住居跡出土遺物一覧

９号住居跡

遺　構（第 74・75 図）

［位　置］（Ｉ・Ｊ－８・９）グリッド。

［検出状況］319 H、69 M、161 Ｐに切られ、住居の北側はほとんど残っていない。



９Ｙ　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、炭化物（φ20～50㎜）を部分的に微量、焼土（φ10～20㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

３層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、炭化物（φ20㎜程）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

４層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

５層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

６層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、黄褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、黒褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。貼床。

７層　暗褐色土(10YR3/4)　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、黄褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、黒褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。貼床。

８層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、黄褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量、黒褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ40～150㎜）に少量含む。貼床。

９層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、黄褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、黒褐色土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。

Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。柱痕跡

２層　暗褐色土（10YR3/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。柱痕跡

２層　黄褐色土(10YR5/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

３層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ20～50㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～50㎜）に中量含む。

４層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

Ｐ３　土層説明

１層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状(φ20～50㎜)に中量、褐色土(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ20～80㎜)に中量含む。

Ｐ４　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

Ｐ５　土層説明

１層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ20～30㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

Ｐ６　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状(φ20～60㎜)に少量、焼土(φ1～2㎜)を斑状に微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を多量含む。

２層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状に少量、炭化物（φ10～30㎜）を微量、焼土（φ1～2㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

⑥～⑨: 住居６～９層

第74図　９号住居跡（1／60）

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形と思われる。**規模**：長軸 5.14m ／短軸 4.42m ／深さ 13㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：N―52°―W。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：住居中央部に近い範囲に硬化が認められる。貼床は３～ 27㎝の厚さで施されていた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：入口施設の北東側に位置する。平面形は隅丸長方形。長軸 71㎝／短軸 62㎝／深さ 23㎝。南西側に幅 29㎝ほど／高さ１～４㎝ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土・褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と思われる。深さ 70 ～ 111㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土・黄褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ５は入口梯子穴と思われる。深さ 17㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［覆　　土］５層に分層できた。

［遺　　物］壷・台付甕・高坏が出土した。南側の範囲から炭化材を検出した。炭化材は採取し、樹種同定を実施した（詳細は［付編］自然科学分析を参照）。

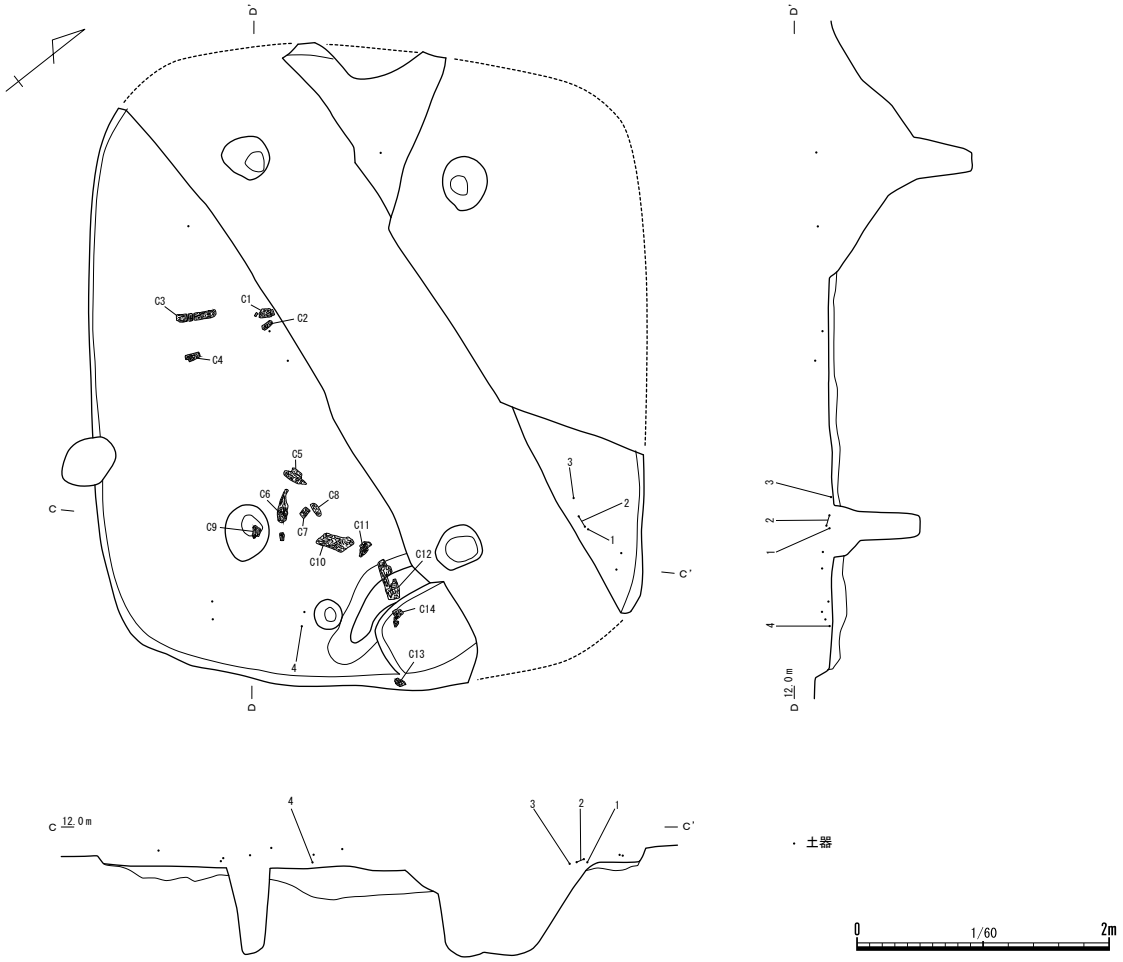
［時　　期］古墳時代前期初頭。

［所　　見］炭化材の検出状況から、焼失住居の可能性が考えられる。

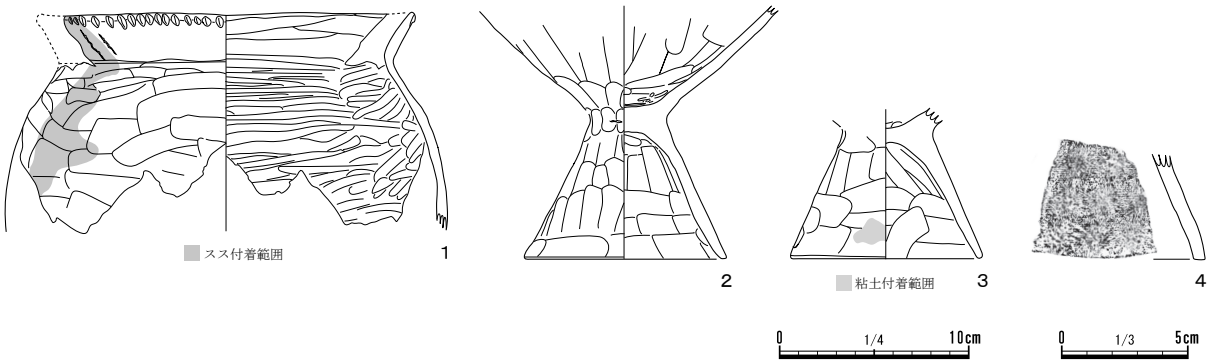
遺　　物（第 76 図、図版 60 －２、第 46 表）

［土　　器］（第 76 図１～４、図版 60 －２－１～４、第 46 表）

１～４は甕・台付甕である。



第 75 図　９号住居跡遺物出土状態（１／ 60）



第 76 図　９号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 76 図 1 図版 60- 2-1	甕	東コーナー付近のほぼ床面上	口縁～胴部 10%	高 [11.5] 口 (20.1)	にぶい黄褐色	砂粒・シャモット中量	口唇部キザミ／口縁～胴部スス付着／口縁部縦にツギメが残る／内面：口縁部ヘラナデ、胴部ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ
第 76 図 2 図版 60- 2-2	台付甕	東コーナー付近のほぼ床面上・覆土中（床上 4cm）	底部～台部 30%	高 [13.4] 底 10.7	にぶい黄橙色	砂粒・シャモット中量／石英少量	貼付け部にツギメが残る／内面：ヘラナデ、見込部ミガキ／外面：ヘラナデ、脚台端部ナデ
第 76 図 3 図版 60- 2-3	台付甕	東コーナー付近の床面上	台部	高 [7.9] 底 10.1	にぶい黄褐色	砂粒・シャモット中量	脚台部粘土付着／内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ、脚台端部ナデ
第 76 図 4 図版 60- 2-4	台付甕	梯子穴の西側覆土中（床上 2cm）	台部片	厚 0.6	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット中量	内面：横ヘラナデ／外面：ナデ

第 46 表　９号住居跡出土遺物一覧

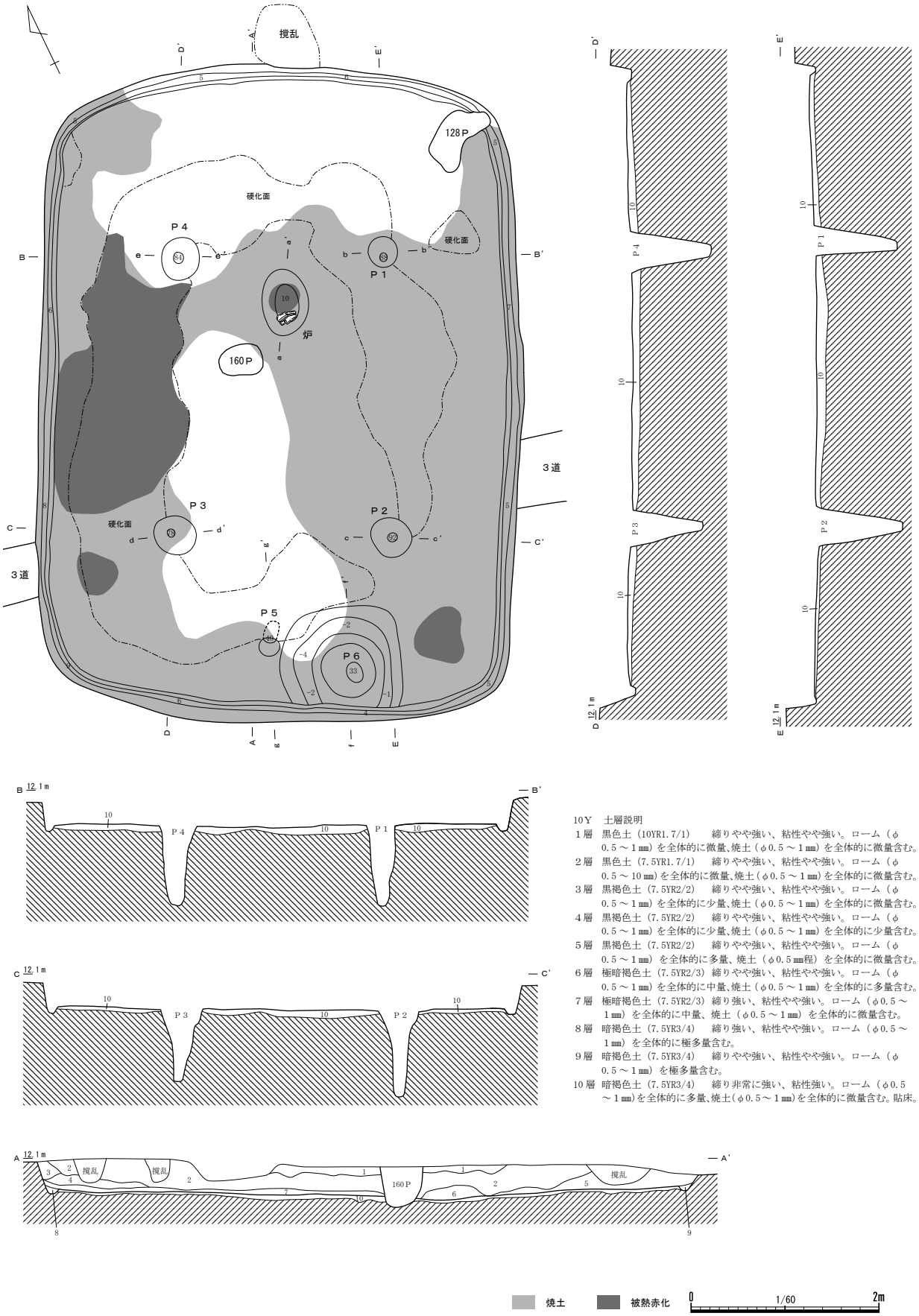
10 号住居跡

遺　構（第 77 ～ 80 図）

［位　置］（Ｄ・Ｅ－４～６）グリッド。

［検出状況］20 ＦＰ、1116 Ｄを切り、３道、128・159・160・162 ～ 164・166 ～ 171 Ｐに切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸長方形ないしは俵形。**規模**：長軸 7.01m ／短軸 5.21m ／深さ 36㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―26°―Ｅ。**壁溝**：全周する。上幅 13 ～ 24㎝／下幅３～８㎝／深さ４～ 9㎝。**床面**:ごく緩く中心に向かって下がる。周縁部と住居中央部を除いた、「Ｏ」ないしは「Ｃ」字状に硬化していた。貼床は２～ 12㎝の厚さで施されていた。被熱による赤化が観察された。北西壁付近が顕著で、赤化は貼床下の地山にまで及んでいた。**炉**：中軸線上やや北よりに位置する。平面形は楕円形。南側に細長い礫（長さ 15㎝／幅 10㎝／厚さ 7㎝）が置かれていた。長軸 70㎝／短軸 50㎝／深さ 12㎝。中央部には　被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：入口施設の南東に位置する。平面形は楕円形。長軸 59㎝／短軸 55㎝／深さ 33㎝。周囲には幅８～ 47㎝／高さ１～４㎝ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒・焼土粒・炭化物を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と思われる。深さ 78 ～ 92㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土･暗褐色土を基調とする。



10Y　土層説明

１層　黒色土（10YR1.7/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。

２層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～10㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。

４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に少量含む。

５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.５㎜程）を全体的に微量含む。

６層　極暗褐色土（7.5YR2/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。

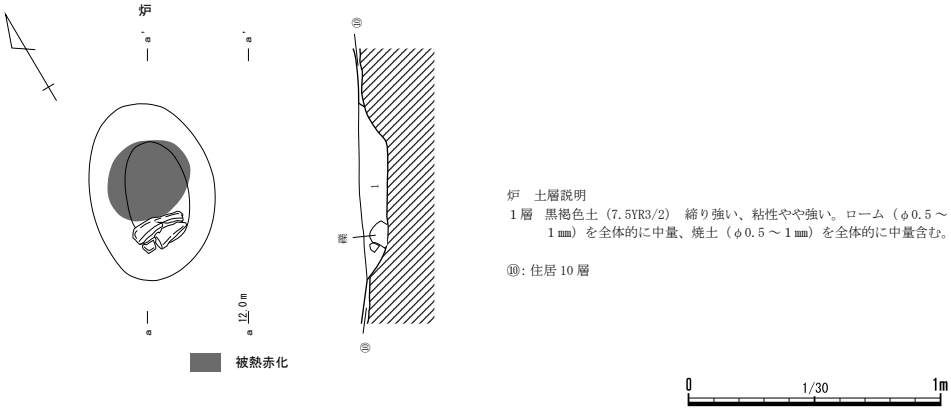
７層　極暗褐色土（7.5YR2/3）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。

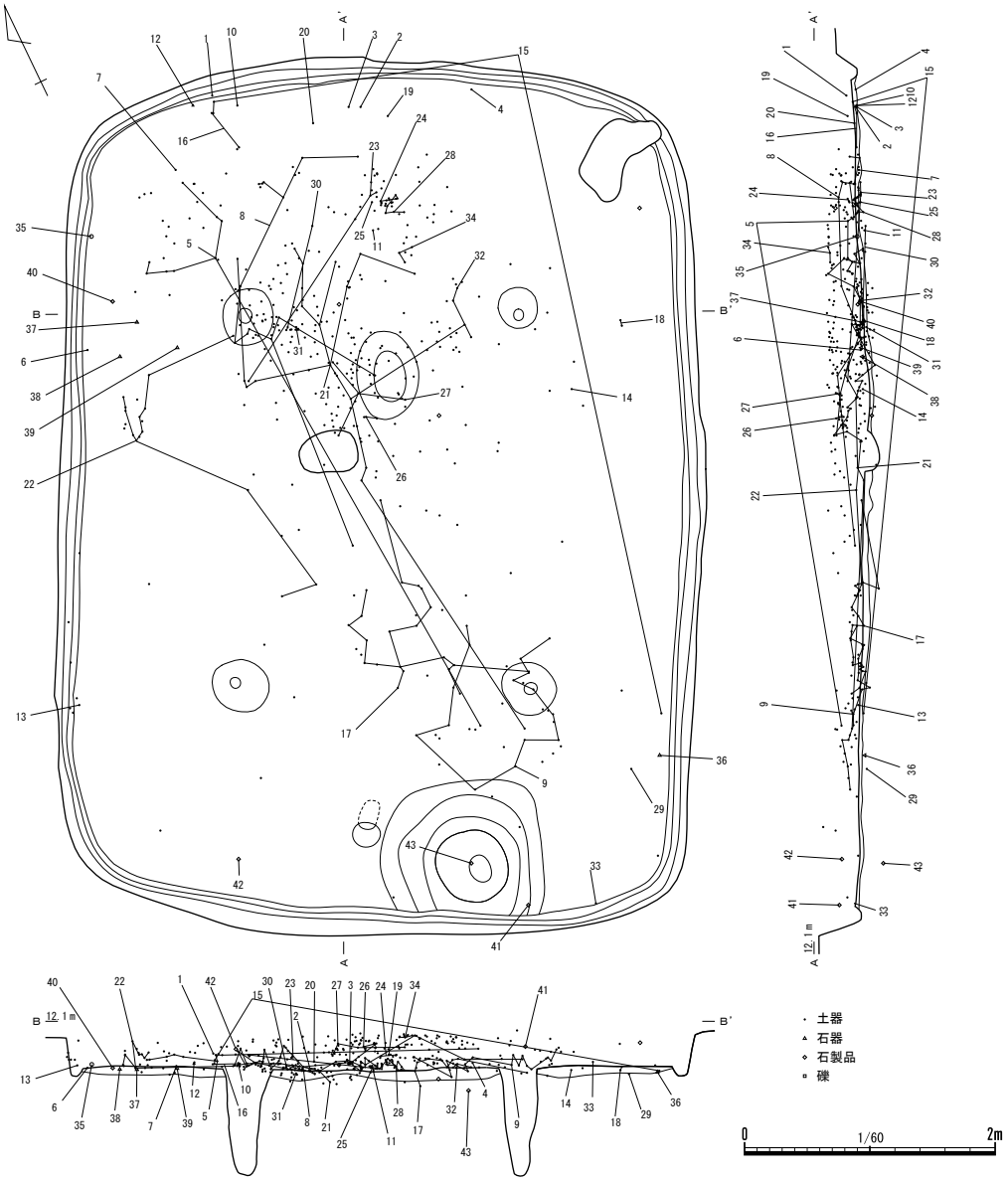
８層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に極多量含む。

９層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を極多量含む。

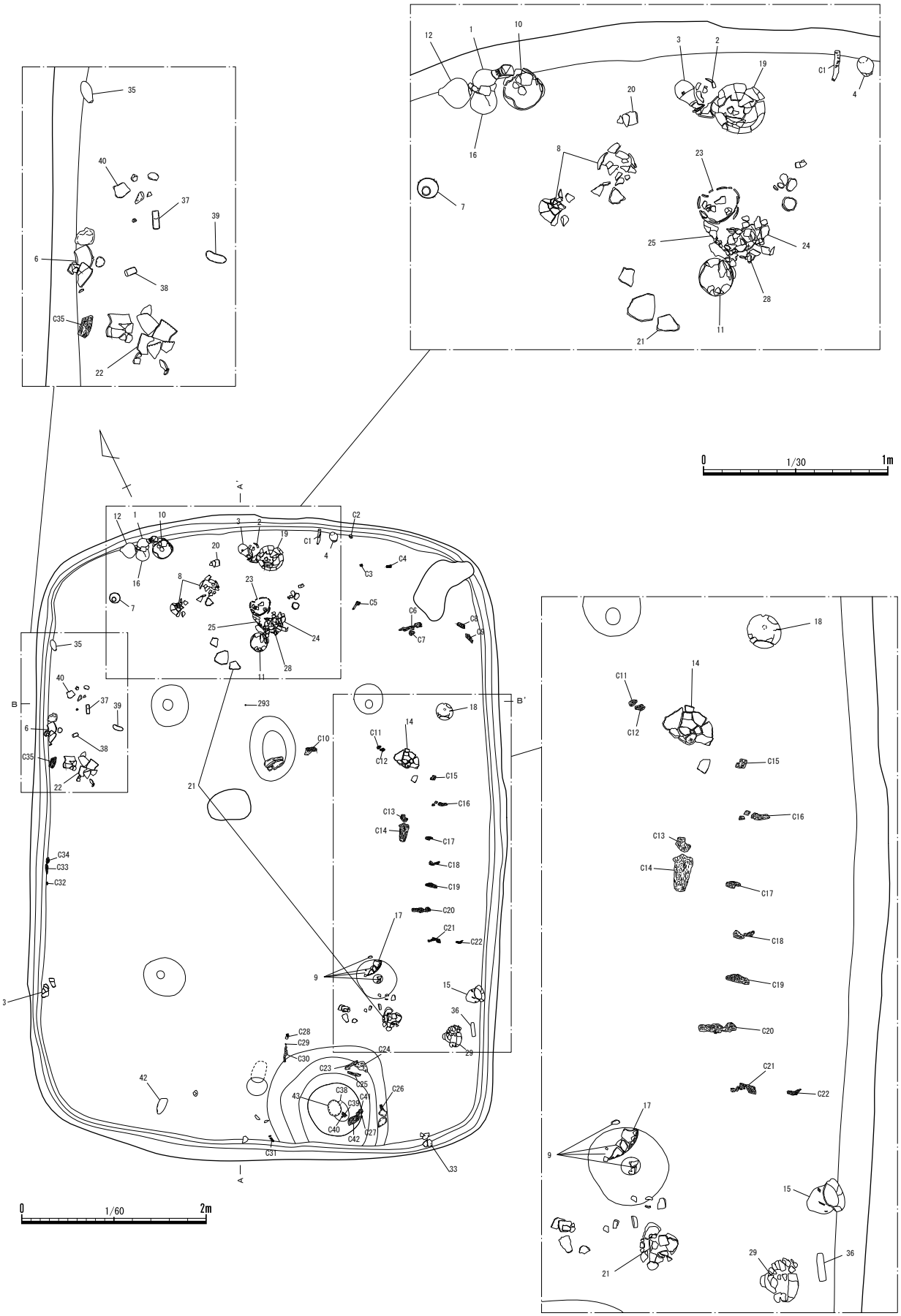
10層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。貼床。

第77図　10号住居跡（１／60）

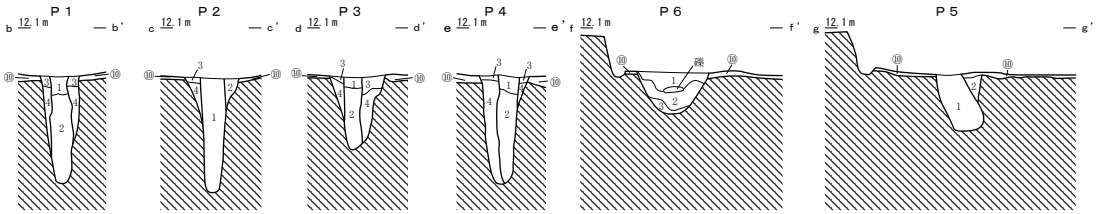




第 78 図　10 号住居跡炉跡・遺物出土状態１（１／60・１／30）



第 79 図　10 号住居跡遺物出土状態２（１／60・１／30）



Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。柱痕跡
３層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。柱痕跡
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量含む。
３層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量、焼土（φ0.5～1㎜）を少量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。柱痕跡
３層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。柱痕跡
３層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

⑩：住居10層

0　1/60　2m

第80図　10号住居跡（1／60）

入口施設：Ｐ５は入口梯子穴と思われる。深さ40㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［覆　　土］９層に分層できた。多量の焼土の堆積が確認された。焼土は、北西壁・南西壁・南東壁の３方向から住居中央部へ向けて堆積し、北東壁付近と南側の中央部は堆積が薄い。厚さは５～10㎝で、ほぼ床面に接する。主要な遺物はこの焼土に含まれる、ないしは、覆われる。

［遺　　物］壷・広口壷・高坏・台付鉢・甕・台付甕、異形土製品、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、砥石、石皿、凹石、編石が出土した。炉から北コーナーにかけてが最も遺物が豊富な範囲で、次いで南コーナー付近に多い。南東壁に沿って炭化材が検出された。繊維方向が壁に直交するものは垂木と考えられる。平行するものもいくつかみられる。炭化材は採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した（詳細は［付編］自然科学分析を参照）。

［時　　期］弥生時代時代中期後葉（宮ノ台式Ⅳ～Ⅴ期前半）

［所　　見］多量の焼土や炭化材が検出されたことから、焼失住居と考えられる。

遺　　物（第81～84図、図版60－３、図版61～63、第47表）

［土　　器］（第81～83図１～34、図版60－３－１～７、図版61～62－８～34、第47表）

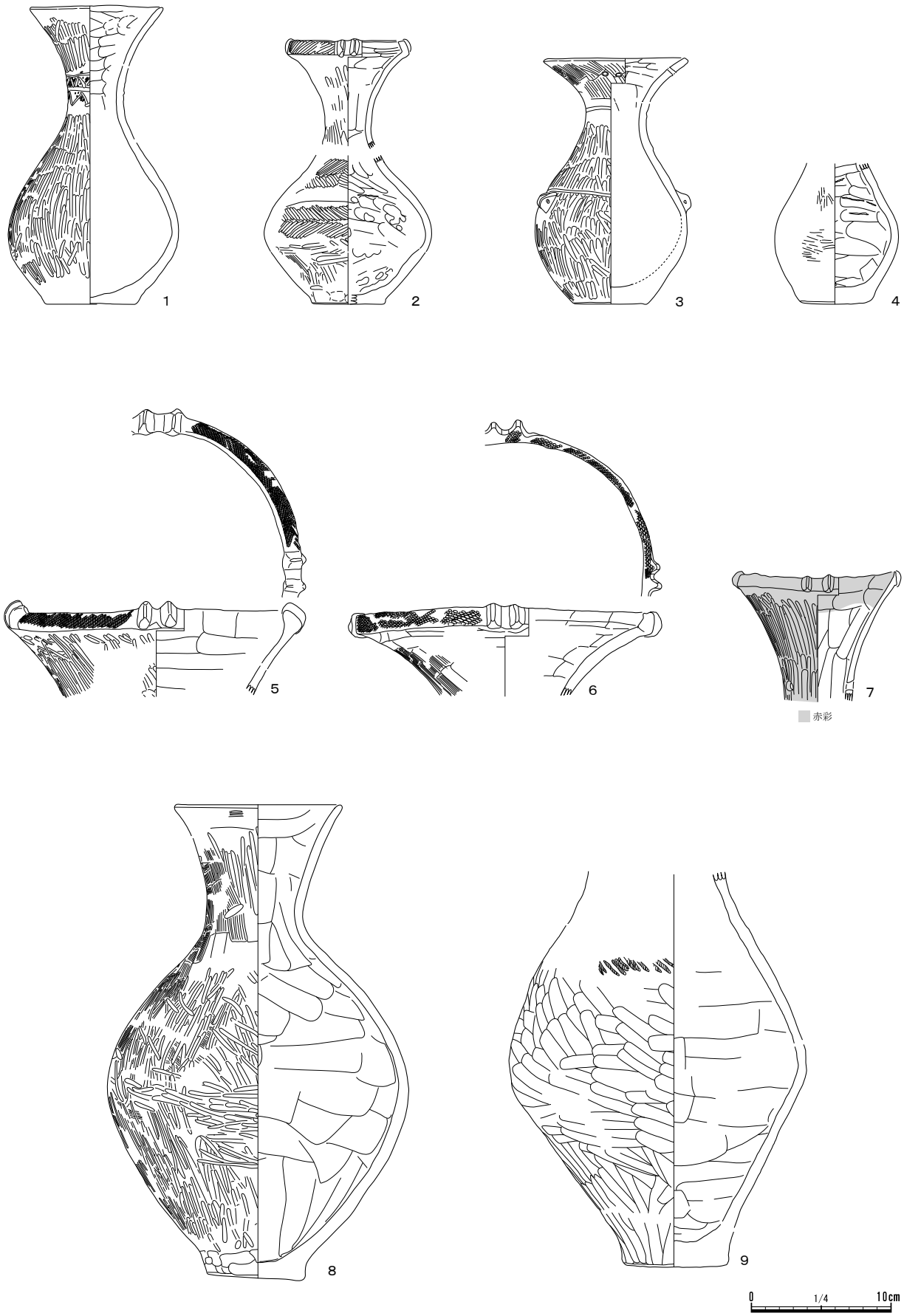
１～14・30～33は壷、15・16は広口壷、17～20は高坏、21は台付鉢、22～29・34は甕・台付甕である。

［土 製 品］（第83図35、図版62－35、第47表）

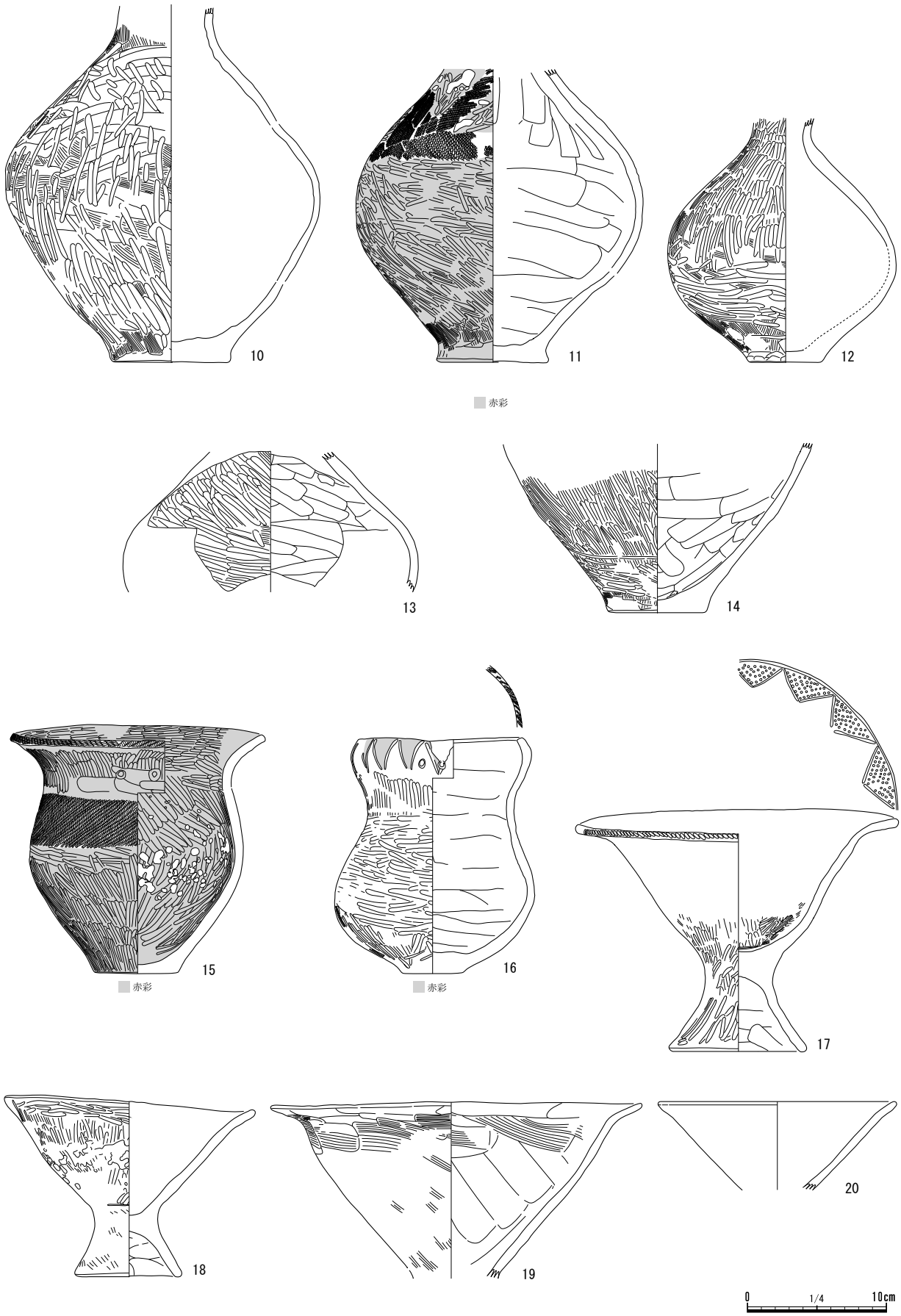
35は異形土製品である。

［石 製 品］（第84図36～44、図版63－36～44、第47表）

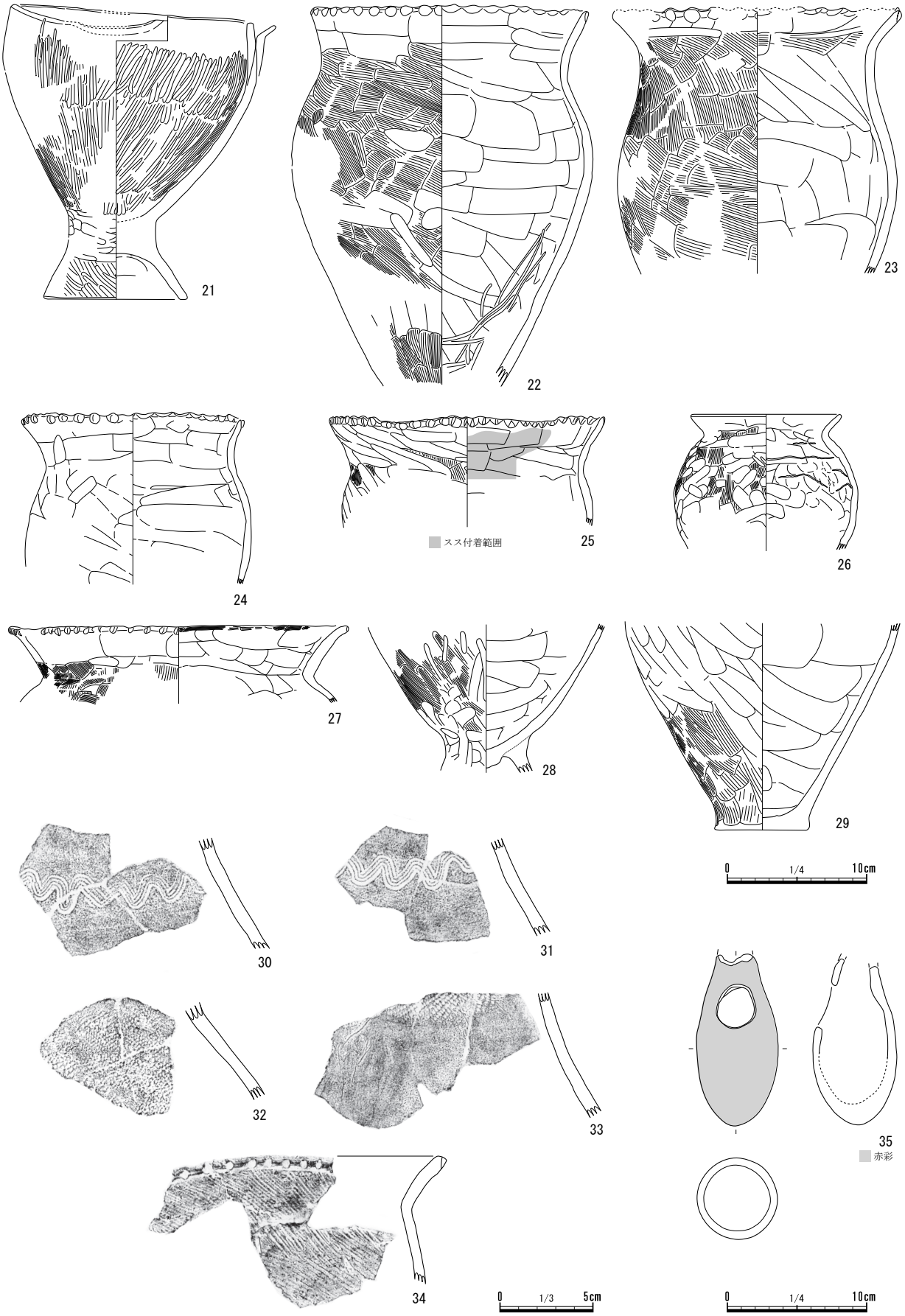
36・37は抉入柱状片刃石斧、38は扁平片刃石斧、39は石包丁、40は砥石、41は石皿・砥石、42・43は石皿・凹石、44は編石である。



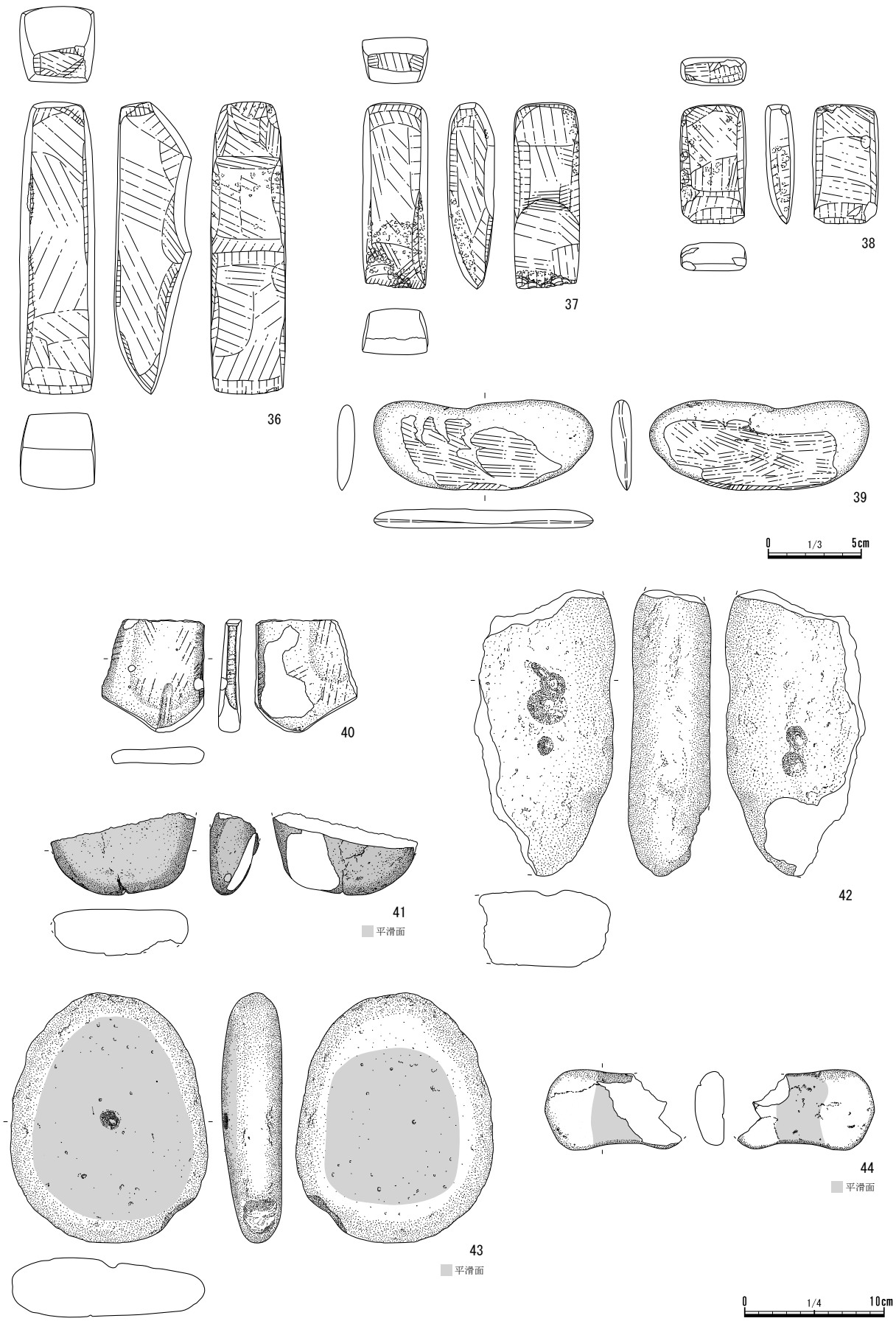
第 81 図　10 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 82 図　10 号住居跡出土遺物２（１／３・１／４）



第 83 図　10 号住居跡出土遺物３（１／３・１／４）



第 84 図　10 号住居跡出土遺物４（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 81 図 1 図版 60- 3 - 1	壷	北壁西側付近の覆土中（床上 13cm）	口縁～底部 90%	高 21.4 口 9.5 底 6.4	橙色	砂粒やや多量に含む	小型／頸部縄文（LR）→沈線＋鋸歯文が２段に施文される／最大径を胴下部に持つ／内面：口縁部ヘラナデ・指押え／外面：口縁部・胴部ミガキ
第 81 図 2 図版 60- 3 - 2	壷	北壁中央付近の床面上	口縁～底部 90%	高 [19.0] 口 8.1 底 5.2	橙色～褐灰色	砂粒・白色粒子中量	小型／内面被熱により剥離あり／口縁部縄文無節 L、突起貼付け２個・４単位／頸部羽状縄文（L+R）／胴部羽状縄文（R+L）／内面：ナデ／外面：頸部ナデ→ミガキ、胴下部ミガキ・指押え、底部未調整
第 81 図 3 図版 60- 3 - 3	壷	北壁中央付近の床面上	口縁～底部 90%	高 17.6 口 10.4 底 5.2	灰黄褐色	砂粒・白色粒子中量	小型／口縁部穿孔２個・４単位／頸部沈線／胴部突起貼付け２個・４単位・中央部に穿孔／口縁部大きく外傾／底部やや肉厚／内面：口縁部ヘラナデ／外面：口縁部ハケナデ、頸部ナデ、胴部縦ミガキ、底部未調整
第 81 図 4 図版 60- 3 - 4	壷	北壁東側付近の床面上	肩～底部 50%	高 [10.0] 底 5.2	橙色	砂粒・石英・小礫中量	小型／外面ほぼ剥離／底部に木葉痕あり／最大径を胴部中位にもつ／内面：ヘラナデ／外面：ミガキ／外面ほぼ剥離
第 81 図 5 図版 60- 3 - 5	壷	北東コーナー付近の覆土中（床上７～17 cm）	口縁～頸部 20%	高 [6.8] 口 18.8	明褐色	砂粒やや多量／長石中量	口唇部縄文（RL）、口縁部突起貼付け２個・4 単位／内面：ヘラナデ／外面：ミガキ
第 81 図 6 図版 60- 3 - 6	壷	西壁北側の床面上	口縁～頸部 15%	高 [6.6] 口 (21.6)	橙色	砂粒多量	口唇部と口縁部にそれぞれ縄文（RL）／口縁部突起貼付け２個４単位／口縁部は大きく外傾する／内面：ヘラナデ／外面：ハケナデ・ヘラナデ
第 81 図 7 図版 60- 3 - 7	壷	北東コーナーの床面上	口縁～頸部 50%	高 [9.3] 口 11.2	赤褐色～橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英・角閃石少量	内面口縁部・外面赤彩／口縁部突起貼付け２個４単位／頸部焼成後穿孔３か所／内面：ヘラナデ／外面：口縁部ナデ、頸部ナデ→ミガキ
第 81 図 8 図版 61- 8	壷	炉北東側の床面上・覆土中（床上３～25cm	口縁～底部 80%	高 34.0 口 12.0 底 7.1	にぶい黄橙色	砂粒・赤色粒子中量／石英・角閃石少量	最大径を胴部中位にもつ／内面：ヘラナデ／外面：口縁～胴部ハケナデ→ミガキ、胴下部ナデ、底部未調整
第 81 図 9 図版 61- 9	壷	貯蔵穴北側の床面上・覆土中（床上３～16 cm）	胴～底部 80%	高 [28.4] 底 7.3	にぶい橙色	砂粒やや多量	肩部縄文無節 R ／最大径を胴部中位にもつ／内面：ヘラナデ／外面：ハケ→ナデ、底部未調整
第 82 図 10 図版 61-10	壷	北壁西側付近の覆土中（床上 5cm）	頸～底部 80%	高 [25.9] 底 9.9	にぶい黄橙色	砂粒・赤色粒子中量	内面剥離あり、底部はやや肉厚／最大径を胴部中位にもつ／内面：ナデ／外面：ハケ→ナデ→ミガキ、底部ナデ
第 82 図 11 図版 61-11	壷	炉北側の床面上	肩～底部 80%	高 [21.2] 底 7.9	赤褐色～にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	肩部縄文（RL）／外面縄文施文部以外赤彩／最大径を胴部中位にもつ／外面上部に剥離あり／内面：ヘラナデ／外面：胴部ミガキ、胴下部ハケ、底部ケズリ
第 82 図 12 図版 61-12	壷	北壁西側付近の覆土中（床上 5cm）	頸～底部 80%	高 [17.5] 底 5.1	明黄褐色	砂粒中量／石英少量	最大径を胴やや下半にもつ／内面：頸部ナデ？／外面：ハケナデ→（ナデ）→ミガキ、胴下部指押え、底部未調整
第 82 図 13 図版 61-13	壷	東壁南側付近の覆土中（床上 2cm）	肩部 5%	高 10.1	にぶい黄橙色～黒褐色	砂粒・白色粒子中量	内面：ヘラナデ／外面：ハケナデ→ミガキ
第 82 図 14 図版 61-14	壷	炉東側の床面上	胴～底部 15%	高 [12.1] 底 (7.1)	浅黄色	砂粒やや多量／石英・角閃石少量	底部に木葉痕あり／内面：ヘラナデ／外面：ハケナデ→ミガキ
第 82 図 15 図版 61-15	広口壷	北壁西側付近・西壁南側付近の床面上・覆土中（5～8cm）	口縁～底部 90%	高 17.9 口 18.2 底 6.0	にぶい赤褐色～橙	砂粒中量	口唇部縄文（LR）／肩部縄文（LR）２段結節？／内外面縄文施文部以外赤彩／頸部穿孔２個・２単位／胴内部剥離あり／内面：口縁部横ミガキ、胴部ミガキ／外面：口縁部縦ミガキ、胴下部ミガキ、底部ヘラケズリ

第 47 表　10 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 82 図 16 図版 61-16	広口壷	北壁西側付近の覆土中（床上 5cm）	口縁～底部 90%	高 16.9 口 11.8 底 4.4	明赤褐色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量	見込部剥離／口唇部縄文（LR）／口縁部鋸歯文・区画上側のみ赤彩／口縁部穿孔２個・２単位／口縁部は内湾し丸い／内面：ヘラナデ／外面：胴部ミガキ、底部ヘラケズリ
第 82 図 17 図版 62-17	高坏	炉南側の床面上・覆土中（3～10cm	ほぼ完形	高 17.5 口 23.2 底 10.6	にぶい橙色	砂粒中量／角閃石少量	口唇部縄文無節Ｒ／内面口縁部沈線により鋸歯文施文し外側に円形刺突充填／口縁部は平行に近く開く／内面：坏部ナデ→ミガキ、台部ヘラナデ／外面：ハケナデ→ミガキ、脚台端部未調整
第 82 図 18 図版 62-18	高坏	西壁北側付近の床面上	完形	高 13.1 口 18.1 底 17.7	灰黄褐色	砂粒多量／白色粒子中量／角閃石少量	外面剥離あり／内面：坏部ハケナデ・ミガキ、台部ヘラナデ／外面：ハケナデ→ミガキ
第 82 図 19 図版 62-19	高坏	北壁中央付近の覆土中（床上 4cm）	口縁～底部 50%	高 [12.7] 口 26.8	橙色	砂粒多量／石英中量	口縁部は外反する／内面：ハケナデ・ヘラナデ／外面：ハケナデ・ヘラナデ／口縁部は外反する
第 82 図 20 図版 62-20	高坏	北壁中央付近の床面上	口縁体部 10%	高 [6.4] 口 (17.2)	橙色	砂粒多量／白色粒子・石英中量	内面外面：風化により器面調整詳細不明
第 83 図 21 図版 62-21	台付鉢	炉西側の床面上・覆土中（床上３～28cm）	口縁～台部 60%	高 21.2 口 17.3 底 10.3	にぶい黄橙色	砂粒やや多量	片口／口縁部は内傾する／貼付け部が肉厚／最大径を胴上部にもつ／内面：口縁部横ナデ、胴部ミガキ、台部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ミガキ、貼り付け部ナデ、脚台部ミガキ、脚台端部ヘラケズリ
第 83 図 22 図版 62-22	甕	西側中央付近の床面上・覆土中（床上３～23cm）	口縁～胴部 40%	高 [27.4] 口 19.9	にぶい黄橙色	砂粒やや多量	口縁部押捺／口縁部はやや外傾する／最大径を胴上部にもつ／内面：口縁～胴部ヘラナデ、胴下部ヘラナデ→ミガキ／外面：ハケナデ・ヘラナデ
第 83 図 23 図版 62-23	甕	炉北側の床面上・覆土中（床上 12cm）	口縁～胴部 40%	高 [19.0] 口 (20.8)	にぶい黄褐色	砂粒中量	口縁部押捺／内面：口縁部ヘラナデ・ハケナデ、胴部ヘラナデ／外面：ヘラナデ、頸部～胴部ハケナデ
第 83 図 24 図版 62-24	甕	炉北側の覆土中（床上 11～12cm）	口縁～胴部 50%	高 [12.3] 口 16.0	橙色	砂粒中量	口縁部押捺、口縁部はゆるやかに外傾する／内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ
第 83 図 25 図版 62-25	甕	炉北側の覆土中（床上 2cm）	口縁～頸部 10%	高 [7.9] 口 (19.8)	明褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・長石中量	口縁部押捺／内面口縁部にスス付着／内面：ヘラナデ／外面：ハケナデ→ヘラナデ
第 83 図 26 図版 62-26	甕	炉南側の覆土中（床上 15～21cm）	口縁～体部 10%	高 [9.7] 口 (10.9)	にぶい褐色	砂粒・石英中量	小型／ツギメが目立つ／内面：ヘラナデ・指押え／外面：ハケナデ→ヘラナデ
第 83 図 27 図版 62-27	甕	炉範囲内・炉西側の覆土中（床上 11～21cm）	口縁～頸部 10%	高 [5.5] 口 (24.5)	にぶい黄橙色	砂粒・石英・シャモット中量	口唇部キザミ／内面：口縁上部ハケナデ、以下ヘラナデ／外面：口縁部ハケナデ→ヘラナデ、肩部ハケナデ
第 83 図 28 図版 62-28	台付甕	炉北側の床面上・覆土中（3～12cm）	胴～台部 15%	高 [10.1]	にぶい橙色	砂粒中量	内面：ヘラナデ／外面：ハケナデ→ヘラナデ
第 83 図 29 図版 62-29	甕	南東コーナーの床面上	胴～底部 50%	高 [14.9] 底 6.5	明赤褐色	砂粒・白色粒子中量	内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ・ハケナデ、底部未調整
第 83 図 30 図版 62-30	壷	炉西側の床面上・覆土中（床上 4cm）	肩部片	厚 0.6	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・石英長石中量	外面にクシガキ波縄文／内面：ヘラナデ／外面：ヘラナデ

第 47 表　10 号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 83 図 31 図版 62-31	壷	炉西側の床面上	肩部片	厚　0.6	褐灰色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・石英・長石・白色針状物質中量／小礫少量	外面にクシガキ波縄文／内面外面：ヘラナデ
第 83 図 32 図版 62-32	壷	炉東側の覆土中（床上２～5cm）	肩部片	厚　0.7	にぶい橙色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	外面縄文（LR）／内面：ミガキ／外面：ハケナデ
第 83 図 33 図版 62-33	壷	南東コーナーの覆土中（床上３cm）	頸部片	厚　0.6	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	外面上部縄文（RL）／内面：ヘラナデ／外面：ミガキ
第 83 図 34 図版 62-34	甕	炉北側の覆土中（床上 26 ～ 28cm）	口縁～肩部片	厚　0.5	にぶい橙色	砂粒・石英・シャモット中量	内外面口縁部赤彩／口唇キザミ／外面口縁と胴部にス付着／内面：口縁部ハケナデ、胴部ヘラナデ／外面：ハケナデ

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴
第 83 図 35 図版 62-35	異形土製品	北コーナー付付近の覆土中（床上３cm）	上端部欠損	[12.3]	5.9	5.9	146.5	雨垂れ形を呈す／内外面ナデ、外面赤彩／上半部に 3cm 程の孔

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第 84 図 36 図版 63-36	抉入柱状片刃石斧	南東コーナーの床面上	完形	細粒緑色凝灰岩	157.4	40.5	42.1	490.0	全体に非常にていねいに研磨されている／一部に製作時の敲打痕がのこる
第 84 図 37 図版 63-37	抉入柱状片刃石斧	西壁北側付近の床面上	完形	細粒緑色凝灰岩	100.4	34.8	25.5	183.7	刃部が減ったか、欠損したか、刃部に新しい調整が入り、敲打や研磨が行われる／明確ではないが、抉入の痕跡があり、使用により不明確になっている模様／全体に非常に丁寧に研磨されている
第 84 図 38 図版 63-38	扁平片刃石斧	西壁北側付近の床面上	完形	変質玄武岩	64.1	35.5	15.7	71.3	刃部直刃の磨製石斧で表裏基部は丁寧に研磨、特に刃部は非常に丁寧に研磨／側縁部は研磨しているものの敲打痕を残す
第 84 図 39 図版 63-39	石包丁	西壁北側付近の床面上	完形	粘板岩	117.6	48.2	10.7	100.1	扁平な自然礫を用い、表裏とも中央から下端部にかけて研磨している／特に下端部は急角度な研磨で刃部を成形している
第 84 図 40 図版 63-40	砥石	西壁北側付近の床面上	部分	砂岩	[80.5]	[73.0]	[15.8]	92.4	全体に薄い砥石で中央部が皿状にやや凹んでいる／また溝状凹んでいる部分があり、左右縁辺部は横方向擦痕がみられ、厚みが薄くなっている
第 84 図 41 図版 63-41	石皿・砥石	貯蔵穴東側の覆土中（床上 19cm）	部分	砂岩	[103.5]	[58.9]	[34.7]	224.4	上部を大きく欠損／表面は平端かつ平滑で一部擦痕が確認できる／全体は被熱により赤化し剥離／上部の欠損も被熱により失われているよう
第 84 図 42 図版 63-42	石皿・凹石	南壁西側付近の覆土中（床上 17cm）	部分	安山岩	[204.6]	[100.7]	[58.9]	1590.9	大きく欠損しているものの、表裏面に平端面を持つ自然礫／表裏面は平端で中央部に凹みを複数有する
第 84 図 43 図版 63-43	石皿・凹石	貯蔵穴（底上 16cm）	完形	閃緑岩	179.5	141.6	42.9	1685.4	扁平な自然礫を使用し、表裏面中央部に平滑面、表中央部に凹みを有する
第 84 図 44 図版 63-44	編石	南西側の覆土中	右半分が欠損	砂岩	[98.1]	57.7	[20.5]	148.5	分銅形の自然礫で右半分が欠損／中央部がくびれており、くびれとくびれの間は全体に滑らかになっている

第 47 表　10 号住居跡出土遺物一覧（３）

11 号住居跡

遺　構（第 85 図）

［位　置］（Ｄ－７・８）グリッド。

［検出状況］西側の調査区境で検出したため、住居の西側の２／３程度が調査区外である。12 Ｔに切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸方形と思われる。**規模**：長軸 1.74m ／短軸 1.03m ／深さ８㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦で住居中央部に近い範囲が硬化していた。貼床は１～４㎝の厚さで施されていた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　土］２層に分層できた。

［遺　物］壷・台付甕、砥石・敲石が出土した。遺物は東壁沿いに分布する傾向にある。炭化材も南側の東壁沿いで検出された。

［時　期］弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

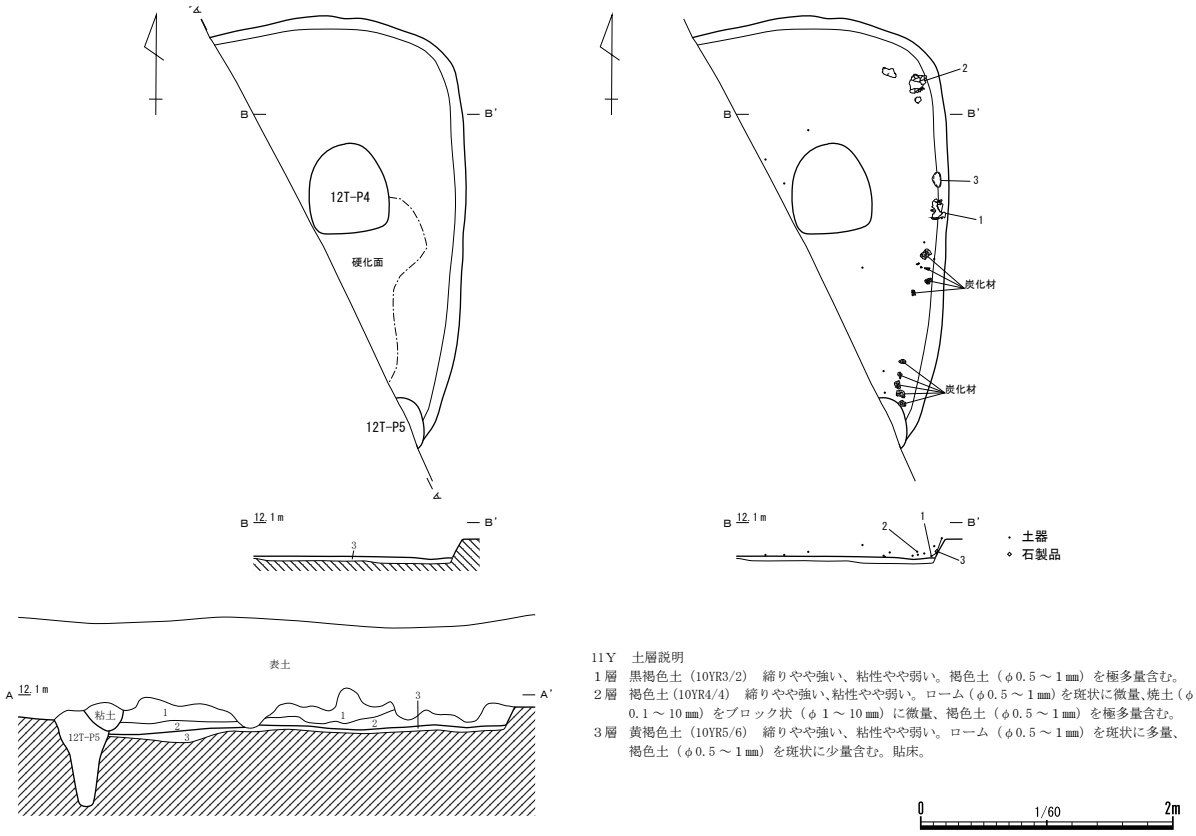
遺　物（第 86 図、図版 64 －１、第 48 表）

［土　器］（第 86 図１・２、図版 64 －１－１・２、第 48 表）

１・２は台付甕である。

［石　器］（第 86 図３、図版 64 －１－３、第 48 表）

３は砥石・敲石である。



第 85 図　11 号住居跡・遺物出土状態（１／ 60）

第 86 図　11 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴
第 86 図 1 図版 64- 1 -1	甕	東壁中央の床面上・覆土中（床上 3・15cm）	口縁～胴部 20%	高　　[8.3] 口　　14.1	赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	頸部にやや厚みあり／内面：口縁部ハケナデ→粗いミガキ、胴部ヘラナデ→粗いミガキ／外面：ハケナデ→ヘラナデ／頸部にやや厚みあり
第 86 図 2 図版 64- 1 -2	台付甕	北東コーナーの覆土中（床上 4 cm）	胴部片	厚　　0.6	明赤褐色～灰黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・シャモット中量	内面外面：ハケナデ

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴
第 86 図 3 図版 64- 1 -3	砥石・敲石	東壁中央付近の覆土中（床上 5cm）	完形	砂岩	120.7	72.0	23.7	301.7	扁平な自然礫の表を砥石として使用後、敲石として再利用している／裏面は風化が著しい／敲打痕は下端部から左側縁部に広く確認できる

第 48 表　11 号住居跡出土遺物一覧

（３）方形周溝墓

１号方形周溝墓

遺　　構（第 87 図）

［位　　置］（Ｇ・Ｈ－６・７）グリッド。

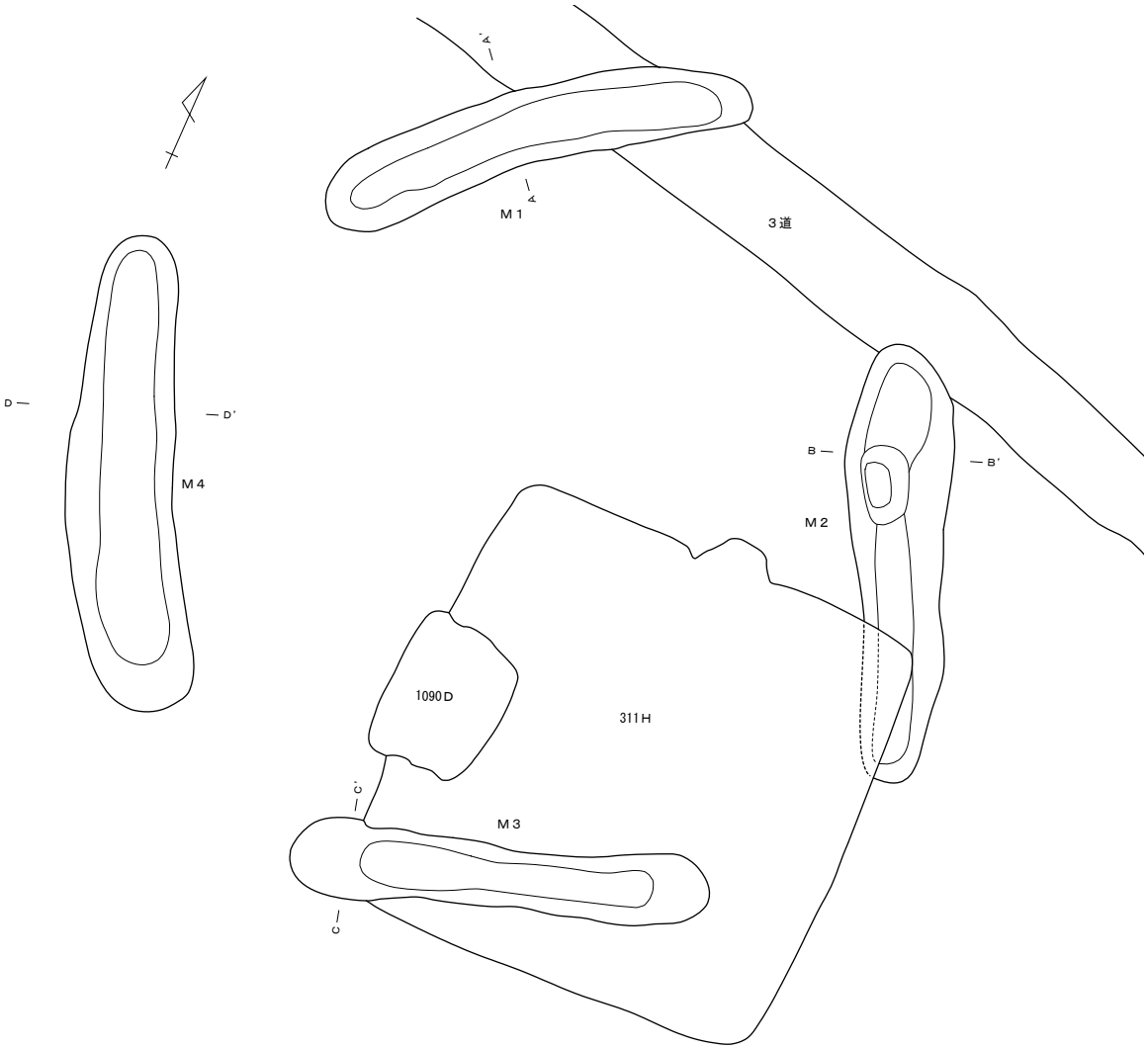
［検出状況］６Ｊ・1096 Ｄを切り、311 Ｈ、３道に切られる。

［構　　造］**平面形**：４隅が切れた方形。**規模**：長軸 7.12m ／短軸 6.91m。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―24°―Ｗ。**溝**：＜Ｍ１＞長さ 350cm／幅 58cm／深さ 38cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。＜Ｍ２＞長さ 352cm／幅 87cm／深さ 37cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を基調とする。＜Ｍ３＞長さ 337cm／幅 65cm／深さ 36cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を基調とする。＜Ｍ４＞長さ 381cm／幅 76cm／深さ 35cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。**主体部**：検出されなかった。

［覆　　土］各溝は３～４層に分層できた。

［遺　　物］本遺構に伴うものは、出土しなかった。

［時　　期］弥生時代中期か。



Ｍ１　土層説明
１層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）をブロック状（φ40㎜程）に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に極多量含む。
３層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状・ブロック状（φ50㎜程）に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に多量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に多量含む。

Ｍ２　土層説明
１層　黒褐色土(10YR3/1)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ１㎜程）を少量、赤色スコリア（φ１㎜程）を微量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２㎜程）を少量含む。
３層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム主体、暗褐色土をしみ状に多量含む。

Ｍ３　土層説明
１層　黒褐色土(10YR3/1)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ１㎜程）を少量、赤色スコリア（φ１㎜程）を微量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２㎜程）を少量含む。
３層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム主体、暗褐色土をしみ状に多量含む。

Ｍ４　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）をブロック状（φ50㎜程）に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。
３層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に中量含む。
４層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

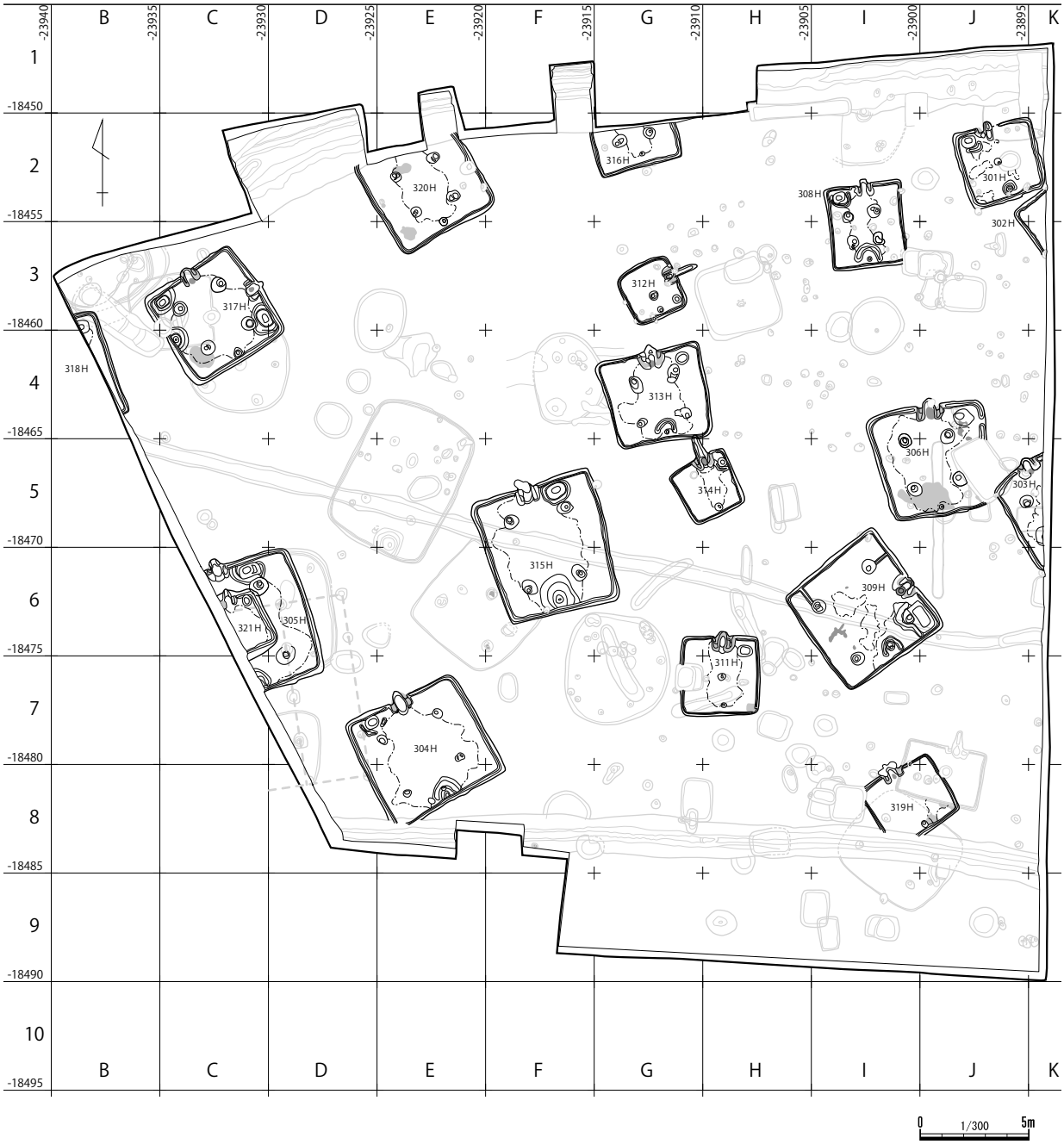
0　1/60　2m

第87図　１号方形周溝墓（１／60）

第４節　古墳時代後期

（1）概　要

古墳時代後期の遺構は、住居跡 19 軒を検出した。住居跡の帰属時期は、302 Hが出土遺物が少ないため詳細時期不明、309 Hが７世紀前葉、304・312・316・320 Hが７世紀中葉～末葉、321 Hが７世紀後葉、その他は全て７世紀中葉である。遺物が豊富なものが多く、特に 321 Hは小型の住居跡ながら、本報告に掲載した土器は、105 点に及ぶ。304 Hからは、多量の焼土と炭化材が検出され、焼失住居と考えられる。また、カマドの両袖の先端に長甕が伏せられた状態で出土し、カマドの袖ないしは焚口の両脇に長甕が使われたことが想定される。



第 88 図　古墳時代後期遺構全体図（１／300）

（２）住居跡

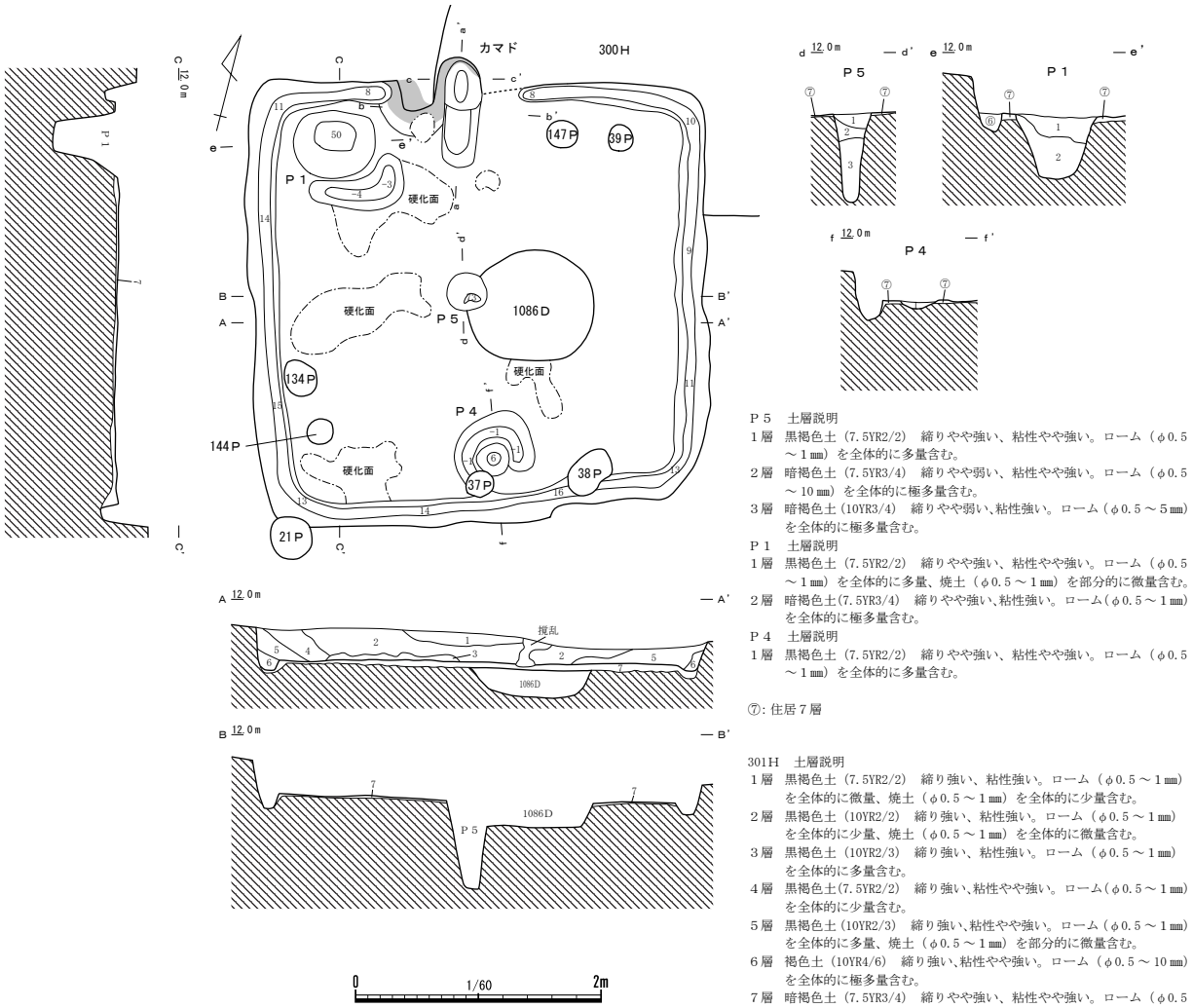
301 号住居跡

遺　　構（第 89・90 図）

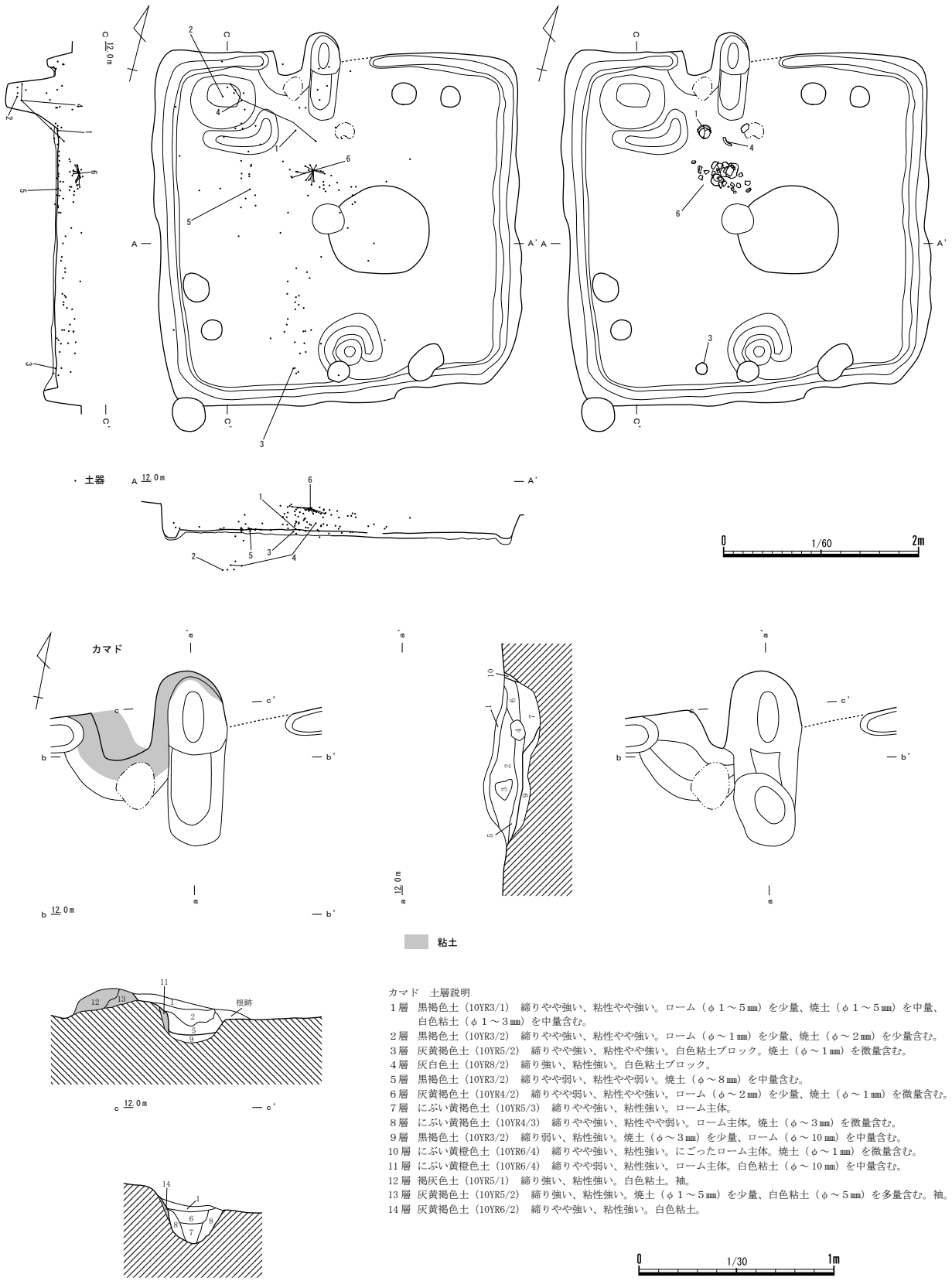
［位　　置］（Ｊ・Ｋ－２）グリッド。

［検出状況］1086 Ｄを切り、300 Ｈ、16・21・37 ～ 39・134・144・147 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 3.81m ／短軸 3.64m ／深さ 27㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―14°―Ｗ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 16 ～ 28㎝／下幅７～ 13㎝／深さ６～ 16㎝。**床面**:住居西側部分が、部分的に硬化していた。貼床は２～７㎝の厚さで施されていた。**カマド**:北壁のほぼ中央に位置する。東側が 300H により破壊されている。主軸方位はＮ－ 11°－Ｗ。長さ 89㎝／幅 84㎝／壁への掘り込み 21㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。**貯蔵穴**：北西コーナーに位置する（Ｐ１）。平面形は丸みを帯びた長方形。長軸 66㎝／短軸 55㎝／深さ 50㎝。周囲には幅 18 ～ 31㎝／高さ４㎝ほどの凸堤がＬ字状に検出された。覆土はローム粒を含む黒褐色・暗褐色土が堆積する。**柱穴**：住居中央のＰ５は主柱穴の可能性がある。深さ 73㎝。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ４は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ６㎝。北側には幅 17 ～ 28㎝／高さ１㎝ほどの凸

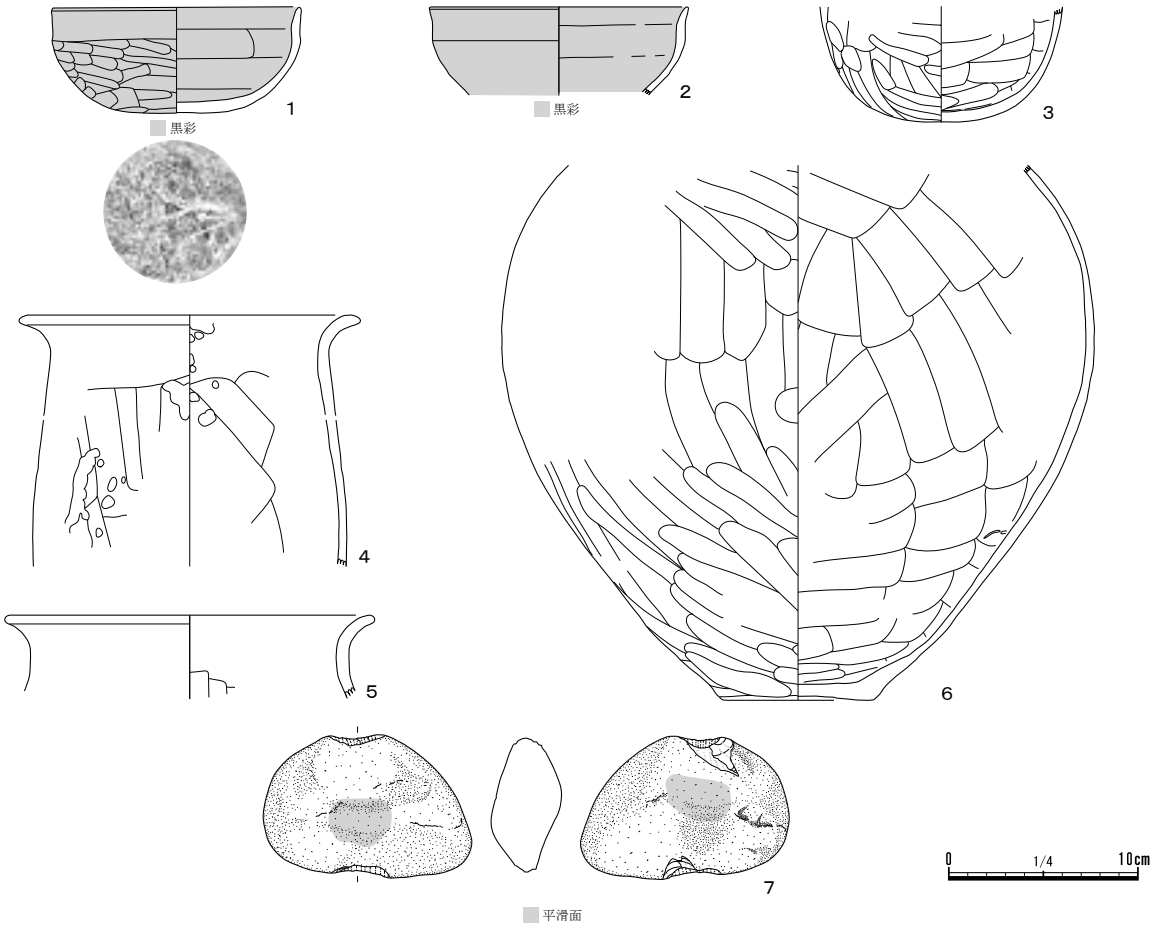


第 89 図　301 号住居跡（１／ 60）



カマド　土層説明
１層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～５㎜）を少量、焼土（φ１～５㎜）を中量、白色粘土（φ１～３㎜）を中量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ～１㎜）を少量、焼土（φ～２㎜）を少量含む。
３層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土ブロック。焼土（φ～１㎜）を微量含む。
４層　灰白色土（10YR8/2）　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック。
５層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～８㎜）を中量含む。
６層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ～２㎜）を少量、焼土（φ～１㎜）を微量含む。
７層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや強い、粘性強い。ローム主体。
８層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム主体。焼土（φ～３㎜）を微量含む。
９層　黒褐色土（10YR3/2）　締り弱い、粘性強い。焼土（φ～３㎜）を少量、ローム（φ～10㎜）を中量含む。
10層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや強い、粘性強い。にごったローム主体。焼土（φ～１㎜）を微量含む。
11層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや弱い、粘性強い。ローム主体。白色粘土（φ～10㎜）を中量含む。
12層　褐灰色土（10YR5/1）　締り強い、粘性強い。白色粘土。袖。
13層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性強い。焼土（φ１～５㎜）を少量、白色粘土（φ～５㎜）を多量含む。袖。
14層　灰黄褐色土（10YR6/2）　締りやや強い、粘性強い。白色粘土。

第90図　301号住居跡遺物出土状態・カマド（１／60・１／30）



第 91 図　301 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 91 図 1 図版 64- 2 -1	土師器 坏	カマド前面の床面上	口縁～底部 80％	高　5.6 口　(13.3)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩／口縁部は直立する／平底／底部木葉痕／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 91 図 2 図版 64- 2 -2	土師器 坏	貯蔵穴の覆土中（底上 12cm）	口縁部 15％	高　[4.6] 口　(13.8)	にぶい黄橙色	砂粒多量・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／口縁部は直立する／被熱剥離が著しい／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部被熱剥離の為不明	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 91 図 3 図版 64- 2 -3	土師器 坏	梯子穴西側の床面上	体～底部 20％	高　[6.0]	黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	丸底／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	小型の壷や甕の可能性あり／在地系土師器
第 91 図 4 図版 64- 2 -4	土師器 甕	貯蔵穴の覆土中（底上 16cm）、カマド前面の覆土中（床上 8cm）	口縁～胴部 15％	高　[13.3] 口　(18.1) 底　5.0	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	口縁部は外反する／最大径を口縁部に持つ／内外面剥離が目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 91 図 5 図版 64- 2 -5	土師器 甕	中央西側の床面上	口縁部 5％	高　[4.4] 口　(19.6)	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	口縁部は外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部横ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 91 図 6 図版 64- 2 -6	土師器 甕	中央北側の覆土中（床上 18 ～ 25 cm）	胴～底部 20％	高　[28.2] 底　(7.9)	にぶい黄褐色～橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	底部木葉痕、一部ケズリ／大型／最大径を胴部中位に持つ／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 91 図 7 図版 64- 2 -7	編石	北西側の覆土中	完形	砂岩	110.3	75.7	37.2	368.5	やや扁平な自然礫の上部、下部の一部を打ち割り凹部をつくる／その後使用により面は滑らかとなる／自然礫中央部の凸部も部分的に平滑になっている	

第 49 表　301 号住居跡出土遺物一覧

堤が、丸みを帯びた「コ」字状に巡っていた。

［覆　　土］６層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏・甕、編石が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（第 91 図、図版 64 －２、第 49 表）

［土　　器］（第 91 図１～６、図版 64 －２－１～６、第 49 表）

１～６は全て土師器で、１～３は坏、４～６は甕である。

［石 製 品］（第 91 図７、図版 64 －２－７、第 49 表）

７は、打ち欠いて紐掛けを作っていることから、編石と推測される。

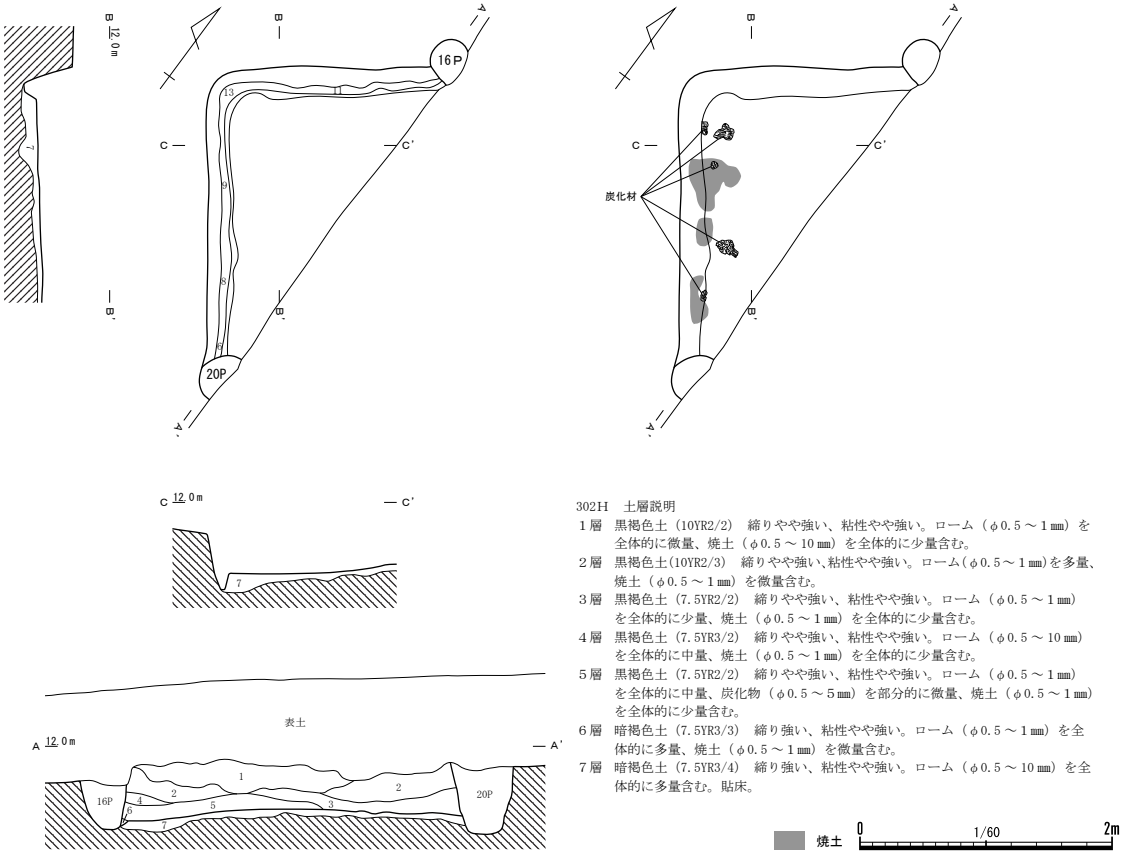
302 号住居跡

遺　　構（第 92 図）

［位　　置］（Ｊ・Ｋ－２・３）グリッド。

［検出状況］東側の調査区境で検出したため、住居の東側２／３程が調査区外である。16・20 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形と考えられる。**規模**：長軸 2.38m 以上／短軸 1.84m 以上／深さ 34㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N―37°―W。**壁溝**：検出範囲において全周する。上幅 12 ～ 23㎝／下幅３～８㎝／深さ６～ 13㎝。**床面**：全体的に軟弱である。貼床は３～９㎝の厚さで施されていた。



第 92 図　302 号住居跡・遺物出土状態（１／60）

カマド：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］６層に分層できた。西壁沿いに焼土と炭化材の分布が確認された。

［遺　　物］土師器片が出土した。小片のため図示できるものはない。

［所　　見］焼土・炭化材の分布から、焼失住居の可能性が考えられる。

［時　　期］古墳時代後期。

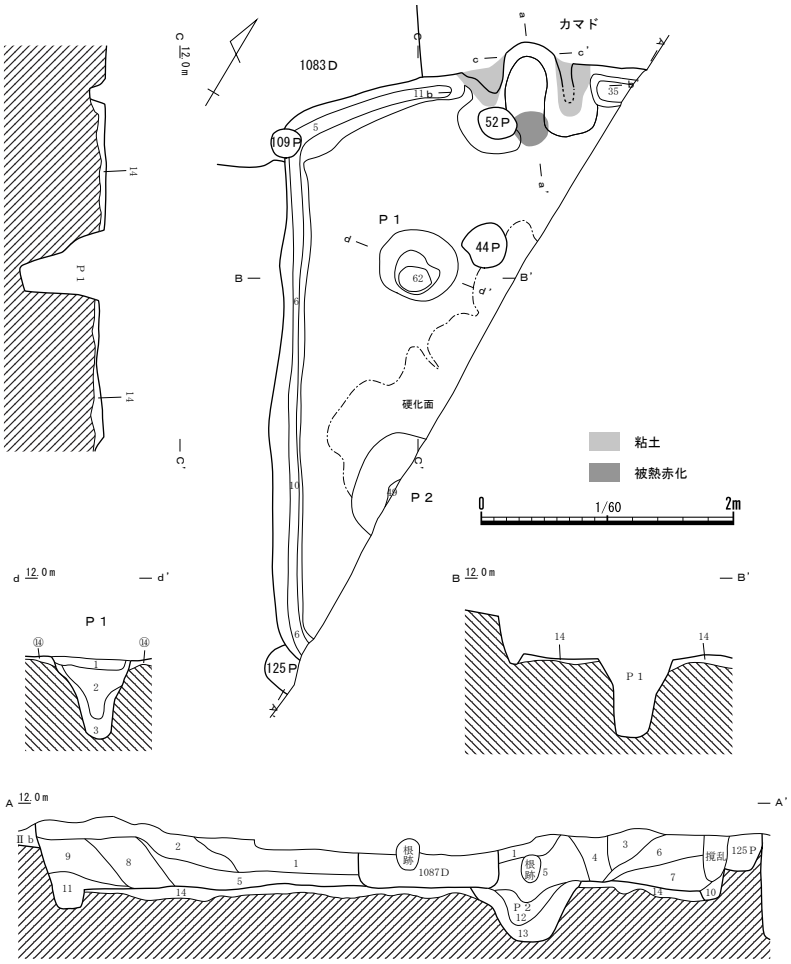
303 号住居跡

遺　　構（第 93・94 図）

［位　　置］（Ｊ・Ｋ－５・６）グリッド。

［検出状況］東側の調査区境で検出したため、住居の東側２／３程が調査区外である。1083D、1087D、44・52・109・110・125 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形と考えられる。**規模**：長軸 4.72m 以上／短軸 3.01m 以上／深さ 32㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―31°―Ｗ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅８～ 18㎝／下幅３～ 8㎝／深さ５～ 11㎝。**床面**：住居中央部分が硬化していた。貼床は４～ 10㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はＮ－ 37°－Ｗ。長さ 87㎝／幅



303H　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を微量、炭化物（φ0.5～１㎜）を微量、焼土（φ0.5～１㎜）を中量含む。

２層　黒色土（7.5YR2/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～15㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～10㎜）を全体的に微量含む。13 層　　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を少量、炭化物（φ0.5～１㎜）を微量、焼土（φ0.5～１㎜）を少量含む。

４層　黒色土（7.5YR2/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量含む。

５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～10㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～10㎜）を全体的に中量含む。

６層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。

７層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～５㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～３㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。

８層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、粘土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量含む。

９層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に中量含む。

10 層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量含む。

11 層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。炭化物（φ0.5～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～５㎜）を全体的に多量、粘土（φ0.5～１㎜）を全体的に中量含む。焼土多い。

12 層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ５～10㎜）を微量含む。Ｐ２。

13 層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～20㎜）を極多量含む。Ｐ２。

14 層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締り強い、粘性強い。ローム(φ0.5～10㎜)を全体的に極多量含む。貼床。

Ｐ１　土層説明

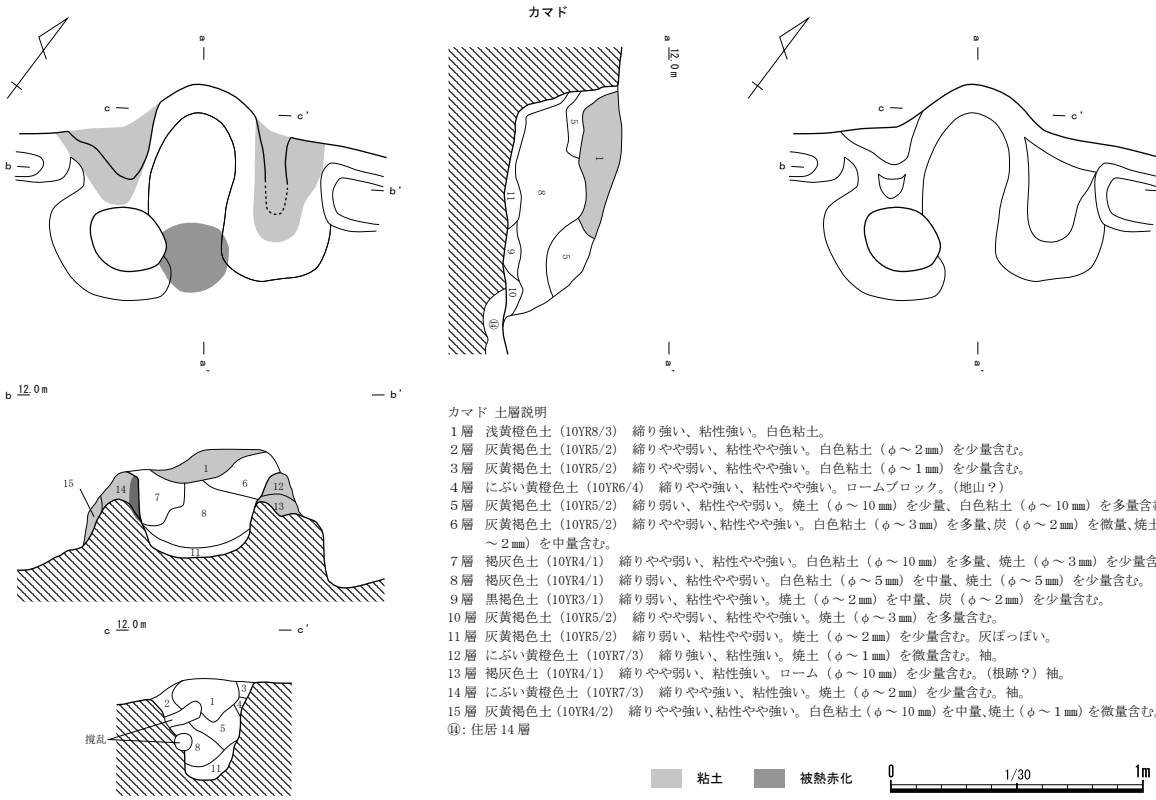
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ２～３㎜）を少量含む。

２層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ５～50㎜）を中量含む。

３層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ10～50㎜）を多量含む。

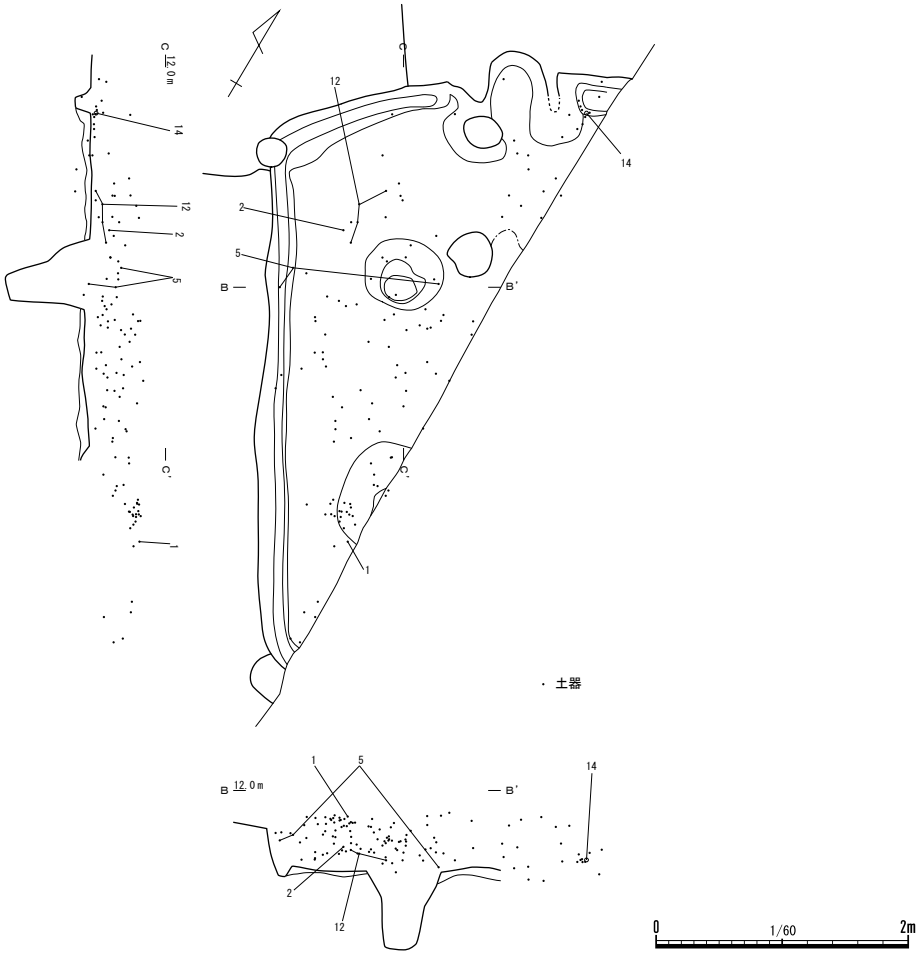
⑭：住居 14 層

第 93 図　303 号住居跡（１／ 60）

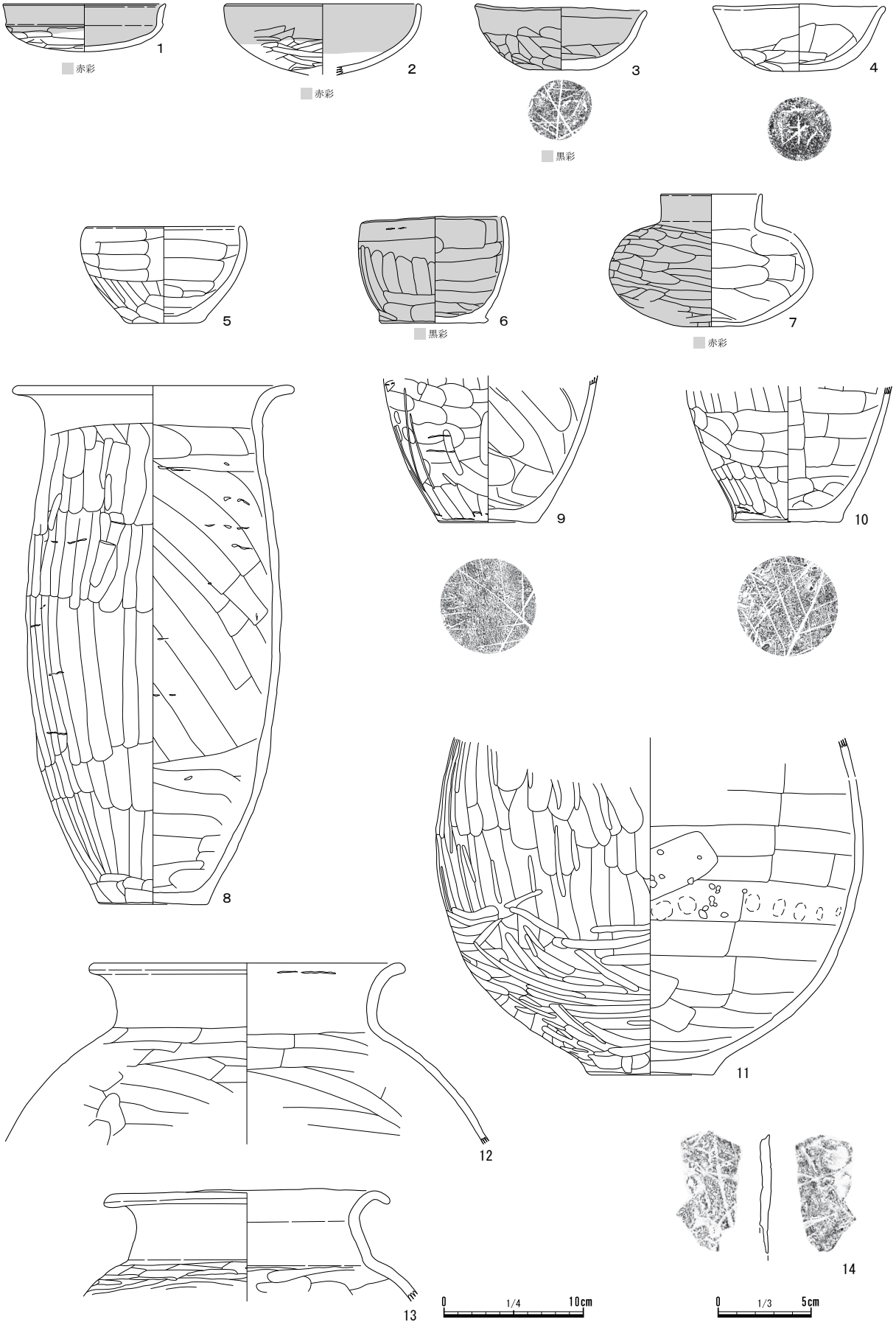


カマド 土層説明

１層　浅黄橙色土（10YR8/3）　締り強い、粘性強い。白色粘土。
２層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。白色粘土（φ～２㎜）を少量含む。
３層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。白色粘土（φ～１㎜）を少量含む。
４層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ロームブロック。（地山？）
５層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～10㎜）を少量、白色粘土（φ～10㎜）を多量含む。
６層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。白色粘土（φ～３㎜）を多量、炭（φ～２㎜）を微量、焼土（φ～２㎜）を中量含む。
７層　褐灰色土（10YR4/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜）を多量、焼土（φ～３㎜）を少量含む。
８層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性やや弱い。白色粘土（φ～５㎜）を中量、焼土（φ～５㎜）を少量含む。
９層　黒褐色土（10YR3/1）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～２㎜）を中量、炭（φ～２㎜）を少量含む。
10 層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を多量含む。
11 層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～２㎜）を少量含む。灰ぼっぽい。
12 層　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　締り強い、粘性強い。焼土（φ～１㎜）を微量含む。袖。
13 層　褐灰色土（10YR4/1）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ～10㎜）を少量含む。（根跡？）袖。
14 層　にぶい黄橙色土（10YR7/3）　締りやや強い、粘性強い。焼土（φ～２㎜）を少量含む。袖。
15 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜）を中量、焼土（φ～１㎜）を微量含む。袖。
⑭：住居 14 層



第 94 図　303 号住居跡カマド・遺物出土状態（１／30・１／60）



第 95 図　303 号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 80 図 1 図版 65-1	土師器 坏	Ｐ２南側の覆土中（床上 48cm）	口縁～底部 20%	高 3.9 口 (11.6)	暗赤褐色～橙色	砂粒・白色粒子中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線／口縁部は弱く外反する／内面:横ナデ／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 80 図 2 図版 65-2	土師器 坏	北西コーナー付近の覆土中（床上 24cm）	口縁～底部 20%	高 [5.0] 口 (14.2)	赤褐色～にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	内面～外面口縁部赤彩／丸底／口縁部は直立する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	非入間系・非在地系／古相
第 80 図 3 図版 65-3	土師器 坏	覆土中	口縁～底部 70%	高 4.8 口 12.3 底 4.6	橙色	砂粒多量／白色粒子･黒色粒子･石英･角閃石中量	黒彩／平底／底部木葉痕／口縁部は外傾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 80 図 4 図版 65-4	土師器 坏	覆土中	口縁～底部 80%	高 4.8 口 12.4 底 4.1	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・角閃石・雲母中量／小礫少量	平底／底部木葉痕／口縁部は外傾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 80 図 5 図版 65-5	土師器 坏	西壁北側付近・Ｐ１範囲内の覆土中（床上 29～33cm）	口縁～底部 80%	高 7.0 口 (11.2) 底 5.2	にぶい橙色	砂粒多量／角閃石中量	平底／口縁部は内湾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 80 図 6 図版 65-6	土師器 坏	覆土中	口縁～底部 70%	高 7.8 口 10.3 底 7.4	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	黒彩／平底／口縁部は直立する／底部と体部の境目がはっきりとしている／外面ツギメが残る／内面：ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 80 図 7 図版 65-7	土師器 壷	覆土中	口縁～底部 70%	高 9.5 口 6.4	明赤褐色	砂やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英・長石中量	外面赤彩か／口縁部は弱く外傾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	非入間系・非在地系／古相
第 80 図 8 図版 65-8	土師器 甕	覆土中	口縁～胴部 20%	高 37.2 口 20.2 底 7.8	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内外面ともにツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 80 図 9 図版 65-9	土師器 甕	覆土中	胴～底部 30%	高 [10.4] 底 7.2	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母中量／小礫少量	底部木葉痕／一部にツギメが残る／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ→一部ナデ・指押え	長甕／在地系土師器
第 80 図 10 図版 65-10	土師器 甕	覆土中	胴～底部 15%	高 [10.0] 底 7.4	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・金雲母中量	底部木葉痕／一部にツギメが残る／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 80 図 11 図版 65-11	土師器 甕	覆土中	胴～底部 40%	高 [24.2] 底 8.9	橙色	砂粒・黒色粒子・石英中量／小礫少量	内面被熱により剥離／大型／内面：ヘラナデ、胴部中央指押え／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 80 図 12 図版 65-12	土師器 甕	北西コーナー付近の覆土中（床上 13～21cm）	口縁～胴部 10%	高 [13.1] 口 (22.9)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・雲母中量	口縁部外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 80 図 13 図版 65-13	土師器 甕	覆土中	口縁～胴部 15%	高 [8.0] 口 20.6	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母中量	口縁部大きく外反し、下に垂れる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴ヘラケズリ→ミガキ	丸甕／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 95 図 14 図版 65-14	焼土塊	カマド東脇の覆土中（床上 7cm）	－	6.4	3.1	0.4	8.9	布目や葉脈、繊維の圧痕がみられる	

第 50 表　303 号住居跡出土遺物一覧

110cm／壁への掘り込み 19cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：Ｐ１・Ｐ２が主柱穴と考えられる。深さ 35～62cm。覆土はローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［**覆　土**］11 層に分層できた。

［**遺　物**］土師器坏・高坏・壷・甕、焼土塊が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（第 95 図、図版 65、第 50 表）

［土　　器］（第 95 図１～ 13、図版 65 －１～ 13、第 50 表）

１～ 13 は全て土師器で、１～６は坏、７は壷、８～ 13 は甕である。

［土 製 品］（第 95 図 14、図版 65 －１４、第 50 表）

１４は焼土塊である。布目などの圧痕が観察される。

304 号住居跡

遺　　構（第 96 ～ 98 図）

［位　　置］（Ｄ・Ｅ・Ｆ－７・８）グリッド。

［検出状況］12 Ｔ、69 Ｍに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 5.90m ／短軸 5.56m ／深さ 39㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―25°―Ｗ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 15 ～ 28㎝／下幅４～ 11㎝／深さ７～ 19㎝。**床面**：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－ 26°－Ｗ。長さ 117㎝／幅 108㎝／壁への掘り込み 37㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認された。長甕（10・15）を袖部補強材として構築されていた。**貯蔵穴**：北西コーナーに位置する（Ｐ６）。平面形は楕円形。長軸 65㎝／短軸 55㎝／深さ 45㎝。周囲には幅 12 ～ 31㎝／高さ 1㎝ほどの凸堤が、断続して巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 30 ～ 87㎝。覆土はローム粒を含む暗褐色土や黄褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ５は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ 23㎝。北側には幅 37 ～ 45㎝／高さ１～３㎝ほどの凸堤が、「Ｕ」字状に巡っていた。

［覆　　土］14 層に分層できた。多量の焼土の堆積が確認された。焼土は、住居跡中央付近から放射状に分布する。厚さは 10㎝程で、床面に接する。主要な遺物や炭化材などはこの焼土に含まれる、ないしは、覆われる。

［遺　　物］須恵器壷、土師器坏・鉢・甕・甑、ミニチュア土器、土製の紡錘車、砥石が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉～末葉）。

［所　　見］多量の炭化材や焼土が検出されたことから、焼失住居と考えられる。検出した炭化材はサンプリングし、樹種同定を実施した。詳細は［付編］自然科学分析を参照。

遺　　物（第 99・100 図、図版 66・67、第 51 表）

［土　　器］（第 99・100 図１～ 20、図版 66・67 －１～ 20、第 51 表）

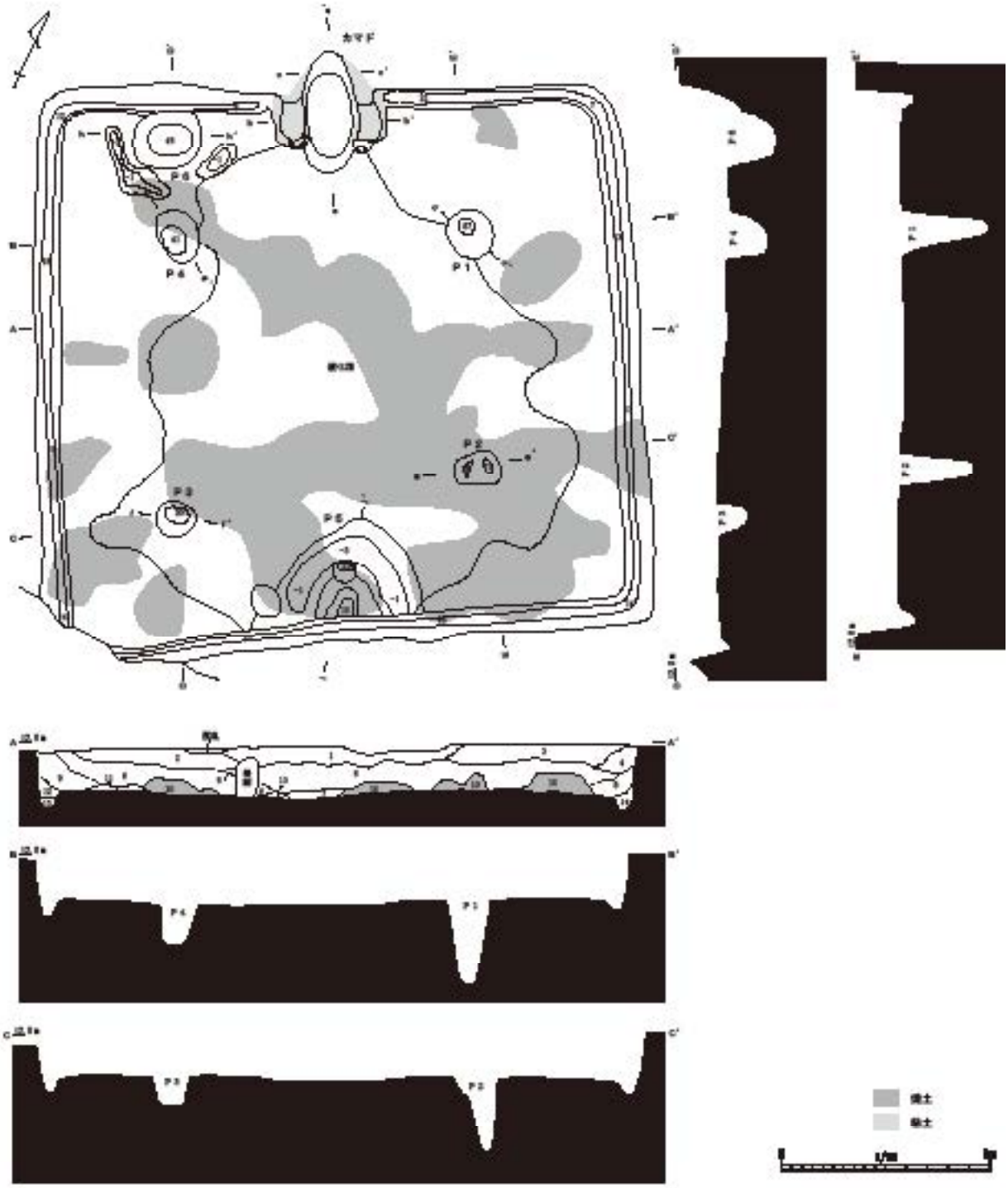
１は須恵器壷、２～ 20 は土師器で、２～５は坏、６～８は鉢、９～ 18 は甕、19 は甑、20 はミニチュア土器である。

［土 製 品］（第 100 図 21、図版 67 － 21、第 51 表）

21 は土製の紡錘車である。

［石 製 品］（第 100 図 22、図版 67 － 22、第 51 表）

22 は砥石である。



304号　土層説明

1層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）をブロック状（φ10mm程）に微量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

2層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

3層　黒褐色土(10YR2/2)　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5～1mm)を斑状に微量、焼土(φ1～3mm)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

4層　暗褐色土(10YR3/4)　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5～1mm)を斑状に微量、焼土(φ1mm程)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

5層　暗褐色土(10YR3/4)　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5～1mm)を斑状・ブロック状(φ10～50mm)に少量、炭化物（φ5～10mm）を斑状・ブロック状（φ10～100mm）に少量、焼土(φ1～20mm)を斑状・ブロック状(φ10～30mm)に少量、褐色土(φ0.5～1mm)を多量含む。

6層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ50～30mm）に少量、焼土（φ1～3mm）を斑状・ブロック状（φ10～30mm）に少量、褐色土（φ0.5～1mm）を多量含む。

7層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に微量、炭化物(φ3～10mm)をブロック状(φ3～10mm)に微量、褐色土(φ0.5～1mm)を極多量含む。

8層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1mm）を多量含む。

9層　暗褐色土(10YR3/3)　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5～1mm)を斑状・ブロック状(φ10～20mm)に微量、炭化物（φ5～20mm）を斑状・ブロック状（φ5～20mm）に微量、焼土(φ1～3mm)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

10層　赤色土（10R5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ10～20mm）に微量、炭化物（φ5～20mm）を斑状・ブロック状（φ5～20mm）に少量、焼土(φ1～20mm)を極多量、褐色土（φ0.5～1mm）を極多量含む。

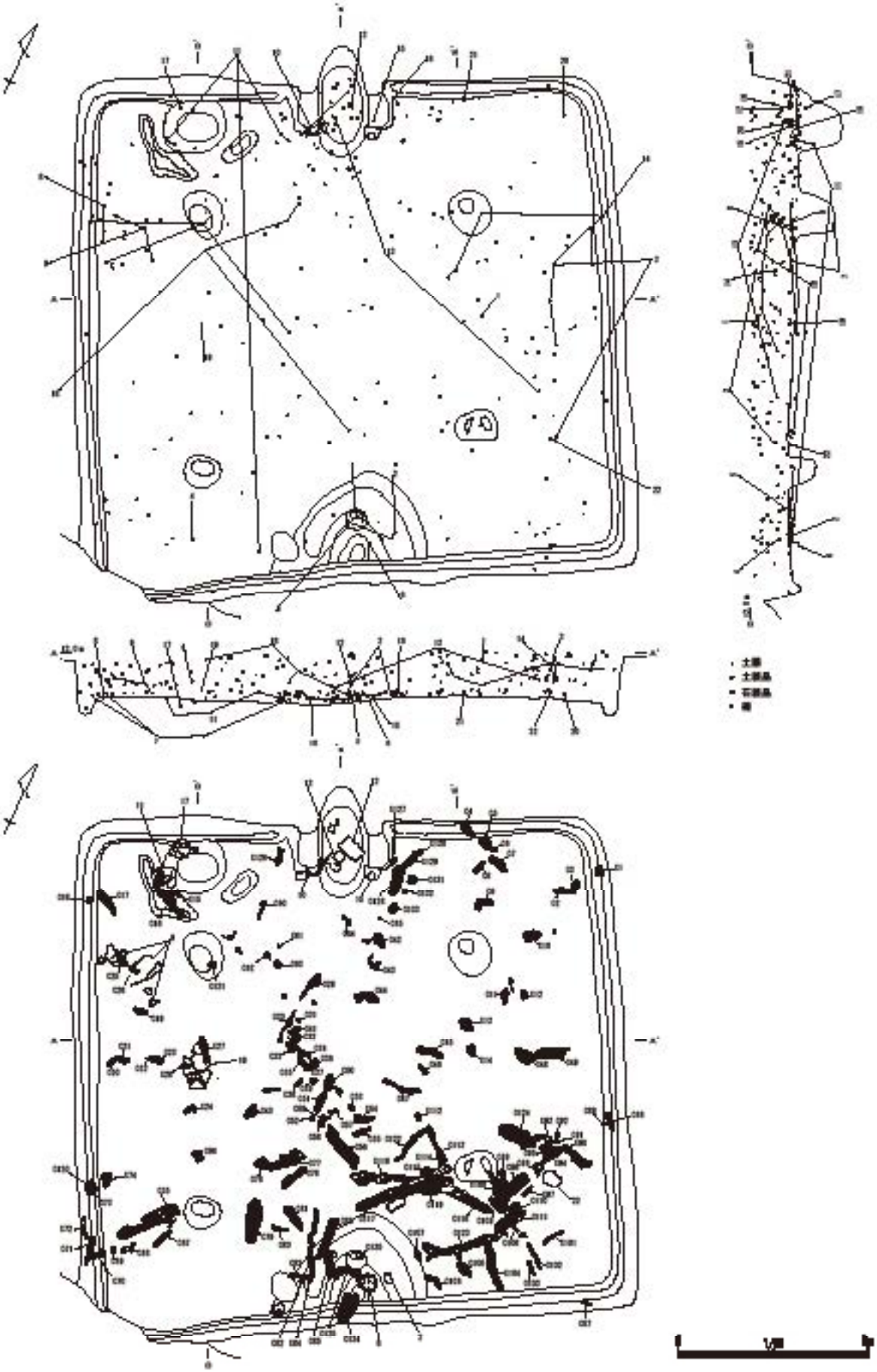
11層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1mm）を多量含む。

12層　暗褐色土(10YR3/3)　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5～1mm)を斑状・ブロック状(φ10～20mm)に少量、褐色土（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20～40mm）に多量含む。

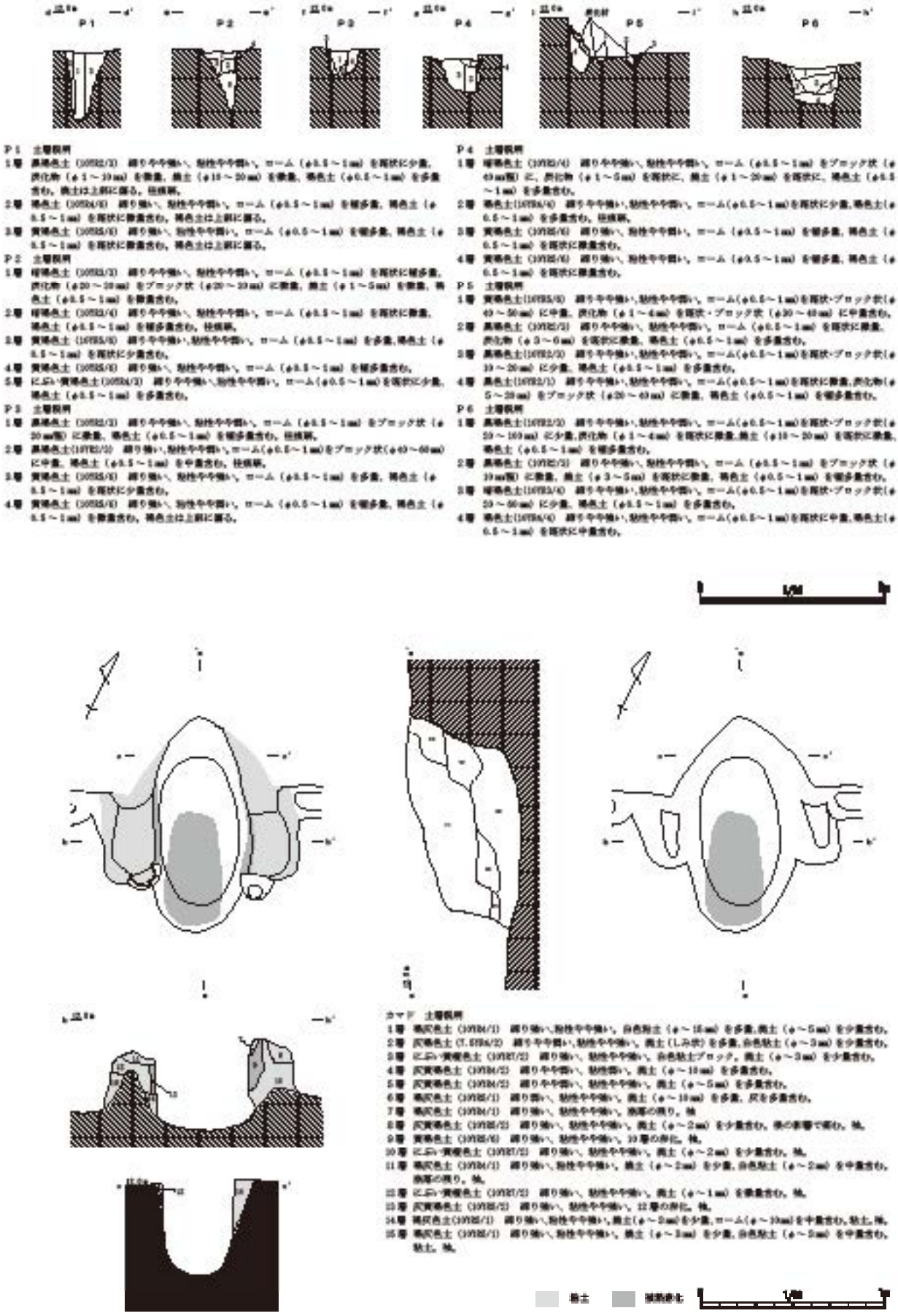
13層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を極多量、褐色土（φ0.5～1mm）を斑状に微量含む。

14層　赤色土（10R5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に多量、褐色土（φ0.5～1mm）を斑状に少量含む。

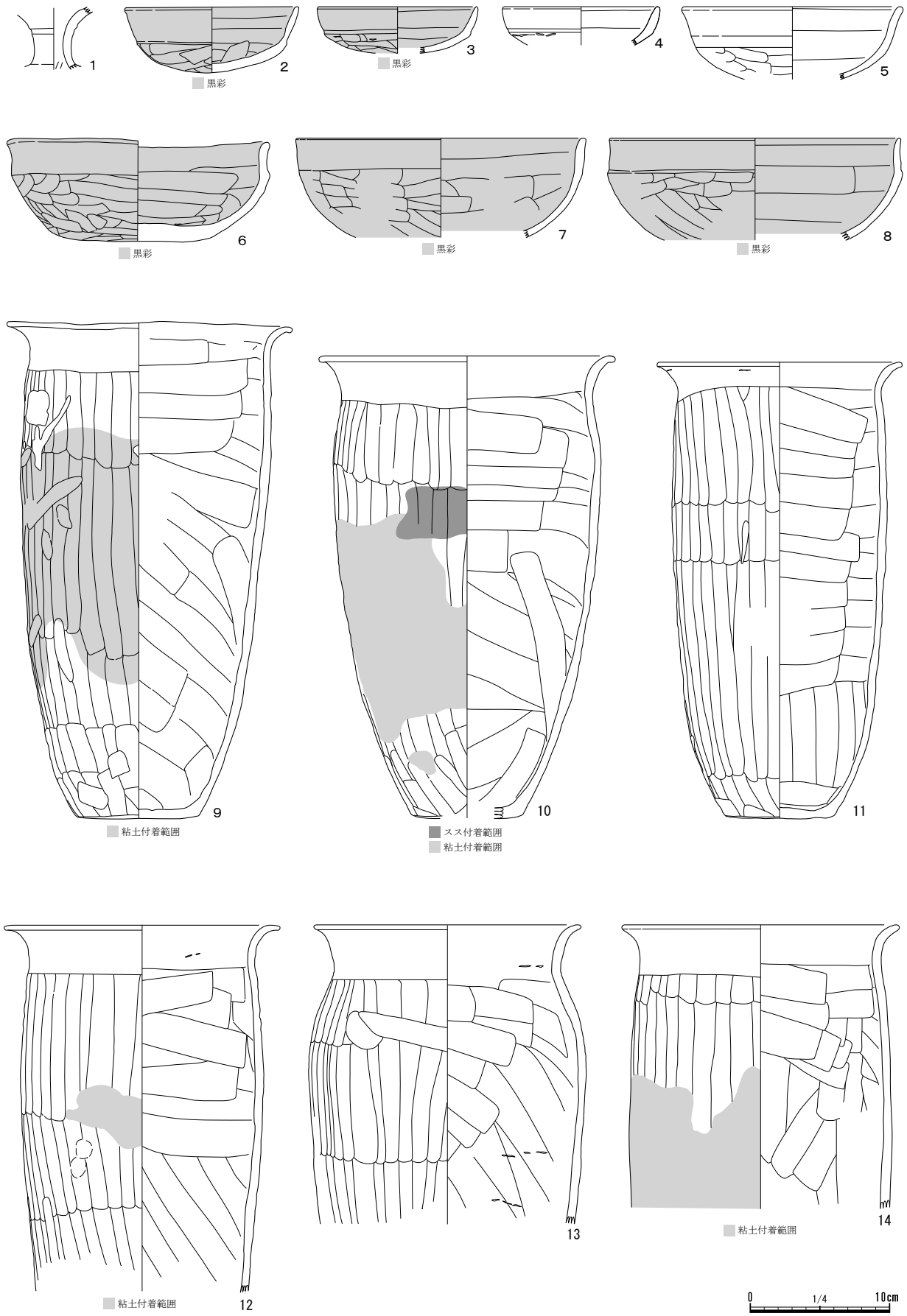
第 96 図　304 号住居跡（１／60）



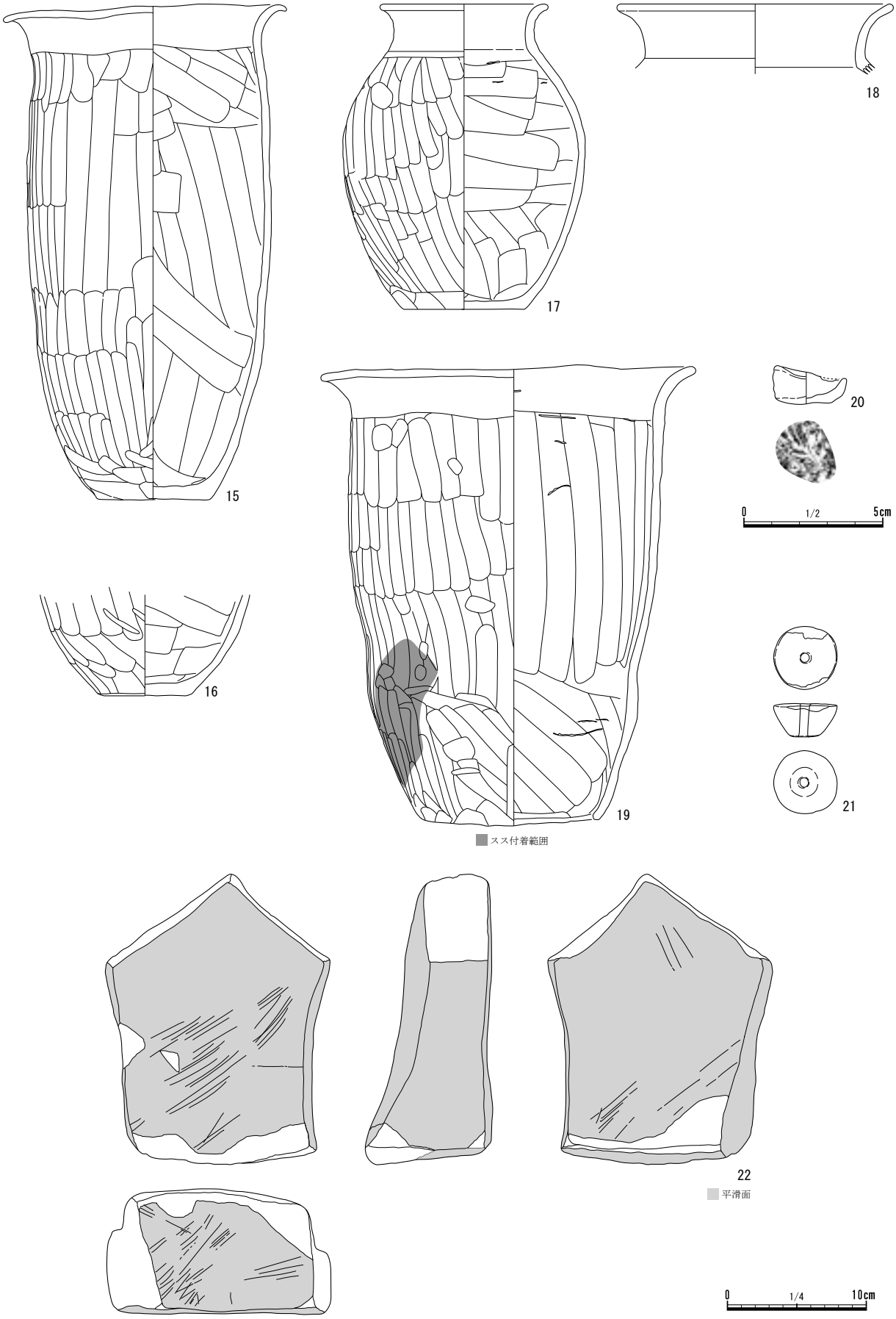
第 97 図　304 号住居跡遺物出土状態（１／60）



第 98 図　304 号住居跡・カマド（１／60・１／30）



第 99 図　304 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 100 図　304 号住居跡出土遺物２（１／２・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 99 図 1 図版 66-1	須恵器 壷	東側の覆土中（床上 42 cm）	頸部	高 [4.4]	灰黄色	砂粒・黒色粒子・雲母・小礫中量	頸上部に横位沈線／内面：回転ナデ、下部未調整／外面：回転ナデ	産地不明
第 99 図 2 図版 66-2	土師器 坏	Ｐ５周辺の床面上	口縁～底部 80％	高 4.7 口 12.5	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･黒色粒子･赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩／口縁部外傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 99 図 3 図版 66-3	土師器 坏	東壁中央付近の覆土中（床上 25 ～ 45cm）	口縁～底部 20％	高 [3.3] 口 (11.6)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子やや多量／黒色粒子・赤色粒子・雲母中量／長石少量	黒彩／口縁部外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 99 図 4 図版 66-4	土師器 坏	南西コーナー附近の覆土中（床上 20cm）	口縁部 10％	高 [2.8] 口 (11.3)	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	スス付着／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 99 図 5 図版 66-5	土師器 坏	Ｐ５（床面レベル）とその周辺の床面上	口縁～底部 20％	高 [5.2] 口 (15.9)	橙色	砂粒・黒色粒子・雲母中量／角閃石少量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 99 図 6 図版 66-6	土師器 鉢	Ｐ５周辺の床面上	口縁～底部 80％	高 10.8 口 19.0 底 7.3	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／口縁部ゆがみあり／内面：口縁部横ナデ、体部横ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	浅鉢タイプ／在地系土師器
第 99 図 7 図版 66-7	土師器 鉢	Ｐ３（ほぼ底）、西壁北側付近の覆土中（床上 6・8cm）、中央西側の床面上	口縁～体部 20％	高 [7.2] 口 (20.8)	にぶい橙色	砂粒・赤色粒子・雲母中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	浅鉢タイプ／在地系土師器
第 99 図 8 図版 66-8	土師器 鉢	西壁北側付近の覆土中（床上３～８cm）	口縁～底部 20％	高 [7.3] 口 (20.9)	にぶい黄橙色	砂粒・赤色粒子・雲母中量／小礫少量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、体部ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	浅鉢タイプ／在地系土師器
第 99 図 9 図版 66-9	土師器 甕	西壁北側付近の覆土中（床上８～24cm）	口縁～底部 80％	高 30.7 口 20.4 底 8.6	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 99 図 10 図版 66-10	土師器 甕	カマド西袖前部、カマド内	口縁～底部 50％	高 33.3 口 21.1 底 7.7	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子･石英･角閃石･銀雲母・小礫中量	口縁部はゆるやかに外反する／最大径を口縁部に持つ／外面スス・粘土付着／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 99 図 11 図版 66-11	土師器 甕	貯蔵穴内（底上 30~48 cm）、貯蔵穴とカマドの間の覆土中（床上３・７cm）、Ｐ５西側の床面上	口縁～底部 80％	高 32.9 口 (17.5) 底 8.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量／角閃石少量	口縁部は外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 99 図 12 図版 66-12	土師器 甕	カマド内（火床上 30cm）	口縁～胴部 30％	高 [26.3] 口 (19.5)	橙色	砂粒やや多量・白色粒子･黒色粒子･金雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、一部指押え	長甕／在地系土師器
第 99 図 13 図版 66-13	土師器 甕	カマド内（火床上 30cm）、東側の覆土中（床上 22 cm）	口縁～胴部 30％	高 [21.4] 口 (19.2)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･黒色粒子･赤色粒子・長石・雲母中量	口縁部は弱く外反する／最大径を胴上部に持つ／外面ツギメが残る／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 99 図 14 図版 66-14	土師器 甕	東側の覆土中（床上 16 ～ 39cm）	口縁 胴部 15％	高 [20.4] 口 (19.9)	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 100 図 15 図版 67-15	土師器 甕	カマド東袖前部	口縁～底部 90％	高 35.6 口 20.4 底 8.2	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子やや多量／白色粒子・金雲母中量	口縁部大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 100 図 16 図版 67-16	土師器 甕	カマド東側の覆土中（床上９～ 11 cm）	胴～底部 10％	高 [7.3] 口 (6.5)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量	内面：胴部ヘラケズリ、底部摩滅の為不明／外面：胴部ヘラナデ	長甕／在地系土師器

第 51 表　304 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 100 図 17 図版 67-17	土師器 甕	Ｐ６（底上 39cm）	口縁～ 底部 50%	高　21.9 口　(12.2) 底　(8.8)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・金雲母中量	口縁部は外反する／最大径を胴中位に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ｂナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 100 図 18 図版 67-18	土師器 甕	中央北西側の覆土中（床上 18 ～ 42 cm）、中央南側の床面上	口縁部 10%	高　[5.1] 口　(20)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・雲母中量	口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ頸部ヘラケズリ？	丸甕／在地系土師器
第 100 図 19 図版 67-19	土師器 甑	西側の覆土中（床上 10 cm）	ほぼ完形	高　33.2 口　26.9 底　12.6	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	口縁部は外反する／外面スス付着／内面ツギメが残る／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 100 図 20 図版 67-20	ミニチュア土器	北東コーナーの覆土中（床上 7 cm）	口縁～ 底部 90%	高　1.3 口　2.2 底　1.9	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／小礫少量	底部木葉痕／口縁大きく傾く／指ツマミ	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 100 図 21 図版 67-21	土製品 紡錘車	北壁東側付近の覆土中（床上 7cm）	完形	4.5	4.6	2.3	40.6	中央部穿孔、均整のとれた山形、外面滑らかにナデ、一部スス付着	

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 100 図 22 図版 67-22	砥石	南東コーナー附近の覆土中（床上 9cm）	破片	砂岩	208.7	160.8	91.7	3091.0	全体に非常によく磨面が形成され、ほぼ全面が使われている／表裏とも中央部が浅くくぼむ	

第 51 表　304 号住居跡出土遺物一覧（２）

305 号住居跡

遺　構（第 101 ～ 103 図）

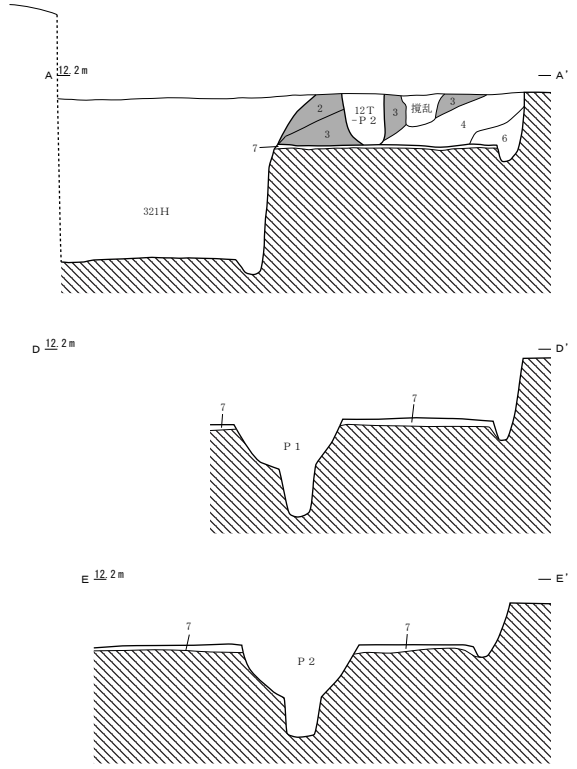
［位　置］（Ｃ・Ｄ－６・７）グリッド。

［検出状況］西側の調査区境で検出したため、住居の西側の半分程度が調査区外である。10 Ｊを切り、321 Ｈ、12 Ｔに切られる。住居の中央部分は 321 Ｈにより破壊されている。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 6.31m ／短軸 4.01m ／深さ 42cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―20°―Ｗ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 16 ～ 28cm／下幅 4 ～ 13cm／深さ９～ 14cm。**床面**：住居中央よりの部分が硬化していた。貼床は２～ 17cmの厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はＮ－ 18°－Ｗ。長さ 106cm／幅 108cm／壁への掘り込み 36cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。**貯蔵穴**：カマドの東側に位置する（Ｐ６）。平面形は隅丸長方形。長軸 98cm／短軸 60cm／深さ 76cm。東側に、幅 30cm／深さ 20cmほどの段を有する。周囲には幅 19 ～ 35cm／高さ３cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。**柱穴**：Ｐ１、Ｐ２は主柱穴と考えられる。深さ 74 ～ 78cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。**入口施設**：半分未満の検出であるが、Ｐ４は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒色土を基調とする。深さ９cm。北側には幅 35cmほど／高さ１cmほどの凸堤が、「Ｕ」字状に巡るものと思われる。

［覆　土］６層に分層できた。ローム粒を含む暗褐色土を基調とするが、２・３層は特にローム粒を多量に含む。

［遺　物］須恵器甕、土師器坏・鉢・甕、ミニチュア土器、鉄鏃、不明鉄製品、鉄滓が出土した。



305H　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

２層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

３層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

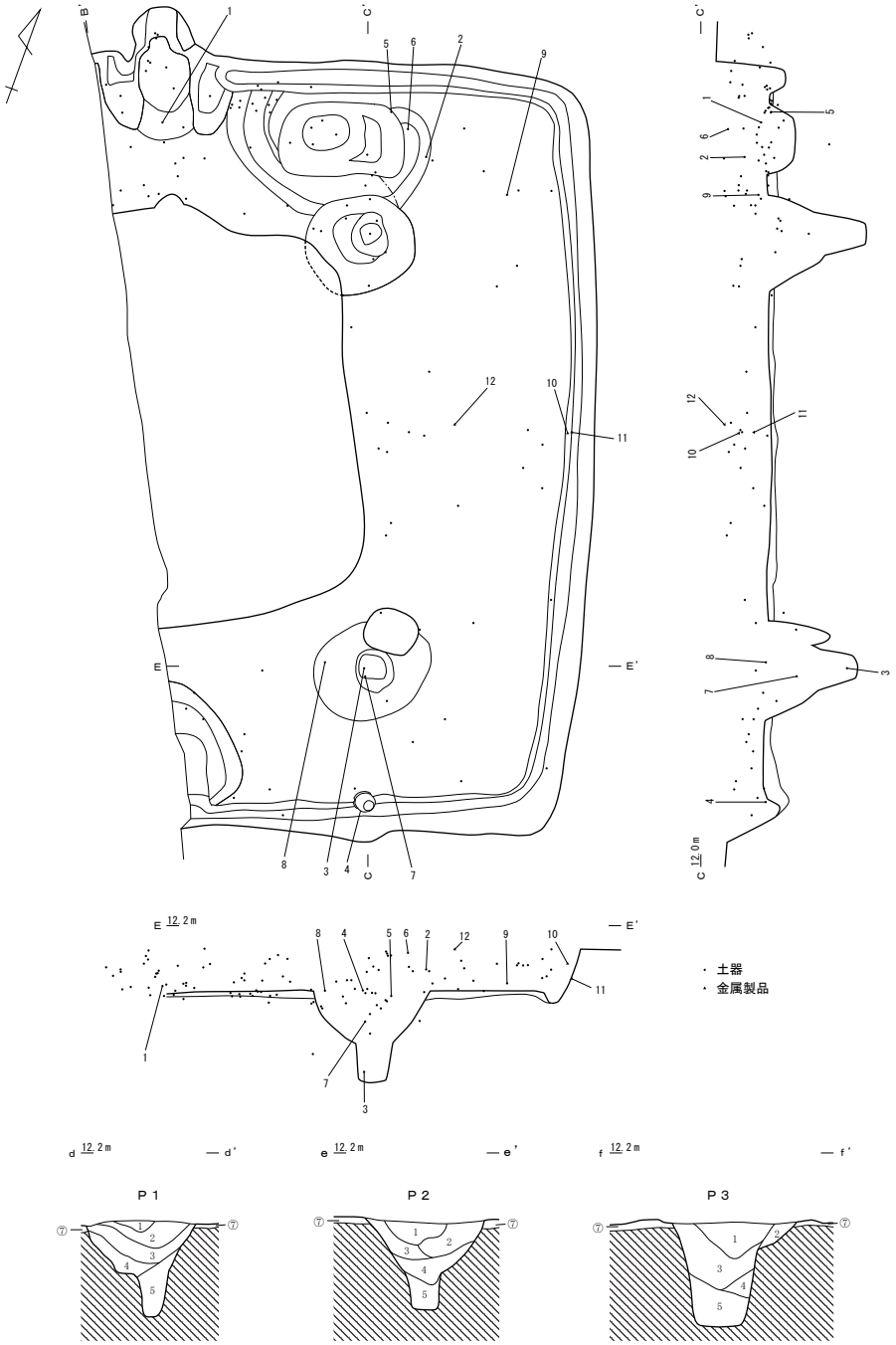
５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

７層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締り非常に強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量含む。貼床。

ローム　粘土　0　1/60　2m

第 101 図　305 号住居跡（1／60）



Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～１㎜)を全体的に多量含む。
５層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に極多量含む。

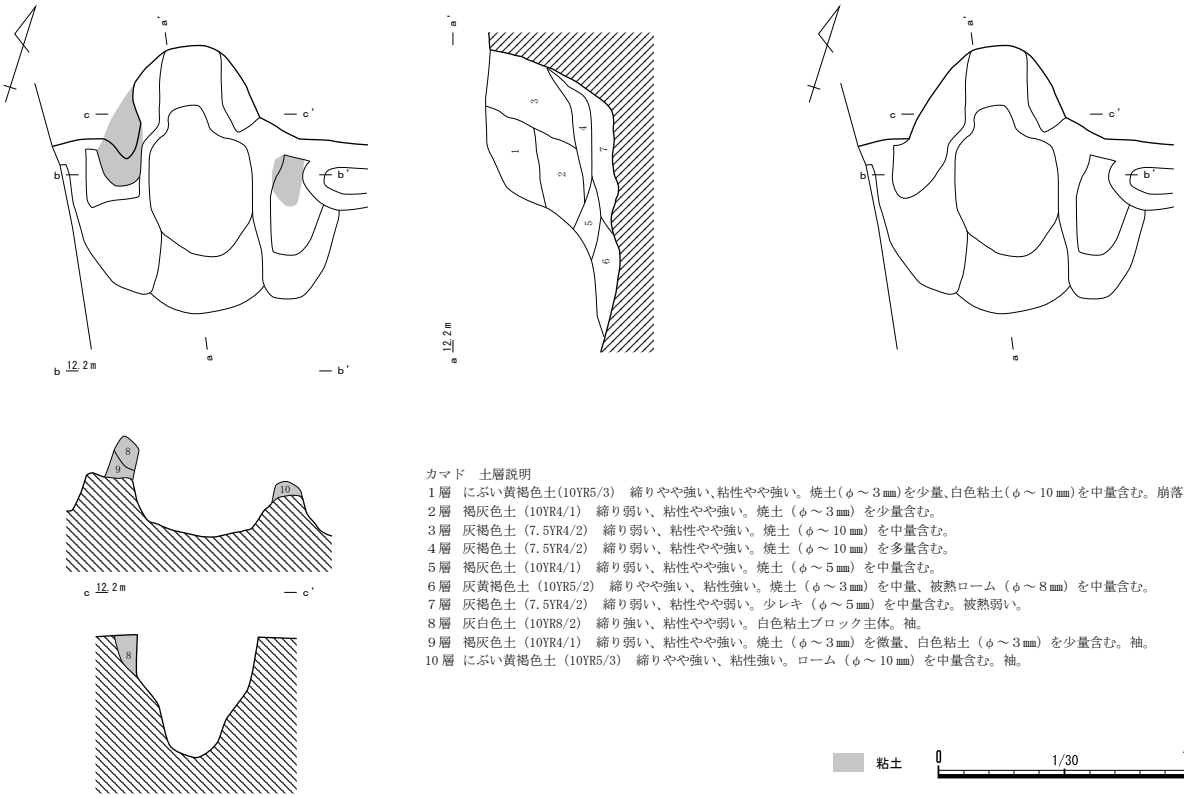
Ｐ２　土層説明
１層　黒色土（５YR1.7/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量含む。
２層　黒褐色土（５YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～５㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に多量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ３　土層説明
１層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、粘土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に多量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に極多量含む。
５層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に極多量含む。

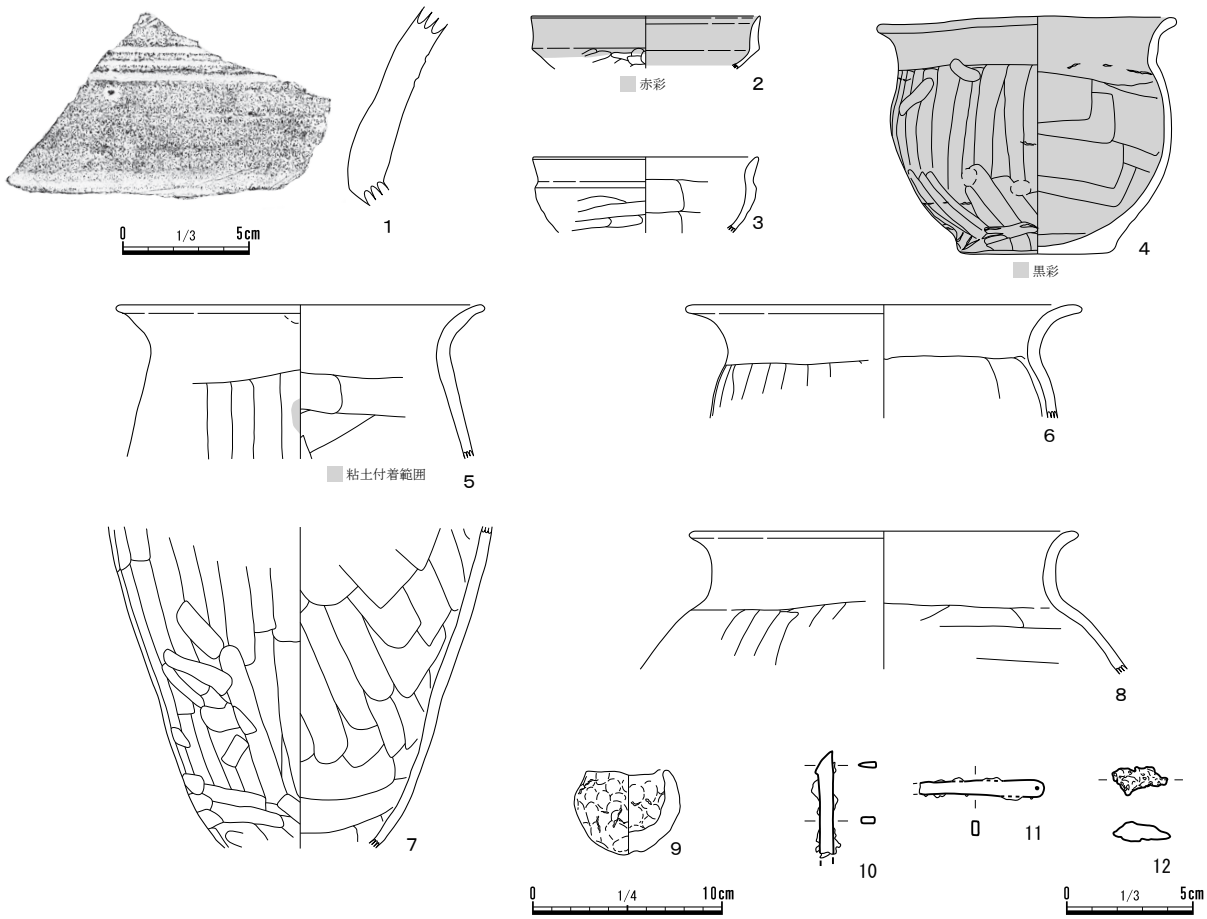
⑦: 住居７層

0　1/60　2m

第 102 図　305 号住居跡・遺物出土状態（１／60）



第 103 図　305 号住居跡カマド（１／30）



第 104 図　305 号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 104 図 1 図版 68- 1 -1	須恵器 甕	カマド内（火床上 18cm）	頸部片	厚 1.4	褐灰色	砂粒多量／白色粒子中量	２条横位沈線／肉厚／内面：横ナデ／外面：横ナデ	産地不明
第 104 図 2 図版 68- 1 -2	土師器 坏	貯蔵穴東側の覆土中（床上 23cm）	口縁～底部 10％	高 [2.8] 口 (12.1)	暗赤褐色～にぶい赤褐色	砂粒中量／小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内部に沈線無し（弱い？）／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 104 図 3 図版 68- 1 -3	土師器 坏	Ｐ２内（底上 8cm）	口縁～体部 10％	高 [4.0] 口 (12)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・角閃石中量	口縁部は外反気味に外傾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 104 図 4 図版 68- 1 -4	土師器 鉢	南側の壁厚肩	口縁～底部 60％	高 12.5 口 15.9 底 8.1	明赤褐色～明黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	黒彩／口縁部は外反する／最大径を口縁部に持つ／内外面ツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、一部指押え、底部ヘラケズリ	在地系土師器
第 104 図 5 図版 68- 1 -5	土師器 甕	貯蔵穴の肩（床面レベル）	口縁～胴部 5％	高 [8.2] 口 (19.6)	橙色	砂粒多量／白色粒子・角閃石・雲母中量	口縁部は外反する／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、一部指押えが残る、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 104 図 6 図版 68- 1 -6	土師器 甕	貯蔵穴東側の覆土中（床上 36cm）	口縁～胴 5％	高 [6.0] 口 (21.0)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･黒色粒子･赤色粒子・長石・角閃石中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つと思われる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 104 図 7 図版 68- 1 -7	土師器 甕	Ｐ２内（底上 48cm）	胴 40％	高 [17.0]	明赤褐色	砂粒・白色粒子・長石中量	外面スス付着／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 104 図 8 図版 68- 1 -8	土師器 甕	Ｐ２範囲内（床面レベル）	口縁～胴部 5％	高 [7.6] 口 (20.6)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	口縁部コの字で外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 104 図 9 図版 68- 1 -9	ミニチュア土器	北東コーナー付近の覆土中（床上 11cm）	ほぼ完形	高 [4.5] 口 4.4	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量／角閃石少量	縦横にツギメが残る／指押え	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 104 図 10 図版 68- 1 -10	鉄製品 鉄鏃	東壁溝範囲の覆土中（床上 25cm）	鏃身部～箆被部	鉄	[4.0]	0.7	0.2	1.5	鏃身部は片端刃で関を有す／鏃身部長 0.9cm／幅 0.7cm／厚 0.2cm／箆被部長 [3.1]cm／幅 0.5cm／厚 0.2cm	長頸 端刃 片刃 箭式
第 104 図 11 図版 68- 1 -11	鉄製品 不明品	東壁溝範囲の覆土中（床上 13cm）	片端欠損	鉄	[4.9]	0.7	0.2	2	断面長方形／残る端部は丸みをもち、径 0. 1 cm 程度の穿孔を有す	
第 104 図 12 図版 68- 1 -12	鉄滓	東壁付近の覆土中（床上 37cm）	―	不明	1.1	2.2	0.8	0.3	被熱により発泡	

第 52 表　305 号住居跡出土遺物一覧

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

［所　　見］２・３層は、ロームを主体とする堆積であり、321H の掘削土の可能性が考えられる。

遺　　物（第 104 図、図版 68 － 1 、第 52 表）

［土　　器］（第 104 図 1 ～ 9 、図版 68 － 1 － 1 ～ 9 、第 52 表）

1 は須恵器甕、２～９は土師器で、２・３は坏、４は鉢、５～８は甕、９はミニチュア土器である。

［鉄 製 品］（第 104 図 10 ～ 12、図版 68 － 1 － 10 ～ 12、第 52 表）

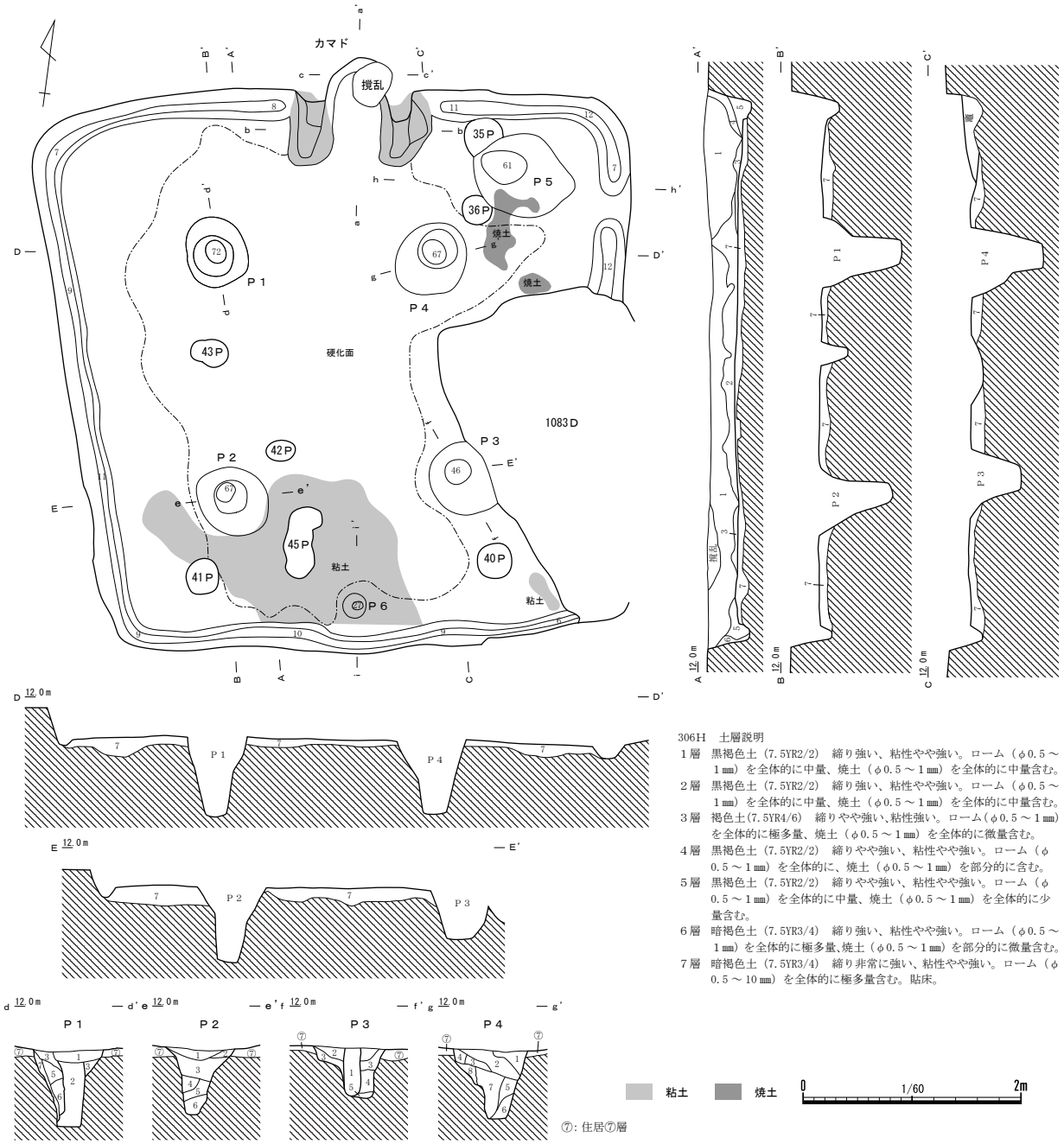
10 は鉄鏃、11 は不明鉄製品、12 は鉄滓である。

306 号住居跡

遺　　構（第 105 ～ 107 図）

［位　　置］（Ｉ・Ｊ－４・５）グリッド。

［検出状況］1077・1083・1085・1094 Ｄ、35・36・40 ～ 43・45・99 Ｐに切られる。



306H　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

３層　褐色土(7.5YR4/6)　締りやや強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に含む。

５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。

７層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に極多量含む。貼床。

粘土　焼土　0　1/60　2m

⑦: 住居⑦層

Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

２層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～10㎜)を全体的に中量含む。柱痕跡

３層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

４層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

６層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

７層　褐色土(7.5YR4/6)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

３層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。

４層　暗褐色土(7.5YR3/3)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量含む。

５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を極多量含む。

６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ３　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量、焼土（φ0.5～1㎜）を中量含む。柱痕跡

２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、焼土（φ0.5～1㎜）を中量含む。

４層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

５層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

Ｐ４　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～20㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

２層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量、焼土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

３層　赤褐色土（2.5YR4/8）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、焼土（φ0.5～1㎜）を中量含む。

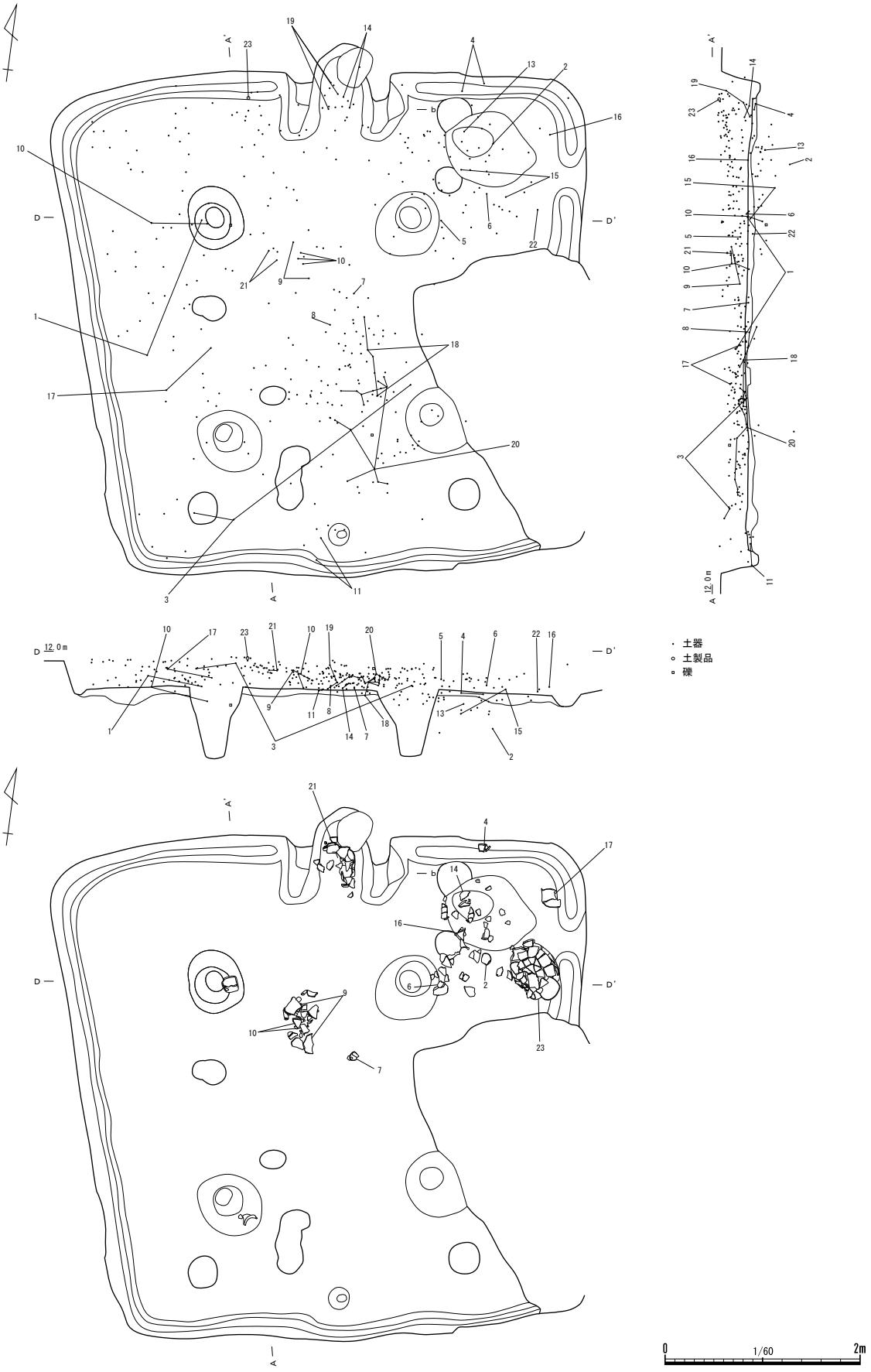
５層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

６層　褐色土（7.5YR4/6）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～20㎜）を極多量含む。

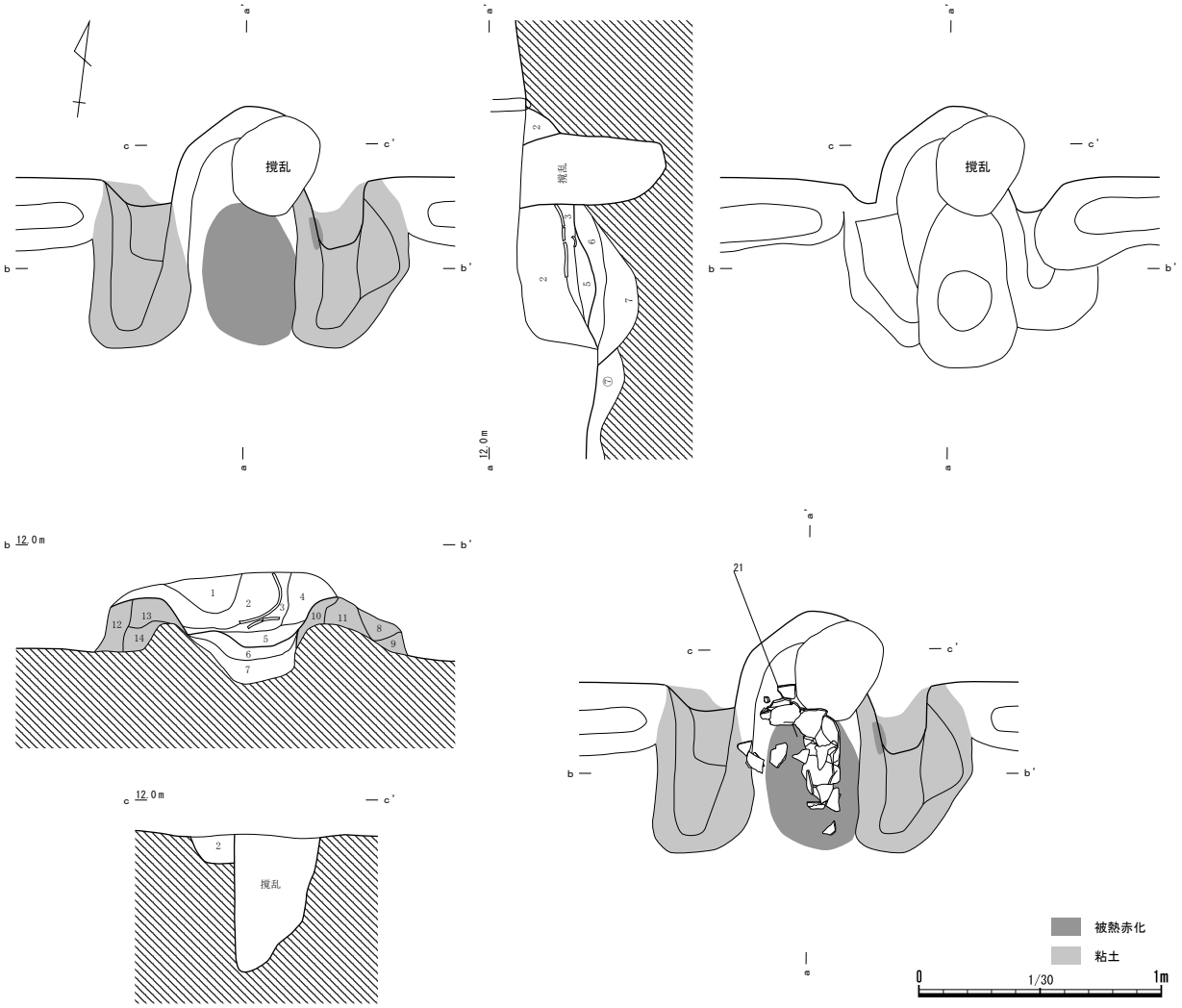
７層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

８層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量、焼土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

第 105 図　306 号住居跡（1／60）



第 106 図　306 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）



カマド　土層説明

１層　褐灰色土(10YR4/1)　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土(φ～３㎜)を少量、白色粘土(φ～２㎜)を少量含む。

２層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を中量、白色粘土（φ～３㎜）を中量含む。

３層　灰黄褐色土(10YR4/2)　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～１㎜）を微量、白色粘土（φ～２㎜）を中量含む。

４層　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック。焼土(φ～５㎜)を少量含む。

５層　黒褐色土（10YR3/2）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～５㎜）を中量、白色粘土（φ～３㎜）を少量含む。

６層　にぶい赤褐色土（2.5YR5/3）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～10㎜）を極多量含む。

７層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性強い。焼土（φ～１㎜）を少量含む。

８層　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土ブロック。焼土（φ～２㎜）を微量含む。袖。

９層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締り弱い、粘性強い。白色粘土（φ～１㎜）を少量含む。袖。

10層　灰黄褐色土（10YR6/2）　締りやや強い、粘性強い。焼土（φ～５㎜）を少量含む。袖。

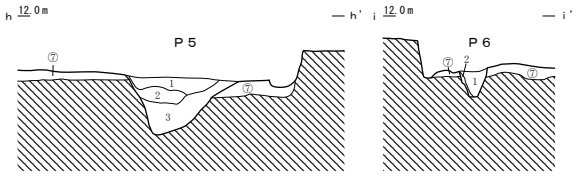
11層　にぶい黄橙色土(10YR7/2)　締り強い、粘性強い。白色粘土。赤スコ(φ～１㎜)を微量含む。袖。

12層　黒褐色土（10YR3/1）　締り強い、粘性やや強い。焼土（φ～１㎜）を少量、白色粘土（φ～２㎜）を中量含む。袖。

13層　褐灰色土（10YR4/1）　締り強い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を少量、白色粘土（φ～５㎜）を多量含む。袖。

14層　にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締りやや強い、粘性弱い。白色粘土ブロック。焼土（φ～３㎜）を微量含む。暗褐色度（しみ状）を多量含む。袖。

⑦: 住居７層



Ｐ５　土層説明

１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～５㎜）を少量、焼土（φ10～50㎜）を中量、粘土（φ１～５㎜）を中量含む。

２層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～２㎜）を少量、焼土（φ１～２㎜）を微量、粘土（φ１～５㎜）を多量含む。

３層　褐色土（7.5YR4/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ５～10㎜）を多量、焼土（φ１～５㎜）を微量含む。

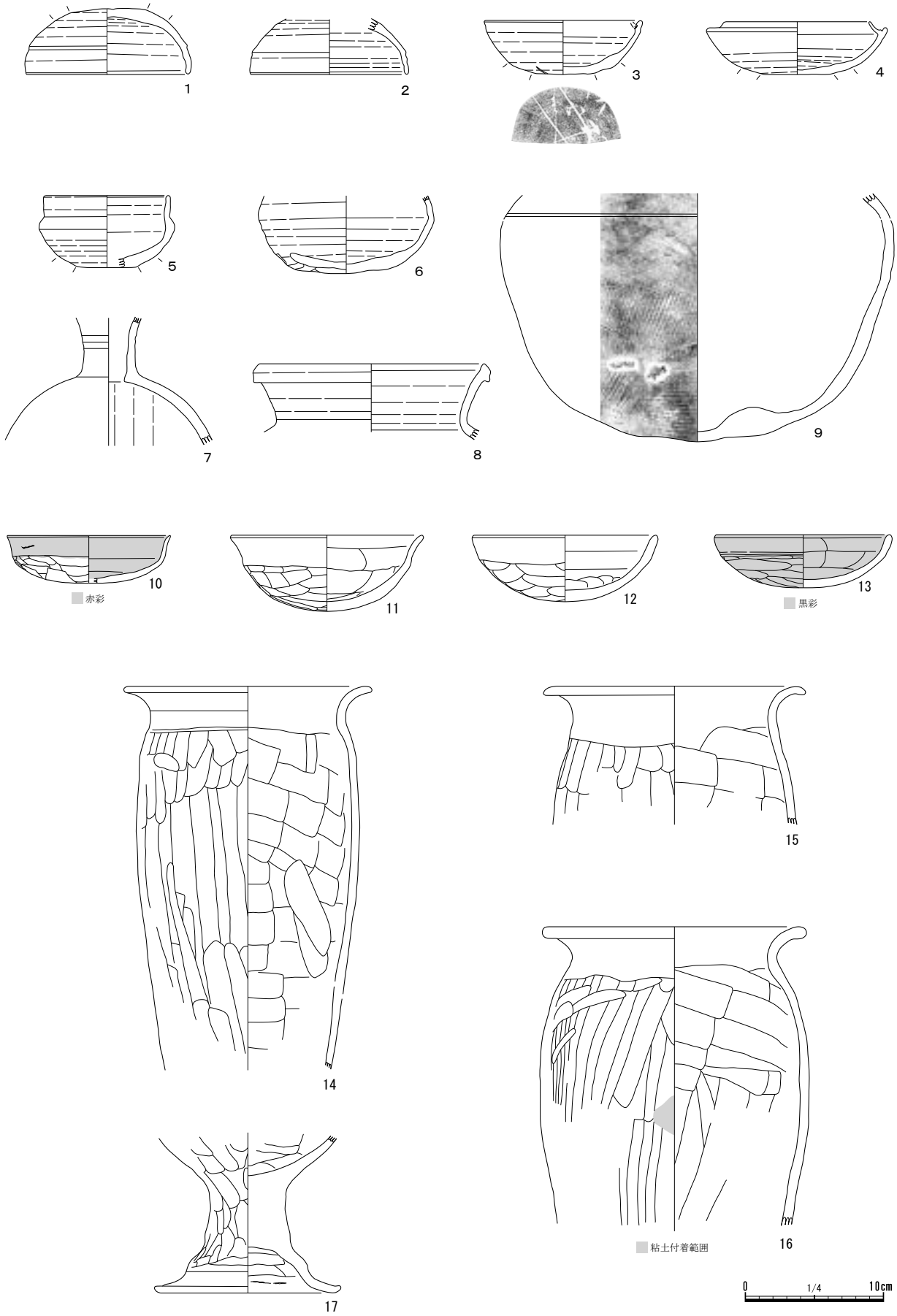
Ｐ６　土層説明

１層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～３㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～１㎜）を部分的に微量含む。

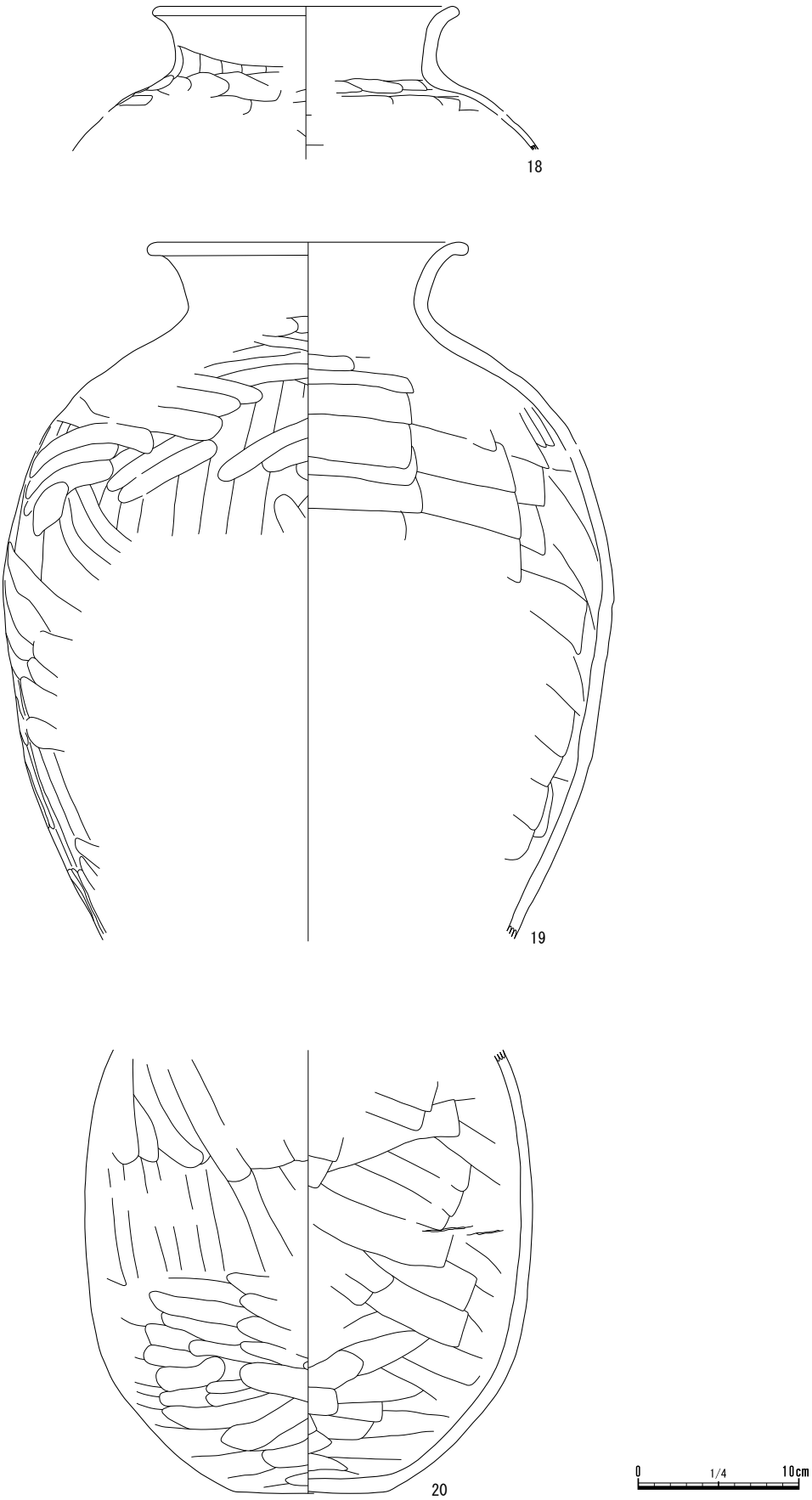
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量含む。

0　1/60　2m

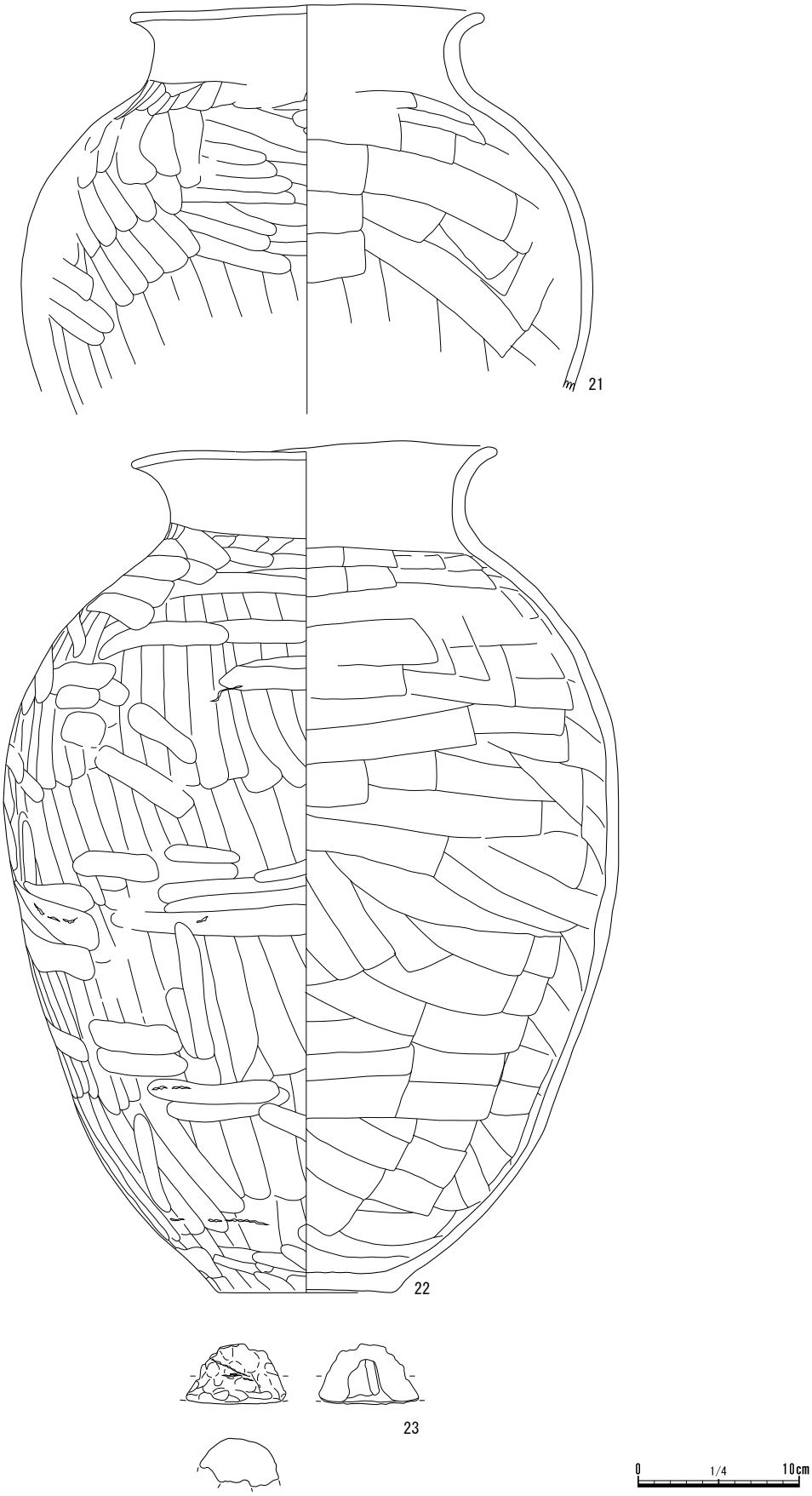
第107図　306号住居跡カマド（１／30・１／60）



第 108 図　306 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 109 図　306 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 110 図　306 号住居跡出土遺物３（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 108 図 1 図版 68- 2-1	須恵器 坏蓋	Ｐ１範囲内（床面レベル）、西壁中央付近の覆土中（床上 13cm）	頂部～底部 50%	高 4.8 口 11.8	灰白色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	口縁部わずかに内湾する／天井部と口縁部の境に稜を設ける／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、天井部同心円形の回転ヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 2 図版 68- 2-2	須恵器 坏蓋	貯蔵穴内（底上 33cm）	口縁～体部 20%	高 [4.0] 口 (11.4)	灰色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／石英少量	口縁わずかに外傾する／天井部と口縁部の境に沈線を設ける／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 3 図版 68- 2-3	須恵器 坏身	南西コーナー付近、中央東側の覆土中（床上３～26cm）	口縁～底部 20%	高 [3.9] 受 (11.4)	灰色	砂粒・白色粒子中量	かえり欠損／底部に「キ」字状の線刻／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、底部同心円形の回転ヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 4 図版 68- 2-4	須恵器 坏身	カマド東側の壁厚内（底上 15・165cm）	口縁～底部 30%	高 3.8 口 (10.7) 受 (13.0)	灰色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	かえりあり／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、底部同心円形の回転ヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 5 図版 68- 2-5	須恵器 短頸鉢	Ｐ４東側の覆土中（床上 9cm）	口縁～底部 30%	高 [5.2] 口 (9.2) 底 (4.0)	灰黄色	砂粒・白色粒子・小礫中量	内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、体下部回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 6 図版 68- 2-6	須恵器 短頸鉢	貯蔵穴南側の床面上	体～底部 60%	高 [5.7]	灰黄褐色	砂粒・白色粒子・小礫中量	内面：回転ナデ／外面：回転ナデ、体下部回転ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	湖西窯跡産
第 108 図 7 図版 68- 2-7	須恵器 フラスコ形長頸瓶	中央の床面上	頸～胴部 20%	高 [9.3]	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	内面頸部と外面に自然釉付着／頸部２条沈線／回転ナデ	湖西窯跡産
第 108 図 8 図版 68- 2-8	須恵器 短頸壷	中央の床面上	口縁～頸部 5%	高 [5.5] 口 (17.2)	にぶい橙色～灰黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・白色針状物質中量	口縁部は外反する／回転ナデ	湖西窯跡産
第 108 図 9 図版 68- 2-9	須恵器 甕	中央北側の床面上・覆土中（床上 10 ～ 19cm）	胴～底部 30%	高 [18.0]	灰黄色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	内面見込部と肩部に自然釉付着／頸部１条沈線／内面：ナデ／外面：平行タタキ	湖西窯跡産
第 108 図 10 図版 68- 2-10	土師器 坏	Ｐ１内（底上 59cm）、北西側の床面上	口縁～底部 30%	高 [3.4] 口 (11.8)	明赤褐色～橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／石英・小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線／稜は弱い／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 108 図 11 図版 68- 2-11	土師器 坏	梯子穴西側の床面上	口縁～底部 80%	高 5.5 口 (14.0)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・金雲母中量／小礫少量	口縁部は外反する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 108 図 12 図版 68- 2-12	土師器 坏	覆土中	口縁～底部 50%	高 4.8 口 (13.5)	橙色	砂粒・角閃石中量	口縁部は外傾する／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 108 図 13 図版 68- 2-13	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 59cm）	口縁～底部 40%	高 3.3 口 (12.8)	にぶい橙色	砂粒やや多量／赤色粒子・雲母中量／角閃石少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 108 図 14 図版 69-14	土師器 甕	カマド内（火床上 10・15cm）	口縁～胴部 20%	高 27.8 口 (19.0)	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 108 図 15 図版 69-15	土師器 甕	貯蔵穴内（底上 49cm）、貯蔵穴南側の床面上	口縁～胴部 15%	高 [10.0] 口 (19.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	口縁部は大きく外反し、少し下がる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 108 図 16 図版 69-16	土師器 甕	北東コーナーの床面上	口縁～胴部 20%	高 [21.7] 口 (19.1)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英・角閃石少量	口縁部はくの字で外反する／最大径は胴上部に持つ／口唇部が肉厚／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 108 図 17 図版 69-17	土師器 甕	西側の覆土中（床上 11・20cm）	底～台部 10%	高 [11.4] 底 (13.5)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・石英・角閃石中量／小礫少量	内面：甕部ヘラナデ、台部ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	台付甕／在地系土師器
第 109 図 18 図版 69-18	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上３～10cm）・貼床	口縁～胴部 15%	高 [9.0] 口 (19.0)	橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	口縁部はコの字で外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

第 53 表　306 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 109 図 19 図版 69-19	土師器 甕	カマド内（火床上 10 ～ 34cm）	口縁～胴部 30％	高 [43.4] 口 (20.0)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	口縁部は外反する／最大径を胴上部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 109 図 20 図版 69-20	土師器 甕	中央南側の覆土中（床上３～ 15 cm）	胴～底部 30％	高 [27.1] 底 (9.7)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量	内面ツギメが残る／内面:ヘラナデ／外面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 110 図 21 図版 70-21	土師器 甕	中央北東側の覆土中（床上 13 ～ 19 cm）	口縁～胴部 20％	高 25.4 口 (22.0)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	口縁部はこの字で外反する／最大径を胴上部に持つ／大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 110 図 22 図版 70-22	土師器 甕	東壁北側付近の床面上	ほぼ完形	高 53.2 口 22.8 底 11.1	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母・小礫中量／石英少量	完形／大型／口縁部は外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 110 図 23 図版 70-23	土製品 支脚	カマド西脇の覆土中（床上 29cm）	上部欠損	[3.7]	[6.2]	[3.5]	55.7	内部中空／中空部分ナデ／外面指押え／横位にツギメが残る	

第 53 表　306 号住居跡出土遺物一覧（２）

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 5.49m ／短軸 5.19m ／深さ 25cm。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：N―８°―W。**壁溝**：東壁で一部途切れるが、そこ以外は、カマドを除き全周する。上幅 25 ～ 31cm／下幅４～ 15cm／深さ６～ 12cm。**床面**：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は２～ 18cmの厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－７°－W。長さ 99cm／幅 132cm／壁への掘り込み 29cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：北東コーナーに位置する（Ｐ５）。平面形は楕円形。長軸 98cm／短軸 77cm／深さ 61cm。覆土はローム粒・焼土粒・粘土粒を含む暗褐色土・灰褐色土・褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 46 ～ 72cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。掘方の形状が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。**入口施設**：Ｐ６は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ 27cm。

［覆　土］６層に分層できた。Ｐ２からＰ６付近の床面に薄い生粘土の分布が、貯蔵穴の南側に焼土の分布が確認された。

［遺　物］須恵器坏蓋・坏身・短頸鉢・フラスコ形長頸瓶・短頸壷・甕、土師器坏・甕、土製の支脚が出土した。貯蔵穴周辺に集中して分布し、大型の丸甕（22）が貯蔵穴南西の東壁よりの位置から出土している。

［時　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　物（第 108 ～ 110 図、図版 68 －２、図版 69・70、第 53 表）

［土　器］（第 108 ～ 110 図１～ 22、図版 68 －２－１～ 13、図版 69・70 － 14 ～ 22、第 53 表）

１～９は須恵器で、１・２は坏蓋、３・４は坏身、５・６は短頸鉢、７はフラスコ形長頸瓶、８は短頸壷、９は甕、10 ～ 22 は土師器で、10 ～ 13 は坏、14 ～ 22 は甕である。

［土 製 品］（第 110 図 23、図版 70 － 23、第 53 表）

23 は支脚である。

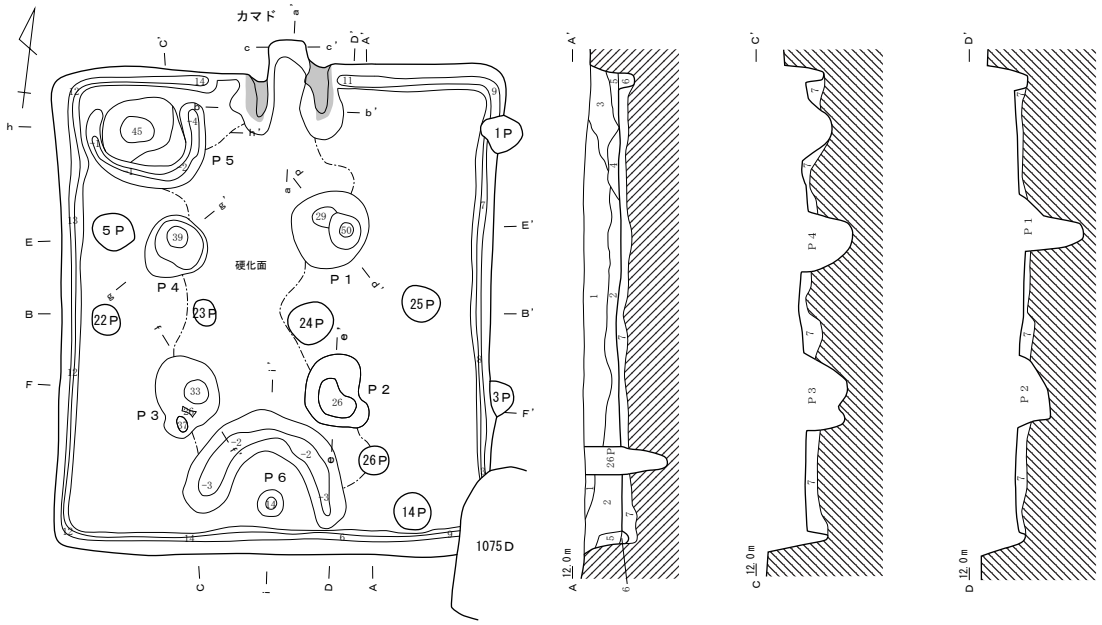
308 号住居跡

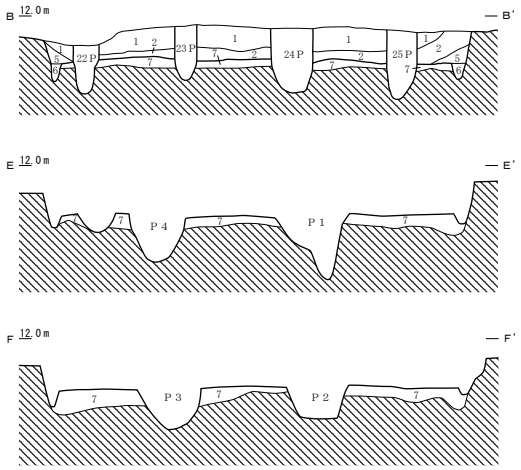
遺　　構（第 111・112 図）

［位　　置］（Ⅰ－２・３）グリッド。

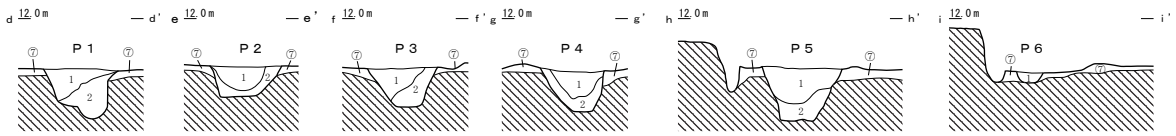
［検出状況］1075 D、1・3・5・11・14・22 ～ 26 に切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 389㎝／短軸 361㎝／深さ 22㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。





308H　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を部分的に少量、焼土（φ0.5 ～ 2㎜）を部分的に微量含む。
３層　暗褐色土（10YR3/3）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 2㎜）を全体的に中量含む。
４層　黒褐色土(7.5YR3/2)　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に極多量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量含む。
５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。
６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性。ローム（φ0.5 ～ 10㎜）を全体的に極多量含む。
７層　明黄褐色土（10YR6/6）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム主体。貼床。

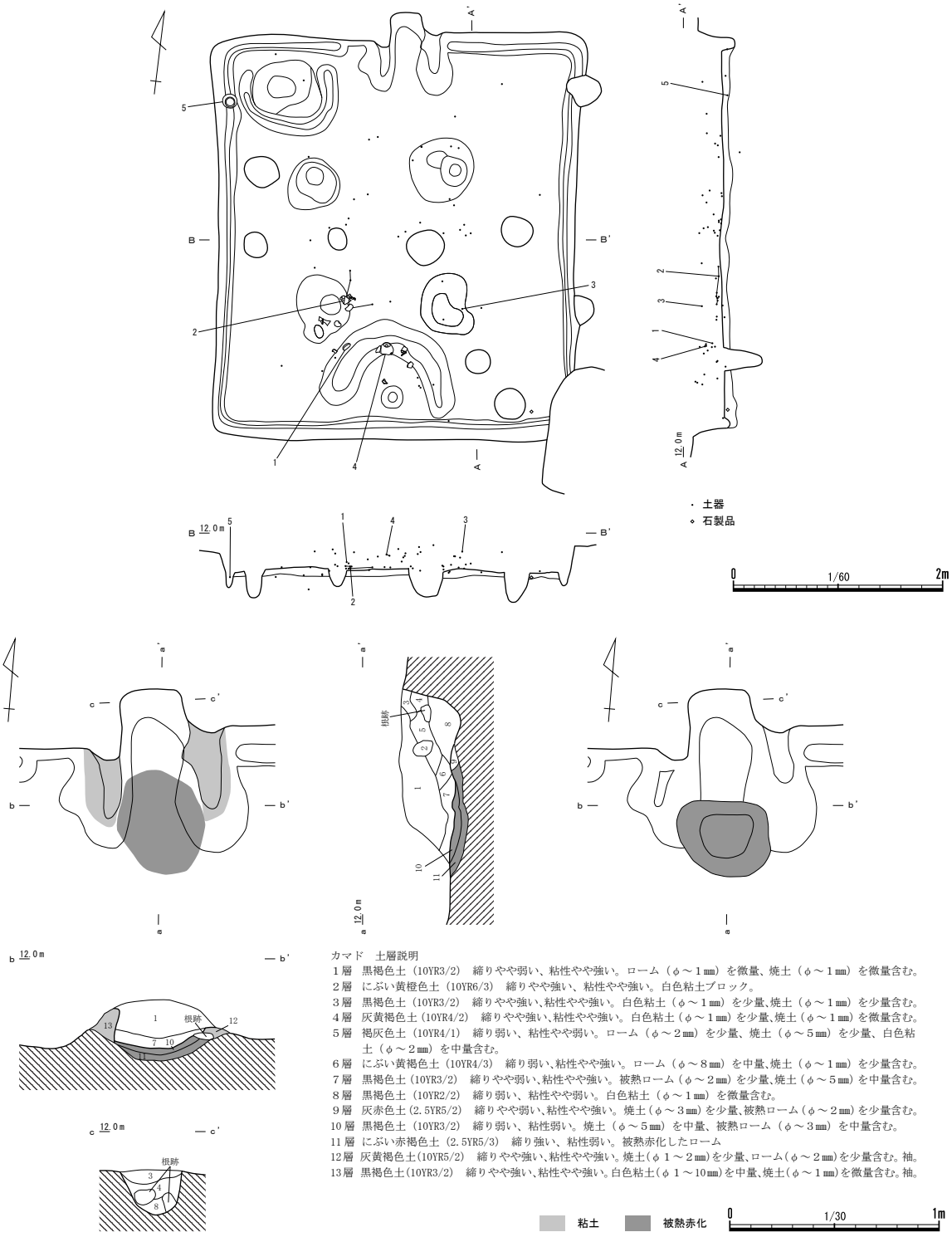


Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。
２層　褐色土(7.5YR4/6)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に極多量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に多量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 10㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に多量含む。
２層　褐色土(7.5YR4/6)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5 ～ 1㎜)を全体的に極多量含む。
Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量含む。
２層　褐色土（7.5YR4/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に中量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を全体的に極多量含む。

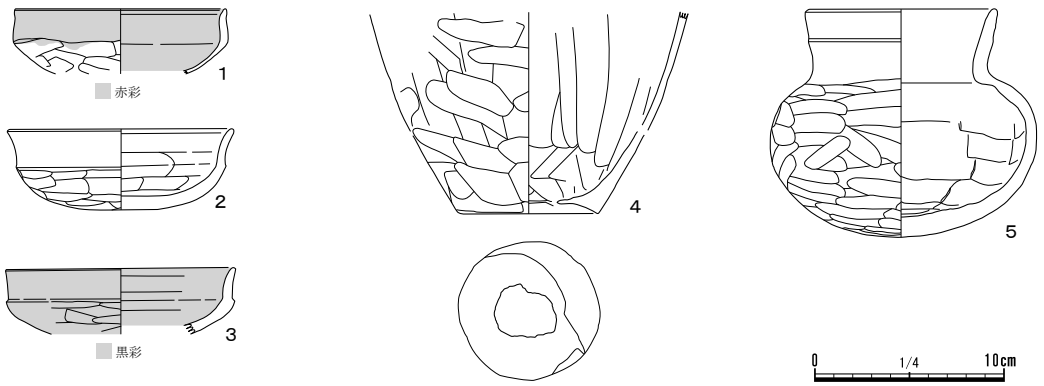
⑦: 住居７層

第 111 図　308 号住居跡（1 ／ 60）

主軸方位：N―７°―W。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 11 ～ 25㎝／下幅２～８㎝／深さ３～ 14㎝。**床面**：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は４～ 15㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－５°－W。長さ 89㎝／幅 90㎝／壁への掘り込み 17㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：北西コーナーに位置する（Ｐ５）。平面形は隅丸長方形。長軸 67㎝



第 112 図　308 号住居跡遺物出土状態・カマド（１／60・１／30）



第 113 図　308 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 113 図 1 図版 71- 1 -1	土師器 坏	梯子穴北西側の覆土中（床上 11cm）	口縁～底部 30％	高 [3.4] 口 (11.2)	橙色～赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・小礫中量	口唇内面沈線あり／内面～外面口縁部赤彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 113 図 2 図版 71- 1 -2	土師器 坏	中央南西側の覆土中（床上５～7cm）	口縁～底部 80％	高 4.3 口 (12.0)	黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石・金雲母中量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 113 図 3 図版 71- 1 -3	土師器 坏	Ｐ２範囲内の覆土中（床上 21cm）	口縁～底部 10％	高 [3.5] 口 (12.2)	にぶい橙色～橙色	砂粒やや多量／白色粒子・角閃石中量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 113 図 4 図版 71- 1 -4	土師器 甑	梯子穴北側の覆土中（床上 17･18cm）	口縁～底部 15％	高 [10.7] 底 7.3	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	焼成後穿孔／長甕底部を打ち欠いて穿孔し、甑に転用したと思われる／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	在地系土師器
第 113 図 5 図版 71- 1 -5	土師器 壷	西壁北側壁厚内（底上 7cm）	口縁～底部 80％	高 12.1 口 10.2	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・小礫中量	口縁部は外傾し、弱い段を持つ／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	在地系土師器

第 54 表　308 号住居跡出土遺物一覧

／短軸 55cm／深さ 45cm。周囲には幅 10 ～ 19cm／高さ１～４cmの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 37 ～ 50cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ６は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ 14cm。北側には幅 26 ～ 36cm／高さ２～３cmの凸堤が、「Ｕ」字状に巡っていた。

［覆　　土］６層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏・甑・壷が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（第 113 図、図版 71 －１、第 54 表）

［土　　器］（第 113 図１～５、図版 71 －１－１～５、第 54 表）

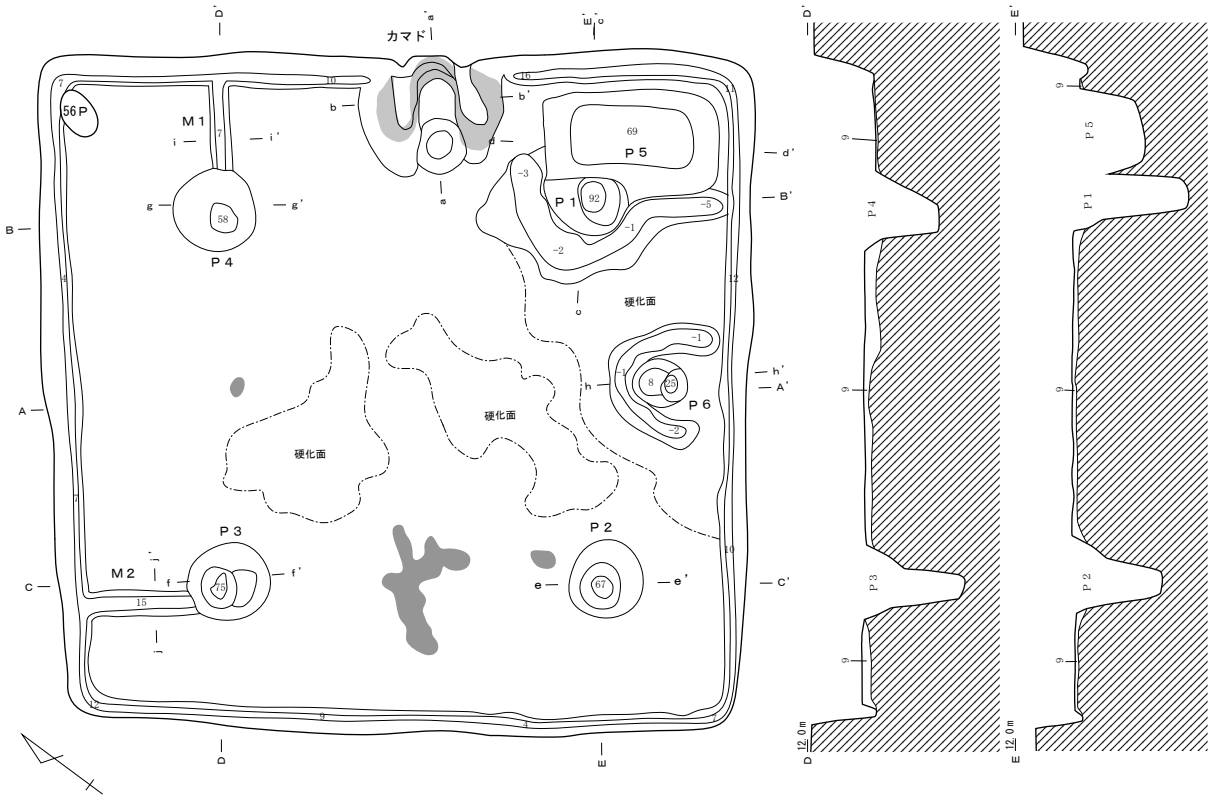
１～５は全て土師器で、１～３は坏、４は甕を転用した甑、５は壷である。

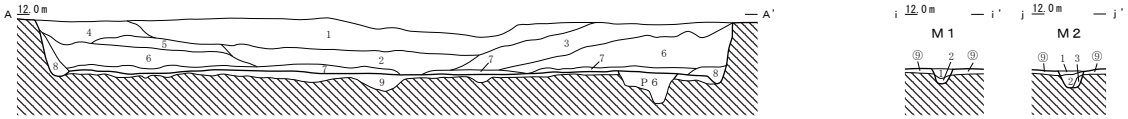
309 号住居跡

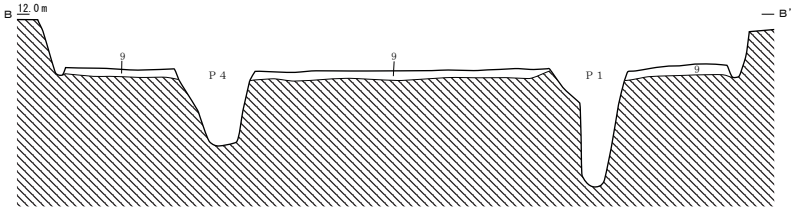
遺　　構（第 114 ～ 116 図）

［位　　置］（Ｉ－５、Ｈ・Ｉ・Ｊ－６、Ｉ－７）グリッド。

［検出状況］３道、56・124 Ｐに切られる。

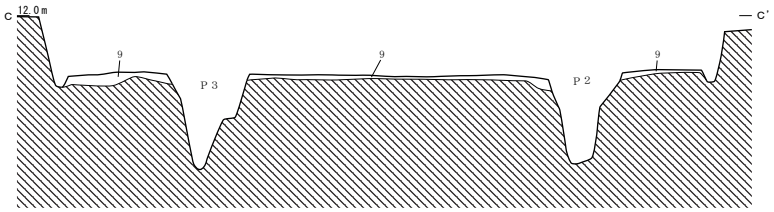


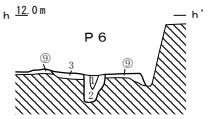




M１　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土物（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。
２層　褐色土(7.5YR4/6)　締り非常に強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
M２　土層説明
１層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

⑨: 住居９層



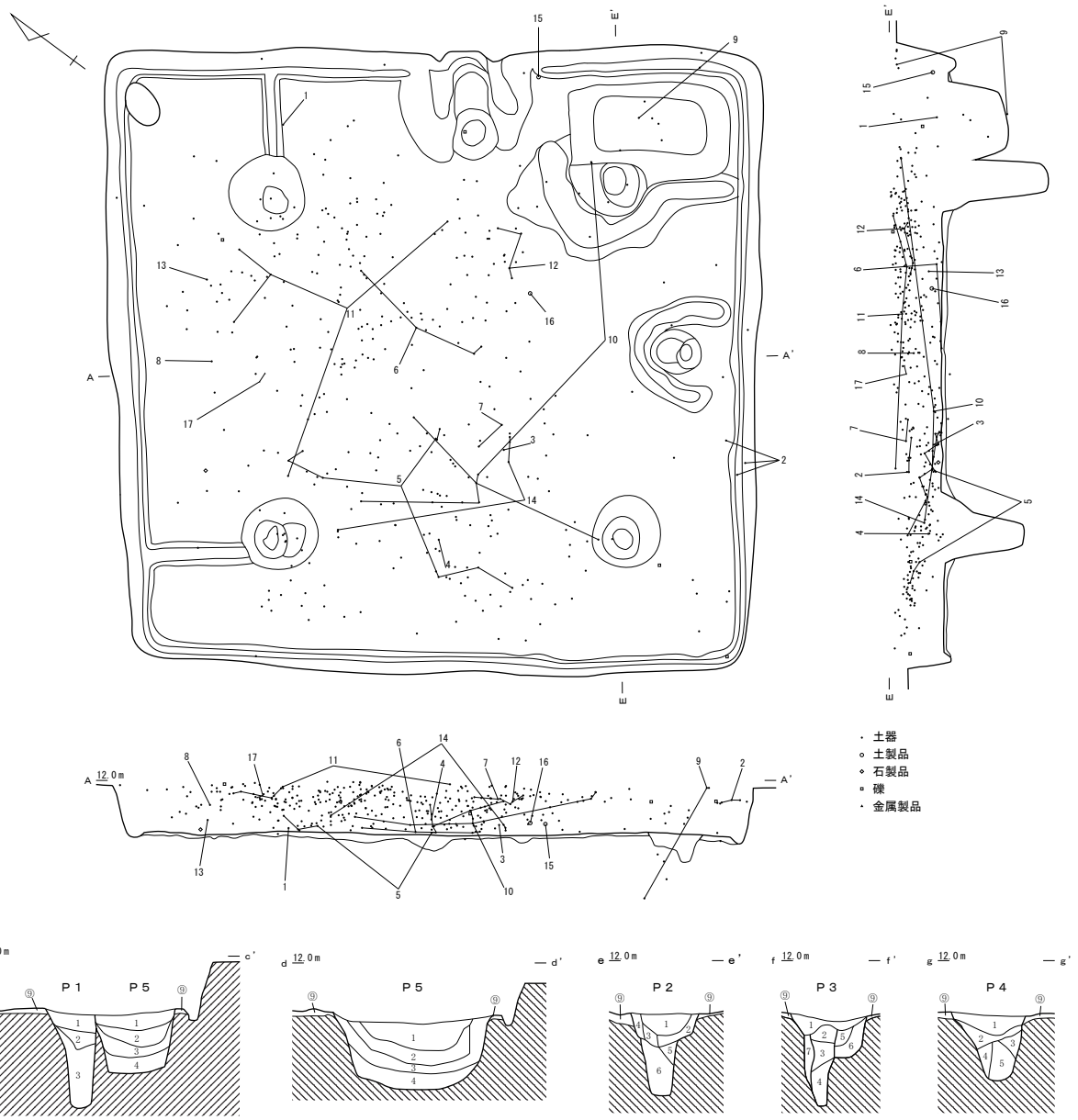


309H　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～５㎜）を微量、焼土（φ２～３㎜）を微量含む。
２層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～10㎜）を微量、焼土（φ２～３㎜）を微量含む。
３層　褐色土（10YR4/4）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～５㎜）を微量、焼土（φ２～３㎜）を微量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～２㎜）を微量、焼土（φ２～３㎜）を微量含む。
５層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～２㎜）を微量、焼土（φ２～３㎜）を微量含む。
６層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ１～２㎜）を微量含む。
７層　褐色土（10YR4/4）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ５～10㎜）を中量含む。
８層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ５～10㎜）を多量含む。
９層　暗褐色土（7.5YR3/4　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。貼床。

Ｐ６　土層説明
１層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/2)　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
⑨: 住居９層

粘土　焼土　0　1/60　2m

第 114 図　309 号住居跡（1／60）

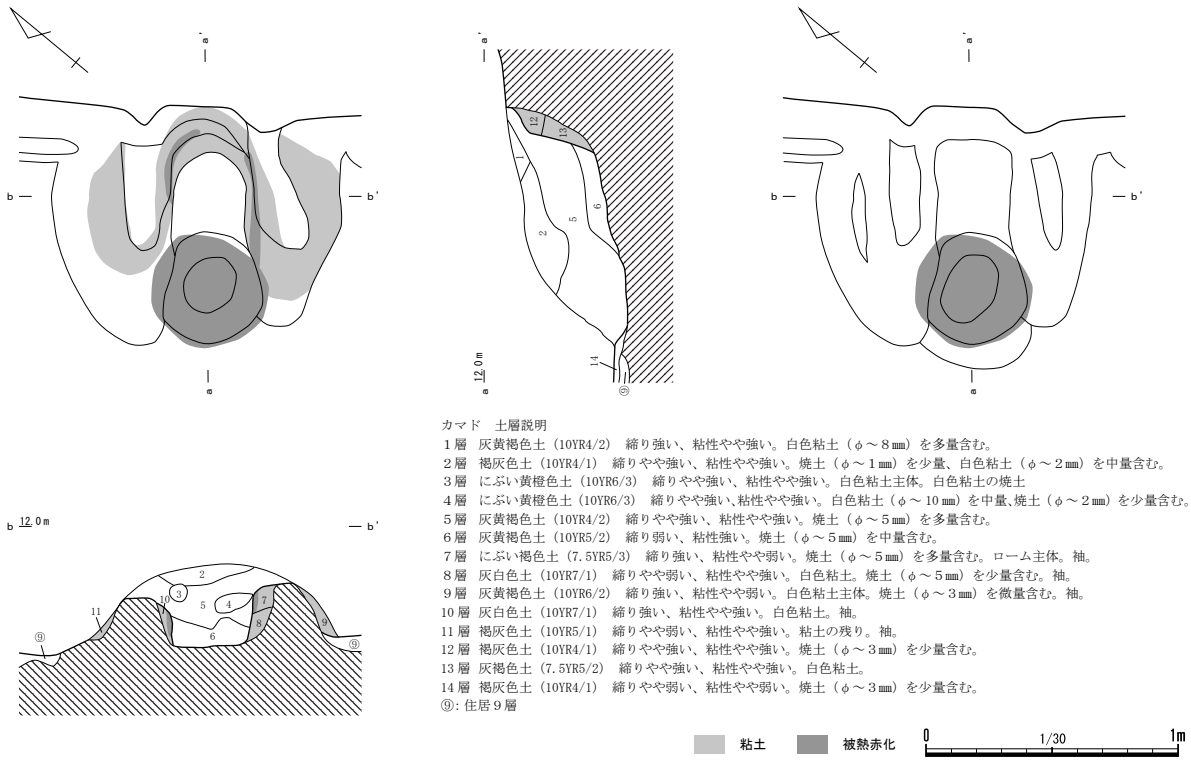


Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　黒色土(7.5YR1.7/1)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。
３層　黒褐色土（10YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に中量含む。
５層　褐灰色土（7.5YR4/1）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
６層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。柱痕跡
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。柱痕跡
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に極多量含む。柱痕跡
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
６層　褐色土（7.5YR4/6）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
７層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ４　土層説明
１層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
３層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～10㎜)を全体的に極多量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　褐色土（7.5YR4/6）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

⑨: 住居９層

0　1/60　2m

第115図　309号住居跡・遺物出土状態（1／60）



第 116 図　309 号住居跡カマド（１／30）

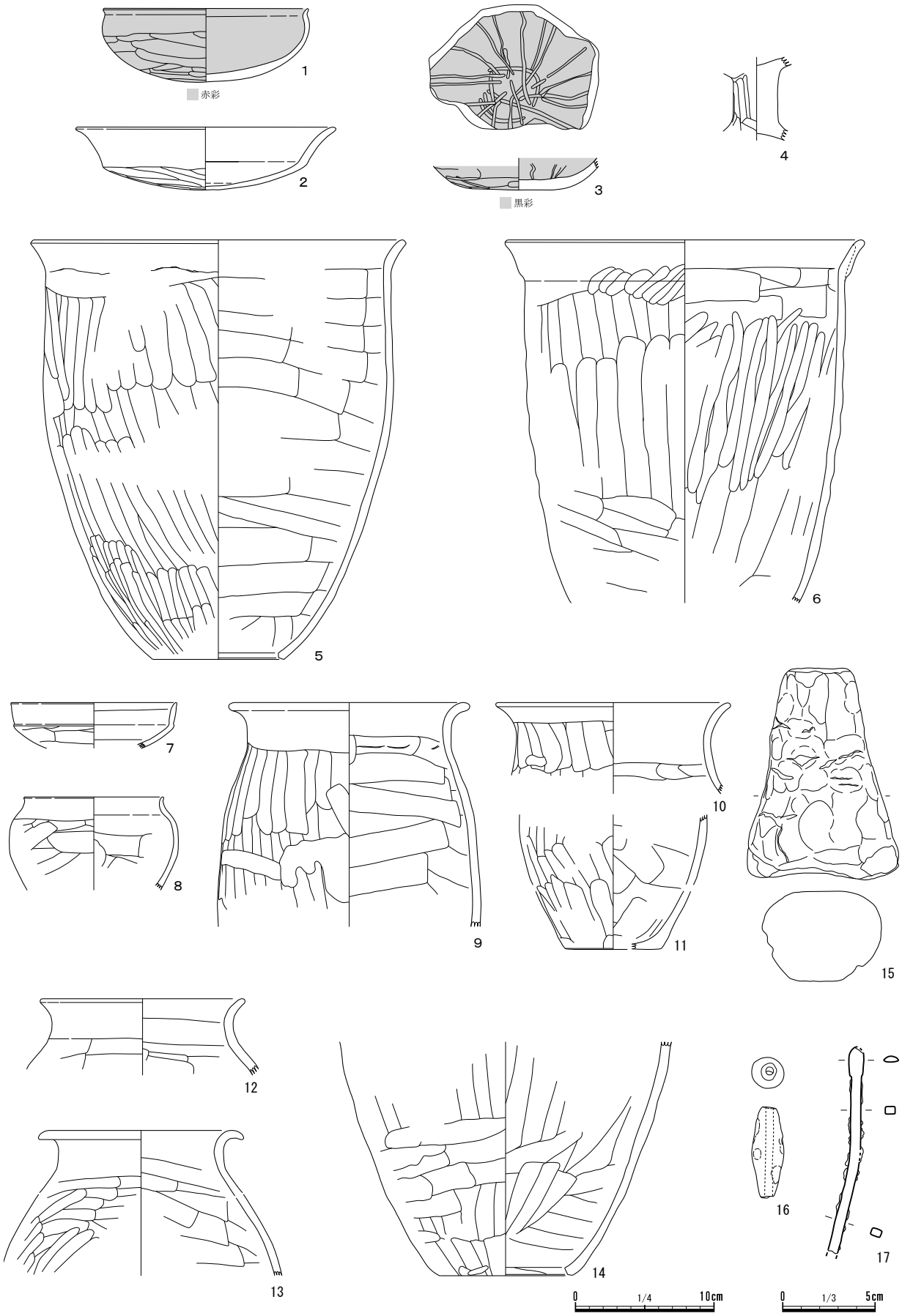
［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 5.69m ／短軸 4.57m ／深さ 40㎝。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：N―53°―W。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 10 ～ 30㎝／下幅４～ 11㎝／深さ４～ 16㎝。**床面**：住居の中央部分と入口施設から貯蔵穴にかけての範囲が硬化していた。貼床は１～ 14㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北東壁の中央やや南東よりに位置する。主軸方位はＮ－ 50°－Ｅ。長さ 95㎝／幅 115㎝／壁への掘り込み０㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：東コーナーに位置する（Ｐ５）。平面形は長方形。長軸 138㎝／短軸 86㎝／深さ 69㎝。周囲には幅 24 ～ 58㎝／高さ１～５㎝の凸堤がＰ１（主柱穴）を迂回して巡っていた。覆土はローム粒を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 58 ～ 92㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土･暗褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ６は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒･焼土粒を含む黒色土・暗褐色土・黒褐色土を基調とする。深さ 25㎝。北東側には幅 17 ～ 24㎝／高さ１～２㎝ほどの凸堤が、「コ」字状に巡っていた。**間仕切り溝**：Ｍ１、Ｍ２は間仕切り溝と考えられる。M1 はＰ４から北東壁の壁溝にかけて、Ｍ２はＰ３から北西壁の側溝にかけて、壁に直交して掘り込まれる。幅 16 ～ 21㎝／深さ７～ 15㎝。

［覆　　土］８層に分層できた。Ｐ２とＰ３の間の範囲などで、焼土の分布が確認された。

［遺　　物］土師器坏・高坏・甕・甑、土製の支脚と土錘、鉄鏃が出土した。土器は大きく２時期のものがみられる。１つは６世紀後葉（１～６）、もう１つは７世紀前葉（７～ 14）である。新しい土器群が、遺構の時期を示すものと考えられる。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀前葉）。

遺　　物（第 117 図、図版 71 －２、第 55 表）



第 117 図　309 号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 117 図 1 図版 71- 2-1	土師器 坏	北東壁北側の覆土中（床上 7cm）	口縁～底部 80%	高 5.3 口 14.8	赤色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・長石・小礫中量	内外面赤彩／内面：口縁部横ナデ、体部ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 117 図 2 図版 71- 2-2	土師器 坏	南東壁中央西寄りの覆土中（床上 29 ～ 32cm）	口縁～底部 90%	高 4.6 口 13.8	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	口縁部は大きく外反する／内面：横ナデ／外面：横ナデ、底部ヘラケズリ	小針型坏
第 117 図 3 図版 71- 2-3	土師器 坏	中央南側の覆土中（床上 10cm）	底部 20%	高 [2.3]	にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量	黒彩／内面：ナデ／外面：ヘラケズリ→一部ミガキ／内面に円形・放射状の暗文	北関東系か
第 117 図 4 図版 71- 2-4	土師器 高坏	南西側の覆土中（床上 15cm）	脚柱部	高 [6.0]	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／角閃石少量	内面：ナデ／外面：ヘラケズリ	在地系土師器
第 117 図 5 図版 71- 2-5	土師器 甑	南西側の覆土中（床上 3 ～ 30cm）	口縁～底部 20%	高 30.3 口 (27.0) 底 9.6	にぶい褐色	砂粒・石英・長石中量・雲母少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 117 図 6 図版 71- 2-6	土師器 甑	中央の覆土中（床上 3 ～ 12cm）	口縁～胴部 20%	高 26.3 口 (26.0)	灰黄褐色	砂粒多量／赤色粒子・石英・角閃石中量	複合口縁／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
第 117 図 7 図版 71- 2-7	土師器 坏	中央南側の覆土中（床上 32･34cm）	口縁～底部 8 %	高 [3.3] 口 (12.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	口縁部は直立する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 117 図 8 図版 71- 2-8	土師器 坏	北西側の覆土中（床上 27cm）	口縁～体部 8 %	高 [6.7] 口 (10.0)	橙色	砂粒やや多量・白色粒子･赤色粒子･雲母中量／角閃石少量	深身の埦タイプ／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 117 図 9 図版 71- 2-9	土師器 甕	Ｐ５（底上 8cm）、東コーナーの覆土中（床上 42cm）	口縁～胴部 15%	高 [16.3] 口 (16.9)	橙色～黒褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	口縁部は大きく外反する／最大径を胴部に持つ／外面大きく剥離する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 117 図 10 図版 71- 2-10	土師器 甕	中央南西側・Ｐ５範囲内の覆土中（床上 10 ～ 38cm）	口縁～頸部 15%	高 [6.6.] 口 17.0	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・金雲母中量／石英・角閃石少量	口縁部は外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 117 図 11 図版 71- 2-11	土師器 甕	北西側・中央東側の覆土中（床上 33 ～ 43cm）	胴～底部 8 %	高 [9.8] 底 (7.0)	黒褐色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子中量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 117 図 12 図版 71- 2-12	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上 28 ～ 35cm）	口縁部 8 %	高 [5.5] 口 (14.8)	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 117 図 13 図版 71- 2-13	土師器 甕	北西壁中央付近の覆土中（床上 14cm）	口縁～胴部 8 %	高 [10.5] 口 (14.8)	にぶい黄褐色	砂粒・黒色粒子中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴上部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 117 図 14 図版 71- 2-14	土師器 甑	中央南側の覆土中（床上 5 ～ 18cm）	胴～底部 10%	高 [17.0] 底 9.7	灰黄褐色	砂粒多量／赤色粒子・石英・角閃石中量	内面：胴中位ヘラケズリ、胴下部ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 117 図 15 図版 71- 2-15	土製品 支脚	カマド東脇の覆土中（床上 10cm）	ほぼ完形 一部剥離	15.3	11.0	6.8	738.0	外面指ナデ／横位にツギメが残る	
第 117 図 16 図版 71- 2-16	土製品 土錘	中央西側の覆土中（床上 12cm）	完形	2.6	1.0	1.0	11.9	中央部穿孔／外面ナデ・指押え／中央部がふくらみをもつ	

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 117 図 17 図版 71- 2-17	鉄製品 鉄鏃	北東側の覆土中（床上 34・35cm）	鏃身部～箆被部	鉄	[11.1]	0.8	0.4	8.5	鏃身部は柳葉形を呈し、断面は片丸造、関を有す／鏃身部長 [1.6]cm／幅 0.8cm／厚 0.3cm／箆被部長 [9.5]cm／幅 0.5cm／厚 0.4cm	長頸片丸造柳葉式

第 55 表　309 号住居跡出土遺物一覧

［土　　器］（第 117 図１～ 14、図版 71 －２－１～ 14、第 55 表）

１～ 14 は全て土師器で、１～３・７・８は坏、４は高坏、５・６・14 は甑、９～ 13 は甕である。

［土 製 品］（第 117 図 15・16、図版 71 －２－ 15・16、第 55 表）

15 は支脚、16 は土錘である。

［鉄 製 品］（第 117 図 17、図版 71 －２－ 17、第 55 表）

17 は鉄鏃である。

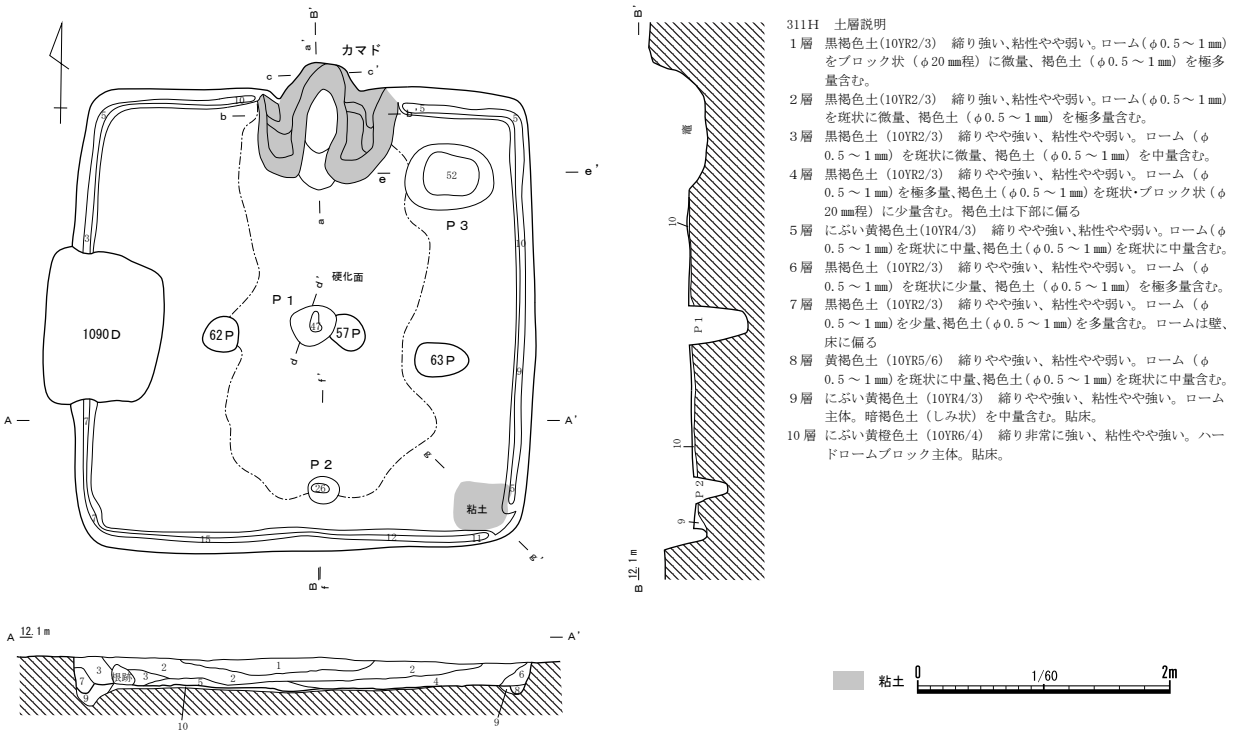
311 号住居跡

遺　　構（第 118 ～ 120 図）

［位　　置］（Ｇ・Ｈ－６・７）グリッド。

［検出状況］１方を切り、1090 Ｄ、57・62・63 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 3.69m ／短軸 3.68m ／深さ 25㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―１°―Ｗ。**壁溝**：南東コーナーで途切れるが、その他はカマドを除き全周する。上幅 12 ～ 22㎝／下幅２～６㎝／深さ３～ 15㎝。**床面**：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は１～６㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－２°－Ｗ。長さ 101㎝／幅 112㎝／壁への掘り込み 21㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：Ｐ３は貯蔵穴と考えられる。北西コーナーに位置する。平面形は丸みをおびた長方形。長軸 71㎝／短軸 53㎝／深さ 52㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴は住居中央に位置するＰ１のみと考えられる。深さ 47㎝。覆土はローム粒・粘土粒を含む暗褐色土・灰白色土・黒褐色土・褐

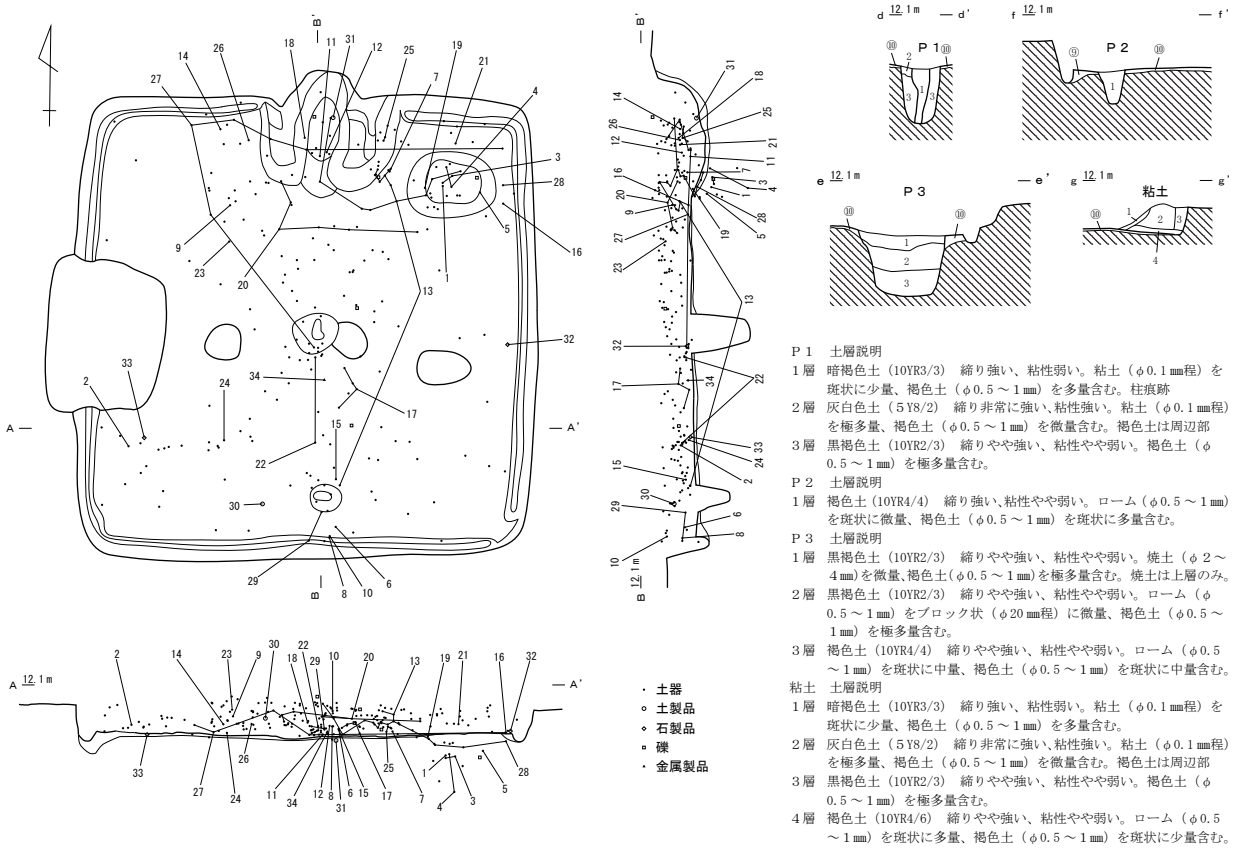


第 118 図　311 号住居跡（１／ 60）

色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ２は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む褐色土を基調とする。深さ 26㎝。

［覆　　土］８層に分層できた。南東コーナーにおいて、生粘土塊が検出された。

［遺　　物］土師器坏･鉢･甕･甑、ミニチュア土器、土製の支脚、砥石、軽石、鉄滓が出土した。カマド･



第 119 図　311 号住居跡・遺物出土状態（１／60）

貯蔵穴の内部とその周辺から、まとまって出土した。カマドでは、長甕（西側：19、東側：13）が横に並んでいる状況で出土し、また東側の長甕（13）の下からは土製の支脚（31）が立った状態で出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

［所　　見］遺物の出土状況から、カマドは、甕を横に２つ並べた構造が推測される。

遺　　物（第 121 ～ 123 図、図版 72 ～ 74、第 56 表）

［土　　器］（第 121 ～ 123 図 1 ～ 29、図版 72 ～ 74 － 1 ～ 29、第 56 表）

1 ～ 28 は全て土師器で、1 ～ 9 は坏、10･11 は鉢、12 ～ 26 は甕、27 は甑、28 は甕を転用した甑、29 はミニチュア土器である。

［土 製 品］（第 123 図 30・31、図版 74 － 30・31、第 56 表）

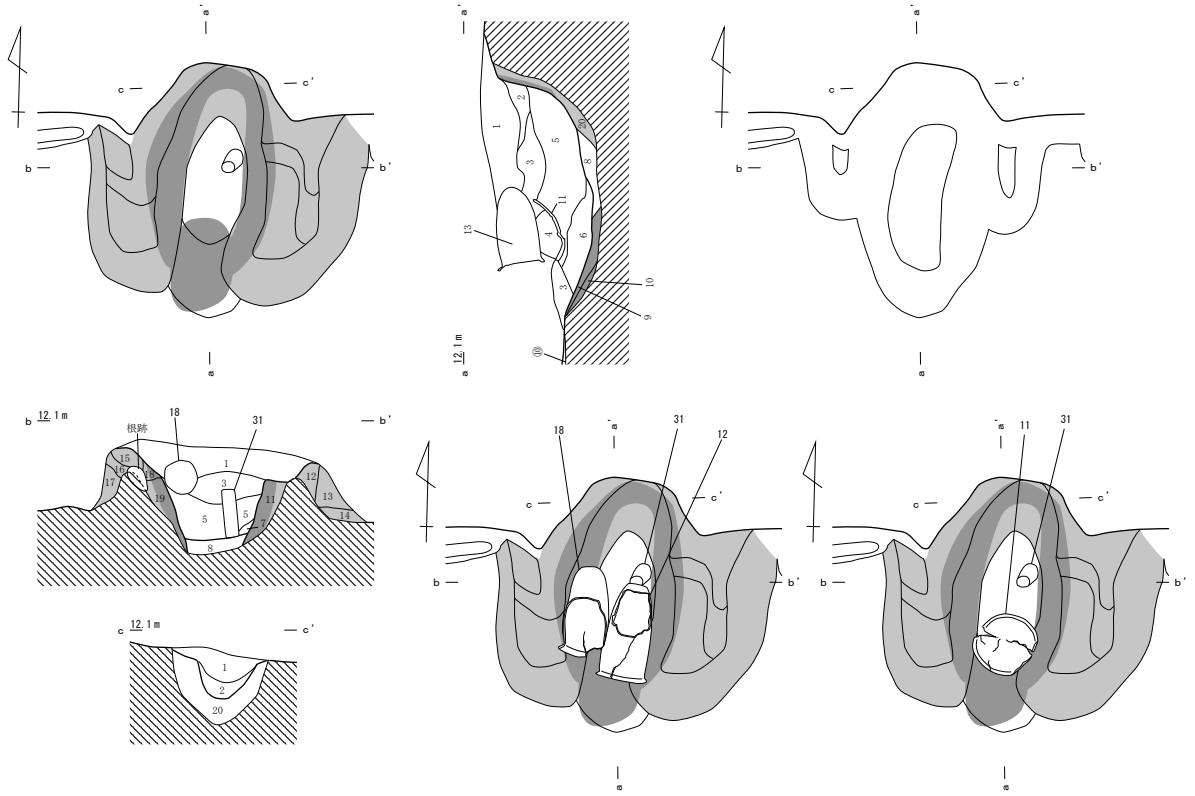
30・31 はいずれも支脚である。

［石 製 品］（第 123 図 32・33、図版 74 － 32・33、第 56 表）

32 は砥石、33 は軽石である。

［鉄 製 品］（第 123 図 34、図版 74 － 34、第 56 表）

34 は鉄滓である。

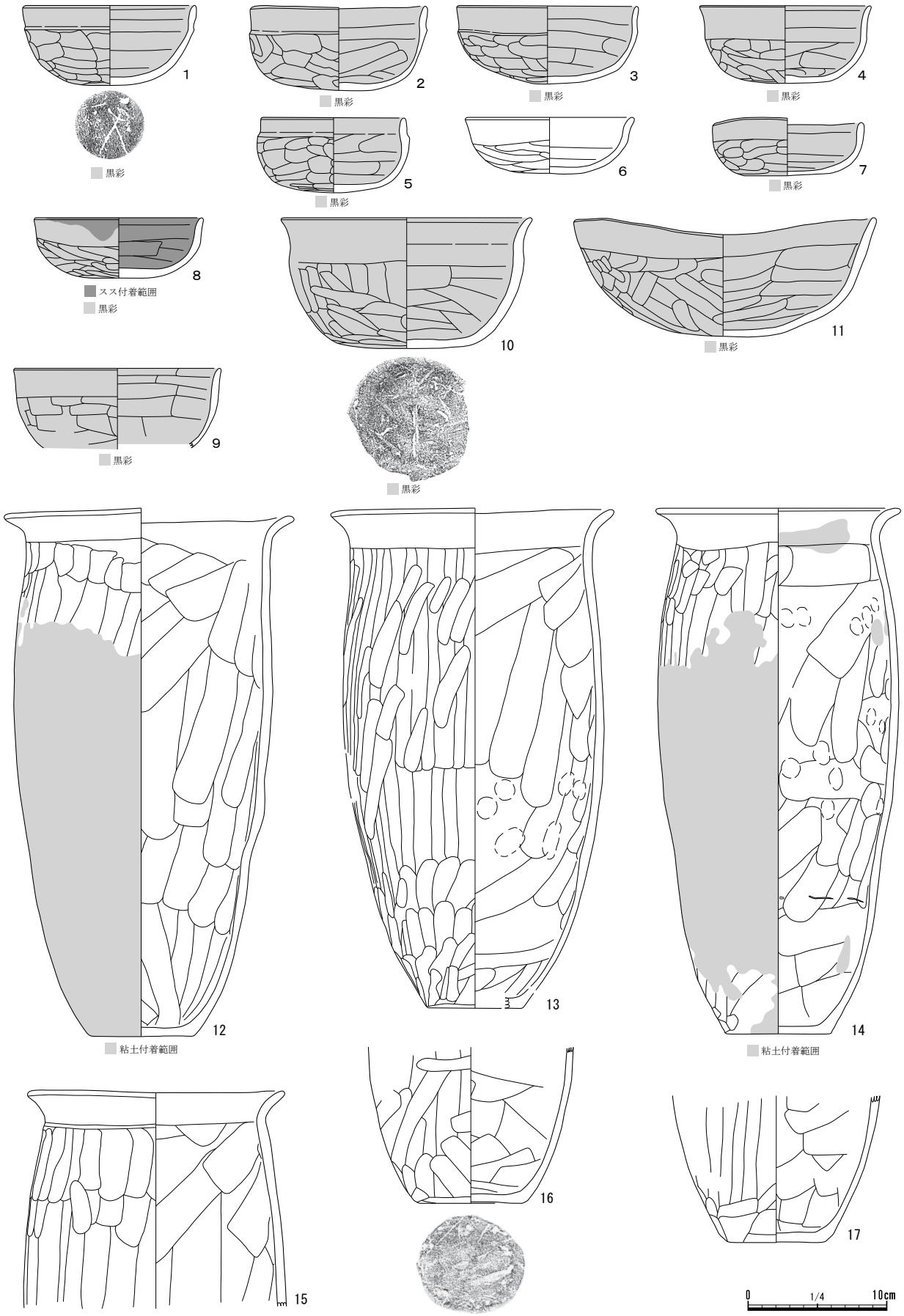


カマド　土層説明

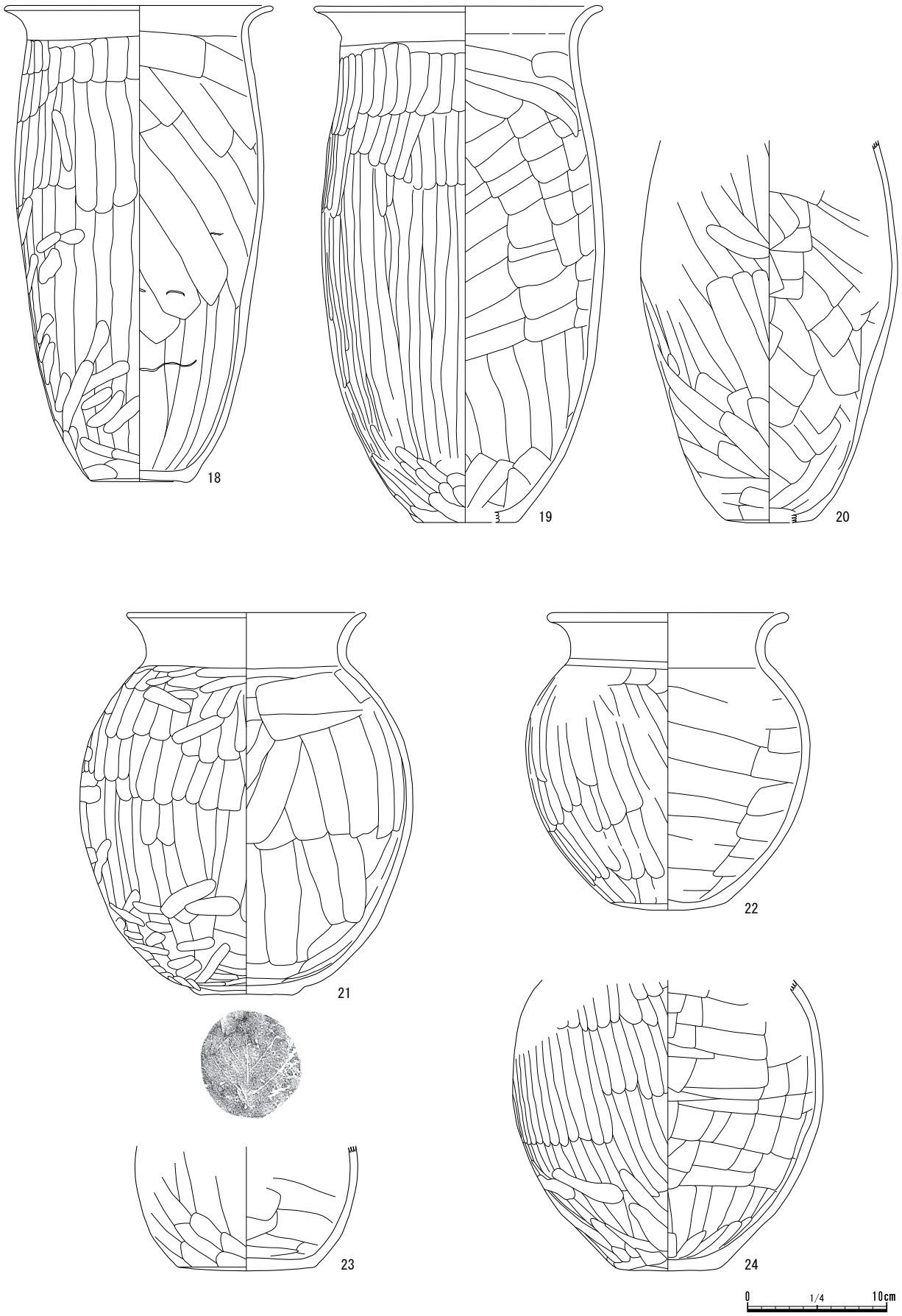
1 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を中量、白色粘土（φ～５㎜）を中量含む。
2 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～５㎜）を中量、白色粘土（φ～５㎜）を少量含む。
3 層　褐灰色土（10YR4/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を中量含む。
4 層　浅黄橙色土（10YR8/3）　締りやや強い、粘性強い。白色粘土。下半被熱赤化。　落天井。
5 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～８㎜）を中量含む。
6 層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締り弱い、粘性弱い。焼土（φ～15㎜）を極多量、下部被熱ローム（φ～５㎜）を多量に含む。
7 層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや強い、粘性弱い。焼土（φ～２㎜）を少量含む。灰状。
8 層　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を少量含む。
9 層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を多量、ローム（φ～２㎜）を中量、炭（φ～２㎜）少含む。
10 層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ～10㎜　しみ状）を中量含む。
11 層　橙色土（2.5YR6/6）　締り強い、粘性弱い。粘土が被熱赤化。
12 層　灰白色土（10YR7/1）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土ブロック主体。
13 層　褐灰色土（10YR4/1）　締り強い、粘性やや弱い。白色粘土（φ～３㎜）を少量含む。
14 層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜）を中量含む。
15 層　褐灰色土（10YR4/1）　締り強い、粘性やや弱い。白色粘土（φ～３㎜）を中量含む。
16 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。白色粘土（φ～２㎜）を少量、焼土（φ～１㎜）を少量含む。
17 層　灰白色土（10YR8/2）　締り強い、粘性やや弱い。白色粘土。焼土（φ～２㎜）を微量含む。
18 層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜）を多量含む。
19 層　橙色土（2.5YR6/6）　締り強い、粘性やや弱い。粘土が被熱赤化。
20 層　橙色土（2.5YR6/6）　締り強い、粘性弱い。粘土が被熱赤化。

⑩：住居 10 層

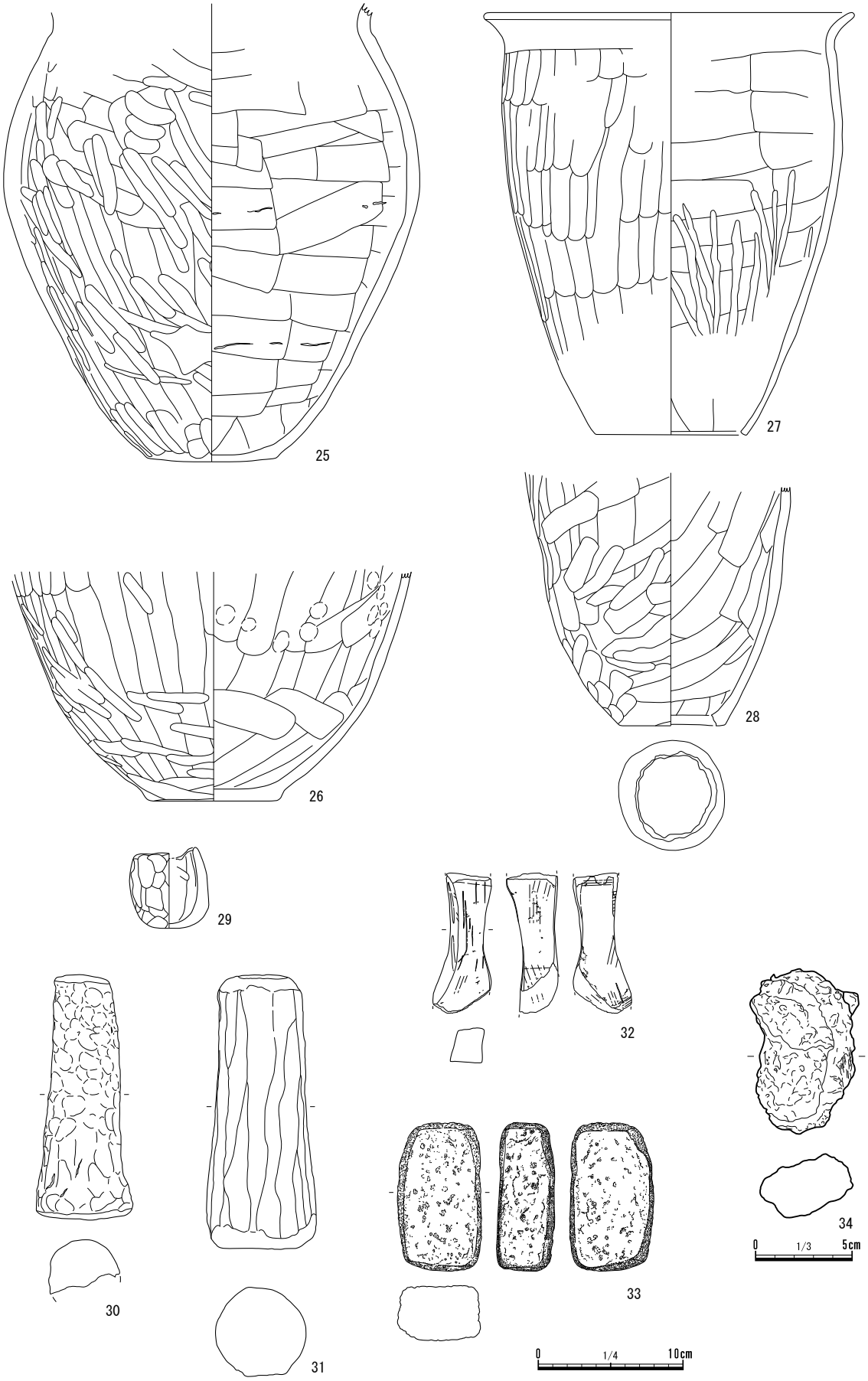
第 120 図　311 号住居跡カマド（１／30）



第 121 図　311 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 122 図　311 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 123 図　311 号住居跡出土遺物３（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 121 図 1 図版 72-1	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 37cm）	ほぼ完形	高　5.7 口　12.6	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／底部木葉痕／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 121 図 2 図版 72-2	土師器 坏	南西コーナー付近の覆土中（床上 6cm）	ほぼ完形	高　6.0 口　12.8	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	黒彩／片口状／内面：口縁～体部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 121 図 3 図版 72-3	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 35・36cm）	口縁～底部 90%	高　5.7 口　13.1	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・小礫中量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 121 図 4 図版 72-4	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 8・38cm）	口縁～底部 90%	高　5.6 口　12.4	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・石英・小礫中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部指押え／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 121 図 5 図版 72-5	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 41cm）	完形	高　5.3 口　10.5	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量／雲母少量	黒彩／口縁部は内湾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 121 図 6 図版 72-6	土師器 坏	梯子穴と南壁の間の覆土中（床上 9cm）	口縁～底部 70%	高　4.1 口　12.2	橙色	砂粒・石英・金雲母・小礫少量	平底／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 121 図 7 図版 72-7	土師器 坏	カマド東袖脇の覆土中（床上 3cm）	口縁～底部 90%	高　4.2 口　10.8	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英・角閃石少量	黒彩／平底／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 121 図 8 図版 72-8	土師器 坏	梯子穴と南壁の間の覆土中（床上 10cm）	口縁～底部 50%	高　4.4 口　(12.2)	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量／雲母少量	黒彩／内面・外面口縁部スス付着／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 121 図 9 図版 72-9	土師器 坏	カマド南西側の覆土中（床上 15cm）	口縁～体部 15%	高　[5.6] 口　(15.0)	にぶい黄褐色	砂粒・黒色粒子・長石中量	黒彩／深身／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 121 図 10 図版 72-10	土師器 鉢	梯子穴と南壁の間の覆土（床上 20cm）	口縁～底部 40%	高　9.4 口　(18.2)	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	底部木葉痕／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	在地系土師器
第 121 図 11 図版 72-11	土師器 鉢	カマド内（火床上 15cm）	口縁～底部 90%	高　8.5 口　21.9	にぶい橙色	砂粒・白色粒子中量／雲母少量	内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ体～底部ヘラケズリ	浅鉢タイプ／在地系土師器
第 121 図 12 図版 72-12	土師器 甕	カマド内（火床上 22cm）	口縁～底部 80%	高　38.1 口　21.1 底　7.6	橙色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石・雲母中量／小礫少量	最大径を口縁部に持つ／底部木葉痕／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 121 図 13 図版 72-13	土師器 甕	カマド内（火床上 28・39cm）、貯蔵穴内（底上 44 ～ 50cm）、カマドと貯蔵穴の間・梯子穴北側の覆土中（床上 6 ～ 19cm）	口縁～底部 90%	高　35.9 口　20.4 底　(6.9)	橙色～黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／石英少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→一部指押え／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 121 図 14 図版 72-14	土師器 甕	カマド西側の覆土中（床上 9cm）	口縁～底部 70%	高　37.6 口　17.6 底　7.8	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	内外面粘土付着／胴下部ツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→一部指押え／外面：口縁部横ナデ、胴底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 121 図 15 図版 72-15	土師器 甕	梯子穴北側の覆土中（床上 7cm）	口縁～胴部 40%	高　[15.5] 口　18.8	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 121 図 16 図版 72-16	土師器 甕	貯蔵穴と東壁の間の床面上	胴～底部 20%	高　[11.3] 口　(7.8)	橙色	砂粒・白色粒子・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 121 図 17 図版 72-17	土師器 甕	中央南側の覆土中（床上 2 ～ 10cm）	胴～底部 15%	高　[10.6] 底　(7.2)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石中量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器

第 56 表　311 号住居跡出土遺物一覧（1）

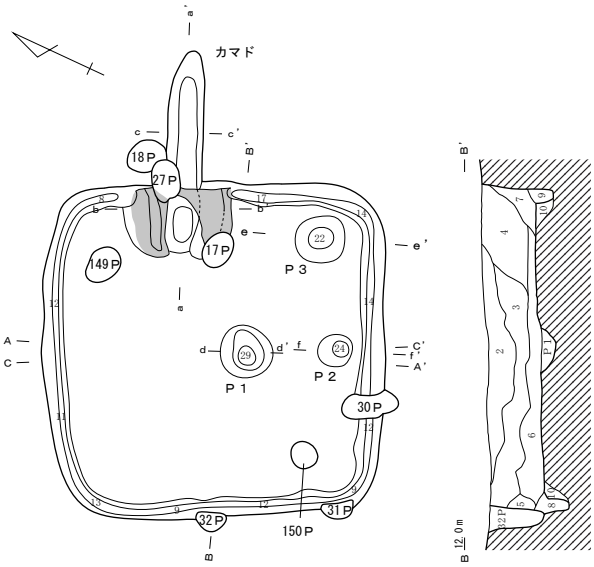
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 122 図 18 図版 73-18	土師器 甕	カマド内（火床上 24cm）	口縁～胴部 70%	高 34.1 口 (19.0) 底 7.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 122 図 19 図版 73-19	土師器 甕	貯蔵穴内（底 52cm、ほぼ床面レベル）	口縁～底部 80%	高 37 口 (20.8) 底 7.2	にぶい黄橙色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 122 図 20 図版 73-20	土師器 甕	カマド南側の覆土中（床上 11 ～ 19 cm）	胴部 40%	高 [27.5] 底 (6.5)	橙色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラナデ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 122 図 21 図版 73-21	土師器 甕	貯蔵穴と北壁の間の覆土中（床上 9cm）	口縁～底部 60%	高 27.4 口 (17.3) 底 (6.8)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／石英・小礫少量	底部木葉痕／ゆがみが大きい／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 122 図 22 図版 73-22	土師器 甕	中央南側の覆土中（床上 4 ～ 7cm）	口縁～底部 50%	高 21.4 口 (17.4) 底 8.0	明黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・金雲母中量	小型／頸部沈線状／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 122 図 23 図版 73-23	土師器 甕	カマド南西側の覆土中（床上 21cm）	体～底部 30%	高 [8.9] 底 (9.9)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量／小礫少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 122 図 24 図版 73-24	土師器 甕	中央南西側の覆土中（床上 2cm）	口縁～底部 15%	高 [20.9] 底 6.8	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量／角閃石少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 123 図 25 図版 74-25	土師器 甕	カマド東脇の覆土中（床上 3 ～ 21 cm）	頸～底部 50%	高 [31.8] 底 8.7	にぶい褐色	砂粒やや多量／赤色粒子・長石・雲母中量／角閃石少量	外面一部剥離、内面ツギメあり／内面：胴部ヘラナデ／外面：頸部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 123 図 26 図版 74-26	土師器 甕	カマド西脇の覆土中（床上 9cm）	胴～底部 50%	高 [19.2] 底 8.9	にぶい橙色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／長石少量	内面：ヘラナデ→一部指押え／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 123 図 27 図版 74-27	土師器 甑	カマド西側（床上 3 ～ 9 cm）を主に、カマド、P 1、北東コーナーと広域に分布	口縁～底部 70%	高 29.2 口 25.4 底 1.4	にぶい橙色	砂粒・小礫中量／雲母少量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→一部ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 123 図 28 図版 74-28	土師器 甕転用 甑	貯蔵穴と東壁の間の床面上	胴～底部 50%	高 [17.5] 底 7.3	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	長甕底部の打ち欠いて、穿孔し、甑に転用／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	在地系土師器
第 123 図 29 図版 74-29	ミニチュア土器	梯子穴と南壁の間の覆土中（床上 10cm）	口縁～底部 70%	高 5.6 口 4.2	橙色～褐灰色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量／雲母少量	口縁部緩やかにすぼむ／内面:ナデ／外面:ヘラケズリ	在地系土師器

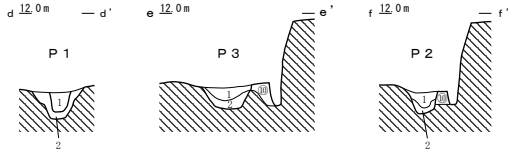
挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 123 図 30 図版 74-30	土製品 支脚	P 2 西側の覆土中（床上 13cm）	縦に半分のみ残存する	17.0	6.7	4.1	387.7	外面指ナデ・指押え／斜位にツギメが残る	
第 123 図 31 図版 74-31	土製品 支脚	カマド内の底面上（原位置を保つと思われる）	完形	19.0	7.6	[7.0]	760.6	外面ヘラナデ	

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第 123 図 32 図版 74-32	砥石	東壁中央付近の覆土中（床上 4cm）	完形	変質流紋岩	[96.9]	[40.0]	[35.3]	120.6	使用により中央部がやや細る／欠損部にも縁条痕等みられ使用がうかがえる	
第 123 図 33 図版 74-33	軽石	南西コーナー付近の床面上	完形	軽石	102.8	58.1	39.9	70.2	ほぼ直方体に近い軽石で用途不明	

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 123 図 34 図版 74-34	鉄滓	中央南側の覆土中（床上 3cm）	―	鉄	8.6	5.2	3.7	15.3		

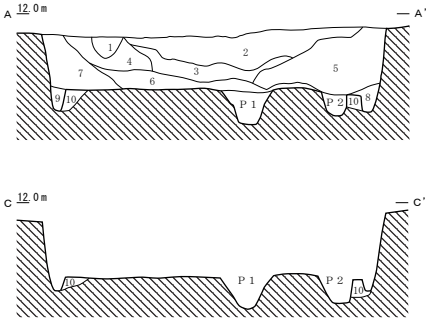
第 56 表　311 号住居跡出土遺物一覧（２）



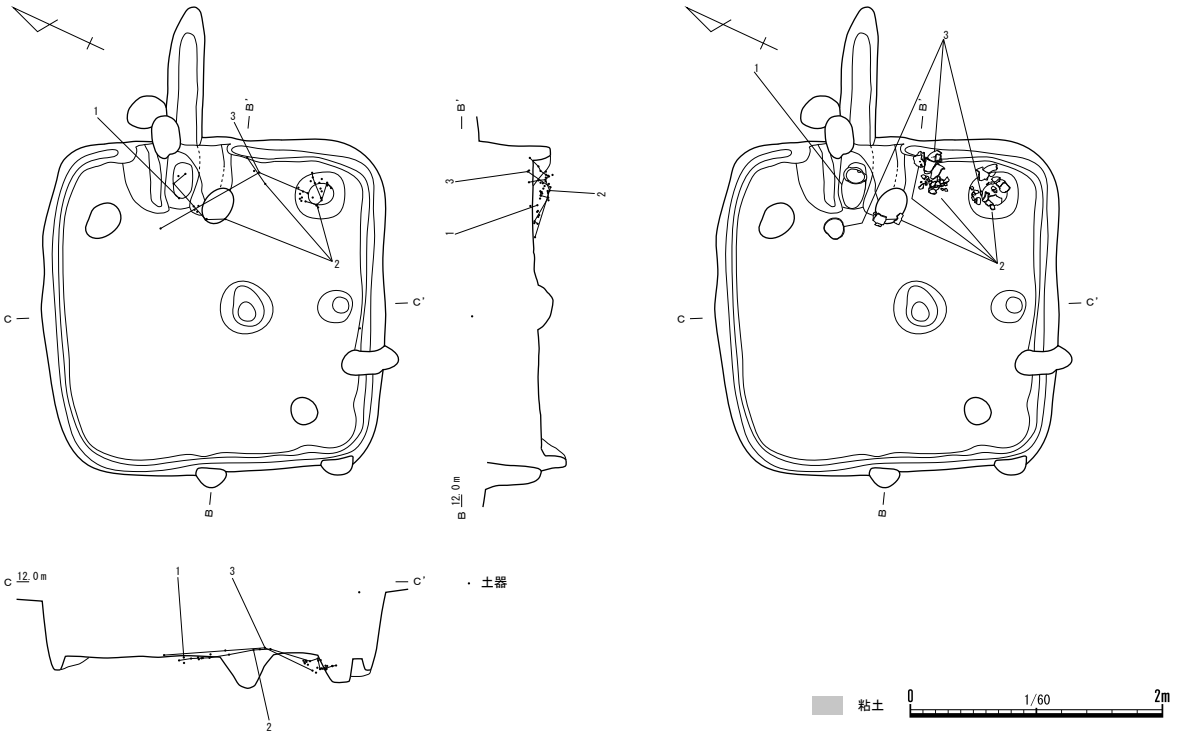


Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。柱痕跡。
２層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
２層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ40㎜程）に少量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

⑩: 住居 10 層



312H　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締りやや弱い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。
４層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。
６層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～40㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
７層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～30㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
８層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
９層　黄褐色土(10YR5/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を極多量含む。
10層　黄褐色土(10YR5/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を極多量含む。貼床。



第 124 図　312 号住居跡・遺物出土状態（1／60）

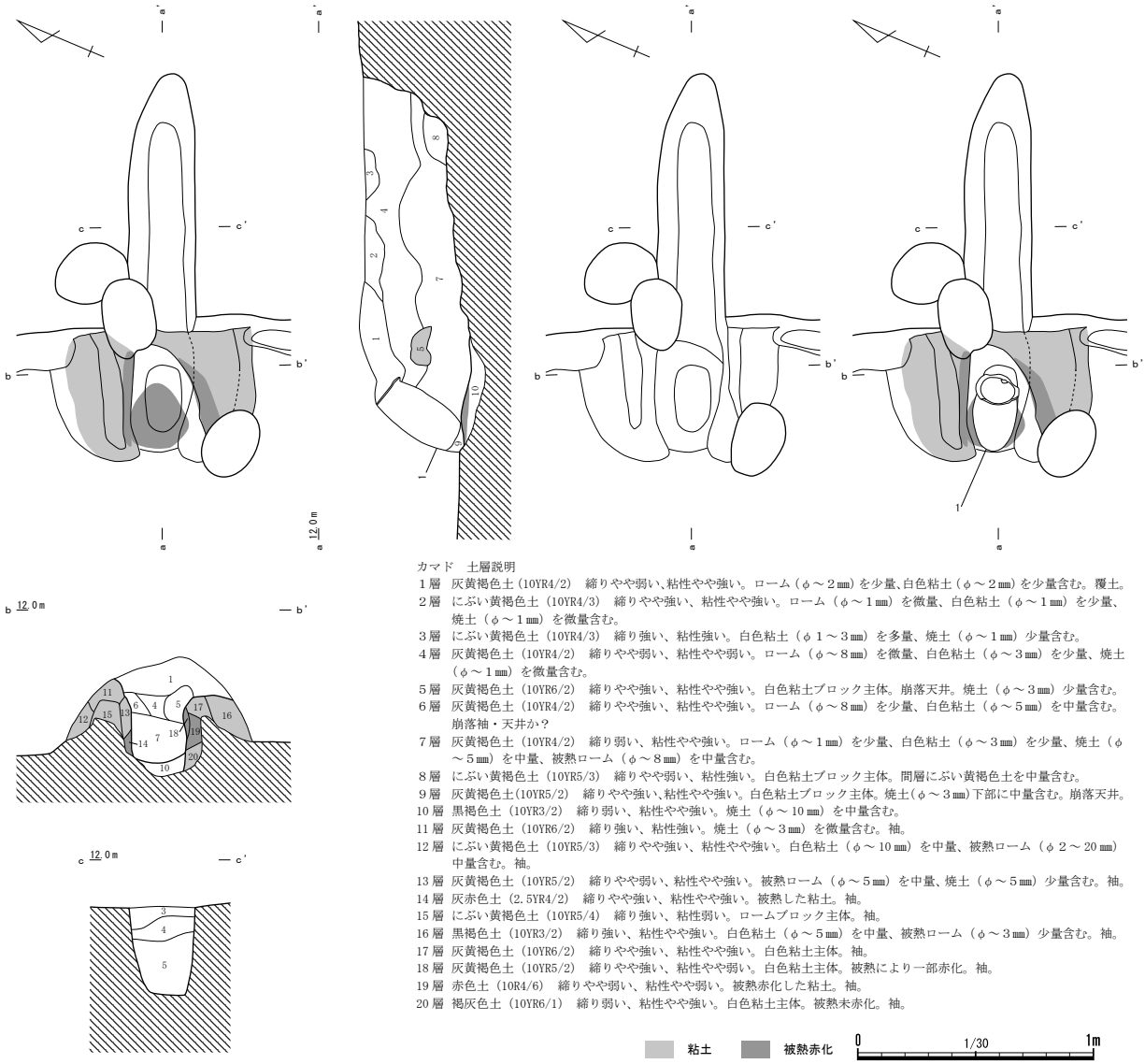
312 号住居跡

遺　　構（第 124・125 図）

［位　　置］（Ｇ－３）グリッド。

［検出状況］17・18・27・30 ～ 32・149・150 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 2.73m ／短軸 2.69m ／深さ 44㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N―65°―Ｅ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 14 ～ 23㎝／下幅３～７㎝／深さ８～ 17㎝。**床面**：全体的に軟弱で、硬化は認められなかった。貼床は壁溝沿いに限定され、２～ 16㎝の厚さで施されていた。**カマド**：東壁の中央北よりに位置する。主軸方位はＮ－ 67°－Ｅ。長さ 165㎝／幅 88㎝／壁への掘り込み 102㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：南東コーナーに位置する（P3）。平面形は楕円形ないしは丸みをおびた長方形。長軸 39㎝／短軸 38㎝／深さ 22㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴は住居中央のＰ１と考えられる。柱痕跡が確認さ



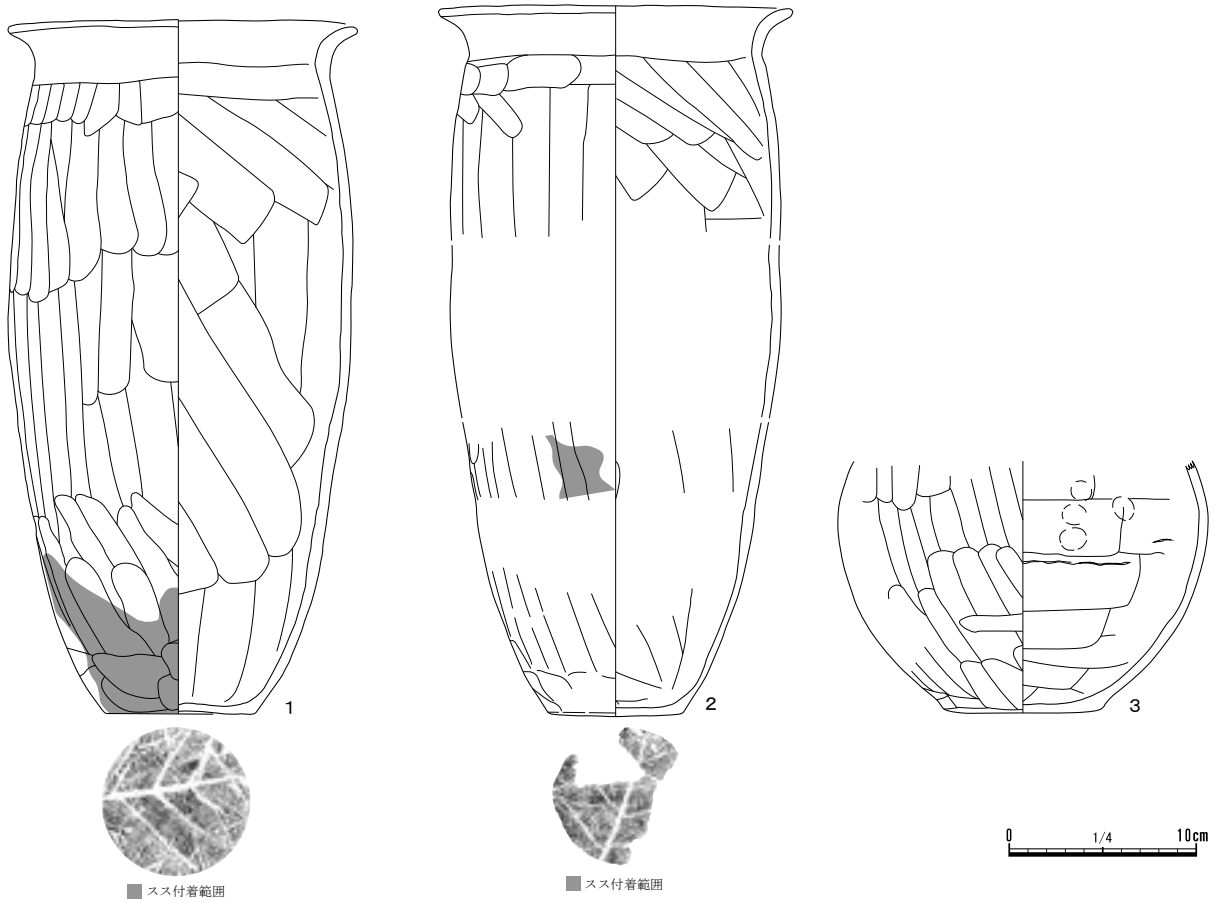
第 125 図　312 号住居跡カマド（１／ 30）

れた。深さ 29㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ２は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ 24㎝。

［覆　　土］９層に分層できた。

［遺　　物］土師器甕が出土した。カマドから完形に近い長甕（１）が、貯蔵穴上から長甕（２）が、カマドと貯蔵穴の間の位置から丸甕（３）が出土した。カマドの長甕（１）は、掛け口に掛けられた状態に近いものと思われる。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉～末葉）。



第 126 図　312 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 126 図 1 図版 75- 1 -1	土師器 甕	カマド内（火床上 5㎝）	口縁～ 底部 95％	高　37.1 口　(18.7) 底　8.0	にぶい黄橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	底部木葉痕／外面胴下部スス付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 126 図 2 図版 75- 1 -2	土師器 甕	貯蔵穴内（底上８～16㎝）、貯蔵穴とカマドの間の床面上、一部カマド内	口縁～ 底部 60％	高　37.9 口　18.9 底　7.1	にぶい橙色	砂粒多量／黒色粒子・赤色粒子・石英中量	最大径を口縁部に持つ／外面スス付着／底部木葉痕／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 126 図 3 図版 75- 1 -3	土師器 甕	カマドと貯蔵穴の間の床面上、一部カマド・貯蔵穴内	胴～ 底部 30％	高　[13.5] 底　8.6	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・雲母・小礫中量	内面被熱によると思われるアバタ状の剥離／内面：ヘラナデ・一部指押え／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

第 57 表　312 号住居跡出土遺物一覧

遺　　物（第 126 図、図版 75 －１、第 57 表）

［土　　器］（第 126 図１～３、図版 75 －１－１～３、第 57 表）

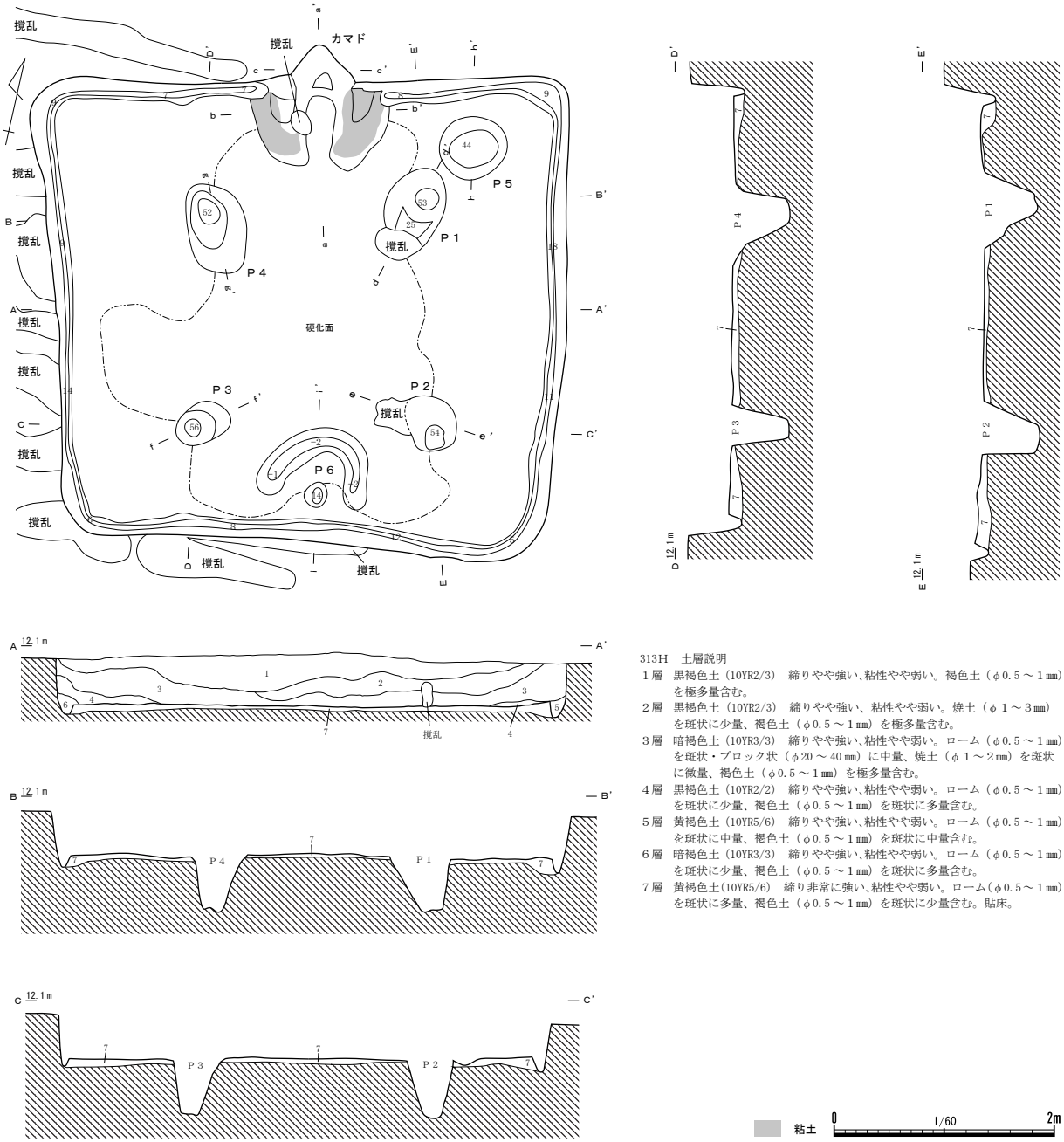
１～３は全て土師器の甕である。

313 号住居跡

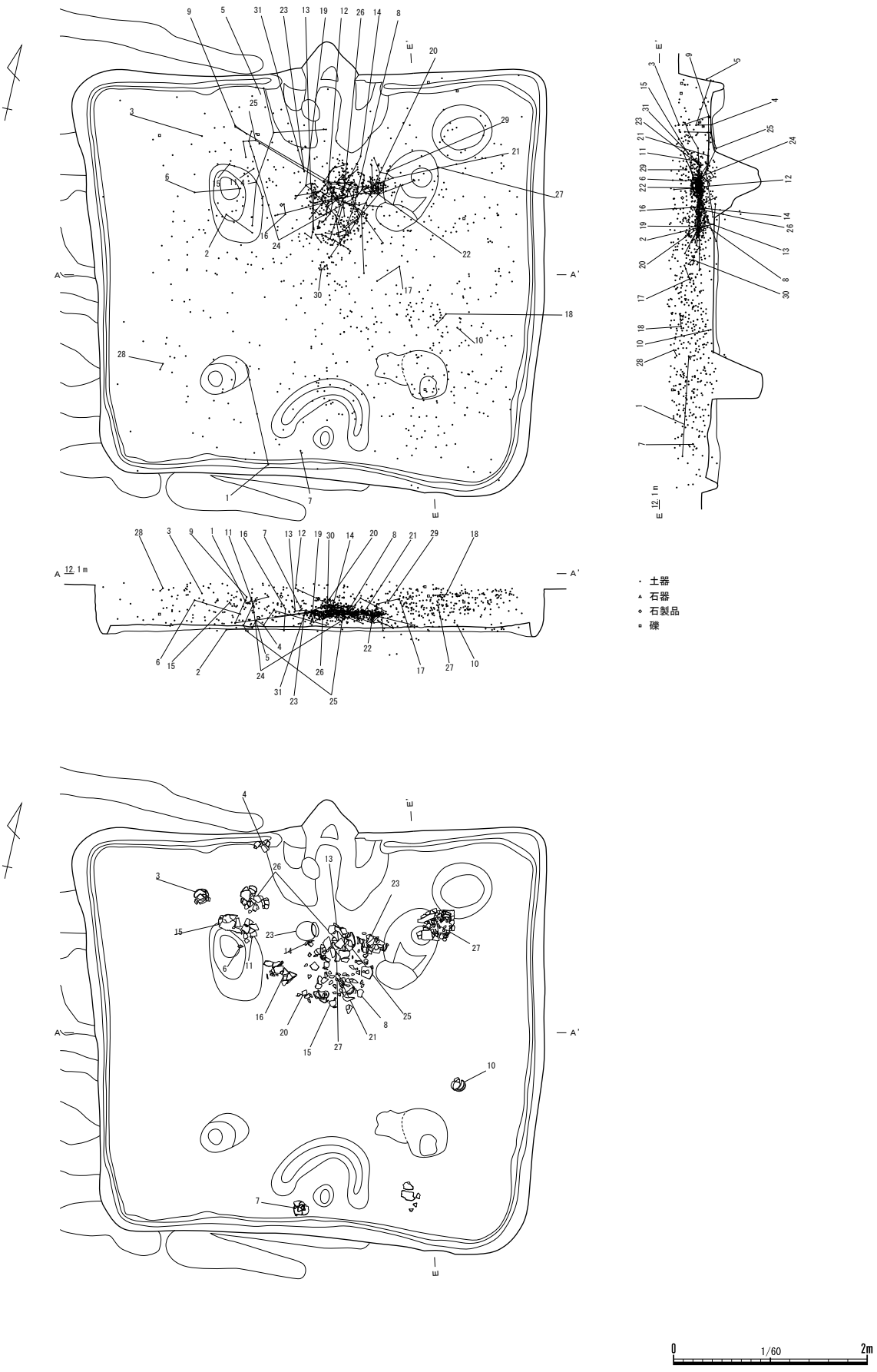
遺　　構（第 127 ～ 129 図）

［位　　置］（Ｇ・Ｈ－４）グリッド。

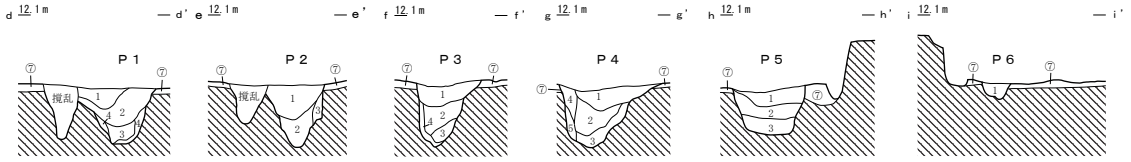
［検出状況］７Ｊを切り、314 Ｈに切られる。



第 127 図　313 号住居跡（１／60）



第 128 図　313 号住居跡遺物出土状態（1／60）



Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
３層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
４層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を少量含む。６層は彫り方はＰ２掘り方５層と同じ。

Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～30㎜）に少量、焼土（φ２～６㎜）を、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
２層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
３層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。

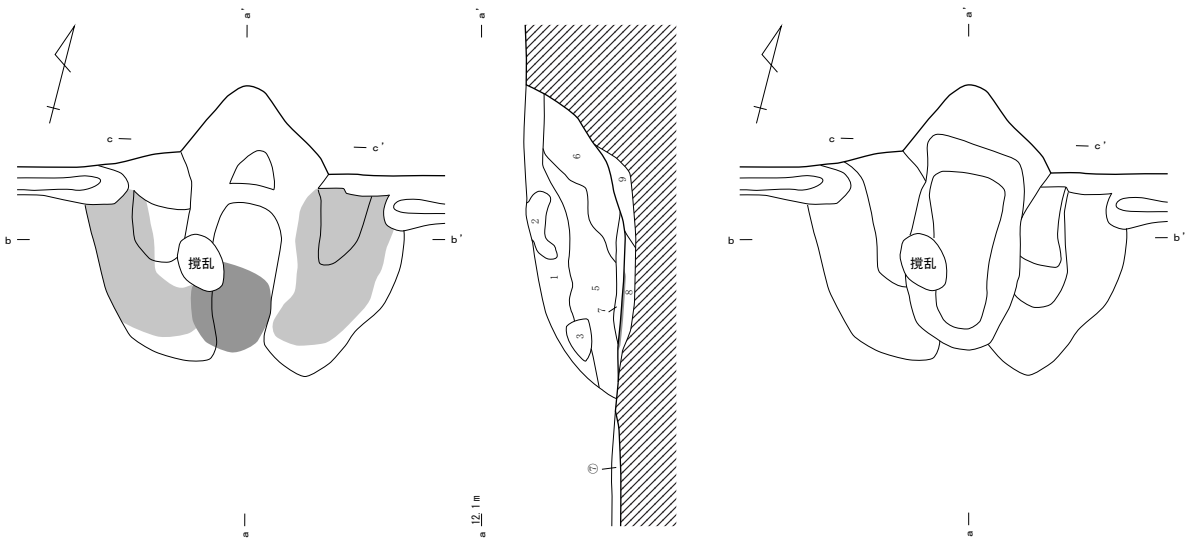
Ｐ３　土層説明
１層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～20㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
４層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

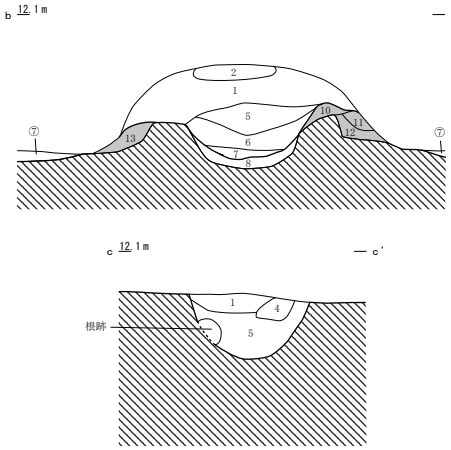
Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、焼土(φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
４層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
５層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。５層彫り方はＰ２掘り方５層と同じ。

Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ30～100㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ40～100㎜）に中量含む。
２層　黄褐色土(10YR5/6)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に極多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。
３層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

Ｐ６　土層説明
１層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

⑦: 住居７層





カマド　土層説明
１層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～２㎜）を少量、白色粘土（φ～５㎜）を中量含む。
２層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜　しみ状）を多量、焼土（φ～１㎜）を少量含む。
３層　灰黄褐色土(10YR5/2)　締り強い、粘性やや強い。白色粘土(φ～３㎜)を多量、焼土(φ～２㎜)を少量含む。
４層　灰黄褐色土(10YR5/2)　締り強い、粘性やや強い。白色粘土(φ～５㎜)を中量、焼土(φ～15㎜)を中量含む。
５層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を中量、ローム（φ～10㎜）を少量含む。
６層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を中量、白色粘土（φ～15㎜）を少量含む。
７層　黒褐色土（10YR3/2）　締り弱い、粘性弱い。焼土（φ～５㎜）を中量含む。
８層　黒褐色土（10YR3/2）　締り弱い、粘性弱い。焼土（φ～３㎜）を中量含む。
９層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土（φ～５㎜）を多量、白色粘土（φ～３㎜）を中量含む。
10層　灰黄褐色土(10YR4/2)　締り強い、粘性やや強い。焼土(φ～２㎜)を少量、ローム(φ～８㎜)を中量含む。袖。
11 層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～５㎜）を中量含む。袖。
12 層　灰黄褐色土(10YR6/2)　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック主体。焼土(φ～２㎜)を少量、炭(φ～５㎜)を微量含む。袖。
13 層　灰黄褐色土（10YR6/2）　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック主体。焼土（帯状に）を多量含む。袖。
⑦: 住居７層

粘土　被熱赤化　0　1/30　1m

第 129 図　313 号住居跡・カマド（１／60・１／30）

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 4.93m ／短軸 1.13m ／深さ 41㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N―13°―W。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅９～ 27㎝／下幅２～７㎝／深さ５～ 18㎝。**床面**：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は３～ 15㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－ 14°－Ｗ。長さ 115㎝／幅 127㎝／壁への掘り込み 34㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：北東コーナーに位置する（Ｐ５）。平面形は楕円形。長軸 62㎝／短軸 58㎝／深さ 44㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 52 ～ 56㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土･黄褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。**入口施設**：Ｐ６は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調とする。深さ 14㎝。北側には幅 22 ～ 27㎝／高さ１～２㎝ほどの凸堤が、「Ｕ」字状に巡っていた。

［覆　　土］６層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏・鉢・甕・甑、土製の支脚、土錘、土玉が出土した。カマドの南側から住居中央北側にかけて密集し、かつ、破片が非常に細かい状況であった。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉前段階）。

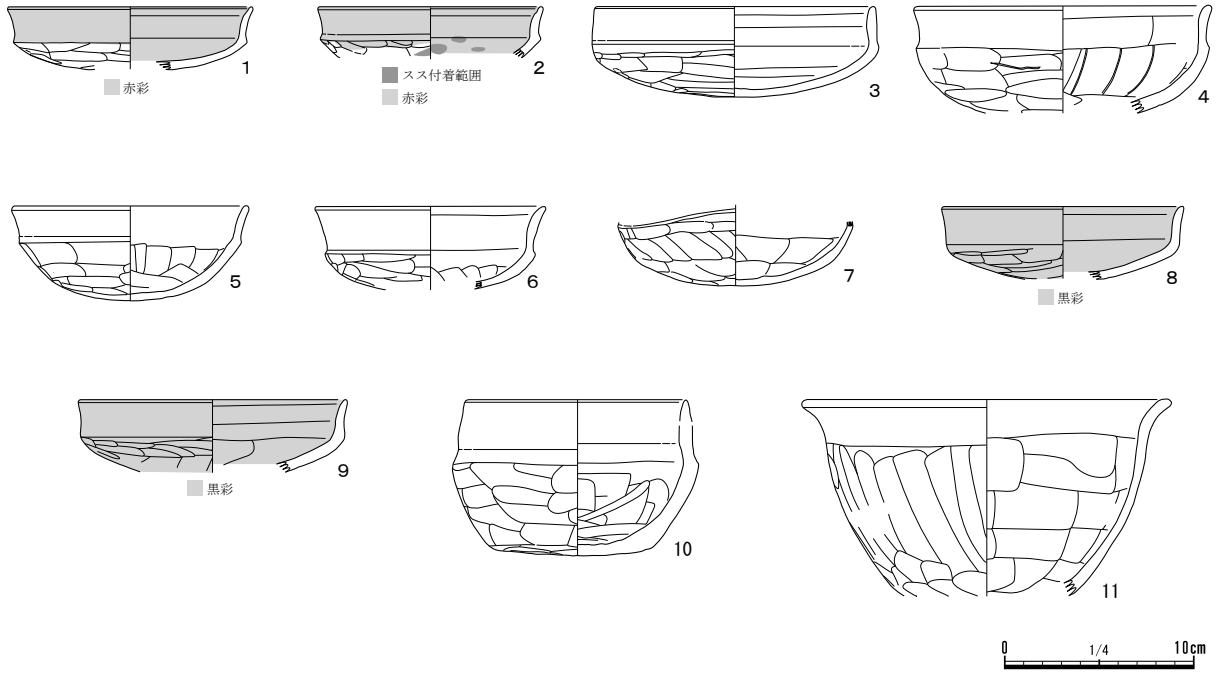
遺　　物（第 130 ～ 132 図、図版 75 －２、図版 76・77、第 58 表）

［土　　器］（第 130 ～ 132 図１～ 29、図版 75 －２－１～ 11、図版 76・77 － 12 ～ 29、第 58 表）

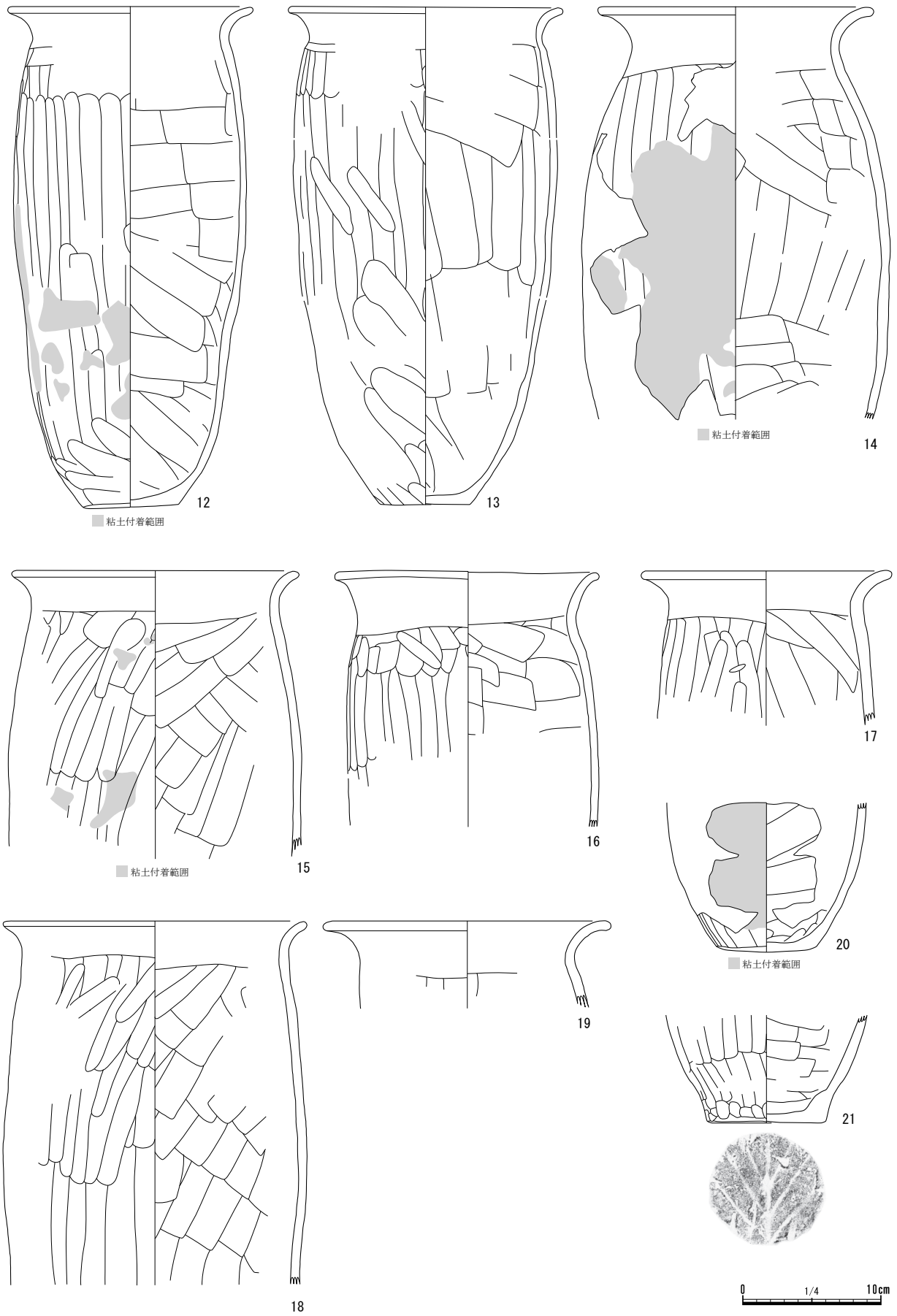
１～ 29 は全て土師器で、１～ 10 は坏、11 は鉢、12 ～ 26 は甕、27 ～ 29 は甑である。

［土 製 品］（第 132 図 30 ～ 32、図版 77 － 30 ～ 32、第 58 表）

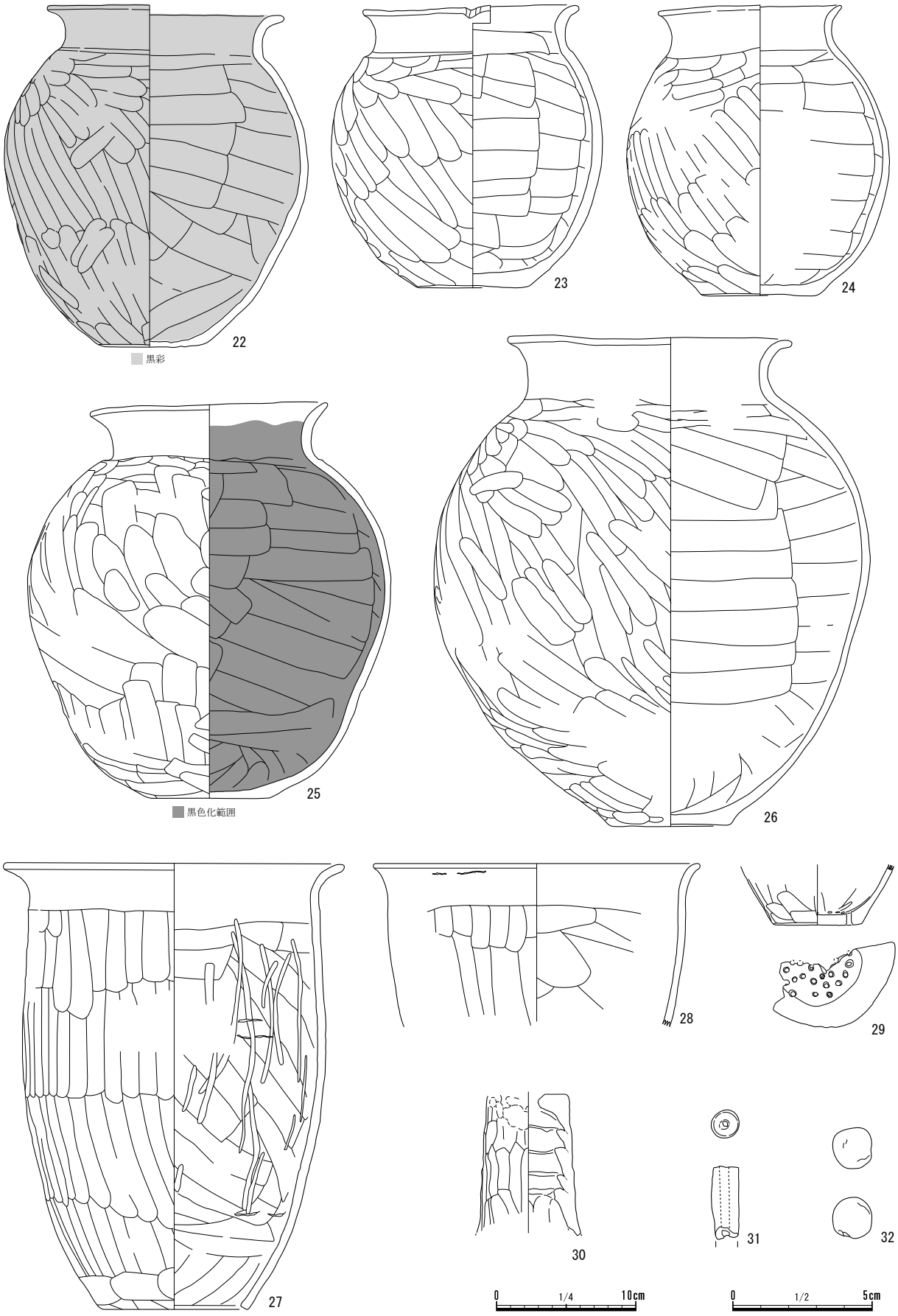
30 は支脚、31 は土錘、32 は土玉である。



第 130 図　313 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 131 図　313 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 132 図　313 号住居跡出土遺物３（１／２・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量(cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 130 図 1 図版 75- 2-1	土師器 坏	梯子穴西側の覆土中（床上 24･31cm）	口縁～底部 40%	高 [3.3] 口 (13.0)	赤褐色～明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英・長石・小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 130 図 2 図版 75- 2-2	土師器 坏	Ｐ４範囲内の床面レベル	口縁部 10%	高 [2.7] 口 (12.0)	暗赤褐色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／内外面スス付着／口唇内面沈線／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 130 図 3 図版 75- 2-3	土師器 坏	カマド西側の覆土中（床上 34cm）	口縁～底部 30%	高 4.8 口 14.9	にぶい黄橙色	砂粒やや多量／赤色粒子中量／角閃石少量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ→一部指押え	無彩系有段坏／在地系土師器
第 130 図 4 図版 75- 2-4	土師器 坏	カマド西側の覆土中（床上 1 ～ 17 cm）	口縁～底部 20%	高 [5.7] 口 (15.8)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量／角閃石少量	内面のヘラナデ顕著／内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 130 図 5 図版 75- 2-5	土師器 坏	カマド西側の覆土中（床上 6cm）	口縁～底部 30%	高 5.0 口 (12.5)	橙色	砂粒やや多量／石英中量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 130 図 6 図版 75- 2-6	土師器 坏	北西側の覆土中（床上 13・27cm）	口縁～底部 20%	高 [4.4] 口 (12.1)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･赤色粒子･石英中量／角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 130 図 7 図版 75- 2-7	土師器 坏	梯子穴南西側の覆土中（床上 20cm）	体～底部 70%	高 4.3	にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子･赤色粒子･石英・雲母中量	口唇部欠損／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 130 図 8 図版 75- 2-8	土師器 坏	中央北側の覆土中（床上 10 ～ 16 cm）	口縁～底部 40%	高 [4.1] 口 (12.8)	橙色～灰褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 130 図 9 図版 75- 2-9	土師器 坏	カマド西側の覆土中（床上 3 ～ 31 cm）	口縁～底部 20%	高 3.8 口 (14.3)	にぶい橙色～灰褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量／雲母少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 130 図 10 図版 75- 2-10	土師器 坏	東側の床面上	口縁～底部 90%	高 8.2 口 (11.9) 底 8.3	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	深身／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 130 図 11 図版 75- 2-11	土師器 鉢	カマド南西側の覆土中（床上 21cm）	口縁～体部 30%	高 [10.5] 口 (19.5)	橙色	砂粒・白色粒子・石英・雲母中量／角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
第 131 図 12 図版 76-12	土師器 甕	カマド南側から勇往北側の覆土中（床上 13 ～ 40cm）	口縁～底部 60%	高 36.4 口 17.8 底 6.7	にぶい橙色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子･角閃石･雲母中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 13 図版 76-13	土師器 甕	中央北側の覆土中（床上 4 ～ 17 cm）	口縁～底部 50%	高 36.1 口 20.1 底 6.6	にぶい黄褐色	砂粒・赤色粒子・石英中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴･底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 14 図版 76-14	土師器 甕	カマド南側から中央北側の覆土中（床上 10 ～ 30cm）	口縁～胴部 30%	高 [29.9] 口 (20)	橙色～灰褐色	砂粒やや多量／石英中量	最大径を胴上部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 15 図版 76-15	土師器 甕	カマド南西側の覆土中（床上 25cm）	口縁～胴部 15%	高 [20.9] 口 (20.2)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量／角閃石・雲母少量	最大径を胴上部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 16 図版 76-16	土師器 甕	中央北側の床面上・覆土中（床上 20cm）	口縁～胴部 30%	高 [18.5] 口 19.3	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	最大径を口縁部に持つと思われる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 17 図版 76-17	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上 23 ～ 29 cm）	口縁～胴部 15%	高 [11.2] 口 (18.2)	黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・角閃石・雲母中量	最大径を口縁部に持つと思われる／肉厚／内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 18 図版 76-18	土師器 甕	東側の覆土中（床上 .32 ～ 33cm）	口縁～胴部 15%	高 [26.4] 口 (22)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･赤色粒子･雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器

第 58 表　313 号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 131 図 19 図版 76-19	土師器 甕	中央北側の覆土中（床上 11 ～ 17 cm）	口縁～頸部 10%	高 [6.3] 口 20.9	橙色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石・雲母中量	最大径を口縁部に持つと思われる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 20 図版 76-20	土師器 甕	中央北側の覆土中（床上 11 ～ 28 cm）	胴～底部 10%	高 [10.8] 底 (7.3)	にぶい橙色～橙色	砂粒・白色粒子・金雲母中量	外面粘土付着／内面：ヘラナデ／外面：胴・底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 131 図 21 図版 76-21	土師器 甕	カマド南側から中央北側の覆土中（床上２～16cm）	胴～底部 10%	高 [7.8] 底 (8.4)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量／雲母・小礫少量	底部木葉痕／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 132 図 22 図版 77-22	土師器 甕	カマド南側から中央北側の覆土中（床上４～17cm）、一部カマド西側	口縁～底部 70%	高 24.7 口 17.2 底 7.1	にぶい赤褐色	砂粒・赤色粒子・小礫中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 132 図 23 図版 77-23	土師器 甕	カマド南側の覆土中（床上 12cm）	完形	高 20.5 口 15.6 底 8.0	にぶい黄橙色	砂粒・赤色粒子・石英中量	片口状？／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部よこなで、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 132 図 24 図版 77-24	土師器 甕	カマド南側・西側の覆土中（床上 12 ～ 28cm）	口縁～底部 80%	高 21.1 口 13.2 底 8.3	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量／角閃石少量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 132 図 25 図版 77-25	土師器 甕	カマド南側・西側の覆土中（床上２～ 28cm）	口縁～底部 60%	高 28.5 口 (17) 底 (8.4)	にぶい黄橙色～黒	砂粒やや多量／赤色粒子中量／角閃石少量	内面二次的（と思われる）な黒色化／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 132 図 26 図版 77-26	土師器 甕	中央北側の覆土中（床上 -4 ～ 22 cm）	口縁～底部 60%	高 35.4 口 20.4 底 8.5	橙色	砂粒・白色粒子中量／角閃石少量	大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 132 図 27 図版 77-27	土師器 甑	貯蔵穴南側の覆土中（床上 21cm）	口縁～底部 40%	高 32.1 口 (24.5) 底 (10.5)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・中量／雲母少量	内面ツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 132 図 28 図版 77-28	土師器 甑	南西側の覆土中（床上 37 ～ 40cm）	口縁～胴部 10%	高 [11.8] 口 (23.5)	橙色	砂粒・赤色粒子・石英中量／角閃石少量	口縁部ツギメあり／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
第 132 図 29 図版 77-29	土師器 甑	カマド南東側の覆土中（床上 27cm）	胴～底部 5%	高 [4.3] 底 (6.2)	橙色	砂粒・白色粒子・石英中量／角閃石少量	孔径２～ 3mm ／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	多孔式／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 132 図 30 図版 77-30	土製品 支脚	ほぼ中央の覆土中（床上 20 ～ 25 cm）	両端部欠損	[10.9]	[6.7]	[6.4]	203.7	内面：輪済み痕跡が残る、下部ナデ／外面：ヘラケズリ	
第 132 図 31 図版 77-31	土製品 土錘	24 の中から出土	片端部欠損	[0.7]	0.3	0.3	2.7	中央部穿孔	
第 132 図 32 図版 77-32	土製品 土玉	南西側覆土下層	完形	1.5	1.4	1.4	2.6	穿孔なし／指ナデ・指押え	

第 58 表　313 号住居跡出土遺物一覧（２）

314 号住居跡

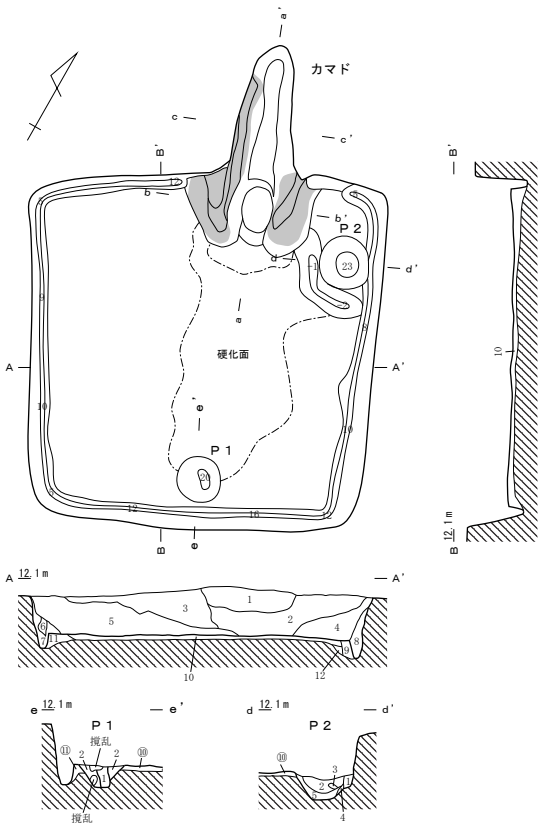
遺　構（第 133・134 図）

［位　置］（Ｇ・Ｈ－５）グリッド。

［検出状況］313 Ｈを切り、19 Ｐに切られる。

［構　造］**平面形**：方形。**規模**：長軸 2.87m ／短軸 2.85m ／深さ 30cm。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N―30°―W。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 10 ～ 25cm／下幅２～５cm／深さ５～ 16cm。

床面：入口からカマドにかけて、住居中央部分が硬化していた。貼床は３～ 11㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁の中央東よりに位置する。主軸方位はＮ－ 22°－Ｗ。長さ 167㎝／幅 108㎝／壁への掘り込み 98㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：北東コーナーに位置する（Ｐ２）。平面形は円形。長軸 39㎝／短軸 42㎝／深さ 23㎝。南側には幅 20 ～ 22㎝／高さ１～２㎝ほどの凸堤が巡ってい



314H　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。焼土（φ１～２㎜）を斑状･ブロック状（φ40㎜程）に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

２層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～１㎜)をブロック状(φ60㎜程)に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

３層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

４層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

５層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状･ブロック状（φ20㎜程）に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

６層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。

７層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を中量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に中量含む。

８層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を多量含む。

９層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を極多量含む。貼床。

10 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に少量含む。貼床。

11 層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を極多量含む。貼床。

12 層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に微量含む。貼床。

Ｐ１　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を極多量含む。柱痕跡

２層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に少量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に多量含む。

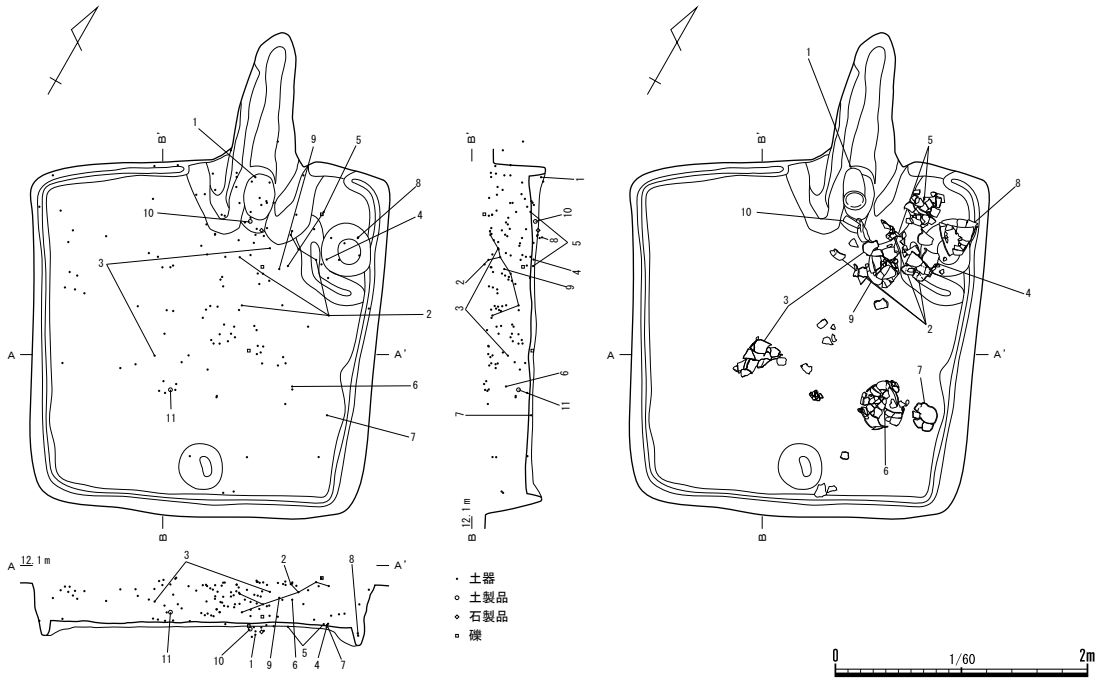
２層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に微量、焼土（φ２～３㎜）をブロック状（φ20㎜程）に微量、褐色土（φ0.5～１㎜）を多量含む。

３層　褐色土（10YR4/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に中量含む。

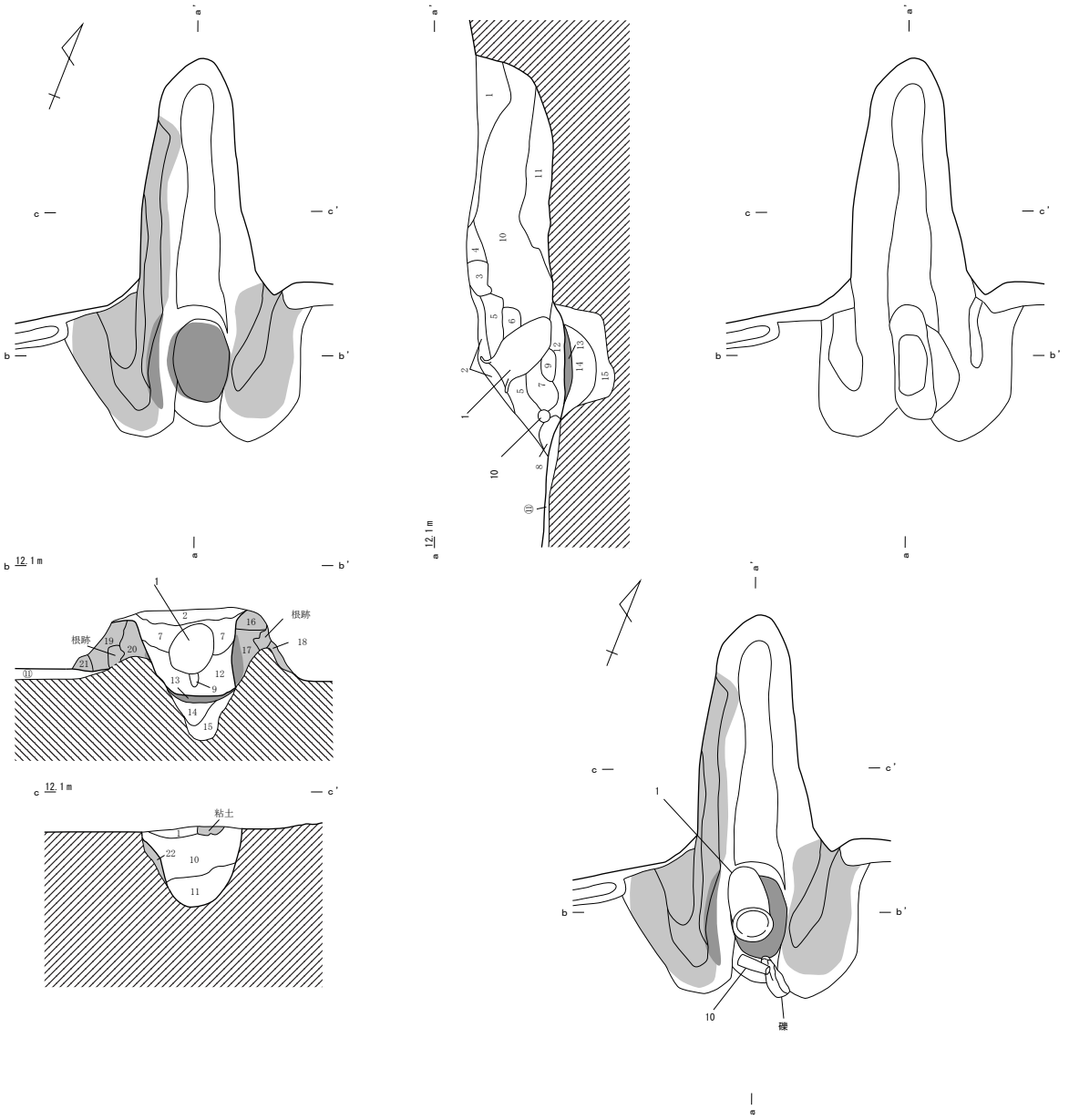
４層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を多量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に微量含む。

５層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～１㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～１㎜）を斑状に少量含む。

⑩･⑪: 住居 10・11 層



第 133 図　314 号住居跡・遺物出土状態（１／ 60）



カマド　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ～１㎜）を微量、焼土（φ～８㎜）を中量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土（φ～３㎜）を少量、白色粘土（φ～２㎜）を少量含む。
３層　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック。
４層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～１㎜）を微量含む。
５層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～２㎜）を中量、焼土（φ～２㎜）を少量含む。
６層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性強い。白色粘土（φ２～20㎜）を多量、焼土（φ～５㎜）を中量含む。
７層　明赤褐色土（2.5YR5/6）　締りやや弱い、粘性強い。赤化粘土。
８層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締り強い、粘性やや強い。ロームブロック主体。
９層　灰白色土（10YR8/1）　締り強い、粘性強い。白色粘土ブロック。
10層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（しみ状）を多量、焼土（φ～15㎜）を少量、白色粘土（φ～３㎜）を少量含む。
11層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。被熱ローム（φ～５㎜）を中量、焼土（φ～10㎜）を少量含む。
12層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を多量、白色粘土（φ～１㎜）を微量含む。
13層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土・被熱ローム（φ～10㎜）を多量含む。
14層　褐灰色土（10YR4/1）　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土・被熱ローム（φ～８㎜）を中量含む。
15層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム主体。
16層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～30㎜）を中量、焼土（φ～２㎜）を少量含む。袖。
17層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を中量含む。袖。
18層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性強い。白色粘土主体。袖。
19層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性やや弱い。ローム（φ～３㎜）を少量含む。袖。
20層　褐灰色土（10YR5/1）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～８㎜）を多量、焼土（φ～３㎜）を少量含む。袖。
21層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや弱い、粘性強い。ロームブロック主体。袖。
22層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ～１㎜）を微量、焼土（φ～１㎜）を微量含む。
⑪：住居11層

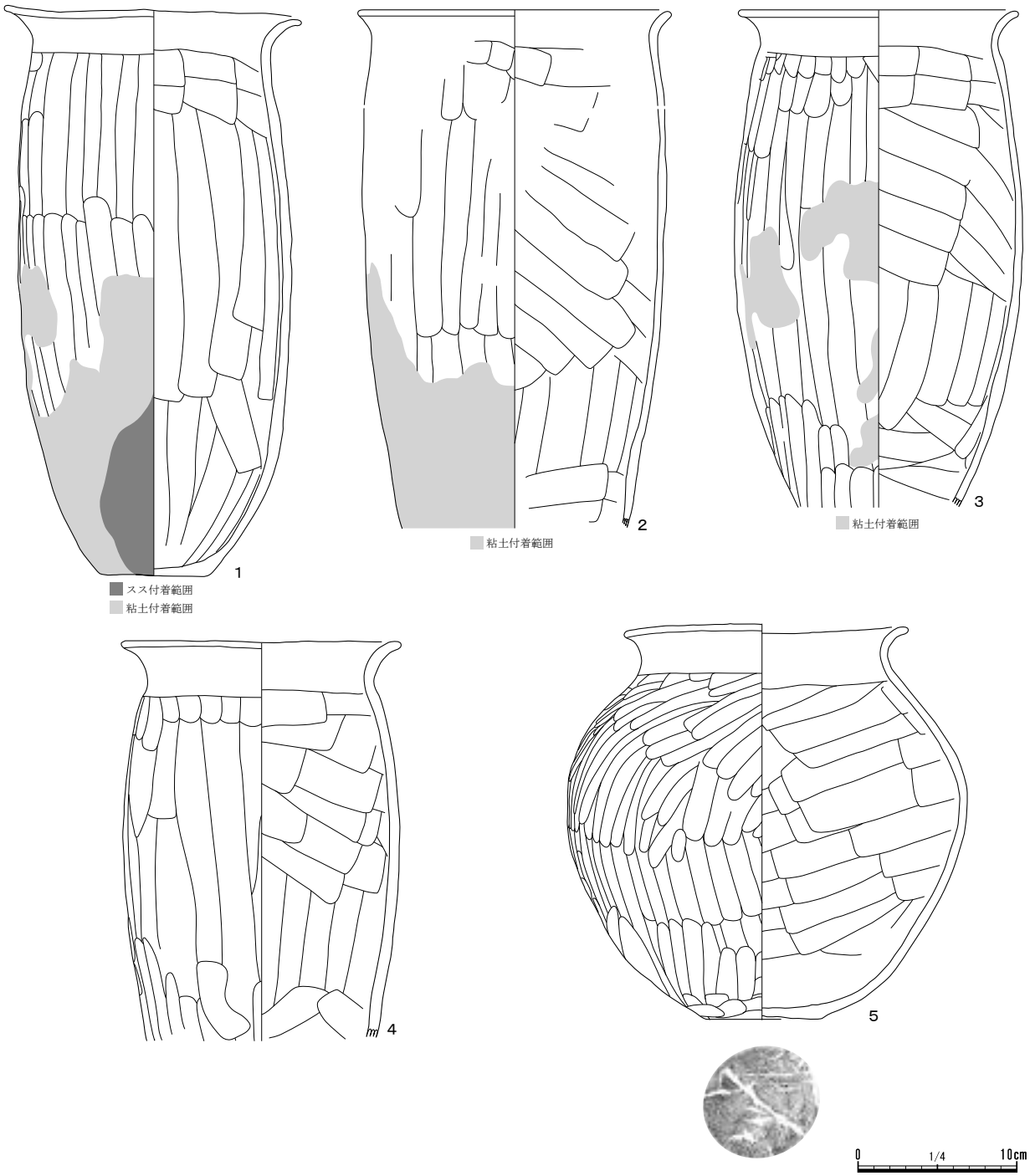
粘土　被熱赤化　0　1/30　1m

第134図　314号住居跡カマド（１／30）

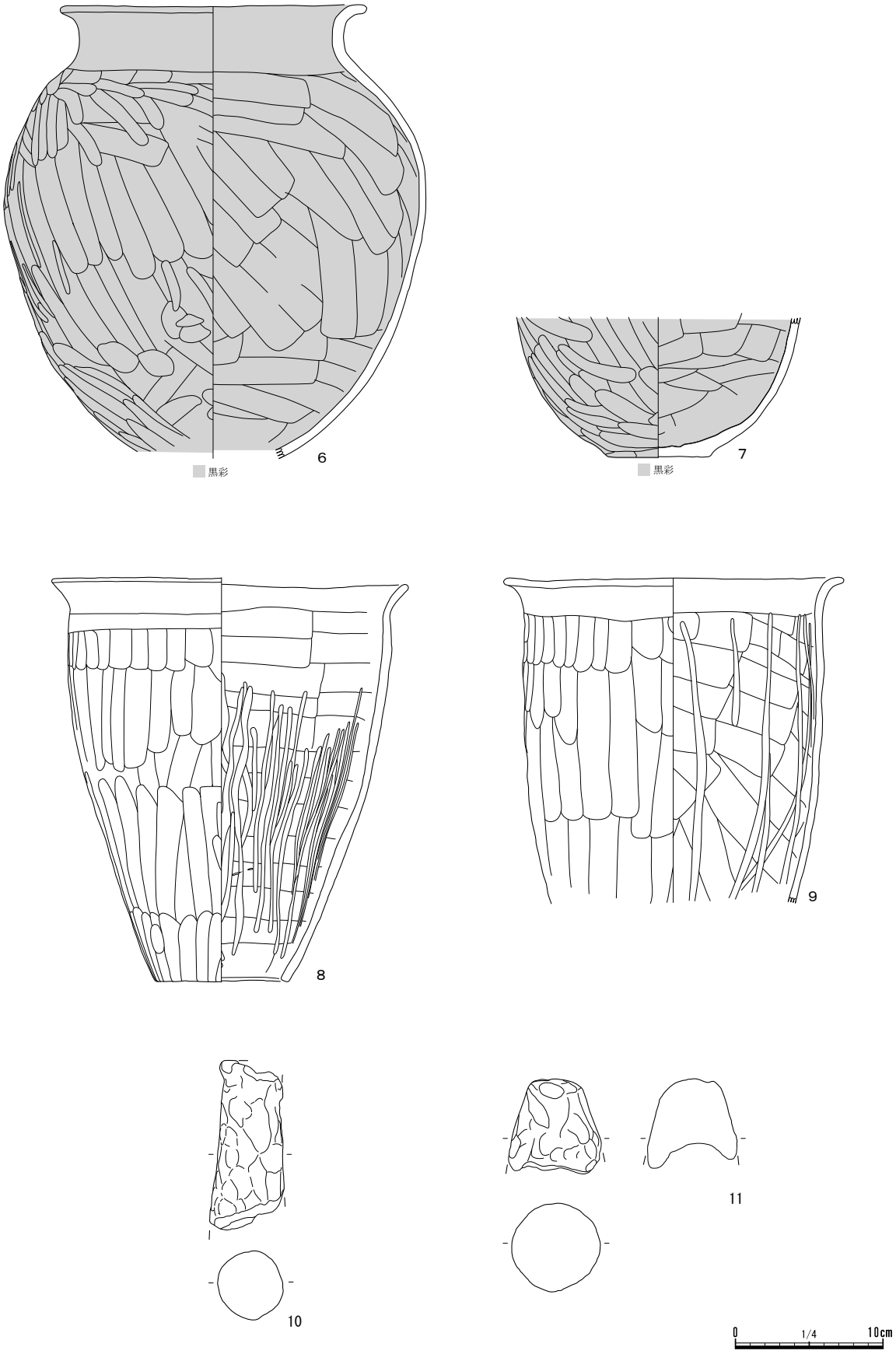
た。覆土はローム粒を含む暗褐色土・褐色土・黄褐色土・黒褐色土を基調とする。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：Ｐ１は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ 20㎝。

［覆　　土］８層に分層できた。

［遺　　物］土師器甕・甑、土製の支脚が出土した。カマドからほぼ完形の長甕（１）が出土し、やや倒れこんでいるが、掛け口にかけられた状態に近いものと思われる。長甕から焚口よりの位置から土製の支脚（10）が出土している。また、土製支脚に隣接して、細長い礫が出土しており、これも支脚の可能性がある。貯蔵穴の周辺に遺物の集中がみられる。



第 135 図　314 号住居跡出土遺物１（１／４）



第 136 図　314 号住居跡出土遺物２（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 135 図 1 図版 78-1	土師器 甕	カマド内（火床上 6cm）	完形	高 35.8 口 18.7 底 7.0	橙色	砂粒・白色粒子・小礫中量	最大径を口縁部に持つ／外面スス・粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 135 図 2 図版 78-2	土師器 甕	カマド・貯蔵穴南側の覆土中（床上９～33cm）	口縁～胴部 60%	高 [32.6] 口 (19.8)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 135 図 3 図版 78-3	土師器 甕	中央南側・カマド南側の覆土中（床上 18～26cm）	口縁～胴部 70%	高 [31.8] 口 17.8	黄橙色	砂粒・白色粒子中量／角閃石・雲母少量	最大径を胴部中位に持つ／外面粘土付着／内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	／在地系土師器長甕
第 135 図 4 図版 78-4	土師器 甕	貯蔵穴にかかる（ほぼ床面レベル）	口縁～胴部 30%	高 [27.1] 口 (17.7)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 135 図 5 図版 78-5	土師器 甕	カマドと貯蔵穴の間の床面上	口縁～底部 90%	高 24.7 口 17.9 底 7.3	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	底部木葉痕、一部ケズリ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部一部ケズリ	丸甕／在地系土師器
第 136 図 6 図版 78-6	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上 19cm）	口縁～胴部 90%	高 [30.8] 口 20.8	褐色	砂粒・白色粒子中量／石英・角閃石・雲母少量	黒彩／大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ→一部ミガキ	丸甕／在地系土師器
第 136 図 7 図版 78-7	土師器 甕	東壁南側付近の床面上	胴～底部 10%	高 [9.4] 底 (6.8)	褐色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・小礫中量／石英少量	黒彩／内面一部剥離／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 136 図 8 図版 79- 1 -8	土師器 甑	貯蔵穴範囲にかかる（床下 9cm）	口縁～底部 80%	高 27.3 口 24.2 底 8.9	黄橙色	砂粒・白色粒子・石英中量	内面ツギメが残る／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 136 図 9 図版 79- 1 -9	土師器 甑	カマド南東側の覆土中（床上 21cm）	口縁～胴部 25%	高 [22.0] 口 (23.0)	橙色～褐灰色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 136 図 10 図版 78-10	土製品 支脚	カマド内（火床上 5cm）	上部・下部欠損	[11.5]	[5.1]	[4.1]	227.8	外面指ナデ・指押え	
第 136 図 11 図版 78-11	土製品 支脚	中央南側の覆土中（床上７cm）	下部欠損	[6.4]	[6.3]	[6.2]	189.0	上端部のみ残存／外面指ナデ指押え／粘土のツギメで剥離する	

第 59 表　314 号住居跡出土遺物一覧

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉後段階）。

遺　　物（第 135・136 図、図版 78、図版 79 － 1 、第 59 表）

［土　　器］（第 135・136 図 1 ～ 9 、図版 78 － 1 ～ 6 、図版 79 － 1 － 8 ・ 9 、第 59 表）

1 ～ 9 は全て土師器で、 1 ～ 7 は甕、 8 ・ 9 は甑である。

［土 製 品］（第 136 図 10・11、図版 78 － 10・11、第 59 表）

10・11 はいずれも支脚である。

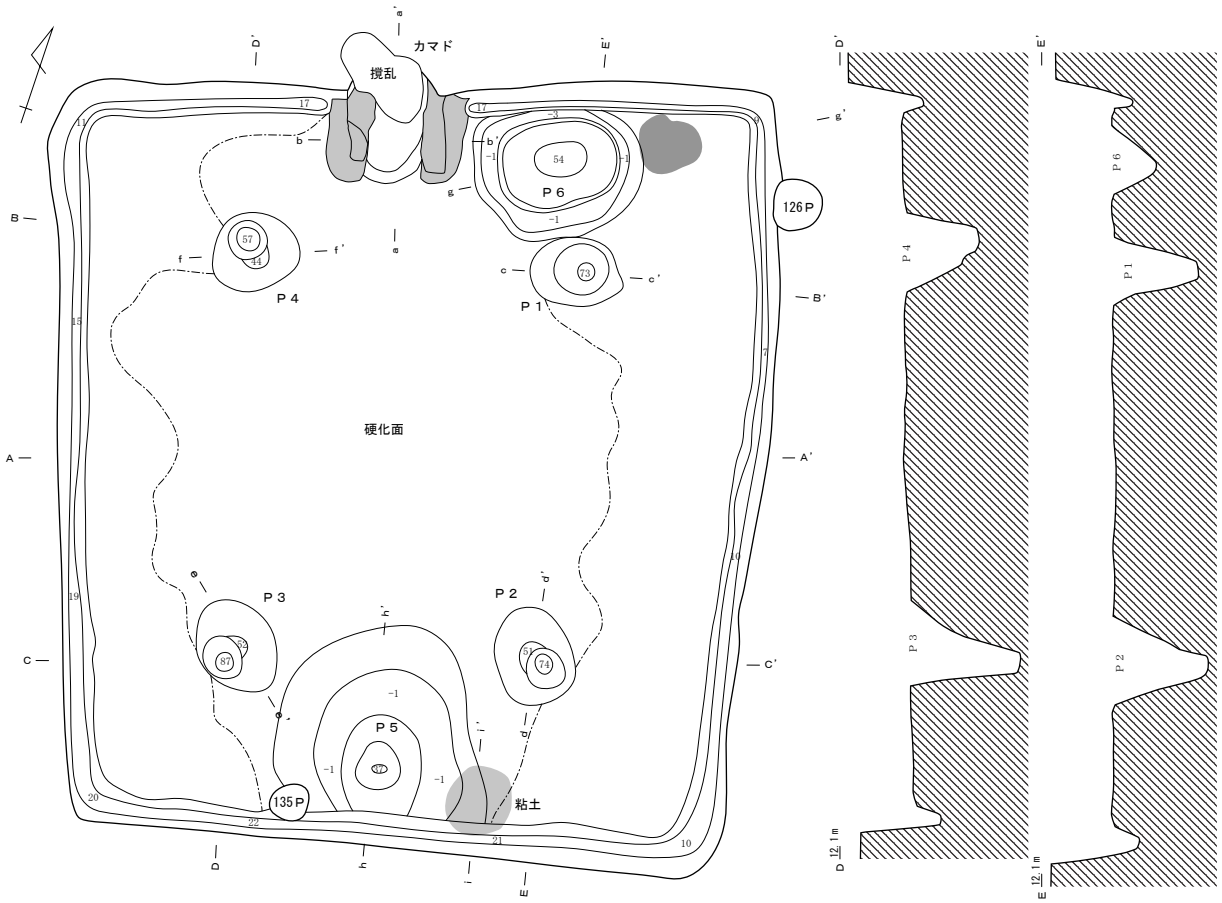
315 号住居跡

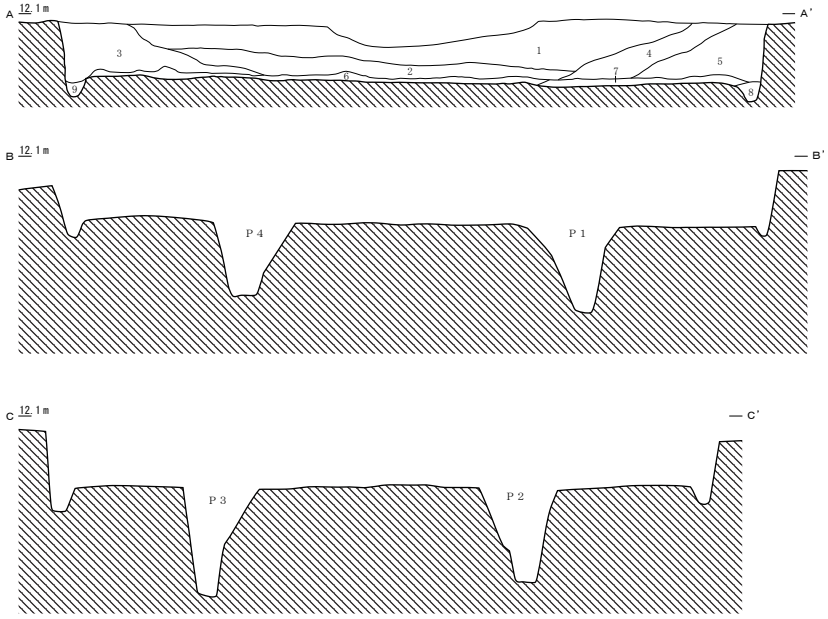
遺　　構（第 137 ～ 140 図）

［位　　置］（Ｆ・Ｇ－５・６）グリッド。

［検出状況］ ９Ｊを切り、３道、126・135・165 Ｐに切られる。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 6.36m ／短軸 5.81m ／深さ 49cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：Ｎ―19°―Ｗ。壁溝：カマドを除き全周する。上幅 17 ～ 27cm／下幅３～ 18cm／深さ７～





315H　土層説明

１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、焼土（φ1～3㎜）を斑状・ブロック状（φ10～30㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～40㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

３層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～40㎜）に微量、焼土（φ2～5㎜）をブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

４層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～30㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

５層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

６層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

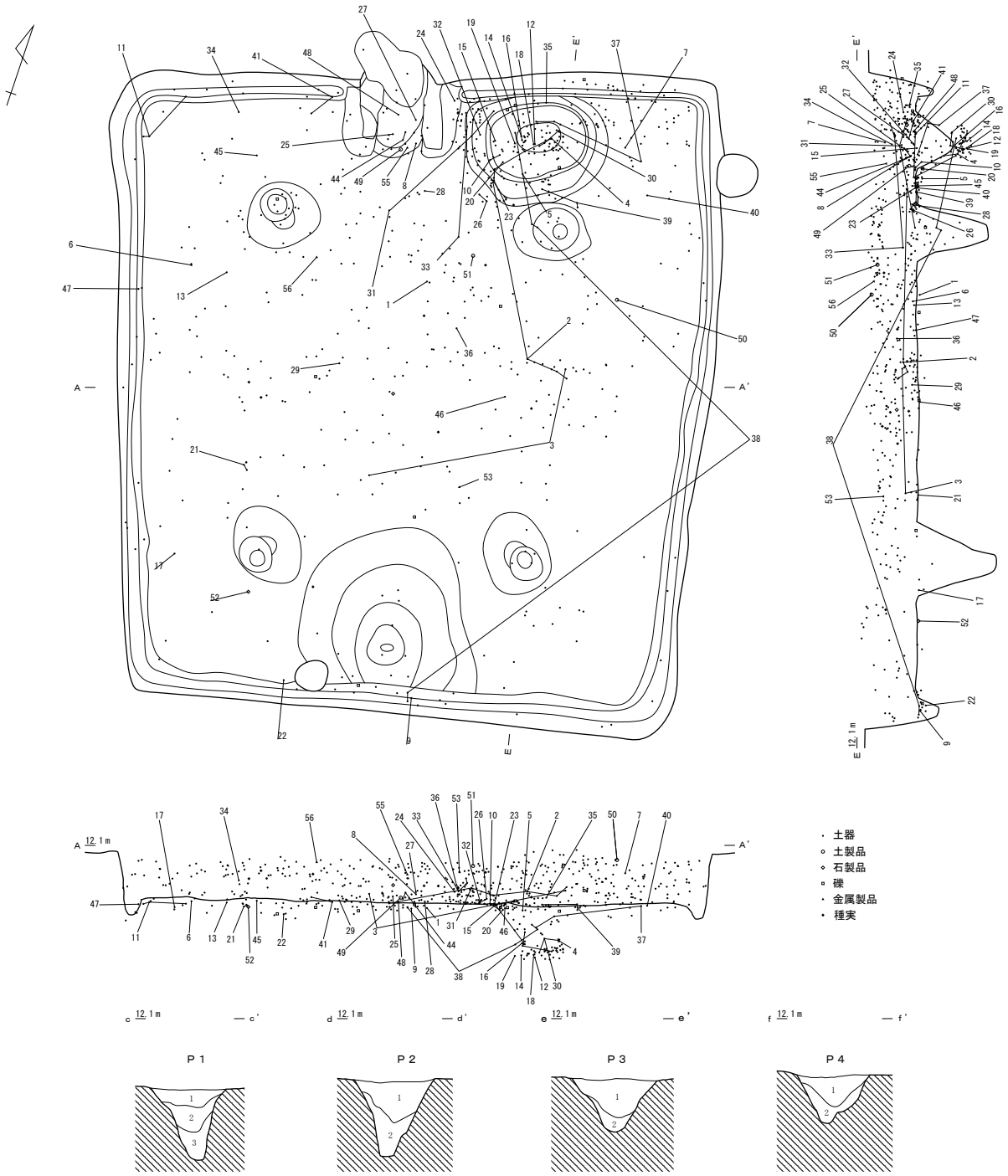
７層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。

８層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

９層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。

粘土　焼土　0　1/60　2m

第137図　315号住居跡（1／60）



Ｐ１　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～40㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
２層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
３層　黄褐色土(10YR5/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

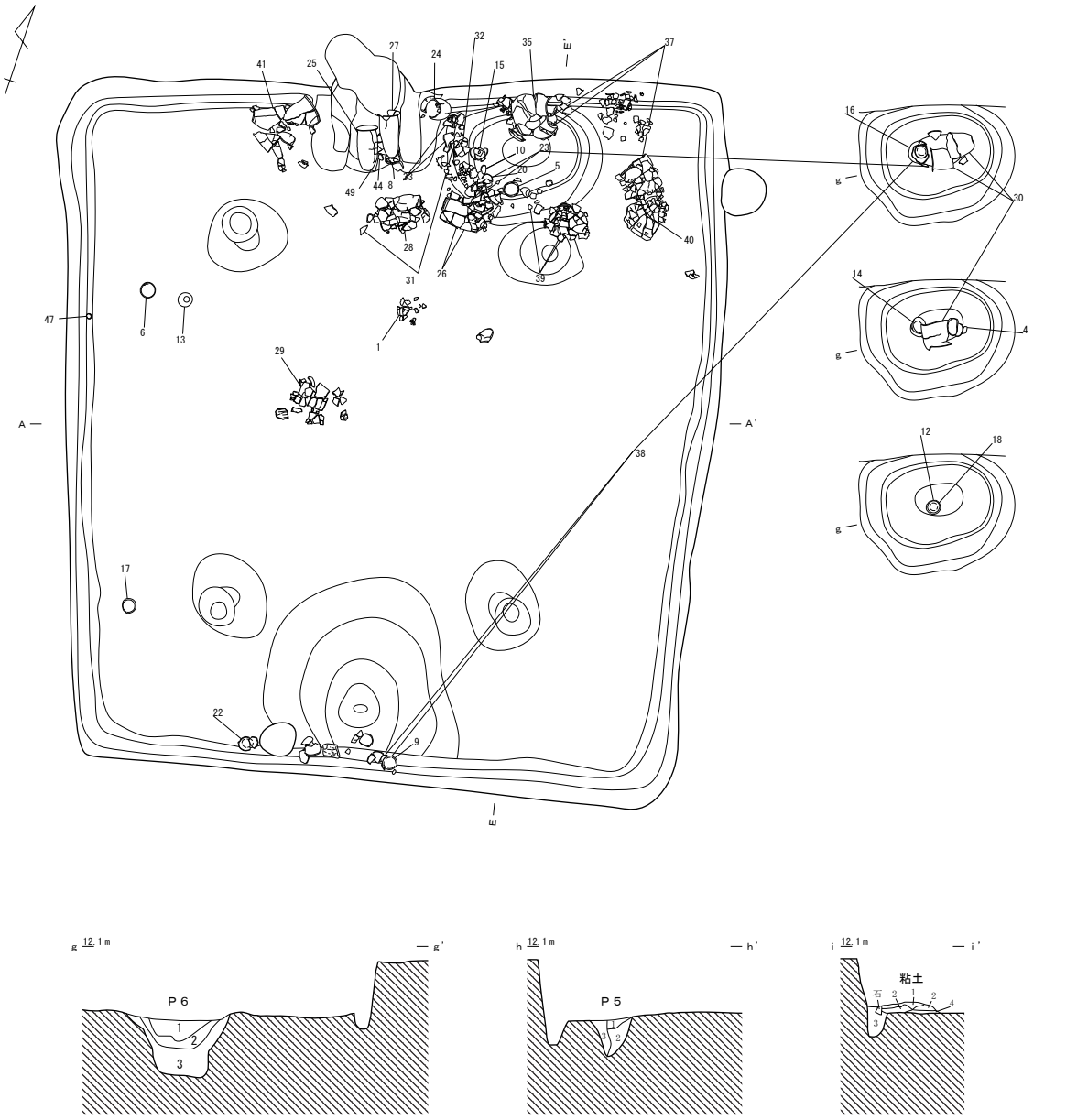
Ｐ２　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～50㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。

Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ5～20㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　褐色土(10YR4/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、焼土（φ1～5㎜）をブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を多量、褐色土(φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。

0　1/60　2m

第138図　315号住居跡・遺物出土状態１（１／60）



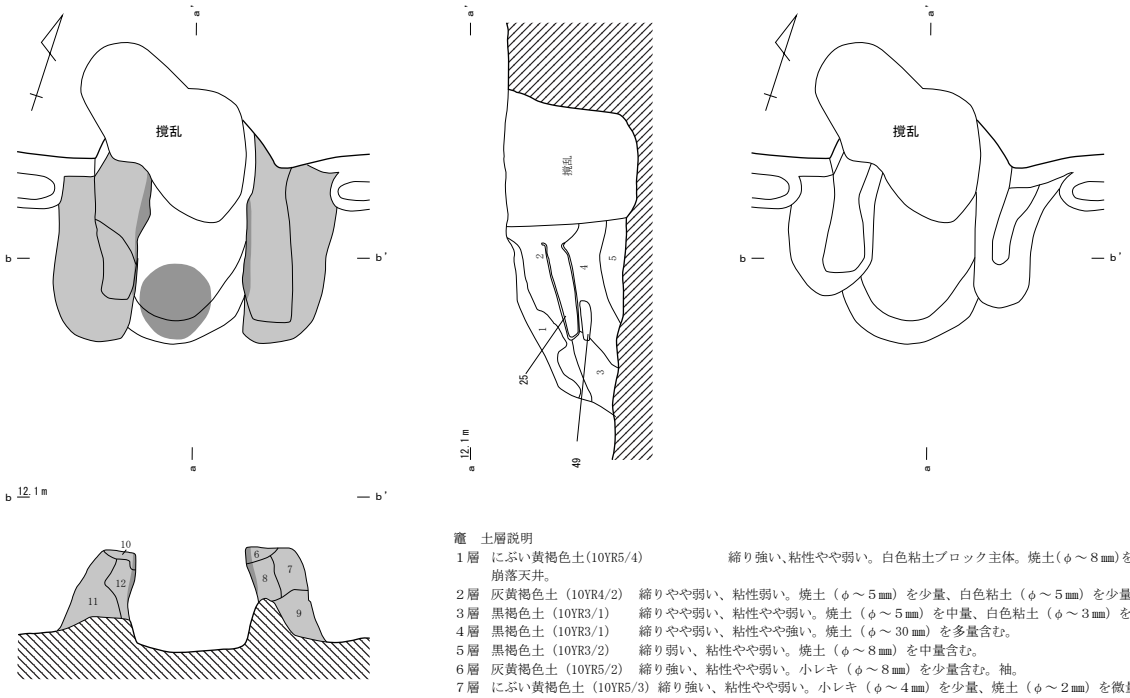
Ｐ５　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.５～１㎜）を極多量含む。
２層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を極多量、褐色土（φ0.５～１㎜）を斑状に微量含む。
３層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.５～１㎜）を極多量含む。

Ｐ６　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を斑状に微量、焼土（φ１～２㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量、褐色土（φ0.５～１㎜）を極多量含む。
２層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を斑状に微量、焼土（φ１～２㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.５～１㎜）を極多量含む。
３層　褐色土（10YR4/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.５～１㎜）を多量含む。

粘土　土層説明
１層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）をブロック状に微量、粘土（φ0.１㎜程）を少量、褐色土（φ0.５～１㎜）を極多量含む。粘土は下部に偏る
２層　灰白色土（2.5Y8/2）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.５～１㎜）をブロック状（φ10～30㎜）に微量、粘土（φ0.１㎜程）を多量、褐色土（φ0.５～１㎜）を斑状に中量含む。
３層　褐色土（10YR4/4）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を中量、粘土（φ0.１㎜程）をブロック状（φ10～30㎜）に微量、褐色土（φ0.５～１㎜）を多量含む。
４層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を極多量、褐色土（φ0.５～１㎜）を斑状に微量含む。

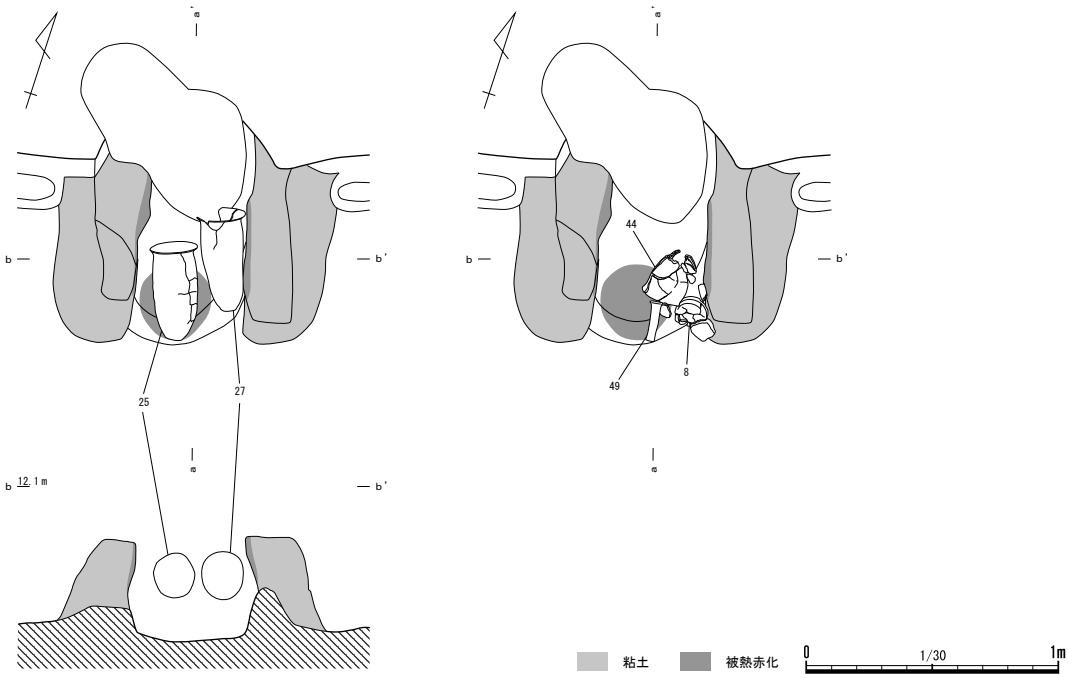
0　1/60　2m

第 139 図　315 号住居跡・遺物出土状態２（１／60）

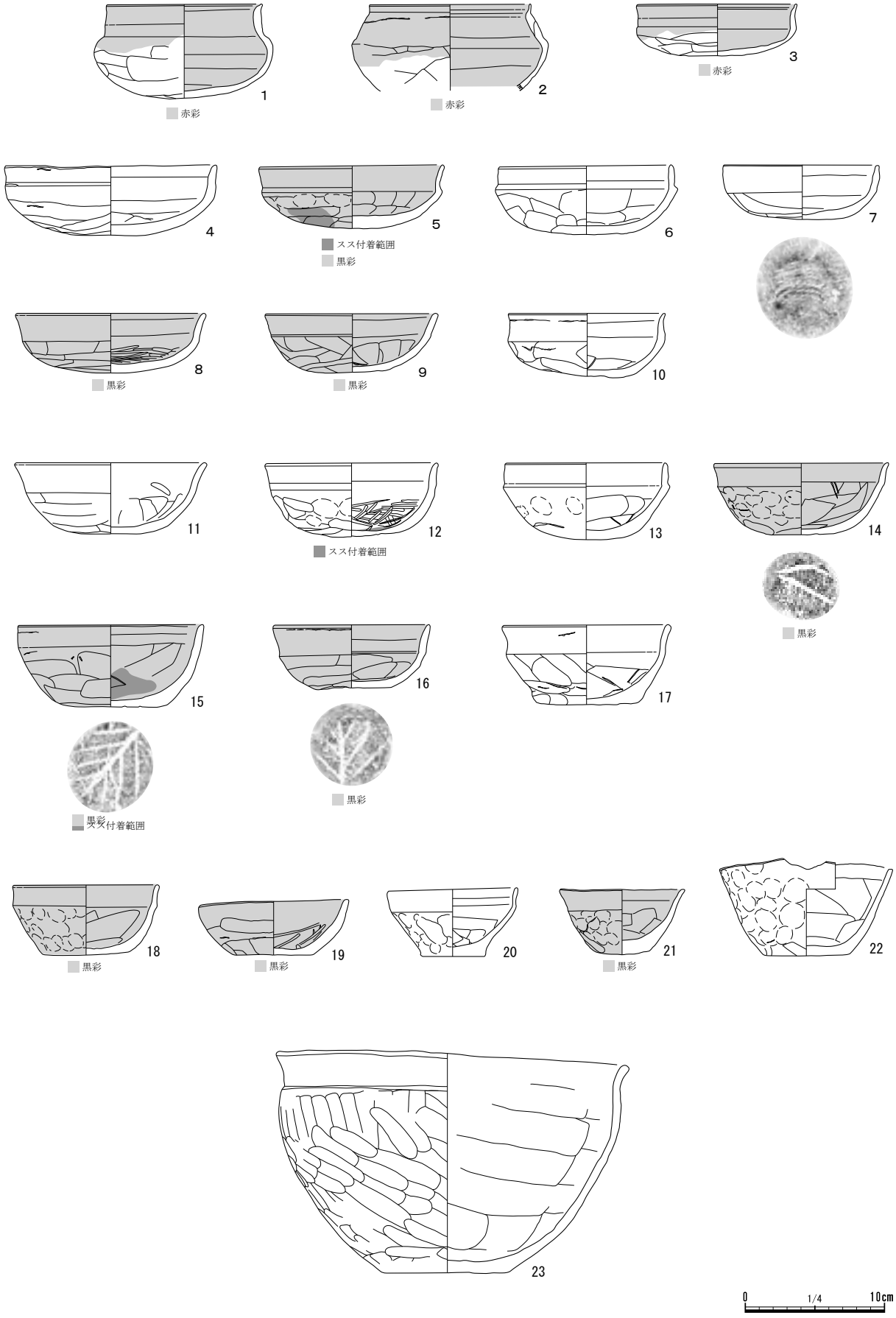


竈　土層説明

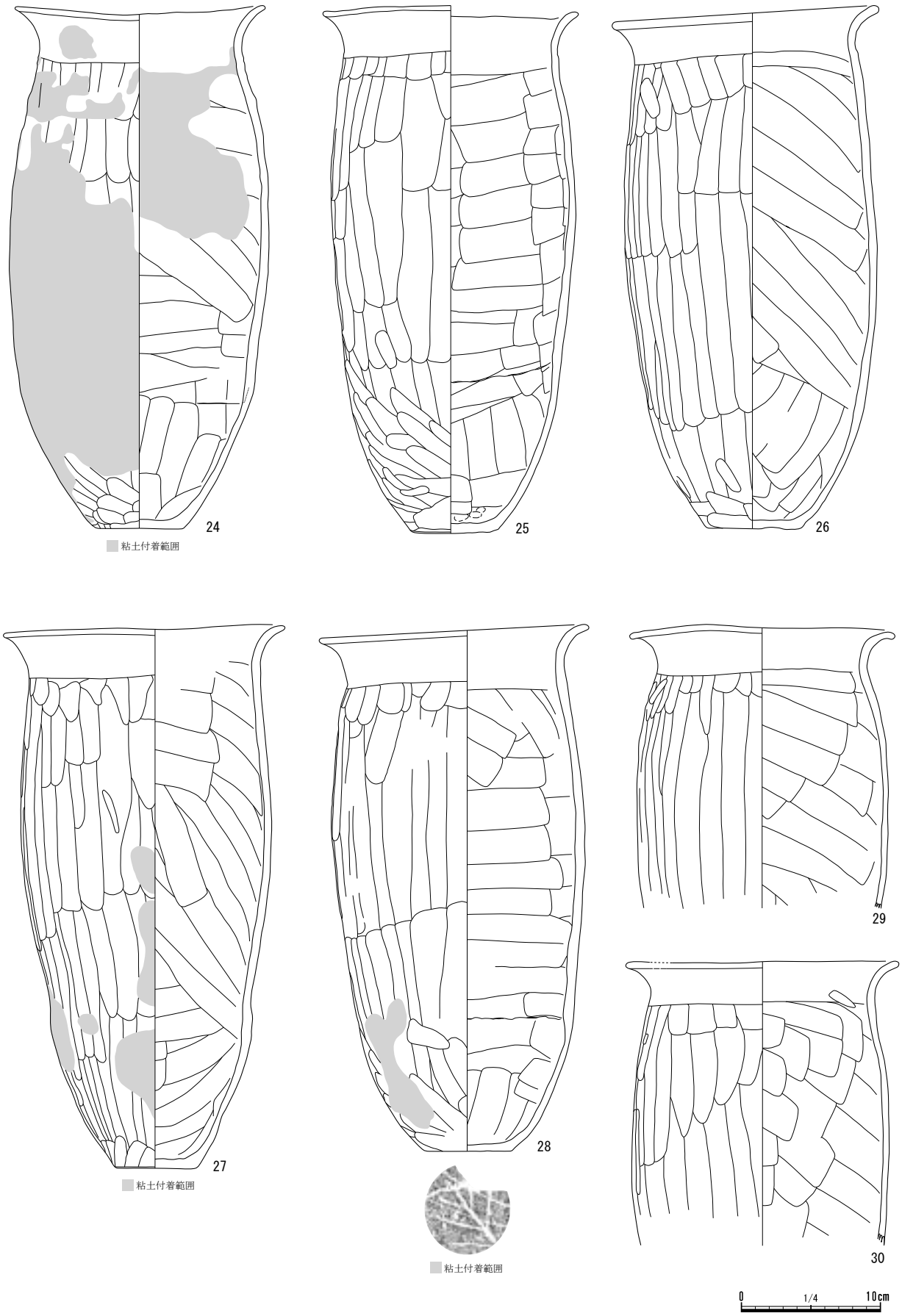
１層	にぶい黄褐色土(10YR5/4)	締り強い、粘性やや弱い。白色粘土ブロック主体。焼土(φ～８㎜)を少量含む。崩落天井。
２層	灰黄褐色土（10YR4/2）	締りやや弱い、粘性弱い。焼土（φ～５㎜）を少量、白色粘土（φ～５㎜）を少量含む。
３層	黒褐色土（10YR3/1）	締りやや弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～５㎜）を中量、白色粘土（φ～３㎜）を少量含む。
４層	黒褐色土（10YR3/1）	締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～30㎜）を多量含む。
５層	黒褐色土（10YR3/2）	締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～８㎜）を中量含む。
６層	灰黄褐色土（10YR5/2）	締り強い、粘性やや弱い。小レキ（φ～８㎜）を少量含む。袖。
７層	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	締り強い、粘性やや弱い。小レキ（φ～４㎜）を少量、焼土（φ～２㎜）を微量含む。袖。
８層	赤色土（10R5/6）	締り強い、粘性やや弱い。７層被熱赤化。袖。
９層	にぶい黄褐色土（10YR5/3）	締り強い、粘性やや弱い。小レキ（φ～８㎜）を少量、焼土（φ～３㎜）を微量含む。袖。
10層	黄褐色土（10YR5/6）	締り強い、粘性やや弱い。小レキ（φ～８㎜）を少量含む。袖。
11層	黄褐色土（10YR5/6）	締り強い、粘性やや弱い。小レキ（φ～３㎜）を少量含む。袖。
12層	黄褐色土（10YR5/6）	締り強い、粘性やや弱い。11層被熱赤化。袖。



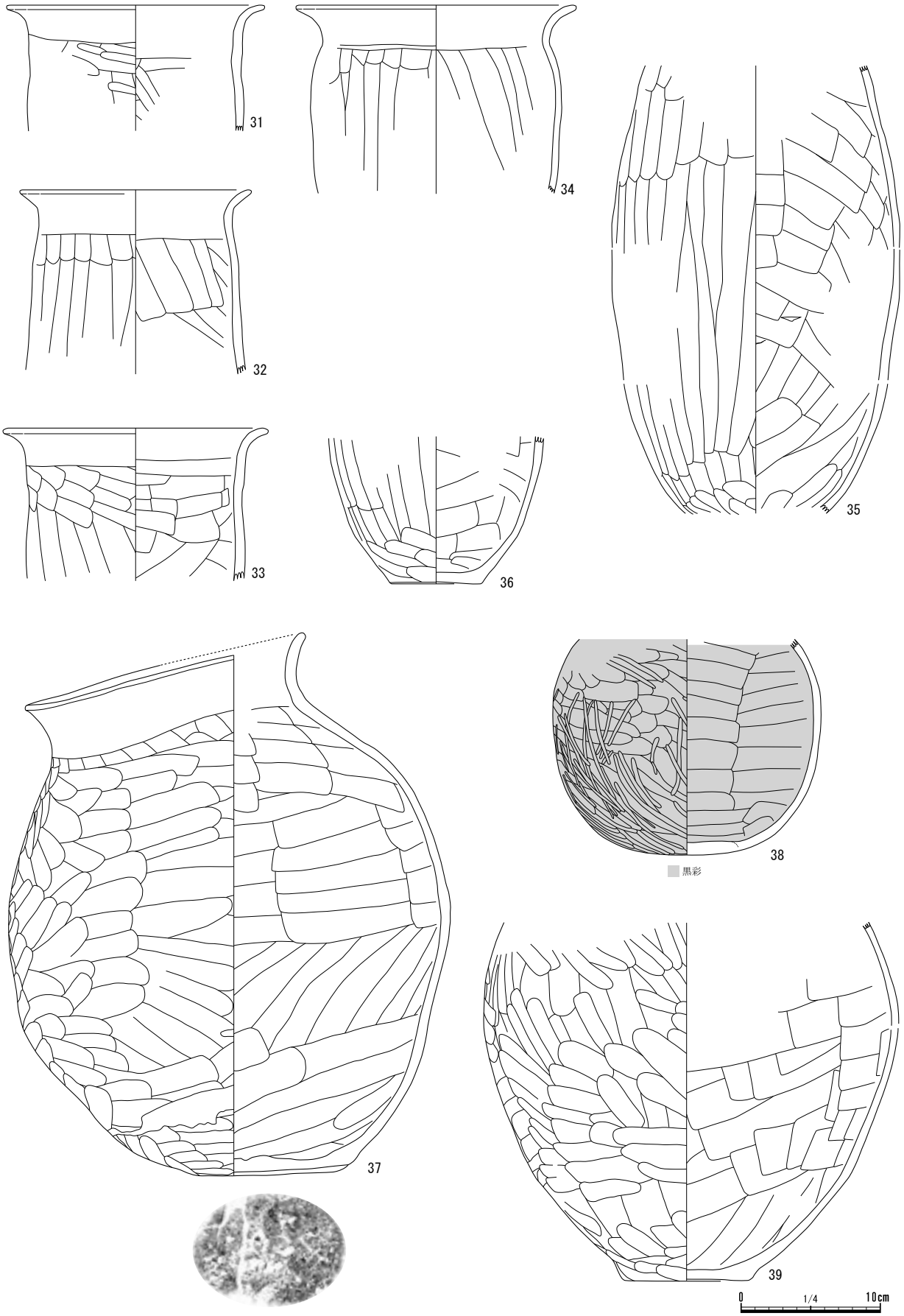
第 140 図　315 号住居跡カマド（１／30）



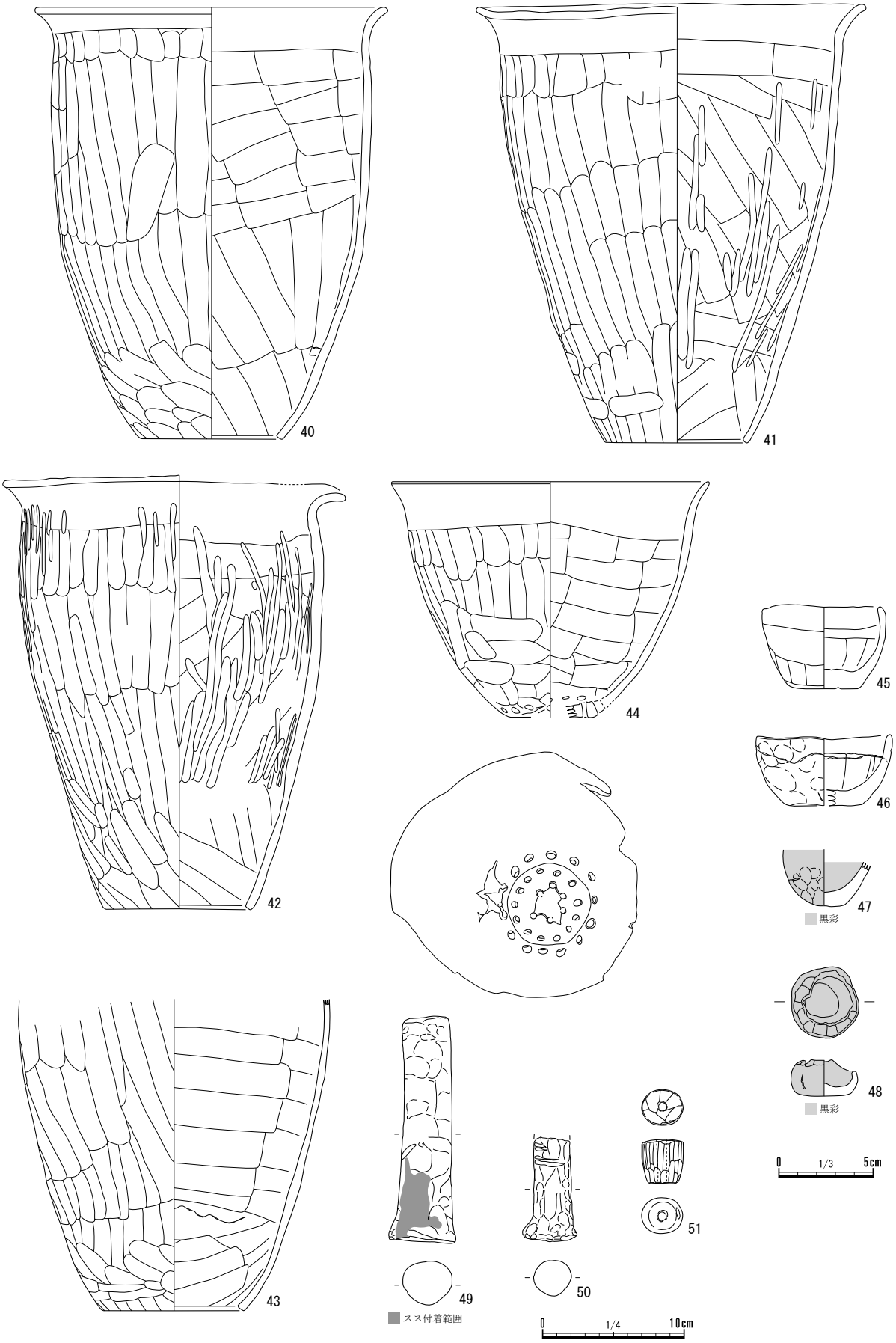
第 141 図　315 号住居跡出土遺物１（１／３・１／４）



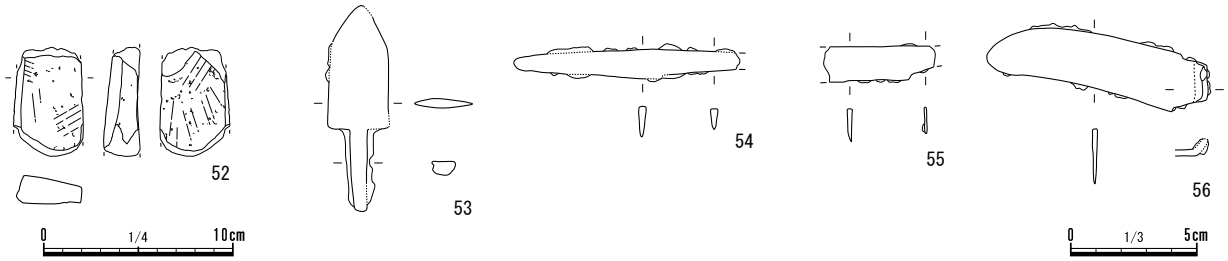
第 142 図　315 号住居跡出土遺物２（１／４）



第 143 図　315 号住居跡出土遺物３（１／４）



第 144 図　315 号住居跡出土遺物４（１／４）



第 145 図　315 号住居跡出土遺物５（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 141 図 1 図版 79- 2-1	土師器 坏	中央北側の床面上	口縁～底部 70%	高 6.2 口 11.2	赤～明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・小礫中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	入間系土師器
第 141 図 2 図版 79- 2-2	土師器 坏	中央東側・貯蔵穴南西の覆土中（床上 11 ～ 20 cm）	口縁～底部 30%	高 6.2 口 (11.6)	明赤褐色～赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	入間系土師器
第 141 図 3 図版 79- 2-3	土師器 坏	中央南・東側の覆土中（床上 13・16cm）	口縁～底部 80%	高 3.7 口 11.5	赤～にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・小礫中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 141 図 4 図版 79- 2-4	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 9 ～ -27 cm）	口縁～底部 50%	高 [5.0] 口 (15.3)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	肉厚／有段口縁／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 141 図 5 図版 79- 2-5	土師器 坏	貯蔵穴範囲（床下 3cm）	完形	高 4.4 口 13.4	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／角閃石・雲母少量	黒彩／外面スス付着／器面風化／内面：風化により不明／外面：口縁部風化により不明、体部指押え、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 141 図 6 図版 79- 2-6	土師器 坏	西側の床面上	ほぼ完形	高 4.9 口 12.6	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量／石英・雲母少量	平底／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ→粗いナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 141 図 7 図版 79- 2-7	土師器 坏	貯蔵穴東側の覆土中（床上 33cm）	ほぼ完形	高 3.9 口 11.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	底部静止糸切（？）後未調整／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 8 図版 79- 2-8	土師器 坏	カマド内（床上 14cm）	口縁～底部 40%	高 4.3 口 (13.7)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子中量／雲母少量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ミガキ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 9 図版 79- 2-9	土師器 坏	梯子穴南の壁厚内（底上 18cm）	完形	高 4.2 口 12.5	橙色	砂粒・白色粒子中量／石英少量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ→粗いナデ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 141 図 10 図版 79- 2-10	土師器 坏	貯蔵穴内（床下 2cm）、南西凸堤上	口縁～底部 60%	高 [4.5] 口 (11.3)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量／雲母少量	外面ツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ→一部ナデ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 11 図版 79- 2-11	土師器 坏	北西コアーナーの床面上・床面レベル	口縁～底部 30%	高 5.1 口 (13.8)	橙色	砂粒やや多量／黒色粒子・赤色粒子中量	平底ぎみ／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 12 図版 79- 2-12	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 3cm）	口縁～底部 70%	高 5.2 口 12.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／雲母少量	黒彩／内面スス付着／内面：口縁部横ナデ、体部ナデ→粗いミガキ／外面：口縁部横ナデ、体部指ナデ・指押え、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 13 図版 79- 2-13	土師器 坏	西側の床面上	完形	高 5.5 口 11.6 底 4.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	平底ぎみ／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部劣化で不明、一部指押え	無彩系有段坏／在地系土師器
第 141 図 14 図版 79- 2-14	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 5cm）	完形	高 5.1 口 12.6 底 4.9	にぶい橙色～橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量／雲母少量	黒彩／平底／底部木葉痕／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部指押え	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 15 図版 79- 2-15	土師器 坏	貯蔵穴内（床面レベル）	口縁～底部 70%	高 5.9 口 13.4 底 7.0	明褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量／石英少量	黒彩／内面スス付着／平底／底部木葉痕／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器

第 60 表　315 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 141 図 16 図版 79- 2-16	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 17cm）	完形	高 4.5 口 11.3 底 5.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／金雲母少量	黒彩／平底／底部木葉痕／内面：口縁横ナデ、見込部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、体上部ナデ、体下部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 141 図 17 図版 79- 2-17	土師器 坏	南西コーナー付近の床面上	口縁～底部 80%	高 5.7 口 12.2 底 6.8	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母中量	平底／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部劣化で不明	粗雑品／在地系土師器
第 141 図 18 図版 79- 2-18	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 5cm）	完形	高 5.0 口 10.5 底 6.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩／平底／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部指押え	粗雑品／在地系土師器
第 141 図 19 図版 79- 2-19	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 4cm）	完形	高 4.5 口 10.8 底 3.8	橙色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／平底／内面：口縁部横ナデ、体～見込部幅広のミガキ／外面：口縁部横ナデ、体部ナデ・ケズリ、	粗雑品／在地系土師器
第 141 図 20 図版 79- 2-20	土師器 坏	貯蔵穴にかかる（床下 2cm）	口縁～底部 90%	高 4.9 口 9.4 底 4.7	橙色	砂粒・白色粒子やや多量	小型／平底／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ→指押え	粗雑品／在地系土師器
第 141 図 21 図版 79- 2-21	土師器 坏	西側の床面上	口縁～底部 40%	高 4.6 口 (9.0) 底 (3.8)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	黒彩／平底／小型／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面:口縁部指ナデ、体部指押え、体下部ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 141 図 22 図版 79- 2-22	土師器 坏	南壁溝西側（底上 18cm）	口縁～底部 70%	高 7.0 口 12.5 底 6.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	轆転用坏か／一部を打ち欠き片口状にしている／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口唇部研磨、胴部ケズリ→指押え	在地系土師器
第 141 図 23 図版 79- 2-23	土師器 鉢	貯蔵穴内（底上 16cm）、凸堤上	体～底部 80%	高 15.9 口 25.4 底 8.8	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	在地系土師器
第 142 図 24 図版 80-24	土師器 甕	カマド東袖の外側斜面上	口縁～底部 90%	高 37.6 口 (18.1) 底 6.1	明赤褐色～灰黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	最大径を胴中位にもつ／内外面粘土付着／内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 142 図 25 図版 80-25	土師器 甕	カマド内（火床上 12cm）	ほぼ完形	高 38.0 口 18.4 底 6.3	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石・雲母中量／小礫少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、見込部指押え／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 142 図 26 図版 80-26	土師器 甕	貯蔵穴南西の床面上	口縁～底部 90%	高 37.6 口 19.2 底 6.7	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・小礫中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部摩滅により不明	長甕／在地系土師器
第 142 図 27 図版 80-27	土師器 甕	カマド内（火床上 16cm）	口縁～底部 90%	高 39.1 口 20.3 底 5.7	橙色	砂粒・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 142 図 28 図版 80-28	土師器 甕	カマド南側の覆土中（床上 4cm）	口縁～底部 80%	高 37.9 口 (19.4) 底 6.2	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・金雲母中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／底部木葉痕／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 142 図 29 図版 80-29	土師器 甕	中央西側の床面上	口縁～胴部 60%	高 [19.3] 口 20.2	にぶい橙色	砂粒・赤色粒子・石英・雲母中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 142 図 30 図版 80-30	土師器 甕	貯蔵穴内（底上 8 ～ 21 cm）	口縁～胴部 60%	高 [20.5] 口 19.7	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石・角閃石中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 31 図版 81-31	土師器 甕	カマド南側の床面上、カマドと貯蔵穴の間の覆土中（床上 12・19cm）	口縁～胴部 10%	高 [9.0] 口 (18.5)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 32 図版 81-32	土師器 甕	カマドと貯蔵穴の間の覆土中（床上 6cm）	口縁～胴部 10%	高 [13.2] 口 (16.6)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 33 図版 81-33	土師器 甕	カマド南側・カマドと貯蔵穴の間の覆土中（床上 16 ～ 28 cm）	口縁～胴部 10%	高 [11.0] 口 (19.1)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石中量／小礫少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器

第 60 表　315 号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 143 図 34 図版 81-34	土師器 甕	北東コーナー付近の覆土中（床上 26cm）	口縁～胴部 10%	高 [13.6] 口 (20.1)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 35 図版 81-35	土師器 甕	貯蔵穴と北壁の間の覆土中（床上 10cm）	胴部 40%	高 [32.2]	橙色	砂粒中量／雲母少量	内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 36 図版 81-36	土師器 甕	中央の覆土中（床上 22cm）	胴～底部 15%	高 [10.6] 底 (6.5)	橙色～黄橙色	砂粒・白色粒子中量／長石少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 143 図 37 図版 81-37	土師器 甕	貯蔵穴内（底上 32・42cm）、貯蔵穴東側の床面上	口縁～底部 90%	高 39 口 20.7 底 11.6	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	大きく歪み傾く／大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部摩滅の為不明、一部木葉痕	丸甕／在地系土師器
第 143 図 38 図版 81-38	土師器 甕	貯蔵穴内（底上 15cm）、Ｐ１内（底上 47・52cm）、梯子穴南の壁溝上（ほぼ床面レベル）	体～底部 70%	高 [15.5]	明褐色	砂粒・黒色粒子・石英中量／小礫少量	黒彩／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ→ミガキ	丸甕／在地系土師器
第 143 図 39 図版 81-39	土師器 甕	貯蔵穴南側の凸堤上	胴～底部 50%	高 [25.7] 底 9.1	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量／角閃石・小礫少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 144 図 40 図版 82-40	土師器 甑	貯蔵穴東側の床面上	口縁～底部 70%	高 30.5 口 (25.0) 底 10.0	橙色	砂粒やや多量・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 144 図 41 図版 82-41	土師器 甑	カマド西側のほぼ床面上	口縁～底部 70%	高 31.1 口 27.5 底 10.1	明黄褐色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、小津部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 144 図 42 図版 82-42	土師器 甑	カマド内（火床上 16cm）	口縁～底部 90%	高 30.9 口 24.3 底 10.3	にぶい橙色	砂粒・赤色粒子・石英・雲母中量	口縁一部注ぎ口のようにゆがむ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ→頸部のみミガキ	筒抜け式／在地系土師器
第 144 図 43 図版 82-43	土師器 甑	（床上 -31cm）	胴～底部 50%	高 [22.0] 底 10.1	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 144 図 44 図版 82-44	土師器 甑	（床上９～15cm）	口縁～底部 50%	高 16.6 口 (22.4) 底 (6.0)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	焼成後外面から内面に向かい５～6mm 穿孔を施す多孔甑／底部木葉痕？／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部焼成後穿孔	多孔式／在地系土師器
第 144 図 45 図版 82- ２-45	ミニチュア土器	北西の覆土中（床上７cm）	完形	高 4.5 口 6.3 底 3.8	黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	平底／小型／内面：ナデ／外面：体下部ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 144 図 46 図版 82- ２-46	ミニチュア土器	中央東側の床面上	口縁～底部 40%	高 3.5 口 (7.4) 底 4.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量／角閃石少量	平底／小型／内面：体～見込部ヘラナデ／外面：体部指押え	粗雑品／在地系土師器
第 144 図 47 図版 82- ２-47	ミニチュア土器	西側壁溝（床上 4cm）	口唇部欠損	高 [3.0] 底 1.6	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・長石・角閃石中量	黒彩／内面：ナデ／外面：外面指押え	在地系土師器
第 144 図 48 図版 82- ２-48	ミニチュア土器	カマド内（火床上 7cm）	ほぼ完形	高 1.9 口 3.3 底 2.5	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量／角閃石少量	黒彩／ナデ、口縁部指ツマミ	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 144 図 49 図版 82-49	土製品 支脚	カマド内（火床上 14cm）	完形	16.0	4.7	4.1	240.7	外面指ナデ・指押え／下部にスス・粘土付着／中央部に工具痕が残る	
第 144 図 50 図版 82-50	土製品 支脚	東側の覆土中（床上 45cm）	上部欠損	[7.4]	0.4	[2.7]	63.1	一部剥離／外面指ナデ・指押え／横に工具痕がのこる	

第 60 表　315 号住居跡出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 144 図 51 図版 82-51	土製品 紡錘車	中央北側の覆土中（床上 40cm）	完形	2.5	2.9	3.1	271.0	中央部穿孔／外面ヘラナデ・ヘラケズリ／上端部・下端部ヘラケズリ	

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 145 図 52 図版 82-52	砥石	南西側の床面上	完形	変質流紋岩	[57.6]	[36.8]	[19.2]	50.0	やや風化しており、わずかに線条痕が見られる	

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	材　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 145 図 53 図版 82-53	鉄製品 鉄鏃	中央南側の覆土中（床上 32cm）	完形	鉄	8.2	2.3	0.4	11.4	鏃身部は五角形を呈し、断面は両丸、関を有す／鏃身部長 4.9cm／幅 2.3cm／厚 0.4cm／茎部長 2.3cm／幅 0.7cm／厚 0.4cm	短頸両丸造五角形式
第 145 図 54 図版 82-54	鉄製品 刀子	覆土中	茎端部欠損	鉄	[9.0]	1.2	0.3	8.1	刃部断面は平刃、刃関を有す／茎部断面は台形／刀身部長 5.9cm／幅 1.2cm／厚 0.3cm／茎部 [3.1]cm／幅 1.0cm／厚 0.3cm	
第 145 図 55 図版 82-55	鉄製品 刀子	カマド内（火床上 33cm）	両端欠損	鉄	[4.4]	1.3	0.2	3.4	刃部断面は片切刃状を呈す／刃関を有す／刀身部長 [3.4]cm／幅 1.3cm／厚 0.2cm／茎部 [1.0]cm／幅 1.1cm／厚 0.1cm	
第 145 図 56 図版 82-56	鉄製品 鎌	中央北西側の覆土中（床上 36cm）	完形	鉄	8.8	2.2	0.2	18.6	身部先端は刃が付いていない／身部断面は平刃／柄部は端部を折り曲げ、柄のストッパーとなす／身部長 7.3cm／幅 2.2cm／厚 0.2cm／柄部長 1.4cm／幅 1.5cm／厚 0.3cm	

第 60 表　315 号住居跡出土遺物一覧（４）

22cm。**床面**：住居中央部分が硬化していた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－18°－Ｗ。長さ 89cm／幅 114cm／壁への掘り込み 14cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：Ｐ６は貯蔵穴と考えられる。カマドの東側に位置する。平面形は丸みをおびた長方形。長軸 90cm／短軸 67cm／深さ 54cm。周囲には幅 10 ～ 28cm／高さ１～３cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む褐色色土を基調とする。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 57 ～ 87cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。**入口施設**：Ｐ５は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ 37cm。幅 18 ～ 93cm／高さ１cmほどの凸堤が、「Ｏ」字状に巡っていた。

［覆　　土］９層に分層できた。Ｐ５の東側において生粘土塊、P6 の東側において焼土を検出した。

［遺　　物］土師器坏・鉢・甕・甑、ミニチュア土器、土製の支脚と紡錘車、砥石、鉄鏃、刀子、鎌、種実（モモ）が出土した。カマドからは、長甕が２つ横に並んだ状態（西側：29、東側：31）で、貯蔵穴からは坏（４・12・14・16・18）や長甕（34）が、数段重なった状態で、また、カマドと貯蔵穴の周辺からも、多くの個体がまとまって出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

遺　　物（第 141 ～ 145 図、図版 79 －２、図版 80 ～ 82、第 60 表）

［土　　器］（第 141 ～ 144 図１～ 48、図版 79 －２－１～ 23、図版 80 ～ 82 － 24 ～ 48、第 60 表）

１～ 39 は土師器で、１～ 21 は坏、22 は甕を転用したと思われる坏、23 は鉢、24 ～ 39 は甕、40 ～ 44 は甑、45 ～ 48 はミニチュア土器である。

［土 製 品］（第 144 図 49 ～ 51、図版 82 － 49 ～ 51、第 60 表）

49・50 は支脚、51 は紡錘車である。

［石 製 品］（第 145 図 52、図版 82 － 52、第 60 表）

52 は砥石である。

［鉄 製 品］（第 145 図 53 ～ 56、図版 82 － 53 ～ 56、第 60 表）

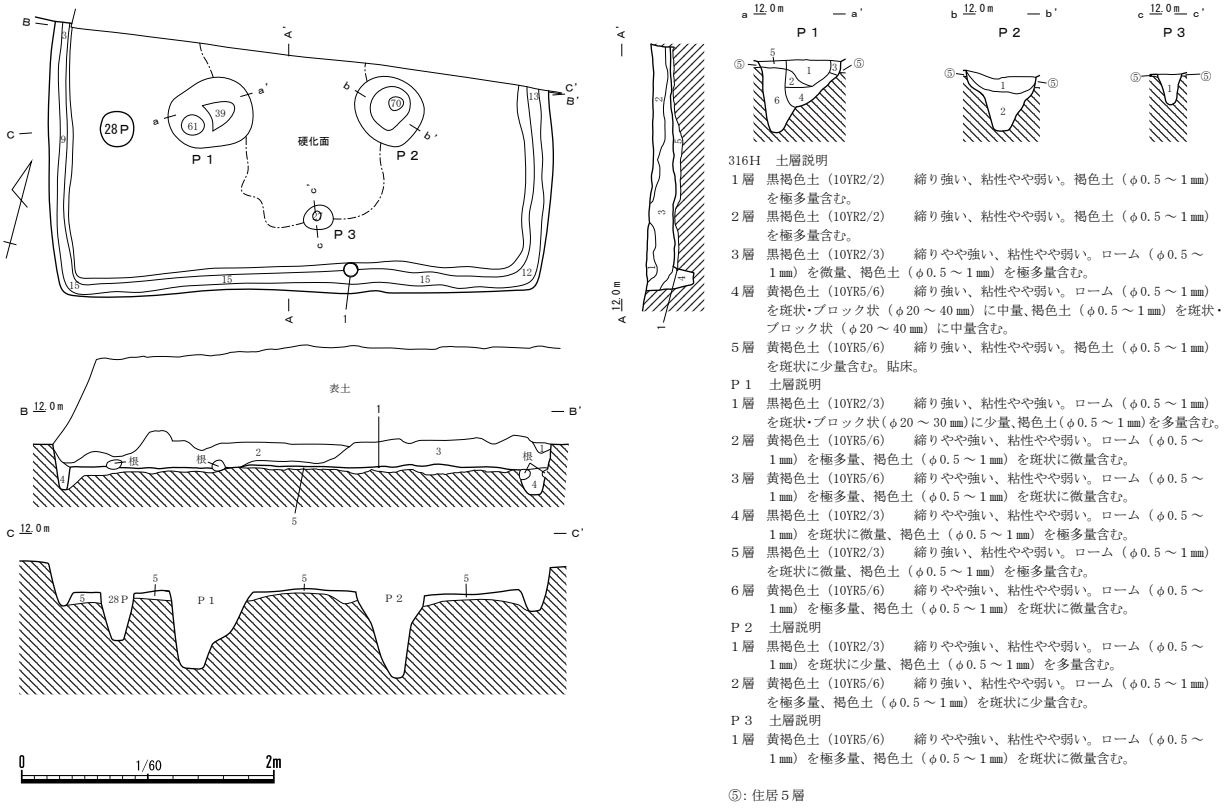
53 は鉄鏃、54・55 は刀子、56 は鎌である。

316 号住居跡

遺　　構（第 146 図）

［位　　置］（Ｇ－２）グリッド。

［検出状況］北側の調査区境で検出したため、住居の北側半分程が調査区外であるが、北側を 68 Ｍに切られるため、北側はほとんど残っていないと思われる。10・28 Ｐに切られる。



第 146 図　316 号住居跡・遺物出土状態（１／60）

第 147 図　316 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 147 図 1 図版 83- 1 -1	土師器 坏	梯子穴南の壁溝にかかる（ほぼ床面レベル）	完形	高　　[3.4] 口　(11.3)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器

第 61 表　316 号住居跡出土遺物一覧

［構　　造］平面形：方形と思われる。規模：長軸 4.02m ／短軸 2.19m 以上／深さ 18㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N―15°―W。壁溝：検出した範囲において、全周する。上幅 15 ～ 22㎝／下幅５～ 10㎝／深さ３～ 15㎝。床面：入口施設から北側に向かって帯状に硬化していた。貼床は２～ 12㎝の厚さで施されていた。カマド：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：Ｐ１とＰ２は主柱穴と考えられる。深さ 61 ～ 70㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。入口施設：Ｐ３は入口梯子穴と考えられる。深さ 27㎝。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調とする。

［覆　　土］４層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉～末葉）。

遺　　物（第 147 図、図版 83 －１、第 61 表）

［土　　器］（第 147 図１、図版 83 －１－１、第 61 表）

１は土師器坏である。

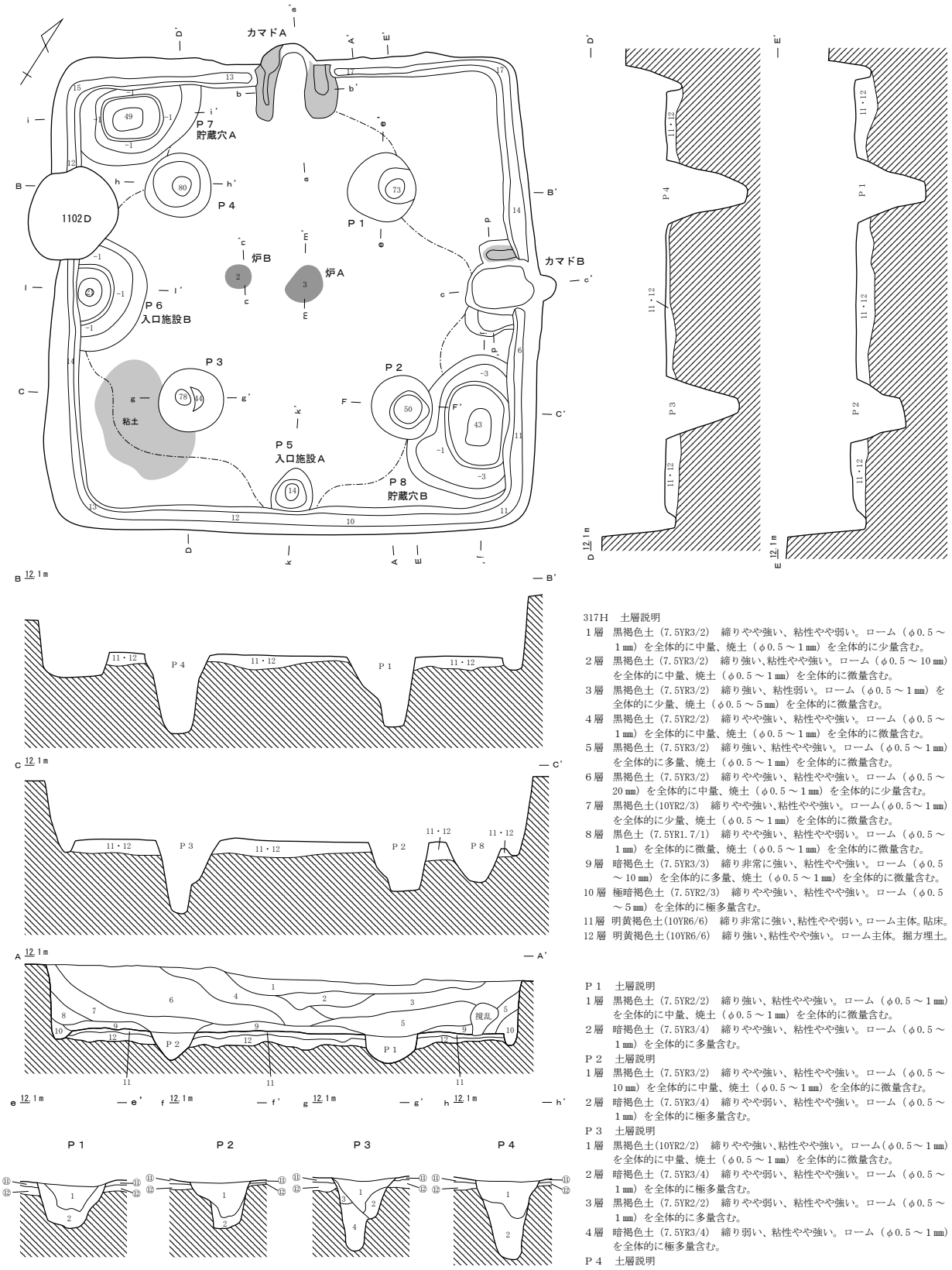
317 号住居跡

遺　　構（第 148 ～ 150 図）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－３・４）グリッド。

［検出状況］12 Ｊを切り、310 Ｈ、1100・1102 Ｄ、133 Ｐに切られる。

［構　　造］平面形：方形。規模：長軸 5.11m ／短軸 4.97m ／深さ 70㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N―33°―W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅 20 ～ 40㎝／下幅５～ 17㎝／深さ６～ 17㎝。床面：四隅を除いた範囲が硬化していた。貼床は３～ 19㎝の厚さで施されていた。カマド：２基のカマドを検出した。。＜カマドＡ＞北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－ 35°－Ｗ。長さ 84㎝／幅 85㎝／壁への掘り込み 19㎝。袖部は床面上に粘土を積み上げて構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。＜カマドＢ＞東壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－ 55°－Ｅ。長さ 96㎝／幅 99㎝／壁への掘り込み 16㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：２基の貯蔵穴を検出した。＜貯蔵穴Ａ＞北西コーナーに位置する（Ｐ７）。平面形は隅丸長方形。長軸 58㎝／短軸 43㎝／深さ 49㎝。周囲には幅８～ 44㎝／高さ１㎝ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。＜貯蔵穴Ｂ＞北西コーナーに位置する（Ｐ８）。平面形は丸みをおびた長方形。長軸 83㎝／短軸 57㎝／深さ 43㎝。周囲には幅 22 ～ 50㎝／高さ１～３㎝ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 50 ～ 80㎝。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。入口施設：２基検出した。＜入口施設Ａ＞南壁溝きわのほぼ中央に位置する（Ｐ５）。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ 14㎝。＜入口施設Ｂ＞西壁溝きわのほぼ中央に位置する（Ｐ６）。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ 21㎝。西側には幅 30 ～ 38㎝／高さ１㎝ほどの凸堤が、「Ｕ」字状に巡っていた。炉：住居の中央部において、２基の炉を検出した。２基ともに、明確な掘り込みを伴わず、わずかに窪んだ底の部分が被熱により赤化した状態であった。＜炉Ａ＞平面形は不整楕円形。長軸 41㎝／短軸 33㎝／深さ３㎝。覆土はローム粒・焼土粒を含む褐色土を基調とする。＜炉Ｂ＞平面



317H　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～5㎜）を全体的に微量含む。
４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
５層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
６層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～20㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
７層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
８層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
９層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
10層　極暗褐色土（7.5YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に極多量含む。
11層　明黄褐色土(10YR6/6)　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム主体。貼床。
12層　明黄褐色土(10YR6/6)　締り強い、粘性やや強い。ローム主体。掘方埋土。

Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ３　土層説明

１層　黒褐色土(10YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

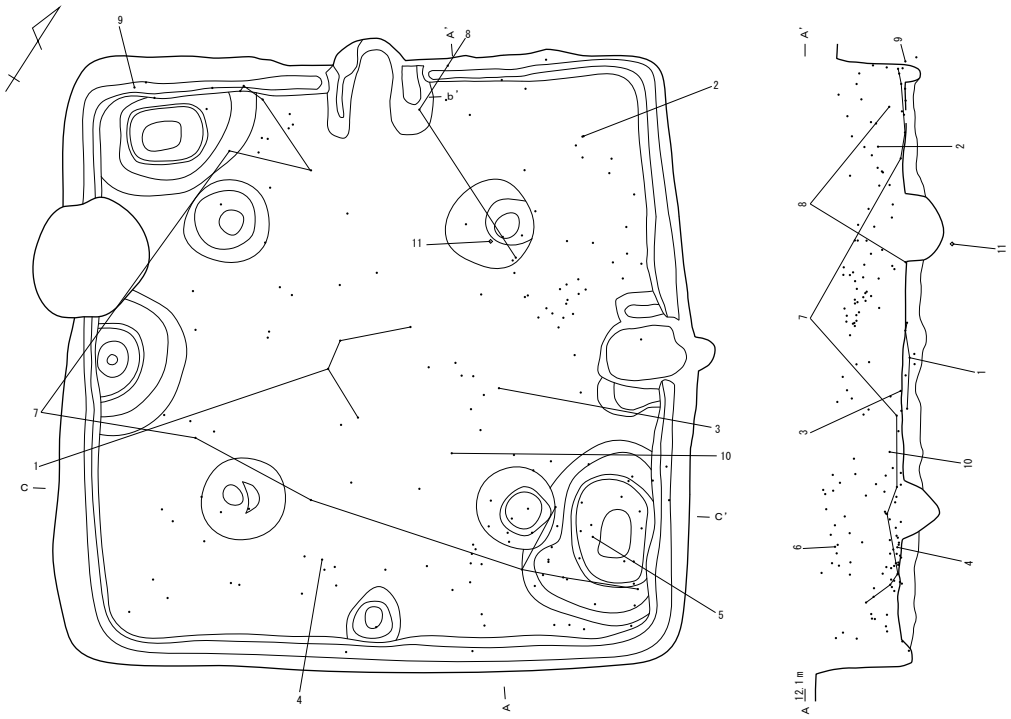
Ｐ４　土層説明

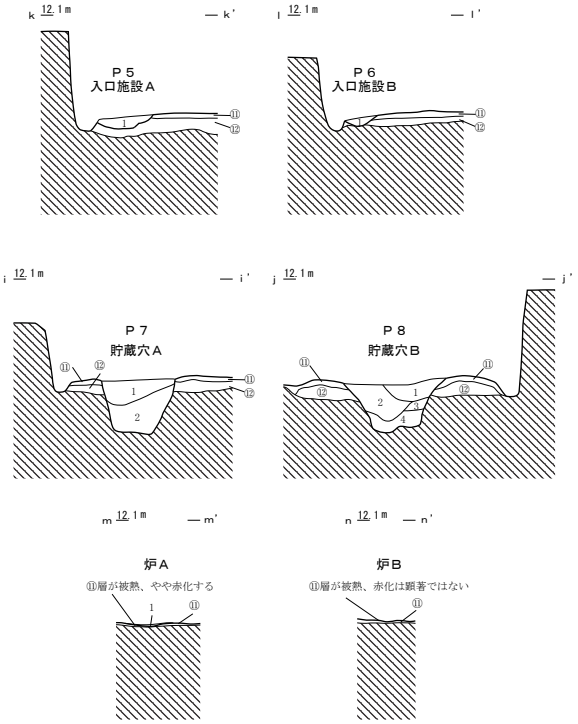
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に極多量含む。

⑪・⑫: 住居 11・12 層

粘土　被熱赤化　0　1/60　2m

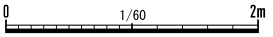
第 148 図　317 号住居跡（1／60）





Ｐ５　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、礫（φ１～5㎜）を全体的に少量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
Ｐ７　土層説明
１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
２層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に極多量含む。
Ｐ８　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量、炭化物(φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土(10YR3/3)　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土(10YR3/4)　締りやや強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量、焼土(φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
炉Ａ　土層説明
１層　褐色土（7.5YR4/6）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、焼土（φ0.5～1㎜）を多量含む。

⑪･⑫: 住居 11・12 層



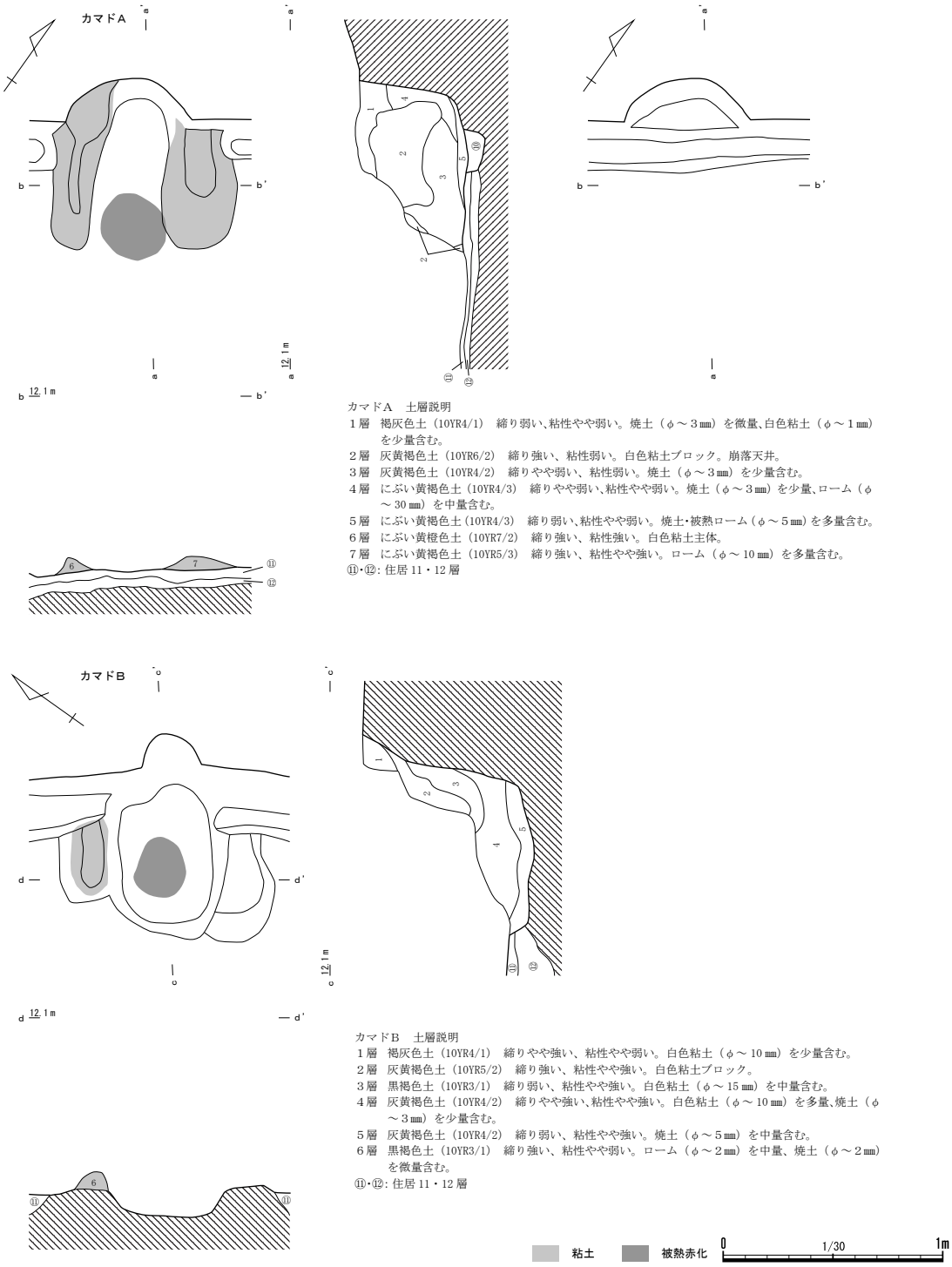
第 149 図　317 号住居跡・遺物出土状態（1／60）

形は楕円形。長軸 27㎝／短軸 24㎝／深さ２㎝。覆土なし。

［覆　　土］10 層に分層できた。Ｐ３の南側で生粘土の分布を検出した。

［遺　　物］須恵器フラスコ形長頸瓶、土師器坏・甕、砥石が出土した。

［所　　見］カマド、貯蔵穴、入口施設が２基ずつ検出された。カマドは、袖部をロームの掘り残しにより構築している状況から、カマドＢが住居築造に伴うもので、カマドＡが新しいと考えられる。また、貯蔵穴はカマドの脇に、入口施設は南側ないしカマドの対面につくられることが多いことから、旧：カマドＡ－貯蔵穴Ａ－入口施設Ａ、新：カマドＢ－貯蔵穴Ｂ－入口施設Ｂという対応関係が想定できる。



カマドＡ　土層説明
１層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～３㎜）を微量、白色粘土（φ～１㎜）を少量含む。
２層　灰黄褐色土（10YR6/2）　締り強い、粘性弱い。白色粘土ブロック。崩落天井。
３層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性弱い。焼土（φ～３㎜）を少量含む。
４層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。焼土（φ～３㎜）を少量、ローム（φ～30㎜）を中量含む。
５層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土・被熱ローム（φ～５㎜）を多量含む。
６層　にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締り強い、粘性強い。白色粘土主体。
７層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ～10㎜）を多量含む。
⑪・⑫：住居 11・12 層

カマドＢ　土層説明
１層　褐灰色土（10YR4/1）　締りやや強い、粘性やや弱い。白色粘土（φ～10㎜）を少量含む。
２層　灰黄褐色土（10YR5/2）　締り強い、粘性やや強い。白色粘土ブロック。
３層　黒褐色土（10YR3/1）　締り弱い、粘性やや強い。白色粘土（φ～15㎜）を中量含む。
４層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。白色粘土（φ～10㎜）を多量、焼土（φ～３㎜）を少量含む。
５層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を中量含む。
６層　黒褐色土（10YR3/1）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ～２㎜）を中量、焼土（φ～２㎜）を微量含む。
⑪・⑫：住居 11・12 層

第 150 図　317 号住居跡カマド（１／30）

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

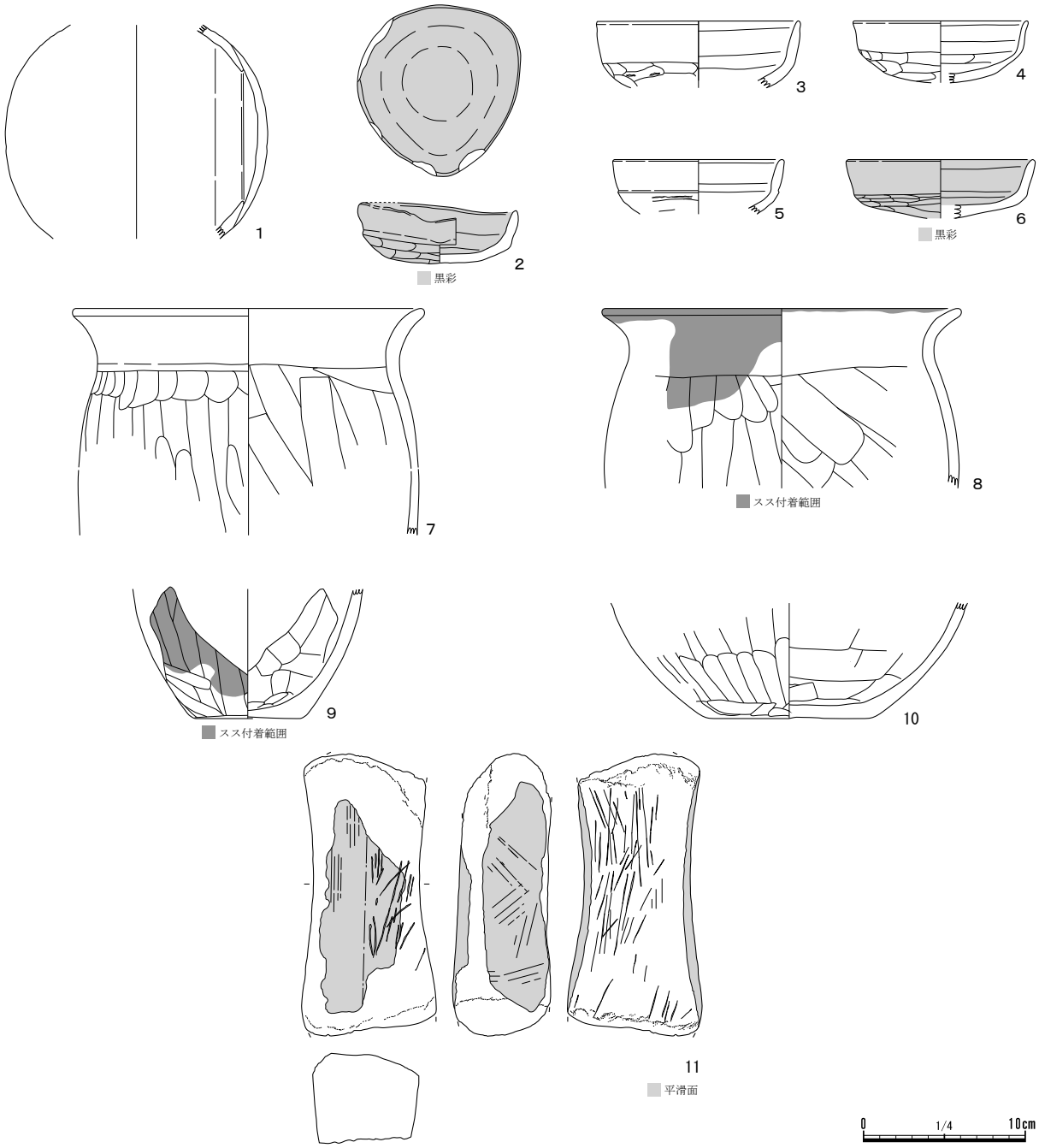
遺　　物（第 151 図、図版 83 － 1 、第 62 表）

［土　　器］（第 151 図 1 ～ 10、図版 83 － 2 － 1 ～ 10、第 62 表）

1 は須恵器フラスコ形長頸瓶、２～ 10 は土師器で、２～６は坏、７～ 10 は甕である。２は口縁部をゆがめて、片口状を呈する。

［石 製 品］（第 151 図 11、図版 83 － 1 － 11、第 62 表）

11 は砥石である。



第 151 図　317 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 151 図 1 図版 83- 2-1	須恵器 フラスコ形 長頸瓶	中央の床面上	胴～底部 10％	高　[13.3] 胴径 (16.2)	にぶい赤褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・小礫中量	上部自然釉／回転ナデ・ナデ	湖西窯跡産
第 151 図 2 図版 83- 2-2	土師器 坏	北コーナー付近の覆土中（床上 21㎝）	ほぼ完形	高　　3.8 口　　9.9	橙色～灰色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量	黒彩／口縁部片口状に歪ませる／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 151 図 3 図版 83- 2-3	土師器 坏	中央東側の床面上	口縁～底部 20％	高　　[4.1] 口　　(12.7)	橙色	砂粒やや多量／雲母中量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 151 図 4 図版 83- 2-4	土師器 坏	梯子穴Ａ西側の覆土中（床上 6㎝）	口縁～底部 40％	高　　[3.8] 口　　(11.0)	橙色	砂粒・石英・角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 151 図 5 図版 83- 2-5	土師器 坏	覆土中	口縁～底部 10％	高　　[3.3] 口　　(10.6)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 151 図 6 図版 83- 2-6	土師器 坏	貯蔵穴Ｂ範囲内の覆土中（床上 56㎝）	口縁～底部 30％	高　　[3.6] 口　　(11.7)	橙色～褐灰色	砂粒やや多量・雲母中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部摩滅により不明／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 151 図 7 図版 83- 2-7	土師器 甕	カマドＡと貯蔵穴Ａの間・Ｐ３周辺の床面上、貯蔵穴Ｂ周辺の覆土中（床上５～31㎝）	口縁～頸部 15％	高　　[13.0] 口　　(21.8)	にぶい黄褐色	砂粒・雲母中量	最大径を口縁部に持つと思われる／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 151 図 8 図版 83- 2-8	土師器 甕	カマドＡ東袖上、Ｐ１範囲内（床面レベル）	口縁～胴部 5％	高　　[11.2] 口　　22.3	明赤褐色	砂粒多量／雲母中量	最大径を胴部に持つ／内外面口縁部スス付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 151 図 9 図版 83- 2-9	土師器 甕	西コーナーの壁溝内（床面レベル）	胴～底部 10％	高　　[8.0] 底　　(7.1)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量	外面スス付着／内面ヘラナデ：／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 151 図 10 図版 83- 2-10	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上 12㎝）	胴～底部 10％	高　　[7.2] 底　　10.1	橙色	砂粒・雲母中量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 151 図 11 図版 83- 2-11	砥石	Ｐ１（底上 36㎝）	完形	変質流紋岩	[174.1]	[83.2]	[60.9]	1180.6	左右側面は擦痕を有する平滑面で凹面状を呈する／表裏面はごつごつした面で多くの線条痕が縦から右斜め方向でみられる／また表には浅い溝状の平滑面がみられる	

第 62 表　317 号住居跡出土遺物一覧

318 号住居跡

遺　　構（第 152 図）

［位　　置］（Ｂ－３・４）グリッド。

［検出状況］西側の調査区境で検出したため、住居の大部分が調査区外である。13 Ｊを切り、1098 Ｄに切られる。

［構　　造］**平面形**：方形と思われる。**規模**：長軸 5.10m ／短軸 1.02m 以上／深さ 71㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―19°―Ｗ。**壁溝**：検出した範囲において、全周する。上幅 15 ～ 21㎝／下幅５～ 11㎝／深さ 10 ～ 18㎝。**床面**：貯蔵穴の南側が硬化していた。貼床は９～ 19㎝の厚さで

施されていた。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：北東コーナーに位置する（Ｐ１）。平面形は丸みをおびた長方形と思われる。長軸 62㎝／短軸 52㎝以上／深さ 43㎝。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］16 層に分層できた。

［遺　　物］土師器坏・甕・甑、土製の支脚が出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。

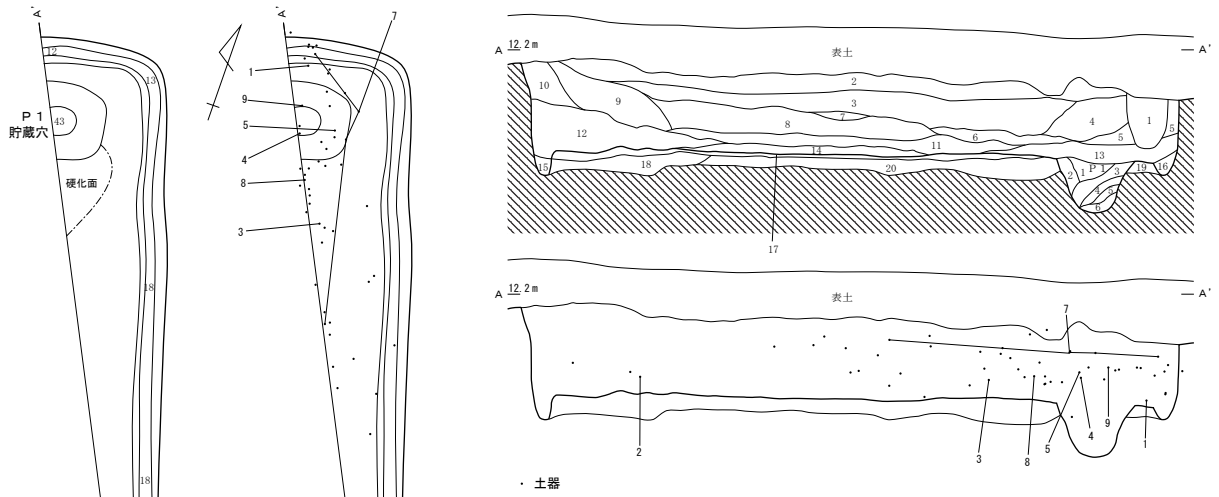
遺　　物（第 153 図、図版 83 －３、第 63 表）

［土　　器］（第 153 図１～９、図版 83 －３－１～９、第 63 表）

１～９は全て土師器で、１～５は坏、６～８は甕、９は甑である。

［土 製 品］（第 153 図 10、図版 83 －３－ 10、第 63 表）

10 は支脚である。



318H　土層説明

１層　黒色土（7.5YR1.7/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。別の掘り込み。

２層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～20㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。ロームブロックを含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、粘土（φ0.5～1㎜）を部分的に少量含む。粘土ブロックを含む。

５層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

７層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

６層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや弱い、粘性強い。炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

８層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

９層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

10 層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

11 層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

12 層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を部分的に微量含む。ロームブロックを含む。

13 層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

14 層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

15 層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

16 層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

17 層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。貼床。

18 層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。掘方埋土。

19 層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。掘方埋土。

20 層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。掘方埋土。

Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

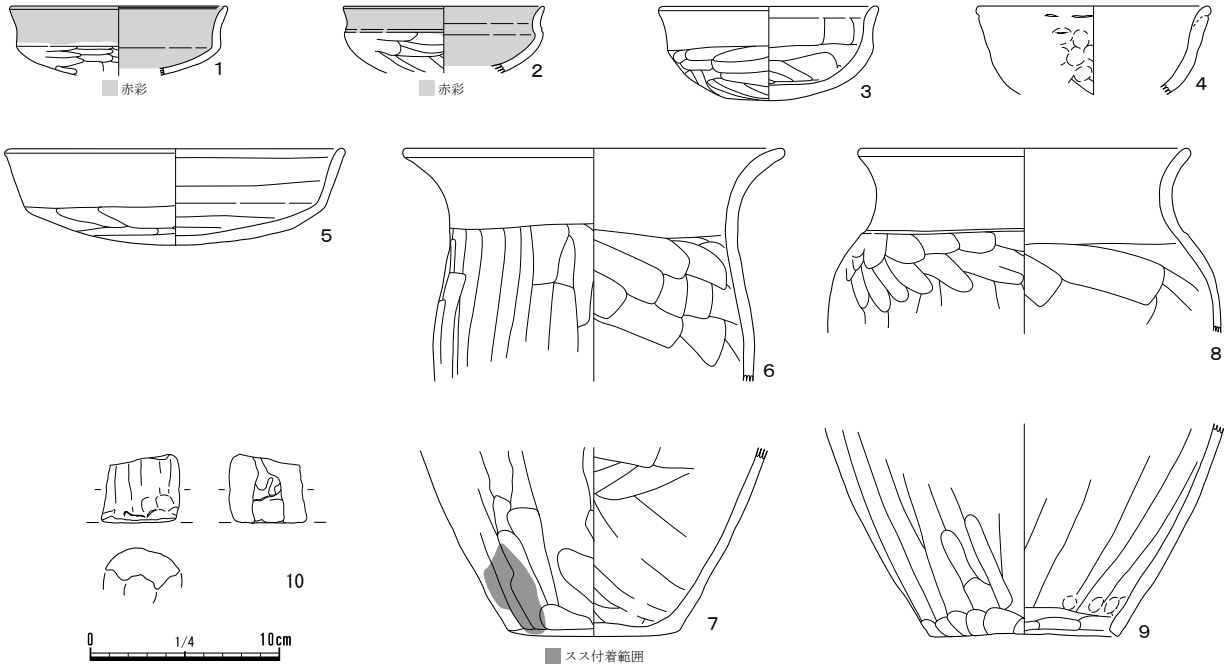
４層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）・焼土（φ0.5～1㎜）・粘土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性強い。焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

６層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

0　1/60　2m

第 152 図　318 号住居跡・遺物出土状態（１／60）



第 153 図　318 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 153 図 1 図版 83- 3 -1	土師器 坏	貯蔵穴と北壁の間の覆土中（床上 2cm）	口縁～底部 10%	高 [3.7] 口 (11.5)	赤褐色～にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・小礫中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面弱く沈線状／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 153 図 2 図版 83- 3 -2	土師器 坏	南東コーナー付近の覆土中（床上 13cm）	口縁～底部 10%	高 [3.5] 口 (10.7)	赤～赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・長石・小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線無し／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 153 図 3 図版 83- 3 -3	土師器 坏	貯蔵穴南側の覆土中（床上 16cm）	口縁～底部 80%	高 4.9 口 11.7	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量／長石少量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 153 図 4 図版 83- 3 -4	土師器 坏	貯蔵穴範囲内の覆土中（床上 19cm）	口縁部 5%	高 [4.7] 口 (12.5)	明黄褐色～黒褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・金雲母中量／角閃石少量	内面：剥離により不明／外面：口縁上部横ナデ、体部指押え、体下部ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 153 図 5 図版 83- 3 -5	土師器 坏	貯蔵穴範囲内の覆土中（床上 24cm）	完形	高 5.1 口 18.0	橙色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石・雲母・小礫少量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 153 図 6 図版 83- 3 -6	土師器 甕	覆土中	口縁～胴部 10%	高 [12.3] 口 (20.2)	橙色～にぶい黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・雲母中量／角閃石少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 153 図 7 図版 83- 3 -7	土師器 甕	貯蔵穴周辺の覆土中（床上 37 ～ 46 cm）	胴～底部 15%	高 [10.0] 底 9.1	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・角閃石・雲母中量／赤色粒子・小礫少量	外面スス付着／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 153 図 8 図版 83- 3 -8	土師器 甕	貯蔵穴南側の覆土中（床上 20cm）	口縁～胴部 10%	高 [9.8] 口 (17.6)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・金雲母中量／角閃石・小礫少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 153 図 9 図版 83- 3 -9	土師器 甑	貯蔵穴範囲内の覆土中（床上 28cm）	胴～底部 5%	高 [11.4] 底 (10.0)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	内面：ヘラナデ、胴下部指押え／外面：胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	粒抜け式／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 153 図 10 図版 83- 3 -10	土製品 支脚	覆土中	上部欠損、縦に半分のみ残存する	[3.6]	[4.1]	2.1	30.7	内部中空／外面ヘラナデ・指ナデ・指押え／外面下部にツギメが残る／中空下部ヘラナデ	

第 63 表　318 号住居跡出土遺物一覧

319 号住居跡

遺　　構（第 154・155 図）

［位　　置］（Ｉ・Ｊ－７・８）グリッド。

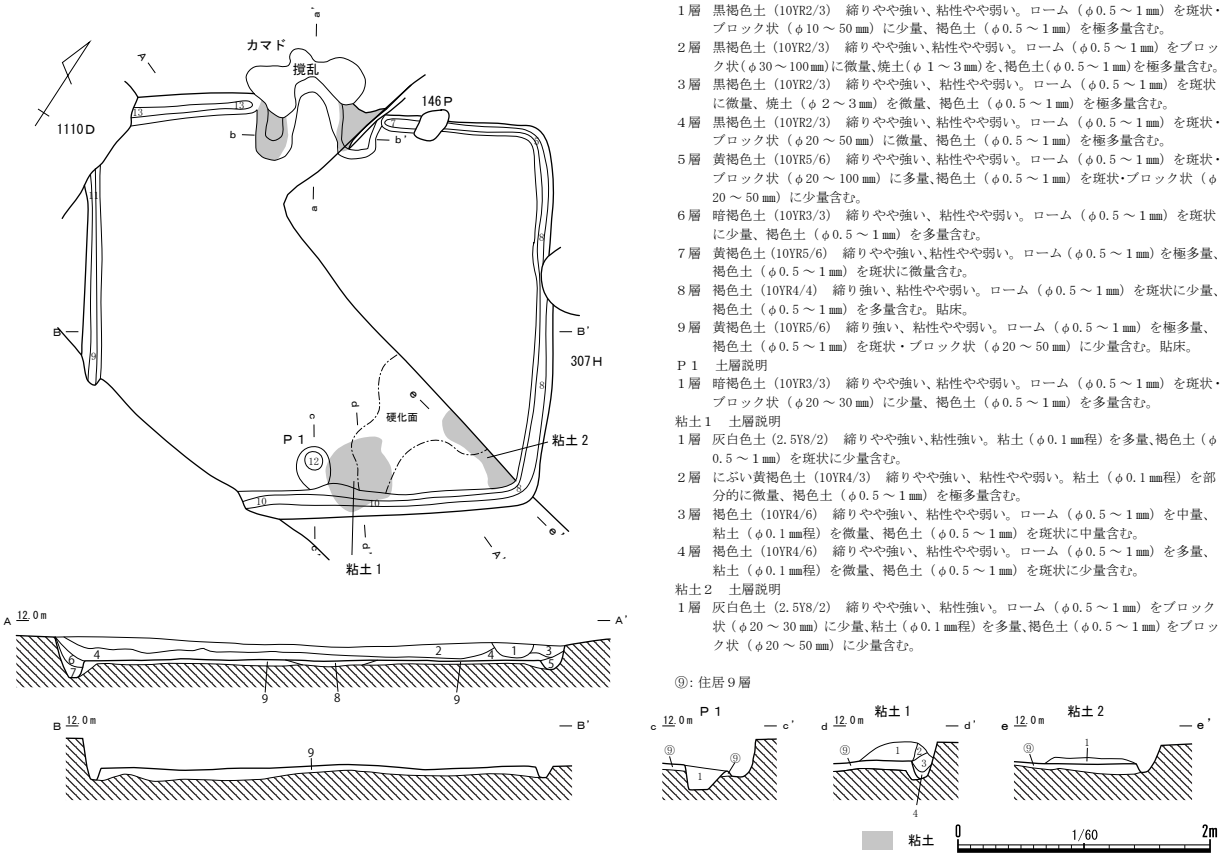
［検出状況］９Ｙを切り、307 Ｈ、69 Ｍ、1110 Ｄ、146・180 ～ 182 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 3.76m ／短軸 3.38m ／深さ 19㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：N―33°―W。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅８～ 23㎝／下幅２～ 10㎝／深さ５～ 13㎝。**床面**：全体的に軟弱だが、Ｐ１の南東側に部分的な硬化が観察された。貼床は２～ 12㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。煙道と袖部の一部が撹乱により消失していた。主軸方位はＮ－ 31°－Ｗ。長さ 68㎝／幅 103㎝／壁への掘り込み 16㎝。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：Ｐ１は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ 12㎝。

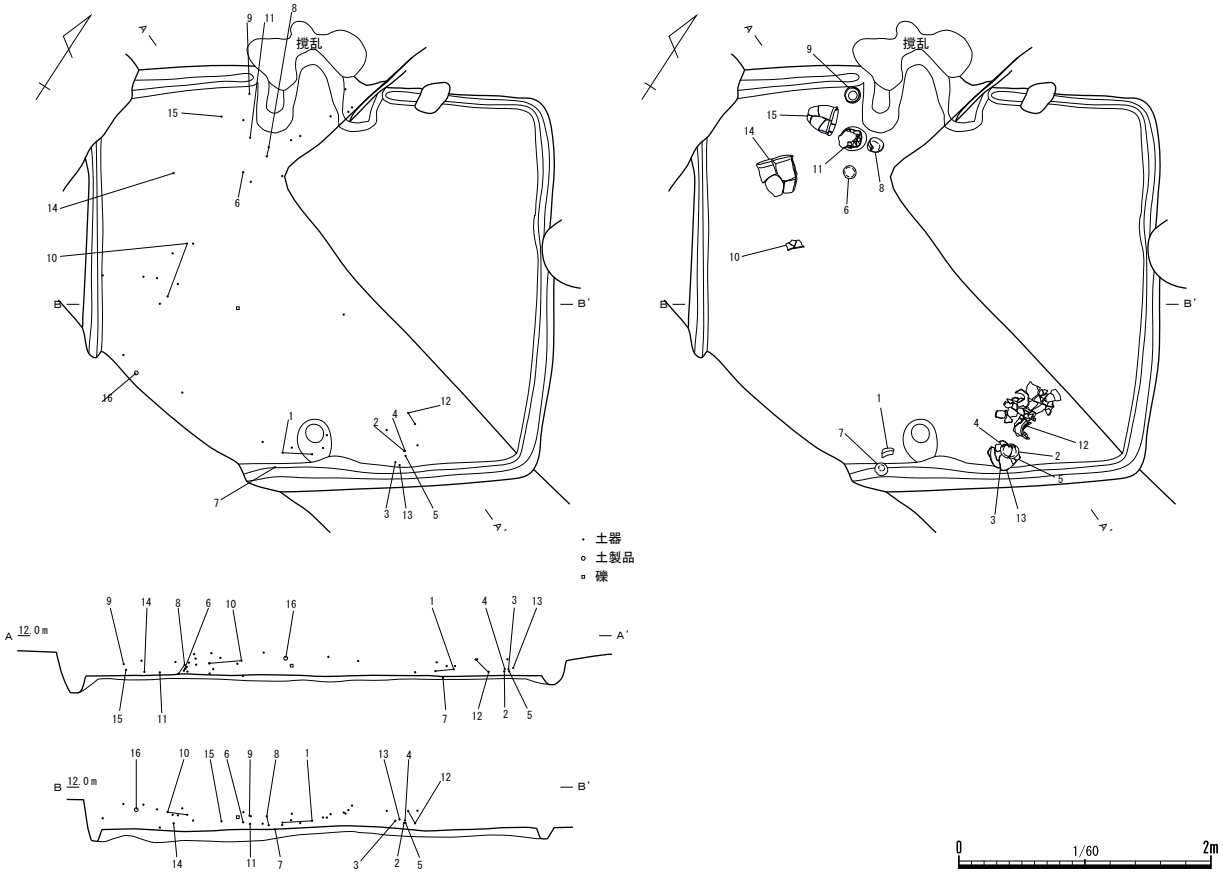
［覆　　土］７層に分層できた。Ｐ１の東側と南東コーナーにおいて、生粘土塊を検出した。

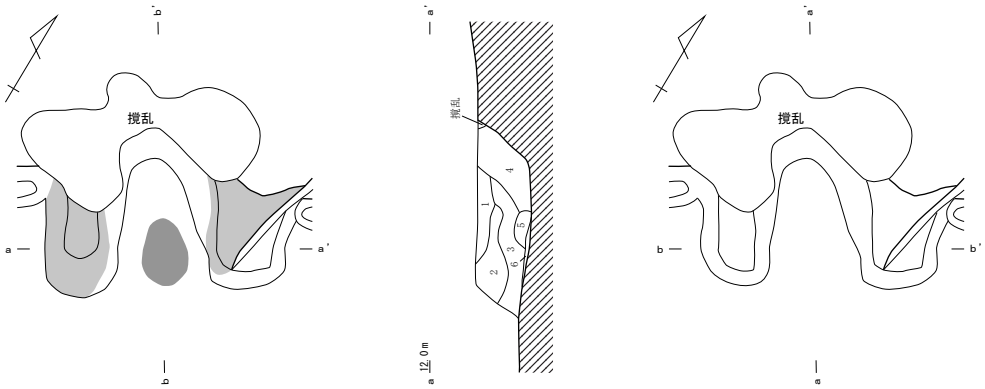
［遺　　物］土師器坏・甕・甑、土製の支脚が出土した。カマドの南西側と梯子穴の北東側に遺物の集中がみられる。

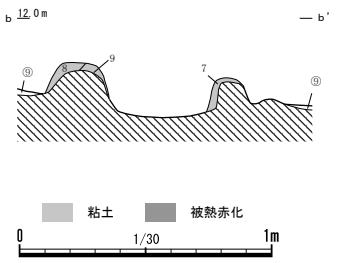
［時　　期］古墳時代後期（７世紀中葉）。



第 154 図　319 号住居跡（１／ 60）







カマド　土層説明

１層　黒褐色土（10YR3/1）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を少量、ローム（φ～８㎜）を少量含む。
２層　にぶい褐色土(7.5YR5/3)　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土(φ～10㎜)を多量、黄白色粘土(φ～８㎜)を多量含む。
３層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締り弱い、粘性やや強い。焼土（φ～５㎜）を中量含む。
４層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ～３㎜）を少量、黄白色粘土（φ～５㎜）を中量含む。崩落天井。
５層　にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締り強い、粘性強い。黄白色粘土（φ～10㎜）主体。
６層　黒色土（10YR2/1）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ～２㎜）を微量含む。使用時の灰や炭か。
７層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや強い、粘性強い。被熱した黄白色粘土。
８層　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締りやや強い、粘性やや強い。黄白色粘土主体。
９層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。被熱したボツボツ。被熱した黄白色粘土。
⑨: 住居９層

第 155 図　319 号住居跡遺物出土状態・カマド（１／60・１／30）

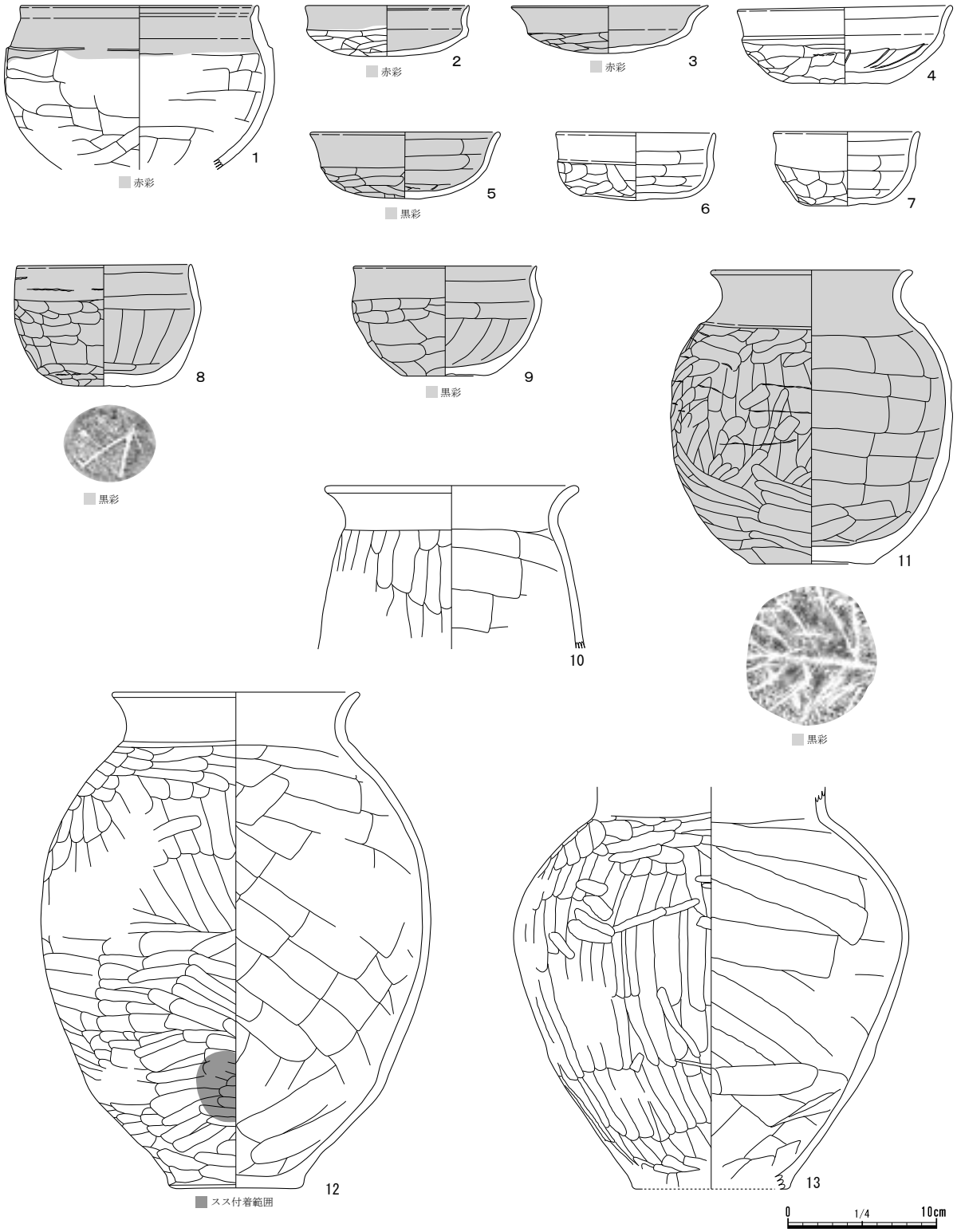
遺　物（第 156・157 図、図版 84、第 64 表）

［土　器］（第 156・157 図 1 ～ 15、図版 84 － 1 ～ 15、第 64 表）

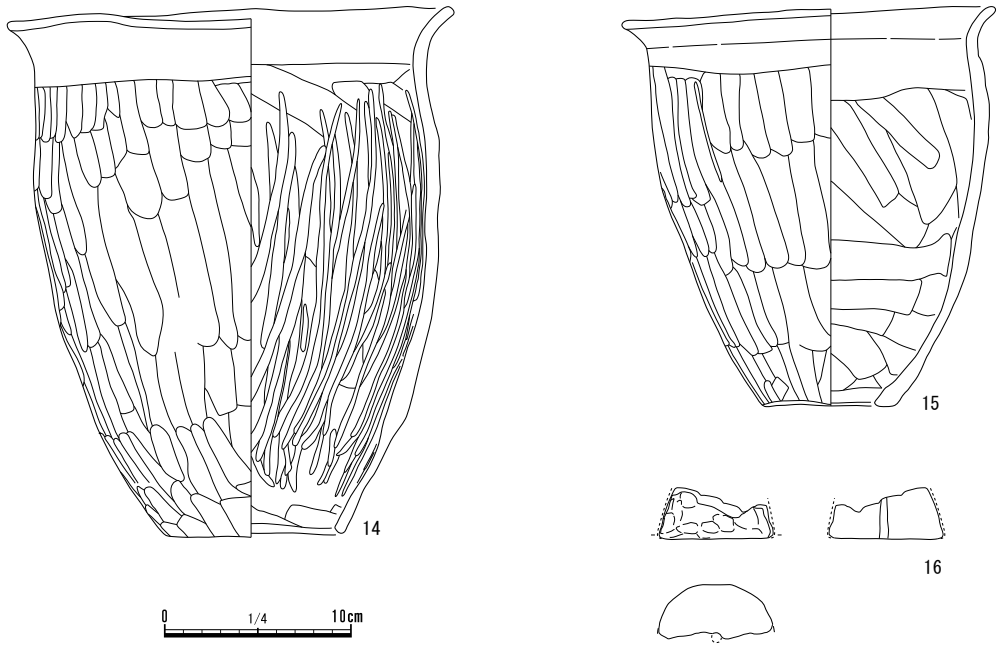
1 ～ 15 は全て土師器で、1 ～ 9 は坏、10 ～ 13 は甕、14・15 は甑である。

［土 製 品］（第 157 図 16、図版 84 － 16、第 64 表）

16 は支脚である。



第 156 図　319 号住居跡出土遺物 1（1 ／ 4）



第 157 図　319 号住居跡出土遺物２（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 156 図 1 図版 84-1	土師器 坏	梯子穴西側の覆土中（床上 5・6cm）	口縁～体部 30%	高 [11.0] 口 (16.1)	赤褐色～橙色	砂粒やや多量／小礫少量	内外面口縁部赤彩／深身の埦タイプ／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	入間系土師器
第 156 図 2 図版 84-2	土師器 坏	梯子穴東側の覆土中（床上 5cm）	完形	高 3.4 口 11.0	赤褐色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 156 図 3 図版 84-3	土師器 坏	梯子穴東側の覆土中（床上 5cm）	ほぼ完形	高 3.3 口 13.2	にぶい橙色～赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英・小礫少量	全面赤彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	入間系土師器
第 156 図 4 図版 84-4	土師器 坏	梯子穴東側の覆土中（床上 6cm）	ほぼ完形	高 5.2 口 14.5 底 6.7	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石・小礫中量／雲母少量	内面ヘラナデ顕著／平底／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 156 図 5 図版 84-5	土師器 坏	梯子穴東側の覆土中（床上 7cm）	口縁～底部 70%	高 4.5 口 12.9	明褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・角閃石中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 156 図 6 図版 84-6	土師器 坏	カマド南側の覆土中（床上 5cm）	完形	高 4.7 口 10.8	橙色	砂粒・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 156 図 7 図版 84-7	土師器 坏	梯子穴南側の壁溝にかかる（床面レベル）	完形	高 5.0 口 9.9 底 5.8	橙色	砂粒やや多量／石英・角閃石中量	平底／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 156 図 8 図版 84-8	土師器 坏	カマド南側の床面上	ほぼ完形	高 8.2 口 11.8 底 6.1	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母中量／角閃石少量	黒彩／深身の埦タイプ／平底／底部木葉痕／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 156 図 9 図版 84-9	土師器 坏	カマド南西脇の覆土中（床上 10cm）	完形	高 7.5 口 12.4 底 5.7	橙色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石中量／雲母少量	黒彩／深身の埦タイプ／平底／内面：口縁部横ナデ、体～見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 156 図 10 図版 84-10	土師器 甕	中央南西側の覆土中（床上 11・13cm）	口縁～胴部 10%	高 [11.1] 口 (17.1)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	最大径を胴部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器

第 64 表　319 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 156 図 11 図版 84-11	土師器 甕	カマド南側の覆土中（床上 4cm）	口縁～底部 80％	高 19.9 口 (13.8) 底 8.3	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／金雲母少量	黒彩／小型／底部木葉痕／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 156 図 12 図版 84-12	土師器 甕	梯子穴東側の覆土中（床上 4 ～ 14 cm）	口縁～底部 80％	高 33.7 口 (16.7) 底 9.0	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	外面スス付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 156 図 13 図版 84-13	土師器 甕	梯子穴西側の覆土中（床上 7cm）	頸～底部 20％	高 [27.2] 底 (10.5)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･黒色粒子･赤色粒子・雲母中量	内面：頸部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：頸部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 157 図 14 図版 84-14	土師器 甑	カマド南西側の覆土中（床上 4cm）	ほぼ完形	高 28.6 口 24 底 9.5	明黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子･角閃石･金雲母中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 157 図 15 図版 84-15	土師器 甑	カマド西側の覆土中（床上 6cm）	完形	高 21.5 口 20.1 底 7.0	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／金雲母・小礫少量	小型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 157 図 16 図版 84-16	土製品 支脚	南西壁付近の覆土中（床上 15cm）	下部の半分のみ残存	[2.7]	[6.1]	2.9	39.2	内部中空／外面指押え	

第 64 表　319 号住居跡出土遺物一覧（２）

320 号住居跡

遺　構（第 158・159 図）

［位　置］（Ｄ・Ｅ・Ｆ－２、Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］北側の調査区境で検出したため、住居の北側１／１０が調査区外である。ただし 68 Ｍに切られるため、ほとんど残存ないと思われる。その他に 1099 Ｄ、127・129・130 Ｐに切られる。

［構　造］**平面形**:方形。**規模**:長軸 5.12m ／短軸 4.77m 以上／深さ 26cm。**壁**:ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**:Ｎ―30°―Ｗ。**壁溝**:カマドを除き全周する。上幅 14 ～ 30cm／下幅４～９cm／深さ７～ 16cm。**床面**：入口施設から北側に向かって帯状に硬化していた。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：主柱穴はＰ１からＰ４の４本と考えられる。深さ 58 ～ 74cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。**入口施設**：Ｐ５は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土を基調とする。深さ 31cm。

［覆　土］６層に分層できた。西壁の中央付近と南西コーナーにおいて、生粘土塊を検出した。北側で検出した粘土は、カマドに伴うものと考えられる。

［遺　物］須恵器壷、土師器甕・甑・鉢、土製の紡錘車が出土した。

［時　期］古墳時代後期（７世紀中葉～末葉）。

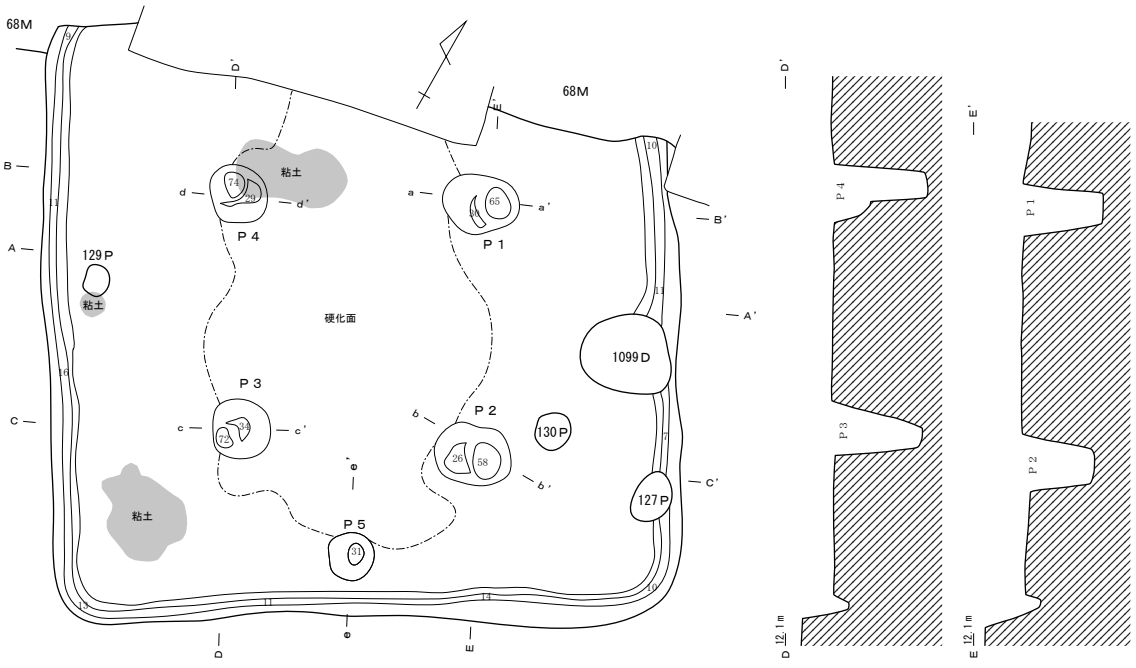
遺　物（第 160 図、図版 85 －１、第 65 表）

［土　器］（第 160 図１～６、図版 85 －１－１～６、第 65 表）

１・２は須恵器の壷、３～６は土師器で、３は甕、４・５は甑、６は鉢である。

［土 製 品］（第 160 図７、図版 85 －１－７、第 65 表）

７は紡錘車である。



320H　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

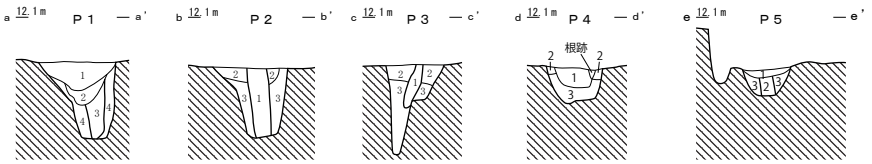
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～3㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

６層　黒褐色土（10YR2/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～5㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。貼床。



Ｐ１　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

２層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に中量含む。

３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量含む。柱痕跡

４層　褐色土（7.5YR4/6）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ２　土層説明

１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。柱痕跡

２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ３　土層説明

１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に微量含む。柱痕跡

２層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に少量含む。

３層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

Ｐ４　土層説明

１層　褐色土（10YR4/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量、粘土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。

２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を極多量含む。

Ｐ５　土層説明

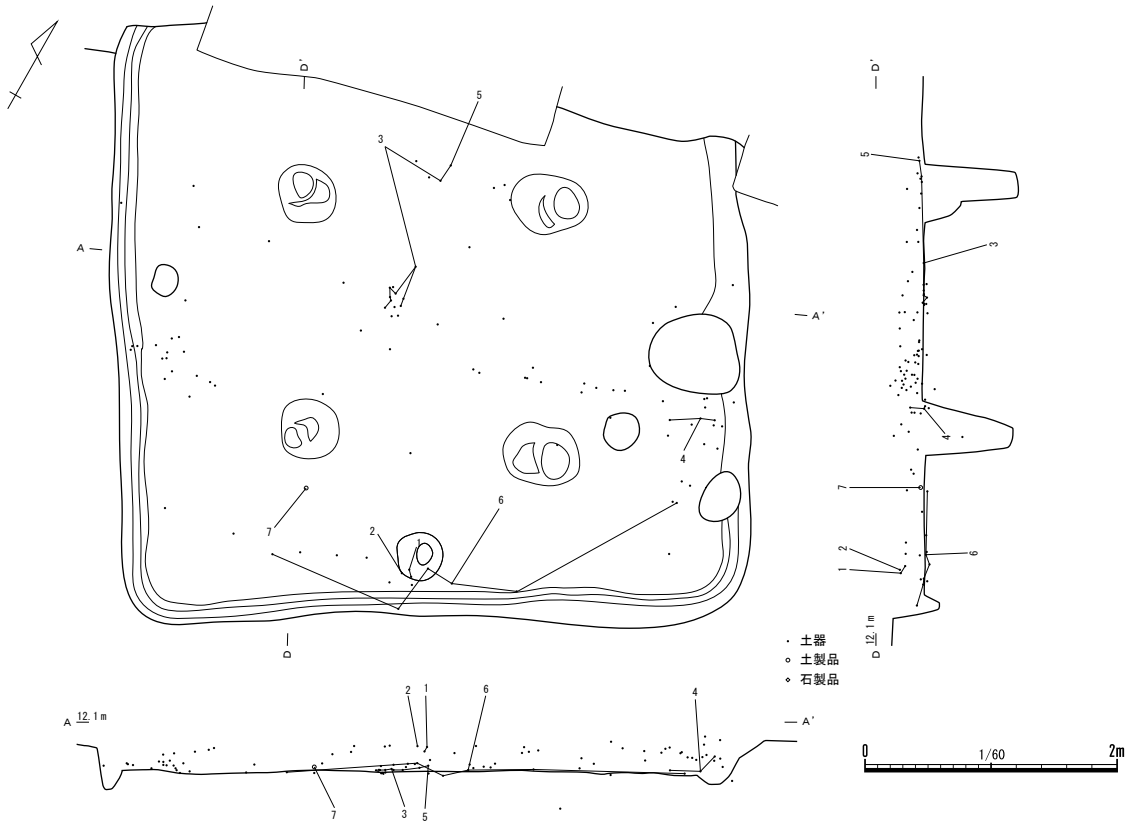
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に微量、焼土(φ0.5～1㎜)を全体的に中量含む。

２層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量含む。柱痕跡

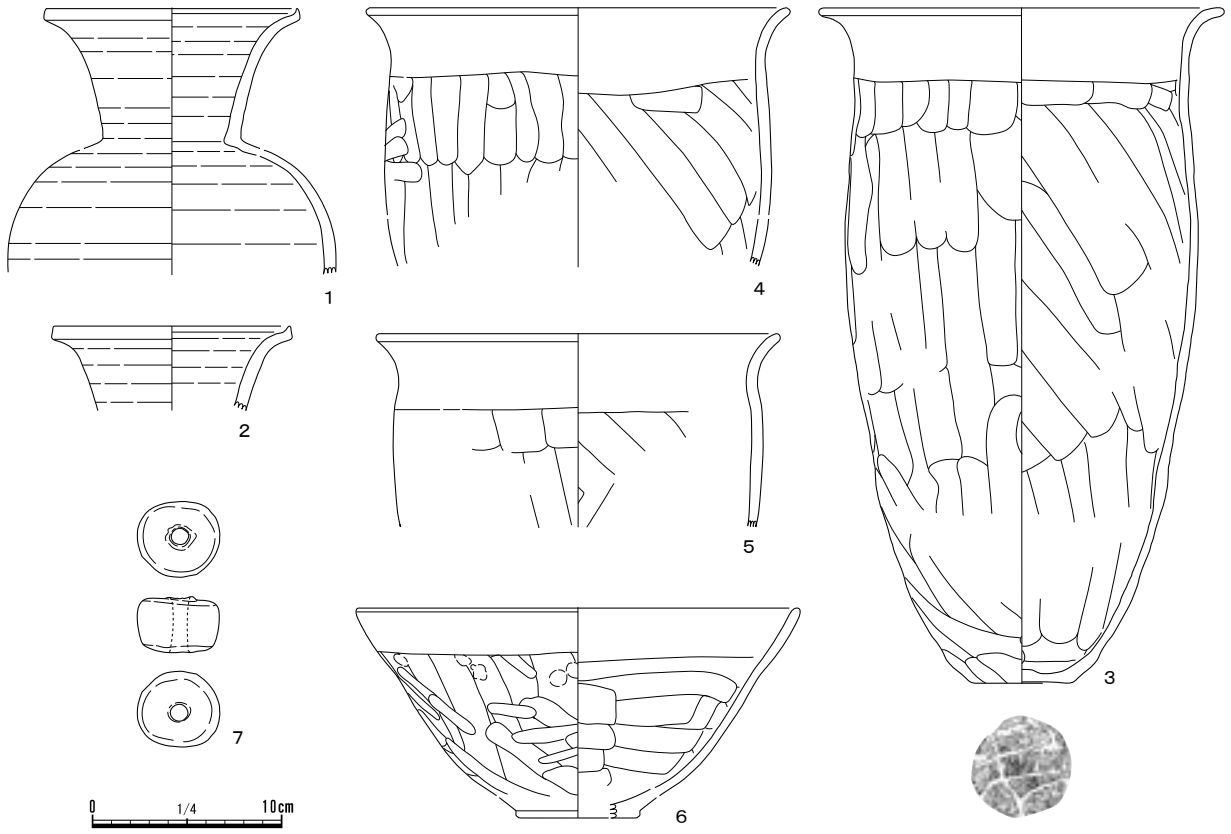
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量含む。

粘土　0　1/60　2m

第 158 図　320 号住居跡（1／60）



第 159 図　320 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）



第 160 図　320 号住居跡出土遺物（1 ／ 4）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 160 図 1 図版 85- 1 -1	須恵器 壷	梯子穴範囲の覆土中（床上 15･19cm）	口縁～胴部 10％	高 [14.0] 口 13.5	灰～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	口唇内面沈線状／回転ナデ	産地不明
第 160 図 2 図版 85- 1 -2	須恵器 壷	梯子穴範囲の覆土中（床上 19cm）	口縁部 10％	高 [4.4] 口 (12.6)	褐灰色～にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子中量	口唇内面沈線状／回転ナデ	産地不明
第 160 図 3 図版 85- 1 -3	土師器 甕	中央・北側の床面上・覆土中（床上 4cm）	口縁～底部 50％	高 35.8 口 (21.4) 底 (5.2)	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・石英中量／雲母少量	最大径を口縁部に持つ／底部木葉痕／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 160 図 4 図版 85- 1 -4	土師器 甑	北東壁南側付近の床面上・覆土中（床上 11cm）	口縁～胴部 15％	高 [13.6] 口 (22.5)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
第 160 図 5 図版 85- 1 -5	土師器 甑	北側の覆土中（床上 4cm）	口縁～胴部 5％	高 [10.1] 口 (21.5)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
第 160 図 6 図版 85- 1 -6	土師器 鉢	南東壁周辺の床面上・覆土中（床上 6cm）	口縁～体～30％	高 [11.1] 口 (23.8)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 160 図 7 図版 85- 1 -7	土製品 紡錘車	南コーナー付近の覆土中（床上 3cm）	完形	4.0	4.4	3.0	57.6	中央部心棒の抜き取り／外面ナデ	

第 65 表　320 号住居跡出土遺物一覧

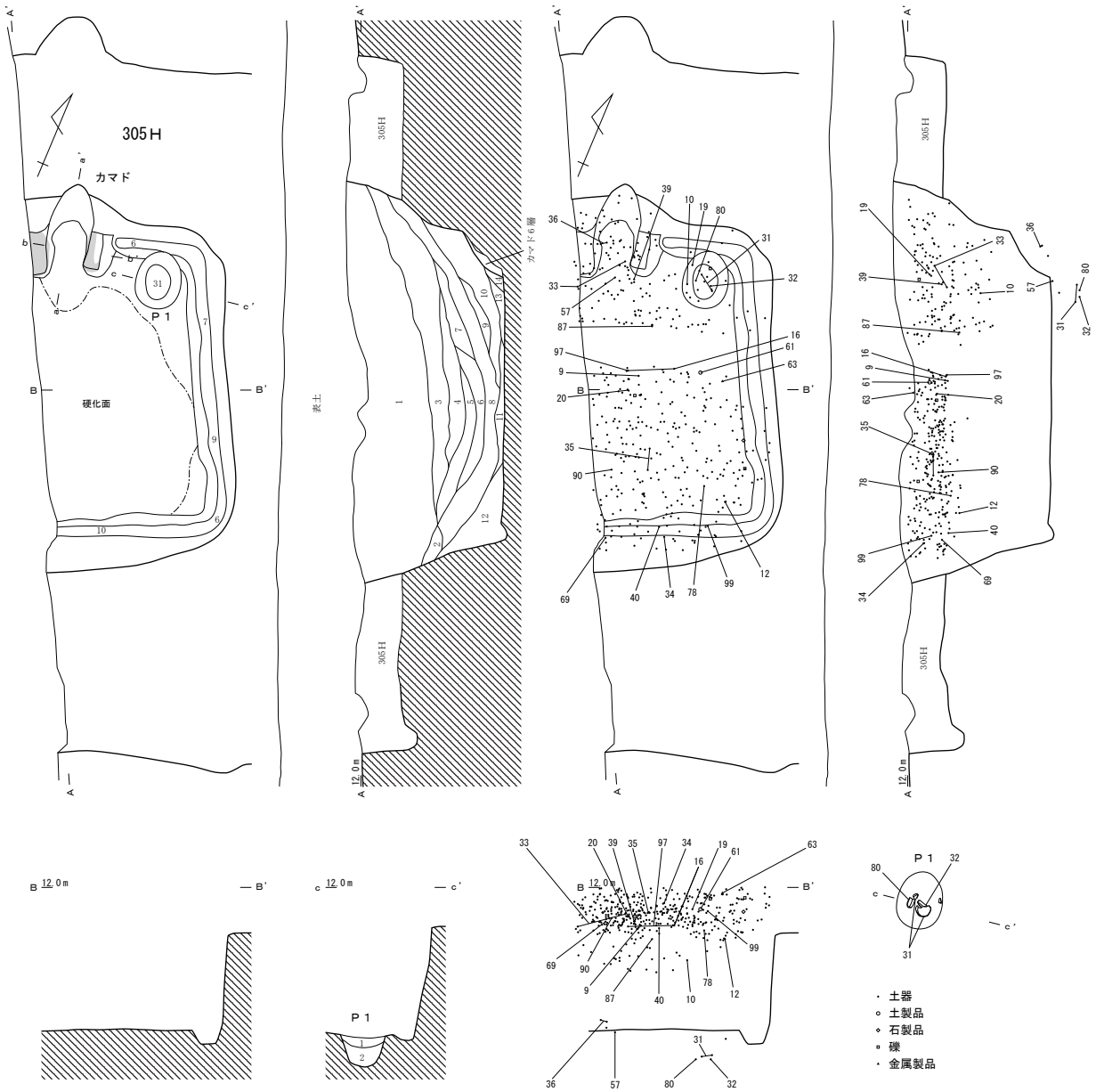
321 号住居跡

遺　構（第 161・162 図）

［位　置］（Ｃ・Ｄ－６、Ｃ－７）グリッド。

［検出状況］西側の調査区境で検出したため、住居の西側半分程度が調査区外である。305 Ｈを切る。精査開始当初は 305 Ｈとして調査していたが、305 Ｈの床面よりも深く、また、平面形と規模から一度地下室と判断した。しかし、さらに精査を進めカマドと床面を検出するに至り、改めて 305 Ｈを切る竪穴住居跡と認識した。地下室として調査している間は、土師器などは一括で取り上げた。

［構　造］**平面形**：方形と思われる。**規模**：長軸 3.33m ／短軸 1.89m 以上／深さ 128cm。**壁**：やや斜めに立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―23°―Ｗ。**壁溝**：カマドを除き全周する。上幅 25 ～ 46cm／下幅 5 ～ 16cm／深さ 6 ～ 10cm。**床面**：コーナーを除くほとんどが硬化していた。**カマド**：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はＮ－ 14°－Ｗ。長さ 108cm／幅 80cm以上／壁への掘り込み 13cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：北東コーナーに位置する（Ｐ１）。平面形は楕円形。長軸 50cm／短軸 40cm／深さ 31cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。



321H　土層説明

1層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、礫（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

2層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

3層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。

4層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を中量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。ロームブロック５～10

5層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

6層　暗褐色土(10YR3/3)　締りやや弱い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に少量、炭化物(φ0.5～1㎜)を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

7層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に多量、炭化物(φ0.5～1㎜)を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

8層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

9層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

10層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。

11層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締り強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

12層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に極多量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

13層　灰褐色土（7.5YR4/2）　締りやや強い、粘性強い。焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

14層　褐色土（7.5YR4/3）　締りやや強い、粘性強い。焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量、粘土（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。

Ｐ１　土層説明

１層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、炭化物（φ0.5～1㎜）を微量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。

２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。

粘土　0　1/60　2m

第 161 図　321 号住居跡・遺物出土状態（1／60）

［覆　　土］14 層に分層できた。

［遺　　物］須恵器長頸瓶・甕、土師器坏・鉢・甕・甑、土製の支脚、砥石、刀子、鉄滓、種実（モモ）が出土した。小型の住居で、かつ、東側半分の調査であるが、遺物量が非常に多い。先述の通り、遺物の出土位置の記録が途中で欠如することとなったが、遺物の大部分は、覆土中からの出土であり、床面上からの出土はほとんどない。貯蔵穴から坏（31・32・80）がまとまって出土した。

［時　　期］古墳時代後期（７世紀後葉）。

遺　　物（第 163 ～ 169 図、図版 85 － 2 、図版 86 ～ 92、第 66 表）

［土　　器］（第 163 ～ 168 図 1 ～ 60、図版 85 － 2 － 1 ～ 30、図版 86 ～ 92 － 31 ～ 60・64 ～ 108、第 66 表）

１・２は須恵器で、１は壷・瓶類、２は甕、３～ 60 は土師器で、３～ 34 は坏、35・36 は鉢、37 ～ 58 は甕、59・60 は甑である。64 ～ 108 は、写真のみ掲載する。全て土師器で、64 ～ 85 は坏、86 ～ 89・90 ～ 102 は甕、90・103 ～ 108 は甑である。

［土 製 品］（第 169 図 61、図版 91 － 61、第 66 表）

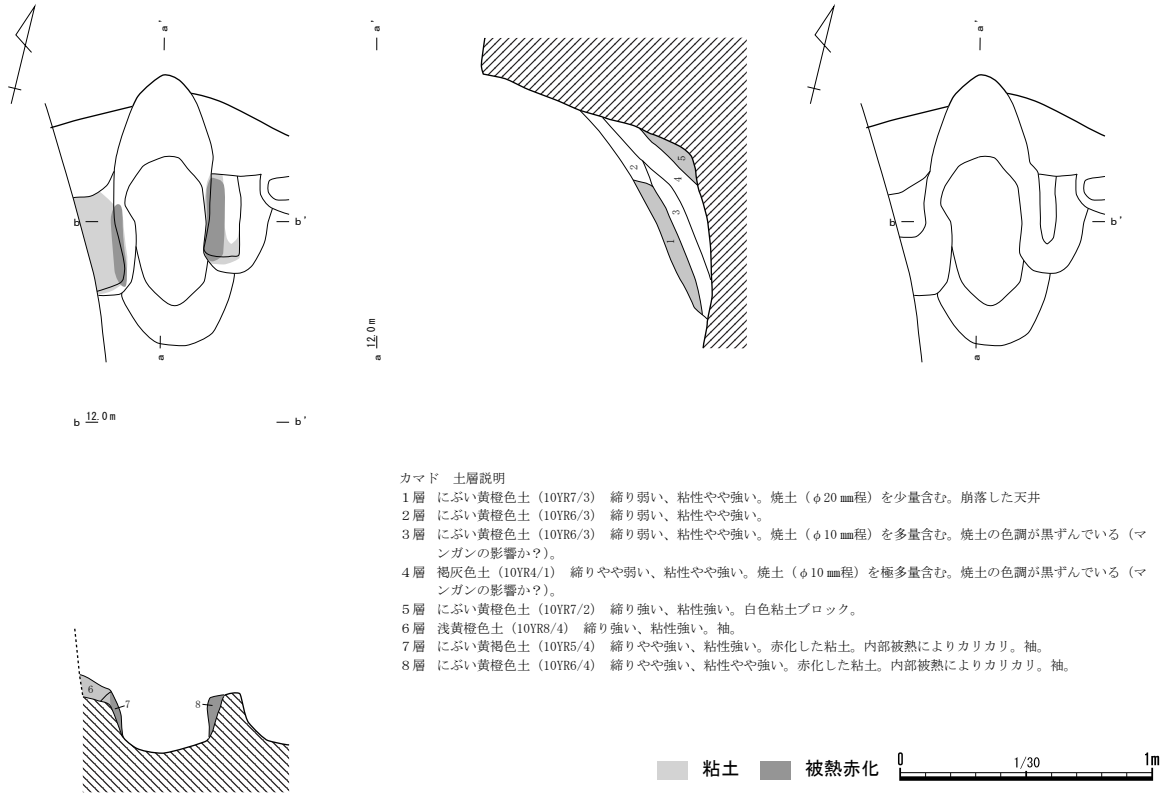
61 は支脚である。

［石 製 品］（第 169 図 62、図版 91 － 62、第 66 表）

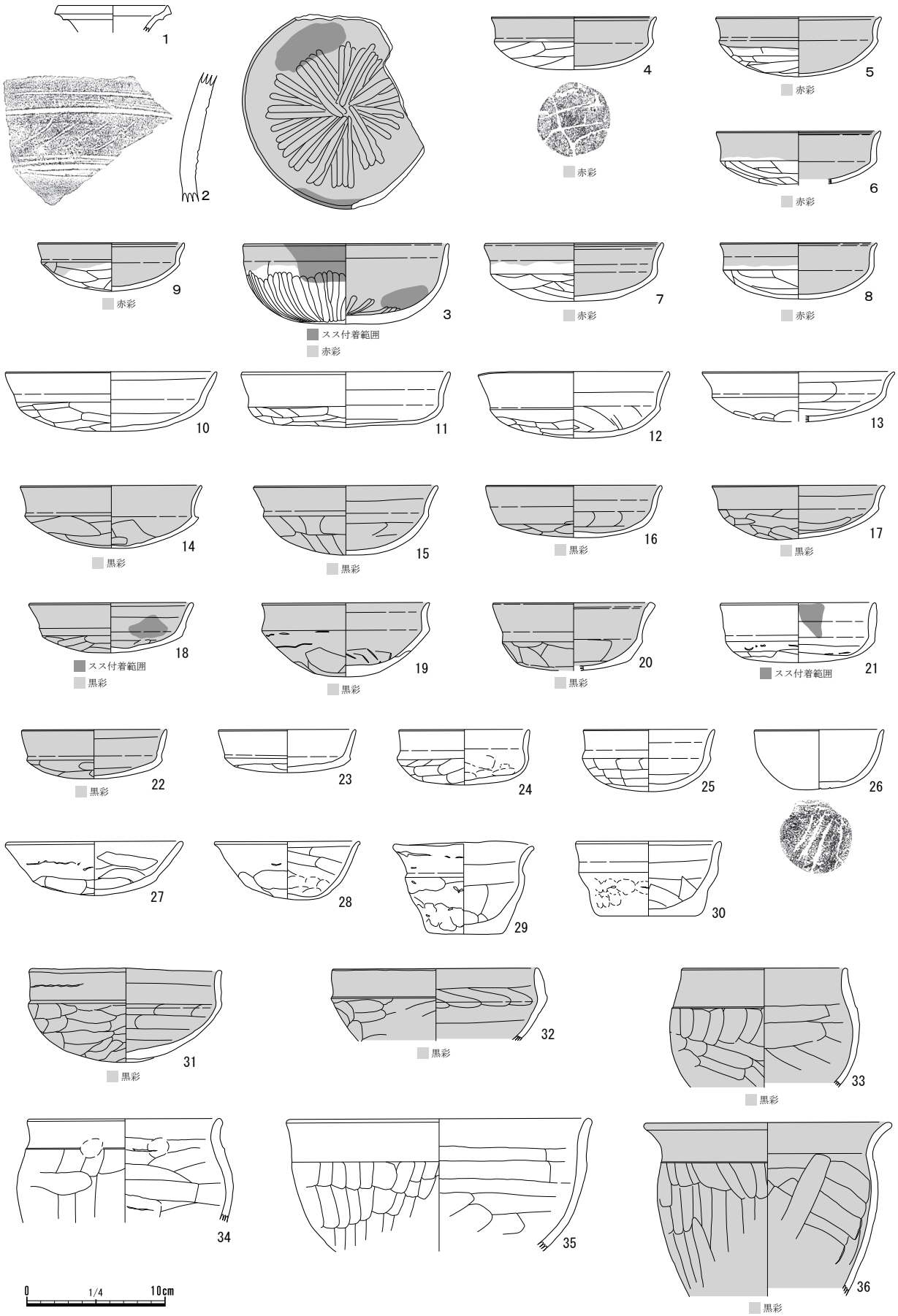
62 は砥石である。

［鉄 製 品］（第 169 図 63、図版 91 － 63、第 66 表）

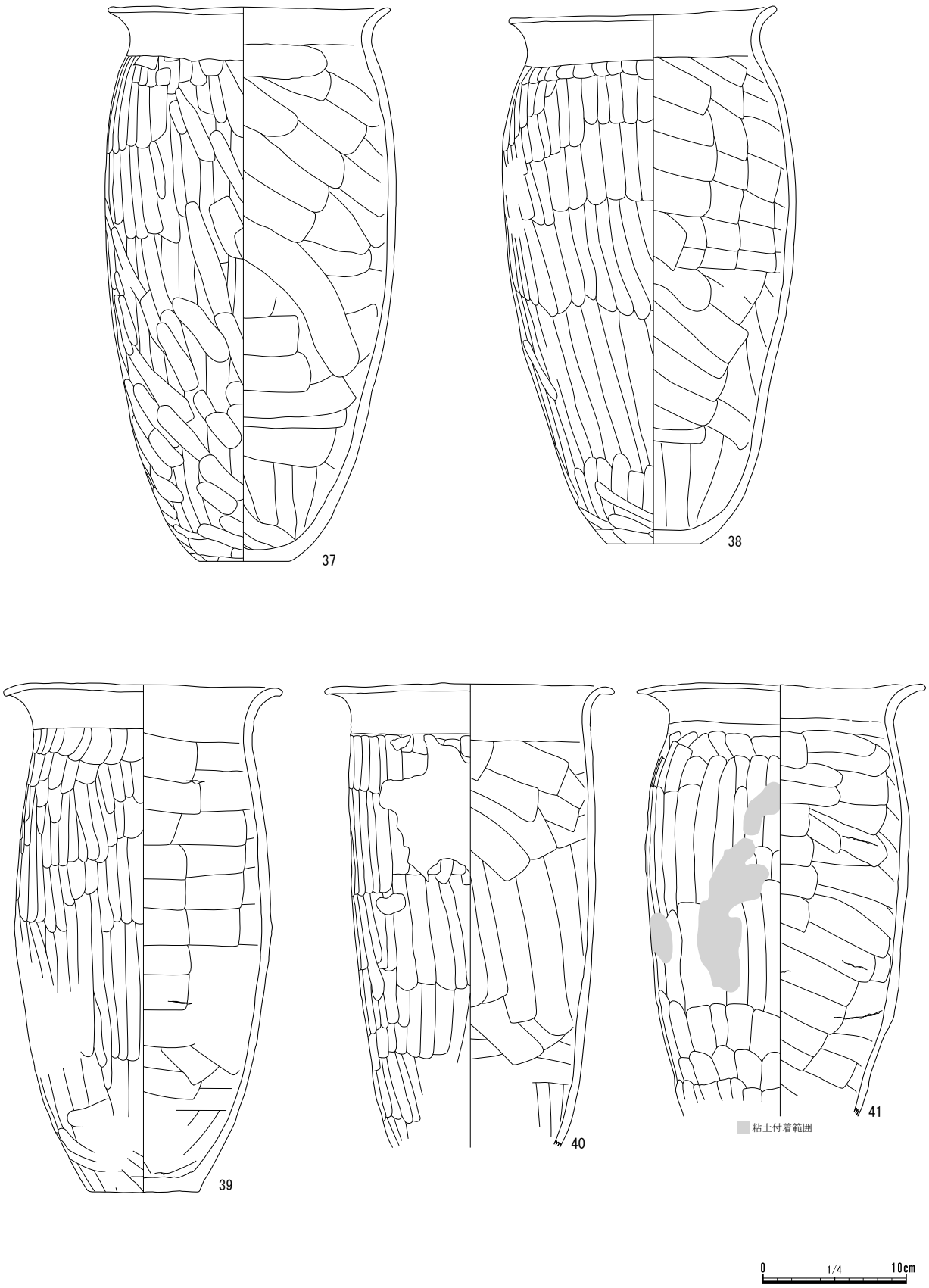
63 は刀子である。



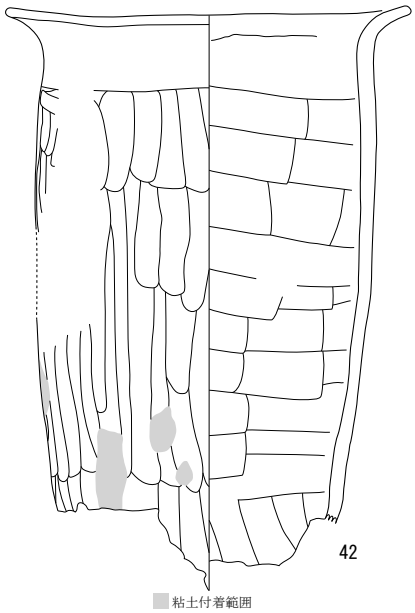
第 162 図　321 号住居跡カマド（１／30）

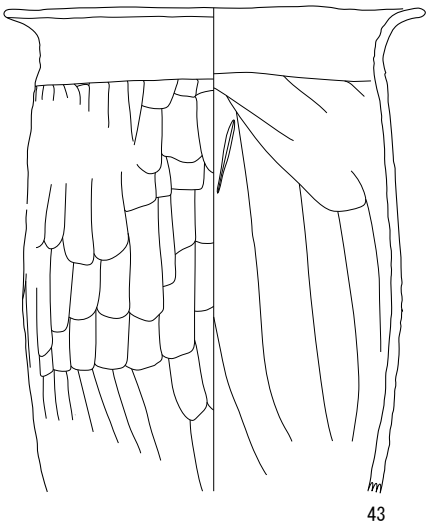


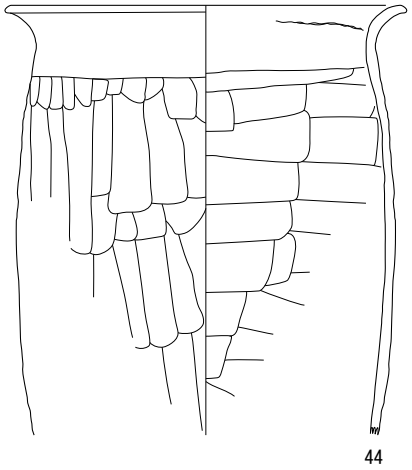
第 163 図　321 号住居跡出土遺物 1（1／4）

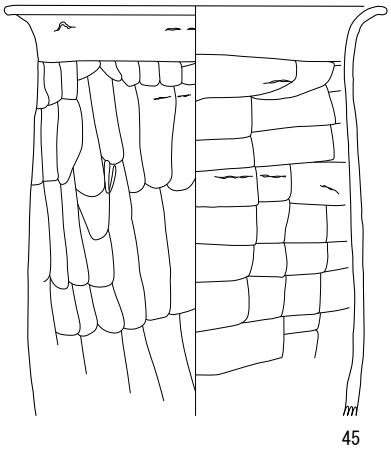


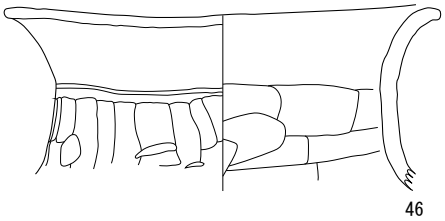
第 164 図　321 号住居跡出土遺物２（１／４）

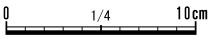




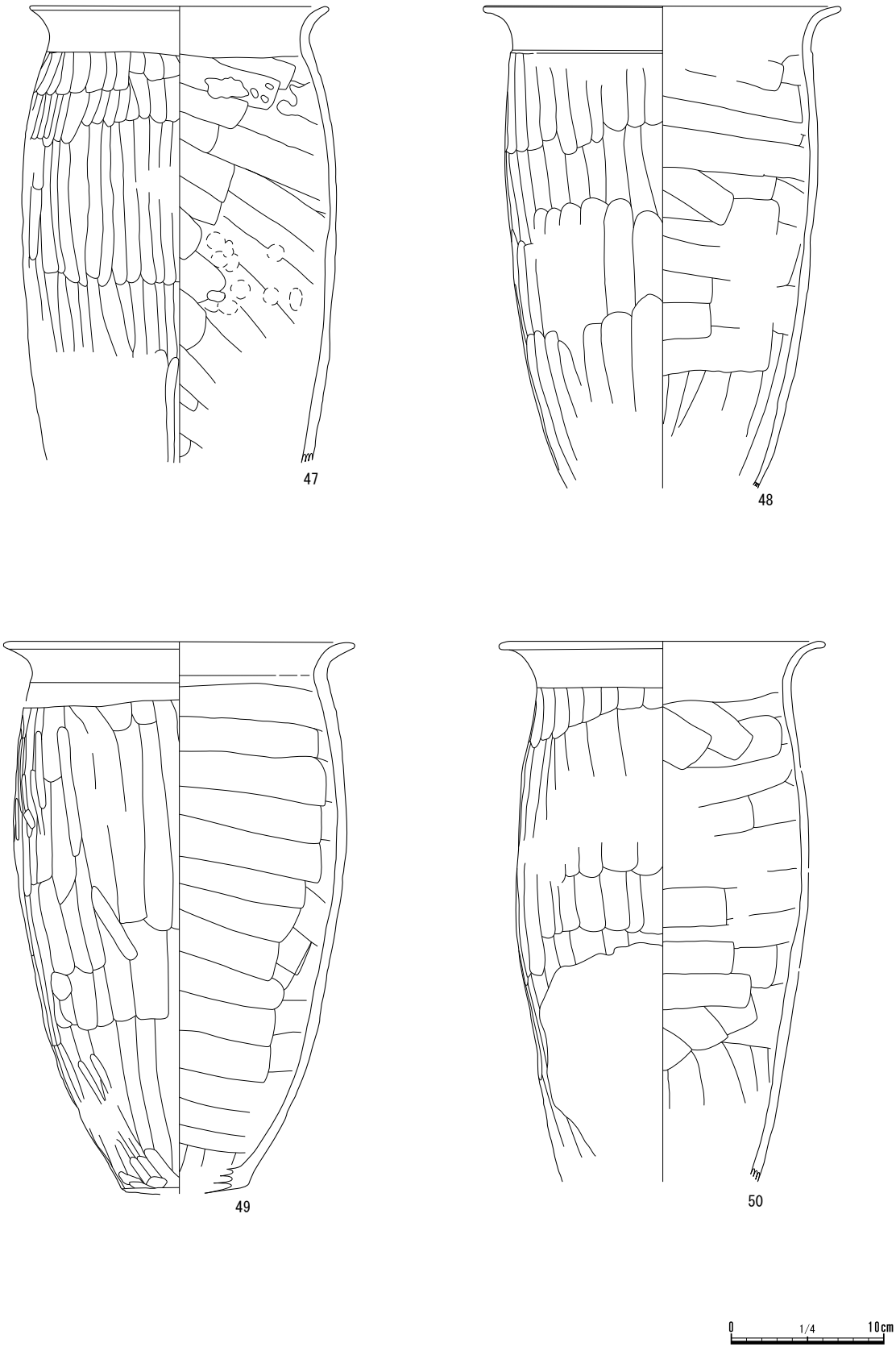




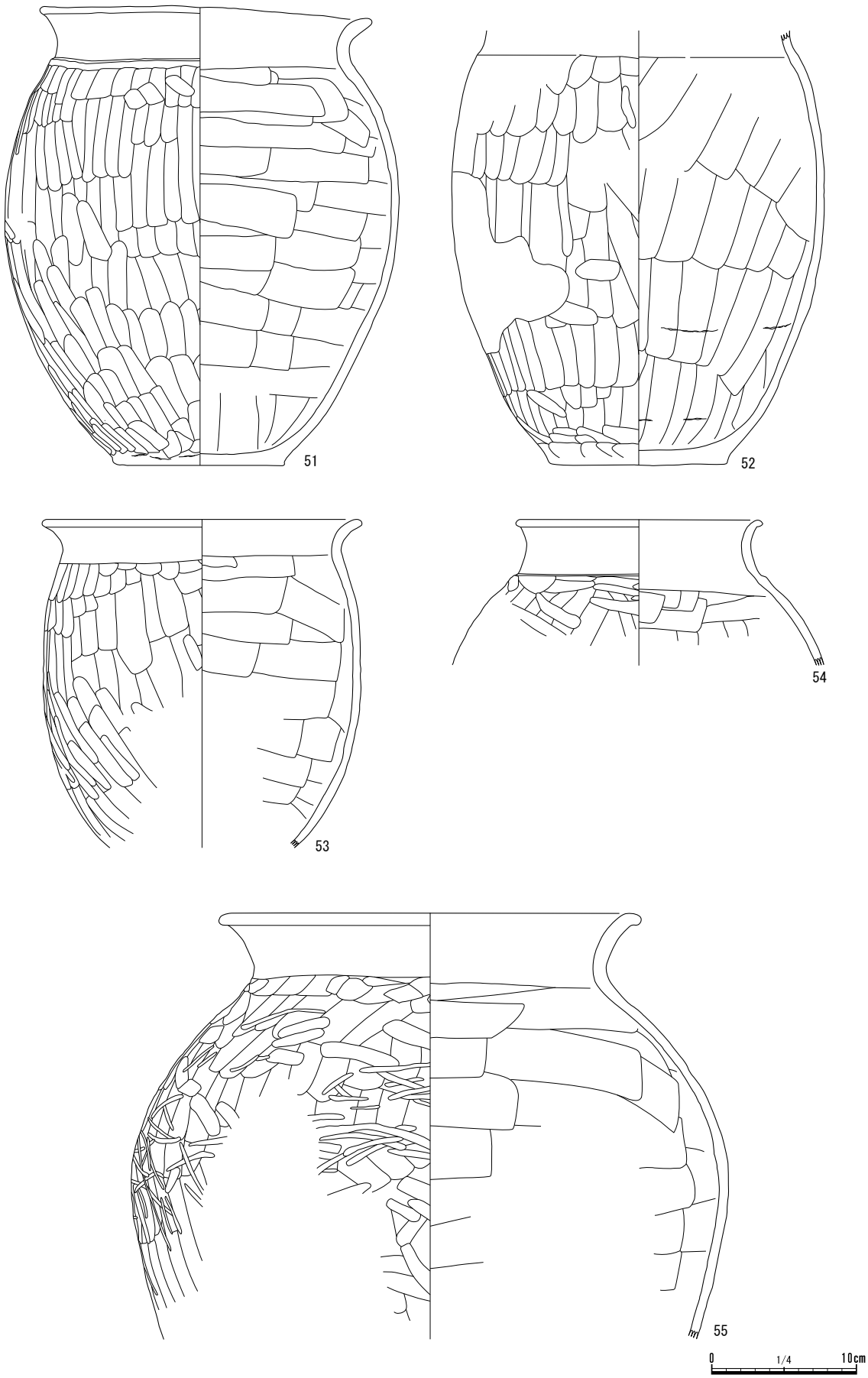




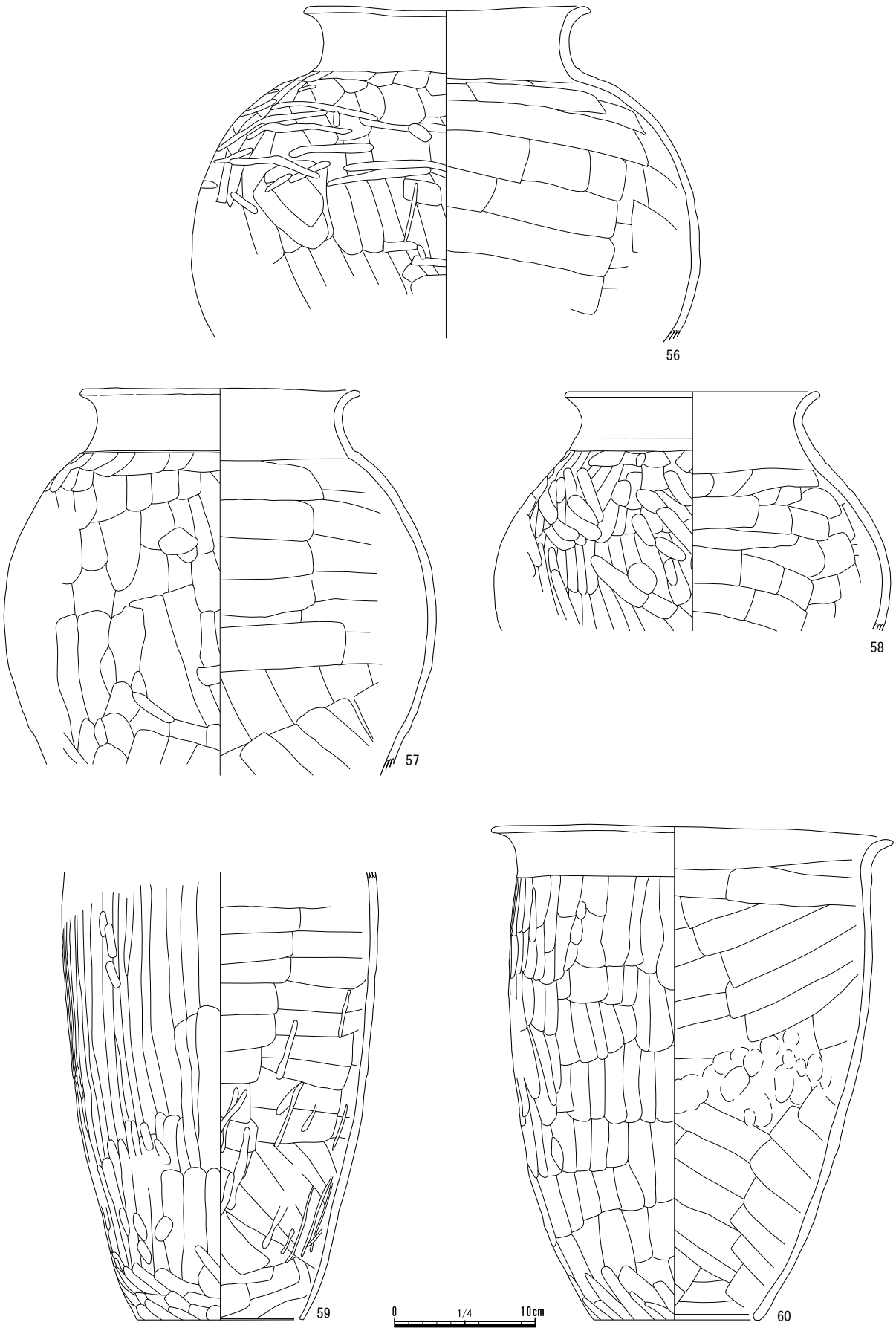
第 165 図　321 号住居跡出土遺物３（１／４）



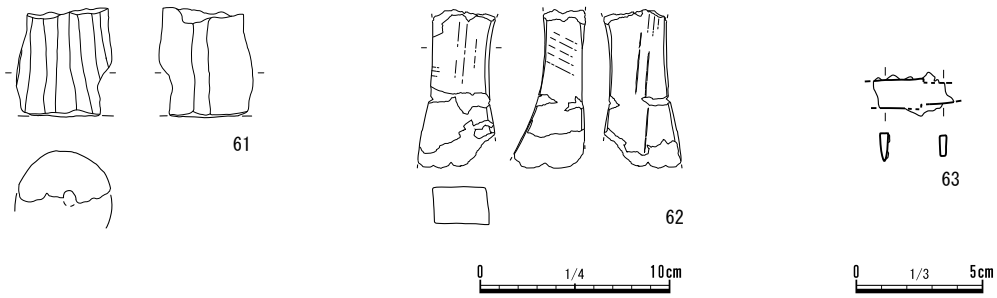
第 166 図　321 号住居跡出土遺物４（１／４）



第 167 図　321 号住居跡出土遺物５（１／４）



第 168 図　321 号住居跡出土遺物６（１／４）



第 169 図　321 号住居跡出土遺物７（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 163 図 1 図版 85- 2-1	須恵器 長頸瓶	覆土中	口縁部 5%	高 [2.0] 口 (8.4)	褐灰色	砂粒・白色粒子中量	内外面釉付着／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ	湖西窯跡産
第 163 図 2 図版 85- 2-2	須恵器 甕	覆土中	胴部片	厚 1.2	灰色	砂粒多量／白色粒子中量／小礫少量	上段２条横線、下段２～３条横線、上下横線間斜位の沈線で充填／内面：横ナデ／外面：横ナデ	産地不明
第 163 図 3 図版 85- 2-3	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 80%	高 5.8 口 (15.0)	赤色～橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・小礫中量／角閃石少量	内面～外面口縁部赤彩／内外面スス付着／口唇内面沈線無し／内面：口縁部横ナデ、見込部放射状のミガキ／外面：口縁部横ナデ、体上部ヘラケズリ、体部丁寧なミガキ	入間系土師器
第 163 図 4 図版 85- 2-4	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 70%	高 3.8 口 12.0	赤～にぶい橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・小礫中量／角閃石少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 5 図版 85- 2-5	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 80%	高 4.3 口 12.0	赤～赤褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・小礫中量／角閃石少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 6 図版 85- 2-6	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 40%	高 [4.0] 口 11.9	赤～にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 7 図版 85- 2-7	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 40%	高 4.2 口 13.0	赤～にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・小礫中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 8 図版 85- 2-8	土師器 坏	覆土中	ほぼ完形	高 4.1 口 11.4	赤～にぶい赤褐色	砂粒・黒色粒子多量／赤色粒子中量／角閃石少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線状／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 9 図版 85- 2-9	土師器 坏	中央の覆土中（床上 92 cm）	口縁～ 底部 90%	高 3.5 口 10.6	赤～明赤褐色	砂粒・黒色粒子やや多量／小礫中量／白色粒子・角閃石少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面部沈線状／内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
第 163 図 10 図版 85- 2-10	土師器 坏	貯蔵穴範囲の覆土中（床上 63cm）	口縁～ 底部 70%	高 4.3 口 15.4	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 11 図版 85- 2-11	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 70%	高 4.0 口 15.2	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 12 図版 85- 2-12	土師器 坏	南東コーナー付近の覆土中（床上 82cm）	口縁～ 底部 80%	高 4.8 口 13.9	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子やや多量／石英・角閃石・金雲母中量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 163 図 13 図版 85- 2 -13	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 50%	高 [3.6] 口 14.0	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・金雲母中量／石英・角閃石少量	内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 163 図 14 図版 85- 2 -14	土師器 坏	南側覆土中	ほぼ完形	高 4.5 口 13.2	赤橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 15 図版 85- 2 -15	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 50%	高 5.0 口 13.4	橙色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量／石英・角閃石少量	黒彩／内面：横ナデ、見込部剥離の為不明／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 16 図版 85- 2 -16	土師器 坏	中央東側の覆土中（床上 94cm）	口縁～ 底部 90%	高 3.8 口 12.8	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・金雲母中量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 17 図版 85- 2 -17	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 70%	高 3.9 口 12.6	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量／角閃石少量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ→一部指押え／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 18 図版 85- 2 -18	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 60%	高 3.6 口 12.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	黒彩／内面スス付着／内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ、一部指押え／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 19 図版 85- 2 -19	土師器 坏	貯蔵穴範囲の覆土中（床上 108cm）	口縁～ 底部 50%	高 5.3 口 12.2	にぶい黄褐色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・金雲母中量／角閃石少量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 20 図版 85- 2 -20	土師器 坏	中央の覆土中（床上 102・103 cm）	口縁～ 底部 70%	高 [4.8] 口 11.8	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・金雲母中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 21 図版 85- 2 -21	土師器 坏	南側覆土中	完形	高 4.3 口 11.3	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量	内面スス付着／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 22 図版 85- 2 -22	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 90%	高 3.6 口 10.6	にぶい褐色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量／角閃石少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 23 図版 85- 2 -23	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 90%	高 3.1 口 10.0	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・金雲母中量／石英・角閃石少量	内面：横ナデ／外面：口縁横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 163 図 24 図版 85- 2 -24	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 90%	高 4.0 口 9.4	にぶい橙色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量／石英少量	内面:口縁部横ナデ、見込部指押え／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
第 163 図 25 図版 85- 2 -25	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 90%	高 4.5 口 9.6	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・中量／石英少量	内面：口縁部横ナデ、見込部剥離の為不明／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリか？	無彩系有段坏／在地系土師器
第 163 図 26 図版 85- 2 -26	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 70%	高 4.4 口 9.4	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・金雲母やや多量／角閃石・小礫少量	底部外面３～４条線刻／内外面：器面が荒れているため調整不明	無彩系有稜坏か／在地系土師器
第 163 図 27 図版 85- 2 -27	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高 3.9 口 13.0	橙色	砂粒・雲母やや多量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 28 図版 85- 2 -28	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 50%	高 4.2 口 10.6	にぶい橙色	砂粒・雲母やや多量／角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、見込部指押え／外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
第 163 図 29 図版 85- 2 -29	土師器 坏	覆土中	完形	高 6.7 口 10.2 底 5.5	にぶい橙色	砂粒・雲母やや多量／白色粒子・小礫中量	平底／内面：口縁～体部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ、体下部指押え	粗雑品／在地系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 163 図 30 図版 85- 2 -30	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高　5.4 口　(10.6) 底　7.4	橙色	砂粒やや多量・赤色粒子中量／金雲母・小礫少量	平底／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラケズリ／外面:口縁部横ナデ、体下部指押え、底部ヘラケズリ	粗雑品／在地系土師器
第 163 図 31 図版 86-31	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 9・11cm）	口縁～ 底部 30%	高　6.8 口　14.0	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／角閃石・雲母少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 32 図版 86-32	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 7cm）	口縁～ 体部 15%	高　[5.2] 口　(15.0)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／石英・角閃石・金雲母少量	黒彩／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 33 図版 86-33	土師器 坏	カマド南側の覆土中（床上 93・104cm）	口縁～ 体部 15%	高　[8.6] 口　(12.1)	橙色	砂粒・雲母やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量／石英少量	黒彩／深身の埦タイプ／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
第 163 図 34 図版 86-34	土師器 坏	南壁付近の覆土中（床上 114cm）	口縁～ 体部 10%	高　[7.5] 口　(14.1)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／長石・角閃石・雲母・小礫少量	深身の埦タイプ／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ→一部指押え／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ→一部指押え	無彩系有段坏／在地系土師器
第 163 図 35 図版 86-35	土師器 鉢	中央南東側の覆土中（床上 105cm）	口縁～ 体部 15%	高　[9.6] 口　(22.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／長石・角閃石・金雲母少量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面:口縁部ナデ、体部ヘラナデ	浅鉢タイプ／在地系土師器
第 163 図 36 図版 86-36	土師器 鉢	カマド内（火床上 13・14cm）	口縁～ 体部 10%	高　[12.6] 口　(18.0)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩／内面：口縁部横ナデ、体部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	在地系土師器
第 164 図 37 図版 86-37	土師器 甕	南側覆土中	ほぼ完形	高　38.7 口　19.7 底　6.4	にぶい橙色～黒色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量／雲母少量	最大径を胴上部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 164 図 38 図版 86-38	土師器 甕	南側覆土中	ほぼ完形	高　6.4 口　18.4 底　37.5	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・長石・角閃石中量	最大径を胴上部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部斜位・横位ヘラナデ胴下部縦ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 164 図 39 図版 86-39	土師器 甕	カマド南側の覆土中（床上 98cm）	口縁～ 底部 70%	高　[35.4] 口　(19.5) 底　7.7	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 164 図 40 図版 86-40	土師器 甕	南壁付近の覆土中（床上 92cm）	口縁～ 胴部 30%	高　[32.1] 口　19.0	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量／石英少量	最大径を口縁部に持つ／外面剥離あり／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 164 図 41 図版 86-41	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 80%	高　30.3 口　20.1	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・金雲母・小礫中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／内面ツギメが目立つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 165 図 42 図版 87-42	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 70%	高　[33.2] 口　21.2	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	最大径を口縁部に持つ／外面粘土付着／やや肉厚／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 165 図 43 図版 87-43	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 50%	高　[25.5] 口　21.8	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・金雲母中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 165 図 44 図版 87-44	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 30%	高　[22.8] 口　(20.9)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石・雲母中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 165 図 45 図版 87-45	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 20%	高　[21.7] 口　(20.2)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量／長石・角閃石・雲母少量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 165 図 46 図版 87-46	土師器 甕	覆土中	口縁～ 頸部 10%	高　[9.6] 口　22.7	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、一部に工具痕	丸甕／在地系土師器
第 166 図 47 図版 88-47	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 20%	高　[29.9] 口　(19.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	最大径を胴上部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 166 図 48 図版 88-48	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 30%	高　[31.6] 口　(23.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 166 図 49 図版 88-49	土師器 甕	覆土中	口縁～ 底部 70%	高　[36.2] 口　(23) 底　(8.3)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 166 図 50 図版 88-50	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 80%	高　[35.5] 口　21.4	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量／石英少量	最大径を口縁部に持つ／外面剥離あり／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
第 167 図 51 図版 89-51	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 底部 80%	高　31.7 口　22.9 底　11.6	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 167 図 52 図版 89-52	土師器 甕	覆土中	胴～ 底部 30%	高　[30.1] 底　11.9	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・角閃石・雲母中量	内面：頸部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：頸部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 167 図 53 図版 89-53	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 30%	高　[22.7] 口　21.6	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・金雲母中量／石英少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 167 図 54 図版 89-54	土師器 甕	覆土中	口縁～ 頸部 15%	高　[10.1] 口　17.1	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 167 図 55 図版 89-55	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 25%	高　[30.4] 口　(29.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ→粗いミガキ	丸甕／在地系土師器
第 168 図 56 図版 90-56	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 40%	高　[23.9] 口　19.7	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量／長石・雲母少量	大型／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ→粗いミガキ	丸甕／在地系土師器
第 168 図 57 図版 90-57	土師器 甕	カマド内(火床上 3㎝)	口縁～ 胴部 15%	高　26.7 口　19.2	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・雲母中量	大型／内面:横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 168 図 58 図版 90-58	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高　[17.0] 口　(18.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量／小礫少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
第 168 図 59 図版 90-59	土師器 甑	南側覆土中	胴～ 底部 70%	高　[31.9] 底　11.8	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	内面：ヘラナデ→一部粗いミガキ／外面：胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
第 168 図 60 図版 90-60	土師器 甑	覆土中	口縁～ 底部 80%	高　[35.0] 口　28.0 底　11.7	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	大型／内面：口縁部横ナデ、胴中位指押え→ヘラナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式／在地系土師器
図版 91-64	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高　[3.6] 口　(11.8)	赤褐色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・小礫中量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線無し／口縁部は外反する／内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
図版 91-65	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 20%	高　[3.3] 口　(11.4)	赤褐色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石中量／小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面沈線無し／口縁部は外反する／内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
図版 91-66	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 10%	高　[3.1] 口　(12.6)	明赤褐色 ～橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	内面～外面口縁部赤彩／口唇内面弱い沈線／口縁部はやや外反する／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型坏／入間系土師器
図版 91-67	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 70%	高　4.0 口　12.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／角閃石少量	楕円状に大きく歪む／内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-68	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 40%	高　3.6 口　12.1	にぶい黄 橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	黒彩／口縁部は外傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-69	土師器 坏	南壁付近の覆土中（床上 97cm）	口縁～ 底部 20%	高　[4.2] 口　(12.8)	橙色	砂粒・白色粒子中量／角閃石少量	黒彩／口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-70	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 高台部 15%	高　[4.2] 口　(13.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量	口縁部は直立する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-71	土師器 坏	南側覆土中	口縁部 10%	高　[3.6] 口　(13.1)	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	口縁部は直立気味に外反する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-72	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 40%	高　[4.6] 口　(13.0)	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量／白色粒子中量	黒彩／口縁部は直立する／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-73	土師器 坏	覆土中	口縁部 10%	高　[4.1] 口　(14.2)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･黒色粒子･赤色粒子中量／角閃石少量	口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-74	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高　[4.6] 口　(13.6)	橙色	砂粒・白色粒子・石英中量／角閃石少量	黒彩／口縁部は大きく外傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-75	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 20%	高　[3.8] 口　(14.0)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子･赤色粒子･角閃石中量	黒彩／口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-76	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 20%	高　[3.9] 口　(13.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／角閃石少量	口縁部は直立する／内面：口縁部横ナデ、見込部横ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
図版 91-77	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 40%	高　4.5 口　(12.2)	橙色～灰 黄褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・雲母中量	黒彩／口縁部は直立気味に外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-78	土師器 坏	南東コーナー付近の覆土中（床上 90cm）	口縁～ 底部 40%	高　3.6 口　(11.4)	橙色～褐 灰色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	口縁部は外傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-79	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 40%	高　3.2 口　(10.4)	橙色～灰 黄褐色	砂粒・赤色粒子・雲母中量	口縁部は直立する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段坏／在地系土師器
図版 91-80	土師器 坏	貯蔵穴内（底上 7cm）	口縁～ 底部 20%	高　[4.5] 口　(14.2)	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	黒彩／口縁部は直立する／内面スス付着／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-81	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 30%	高　[4.4] 口　(11.8)	明赤褐色 ～黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩／口縁部は直立気味に内傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（５）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (㎝)	色調	胎土	特徴	備考
図版 91-82	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 [2.9] 口 13.6	橙色	砂粒・黒色粒子・雲母中量	黒彩／口縁部は外傾する／内面スス付着／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
図版 91-83	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 [2.4] 口 (11.5)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	黒彩／口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜坏／在地系土師器
図版 91-84	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 [3.3] 口 (14.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量／雲母少量	口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜坏／在地系土師器
図版 91-85	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 [3.2] 口 (10.0)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	黒彩／口縁部はやや外傾する／内面：口縁部横ナデ、見込部ナデ／外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段坏／在地系土師器
図版 91-86	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 [18.9] 口 (21.9)	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・角閃石中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 91-87	土師器 甕	中央北東側の覆土中（床上 82㎝）	口縁～ 胴部 15%	高 [10.1] 口 20.0	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／雲母少量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 91-88	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 [13.7] 口 20.3	橙色	砂粒多量／白色粒子中量	最大径を口縁部にもつ／楕円形に大きく歪む／硬質な焼き上がり／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 91-89	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 [18.8] 口 (22.8)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量	最大径を口縁部にもつ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 91-90	土師器 甑	中央南側の覆土中（床上 100㎝）	口縁～ 胴部 15%	高 [15.5] 口 (23.9)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量／小礫少量	口縁部は大きく外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	在地系土師器
図版 91-91	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [11.7] 口 21.6	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	口縁部は大きく外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部縦ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-92	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [11.5] 口 (20.1)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-93	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [9.6] 口 (21.8)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部にもつ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-94	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [14.9] 口 (20.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量／角閃石少量	最大径を胴部中位にもつ／外面粘土付着／内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-95	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [13.4] 口 (22.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部にもつ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-96	土師器 甕	南側覆土中	胴～ 底部 10%	高 [10.2] 底 8.3	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・雲母中量	内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-97	土師器 甕	中央東側の覆土中（床上 93･94㎝）	胴～ 底部 10%	高 [7.6] 底 5.8	橙色	砂粒・白色粒子・雲母中量	外面粘土付着／内面：ヘラナデ／外面：ヘラケズリ	長甕／在地系土師器
図版 92-98	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 [13.2] 口 (21)	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量／小礫少量	口縁部は大きく外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（６）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
図版 92-99	土師器 甕	南東コーナー付近の覆土中（床上 107cm）	口縁～胴部 10%	高　[13.1] 口　(18.0)	明褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	口縁部は外反する／やや薄い／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
図版 92-100	土師器 甕	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[8.3] 口　(14.2)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量／雲母少量	口縁部は外反する／外面スス付着／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
図版 92-101	土師器 甕	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[7.6] 口　(19.8)	にぶい黄橙色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・石英中量／小礫少量	口縁部は大きく外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
図版 92-102	土師器 甕	覆土中	胴～底部 15%	高　[9.0]	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・石英中量／角閃石少量	破断面にスス付着／内面:ヘラナデ／外面:ヘラケズリ	丸甕／在地系土師器
図版 92-103	土師器 甑	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[17.5] 口　(25.0)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
図版 92-104	土師器 甑	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[14.6] 口　(28.0)	橙色	雲母やや多量／砂粒・白色粒子中量	口縁部は外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
図版 92-105	土師器 甑	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[14.7] 口　(27.2)	黄橙	砂粒・白色粒子・雲母中量／小礫少量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／堅い焼き上がり／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
図版 92-106	土師器 甑	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[14.5] 口　25.4	にぶい黄橙	砂粒・白色粒子・石英中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
図版 92-107	土師器 甑	覆土中	口縁～胴部 10%	高　[18.9] 口　(21.6)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・雲母中量／小礫少量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器
図版 92-108	土師器 甑	覆土中	口縁部 10%	高　[7.9] 口　(23) 底　16.4	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	口縁部は大きく外反する／最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師器

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 169 図 61 図版 91-61	土製品 支脚	東側の覆土中（床上 108cm）	上部欠損	[5.7]	[5.0]	[2.9]	75.7	縦に半分のみ残存する／内部に心棒の抜き取り穴が残る／外面ヘラナデ	

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 169 図 62 図版 91-62	砥石	覆土中	完形	変質流紋岩	[83.7]	[40.5]	[37.3]	117.6	分銅形／上下部を大きく欠損／風化によりかなりもろくなっている／縦方向や横方向の擦痕や表面には縦方向の線条痕がみられる	

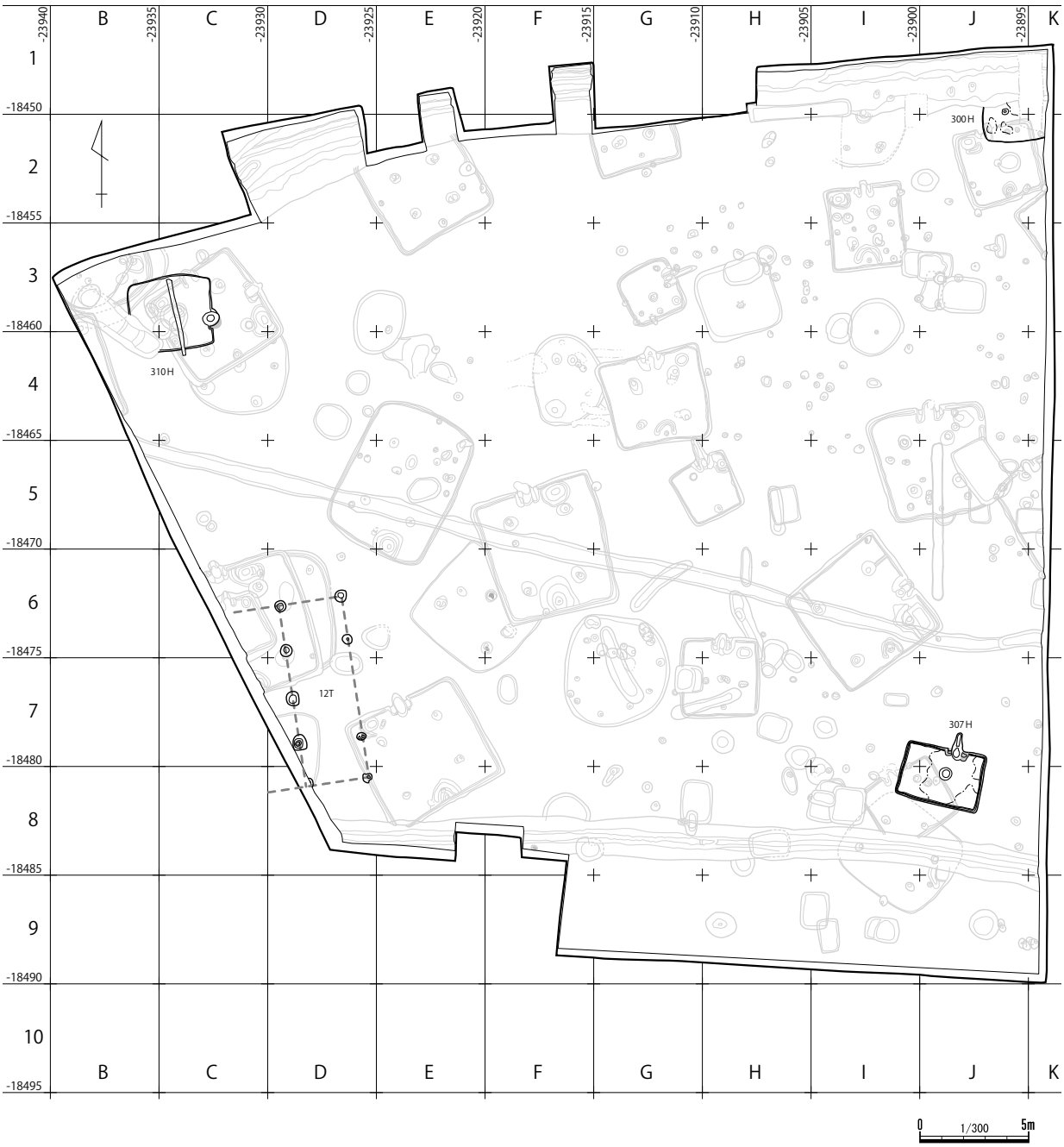
挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	材　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 169 図 63 図版 91-63	鉄製品 刀子	東壁付近の覆土中（床上 120cm）	両端欠損	鉄	[3.2]	1.1	0.3	2.3	刃部断面は平刃、刃関・棟関を有す／茎部断面は台形／刀身部長 [1.9]cm／幅 1.1cm／厚 0.3cm／茎部 [1.3]cm／幅 0.8cm／厚 0.2cm	

第 66 表　321 号住居跡出土遺物一覧（７）

第５節　平安時代

（1）概　要

平安時代の遺構は、住居跡３軒（300 H、307 H、310 H）、掘立柱建築遺構１棟（12 T）を検出した。300 Hは９世紀代、307 Hは９世紀中葉、310 Hは 10 世紀初頭～前葉の所産と推測される。12 Tは、個別の土坑やピットとして調査していたものを、整理段階で掘立柱建築遺構と認識したものである。柱穴の掘方に差異があることから、東側の柱穴列は庇に伴うものと考えられ、東面庇の側柱建物と推測される。時期は、遺物が少なく、推定は難しいが、武蔵型甕とみられる土師器の小片が出土しており、９世紀代かと思われる。



第 170 図　平安時代遺構全体図（１／300）

（２）住居跡

300 号住居跡

遺　　構（第 171 図）

［位　　置］（Ｊ・Ｋ－１・２）グリッド。

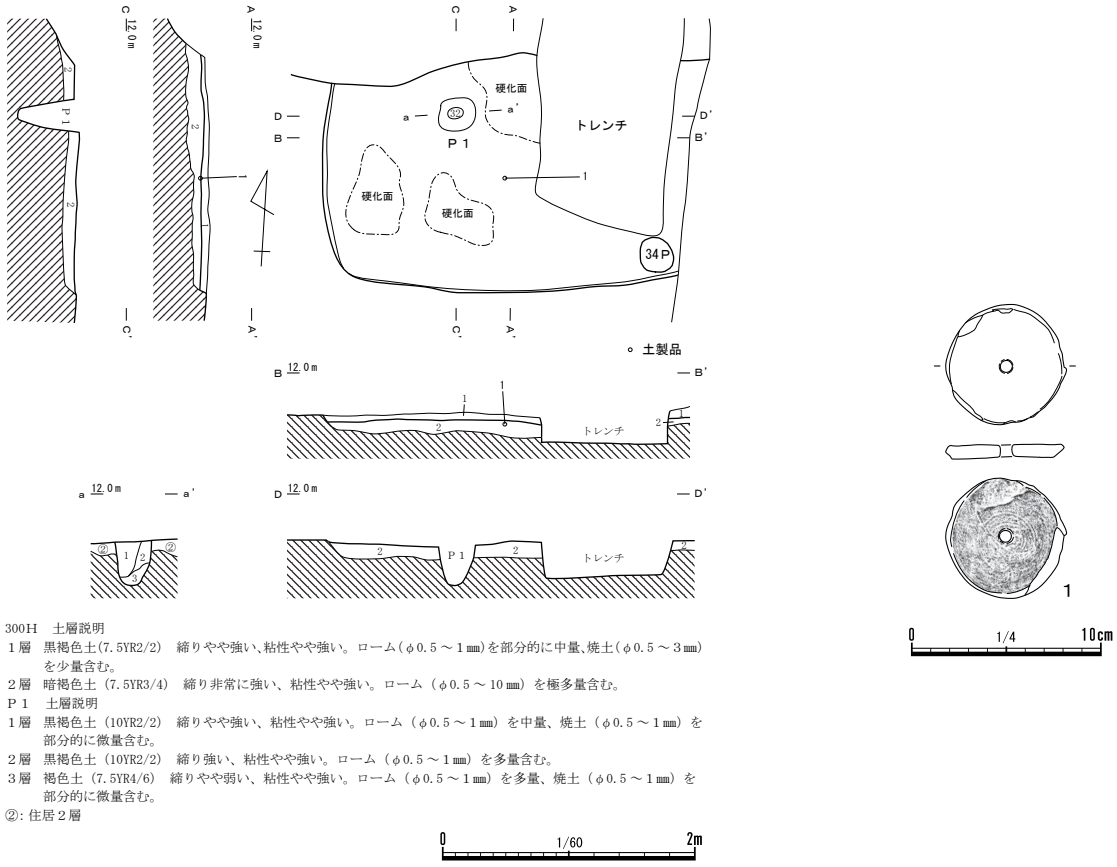
［検出状況］301 Ｈを切り、68 Ｍ、34 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形**：長方形と思われる。**規模**：長軸 3.07m 以上／短軸 1.94m 以上／深さ６㎝。**壁**：ほとんど残存していない。**主軸方位**：Ｎ―4°―Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：全体的に軟弱であるが、島状に硬化が確認された。貼床は６～ 13㎝の厚さで施されていた。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：Ｐ１が主柱穴と考えらえる。深さ 32㎝。覆土はローム粒や焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］１層に分層できた。

［遺　　物］須恵器坏を転用した紡錘車、種実（モモ）が出土した。

［時　　期］平安時代（９世紀代か）。



300Ｈ　土層説明
１層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を部分的に中量、焼土（φ0.5～３㎜）を少量含む。
２層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～10㎜）を極多量含む。
Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を中量、焼土（φ0.5～１㎜）を部分的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を多量含む。
３層　褐色土（7.5YR4/6）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を多量、焼土（φ0.5～１㎜）を部分的に微量含む。
②：住居２層

第 171 図　300 号住居跡・出土遺物（１／60・１／４）

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	長さ (㎝)	幅 (㎝)	厚さ (㎝)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 171 図 1 図版 93- 1 -1	須恵器 坏転用 紡錘車	中央南側の 床面上	完形	6.3	6.4	0.8	34.9	須恵器坏底部転用／中央部穿孔／側面上下から斜めに研磨される／胎土：砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・白色針状物質中量	南比企窯跡産

第 67 表　300 号住居跡出土遺物一覧

遺　　物（第 171 図、図版 93 － 1 、第 67 表）

［土 製 品］（第 171 図 1 、図版 93 － 1 － 1 、第 67 表）

1 は須恵器坏の底部を転用した紡錘車である。

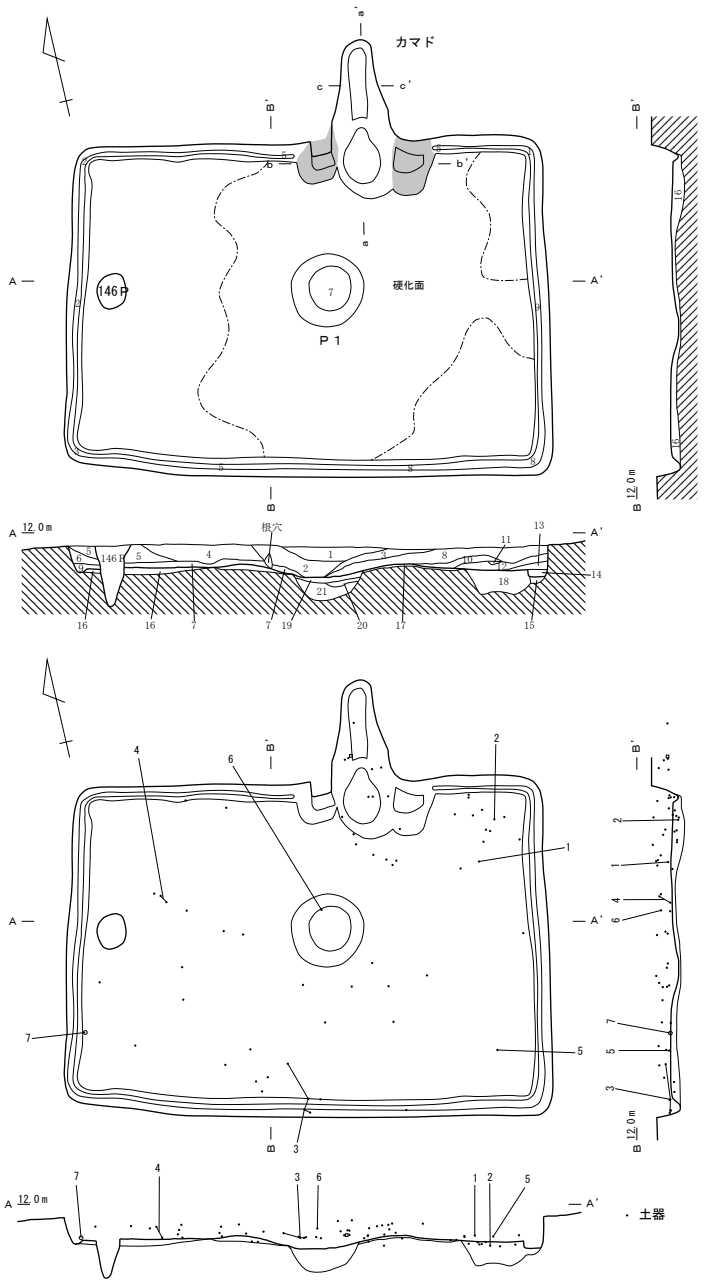
307 号住居跡

遺　　構（第 172・173 図）

［位　　置］（Ｉ・Ｊ－７・８）グリッド。

［検出状況］319 Ｈを切り、146・180・181・182 Ｐに切られる。

［構　　造］平面形：長方形。規模：長軸 3.87m ／短軸 2.75m ／深さ 17㎝。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：Ｎ―13°―Ｅ。壁溝：カマドを除き全周する。上幅 10 ～ 17㎝／下幅 1 ～ 6㎝／深さ 1 ～ 9



307H　土層説明

1 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量、粘土（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ20㎜程）に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

2 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量、焼土（φ0.5 ～ 10㎜）をブロック状（φ10 ～ 20㎜）に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

3 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10 ～ 20㎜）に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

4 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10 ～ 20㎜）に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

5 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ10 ～ 20㎜）に微量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

6 層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ20 ～ 40㎜）に少量、焼土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

7 層　黄褐色土（10YR5/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。

8 層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10 ～ 40㎜）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

9 層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ10 ～ 20㎜）に少量含む。

10 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ20 ～ 40㎜）に少量含む。

11 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量含む。

12 層　暗褐色土（10YR3/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ10 ～ 40㎜）に少量、焼土（φ1 ～ 2㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

13 層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

14 層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。

15 層　褐色土（10YR4/6）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。貼床。

16 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ30 ～ 70㎜）に少量含む。貼床。

17 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量含む。貼床。

18 層　暗褐色土（10YR3/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ20 ～ 40㎜）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。貼床。

19 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を極多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量含む。貼床。

20 層　黄褐色土（10YR5/6）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を少量含む。貼床。

21 層　褐色土（10YR4/4）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。貼床。

粘土　0　1/60　2m

第 172 図　307 号住居跡・遺物出土状態（1 ／ 60）

㎝。**床面**：南壁中央付近からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は１～10㎝の厚さで施されていた。**カマド**：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はＮ－12°－Ｅ。長さ 124㎝／幅 110㎝／壁への掘り込み 80㎝。袖部は貼床上に粘土を積み上げて構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：Ｐ１は上面が皿状に窪み、非常に硬く締まっている。掘立柱のように柱の根本が土中に埋没するのではなく、柱の根本が露出し、床面で支える構造ではないかと推測される。深さ７㎝。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］14 層に分層できた。

［遺　　物］須恵器坏、土師器甕、土製の支脚が出土した。

［時　　期］平安時代（９世紀中葉）。

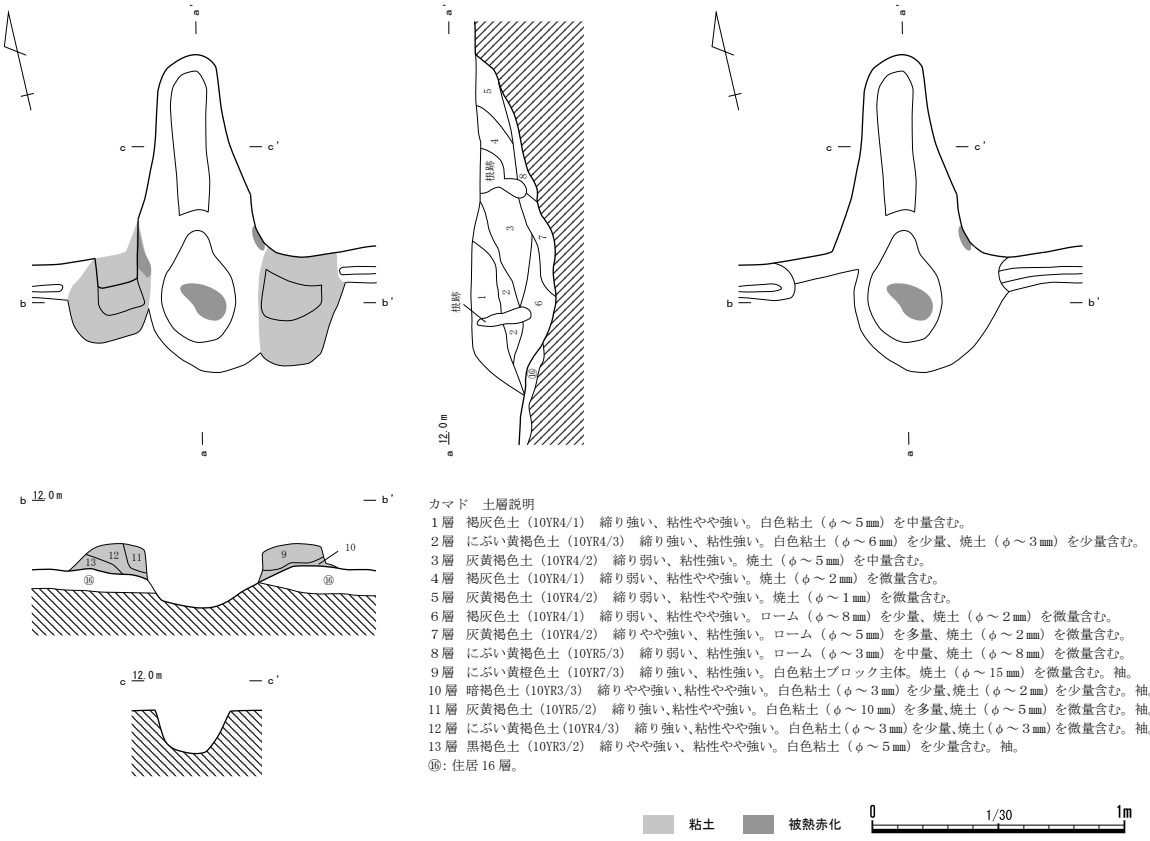
遺　　物（第 174 図、図版 93 －２、第 68 表）

［土　　器］（第 174 図１～６、図版 93 －２－１～６、第 68 表）

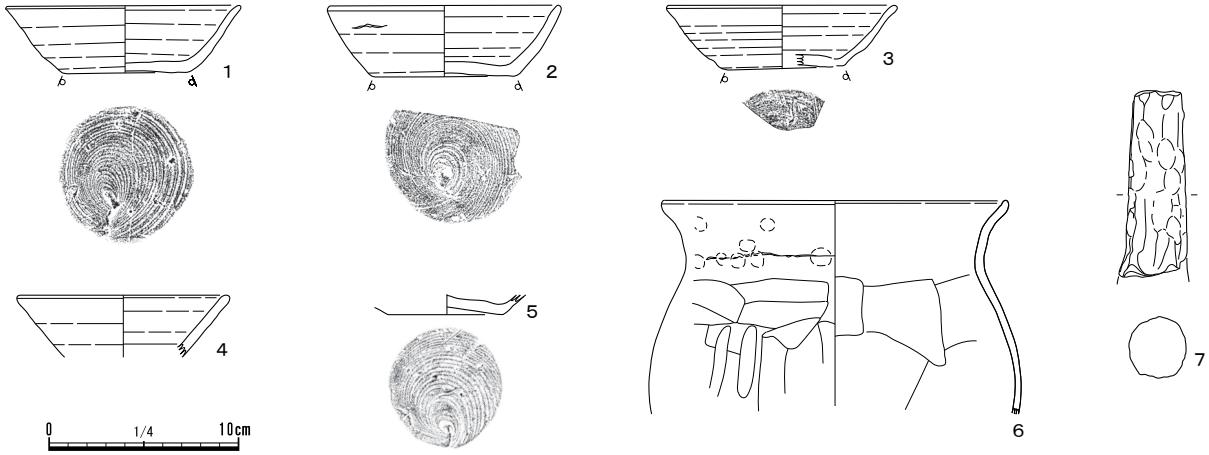
１～５は須恵器坏、６は土師器甕である。

［土 製 品］（第 174 図７、図版 93 －２－７、第 68 表）

７は支脚である。



第 173 図　307 号住居跡カマド（１／30）



第 174 図　307 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 174 図 1 図版 93- 2 -1	須恵器 坏	カマド東側の覆土中（床上 4cm）	口縁～底部 90%	高　3.5 口　12.4 底　6.7	灰黄色	砂粒・小礫中量	口縁部は外傾する／底部回転糸切り離し後未調整／回転ナデ	東金子窯跡産
第 174 図 2 図版 93- 2 -2	須恵器 坏	カマド東側の床面上	口縁～底部 40%	高　3.8 口　(12.3) 底　7.5	灰黄褐色～オリーブ黒	砂粒・白色針状物質・小礫中量	口縁部は外傾する／底部回転糸切り離し後未調整／回転ナデ／内面見込み平滑	東金子窯跡産
第 174 図 3 図版 93- 2 -3	須恵器 坏	南壁中央付近の床上レベル・覆土中（床上 5 cm）	口縁～底部 30%	高　[3.4] 口　12.2 底　6.2	灰色	砂粒・小礫中量	体部薄い／底部回転糸切り離し後未調整／回転ナデ	東金子窯跡産
第 174 図 4 図版 93- 2 -4	須恵器 坏	西側のほぼ床面上・覆土中（床上 10cm）	口縁部 20%	高　[3.4] 口　(11.4)	灰色	砂粒・白色粒子中量	回転ナデ	東金子窯跡産
第 174 図 5 図版 93- 2 -5	須恵器 坏	南東コーナー付近の覆土中（床上 6cm）	底部 20%	高　[1.1] 底　6.2	暗灰黄色	砂粒・白色粒子中量／長石・小礫少量	底部回転糸切り離し後未調整／見込中央部が高い／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ／内面見込み平滑	東金子窯跡産
第 174 図 6 図版 93- 2 -6	土師器 甕	Ｐ１範囲の覆土中（床上 13cm）	口縁～胴部 10%	高　[11.4] 口　18.3	黒褐色～にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	口縁部は外反する／最大径を胴上部に持つ／内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	武蔵型甕

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 174 図 7 図版 93- 2 -7	土製品 支脚	南西コーナー付近の床面上	下部欠損	[9.8]	[3.6]	[3.2]	120.2	外面指ナデ・指押え	

第 68 表　307 号住居跡出土遺物一覧

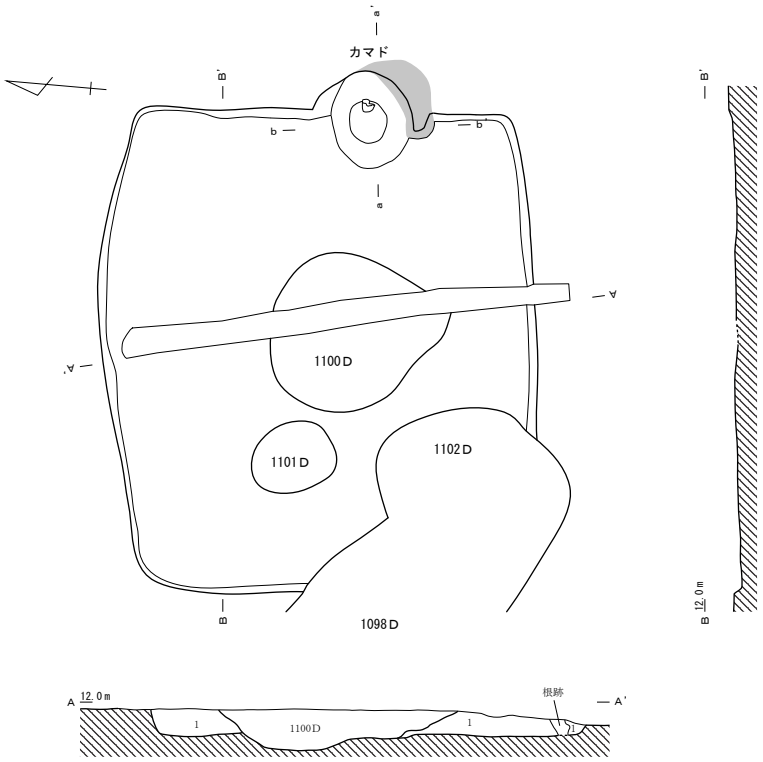
310 号住居跡

遺　　構（第 175・176 図）

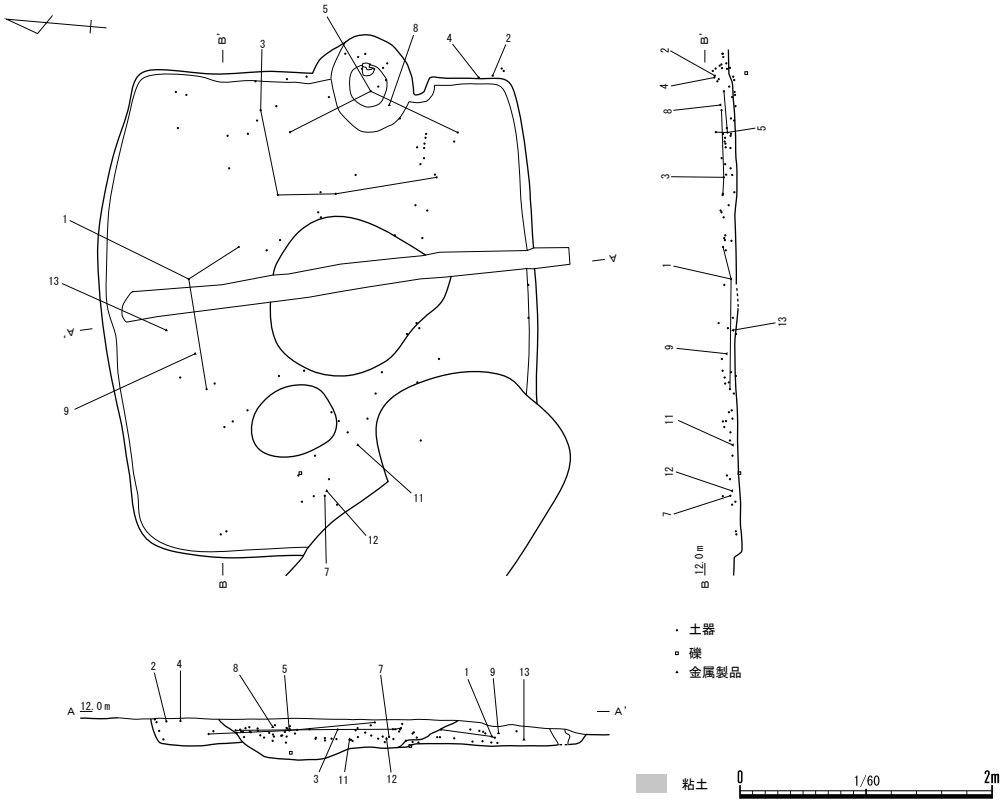
［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］317 Ｈ、13・14 Ｊを切り、1098・1100・1101・1102 Ｄに切られる。

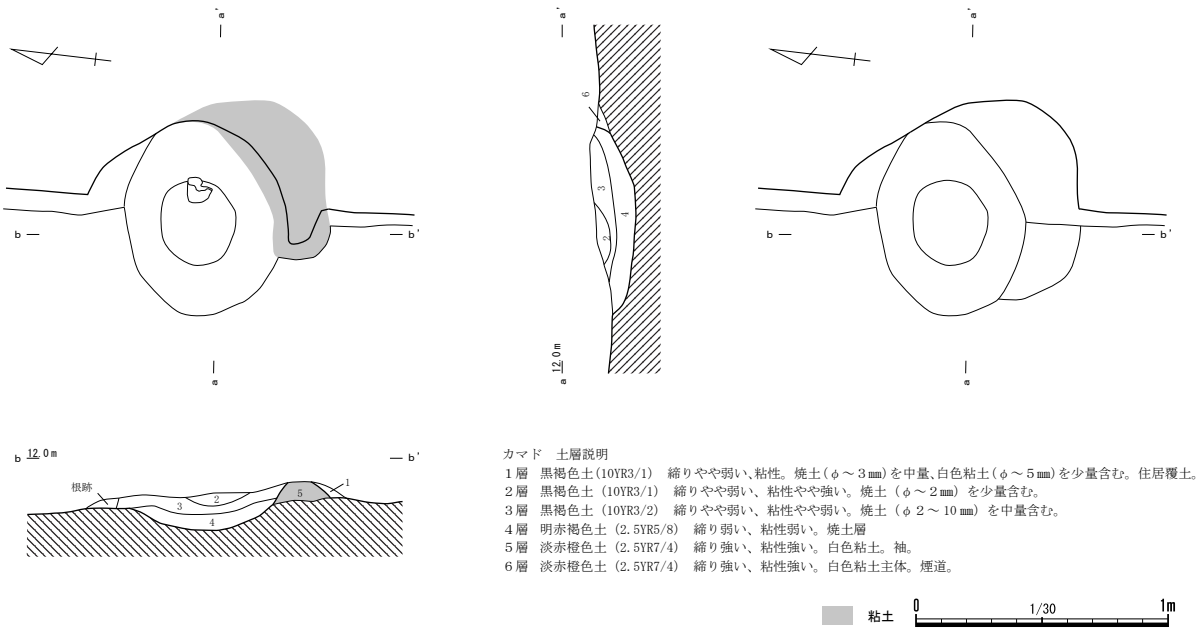
［構　　造］**平面形**：長方形。**規模**：長軸 3.91m ／短軸 3.52m ／深さ 21㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**主軸方位**：Ｎ―85°―Ｅ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：全体的に軟弱である。**カマド**：東壁の中央南よりに位置する。主軸方位はＮ－83°－Ｅ。長さ 85㎝／幅 97㎝／壁への掘り込み 37㎝。袖部は掘方から直接粘土を積み上げて構築されたと考えられる。火床面の中央奥よりの位置から、細長い礫が直



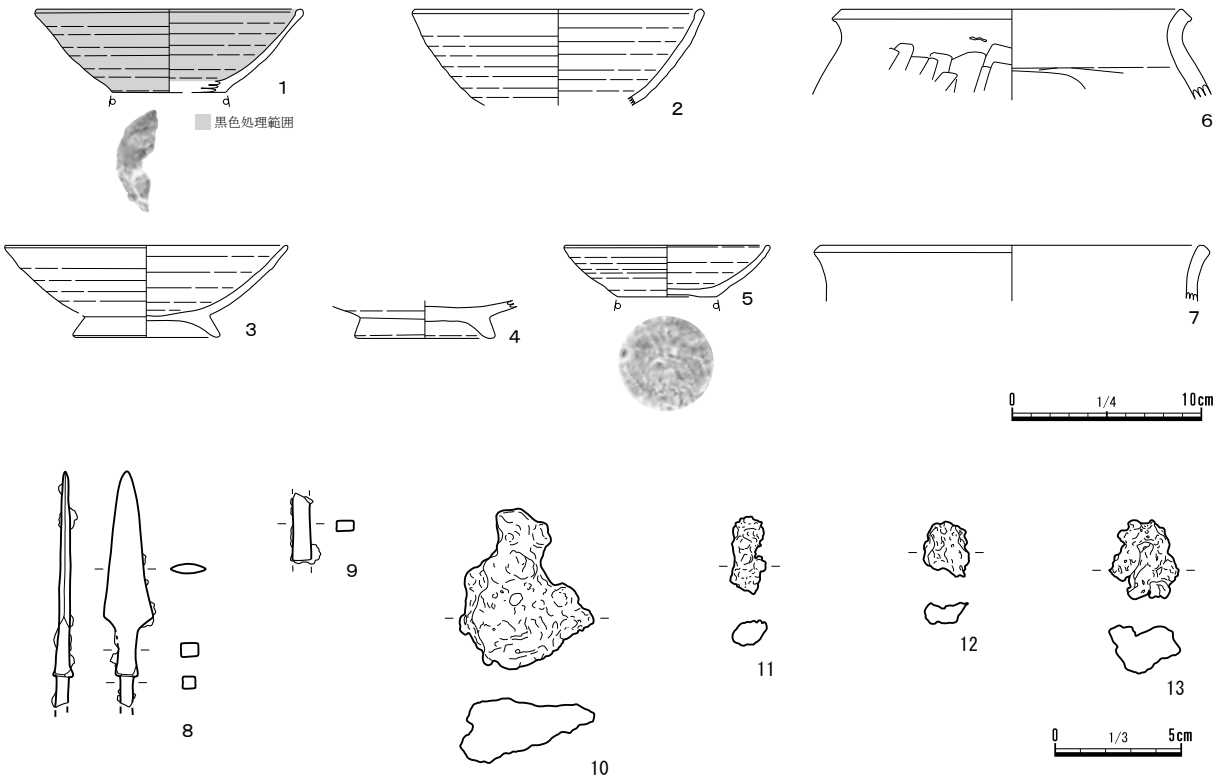
310H　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/2)　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～１㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.5～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～１㎜）を全体的に微量含む。



第 175 図　310 号住居跡・遺物出土状態（1／60）



第 176 図　310 号住居跡カマド（１／30）



第 177 図　310 号住居跡出土遺物（１／３・１／４）

立して出土しており、支脚として使用されたものと推測されれる。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

［覆　　土］単層。

［遺　　物］須恵系土師質土器坏・高台付坏・皿、土師器甕、鉄鏃、鉄滓、支脚として使われた礫が出土した。６と 10 は 1100 Ｄからの出土であるが、本遺構に帰属する可能性が高いと考えられるため、ここに掲

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 177 図 1 図版 91- 3-1	須恵系土師質土器 坏	北側の覆土中（床上 4 ～ 11cm）	口縁～底部 20%	高 4.4 口 (14.2) 底 6.0	黒褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	内外面黒色処理／底部回転糸切り離し後未調整／回転ナデ	
第 177 図 2 図版 91- 3-2	須恵系土師質土器 坏	南東コーナーの覆土中（床上 17cm）	口縁～体部 25%	高 [5.0] 口 (15.6)	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・小礫中量／石英・角閃石少量	回転ナデ	
第 177 図 3 図版 91- 3-3	須恵系土師質土器 高台付坏	中央東側の覆土中（床上 10 ～ 12cm）	口縁～高台部 40%	高 4.9 口 (15.0) 底 7.7	明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	底部回転糸切り離し／回転ナデ	
第 177 図 4 図版 91- 3-4	須恵系土師質土器 高台付坏	南東コーナーの覆土中（床上 18cm）	高台部	高 [2.0] 底 (7.4)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／小礫少量	回転ナデ	
第 177 図 5 図版 91- 3-5	須恵系土師質土器 皿	カマド内（火床上 14cm）、カマド風片の覆土中（床上 7・17cm）	口縁～底部 20%	高 2.2 口 (10.9) 底 (5.2)	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	底部回転糸切り離し後未調整／回転ナデ	
第 177 図 6 図版 91- 3-6	土師器 甕	1100D（底上 15cm）	口縁～頸部 5%	高 [4.8] 口 (19.0)	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	口唇幅広い／口縁部は短く外反する／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	
第 177 図 7 図版 91- 3-7	土師器 甕・鉢	西側の覆土中（床上 5cm）	口縁部 5%	高 [3.0] 口 (20.9)	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	横ナデ	

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 177 図 10 図版 91- 3-10	鉄滓	1100D（底上 20cm）	－	鉄	6.3	5.3	2.8	66.0		
第 177 図 11 図版 91- 3-11	鉄滓	西側の覆土中（床上 3cm）	－	鉄？	3.1	1.5	1.2	2.7	被熱により発泡	
第 177 図 12 図版 91- 3-12	鉄滓	西側の覆土中（床上 4cm）	－	鉄？	2.2	1.9	0.9	1.5	被熱により発泡	
第 177 図 13 図版 91- 3-13	鉄滓	北側の覆土中（床上 3cm）	－	鉄？	3.3	2.8	1.9	4.0	被熱により発泡	
第 177 図 8 図版 91- 3-8	鉄製品 鉄鏃	カマド内（火床上 17cm）	茎端部欠損	鉄	[9.4]	2.0	0.6	13.8	鏃身部は長三角形を呈し、断面は両丸造、斜めの関を有す／関箆被／鏃身部長 6.3cm／幅 1.9cm／厚 0.4cm／箆被部長 1.9cm／幅 0.6cm／厚 0.5cm ／茎部 [1.2]cm／幅 0.5cm／厚さ 0.4cm	
第 177 図 9 図版 91- 3-9	鉄製品 鉄鏃	北側の覆土中（床上 8cm）	箆被部	鉄	[2.7]	0.6	0.4	2.9	長頸鏃の箆被部／断面長方形	

第 69 表　310 号住居跡出土遺物一覧

載する。

［時　　期］平安時代（10 世紀前葉）。

遺　　物（第 177 図、図版 93 － 3、第 69 表）

［土　　器］（第 177 図 1 ～ 7、図版 93 － 3 － 1 ～ 7、第 69 表）

1 ～ 5 は須恵系土師質土器で、1 ・ 2 は坏、3 ・ 4 は高台付坏、5 は皿、6 は土師器の甕、7 は土師器の甕あるいは鉢である。

［鉄 製 品］（第 177 図 8 ～ 13、図版 93 － 3 － 8 ～ 13、第 69 表）

8 ・ 9 は鉄鏃、10 ～ 13 は鉄滓である。

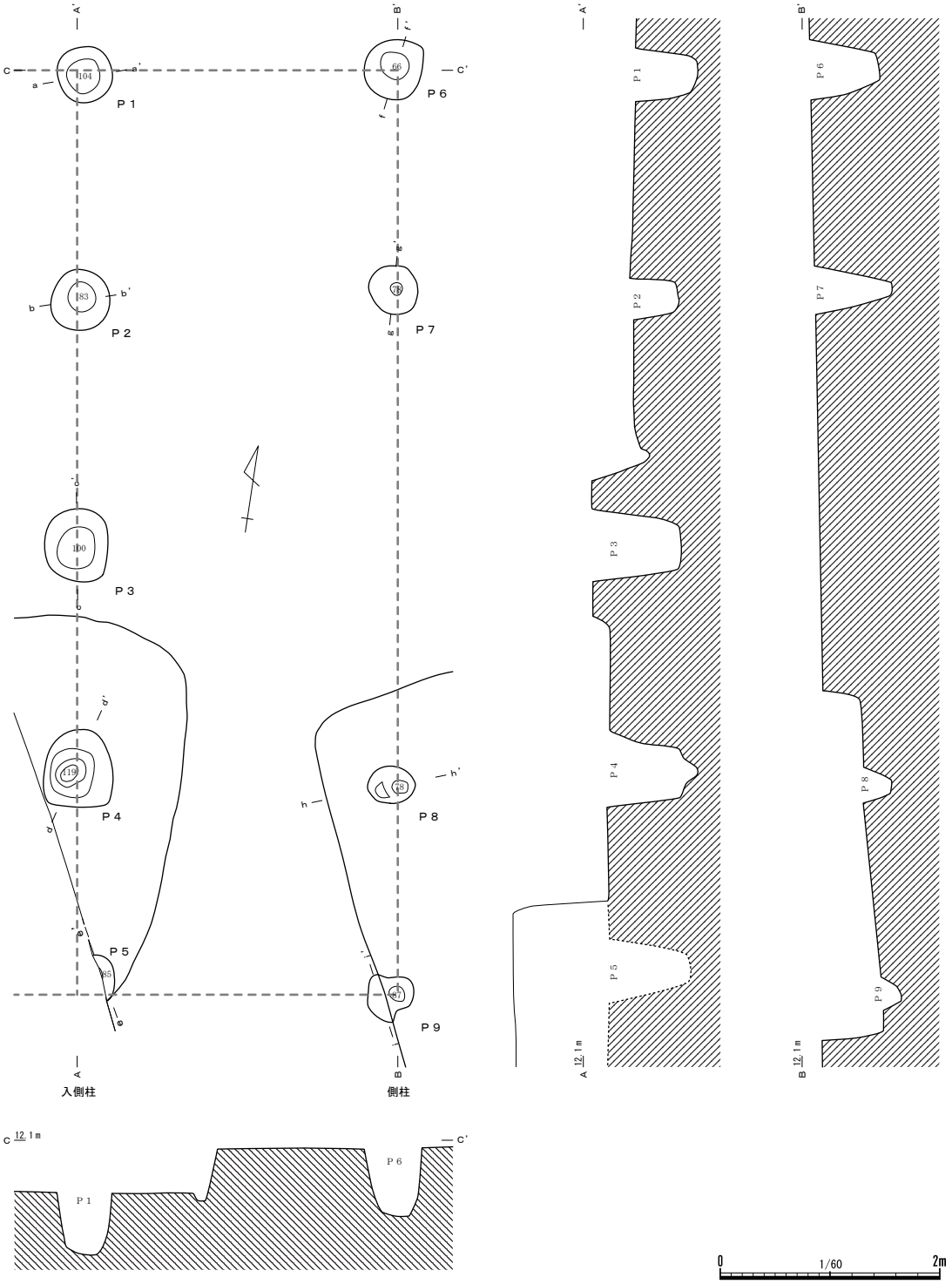
（３）掘立柱建築遺構

12 号掘立柱建築遺構

遺　　構（第 178・179 図）

［位　　置］（Ｄ－６～８）グリッド。

［検出状況］調査時点では、個別の土坑やピットとして扱っていたが、調査終盤から整理作業において、掘立柱建築遺構であるという認識にいたった。西側の調査区境で検出したため、建物の大部分が調査区



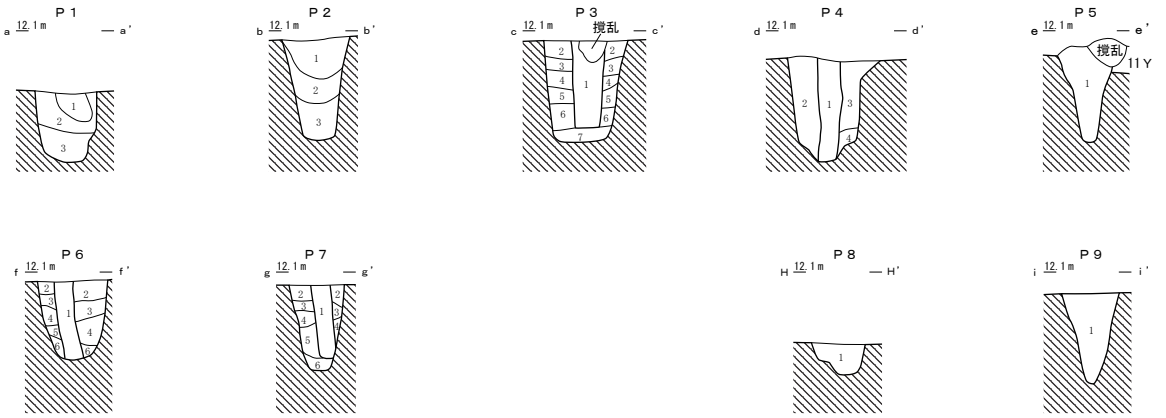
第 178 図　12 号掘立柱建築遺構（1／60）

外である。304 H・305 H、11 Y、10 J を切る

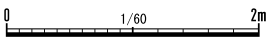
［構　　造］**平面形式**：桁行４間、南北棟、東面庇の側柱建物。**規模**：桁行総長 8.95m ／梁行総長 3.47m 以上。**主軸方位**：N―９°―W。**柱穴**：東側の柱穴は西側のものに比べ、平面規模が小さく、掘り込みの深さも浅いことから、庇に伴う柱穴と推測される。西側の柱穴を入側柱、東側の柱穴を側柱と考えた。＜入側柱＞平面形は円形～楕円形。規模は長軸 52 ～ 71㎝／短軸 51 ～ 66㎝／深さ 83 ～ 119㎝。柱間間隔はＰ１－２間 210㎝／Ｐ２－３間 225㎝／Ｐ３－４間 207cm ／Ｐ４－５間（推定）200㎝でほぼ等間。覆土は、Ｐ３・４では柱痕跡が確認され、埋土は黒褐色土・暗褐色土を基調とし、ローム粒の多寡により互層状を呈す。＜側柱＞平面形は円形～楕円形。規模は長軸 44 ～ 54㎝／短軸 35 ～ 54㎝／深さ 66 ～ 87㎝。柱間間隔はＰ６－７間 199㎝／Ｐ７－８間 452㎝／Ｐ８－９間 191cm。覆土は、Ｐ６・７では柱痕跡が確認され、埋土は黒褐色土・暗褐色土を基調とし、ローム粒の多寡により互層状を呈す。

［遺　　物］土師器の小片が少量出土した。その内の１点が武蔵型甕かと思われる。小片のため図示できなかった。

［時　　期］平安時代（9 世紀代か）。



Ｐ１　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、炭化物（φ0.5～1㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に微量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
Ｐ２　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、炭化物（φ0.5～5㎜）を中量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。
２層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
Ｐ３　土層説明
１層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に微量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（10YR3/4）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～5㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5～1㎜）を全体的に少量含む。
４層　暗褐色土(10YR3/4)　締り非常に強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量含む。
５層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に多量含む。
６層　黒色土（7.5YR2/1）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を全体的に中量含む。
７層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締り非常に強い、粘性強い。ローム(φ0.5～1㎜)を全体的に極多量含む。
Ｐ４　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～20㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。柱痕跡
２層　暗褐色土（10YR3/3）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～30㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。
Ｐ５　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/4）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ20～40㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。
Ｐ６　土層説明
１層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を中量含む。柱痕跡。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量含む。
６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
Ｐ７　土層説明
１層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.5～1㎜)を中量含む。柱痕跡。
２層　黒褐色土（7.5YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。
３層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量含む。
４層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。
５層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量含む。
６層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
Ｐ８　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～50㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。
Ｐ９　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～30㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。

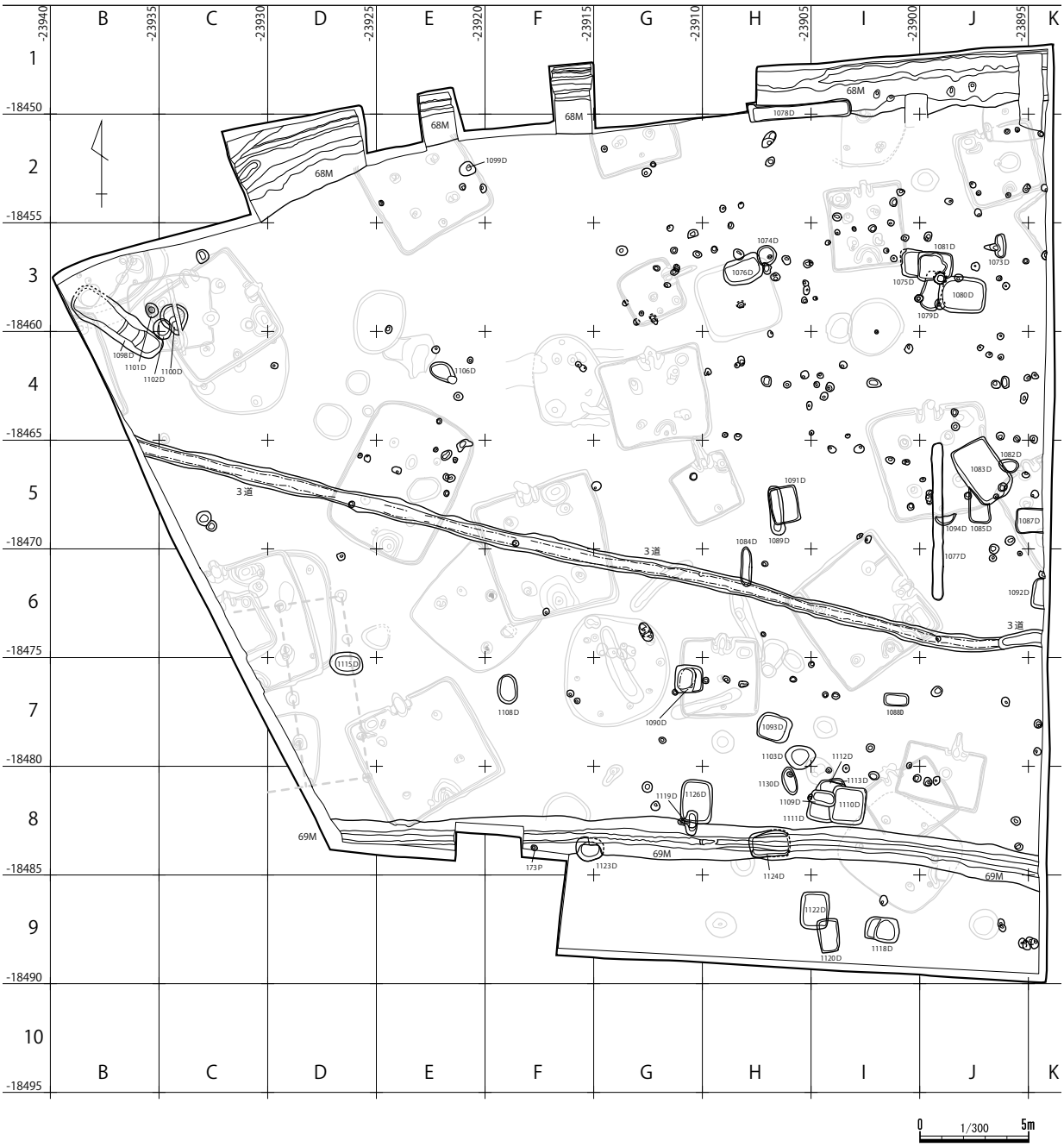


第 179 図　12 号掘立柱建築遺構（１／60）

第６節　中世以降

（1）概　要

中世以降の遺構は、溝跡２本、道路状遺構１本、土坑 41 基、ピット 188 基を検出した。ほとんどの遺構は、帰属時期を示す遺物が乏しく、切合関係や覆土の様相から中世以降とした。土坑の内、1073 Dと 1119 Dは、Ｔ字形の平面形を呈す火葬土坑である。この２基から出土した炭化材を対象に、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施している（詳細は［付編］自然科学分析を参照）。1119 Dは 69 Mを切っており、1119 Dの年代測定の成果は 69 Mの下限年代の推定の参考となる。



第 180 図　中世以降の遺構全体図（１／300）

（２）溝跡

68 号溝跡

遺　構（第 181・185 図）

［位　置］（Ｃ－２、Ｄ～Ｆ－１・２、Ｈ～Ｋ－１）グリッド。

［構　造］北側の調査区境で検出したため、大半が調査区外である。調査範囲内で、北側の立ち上がりを確認できるところはない。４Ｊ、300・316・320 Ｈを切り、1078 Ｄに切られる。**平面形**：東側は東西方向に直線的、西側は南西方向にやや弧状に伸びる。**断面形**：数段の緩い階段状で、概ね浅いＶ字形を呈す。**規模**：上幅 4.15m 以上／下幅 0.9m 以上／深さ 90 ～ 173㎝／検出長 37.89m。**走行方位**：東側でＮ―86°―Ｅ、西側でＮ―74°―Ｅ。**硬化面**：東側の区域で硬化面が確認された。**覆土**：ローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。

［遺　物］陶磁器の小片が出土した。

［時　期］近世（18 世紀）。

遺　物（第 182 図、図版 94 －１、第 70 表）

１は磁器碗、２は陶器で器種は不明である。

69 号溝跡

遺　構（第 183・186 図）

［位　置］（Ｄ～Ｊ－８、Ｊ・Ｋ－９）グリッド。

［構　造］304・319 Ｈ、９Ｙ、1127・1104 Ｄを切り、1119・1123・1124・1126 Ｄ、173 Ｐに切られる。**平面形**：東西方向に直線的に伸びる。**断面形**：緩い断掘りを有し、概ねＶ字形を呈す。**規模**：上幅 1.29 ～ 1.97m ／下幅 0.1 ～ 0.34m ／深さ 79 ～ 88㎝／検出長 32.08m。**走行方位**：Ｎ―87°―Ｗ。**硬化面**：確認されなかった。**覆土**：ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　物］陶器が散漫に分布する。

［時　期］中世（13 世紀）。

遺　物（第 184 図、図版 94 －２、第 71 表）

１～４は陶器で、１は片口鉢、２～４は甕である。

（３）道路状遺構

３号道路状遺構

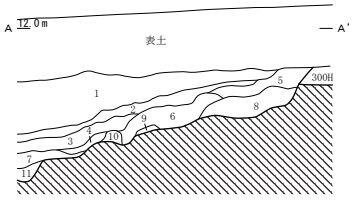
遺　構（第 187・188 図）

［位　置］（Ｂ～Ｋ－５～６）グリッド。

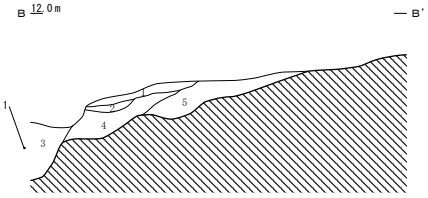
［構　造］９Ｊ、10 Ｙ、１方、315･309 Ｈ、111･164･165 Ｐを切り、1084 Ｄに切られる。**平面形**：（Ｂ－５）グリッドから（Ｊ－６）グリッドにかけて直線的に伸び、（Ｊ－６）グリッドで緩く屈曲する。**断面形**：皿状を呈す。**規模**：上幅 57 ～ 97㎝／下幅 43 ～ 66㎝／深さ 10 ～ 20㎝／検出長 42.74m。**走行方位**：（Ｊ－６）グリッド以西Ｎ―77°―Ｗ／以東Ｎ―58°―Ｗ。**硬化面**：底面を含め４～５面の硬化面が確認できた。東端の部分では硬化面は確認できなかった。**覆土**：ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。硬く締った層とやや軟らかい層と互層となる。

［遺　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

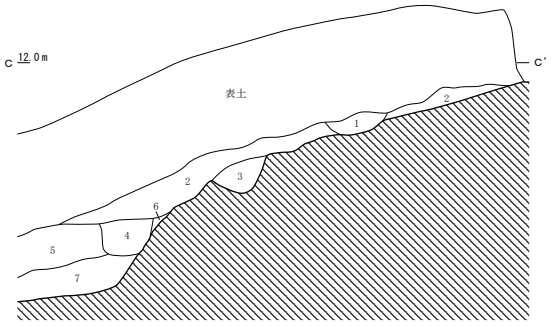
［時　　期］中世以降。



Ａ－Ａ’　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～５㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～10㎜）を全体的に少量含む。
３層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～５㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
４層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を多量含む。
５層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～５㎜）を全体的に中量含む。
６層　暗褐色土（7.5YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
７層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量含む。
８層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
９層　暗褐色土（10YR3/4）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。
10層　暗褐色土(10YR3/4)　締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～30㎜)を全体的に多量、焼土(φ0.５～１㎜)を全体的に微量含む。
11層　暗褐色土（7.5YR3/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。



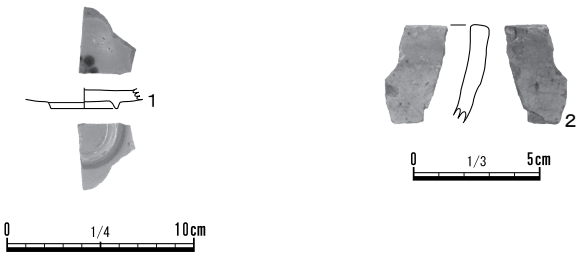
Ｂ－Ｂ’　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、炭化物（φ１～３㎜）を部分的に微量、焼土（φ0.５～１㎜）を部分的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～10㎜）を全体的に多量含む。
４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に多量、炭化物（φ0.５～１㎜）を部分的に微量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～10㎜）を全体的に多量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。



Ｃ－Ｃ’　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に中量、礫（φ0.５～１㎜）を全体的に少量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.５～１㎜）を全体的に少量、炭化物（φ0.５～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
３層　黒褐色土（10YR2/2）　締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ0.５～10㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
４層　黒褐色土(7.5YR2/2)　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～１㎜)を全体的に少量、焼土（φ0.５～１㎜）を全体的に微量含む。
５層　極暗褐色土(7.5YR2/3)　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～１㎜)を全体的に中量、礫（φ0.５～１㎜）を全体的に多量含む。
６層　褐色土（7.5YR4/6）　締りやや強い、粘性。ローム（φ0.５～５㎜）を全体的に極多量含む。堀り過ぎ
７層　暗褐色土(7.5YR3/4)　締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.５～１㎜)を全体的に多量含む。

0　1/60　2m

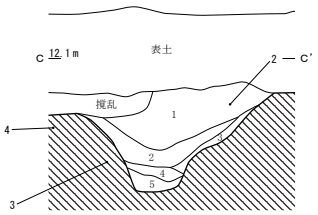
第 181 図　68 号溝跡（１／60）



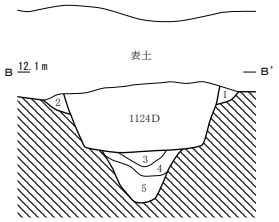
第 182 図　68 号溝跡出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 182 図 1 図版 94- 1 -1	磁器 碗	底上 25㎝	底部 25％	高　　[1.1] 底　　(3.5)	黄灰色	緻密	内面見込み呉須描き梅文／外面高台接合部に呉須描き圏線／貼り付け高台／透明釉	肥前／ 18 世紀後半
第 182 図 2 図版 94- 1 -2	陶器 不明	Ｄ－２グリッド	口縁部片	厚　　0.7	灰色	緻密	内面貫入／白色釉	瀬戸・美濃系／近世

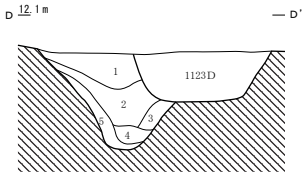
第 70 表　68 号溝跡出土遺物一覧



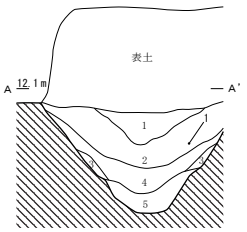
C－C’　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～20㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～50㎜）に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ30～100㎜）に中量含む。
４層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ20～100㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。



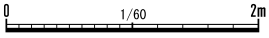
B－B’　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、暗褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。
２層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ150㎜程）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ180㎜程）に多量含む。
３層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
４層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土(φ0.5～1㎜)を斑状に中量含む。
５層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ20～60㎜)に少量、褐色土(φ0.5～1㎜）をブロック状（φ30～150㎜）に多量含む。



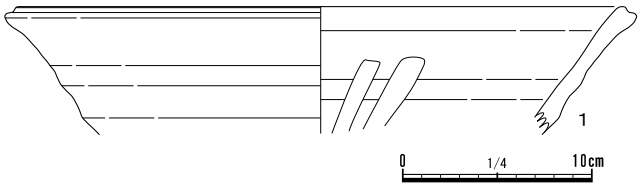
D－D’　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ10～30㎜）に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状・ブロック状（φ10～30㎜）に微量、焼土（φ２～５㎜）を部分的に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　褐色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。
４層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～30㎜)に少量、褐色土(φ0.5～1㎜）を極多量含む。
５層　暗褐色土(10YR3/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～40㎜)に少量、褐色土(φ0.5～1㎜）を極多量含む。

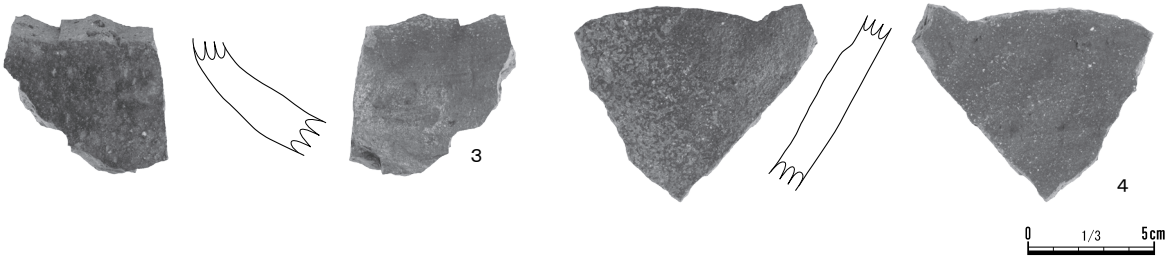


A－A’　土層説明
１層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～30㎜)に微量、褐色土(φ0.5～1㎜）を極多量含む。
３層　褐色土(10YR4/4)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土(φ0.5～1㎜)を斑状に中量含む。
４層　黒褐色土(10YR2/3)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状(φ10～50㎜)に少量、褐色土(φ0.5～1㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。

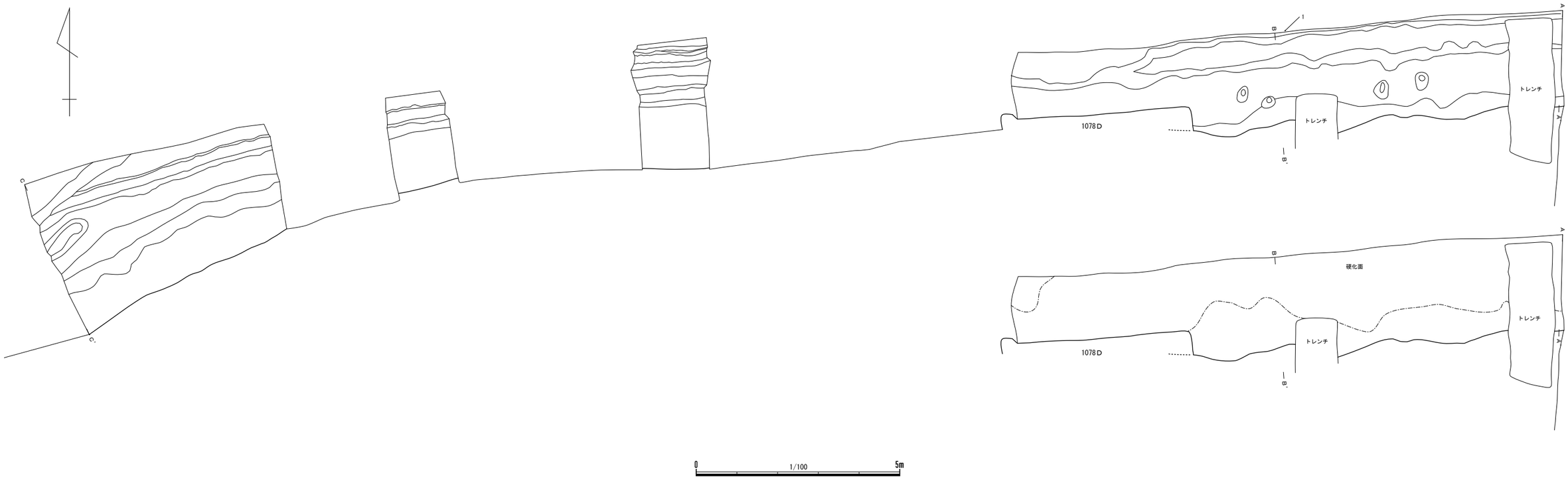


第 183 図　69 号溝跡（１／60）

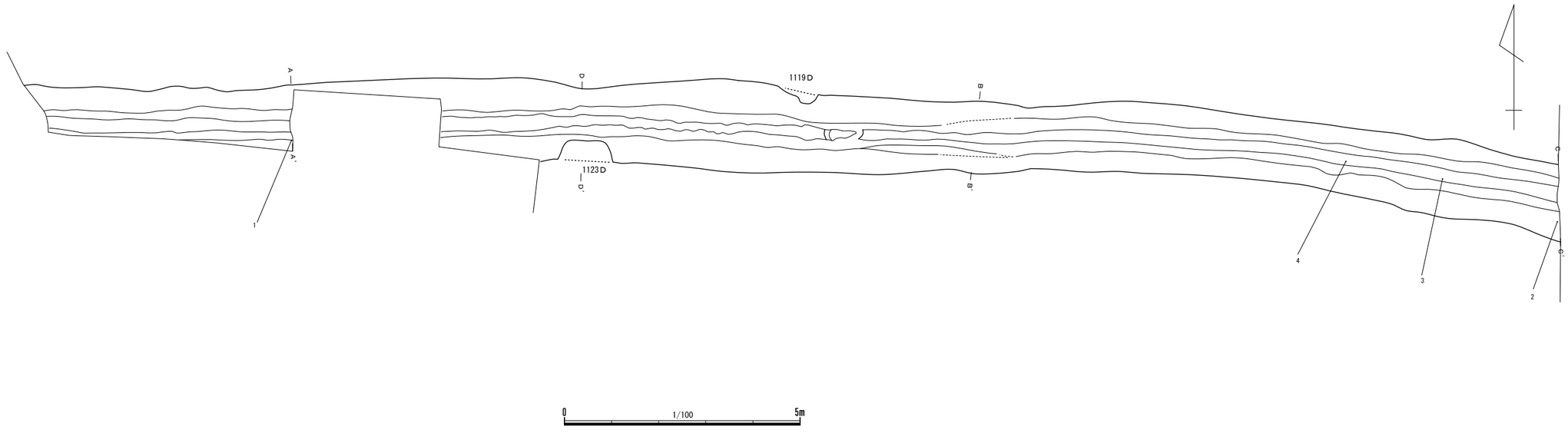




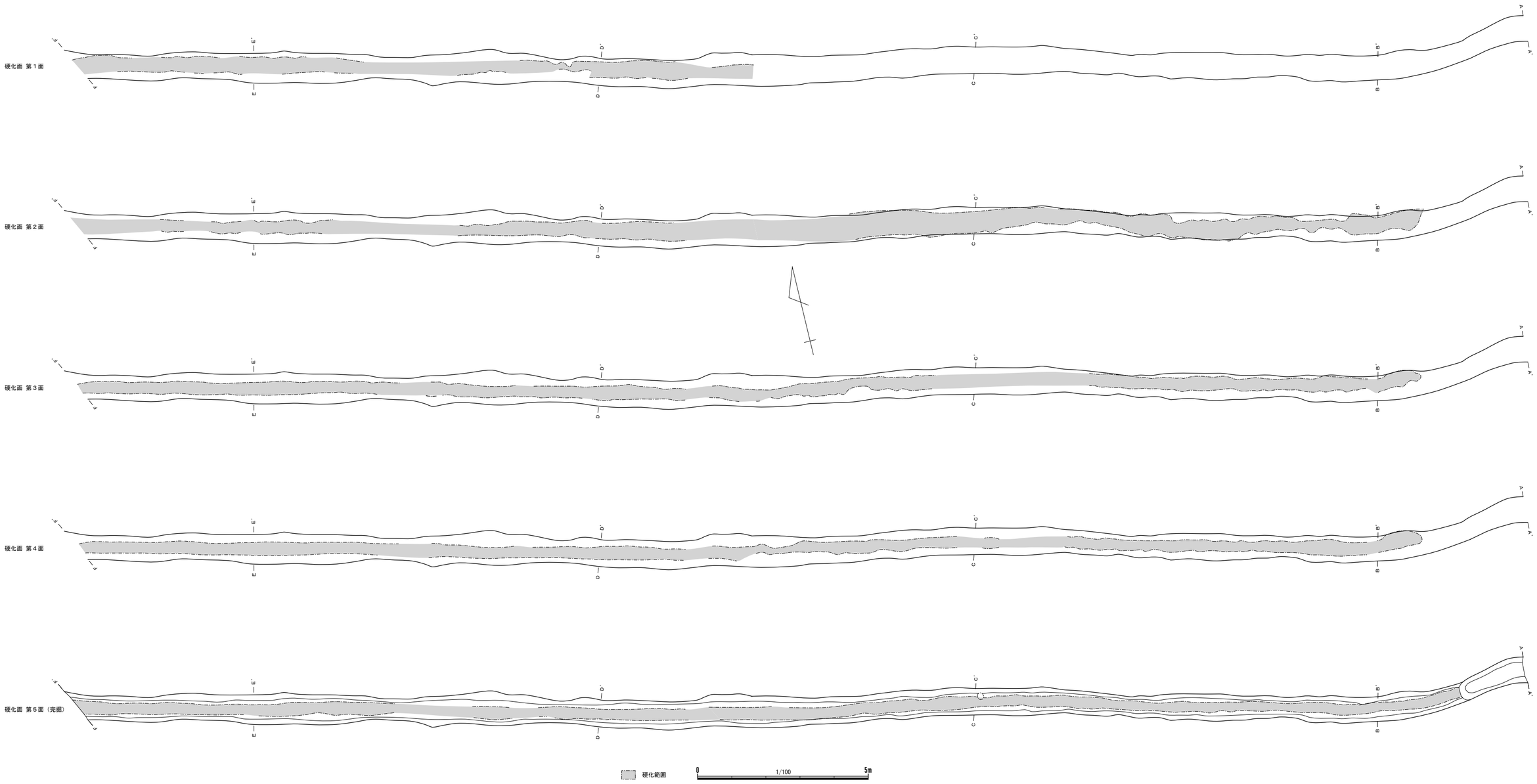
第 184 図　69 号溝跡出土遺物（１／３・１／４）



第 185 図　68 号溝跡（1 ／ 100）



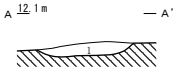
第 186 図　69 号溝跡（1 ／ 100）



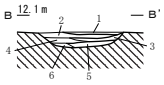
第 187 図　３号道路状遺構（１／100）

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 184 図 1 図版 94- 2 -1	陶器 片口鉢	底上 55cm	口縁部 ～体部 ５％	高　　[6.7] 口　　(33.4)	にぶい黄 橙色	緻密。砂粒少量	轆轤成形／口唇部沈線／内面下半平滑／捏鉢／無釉	山茶碗窯系／ 13 世紀
第 184 図 2 図版 94- 2 -2	陶器 甕	底上 68cm	口縁部 片	厚　　1.3	灰色	緻密	口縁部内面降灰が溶けて濃緑色を呈す／自然釉	常滑／ 13 世紀前半
第 184 図 3 図版 94- 2 -3	陶器 甕	底上 23cm	肩部片	厚　　1.6	灰色	緻密	外面面降灰が溶けて濃緑色を呈す／自然釉	常滑／ 13 世紀前半
第 184 図 4 図版 94- 2 -4	陶器 甕	底上 50cm	胴部片	厚　　1.3	灰色	緻密	外面面降灰が溶けて斑な緑白色を呈す／自然釉	常滑／ 13 世紀前半

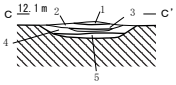
第 71 表　69 号溝跡出土遺物一覧



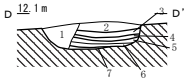
A－A’
３道 -A　土層説明
１層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に微量含む。



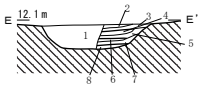
B－B’
３道 -B　土層説明
１層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に微量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に微量含む。
３層　黒褐色土（10YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。焼土を全体的に中量含む。
４層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に中量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に中量含む。
５層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に少量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に少量含む。
６層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に少量含む。



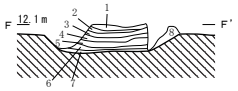
C－C’
３道 -C　土層説明
１層　黒色土（10YR2/1）　締り非常に強い、粘性やや強い。焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に少量含む。
２層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に少量含む。
３層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に微量含む。
４層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を部分的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に微量含む。
５層　黒褐色土（10YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に微量、焼土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を全体的に微量含む。



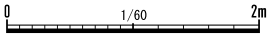
D－D’
３道 -D　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。ロームは下部に偏る
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
３層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。焼土（φ 1 ㎜程）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
４層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
６層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
７層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）をブロック状（φ50 ㎜程）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。



E－E’
３道 -E　土層説明
１層　暗褐色土（10YR3/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状・ブロック状（φ30 ㎜程）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
３層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
４層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。焼土（φ 1 ～ 2 ㎜）を部分的に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
６層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
７層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
８層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）をブロック状（φ30 ㎜程）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。



F－F’
３道 -F　土層説明
１層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
２層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
３層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。焼土（φ 2 ～ 3 ㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
４層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
５層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を極多量含む。
６層　黒褐色土（10YR3/2）　締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状・ブロック状（φ10 ～ 40 ㎜）に少量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。
７層　褐色土（10YR4/4）　締り非常に強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を斑状に少量含む。
８層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5 ～ 1 ㎜）を少量、褐色土（φ0.5 ～ 1 ㎜）を多量含む。ロームは下部に偏る



第 188 図　３号道路状遺構（１／ 60）

（4）土坑

帰属時期の推定にあたっては、出土遺物が少ないため、覆土や切合関係、周辺の調査事例との類似性などが主な判断材料である。ここでは、形態による分類を行い、報告する。分類は、本遺跡第 42 地点の調査報告書（尾形・深井・青木　2005）および中野遺跡第 95 地点の調査報告書（徳留・尾形・青木　2017）に掲げられた基準に準拠した。

分類基準を以下に示す。

Ａ群　平面方形の土坑
　１類　袋状の構造を呈する
　２類　袋状ではなく、単純構造を呈する
Ｂ群　平面長方形の土坑
　１類　溝状の土坑
　２類　幅狭の長方形土坑
　３類　幅広の長方形土坑
　４類　火床部を有する土坑
Ｃ群　平面円形・楕円形の土坑
Ｄ群　不整形の土坑
Ｅ群　地下室・地下坑
　１類　１竪坑１主体部タイプ
　２類　１竪坑複数主体部タイプ
Ｆ群　Ｔ字形の土坑

すべての分類が確認されたわけではなく、Ａ群１類、Ｂ群１類、Ｂ群４類、Ｄ群、Ｅ群は本調査では確認されなかった。Ａ群２類は５基、Ｂ群２類は５基、Ｂ群３類は 16 基、Ｃ群は 13 基、Ｆ群は２基検出した。該当する遺構を第 72 表にまとめた。

分類	形状		数量	該当土坑番号
Ａ群１類	平面方形	断面袋状	0	
Ａ群２類		単純構造	5	1090・1092・1110・1111・1112
Ｂ群１類	平面長方形	溝状	0	
Ｂ群２類		幅狭長方形	5	1077・1078・1084・1089・1098
Ｂ群３類		幅広長方形	16	1075・1076・1079・1080・1081・1083・1085・1087・1088・1091・1093・1118・1120・1122・1124・1126
Ｂ群４類		火床部有	0	
Ｃ群	平面円形・楕円形		13	1074・1082・1094・1099・1100・1101・1102・1106・1108・1109・1113・1115・1123
Ｄ群	不整形		0	
Ｅ群１類	地下室・地下坑	単一主体部	0	
Ｅ群２類		複数主体部	0	
Ｆ群	Ｔ字形		2	1073・1119
計			39	

第 72 表　土坑集計表

Ａ群２類　方形の土坑（単純構造）

1090 号土坑

遺　　構（第 189 図）

［位　　置］（Ｇ－７）グリッド。

［構　　造］311 Ｈ、123 Ｐを切る。平面方形、断面概ね箱形、坑底はやや凹凸、東側に段差 10㎝、幅 30㎝ほどの段を有す。**規模**：1.29m 四方。**深さ**：42㎝。**長軸方位**：Ｎ。**覆土**：７層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。３～５層に硬化がみられる。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

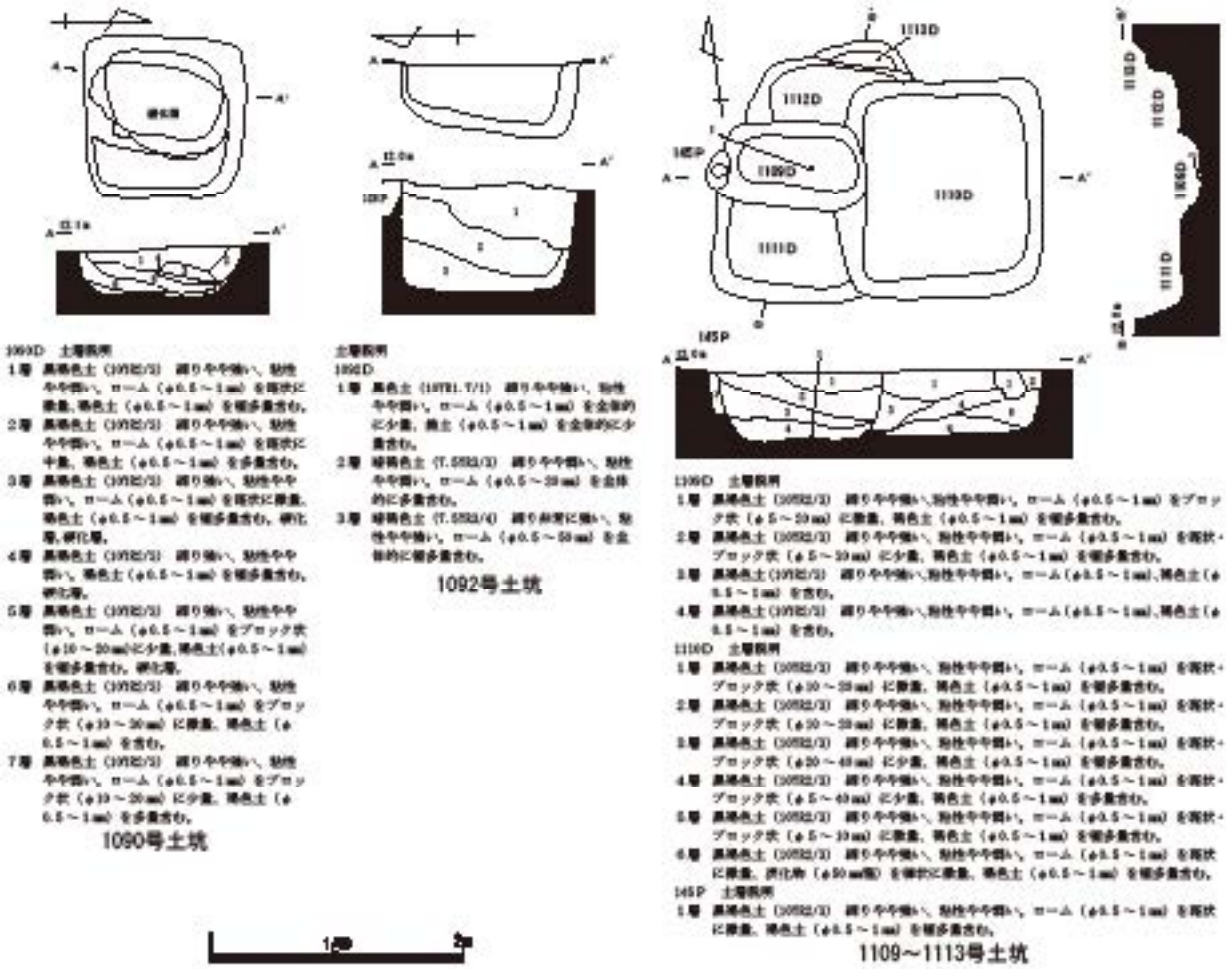
［時　　期］中世以降。

1092 号土坑

遺　　構（第 189 図）

［位　　置］（Ｋ－６）グリッド。

［構　　造］東側の調査区境で検出したため、遺構の大半が未調査である。125 Ｐを切る。平面方形、断面箱形、坑底は平坦。**規模**：1.4m × 0.7m 以上。**深さ**：80cm。**長軸方位**：Ｎ―11°―Ｅ。**覆土**：３層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。



第 189 図　Ａ群２類　方形の土坑（１／60）

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

1110 号土坑

遺　　構（第 189 図）
［位　　置］（Ｉ－８）グリッド。
［構　　造］319 H、1111・1112 Dを切り、1109 Dに切られる。平面方形、断面箱形、坑底は平坦、**規模**：1.74m × 1.67m。**深さ**：53cm。**長軸方位**：N―６°―Ｅ。**覆土**：６層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

1111 号土坑

遺　　構（第 189 図）
［位　　置］（Ｉ－８）グリッド。
［構　　造］1109・1110 Dに切られる。平面方形と思われ、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：1.27m 以上× 0.84m 以上。**深さ**：39cm。**長軸方位**：N―76°―W。**覆土**：不明。
［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

1112 号土坑

遺　　構（第 189 図）
［位　　置］（Ｉ－８）グリッド。
［構　　造］22 ＦＰ、1113 Dを切り、1109・1110 Dに切られる。平面は方形と思われ、断面は概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：1.31m 以上× 0.61m 以上。**深さ**：36cm。**長軸方位**：N―73°―W。**覆土**：不明。
［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

Ｂ群２類　幅狭長方形の土坑

1077 号土坑

遺　　構（第 190 図）
［位　　置］（Ｊ－５・６）グリッド。
［構　　造］306 H、1094 Dを切る。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。**規模**：7.25m × 0.53m。**深さ**：８cm。**長軸方位**：N。**覆土**：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。
［遺　　物］陶器が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。
［時　　期］近世（17 世紀以降）。
遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 73 表）
　１は陶器皿、２は陶器甕である。

1078 号土坑

遺　　構（第 190 図）

［位　　置］（Ｉ・Ｈ－１・２）グリッド。

［構　　造］４Ｊ、68 Ｍを切る。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。**規模**：4.71m × 0.87m。**深さ**：38cm。**長軸方位**：Ｎ―86°―Ｅ。**覆土**：単層。ローム粒を含む極暗褐色土である。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］中世以降。

1084 号土坑

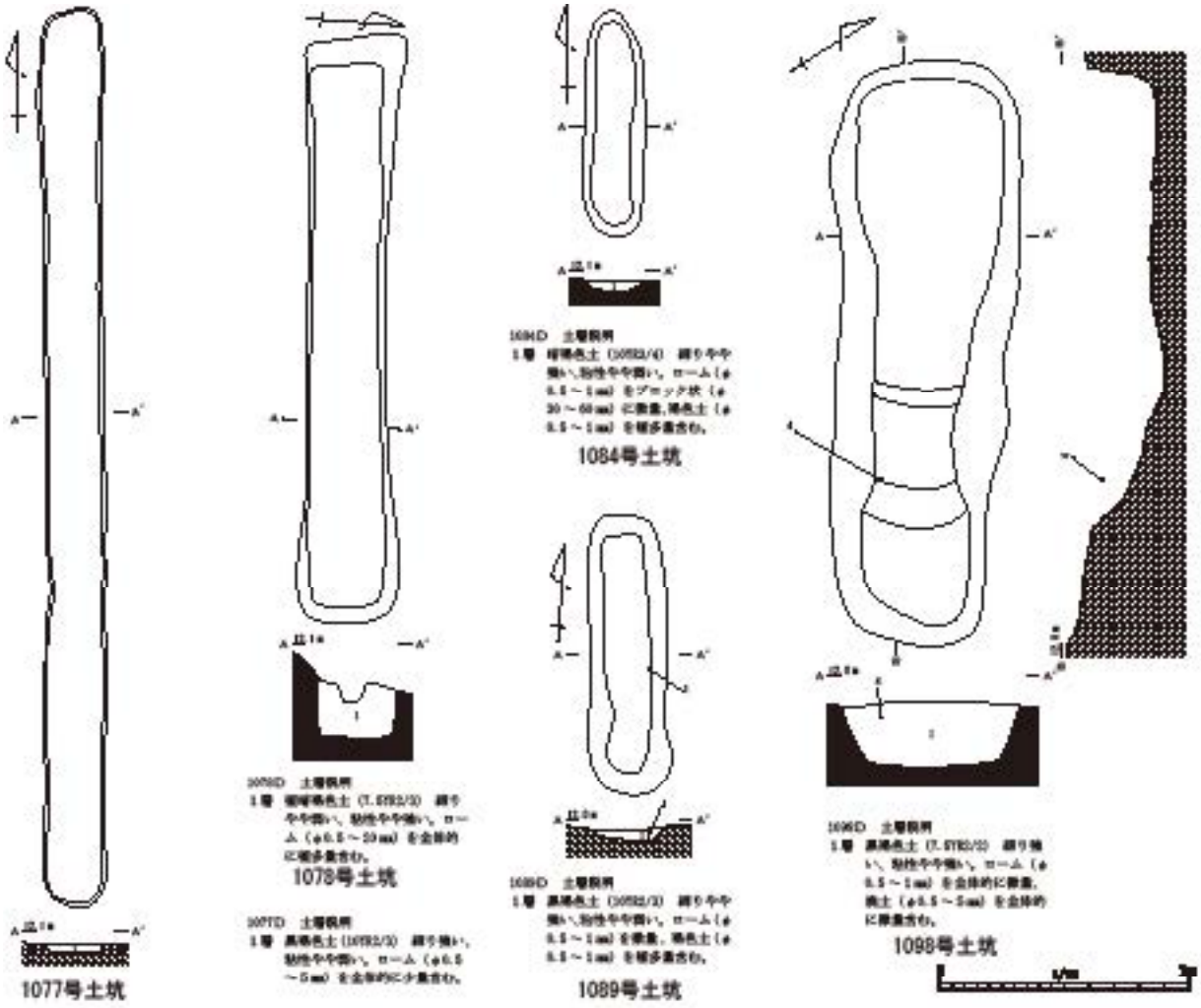
遺　　構（第 190 図）

［位　　置］（Ｈ－６）グリッド。

［構　　造］３道を切る。平面不整長方形、断面皿形、坑底は平坦。**規模**：1.82m × 0.52m。**深さ**：10cm。**長軸方位**：Ｎ。**覆土**：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

［遺　　物］土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。



第 190 図　Ｂ群２類　幅狭長方形の土坑（１／60）

1089 号土坑

遺　　構（第 190 図）

［位　　置］（Ｈ－５）グリッド。

［構　　造］1091 Ｄを切る。平面不整長方形、断面不整皿形、坑底は平坦。**規模**：2.27m × 0.67m。**深さ**：13cm。**長軸方位**：Ｎ―７°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］両釘が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

［時　　期］中世以降。

遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 74 表）

1 は鉄製品の両釘である。

1098 号土坑

遺　　構（第 190 図）

［位　　置］（Ｂ－３・４）グリッド。

［構　　造］310・318 Ｈ、11・13・14 Ｊ、1102・1114 Ｄを切る。平面不整長方形、断面は概ね逆台形、坑底は凹凸、南東から北西へ緩い階段状に下がる。**規模**：4.7m × 1.56m。**深さ**：77cm。**長軸方位**：Ｎ―58°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］陶器、銭貨、砥石、鉄滓が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

［時　　期］近世以降。

遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 75 表）

1 は砥石、２・３は鉄滓、４は銭貨である。

Ｂ群３類　幅広長方形の土坑

1075 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｉ・Ｊ－３）グリッド。

［構　　造］308 Ｈ、1081 Ｄを切る。平面長方形と思われ、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：1.3m × 0.97m 以上。**深さ**：52cm。**長軸方位**：Ｎ―４°―Ｅ。**覆土**：８層に分層。ローム粒を含む黄褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

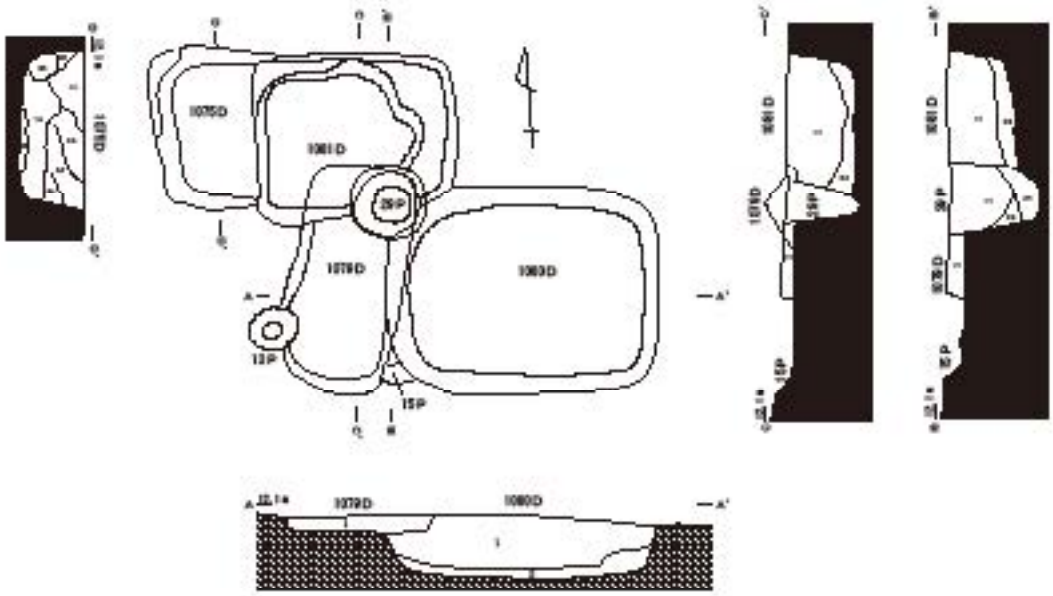
1076 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｈ－３）グリッド。

［構　　造］８Ｙ、77 Ｐを切り、８Ｐに切られる。1074 Ｄと重複するが先後関係は不明。平面不整長方形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。**規模**：1.9m × 1.31m。**深さ**：79cm。**長軸方位**：Ｎ―71°―Ｅ。**覆土**：４層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

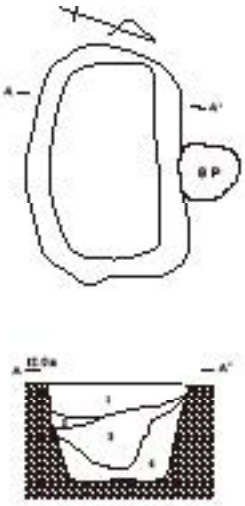
［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

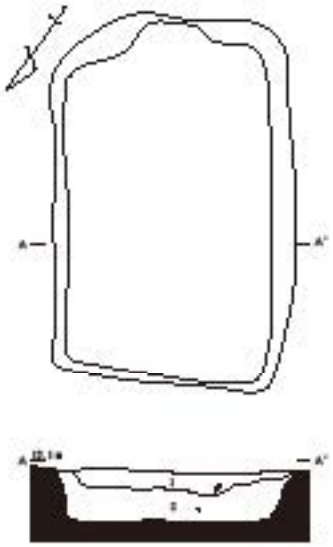


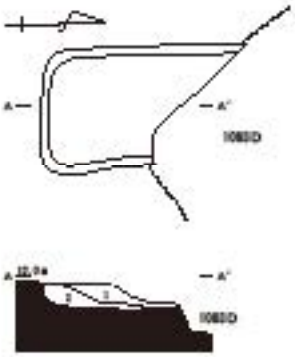
1075D　土層説明
1層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20mm幅）に少量含む。ローム・ブロック主体。
2層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑状に少量含む。
3層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20～40mm）に少量含む。ローム・ブロック主体。
4層　暗色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に微量含む。ローム・ブロック主体。
5層　暗色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に微量含む。ローム・ブロック主体。
6層　暗色土（10YR4/4）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20mm幅）に少量含む。ローム・ブロック主体。
7層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20mm幅）に含む。ローム・ブロック主体。
8層　黄褐色土（10YR5/6）　締り強い、粘性やや強い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑状に微量含む。ローム・ブロック主体。

1079D　土層説明
1層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を全体的に微量、黒土（φ0.5～1mm）を全体的に微量含む。
1080D　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～10mm）を全体的に少量、赤化物（φ1～3mm）を部分的に微量、黒土（φ1～5mm）を部分的に微量含む。
2層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～5mm）を全体的に少量含む。
1081D　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～10mm）を全体的に多量、黒土（φ0.5～1mm）を全体的に微量含む。
2層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～10mm）を全体的に多量含む。
29P　土層説明
1層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～1mm）を微量含む。
2層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～3mm）を少量含む。
3層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～5mm）を多量含む。

1075・1079・1080・1081号土坑　29号ピット







1076D　土層説明
1層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑多量含む。
2層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状に少量、暗色土（φ0.5～1mm）を少量含む。
3層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い、暗色土（φ0.5～1mm）を斑多量含む。
4層　黒褐色土（10YR2/2）　締り、粘性やや弱い、ローム（φ0.5～1mm）を斑状・ブロック状（φ20～40mm）に中量、暗色土（φ0.5～1mm）を中量含む。

1076号土坑

1083D　土層説明
1層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締りやや弱い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～3mm）を部分的に少量含む。
2層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや弱い、粘性強い、ローム（φ0.5～1mm）を全体的に微量、黒土（φ0.5～3mm）を部分的に微量含む。

1083号土坑

1085D　土層説明
1層　黒褐色土（10YR2/2）　締り強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～1mm）を全体的に少量、黒土（φ0.5～1mm）を全体的に少量、粘土（φ0.5～1mm）を部分的に微量含む。
2層　黒褐色土（7.5YR2/2）　締り非常に強い、粘性やや強い、ローム（φ0.5～1mm）を全体的に少量、黒土（φ0.5～1mm）を全体的に微量含む。

1085号土坑

1/60　2m

第 191 図　Ｂ群３類　幅広長方形の土坑１（１／60）

［時　　期］中世以降。

1079 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｊ－３）グリッド。

［構　　造］1080･1081 Ｄを切り、13･15･29 Ｐに切られる。坑底は平坦。**規模**：1.42m 以上× 0.94m。**深さ**：11cm。**長軸方位**：Ｎ―18°―Ｅ。**覆土**：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1080 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｊ－３）グリッド。

［構　　造］1079 Ｄ、12・15・29 Ｐに切られる。1081 Ｄと重複するが先後関係は不明。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：2.18m × 1.69m。**深さ**：48cm。**長軸方位**：Ｎ―86°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1081 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｊ－３）グリッド。

［構　　造］1075・1079 Ｄ・29 Ｐに切られる。1080 Ｄと重複するが先後関係は不明。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：1.6m × 1.38m。**深さ**：62cm。**長軸方位**：Ｎ―88°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1083 号土坑

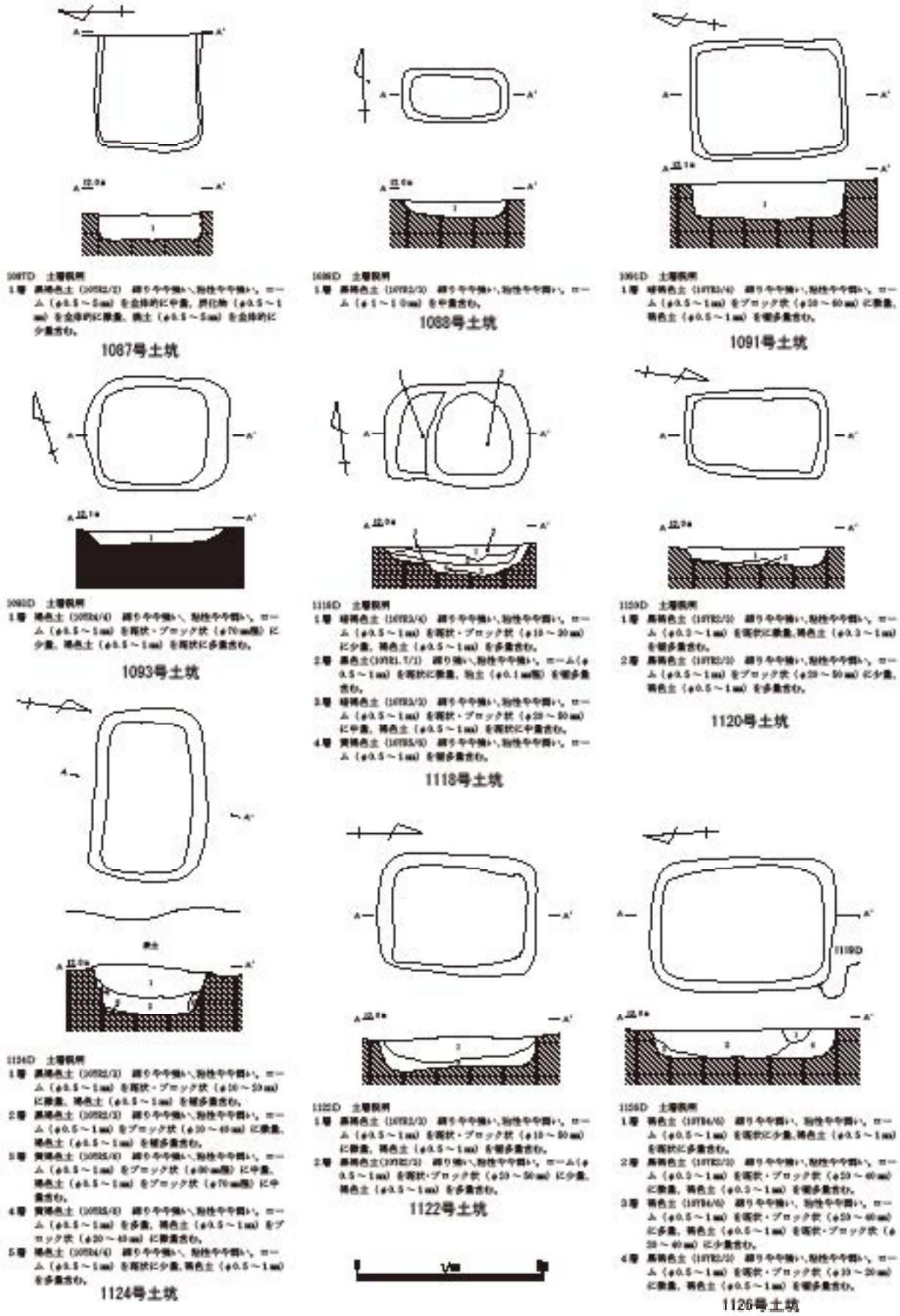
遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｊ－５）グリッド。

［構　　造］303･306 Ｈ、1085 Ｄ、109･110 Ｐを切り、1082 Ｄに切られる。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。**規模**：3.03m × 1.94m。**深さ**：42cm。**長軸方位**：Ｎ―35°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。



第 192 図　Ｂ群３類　幅広長方形の土坑２（１／60）

1085 号土坑

遺　　構（第 191 図）

［位　　置］（Ｊ－５）グリッド。

［構　　造］306 Ｈを切り、1083 Ｄ、40 Ｐに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：1.67m 以上× 1.01m。**深さ**：23cm。**長軸方位**：Ｎ。**覆土**：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1087 号土坑

遺　　構（第 192 図）

［位　　置］（Ｊ・Ｋ－５）グリッド。

［構　　造］東側の調査区境で検出したため、遺構の東側の大半が調査区外である。303 Ｈを切る。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。**規模**：1.29m 以上× 1.18m。**深さ**：27cm。**長軸方位**：Ｎ―89°―Ｅ。**覆土**：単層。ローム粒、炭化物、焼土粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1088 号土坑

遺　　構（第 192 図）

［位　　置］（Ｉ－７）グリッド。

［構　　造］単独。平面長方形、断面は概ね逆台形、坑底は平坦。**規模**：1.14m × 0.59m。**深さ**：20cm。**長軸方位**：Ｎ―88°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1091 号土坑

遺　　構（第 192 図）

［位　　置］（Ｈ－５）グリッド。

［構　　造］1089 Ｄに切られる。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。**規模**：1.7m × 1.31m。**深さ**：43cm。**長軸方位**：Ｎ―11°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1093 号土坑

遺　　構（第 192 図）

［位　　置］（Ｈ－７）グリッド。

［構　　造］単独。平面不整長方形、断面皿型、坑底は凹凸。**規模**：1.57m × 1.26m。**深さ**：19cm。

長軸方位：N―17°―E。覆土：単層。ローム粒を含む褐色土である。
［遺　　物］弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

1118 号土坑

遺　　構（第 192 図）
［位　　置］（Ｉ－９）グリッド。
［構　　造］単独。平面不整長方形、断面浅いＵ字形、坑底は凹凸、西側に段差 14㎝、幅 47cm ほどの段を有す。規模：1.58m × 1.14m。深さ：35cm。長軸方位：N―８°―E。覆土：４層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。
［遺　　物］磁器、土師質土器、鉄釘が出土した。他に縄文土器、土師器が出土している。
［時　　期］近世。
遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 78 表）
１は土師質土器の焜炉、２は鉄釘である。

1120 号土坑

遺　　構（第 192 図）
［位　　置］（Ｉ－９）グリッド。
［構　　造］1122 Ｄを切る。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模：1.54m × 0.98m。深さ：21cm。長軸方位：N―82°―E。覆土：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。
［遺　　物］弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］近世以降。

1122 号土坑

遺　　構（第 192 図）
［位　　置］（Ｈ・Ｉ－９）グリッド。
［構　　造］1120 Ｄに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.73m × 1.32m。深さ：38cm。長軸方位：N―２°―E。覆土：２層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。
［遺　　物］磁器が出土した。他に縄文土器、土師器、須恵器が出土している。
［時　　期］近世以降。

1124 号土坑

遺　　構（第 192 図）
［位　　置］（Ｈ－８）グリッド。
［構　　造］69 Ｍを切る。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.77m 以上× 1.21m。深さ：46cm。長軸方位：N―82°―E。覆土：５層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。
［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。
［時　　期］中世以降。

1126 号土坑

遺　　構（第 192 図）

［位　　置］（Ｇ・Ｈ－８）グリッド。

［構　　造］69 Ｍを切り、1119 Ｄに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：2.01m × 1.45m。**深さ**：31cm。**長軸方位**：Ｎ―４°―Ｅ。**覆土**：４層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

Ｃ群　円形・楕円形の土坑

1074 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｈ－３）グリッド。

［構　　造］８Ｙ、77 Ｐを切る。1076 Ｄと重複するが先後関係は不明。平面不整円形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。**規模**：0.92m × 0.87m。**深さ**：22cm。**長軸方位**：Ｎ―２°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1082 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｊ－５）グリッド。

［構　　造］1083 Ｄを切る。平面楕円形、断面皿形、坑底は凸凹。**規模**：0.92m × 0.62m。**深さ**：９cm。**長軸方位**：Ｎ―74°―Ｗ。**覆土**：３層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1094 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｊ－５）グリッド。

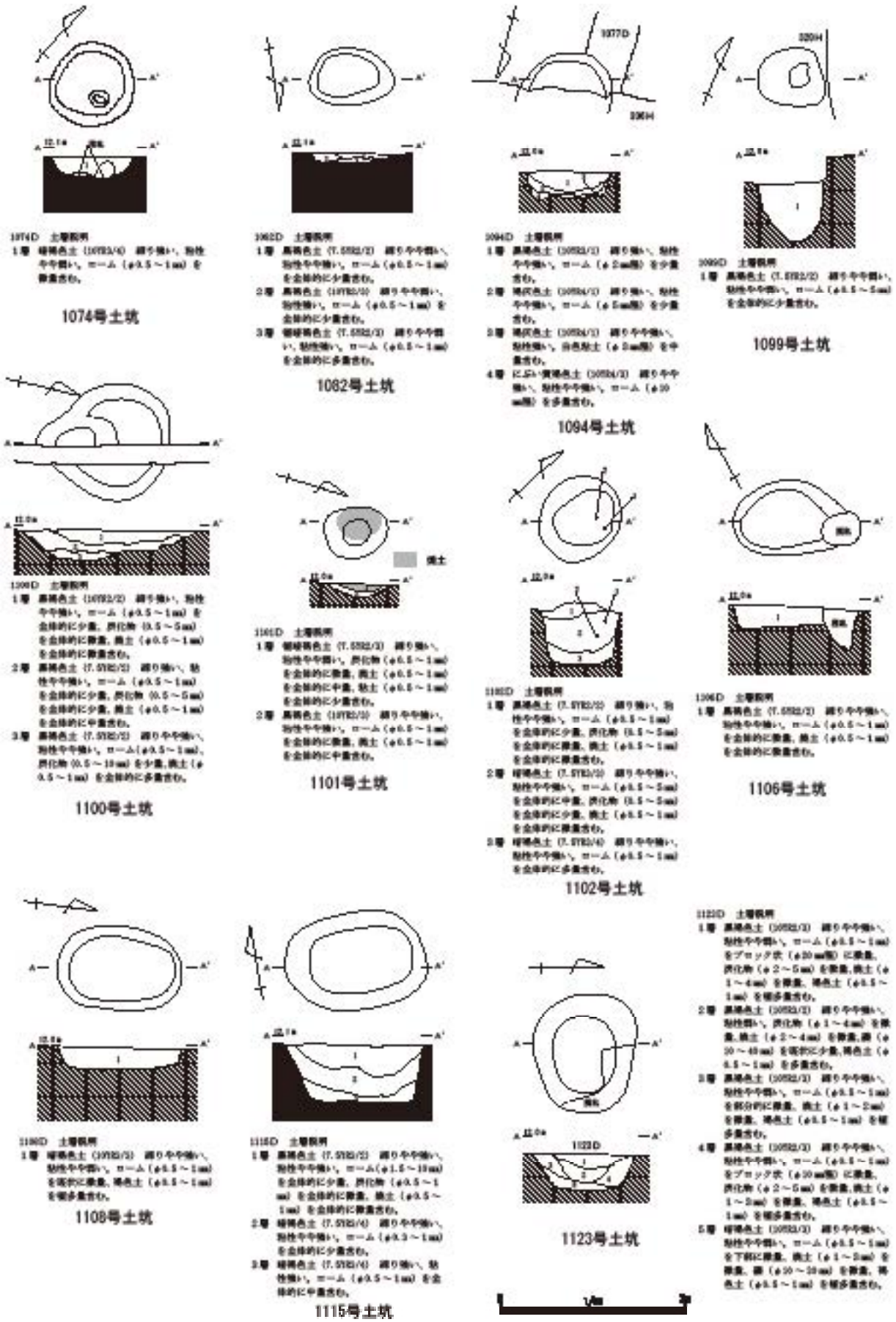
［構　　造］306 Ｈを切り、1077 Ｄに切られる。平面楕円形と思われ、断面概ね箱形、坑底は凸凹。**規模**：0.93m 以上× 0.62m 以上。**深さ**：28cm。**長軸方位**：Ｎ―10°―Ｅ。**覆土**：４層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1099 号土坑

遺　　構（第 193 図）



第 193 図　Ｃ群　円形・楕円形の土坑（１／60）

［位　　置］（Ｅ－２）グリッド。

［構　　造］320 Ｈを切る。平面不整楕円形、断面Ｕ字形。**規模**：75㎝× 67㎝。**深さ**：90cm。**長軸方位**：Ｎ―75°―Ｗ。**覆土**：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1100 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］310･317 Ｈを切る。平面不整楕円形、断面不整皿形、坑底は凸凹。**規模**：1.47m × 1.27m。**深さ**：32cm。**長軸方位**：Ｎ―77°―Ｅ。**覆土**：３層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1101 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］310 Ｈを切る。平面楕円形、断面皿形。**規模**：0.67m × 0.56m。**深さ**：15cm。**長軸方位**：Ｎ―34°―Ｗ。**覆土**：２層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む極暗褐色土･黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1102 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｂ・Ｃ－３・４）グリッド。

［構　　造］310･317 Ｈを切り、1098 Ｄに切られる。平面楕円形、断面概ね箱形、坑底は平坦。**規模**：0.93m × 0.83m。**深さ**：57cm。**長軸方位**：Ｎ。**覆土**：３層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 76 表）

１は鉄釘、２は鉄滓である。

1106 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｅ－４）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面箱形。坑底は平坦。**規模**：1.23m × 0.82m。**深さ**：26cm。**長軸方位**：

N―60°―W。覆土：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1108 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｆ－７）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.34m × 0.9m。深さ：25cm。長軸方位：N―１°―Ｅ。覆土：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1109 号土坑

遺　　構（第 189 図）

［位　　置］（Ｉ－８）グリッド。

［構　　造］1110・1111・1112・1113 Ｄ、145 Ｐを切る。平面楕円形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模：1.16m × 0.72m。深さ：58cm。長軸方位：N―74°―W。覆土：４層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

遺　　物（図版 94 －３、第 77 表）

１は銭貨である。銹化が著しく、破片に分かれ、銘は不明である。

1113 号土坑

遺　　構（第 189 図）

［位　　置］（Ｉ－８）グリッド。

［構　　造］22FP を切り、1109・1112 Ｄに切られる。平面楕円形と思われ、断面皿形、坑底は平坦。規模：0.81m 以上× 0.24m 以上。深さ：12cm。長軸方位：―。覆土：不明。

［遺　　物］縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1115 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｄ－６・７）グリッド。

［構　　造］10 Ｊを切る。平面楕円形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.52m × 1.05m。深さ：65cm。長軸方位：N―87°―W。覆土：３層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］中世以降。

1123 号土坑

遺　　構（第 193 図）

［位　　置］（Ｆ・Ｇ－８）グリッド。

［構　　造］69 Ｍを切る。平面楕円形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。**規模**：1.28m × 1.12m。**深さ**：40cm。**長軸方位**：Ｎ―89°―Ｗ。**覆土**：５層に分層。ローム粒、炭化物を含む黒褐色土を基調とする。

［遺　　物］かわらけが出土した。他に縄文土器、土師器が出土している。

［時　　期］中世（15 ～ 16 世紀か）。

遺　　物（第 195 図、図版 94 －３、第 79 表）

1 はかわらけの小皿である。

F 群　Ｔ字形の土坑

1073 号土坑

遺　　構（第 194 図）

［位　　置］（Ｊ－３）グリッド。

［構　　造］Ｔ字形の形態をもつ。単独。

［主 体 部］**平面形**：楕円に近い長方形。**規模**：長軸 1.1m ／短軸 0.51m ／深さ 23㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**通気溝**：特別作りつけられていない。**長軸方位**：Ｎ―１°―Ｗ。

［吸 気 坑］主体部の西側に長三角形に張り出す。坑底は主体部へ向けて緩やかに傾斜する。**規模**：長軸 50㎝／短軸 34㎝／深さ 11㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：Ｅ。

［覆　　土］10 層に分層した。炭化材、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

［炭化材の状況］小片のものがほとんどである。主体部中央付近に主体部長軸に沿った繊維方向をもつ部材が確認できた。

［人骨の状況］小片あるいは粉状のものがほとんどであった。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土したが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］放射性炭素年代測定の成果（詳細は［付編］自然科学分析を参照）から 13 世紀末～ 14 世紀末と推測される。

1119 号土坑

遺　　構（第 194 図）

［位　　置］（Ｇ－８）グリッド。

［構　　造］Ｔ字形の形態をもつ。69 Ｍ、1126 Ｄを切る。

［主 体 部］**平面形**：楕円に近い長方形。**規模**：長軸 1.14m ／短軸 0.55m ／深さ 28㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**通気溝**：特別作りつけられていない。**長軸方位**：Ｎ―４°―Ｅ。

［吸 気 坑］主体部の西側にＵ字形に張り出す。**規模**：長軸 34㎝／短軸 34㎝／深さ 17㎝。坑底　は　主体部へ向けて緩やかに傾斜する。**壁**：緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ―86°―Ｗ。

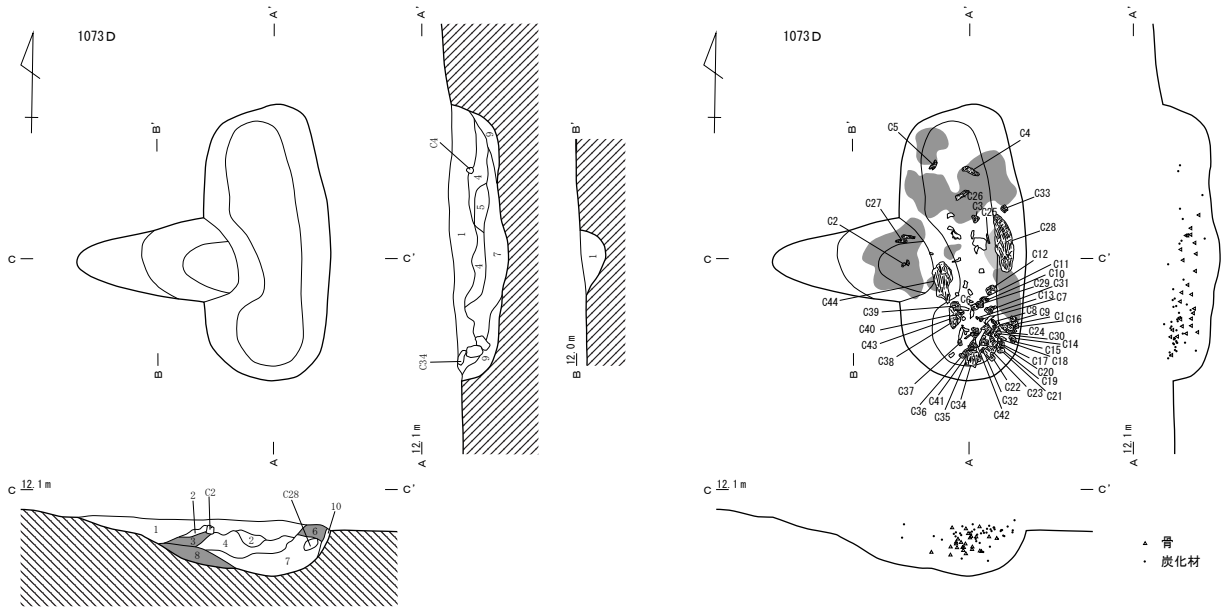
［覆　　土］10 層に分層した。炭化材、焼土粒を含む黒褐色土・黒色土を基調とする。

［炭化材の状況］小片のものがほとんどである。主体部長軸に沿った繊維方向をもつ部材が多く確認できた。

［人骨の状況］小片あるいは粉状のものがほとんどであった。

［遺　　物］縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［時　　期］放射性炭素年代測定の成果（詳細は［付編］自然科学分析を参照）から 14 世紀初頭～末と推測される。



1073D　土層説明

１層　黒褐色土（10YR2/3）　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土（φ３㎜程）を微量含む。

２層　黒褐色土(10YR3/2)　締り弱い、粘性やや強い。炭化物をしみ状に少量、焼土（φ１㎜程）を少量、骨粉を少量含む。

３層　明赤褐色土(2.5YR5/6)　締りやや強い、粘性やや弱い。焼土ブロック（φ３～15㎜）主体、炭（φ５㎜程）を中量含む。崩落焼土

４層　黒褐色土(10YR3/2)　締り弱い、粘性やや強い。炭化物をしみ状に多量、焼土（φ１㎜程）を少量、骨粉を中量含む。

５層　黒褐色土（10YR3/2）　締り非常に弱い、粘性弱い。焼土（５YR5/6　φ５㎜程）を多量、炭化物をしみ状に中量含む。

６層　オリーブ褐色土（2.5Y4/3）　締り弱い、粘性やや弱い。灰と焼土（赤化していない）の混合層

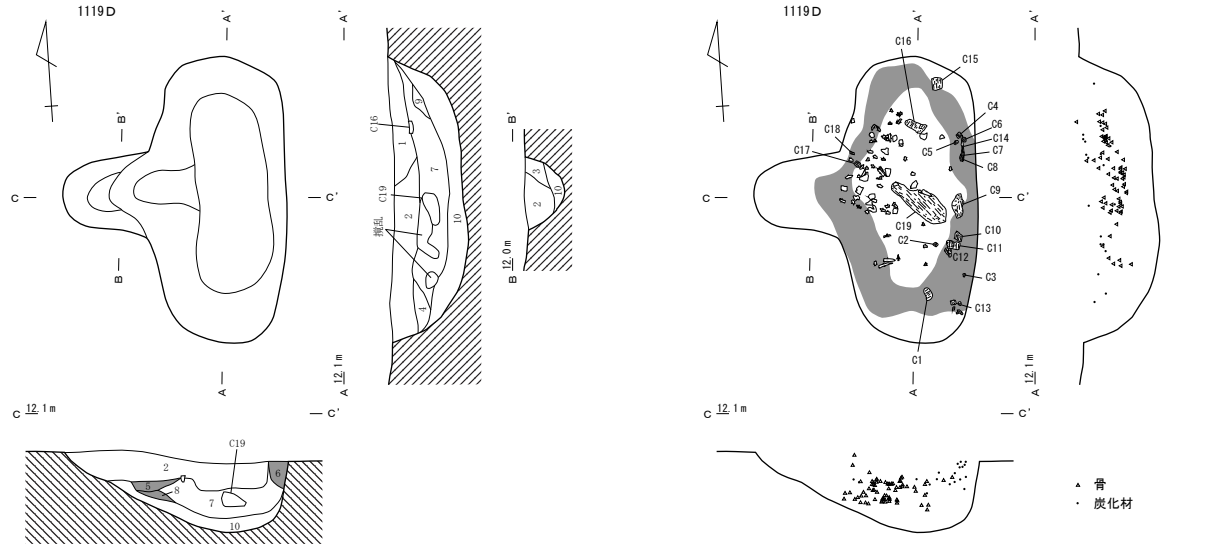
７層　黒色土（2.5Y2/1）　締り弱い、粘性やや強い。形にならない炭、骨なし。

８層　明赤褐色土（2.5YR5/8）　締りやや強い、粘性弱い。焼土。

９層　黒褐色土（10YR2/2）　締りやや強い、粘性やや弱い。炭化物をしみ状に中量、焼土（φ１㎜程）を少量含む。

10層　にぶい橙色土（2.5YR6/4）　締りやや強い、粘性弱い。

1073号土坑



1119D　土層説明

１層　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ10㎜程）を多量、炭（φ５㎜程）を少量、焼土（φ２㎜程）を微量、骨粉を微量含む。

２層　黒褐色土（10YR3/2）　締りやや弱い、粘性やや強い。炭（φ３㎜程）を微量、焼土（φ３㎜程）を微量、骨粉を微量含む。

３層　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締りやや弱い、粘性やや強い。焼土（φ１㎜程）を微量含む。

４層　灰黄褐色土（10YR4/2）　締りやや弱い、粘性やや弱い。炭（φ３㎜程）を少量、焼土（φ３㎜程）を多量含む。

５層　橙色土（2.5YR6/6）　締り弱い、粘性やや強い。焼土主体。

６層　にぶい赤褐色土（2.5YR4/4）　締り弱い、粘性やや弱い。焼土主体。崩落した壁か？

７層　黒色土（10YR1.7/1）　締り弱い、粘性弱い。炭主体（土壌化した）。炭主体（土壌化した）。

８層　明黄褐色土(10YR7/6)　締り弱い、粘性やや弱い。炭(φ５㎜程)を中量、骨粉を中量含む。被熱ローム主体。

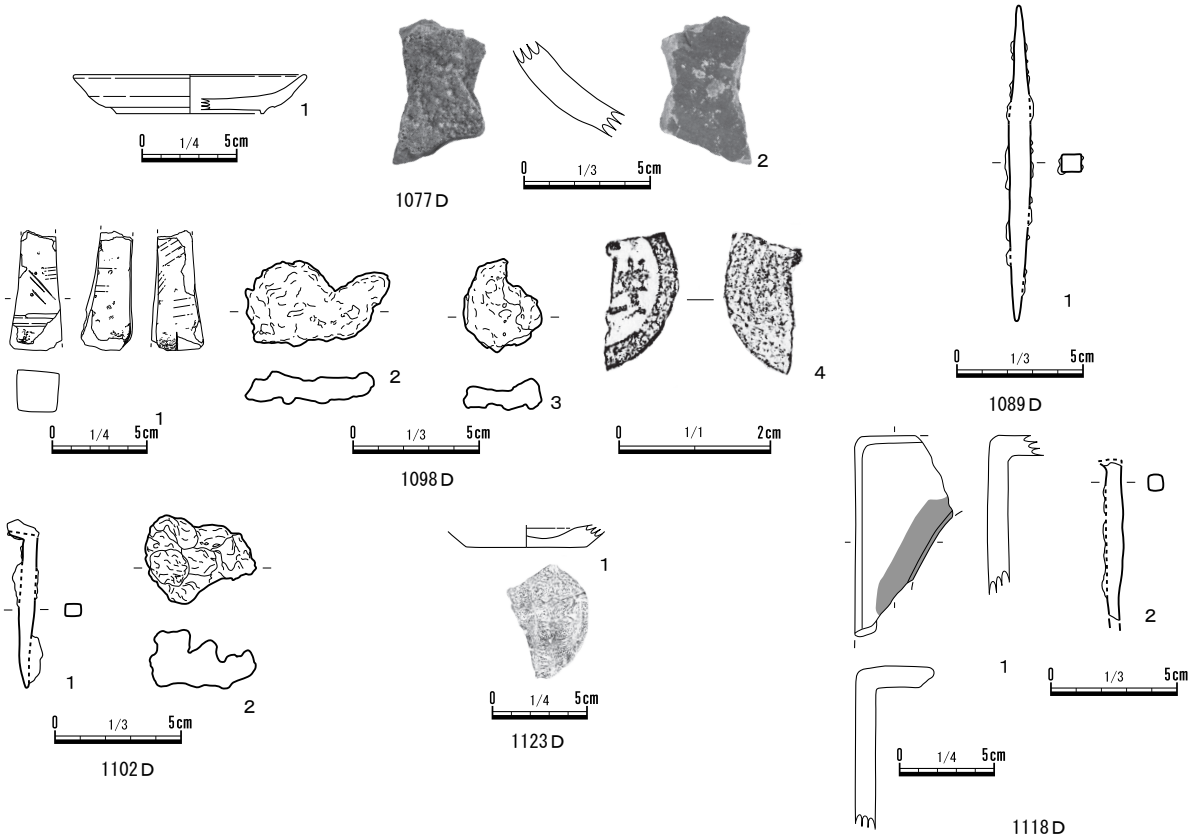
９層　褐灰色土（10YR4/1）　締り弱い、粘性弱い。炭（φ３㎜程）を少量含む。

10層　褐灰色土(10YR4/1)　締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ10㎜程)を中量含む。荒掘り残土。

1119号土坑

灰　焼土　0　1/30　1m

第 194 図　Ｆ群　Ｔ字形の土坑・遺物出土状態（１／30）



第 195 図　土坑出土遺物（１／１・１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 195 図 1 図版 94- ３-1	陶器 皿	覆土一括	口縁部 ～底部 ８％	高　　2.1 口　(12.3) 底　　(7.8)	灰色	緻密	削り高台／透明釉	瀬戸・美濃系（志野）／ 17 世紀中葉
第 195 図 2 図版 94- ３-2	陶器 甕	覆土一括	胴部片	高　　2.1 口　　12.4 底　　7.8	灰色	緻密	外面降灰が多量に溶けて緑白色を呈す（気泡が目立つ）／自然釉	常滑／ 13 世紀前半

第 73 表　1077 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	材　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 195 図 1 図版 94- ３-1	鉄製品 両釘	底上７cm	完形	鉄	12.5	0.8	0.7	19.5	断面方形／両端が尖る	合釘

第 74 表　1089 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 195 図 1 図版 94- ３-1	砥石	覆土中	両端 欠損	変質流 紋岩	[63.3]	[27.5]	[27.0]	56.8	分銅形／表には横方向の溝状研ぎ痕が見られる／全体に横方向の擦痕がみられる	

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	材　質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 195 図 4 図版 94- ３-4	銭貨	底上 51cm	25%	銅	[1.6]	[1.0]	0.1	0.5		銘「寶」
第 195 図 2 図版 94- ３-2	鉄滓	覆土中	―	鉄	3.4	5.7	1.2	29.7		
第 195 図 3 図版 94- ３-3	鉄滓	覆土中	―	鉄	3.7	3.1	1.2	7.7		

第 75 表　1098 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第 195 図 1 図版 94- 3 -1	鉄製品 和釘	底上 45cm	完形か	鉄	-6.2	0.6	0.5	7.1	頭・先端が銹膨れにより詳細不明／断面方形	
第 195 図 2 図版 94- 3 -2	鉄滓	底上 30cm	―	鉄	3.5	4.4	2.2	35.9		

第 76 表　1102 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
図版 94- 3 -1	銭貨	底面	90%	銅	2.3	2.3	0.2	1.7	もろく複数片に分割	銘不明

第 77 表　1109 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第 195 図 1 図版 94- 3 -1	土師質 土器 焜炉	底上 14cm	破片	高 [5.2] 口 [10.6] 底 [8.6]	橙色	砂粒中量	円形孔端部にスス付着／各面を辺で接着。接着をよくするために櫛状工具で条線を引いている	19 世紀後半

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第 195 図 2 図版 94- 3 -2	鉄製品 和釘	底上 28cm	両端 欠損	鉄	[6.2]	0.6	0.6	5.8	断面正方形	

第 78 表　1118 号土坑出土遺物一覧

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第 195 図 1 図版 94- 3 -1	かわらけ 小皿	覆土一括	底部 25%	高 [1.2] 底 (6.4)	にぶい橙色	緻密	底部外面に回転糸切り痕	15 ～ 16 世紀

第 79 表　1123 号土坑出土遺物一覧

（5）ピット

覆土中からオオタニシが出土した 173 号ピットは本項で報告する。他のピットについては諸属性を第 80 表にまとめた。

173 号ピット

遺　　構（第 196 図）

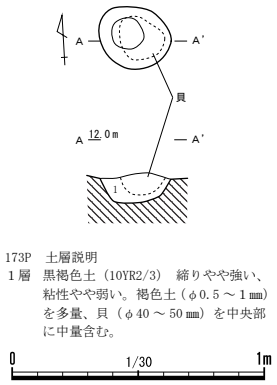
［位　　置］（Ｆ－８）グリッド。

［構　　造］69 Ｍを切る。平面楕円形、断面Ｕ字形。**規模**：29 cm× 25cm。**深さ**：11cm。**長軸方位**：Ｎ―54°―Ｗ。**覆土**：単層。褐色土粒を含む黒褐色土である。オオタニシを主体とする貝層を確認した。

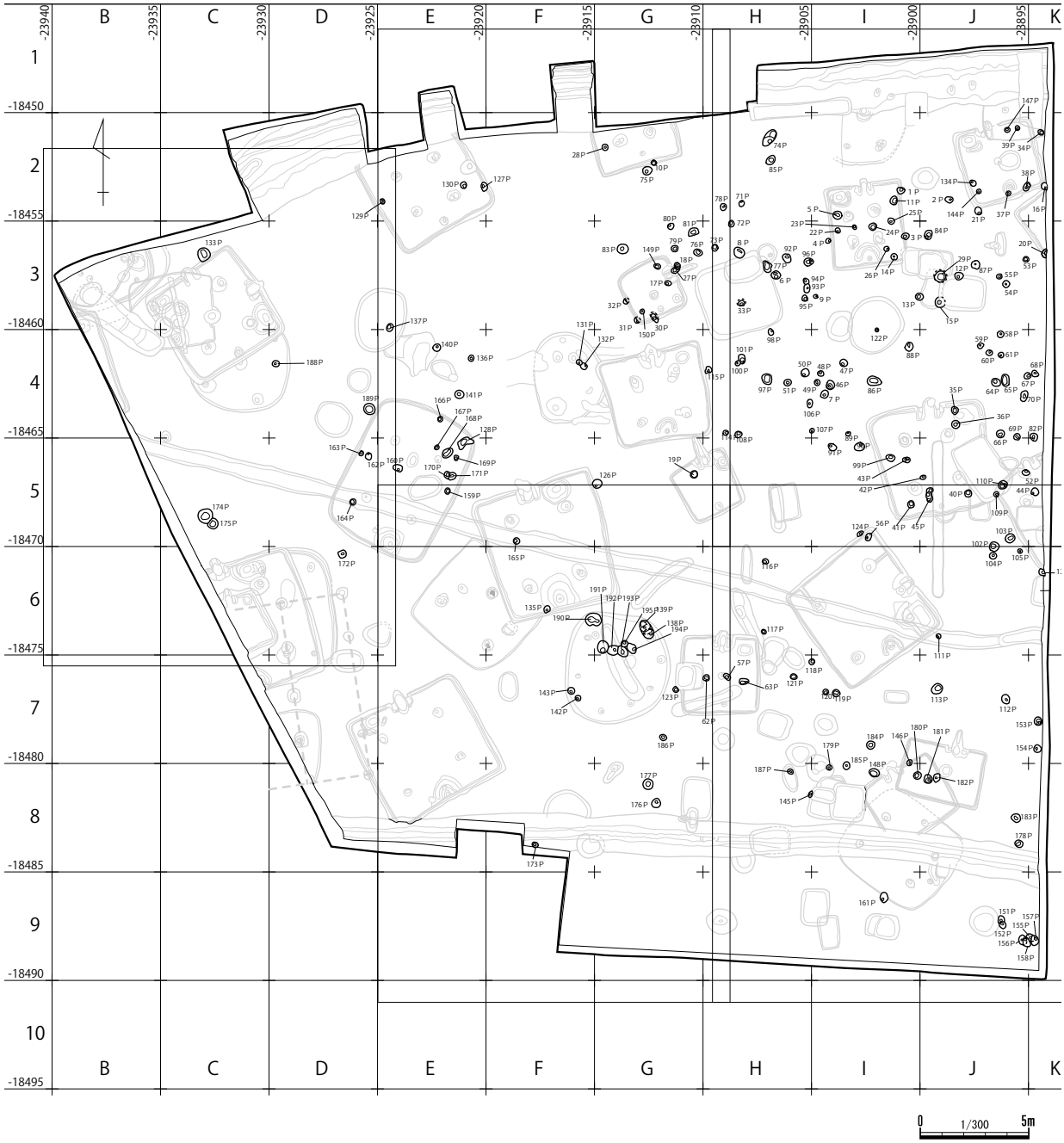
［遺　　物］土師器の小片が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

［貝　　層］オオタニシが 122.5g（71 点）出土した。この内、状態のよい 14 点の殻径／殻高／重量を計測し、その平均値は、殻径 29.3㎜／殻高 40.9㎜／重量 2.5g である。

［時　　期］69 Ｍを切るため、中世（14 世紀）以降と推測される。



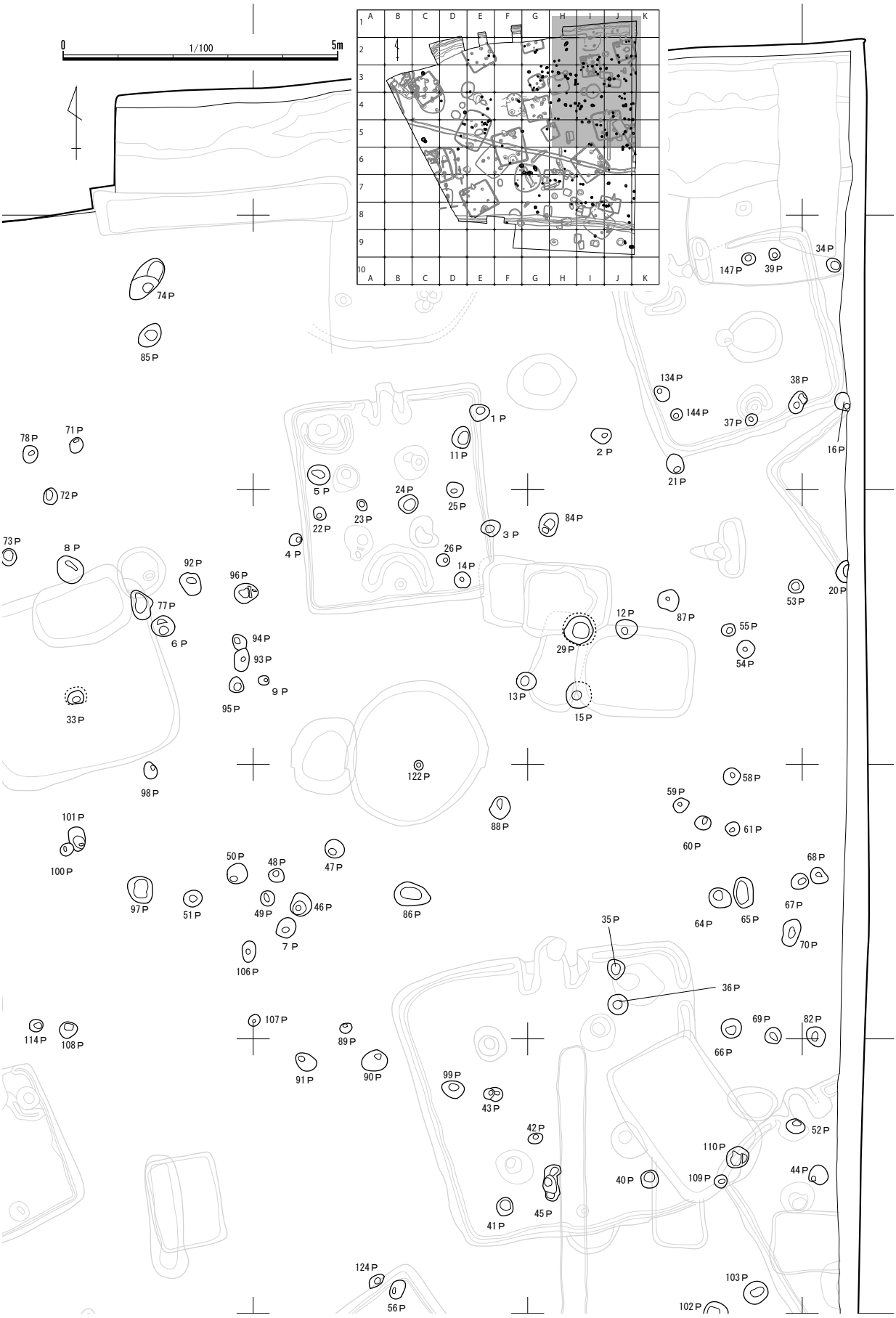
第 196 図　173 号ピット（１／30）



第 197 図　ピット全体図（1／300）

第 198 図　ピット区分図１（１／100）

第 199 図　ピット区分図２（１／ 100）



第 200 図　ピット区分図３（１／100）

第 201 図　ピット区分図４（１／100）

第 202 図　ピット区分図５（１／100）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
1P	(I-2) G	楕円形	36	31	32	単層／黒褐色土(10YR3/2)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
2P	(J-2) G	楕円形	37	28	39	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／２層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量含む。／単独。	土師器	中世以降
3P	(I-3) G	楕円形	36	30	23	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
4P	(I-3) G	楕円形	25	21	22	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
5P	(I-2) G	楕円形	41	37	32	２層／１層:黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／２層:黄褐色土(10YR5/6)締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
6P	(H-3) G	楕円形	43	37	43	単層／黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
7P	(I-4) G	楕円形	37	32	32	単層／暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
8P	(H-3) G	楕円形	52	46	32	２層／１層:暗褐色土（10YR3/4）締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／２層：褐色土（10YR4/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 1076 Dを切る。	なし	中世以降
9P	(I-3) G	楕円形	19	17	21	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
10P	(G-2) G	楕円形	26	25	11	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 316 Hを切る。	なし	中世以降
11P	(I-2) G	楕円形	40	32	13	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
12P	(J-3) G	楕円形	38	36	25	単層／褐色土（10YR4/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。半平穴／ 1080 Dを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
13P	(I・J-3) G	楕円形	36	32	32	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。半平穴／ 1079 Dを切る。	縄文土器	中世以降
14P	(I-3) G	円形	30	29	46	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に少量含む。／２層:黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、ローム（φ 10 ～ 20㎜）を部分的に微量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
15P	(J-3) G	円形	[49]	[36]	15	３層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。、ローム（φ 0.5 ～３㎜）を少量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。、ローム（φ 0.5 ～２㎜）を少量、山砂（φ 1 ～ 10㎜）を多量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。、ローム（φ 0.5 ～１㎜）を微量含む。／ 1079・1080 Dを切る。	なし	中世以降
16P	(K-2) G	楕円形	[33]	31	49	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に少量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に少量含む。／ 301 H・302 Hを切る。	なし	中世以降
17P	(G-3) G	楕円形	30	22	68	２層／１層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 20㎜程）に少量、褐色土を多量含む。／ 312 Hを切る。	土師器	中世以降
18P	(G-3) G	楕円形	33	28	52	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 40㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 312 H・27 Pを切る。	縄文土器	中世以降
19P	(G-5) G	楕円形	34	33	29	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 10㎜程）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 314 Hを切る。	縄文土器	中世以降
20P	(K-3) G	楕円形	41	[23]	54	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に少量、炭化物（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量含む。／２層:暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 50㎜)を全体的に多量含む。／ 302 Hを切る。	なし	中世以降
21P	(J-2) G	楕円形	38	31	53	単層／１層:黒色土(10YR2/1)締り弱い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～１㎜)を多量、赤色粒子（φ 0.5 ～３㎜）を微量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を多量、赤色粒子（φ 0.5 ～３㎜）を微量、ローム（φ 0.5 ～１㎜）を部分的にに中量含む。／ 301 Hを切る。	なし	中世以降
22P	(I-3) G	楕円形	26	23	50	２層／１層:黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に中量含む。／２層:黒褐色土（7.5YR2/2）締り非常に強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に多量含む。／ 308 Hを切る。	土師器	中世以降

第 80 表　ピット一覧（1）

遺構名	位置	平面形	規模［cm］			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
23P	(I-3) G	楕円形	22	17	39	３層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5㎜程）を全体的に少量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に少量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に中量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を部分的に微量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に多量含む。／ 308 Hを切る。	なし	中世以降
24P	(I-3) G	楕円形	36	34	49	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量含む。単層／黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に極多量含む。／ 308 Hを切る。	土師器	中世以降
25P	(I-2・3) G	楕円形	30	29	55	単層／黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を部分的に多量含む。／ 308 Hを切る。	なし	中世以降
26P	(I-3) G	円形	24	23	66	単層：黒褐色土（10YR3/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を部分的に少量、焼土（φ 0.5 ～１㎜）を部分的に微量含む。／ 308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
27P	(G-3) G	楕円形	39	28	60	２層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。焼土（φ ２～３㎜）を微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 10 ～ 20㎜）に少量、褐色土を多量含む。／ 312 Hを切り、18 Pに切られる。	なし	中世以降
28P	(G-2) G	円形	29	28	73	単層／黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 316 Hを切る。	なし	中世以降
29P	(J-3) G	円形	[52]	[48]	74	３層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/2）締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 3㎜）を多量含む。／３層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 5㎜）を極多量含む。／ 1079 D・1080 D・1081 Dを切る。	なし	中世以降
30P	(G-3) G	楕円形	[46]	[22]	58	２層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締り、粘性。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 40㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／２層：黄褐色土（10YR5/6）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量含む。／ 312 Hを切る。	なし	中世以降
31P	(G-3) G	楕円形	[26]	[14]	55	２層／１層：暗褐色土（10YR3/4）締りやや強い、粘性やや弱い。黄褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、黒褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 10㎜程）に少量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 20㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 312 Hを切る。	なし	中世以降
32P	(G-3) G	楕円形	[24]	[16]	45	２層／１層：暗褐色土（10YR3/4）締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、黄褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 50㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／ 312 Hを切る。	なし	中世以降
33P	(H-3) G	不整楕円形	30	25	67	２層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）をブロック状（φ 10㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～１㎜）を極多量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）／８Yを切る。	なし	中世以降
34P	(K-2) G	楕円形	28	25	65	３層／１層：極暗褐色土（7.5YR2/3）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／３層：暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／ 300 Hを切る。	須恵器	中世以降
35P	(J-4) G	不整楕円形	37	32	36	単層／黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／ 306 Hを切る。	土師器	中世以降
36P	(J-4) G	円形	37	37	36	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／ 306 Hを切る。	土師器	中世以降
37P	(J-2) G	楕円形	24	21	66	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 301 Hを切る。	なし	中世以降
38P	(J・K-2) G	不整楕円形	42	27	73	３層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／３層：褐色土（7.5YR4/6）締りやや強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 301 Hを切る。	土師器	中世以降
39P	(J-2) G	円形	22	20	50	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 301 Hを切る。	なし	中世以降
40P	(J-5) G	不整円形	34	33	39	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：褐色土（7.5YR4/6）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 306 H・1085 Dを切る。	なし	中世以降

第 80 表　ピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
41P	(I-5) G	楕円形	34	31	41	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量、粘土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／２層：黒褐色土（10YR3/2）締り強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 10㎜）を極多量、粘土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／306 Hを切る。	なし	中世以降
42P	(J-5) G	楕円形	28	19	46	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 10㎜）を部分的に多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に少量含む。／ 306 Hを切る。	土師器	中世以降
43P	(I-5) G	不整楕円形	35	25	50	２層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 10㎜）を多量含む。／ 306 Hを切る。	なし	中世以降
44P	(K-5) G	不整円形	36	35	109	５層／１層：極暗褐色土（7.5YR2/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 5㎜）を多量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／４層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／５層：暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 303 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
45P	(J-5) G	不整形	66	32	57	３層／１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 20㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/2）締り強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/2）締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 20㎜）を極多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を部分的に微量含む。／ 306 Hを切る。	なし	中世以降
46P	(I-4) G	不整楕円形	42	40	45	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
47P	(I-4) G	楕円形	36	34	50	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	土師器	中世以降
48P	(I-4) G	不整楕円形	30	26	41	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	土師器	中世以降
49P	(I-4) G	円形	28	26	19	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
50P	(H-4) G	円形	39	38	46	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
51P	(H-4) G	楕円形	34	31	50	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
52P	(J・K-5) G	楕円形	34	31	100	４層／１層：褐灰色土（10YR4/1）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ １～５㎜）を中量含む。／２層：黒褐色土（10YR3/2）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ １～５㎜）を少量含む。／３層：黒褐色土（10YR3/2）締り弱い、粘性やや弱い。ローム（φ １～ 10㎜）を中量含む。／４層：灰黄褐色土（10YR5/2）締り弱い、粘性やや弱い。ローム（φ １～ 10㎜）を多量含む。／ 303 Hを切る。	土師器	中世以降
53P	(J-3) G	楕円形	28	25	13	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
54P	(J-3) G	不整円形	32	32	36	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
55P	(J-3) G	楕円形	25	25	46	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
56P	(I-5) G	楕円形	37	27	58	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 10㎜）を中量含む。／ 309 Hを切る。	なし	中世以降
57P	(H-7) G	楕円形	35	26	54	４層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 20 ～ 30㎜）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に極多量含む。／３層：褐色土（10YR4/4）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／４層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／ 311 Hを切る。	縄文土器	中世以降
58P	(J-4) G	円形	32	31	35	３層／１層：灰褐色土（7.5YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ 5㎜程）を微量含む。／２層：暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ １～ 10㎜）を多量含む。／３層：暗褐色土（7.5YR3/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ １～ 10㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
59P	(J-4) G	不整楕円形	28	24	53	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
60P	(J-4) G	楕円形	29	26	33	３層／１層：褐色土（7.5YR4/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ １～ 5㎜）を多量含む。／２層：灰褐色土（7.5YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ １～ 5㎜）を多量含む。／３層：灰褐色土（7.5YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ １～ 10㎜）を多量含む。／単独。	土師器	中世以降

第 80 表　ピット一覧（３）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
61P	(J-4) G	円形	26	25	35	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
62P	(H-7) G	不整円形	31	29	40	２層／１層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状･ブロック状（φ20～30㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。／311 Hを切る。	土師器	中世以降
63P	(H-7) G	不整楕円形	44	28	55	３層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／２層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に多量、褐色土(φ0.5～1㎜)を斑状に少量含む。／３層:褐色土(10YR4/4)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／311 Hを切る。	なし	中世以降
64P	(J-4) G	楕円形	44	37	57	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
65P	(J-4) G	楕円形	55	38	28	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
66P	(J-4) G	円形	37	37	45	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	土師器	中世以降
67P	(J・K-4) G	楕円形	32	29	38	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
68P	(K-4) G	不整楕円形	33	28	36	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
69P	(J-4・5) G	不整楕円形	31	30	45	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
70P	(J-4) G	不整楕円形	51	33	58	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
71P	(H-2) G	楕円形	29	24	40	単層／黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
72P	(H-2・3) G	楕円形	30	26	37	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
73P	(H-3) G	楕円形	31	28	37	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
74P	(H-2) G	楕円形	88	45	45	２層／１層:黒褐色土(10YR2/2)締り強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／２層:褐色土（10YR4/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
75P	(G-2) G	楕円形	44	38	70	３層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／３層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
76P	(G-3) G	楕円形	41	31	37	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	土師器	中世以降
77P	(H-3) G	不整楕円形	56	41	54	４層／１層:黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／２層:黄褐色土(10YR5/6)締り、粘性。ローム（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ90㎜程）に極多量、褐色土（φ0.5～1㎜）をブロック状（φ10㎜程）に微量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。／４層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に微量含む。／８Ｙを切り、1074・1076 Dに切られる。	土師器	中世以降
78P	(H-2) G	楕円形	32	28	53	２層／１層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	なし	中世以降
79P	(G-3) G	楕円形	32	28	34	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に中量含む。／単独。	なし	中世以降
80P	(G-3) G	楕円形	30	27	50	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状（φ40～60㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	土師器	中世以降
81P	(G-3) G	不整楕円形	52	40	33	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状（φ10～70㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
82P	(K-4・5) G	楕円形	38	32	73	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
83P	(G-3) G	楕円形	50	44	38	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
84P	(J-3) G	楕円形	45	36	41	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ２～5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降

第80表　ピット一覧（４）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
85P	(H-2) G	楕円形	49	34	50	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 40 ～ 70㎜）に中量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 30 ～ 60㎜）に中量含む。／単独。	なし	中世以降
86P	(I-4) G	不整楕円形	66	45	15	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
87P	(J-3) G	不整円形	40	39	50	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
88P	(I-4) G	不整楕円形	42	38	49	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
89P	(I-4) G	楕円形	23	18	38	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	土師器	中世以降
90P	(I-5) G	楕円形	47	38	82	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	土師器	中世以降
91P	(I-5) G	楕円形	41	30	48	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
92P	(H-3) G	不整楕円形	45	38	27	単層／褐灰色土(10YR4/1)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	なし	中世以降
93P	(H-3) G	楕円形	43	29	37	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 20 ～ 40㎜）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 94 Ｐを切る。	なし	中世以降
94P	(H-3) G	楕円形	[31]	25	34	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 93 Ｐに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
95P	(H-3) G	不整楕円形	29	27	37	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	土師器	中世以降
96P	(H・I-3) G	楕円形	44	36	45	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 10 ～ 30㎜）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
97P	(H-4) G	不整楕円形	53	47	43	単層／暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 10㎜程）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／単独。	土師器	中世以降
98P	(H-3・4) G	楕円形	31	24	51	単層／褐灰色土（10YR4/1）締り強い、粘性やや弱い。褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
99P	(I-5) G	楕円形	41	32	87	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／ 306 Ｈを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
100P	(H-4) G	楕円形	26	22	39	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 101 Ｐを切る。	縄文土器	中世以降
101P	(H-4) G	楕円形	39	14	42	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 100 Ｐに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
102P	(J-5・6) G	不整円形	46	45	37	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
103P	(J-5) G	楕円形	45	39	34	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
104P	(J-6) G	円形	32	30	20	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	土師器・陶器	中世以降
105P	(J-6) G	円形	22	20	53	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
106P	(H・I-4) G	楕円形	38	25	56	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	なし	中世以降
107P	(H・I-4) G	楕円形	22	20	53	単層／褐灰色土（10YR4/1）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	なし	中世以降
108P	(H-4) G	楕円形	34	30	92	単層／褐灰色土（10YR4/1）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 30 ～ 50㎜）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
109P	(J-5) G	円形	24	23	102	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／ 303 Ｈを切り、1083 Ｄに切られる。	なし	中世以降
110P	(J-5) G	楕円形	41	38	81	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／ 303 Ｈを切り、1083 Ｄに切られる。	なし	中世以降
111P	(J-6) G	楕円形	22	21	42	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／３道に切られる。	なし	中世以降
112P	(J-7) G	不整楕円形	44	38	68	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	縄文土器・土師器	中世以降
113P	(J-7) G	楕円形	53	45	33	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 2 ～ 5㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
114P	(H-4) G	不整楕円形	26	23	37	単層／褐灰色土（10YR4/1）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
115P	(H-4) G	不整形	35	31	70	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
116P	(H-6) G	楕円形	29	24	20	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器・須恵器	中世以降

第 80 表　ピット一覧（５）

遺構名	位置	平面形	規模［cm］			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
117P	(H-6) G	楕円形	24	20	16	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
118P	(H・I-7) G	楕円形	28	27	29	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状・ブロック状（φ 40 ～ 50㎜）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	土師器	中世以降
119P	(I-7) G	楕円形	35	33	25	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
120P	(I-7) G	円形	26	26	40	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／単独。	なし	中世以降
121P	(H-7) G	楕円形	31	26	19	単層／黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
122P	(I-3・4) G	円形	18	17	37	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 1㎜程）を少量、焼土（φ 1㎜程）を微量含む。／５Ｊを切る。	なし	中世以降
123P	(G-7) G	不整円形	28	27	39	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／ 1090 Ｄに切られる。	なし	中世以降
124P	(I-5) G	楕円形	33	18	39	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／ 309 Ｈを切る。	なし	中世以降
125P	(K-6) G	楕円形か	31	30	21	２層：１層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。焼土（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に微量含む。／２層：黒褐色土（7.5YR3/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を全体的に多量含む。／ 303 Ｈを切り、1092 Ｄに切られる。	なし	中世以降
126P	(F・G-5) G	円形	44	41	67	３層／１層:明黄褐色土(10YR6/8)締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～１㎜）を斑状・ブロック状（φ 10 ～ 20㎜）に多量、褐色土（φ 0.5 ～１㎜）を斑状に少量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～１㎜)をを斑状･ブロック状(φ 10～20㎜)に多量、褐色土(φ 0.5 ～１㎜）を斑状に中量含む。／３層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～１㎜）を斑状・ブロック状（φ 40 ～ 80㎜）に中量、褐色土（φ 0.5 ～１㎜）を斑状に中量含む。／ 315 Ｈを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
127P	(E・F-2) G	楕円形	42	29	56	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 320 Ｈを切る。	なし	中世以降
128P	(E-4・5) G	不整形	73	57	63	２層／１層:明黄褐色土（10YR6/8）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状･ブロック状（φ 10 ～ 20㎜）に多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）をを斑状･ブロック状（φ 10 ～ 20㎜）に多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。／ 10 Ｙを切る。	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	中世以降
129P	(E-2) G	不整楕円形	26	23	15	単層／黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／ 320 Ｈを切る。	なし	中世以降
130P	(E-2) G	楕円形	30	29	45	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／ 320 Ｈを切る。	なし	中世以降
131P	(F-4) G	楕円形	29	23	46	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を上部にブロック状（φ 20 ～ 40㎜）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／７Ｊ、132 Ｐを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
132P	(F-4) G	楕円形	50	46	17	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)をブロック状（φ 40 ～ 60㎜）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／７Ｊを切り、131 Ｐに切られる。	縄文土器	中世以降
133P	(C-3) G	不整楕円形	64	59	31	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／２層:暗褐色土(7.5YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 317 Ｈを切る。	土師器	中世以降
134P	(J-2) G	不整楕円形	32	26	65	２層／１層:黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 301 Ｈを切る。	なし	中世以降
135P	(F-6) G	不整楕円形	35	29	84	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／ 315 Ｈを切る。	なし	中世以降
136P	(E-4) G	楕円形	28	25	40	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
137P	(E-3・4) G	楕円形	37	29	32	単層／黒褐色土（10YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／８Ｊを切る。	なし	中世以降
138P	(G-6) G	円形か	49	40	70	２層／１層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 40 ～ 150㎜）に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／２層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に極多量含む。／６Ｊ、139 Ｐを切る。	陶器	中世以降
139P	(G-6) G	楕円形か	92	70	50	単層／暗褐色土(10YR3/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／６Ｊを切り、138 Ｐに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
140P	(E-4) G	円形	35	33	68	単層／黒色土（10YR2/1）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／ 19 ＦＰを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
141P	(E-4) G	楕円形	42	38	41	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降

第 80 表　ピット一覧（６）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
142P	(F-7) G	不整円形	26	26	44	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／６Ｊを切る。	なし	中世以降
143P	(F-7) G	円形	33	31	88	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／６Ｊを切る。	なし	中世以降
144P	(J-2) G	楕円形	22	21	55	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を多量含む。／ 301 Hを切る。	なし	中世以降
145P	(H・I-8) G	楕円形	[32]	[16]	35	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 1109 Dに切られる。	なし	中世以降
146P	(I-7・8) G	楕円形	29	24	49	単層／黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 307・319 Hを切る。	なし	中世以降
147P	(J-2) G	楕円形	25	23	67	３層／１層：極暗褐色土(7.5YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）をブロック状（φ 20 ～ 50㎜）に中量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／２層：黒褐色土（10YR3/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を小量含む。／３層：灰黄褐色土（10YR5/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 5㎜）をに多量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 301 Hを切る。	縄文土器	中世以降
148P	(I-8) G	楕円形	49	38	32	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)をブロック状（φ 10 ～ 40㎜）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
149P	(G-3) G	不整楕円形	32	24	70	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 312 Hを切る。	なし	中世以降
150P	(G-3) G	円形	22	20	63	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 312 Hを切る。	なし	中世以降
151P	(J-9) G	不整楕円形	[37]	29	52	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土(φ 0.5 ～ 1㎜)を極多量含む。／ 1117 D・152 Pを切る。	土師器・須恵器	中世以降
152P	(J-9) G	不整楕円形	[52]	50	55	単層／暗褐色土(10YR3/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 1117 Dを切り、151 Pに切られる。	なし	中世以降
153P	(K-7) G	楕円形	38	36	41	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／単独。	土師器	中世以降
154P	(K-7) G	不整円形	35	35	57	単層／黒色土（7.5YR2/1）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／単独。	なし	中世以降
155P	(J・K-9) G	楕円形	64	22	25	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を斑状・ブロック状（φ 10 ～ 20㎜）に微量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 157・158 Pを切る。	なし	中世以降
156P	(J-9) G	楕円形	25	16	57	単層／褐色土（10YR4/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。／ 158 Pを切る。	なし	中世以降
157P	(J・K-9) G	楕円形	45	36	64	単層／褐色土（10YR4/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 155 Pに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
158P	(J・K-9) G	不整楕円形	57	16	59	２層／１層：褐色土（10YR4/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に中量含む。／２層：黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ 0.5 ～ 1㎜）を斑状に多量含む。／ 155・156 Pに切られる。	土師器	中世以降
159P	(E-5) G	楕円形	29	24	20	単層／黒色土(10YR2/1)締り強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜)を微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降
160P	(E-5) G	不整楕円形	43	31	57	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／２層：暗褐色土（7.5YR3/4）締りやや弱い、粘性強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降
161P	(I-9) G	不整楕円形	47	37	57	単層／褐灰色土（10YR4/1）締り弱い、粘性やや強い。ローム（φ 5㎜程）を多量含む。／９Yを切る。	なし	中世以降
162P	(D-5) G	不整楕円形	34	29	87	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降
163P	(D-5) G	楕円形	22	19	36	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降
164P	(D-5) G	円形	29	28	17	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層：暗褐色土(7.5YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／ 10 Yを切り、３道に切られる。	なし	中世以降
165P	(F-5) G	円形	30	29	54	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／ 315 Hを切り、３道に切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
166P	(E-4) G	楕円形	25	23	15	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／２層：暗褐色土(7.5YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を極多量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降
167P	(E-5) G	楕円形	23	20	20	単層／褐灰色土（10YR4/1）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ ２～ 5㎜）を微量含む。／ 10 Yを切る。	なし	中世以降

第 80 表　ピット一覧（７）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
168P	(E-5) G	楕円形	57	39	31	３層／１層:灰黄褐色土（10YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～５㎜）を少量含む。／２層：灰黄褐色土（10YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～20㎜）を斑状に極多量含む。／３層：灰黄褐色土（10YR4/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ１～５㎜）を少量含む。／10 Yを切る。	なし	中世以降
169P	(E-5) G	不整楕円形	25	22	39	単層／灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ１～５㎜)を少量含む。／10 Yを切る。	なし	中世以降
170P	(E-5) G	楕円形	35	[27]	47	２層／１層:灰黄褐色土（10YR4/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ１～５㎜）を少量含む。／２層：にぶい黄褐色土（10YR4/3）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ１～10㎜）を多量含む。／10 Yを切り、171 Pに切られる。	なし	中世以降
171P	(E-5) G	楕円形	[39]	32	47	単層／灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ１～10㎜)を下部にに中量含む。／10 Y・170 Pを切る。	なし	中世以降
172P	(D-6) G	不整楕円形	39	39	59	２層／１層:黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量含む。／２層：暗褐色土（10YR3/4）締りやや強い、粘性強い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
173P	(F-8) G	楕円形	29	25	10	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を多量、貝（φ40～50㎜）を中央部に中量含む。／69 Mを切る。	土師器・貝	中世以降
174P	(C-5) G	不整楕円形	69	66	22	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。／２層:黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。／175 Pを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
175P	(C-5) G	不整楕円形	48	48	18	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、炭化物（φ0.5～1㎜）を微量、焼土（φ0.5～1㎜）を微量含む。／２層:黒褐色土（7.5YR3/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量含む。／174 Pに切られる。	なし	中世以降
176P	(G-8) G	楕円形	43	41	54	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
177P	(G-8) G	楕円形	49	48	26	２層／１層:黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜)を微量、褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／２層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。／単独。	土師器	中世以降
178P	(J-8) G	楕円形	37	33	33	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
179P	(I-8) G	不整円形	26	25	29	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(φ0.5～1㎜)を極多量含む。／22 F Pを切る。	なし	中世以降
180P	(I・J-8) G	楕円形	35	34	40	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・部分的に多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。／307・319 Hを切る。	なし	中世以降
181P	(J-8) G	不整円形	41	39	52	３層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。／２層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。／３層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量、褐色土（φ0.5～1㎜）を中量含む。／307・319 Hを切る。	なし	中世以降
182P	(J-8) G	不整楕円形	42	32	44	２層／１層：暗褐色土（10YR3/3）締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、焼土（φ１～2㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／２層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／307・319 Hを切る。	なし	中世以降
183P	(J-8) G	楕円形	44	39	27	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状・ブロック状（φ40～60㎜）に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。／単独。	なし	中世以降
184P	(I-7) G	円形	39	37	25	単層／黒褐色土（10YR2/3）締り強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を部分的に微量、焼土（φ１～2㎜）を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
185P	(I-7・8) G	楕円形	36	31	52	単層／黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／単独。	なし	中世以降
186P	(G-7) G	楕円形	33	28	26	４層／１層：黒褐色土（10YR2/3）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／３層:暗褐色土（10YR3/4）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を斑状に少量、褐色土（φ0.5～1㎜）を多量含む。／４層：黄褐色土（10YR5/6）締りやや強い、粘性やや弱い。ローム（φ0.5～1㎜）を多量、褐色土（φ0.5～1㎜）を斑状に少量含む。／単独。	縄文土器	中世以降
187P	(H-8) G	楕円形	29	22	27	単層／暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ0.5～1㎜)を斑状に微量、褐色土（φ0.5～1㎜）を極多量含む。／1130 Dを切る。	縄文土器	中世以降
188P	(D-4) G	楕円形	32	28	61	２層／１層:黒褐色土（10YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を少量含む。／２層:暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ0.5～1㎜）を中量含む。／12 Jを切る。	なし	中世以降

第80表　ピット一覧（8）

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時　期
			長軸	短軸	深さ			
189P	(D-4) G	楕円形	55	50	11	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／単独。	縄文土器	縄文
190P	(F-6) G	不整楕円形	73	62	47	２層／１層:黒褐色土(7.5YR3/2)締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層:暗褐色土（10YR3/4）締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／６Ｊと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文
191P	(F・G-6) G	楕円形	58	52	33	３層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層:暗褐色土（7.5YR3/4）締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量含む。／３層：暗褐色土（10YR3/4）締り非常に強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／ 192 Ｐを切る。６Ｊと重複するが、先後関係は不明。	なし	縄文
192P	(G-6) G	楕円形	55	45	30	単層／極暗褐色土（7.5YR2/3）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／ 191 Ｐに切られる。６Ｊ、193 Ｐと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文
193P	(G-6・7) G	楕円形	58	43	32	２層／１層:黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／２層:暗褐色土（7.5YR3/4）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を中量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／６Ｊ、192・195 Ｐと重複するが先後関係は不明。	縄文土器	縄文
194P	(G-6) G	不整楕円形	53	39	25	２層／１層：黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量含む。／２層:黒褐色土（7.5YR3/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を多量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／６Ｊ、195 Ｐと重複するが先後関係は不明。	縄文土器	縄文
195P	(G-6) G	円形	32	31	34	単層／黒褐色土（7.5YR2/2）締り強い、粘性やや強い。ローム（φ 0.5 ～ 1㎜）を少量、焼土（φ 0.5 ～ 1㎜）を微量含む。／６Ｊ、193・194 Ｐと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文

第 80 表　ピット一覧（９）

第７節　遺構外出土遺物

表土や撹乱から出土した遺物の他、遺構内からの出土ではあるが、遺構の時期とは異なる、混入品と考えられる遺物をここで報告する。遺物の種類としては、縄文時代の土器、石器・石製品（１）、弥生時代中期～古墳時代前期の土器（２）、古墳時代後期の土器、土製品（３）、中世以降の土器、陶磁器、銭貨（４）である。

（１）縄文時代

［土　　器］（第 203 ～ 207 図 1 ～ 134、図版 95 ～ 98 － 1 ～ 134、第 81 表）

縄文時代の住居跡は縄文時代前期後葉と中期後葉であったが、遺構外出土の縄文土器は、早期から後期までの各時期のものが出土している。１～ 18 は早期、19 ～ 90 は前期、91 ～ 130 は中期、131 ～ 134 は後期である。

１は沈線文系土器とみられる。２～７・９～ 15・18 は条痕文系土器で、その内、９は茅山上層式土器、10・11 は野島式土器である。８は早期、16・17 は早期末とみられる。

19 ～ 31 は前期前半の羽状縄文系土器である。19・20 は花積下層式土器、23 は関山式土器の底部、24 ～ 31 は黒浜式土器である。32 ～ 76 は前期後半の諸磯式土器である。32 ～ 53 は諸磯ａ式、54 ～ 75 は諸磯ｂ式、76 は諸磯ｃ式である。77 は前期末の十三菩提式土器である。78 は前期後半、79・80 は前期末の土器とみられる。81 ～ 90 は前期後半の浮島式土器である。

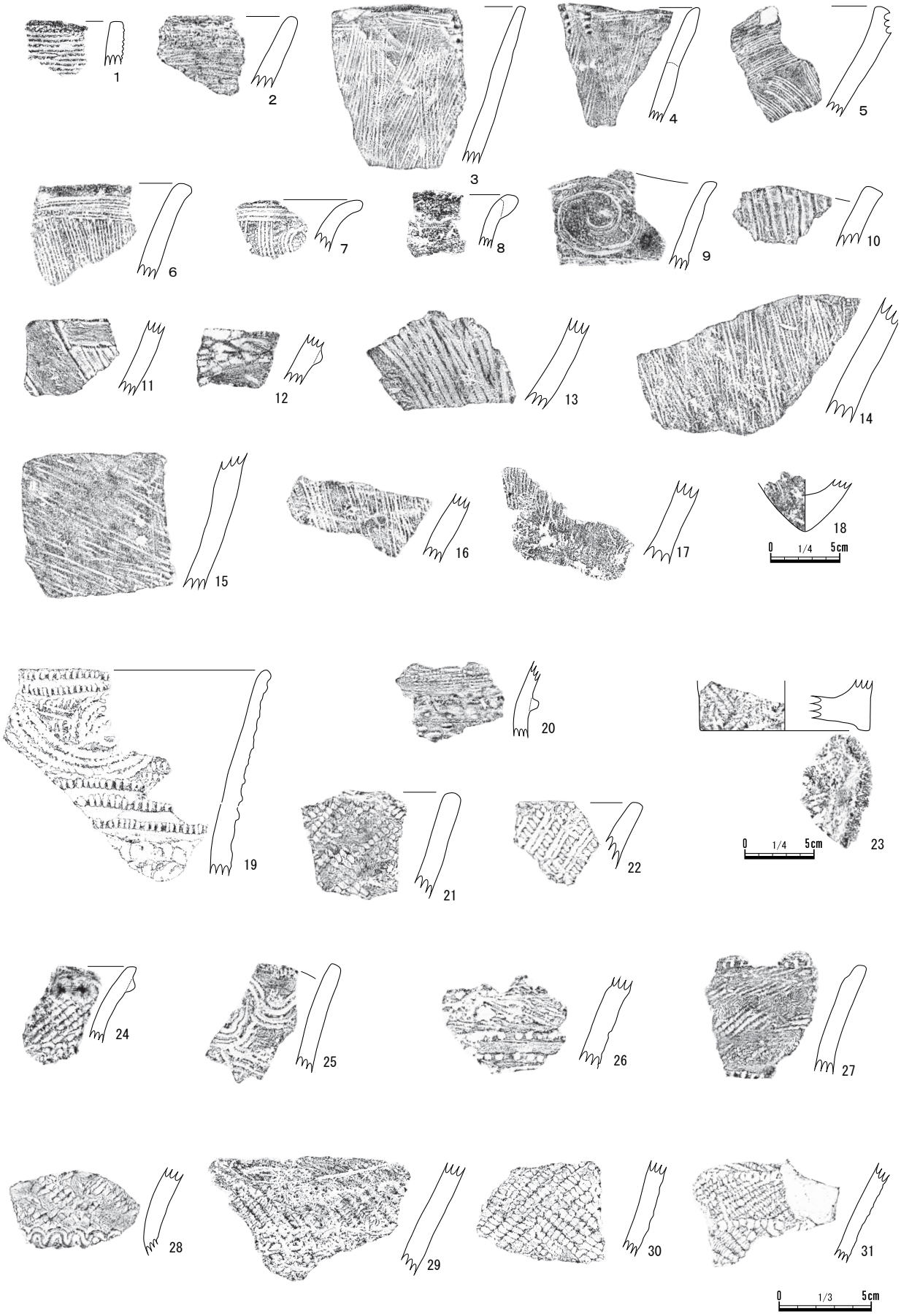
91 ～ 94 は五領ヶ台式土器、95 ～ 98 は勝坂式土器である。99 ～ 122 は加曽利Ｅ式土器で、99 ～ 105 は加曽利ＥⅠ式、106 は加曽利ＥⅠ式かと思われる土器（器種不詳）、107 は加曽利ＥⅠ式と思われる浅鉢、108 ～ 102 は加曽利ＥⅡ式、103 ～ 118 は加曽利ＥⅢ式、119 ～ 121 は加曽利ＥⅢ～Ⅳ式、122 は加曽利ＥⅣ式である。123 ～ 126 は曽利式土器、127 ～ 130 は連弧文土器である。

131 ～ 133 は堀之内式土器で、その内、133 は堀之内２式、134 は加曽利Ｂ式土器である

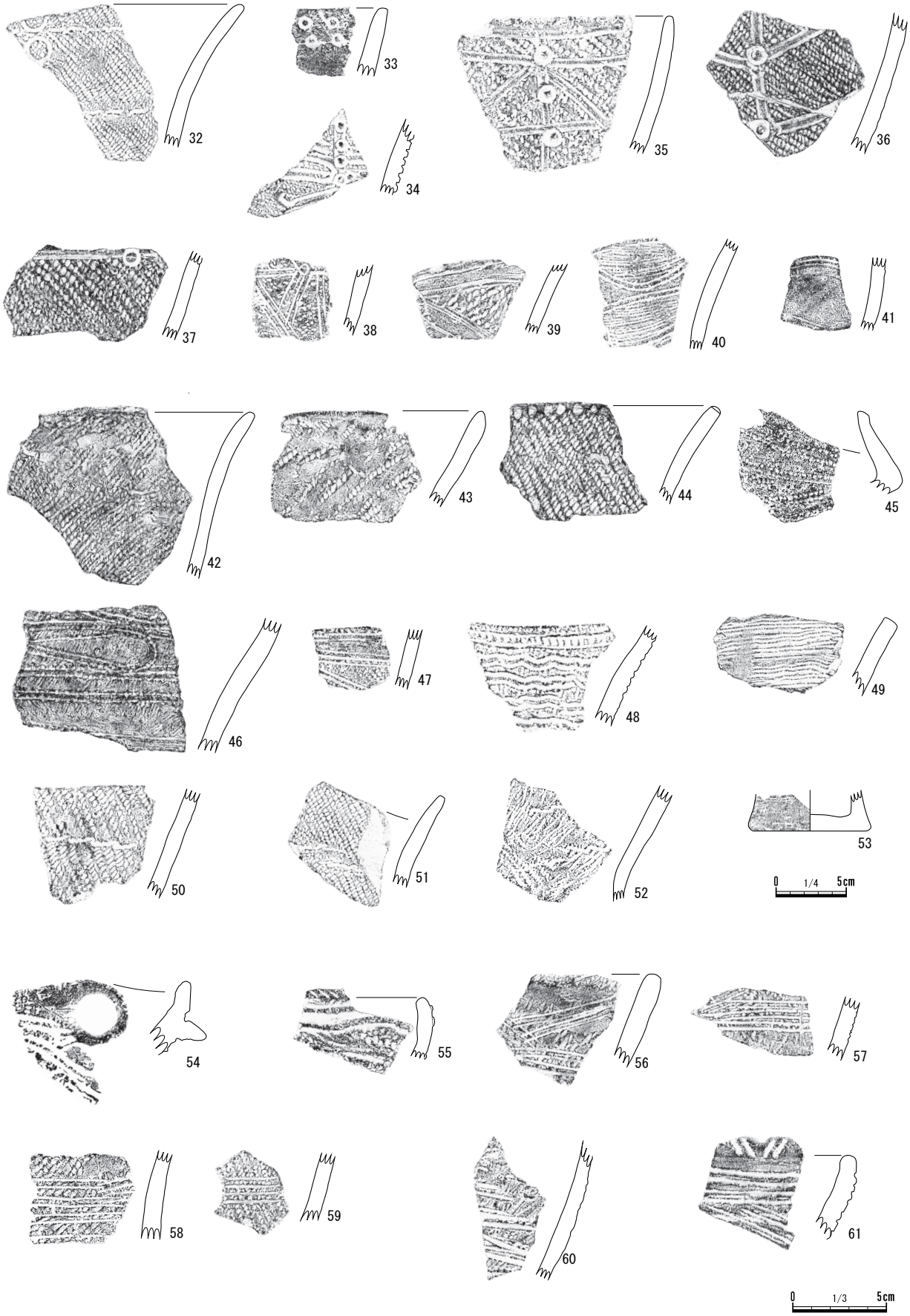
［石　　器］（第 208 ～ 210 図 135 ～ 168、図版 99 ～ 100 － 135 ～ 168、第 81 表）

135 ～ 138 は玦状耳飾で、138 は転用しようとしたらしく、工具痕がみられる。139 は錘飾である。

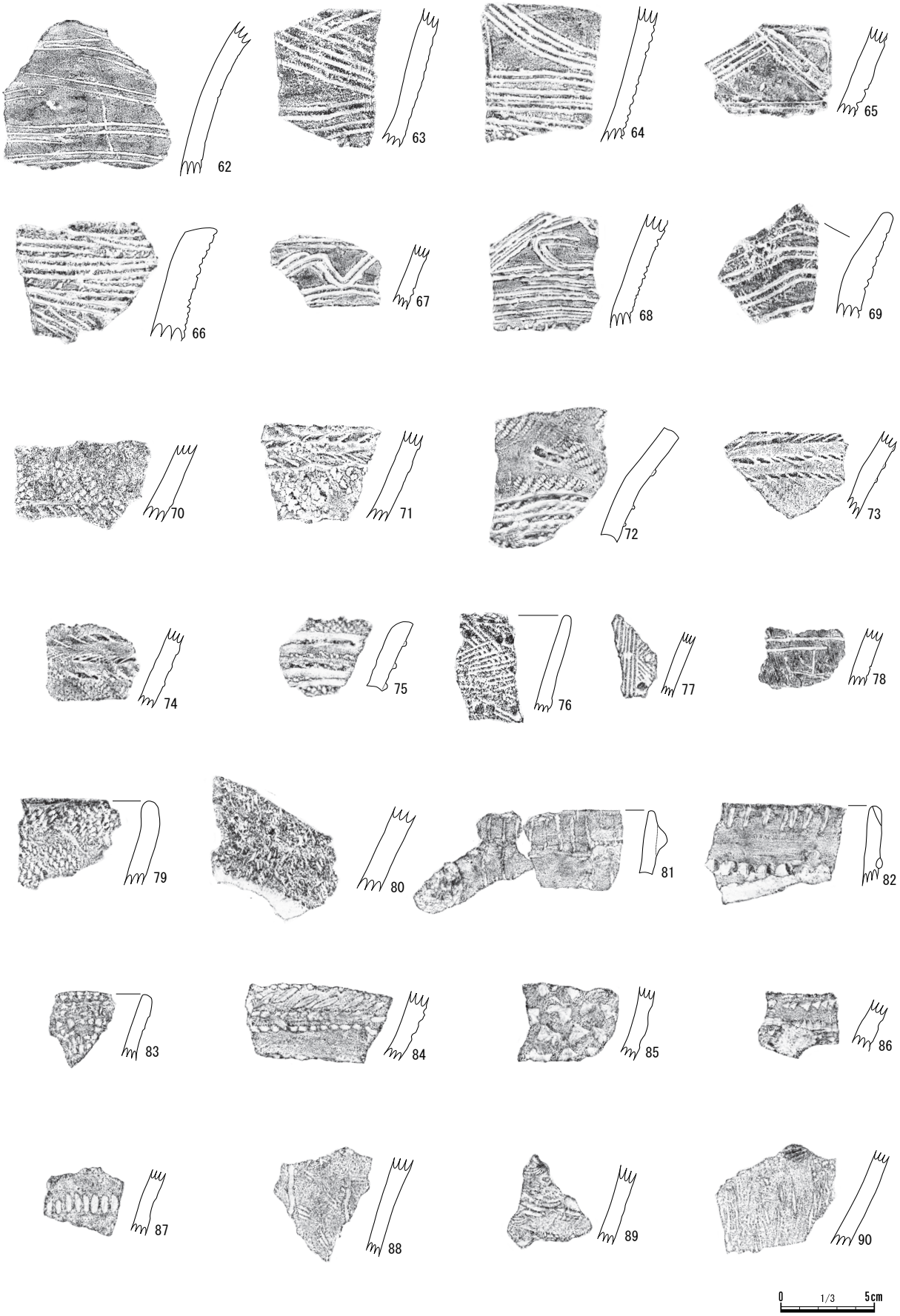
140 ～ 142 は石鏃、143 は石錐である。144 ～ 159 は打製石斧で、159 は凹石を転用している。160 は磨製石斧である。161 は磨石・凹石として使用したのち、編石に用いられたとみられる。162 ～ 165 は敲石・磨石、166・167 は石皿、168 は礫石斧である。



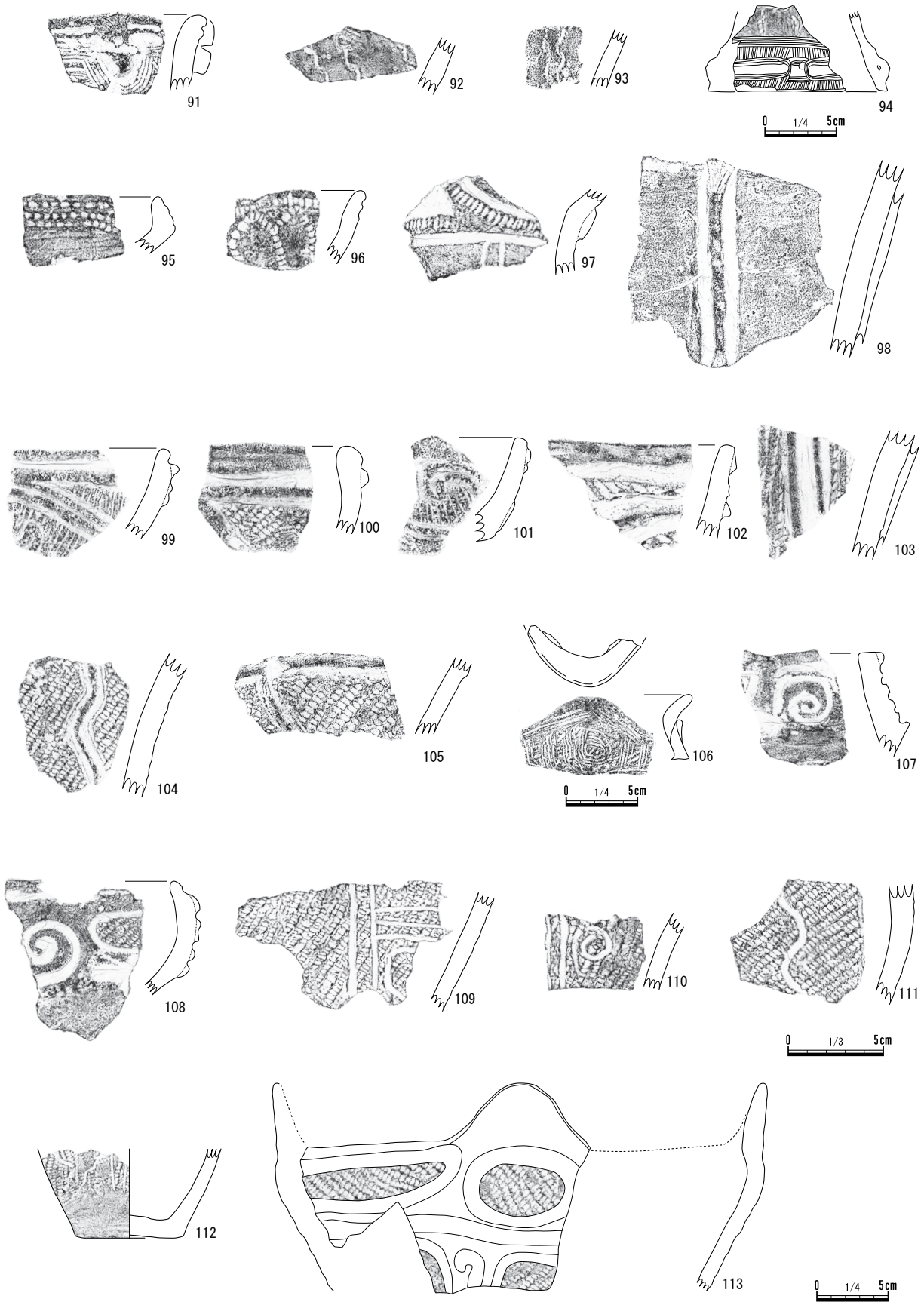
第 203 図　縄文時代遺構外出土遺物１（１／３・１／４）



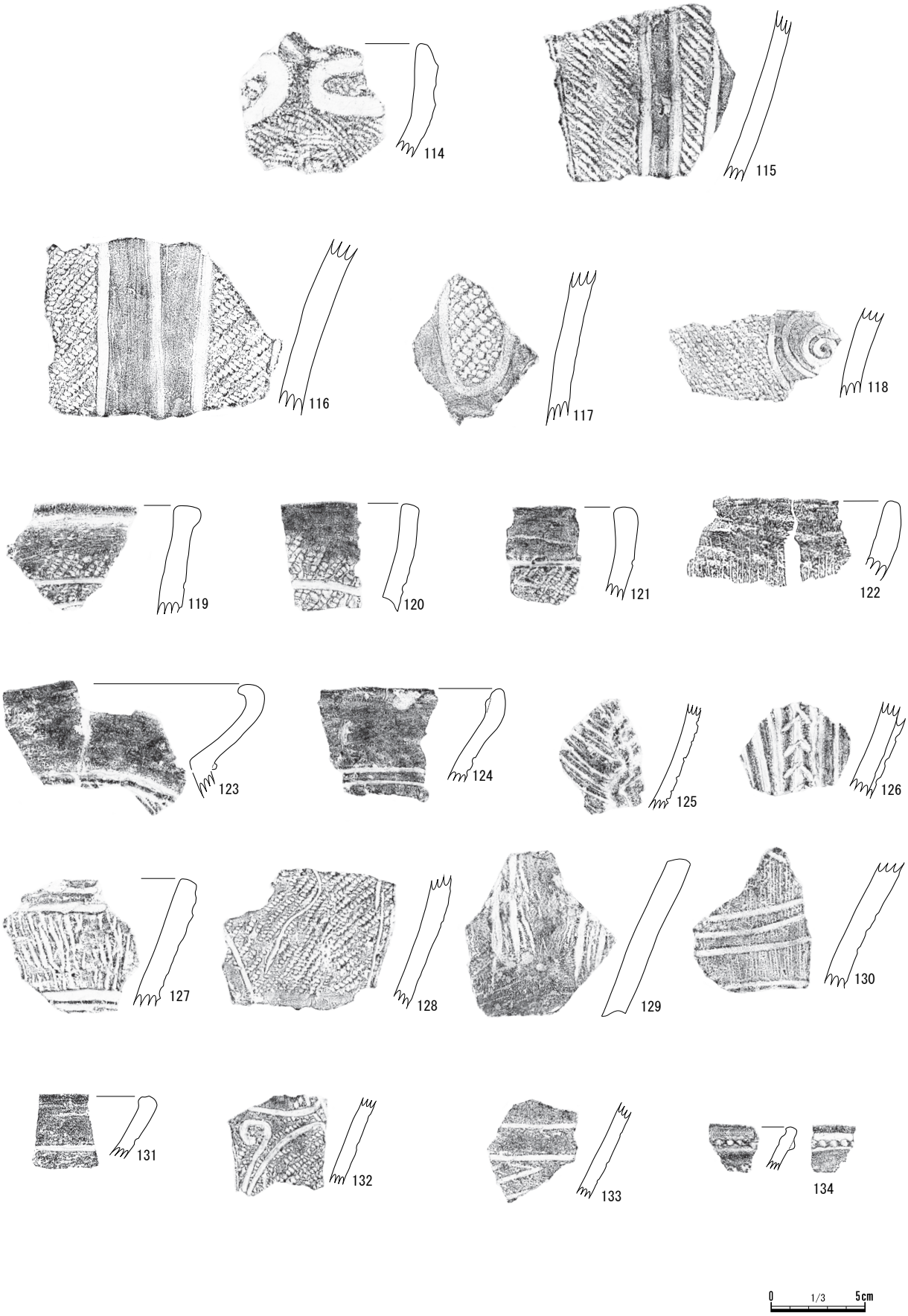
第 204 図　縄文時代遺構外出土遺物２（１／３・１／４）



第 205 図　縄文時代遺構外出土遺物３（１／３）



第 206 図　縄文時代遺構外出土遺物４（１／３・１／４）



第 207 図　縄文時代遺構外出土遺物５（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (㎝)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 203 図 1 図版 95-1	深鉢	２区表土	口縁部片	厚　0.8	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子中量	５本１単位工具による横位沈線	沈線文系 繊維土器
第 203 図 2 図版 95-2	深鉢	317 H	口縁部片	厚　0.9	にぶい黄褐色～赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量／小礫少量	横位条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 3 図版 95-3	深鉢	３道	口縁部片	厚　0.9	にぶい褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量／角閃石・小礫少量	櫛歯状工具による条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 4 図版 95-4	深鉢	（Ｈ－５）グリッド	口縁部片	厚　0.9	明褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量／石英・角閃石少量	櫛歯状工具による縦位条痕／口縁部隆帯（キザミ）	条痕文系 繊維土器
第 203 図 5 図版 95-5	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色～褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量	櫛歯状工具による横位と縦位の条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 6 図版 95-6	深鉢	１区表土	口縁部片	厚　1.0	にぶい黄褐色～明赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・石英中量／小礫少量	口縁部に横位条痕／胴部に縦位条痕	条痕文系？ 繊維土器
第 203 図 7 図版 95-7	深鉢	（Ｅ－６）グリッド	口縁部片	厚　0.9	暗灰黄色～にぶい黄色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・シャモット中量	口縁部に横位条痕／胴部に縦位条痕	条痕文系？ 繊維土器
第 203 図 8 図版 95-8	深鉢	303 H	口縁部片	厚　0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量	無文	早期 繊維土器
第 203 図 9 図版 95-9	深鉢	（Ｉ－４）グリッド	口縁部片	厚　0.8	にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・石英中量	沈線により渦巻きを描く	茅山上層式 繊維土器
第 203 図 10 図版 95-10	深鉢	308 H	口縁部片	厚　1.0	灰黄褐色～赤褐色	砂粒・白色粒子・石英中量	波状口縁／細隆起線文	野島式 繊維土器
第 203 図 11 図版 95-11	深鉢	308 H	胴部片	厚　1.0	赤褐色	砂粒・白色粒子・角閃石中量	細隆起線文	野島式 繊維土器
第 203 図 12 図版 95-12	深鉢	１区表土	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・白色針状物質中量	隆帯（刺突）	条痕文系 繊維土器
第 203 図 13 図版 95-13	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.1	灰黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石中量	太めの縦位条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 14 図版 95-14	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.3	灰黄褐色～褐色	砂粒・白色粒子・長石中量	外面に縦位条痕／内面に横位条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 15 図版 95-15	深鉢	（Ｆ－４）グリッド	胴部片	厚　1.1	黒褐色～明褐色	砂粒やや多量／白色粒子・石英・長石・角閃石中量	外面斜位条痕／円形刺突２個／内面に太めの縦位条痕	条痕文系 繊維土器
第 203 図 16 図版 95-16	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.1	灰黄褐色～にぶい褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・長石・雲母中量／小礫少量	条痕	早期末 繊維土器
第 203 図 17 図版 95-17	深鉢	315 H	胴部片	厚　1.2	にぶい黄橙色～橙色	砂粒やや多量／白色粒子・石英中量	条痕	早期末 繊維土器
第 203 図 18 図版 95-18	深鉢	２区表土	底部 5%	高　3.8	にぶい黄褐色～にぶい橙色	砂粒・白色粒子・石英中量	無文	条痕文系 繊維土器
第 203 図 19 図版 95-19	深鉢	313 H	口縁部片	厚　0.9	黒褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	口縁部に２条の隆帯（キザミ）／胴部に３条の隆帯（キザミ）３本／４本の縄を渦巻き状にし側面圧痕／胴部ループ文／隙間に刺突	花積下層式 繊維土器

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 203 図 20 図版 95-20	深鉢	１方	胴部片	厚　0.8	黒褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	隆帯／上部に２～３条の押引文／下部刺突	花積下層式 繊維土器
第 203 図 21 図版 95-21	深鉢	（Ｆ－３）グリッド	口縁部片	厚　1.1	黒褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量／長石少量	縄文（RL）	羽状縄文系 繊維土器
第 203 図 22 図版 95-22	深鉢	312 H	口縁部片	厚　0.9	黒褐色～にぶい赤褐色	砂粒中量	合の撚り、ＲとＬをＬ撚り	羽状縄文系 繊維土器
第 203 図 23 図版 95-23	深鉢	（Ｈ－５）グリッド	底部 ５％	高　2.6 底　9.4	灰褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	上部に縄文（RL）／下部に縄文（LR）	関山式 繊維土器
第 203 図 24 図版 95-24	深鉢	２区表土	口縁部片	厚　0.8	灰黄褐色～明黄褐色	砂粒・白色粒子中量	縄文（LR）／下部にループ文／上部に貼付突起	黒浜式 繊維土器
第 203 図 25 図版 95-25	深鉢	（Ｊ－３）グリッド	胴部片	厚　0.9	にぶい黄褐色～褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・白色針状物質中量	波状口縁／沈線でモチーフを描く	黒浜式 繊維土器
第 203 図 26 図版 95-26	深鉢	321 H	胴部片	厚　1.1	黒褐色～明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子。赤色粒子・石英・長石中量	縄文（無節 R）／下部に連続刺突	黒浜式 繊維土器
第 203 図 27 図版 95-27	深鉢	（Ｉ－４）グリッド	胴部片	厚　0.9	灰黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・シャモット中量	上部に爪形文／縦縄文（無節 L）	黒浜式 繊維土器
第 203 図 28 図版 95-28	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.0	暗褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	縦縄文（無節 L）／下部にコンパス文	黒浜式 繊維土器
第 203 図 29 図版 95-29	深鉢	１区	胴部片	厚　1.0	灰黄褐色～褐色	砂粒やや多量・白色粒子・長石中量／小礫少量	縄文（0 段多条 RL）	黒浜式 繊維土器
第 203 図 30 図版 95-30	深鉢	314 H	胴部片	厚　1.0	灰黄褐色～褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量	左部に縦縄文（RL）／右上部に縄文（LR）／右下部に縦縄文（LR）	黒浜式 繊維土器
第 203 図 31 図版 95-31	深鉢	１区表土	胴部片	厚　0.9	黒褐色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量	上部に縄文（RL）／中部に縄文（LR）／下部に縄文（0 段多条 RL）／ループ文２か所	黒浜式 繊維土器
第 204 図 32 図版 95-32	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.7	赤褐色～褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	縄文（RL）／２か所に結節／下部に円形刺突２個	諸磯ａ式
第 204 図 33 図版 95-33	深鉢	（Ｇ－４）グリッド撹乱	胴部片	厚　0.8	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・角閃石中量	円形刺突４個	諸磯ａ式
第 204 図 34 図版 95-34	深鉢	11 Y	胴部片	厚　0.9	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	斜縄文（RL）／平行沈線、米字文か？／円形刺突４個	諸磯ａ式
第 204 図 35 図版 95-35	深鉢	311 H	口縁部片	厚　0.8	にぶい黄褐色～褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縄文（RL）／平行沈線、米字文か？／円形刺突３個	諸磯ａ式
第 204 図 36 図版 95-36	深鉢	306 H	胴部片	厚　0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縄文（RL）／平行沈線／円形刺突２個	諸磯ａ式
第 204 図 37 図版 96-37	深鉢	315 H	胴部片	厚　0.5	にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縄文（RL）／平行沈線／円形刺突２個	諸磯ａ式
第 204 図 38 図版 96-38	深鉢	317 H	胴部片	厚　0.7	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	縄文（LR）／平行沈線／円形刺突１個	諸磯ａ式
第 204 図 39 図版 96-39	深鉢	（Ｊ－４）グリッド	胴部片	厚　0.6	赤褐色～褐色	砂粒・白色粒子・長石中量	縄文（無節 L）／平行沈線	諸磯ａ式

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（２）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 204 図 40 図版 96-40	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.8	にぶい黄褐色	砂粒多量・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	平行沈線による木葉文／集合沈線充填	諸磯ａ式
第 204 図 41 図版 96-41	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.7	にぶい黄褐色～褐色	砂粒やや多量・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	平行沈線、木葉文か？	諸磯ａ式
第 204 図 42 図版 96-42	深鉢	317 H	口縁部片	厚　0.7	褐色	砂粒・赤色粒子・石英中量／小礫少量	縄文（直前段多条、無節 L）	諸磯ａ式
第 204 図 43 図版 96-43	深鉢	309 H	口縁部片	厚　0.8	にぶい褐色～暗褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・角閃石中量	撚糸文	諸磯ａ式
第 204 図 44 図版 96-44	深鉢	２区表土	口縁部片	厚　0.7	にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	縄文（RL）／口唇部キザミ	諸磯ａ式
第 204 図 45 図版 96-45	深鉢	（Ｉ－３）グリッド	口縁部片	厚　1.4	灰黄褐色～にぶい黄橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子中量	波状口縁／平行沈線（刺突）	諸磯ａ式
第 204 図 46 図版 96-46	深鉢	10 Y	胴部片	厚　1.1	暗灰黄色～明褐色	砂粒・白色粒子・石英・シャモット中量	平行沈線（刺突）／集合沈線充填／下部に２～３条の横位沈線	諸磯ａ式
第 204 図 47 図版 96-47	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.7	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	縄文（RL）／平行沈線	諸磯ａ式
第 204 図 48 図版 96-48	深鉢	312 H	胴部片	厚　1.0	褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	斜縄文（RL ？）／４条の平行沈線による波状文／下部に爪形文	諸磯ａ式
第 204 図 49 図版 96-49	深鉢	１区表土	胴部片	厚　0.9	明赤褐色	砂粒多量・白色粒子・長石中量	密な横位平行沈線	諸磯ａ式
第 204 図 50 図版 96-50	深鉢	３区表土	胴部片	厚　0.8	明赤褐色～褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縄文（RL）／結節	諸磯ａ式
第 204 図 51 図版 96-51	深鉢	２区表土	口縁部片	厚　0.8	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	波状口縁／縄文 (RL）／２か所に結節	諸磯ａ式
第 205 図 52 図版 96-52	深鉢	308 H	胴部片	厚　0.7	灰黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	左部に縄文（RL）／右部に縄文（LL）／２か所に結節	諸磯ａ式
第 205 図 53 図版 96-53	深鉢	２区表土	底部 ５％	高　3.0 底　8.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	平行沈線	諸磯ａ式
第 205 図 54 図版 96-54	深鉢	北東壁付近の覆土中（床上 23cm）	口縁部片	厚　1.3	明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	口唇部Ｓ字状	諸磯ｂ式
第 205 図 55 図版 96-55	深鉢	３区表土	口縁部片	厚　0.8	褐色～にぶい橙色	砂粒多量／白色粒子・石英・長石中量	縄文（RL）／隆帯	諸磯ｂ式か
第 205 図 56 図版 96-56	深鉢	２区表土	口縁部片	厚　1.0	明褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	２条の斜位と横位の平行沈線／下部に縄文（撚糸か？）	諸磯ｂ式
第 205 図 57 図版 96-57	深鉢	１区表土	胴部片	厚　0.8	黒褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	縄文（RL）／３条の平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 58 図版 96-58	深鉢	321 H	胴部片	厚　0.9	褐色	砂粒多量／石英やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	縄文（LR）／４条の横位平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 59 図版 96-59	深鉢	317 H	胴部片	厚　0.8	明褐色～赤褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子中量	縄文（RL）／２条の横位平行沈線	諸磯ｂ式

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 205 図 60 図版 96-60	深鉢	315 H	胴部片	厚　0.9	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・長石中量	棒状工具による横位沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 61 図版 96-61	深鉢	313 H	口縁部片	厚　1.1	黒褐色～褐色	砂粒・白色粒子・石英中量	２条の横位と斜位の平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 62 図版 96-62	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・長石中量	５～６条の横位平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 63 図版 96-63	深鉢	314 H	胴部片	厚　1.1	にぶい黄褐色	砂粒やや多量・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量	中央部に３条の平行沈線／下部に２条の横位平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 64 図版 96-64	深鉢	３区表土	胴部片	厚　0.9	にぶい褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石・白色針状物質中量	上部に２条の弧を描く斜位平行沈線／下部に４条の横位平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 65 図版 96-65	深鉢	69 M	胴部片	厚　1.1	にぶい黄褐色～橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	平行沈線によりモチーフを描く	諸磯ｂ式
第 205 図 66 図版 96-66	深鉢	309 H	胴部片	厚　1.6	赤褐色～褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縄文（無節Ｌ？）／横位集合沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 67 図版 96-67	深鉢	（Ｄ－６）グリッド	胴部片	厚　0.8	黒褐色～灰黄褐色	砂粒・白色粒子・石英・長石・角閃石中量	平行沈線による波状文	諸磯ｂ式
第 205 図 68 図版 96-68	深鉢	318 H	胴部片	厚　0.6	にぶい褐色～灰黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子石英・角閃石中量／小礫少量	平行沈線によりモチーフを描く／４条の横位平行沈線／下部連続刺突	諸磯ｂ式
第 205 図 69 図版 96-69	深鉢	69 M	胴部片	厚　1.3	にぶい黄褐色～褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・角閃石・白色針状物質中量	波状口縁／口縁に沿って３条の平行沈線	諸磯ｂ式
第 205 図 70 図版 96-70	深鉢	（Ｉ－３）グリッド	胴部片	厚　1.0	褐色～明褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子長石中量／小礫少量	縄文（RL ？）／浮線文（斜位キザミ）	諸磯ｂ式
第 205 図 71 図版 96-71	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.0	明褐色～にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	２条の浮線文（キザミ）、離れている矢羽状	諸磯ｂ式
第 205 図 72 図版 96-72	深鉢	（Ｄ－５）グリッド	胴部片	厚　1.0	黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	縄文（RL）／斜位浮線文、一部のみ残存／下部横位浮線文（縄文押捺）	諸磯ｂ式
第 205 図 73 図版 96-73	深鉢	（Ｈ－５）グリッド	胴部片	厚　1.0	黒褐色～明褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量・角閃石少量	３条の浮線文（キザミ）、離れている矢羽状	諸磯ｂ式
第 205 図 74 図版 97-74	深鉢	314 H	胴部片	厚　0.9	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	縄文（RL）／浮線文（キザミ）、矢羽状	諸磯ｂ式
第 205 図 75 図版 97-75	深鉢	317 H	胴部片	厚　1.0	褐色～明赤褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	縄文（RL）／３条の浮線文（押捺）	諸磯ｂ式
第 205 図 76 図版 97-76	深鉢	317 H	口縁部片	厚　0.7	褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・長石・雲母中量	４条と５条の斜位平行沈線／上部と下部に円形貼付け各３個	諸磯ｃ式
第 205 図 77 図版 97-77	深鉢	（Ｇ－７）グリッド	胴部片	厚　0.6	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	２～３条の横位と斜位平行沈線／円形貼付け／円形刺突？	十三菩提式
第 205 図 78 図版 97-78	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.9	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子中量／小礫少量	横位沈線	前期後半

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 205 図 79 図版 97-79	深鉢	301 H	口縁部片	厚　1.2	黄褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・長石・角閃石中量	縄文（RL）／弱いキザミ	前期末
第 205 図 80 図版 97-80	深鉢	69 M	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	擦痕調整	前期末
第 205 図 81 図版 97-81	深鉢	308 H	口縁部片	厚　0.7	明赤褐色～褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量	隆帯（貝殻腹縁によるキザミ）	浮島式
第 205 図 82 図版 97-82	深鉢	1090 D	口縁部片	厚　0.8	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	口唇部にキザミ／下部に刺突、刺突により盛り上がる	浮島式
第 205 図 83 図版 97-83	深鉢	304 H	口縁部片	厚　0.7	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	口唇部に爪形文／連続刺突	浮島式
第 205 図 84 図版 97-84	深鉢	317 H	胴部片	厚　0.9	にぶい黄褐色～にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・石英中量	斜位連続キザミ／２条の横位連続刺突	浮島式
第 205 図 85 図版 97-85	深鉢	（Ｊ－３）グリッド	胴部片	厚　0.8	にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	全面に三角文	浮島式
第 205 図 86 図版 97-86	深鉢	（Ｃ－４）グリッド	胴部片	厚　1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	３条の連続する三角文、１条のみ引きがあまい	浮島式
第 205 図 87 図版 97-87	深鉢	（Ｈ－５）グリッド	胴部片	厚　0.7	黄褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	連続する貝殻腹縁文	浮島式
第 205 図 88 図版 97-88	深鉢	68 M	胴部片	厚　0.8	暗褐色～褐色	砂粒多量／白色粒子・石英中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第 205 図 89 図版 97-89	深鉢	321 H	胴部片	厚　0.8	にぶい黄褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第 205 図 90 図版 97-90	深鉢	313 H	胴部片	厚　0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第 206 図 91 図版 97-91	深鉢	３区表土	口縁部片	厚　1.1	褐色	砂粒・黒色粒子・石英・金雲母中量	粘土紐貼付け、間にキザミ／櫛歯状工具による条痕	五領ヶ台式
第 206 図 92 図版 97-92	深鉢	１区表土	胴部片	厚　1.0	褐色	砂粒・石英やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・白色針状物質中量	縦縄文（無節 L）／３か所に結節	五領ヶ台式
第 206 図 93 図版 97-93	深鉢	308 H	胴部片	厚　0.7	褐色	砂粒多量／石英やや多量／白色粒子・金雲母中量	２か所に結節のみ	五領ヶ台式
第 206 図 94 図版 97-94	台付鉢	1109 D	脚台	厚　0.9	にぶい赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・金雲母中量	撚糸文／隆帯（キザミ）上下に沈線	五領ヶ台式
第 206 図 95 図版 97-95	深鉢	317 H	口縁部片	厚　0.8	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	半裁竹管の外側による押引文	勝坂式
第 206 図 96 図版 97-96	深鉢	10 Y	胴部片	厚　0.9	橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量／角閃石少量	半裁竹管の外側による押引文	勝坂式
第 206 図 97 図版 97-97	深鉢	311 H	胴部片	厚　0.9	にぶい赤褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石中量	隆帯（キザミ）／２条の縦位沈線	勝坂式

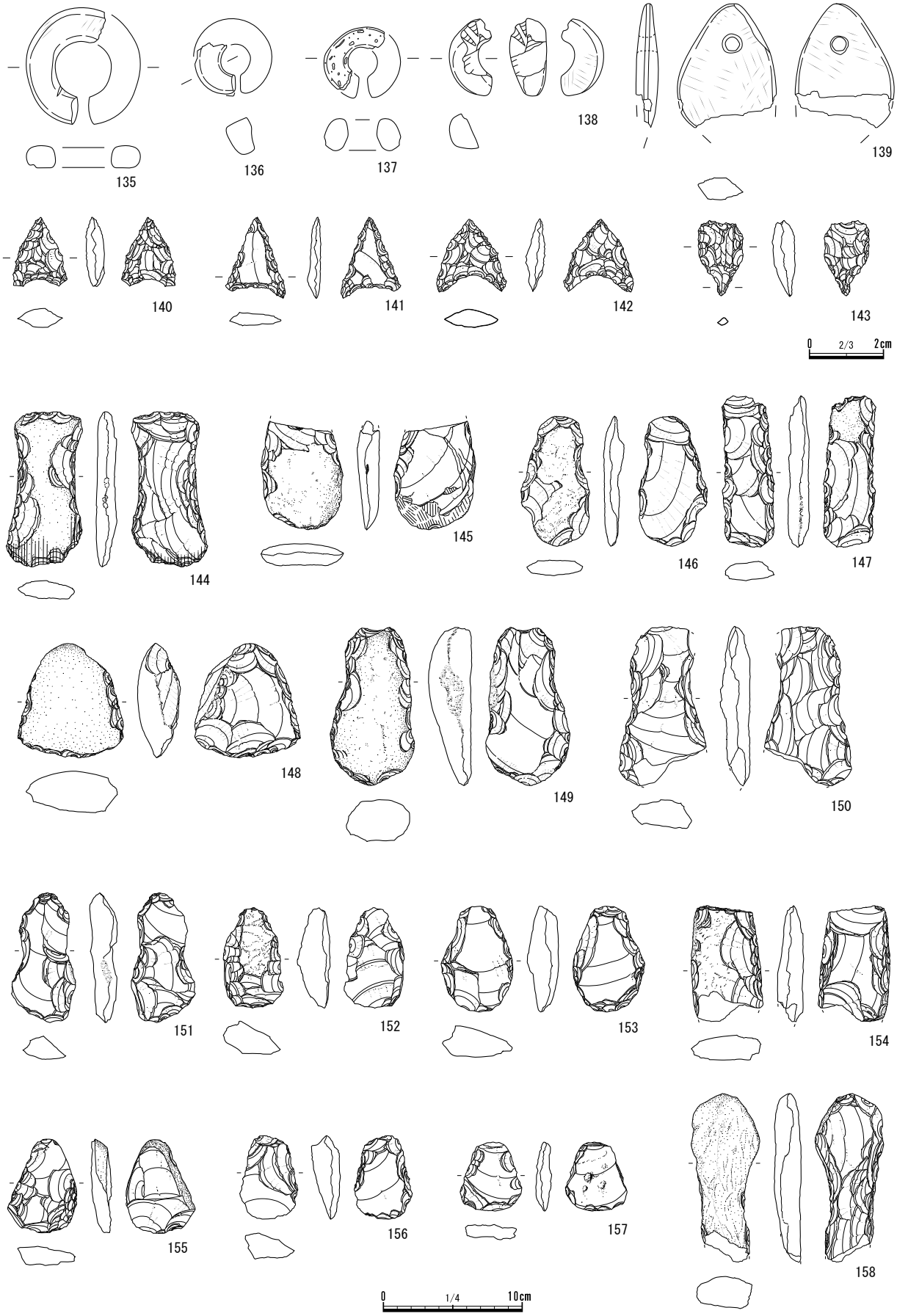
第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（５）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 206 図 98 図版 97-98	深鉢	（G－３）グリッド	胴部片	厚　1.3	明褐色～にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子やや多量／石英・長石・角閃石中量	縦位隆帯	勝坂式
第 206 図 99 図版 97-99	深鉢	317 H	口縁部片	厚　1.0	褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	隆帯によりモチーフを描く／縦位沈線充填	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 100 図版 97-100	深鉢	68 M	口縁部片	厚　1.0	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	隆帯区画、縦縄文（RL）充填	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 101 図版 97-101	深鉢	317 H	口縁部片	厚　1.1	褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量／小礫少量	隆帯区画、沈線充填	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 102 図版 97-102	深鉢	１方	口縁部片	厚　1.0	にぶい黄橙色～橙色	砂粒白色粒子・赤色粒子・シャモット中量／小礫少量	縄文（無節 R）／２条の隆帯	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 103 図版 97-103	深鉢	68 M	胴部片	厚　1.3	にぶい橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・小礫中量	縄文（無節 R）を側面圧痕／２条の縦位隆帯	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 104 図版 97-104	深鉢	２区表土	胴部片	厚　1.2	黒褐色～明褐色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縦縄文（RL）／蛇行する縦位隆帯	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 105 図版 97-105	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.9	褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	隆帯／縦縄文 (RL)	加曽利ＥⅠ式
第 206 図 106 図版 97-106	不明	305 H	口縁部片	厚　0.6	黒褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	沈線によりモチーフを描く	加曽利ＥⅠ式？
第 206 図 107 図版 97-107	浅鉢	311 H	口縁部片	厚　1.3	明黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	沈線により渦巻を描く	加曽利ＥⅠ式？
第 206 図 108 図版 97-108	深鉢	321 H	口縁部片	厚　0.9	褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量	隆帯区画、横 S 字隆帯、縦縄文（RL）充填	加曽利ＥⅡ式
第 206 図 109 図版 97-109	深鉢	305 H	胴部片	厚　0.9	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縦縄文（0 段多条 RL）／縦位と横位沈線	加曽利ＥⅡ式
第 206 図 110 図版 97-110	深鉢	２区表土	胴部片	厚　0.9	にぶい黄褐色～橙色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子中量	縦縄文（RL）／縦位と円形沈線	加曽利ＥⅡ式
第 206 図 111 図版 97-111	深鉢	10 Y	胴部片	厚　1.2	にぶい黄橙色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・角閃石中量	縦縄文（RL）／蛇行する縦位沈線	加曽利ＥⅡ式
第 206 図 112 図版 98-112	深鉢	305 H	底部 ５％	高　6.2 底　7.5	黒褐色～黄褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	縦縄文（RL）／縦位と蛇行する沈線	加曽利ＥⅡ式
第 206 図 113 図版 98-113	深鉢	69 M	口縁 ５％	高　14.8 口　34.7	黒褐色～褐色	砂粒・白色粒子・石英・長石中量	沈線区画、口縁部縄文（RL）充填、胴部縦縄文（RL）充填／突起を有す	加曽利ＥⅢ式
第 107 図 114 図版 98-114	深鉢	313 H	口縁部片	厚　1.2	にぶい黄橙色～明赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	縄文（無節 R）／沈線	加曽利ＥⅢ式
第 107 図 115 図版 98-115	深鉢	10 Y	胴部片	厚　0.9	黒褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英中量	縄文（無節 L）	加曽利ＥⅢ式
第 107 図 116 図版 98-116	深鉢	69 M	胴部片	厚　1.4	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縦位沈線／縦縄文（RL）	加曽利ＥⅢ式

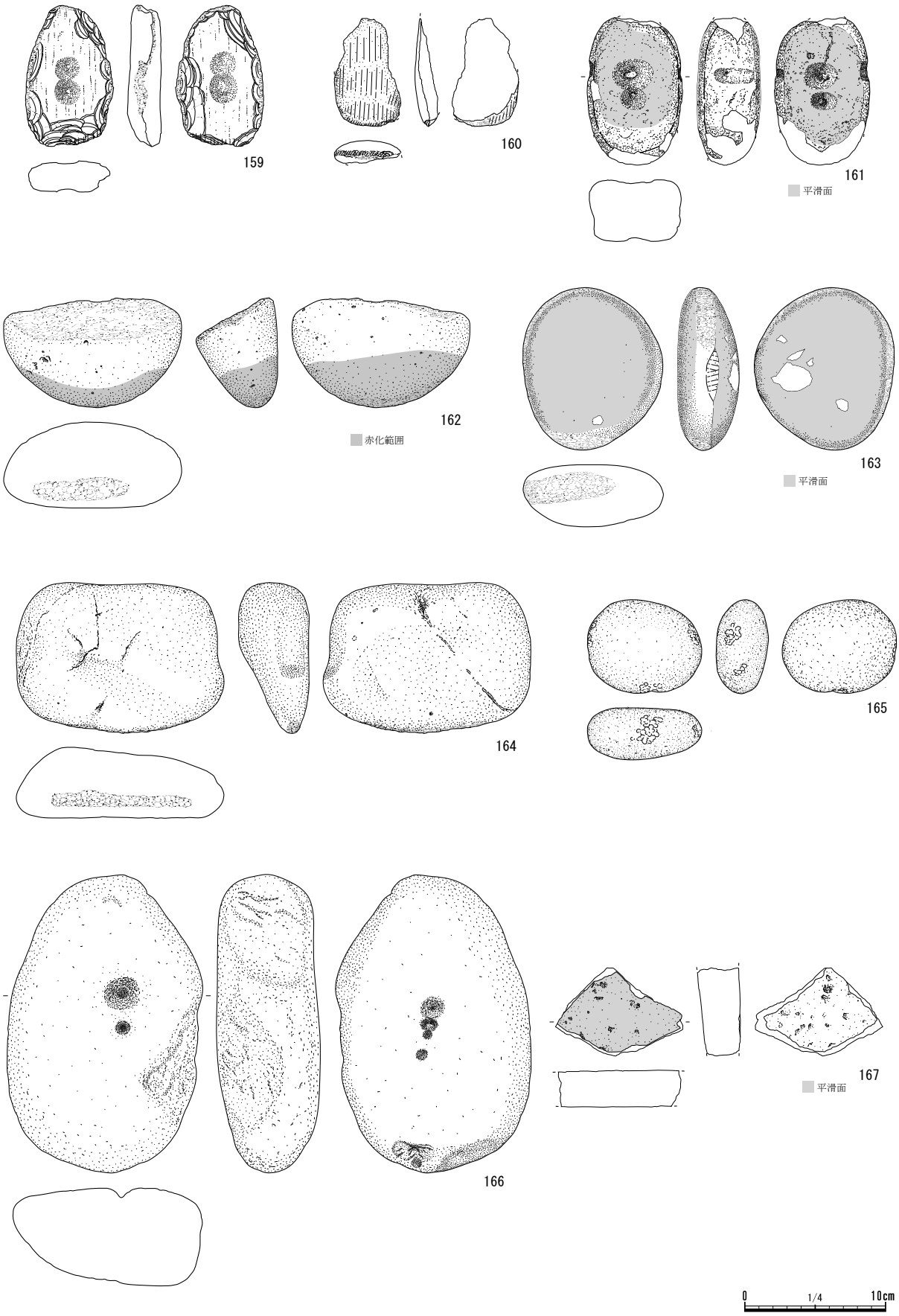
第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（６）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 107 図 117 図版 98-117	深鉢	69 M	胴部片	厚　1.1	明赤褐色～橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英・長石・角閃石中量	沈線区画／縦縄文（RL）	加曽利 E Ⅲ式
第 107 図 118 図版 98-118	深鉢	（D－７）グリッド	胴部片	厚　1.0	にぶい褐色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子中量	縦縄文（LRL）／沈線により渦巻きを描く	加曽利 E Ⅲ式
第 107 図 119 図版 98-119	深鉢	309 H	胴部片	厚　1.2	にぶい橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縄文（LR）／横位沈線	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ式
第 107 図 120 図版 98-120	深鉢	305 H	口縁部片	厚　1.0	にぶい褐色～にぶい橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量	縦縄文（RL）／横位沈線	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ式
第 107 図 121 図版 98-121	深鉢	１区表土	口縁部片	厚　1.0	褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・角閃石中量	縦縄文（RL）／横位沈線	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ式
第 107 図 122 図版 98-122	深鉢	７ J	口縁部片	厚　1.3	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	下部に縦位沈線	加曽利 E Ⅳ式
第 107 図 123 図版 98-123	深鉢	317 H	口縁部片	厚　0.8	明赤褐色	砂粒・雲母多量／白色粒子・長石・角閃石中量	下部斜位キザミ／粘土紐貼付け	曽利式
第 107 図 124 図版 98-124	深鉢	305 H	口縁部片	厚　0.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	横位沈線	曽利式
第 107 図 125 図版 98-125	深鉢	（Ｉ－２）グリッド	胴部片	厚　0.5	にぶい黄褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子中量	斜位沈線／蛇行する隆帯	曽利式
第 107 図 126 図版 98-126	深鉢	（Ｆ－４）グリッド	胴部片	厚　0.9	橙色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・長石中量／角閃石少量	縦位沈線／縦位隆帯（キザミ）、矢羽状	曽利式
第 107 図 127 図版 98-127	深鉢	305 H	胴部片	厚　0.9	灰黄褐色～橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縦縄文（RL）／縦位と蛇行する沈線	連弧文
第 107 図 128 図版 98-128	深鉢	308 H	口縁部片	厚　1.2	明赤褐色～暗赤褐色	砂粒・石英・角閃石多量／白色粒子中量	撚糸文／横位沈線	連弧文
第 107 図 129 図版 98-129	深鉢	308 H	胴部片	厚　1.3	暗赤褐色～明赤褐色	砂粒・石英・角閃石多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・中量	５～６条の縦位沈線	連弧文
第 107 図 130 図版 98-130	深鉢	303 H	胴部片	厚　1.0	橙色～にぶい橙色	砂粒多量／白色粒子・長石中量	条線／横位沈線／上部に連弧文？	連弧文
第 107 図 131 図版 98-131	深鉢	310 H	口縁部片	厚　0.8	にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量／小礫少量	横位沈線	堀之内式
第 107 図 132 図版 98-132	深鉢	321 H	胴部片	厚　0.8	褐色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	縦縄文（RL）／沈線でモチーフを描く	堀之内式
第 107 図 133 図版 98-133	深鉢	308 H	胴部片	厚　0.7	灰黄褐色～にぶい黄橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	横位と斜位沈線	堀之内２式
第 107 図 134 図版 98-134	深鉢	314 H	口縁部片	厚　0.5	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	隆帯（キザミ）	加曽利 b 式

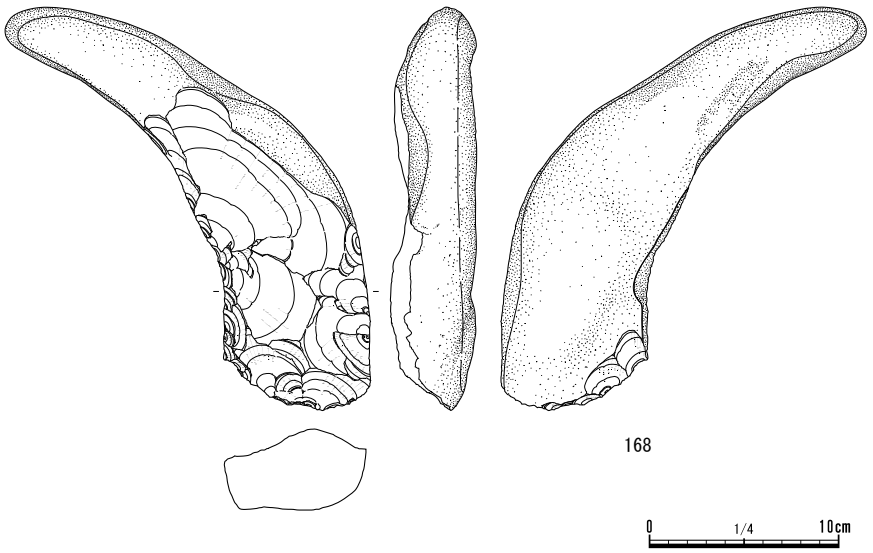
第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（７）



第 208 図　縄文時代遺構外出土遺物６（２／３・１／４）



第 209 図　縄文時代遺構外出土遺物７（１／４）



第 210 図　縄文時代遺構外出土遺物８（１／４）

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 208 図 135 図版 99-135	玦状 耳飾	10 Y	50%	滑石	径 (30.8)	孔径 (15.1)	5.4	4.4	金環形で断面は隅丸長方形。表面は光沢あり、研磨されている。	
第 208 図 136 図版 99-136	玦状 耳飾	10 Y	25%	滑石	径 (21.1)	孔径 (8.0)	9.9	1.5	金環形で断面は肉厚で台形状。稜線はやや角張。	
第 208 図 137 図版 99-137	玦状 耳飾	305 H	40%	軽石	径 (20.7)	孔径 (7.9)	8.6	0.5	金環形。断面は楕円状八字状を呈する。風化によりもろくなっている。	
第 208 図 138 図版 99-138	玦状 耳飾	306 H	30%	滑石	径 (20.7)	孔径 (8.1)	9.9	2.6	もとは玦状耳飾で欠損後下部をほそくし、上部に穿孔痕をほどこそうとしたようであるが目的まで到達せず。	
第 208 図 139 図版 99-139	垂飾	（Ｊ－７）グリッド	下部 欠損	滑石	33.5	26.8	6.0	6.6	幅広のしずく状。上部は径の大きめな穿孔あり。光沢あり、研磨痕が見られる。	
第 208 図 140 図版 99-140	石鏃	10 Y	完形	チャート	74.2	58.6	20.2	1.1	凹基無茎で肉厚。先端部は尖る。側面はややふくらむ。	
第 208 図 141 図版 99-141	石鏃	305 H	完形	チャート	86.8	64.2	14.4	0.9	凹基無茎。片方の脚が長い。側片は直線的。素材面を残し、周辺部のみ剥離がほどこされている。	
第 208 図 142 図版 99-142	石鏃	317 H	完形	チャート	78.6	75.0	20.2	1.2	凹基無茎。肉厚で側辺は大きくふくらむ。	
第 208 図 143 図版 99-143	石錐	（Ｈ－５）グリッド	完形	チャート	81.4	48.6	24.6	1.4	つまみ部分に対して錘部が小さい。錘は断面は三角形。非常に細かな調整がほどこされている。	
第 208 図 144 図版 99-144	打製 石斧	10 Y	完形	片状 砂岩	111.7	54.6	14.7	113.5	文胴形でほぼ完形。薄い作りで表に大きく自然面を残す。刃部は使用により摩滅している。側縁中央部に若干の敲打痕がみられる。	
第 208 図 145 図版 99-145	打製 石斧	304 H	基部 欠損	粘板岩	[78.1]	59.0	[15.9]	95.8	撥形か？表は刃部にかけて自然面を大きく残し、裏面は刃部にかけて非常に丁寧に研磨が施されている。	
第 208 図 146 図版 99-146	打製 石斧	304 H	完形	ホルンフェルス	94.5	49.4	14.4	65.1	撥形。左右とも両側縁中央部に丁寧に剥離が施されている。風化著しい。	
第 208 図 147 図版 99-147	打製 石斧	315 H	完形	粘板岩	109.0	37.7	15.3	84.4	短冊形。完形。連続する調整により成形。刃部付近が一番厚くなっている。	
第 208 図 148 図版 99-148	打製 石斧	313 H	完形	頁岩	82.2	75.8	30.8	210.4	撥形。小型だが肉厚。表は大きく自然面を残す。	

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（８）

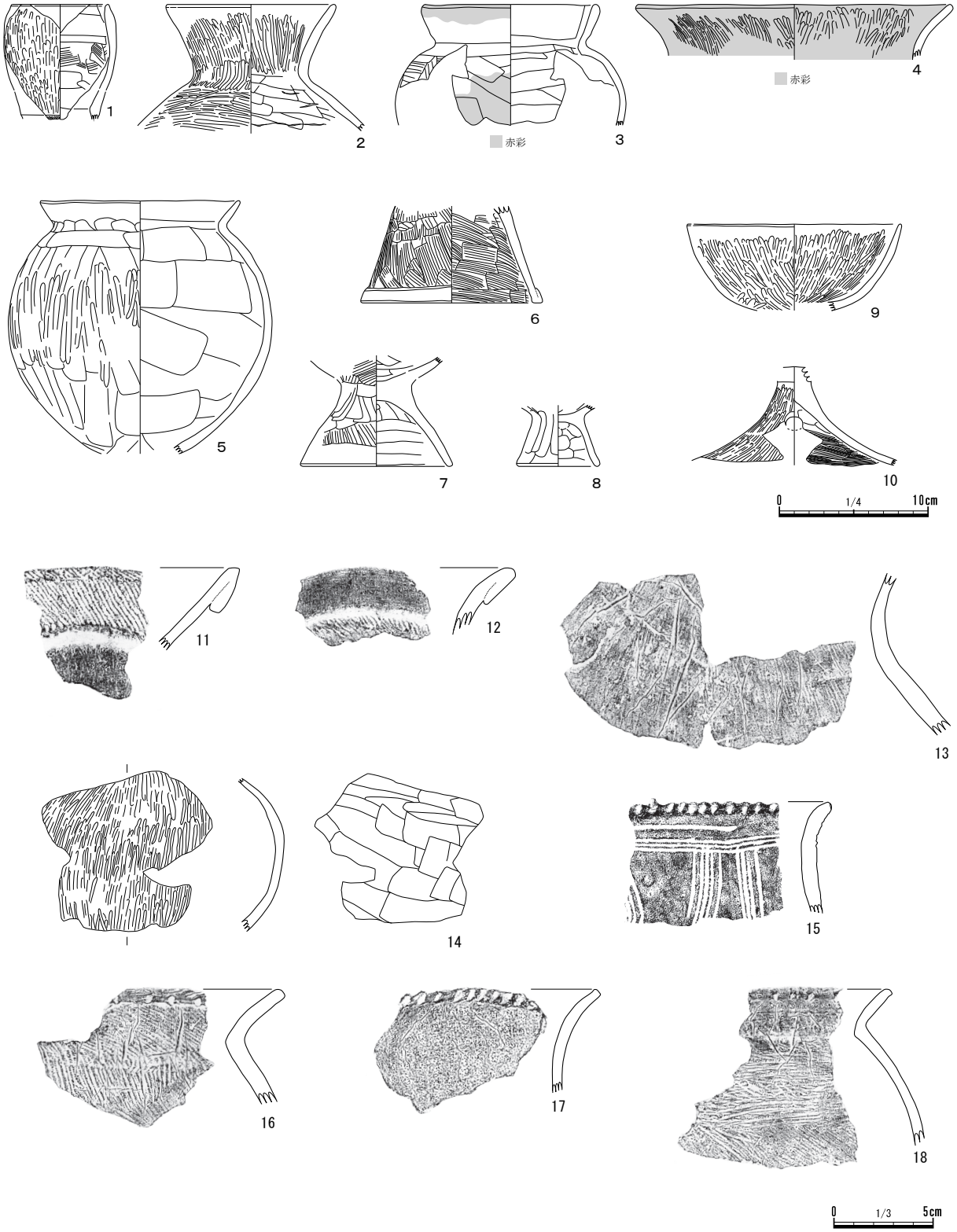
挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 208 図 149 図版 99-149	打製 石斧	318 H	完形	中粒 緑色 凝灰岩	113.9	60.5	31.0	263.8	表面中央に自然面をのこす。表面刃部付近は使用による研磨がみられる。側縁中央部は敲打により歯つぶしが行われている。	
第 208 図 150 図版 99-150	打製 石斧	318 H	刃部・ 基端部 欠損	ホルン フェル ス	[114.6]	[62.6]	21.6	142.1	撥形。風化著しく表面はかなり凸凹になっている。	
第 208 図 151 図版 99-151	打製 石斧	320 H	完形	ホルン フェル ス	93.1	45.7	19.5	73.8	撥形。節理もあり、剥離がゆがみやすい。	
第 208 図 152 図版 99-152	打製 石斧	（H－４）グ リッド	完形	ホルン フェル ス	71.9	43.2	23.5	66.0	表中央部に大きな節理面をのこす。全体に側からの大きめの成形で形成されている。	
第 208 図 153 図版 99-153	打製 石斧	２区表土	完形	ホルン フェル ス	75.0	51.8	22.6	85.7	肉厚で小型の打斧で撥形。辺縁に連続する加工をほどこしている。	
第 208 図 154 図版 99-154	打製 石斧	309 H	刃部 欠損	珪質粘 板岩	[82.5]	[51.2]	18.2	100.4	短冊形。欠損時使用を考え調整したもよう。上部は平端で急角度の調整が連続して行われている。	
第 208 図 155 図版 99-155	打製 石斧	315 H	完形	頁岩	67.4	49.7	14.9	50.1	撥形。刃部以外は自然面をのこしている。非常に薄い剥離により整形されている。	
第 208 図 156 図版 99-156	打製 石斧	315 H	完形	ホルン フェル ス	60.0	41.7	20.8	48.4	肉厚で小型の打製石斧で撥形。刃部の調整はあまりない。	
第 208 図 157 図版 99-157	打製 石斧	316 H	完形	ホルン フェル ス	49.6	44.1	11.4	27.1	小型の撥形の打製石斧で上部左右側縁部は折損により台形状を呈する。表裏面とも縁辺部からの連続する剥離により調整される。	
第 208 図 158 図版 99-158	打製 石斧	311 H	下部 欠損	ホルン フェル ス	[121.4]	[49.3]	19.1	126.4	撥形？。側面はほぼ自然面。側面は急角度な加工がほどこされ、左側面はその後に敲打がほどこされている。	
第 209 図 159 図版 99-159	凹石→ 打製 石斧	320 H	完形	緑泥 片岩	100.2	62.6	24.0	227.0	凹石として使用していたものが打製石斧に転用されている。表裏中央に凹がくる。側辺から上部にかけ敲打による歯つぶしが行われる。刃部はすりへり。	
第 209 図 160 図版 99-160	磨製 石斧	２区表土	刃部片	緑色岩	[76.7]	[47.3]	[16.1]	58.9	磨製石斧の一部の刃部。刃部は敲打によって丸みをおびる。	
第 209 図 161 図版 99-161	磨石・ 凹石・ 編石	309 H	部分的 に欠損	閃緑岩	[104.7]	[67.6]	45.2	482.9	表面はかなり風化し場所によって欠損している。楕円形で厚みのある磨石・凹石として使用後くぼみをつけ編石として使用か？	
第 209 図 162 図版 100-162	敲石	1076 D	完形	砂岩	125.9	74.5	58.3	622.8	使用されたのち、被熱により下部が赤化。下端部に敲打痕。上部の割れ口は割れのち、全面を敲打により埋め尽くしている。そのため割れ口のラインは滑らかになっている。上部は再加工ということで欠損としない。	
第 209 図 163 図版 100-163	磨石・ 敲石	２区表土	完形	変質 ドレラ イト	115.5	99.3	43.6	769.3	表・裏面に広く平滑面がひろがり、下端から左側→上端→右側面上部にかけて敲打痕が見られる。敲打痕は平滑面より新しい。右側中央部は研磨痕がみられる。	
第 209 図 164 図版 100-164	敲石	320 H	完形	砂岩	147.5	106.7	50.2	1083.0	上部は厚く、下部は薄くなる形状で下端部に敲打痕をのこす。かなり重いが上部はつかみやすい。	
第 209 図 165 図版 100-165	敲石	（Ｉ－３）グ リッド	完形	凝灰岩	66.3	80.9	37.5	291.6	こぶし大の自然礫で周縁部にブロック状の敲打痕がみられる。表面は風化がすすみ、磨り痕等は確認できず。	
第 209 図 166 図版 100-166	石皿・ 凹石	314 H	完形	安山岩	211.7	138.9	73.8	2827.4	大きく板状の自然石で、平端面中央に複数の凹が有する。平滑面は見られず。	
第 209 図 167 図版 100-167	石皿	２区表土	部分	閃緑岩	[90.5]	[62.2]	[30.3]	193.2	大きく欠損。皿部がやや斜めで平端。表面は平滑。	
第 210 図 168 図版 100-168	礫石斧	（１－５）グ リッド	完形	細粒 砂岩	213.1	193.1	45.4	1139.1	角状に湾曲する自然礫をもいちる。刃部のみ表裏とも調整が入る。	

第 81 表　縄文時代遺構外出土遺物一覧（９）

（２）弥生時代中期～古墳時代前期

［土　　器］（第 211 図１～ 10、図版 101 － 1 － 1 ～ 18、第 82 表）

１は坩か、２、11 ～ 14 は壷、３・４は広口壷、５・７・８・15 ～ 18 は甕・台付甕、６は台付鉢か、９・10 は高坏である。



第 211 図　弥生時代遺構外出土遺物（１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　　徴	備　考
第 211 図 1 図版 101- 1 -1	坩か	306 H	口縁～ 底部 5%	口　(6.5)	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子中量	口縁部は内湾する／内面：ハケナデ・ヘラナデ／外面:ミガキ、接合部ハケナデ？	古墳時代前期
第 211 図 2 図版 101- 1 -2	壷	1 区表土	口縁～ 肩部 15%	高　[8.7] 口　(11.4)	橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量／小礫少量	内面肩部ツギメが目立つ／内面：口縁部ミガキ、肩部ヘラナデ／外面：口縁部縦ミガキ、肩部横ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 3 図版 101- 1 -3	壷	1 区表土	口縁～ 胴部 10%	高　[8.1] 口　(12.0)	にぶい 黄橙色	砂粒多量／白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	外面口縁部・胴部赤彩／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ハケナデ・ヘラナデ	古墳時代前期
第 211 図 4 図版 101- 1 -4	広口壷	311 H	口縁部 5%	高　[3.7] 口　(21.4)	明赤褐 色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／長石少量	内面外面：ハケナデ→ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 5 図版 101- 1 -5	台付甕	（Ｊ－４） グリッド	口縁～ 胴部 50%	高　[17.0] 口　(13.5)	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子中量／角閃石・小礫少量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 6 図版 101- 1 -6	台付鉢	314 H	口縁部 10%	高　[6.5] 底　(12.2)	橙色～ にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量／小礫少量	内面外面：ハケナデ	古墳時代前期
第 211 図 7 図版 101- 1 -7	台付甕	306 H	台部	高　[7.5] 底　(10.2)	黒褐色 ～にぶ い橙色	砂粒多量／白色粒子中量	内面：ヘラナデ／外面：接合部ヘラナデ・ハケナデ、台下部横ナデ	弥生時代後期 後半～古墳時 代前期
第 211 図 8 図版 101- 1 -8	台付甕	309 H	台部	高　[4.1] 底　(5.6)	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量／長石少量	内面：台見込部指押え、台部ヘラナデ／外面：ヘラナデ	弥生時代後期 後半～古墳時 代前期
第 211 図 9 図版 101- 1 -9	高坏	321 H	口縁～ 体部 20%	高　[5.8] 口　(14.2)	明赤褐 色	砂粒やや多量／白色粒子・黒色粒子・長石中量	内面外面：ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 10 図版 101- 1 -10	高坏	313 H	脚部 15%	高　[6.6]	橙色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量／角閃石少量	脚上部に穿孔３単位／裾部は大きく広がる／内面：坏部ナデ、脚見込部ヘラナデ、脚下部ハケナデ／外面：ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 11 図版 101- 1 -11	壷	309 H	口縁部 片	厚　0.5	橙色	砂粒やや多量／白色粒子・赤色粒子・シャモット中量	複合口縁／口唇部・口縁部無節縄文Ｌ／複合口縁の折り返し先端一部キザミ／内面：ハケナデ／外面：頸部ヘラナデ	弥生時代後期 後半
第 211 図 12 図版 101- 1 -12	壷	309 H	口縁部 片	厚　0.7	明褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	複合口縁／内面：ミガキ／外面：口縁部ミガキ、頸部ハケ→一部ミガキ	古墳時代前期
第 211 図 13 図版 101- 1 -13	壷	２区表土	頸部片	厚　0.8	にぶい 黄橙色 ～にぶ い橙色	砂粒・白色粒子・石英中量	内面：ハケナデ・ヘラナデ／外面：ハケナデ	弥生時代後期 ～古墳時代前 期
第 211 図 14 図版 101- 1 -14	壷	306 H	胴部片	厚　0.4	にぶい 橙色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	内面：ヘラナデ／外面：ミガキ	古墳時代前期
第図 15 図版 101- 1 -15	甕	９Ｊ	口縁部 片	厚　0.7	褐色	砂粒・白色粒子・長石・石英中量	口縁部は外傾する／頸部に３条の横位沈線／胴部に３～４条の横位沈線／口縁部キザミ／内面：ナデ／外面：ナデ	弥生時代中期 末葉
第 211 図 16 図版 101- 1 -16	台付甕	２区表土	口縁～ 肩部片	厚　0.8	にぶい 橙色	砂粒・白色粒子中量	内外面口縁部赤彩／内面：ハケナデ・ヘラナデ／外面：口唇部ヘラナデ、口縁～頸部ハケナデ、口縁上部横ヘラナデ	古墳時代前期
第 211 図 17 図版 101- 1 -17	台付甕	304 H	口縁部 片	厚　0.5	にぶい 褐色	砂粒多量／白色粒子・石英・長石中量	口唇部キザミ／口縁部は緩やかに外反する／内面：ハケナデ／外面：ハケナデ	弥生時代後期 後半
第 211 図 18 図版 101- 1 -18	台付甕	312 H	口縁～ 肩部辺	厚　0.5	褐灰色	砂粒やや多量／白色粒子・長石・シャモット中量	口唇部キザミ／内面：口縁部横ナデ、肩部ヘラナデ／口唇部横ナデ、口縁部横ナデ、肩部ハケナデ	古墳時代前期

第 82 表　弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物一覧

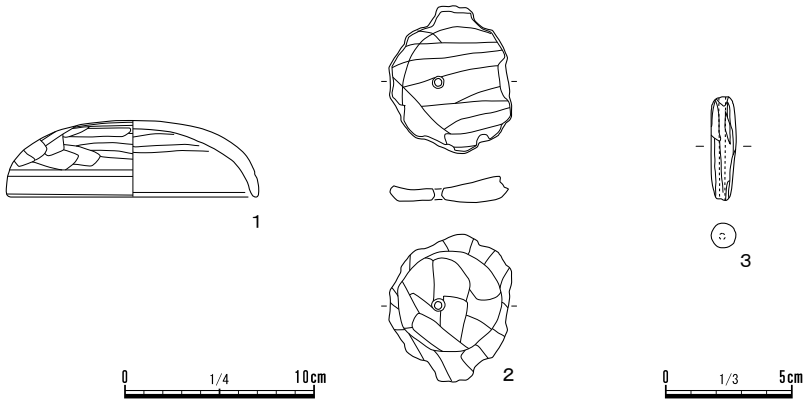
（３）古墳時代

［土　器］（第 212 図１、図版 101 －２－１、第 83 表）

１は須恵器の蓋である。

［土 製 品］（第 214 図２・３、図版 101 －２－２・３、第 83 表）

２は土師器の甕を転用した紡錘車、３は土錘である。



第 212 図　古墳時代後期遺構外出土遺物（１／３・１／４）

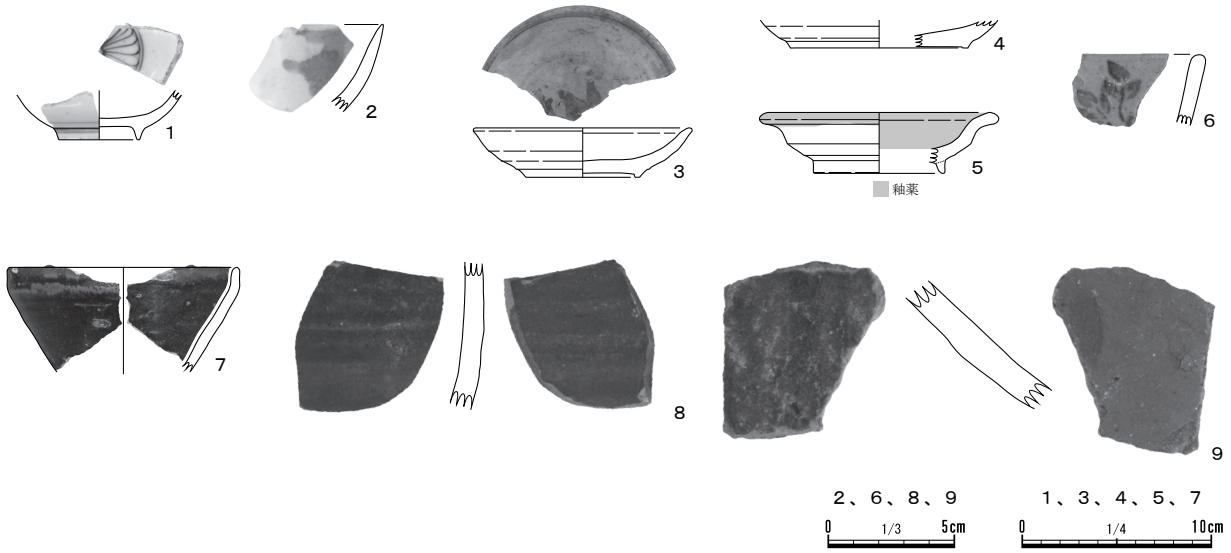
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 212 図 1 図版 101- 2 -1	須恵器 蓋	表採	完形	高 4.0 口 13.3	黄灰色	砂粒・白色粒子多量／長石・角閃石中量	内面：回転ナデ／外面：頂部手持ちヘラケズリ、体部回転ナデ	湖西窯跡産／６世紀後葉

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 212 図 2 図版 101- 2 -2	土師器 甕転用 紡錘車	２区表土	完形	0.8	0.7	0.1	49.8	土師器甕の底部を転用して作成される。楕円形で中央をやや外れて 3.8㎜の穿孔を開ける。	
第 212 図 3 図版 101- 2 -3	土製品 土錘	表採	完形か	4.1	1.0	1.0	3.0	中央部穿孔、外面ナデ、一部に工具痕あり。	

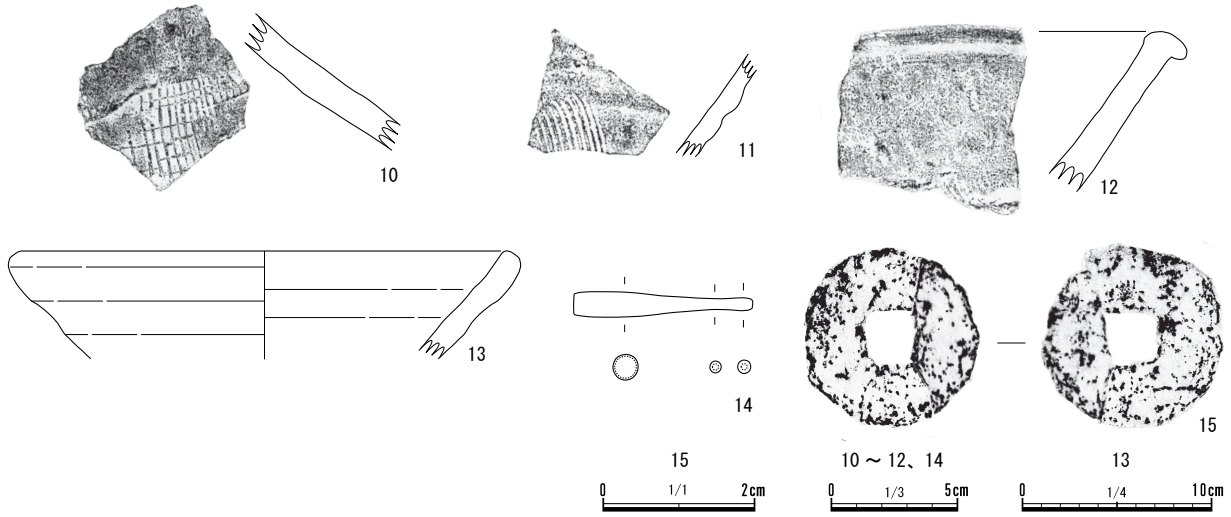
第 83 表　古墳時代遺構外出土遺物一覧

（４）中世以降（第 213・214 図１～ 15、図版 102 － 1 － 1 ～ 15、第 84 表）

１・２は磁器碗、３～ 12 は陶器で、３～５は皿、６は鬢水入れ、７は碗、８は瓶類、９・10 は甕、11 は擂鉢、12 は鉢、13 は瓦質土器鉢、14 は煙管の吸口、15 は銭貨である。



第 213 図　中世以降遺構外出土遺物１（１／３・１／４）



第 214 図　中世以降遺構外出土遺物２（１／１・１／３・１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 213 図 1 図版 102- 1 -1	磁器 碗	表採	体部～ 底部 15％	高 [2.6] 底 (4.3)	白色	緻密	外面下部～高台に呉須描き圏線３条、内面見込みに呉須描き圏線・菊文／透明釉	肥前系／ 17 世紀末～ 18 世紀初
第 213 図 2 図版 102- 1 -2	磁器 碗	３区表土	口縁部 ～体部 片	厚 0.5	白色	緻密	外面に呉須描き文様／透明釉	肥前系（波佐見）／ 18 世紀前
第 213 図 3 図版 102- 1 -3	陶器 皿	（Ｊ－５） グリッド 確認面	口縁部 ～底部 30％	高 2.6 口 (11.6) 底 (6.1)	灰色	緻密	口縁部内面に鉄絵圏線、内面見込みに鉄絵紅葉様の文様／削り高台／透明釉	瀬戸･美濃系（志野）／ 17 世紀中葉
第 213 図 4 図版 102- 1 -4	陶器 皿	313 H	口縁部 ～底部 ８％	高 [1.5] 底 (9.5)	白色	緻密	内外面細かな貫入／削り高台／白色釉	瀬戸･美濃系（志野）／ 17 世紀中葉
第 213 図 5 図版 102- 1 -5	陶器 皿	２区表土	口縁部 ～底部 ５％	高 3.2 口 (12.7) 底 7	白色	緻密	内面見込みに鉄絵／外面の釉は口縁部のみ／貼り付け高台／白色釉	瀬戸･美濃系（志野）／ 17 世紀中葉
第 213 図 6 図版 102- 1 -6	陶器 鬢水入れ	（Ｉ－９） グリッド 撹乱	口縁部 ～体部 片	厚 0.5	灰色	緻密	外面に鉄絵葉文／透明釉	瀬戸・美濃系／ 18 世紀
第 213 図 7 図版 102- 1 -7	陶器 碗	２区表土	口縁部 ～胴部 15％	高 [5.5] 口 (12.3)	茶白色	緻密	天目釉	天目椀／瀬戸・美濃系／近世か
第 213 図 8 図版 102- 1 -8	陶器 瓶類	２区表土	胴部片	厚 0.8	灰色	緻密	轆轤水挽成形／鉄釉	瀬戸・美濃系／近世
第 213 図 9 図版 102- 1 -9	陶器 甕	２区表土	胴部	厚 1.3	灰色	緻密	外面降灰が溶けて濃緑色を呈す／自然釉	常滑／ 13 世紀前半
第 214 図 10 図版 102- 1 -10	陶器 甕	２区表土	肩部片	厚 1.2	灰色	緻密。砂粒やや多量	外面格子叩痕／無釉	常滑／ 14 ～ 15 世紀
第 214 図 11 図版 102- 1 -11	陶器 擂鉢	２区表土	体部片	厚 0.7	灰白色	緻密。砂粒やや多量	外面轆轤目、内面櫛目（単位 10 本）／鉄釉	瀬戸・美濃系／近世
第 214 図 12 図版 102- 1 -12	陶器 鉢	２区表土	口縁部 ～体部 片	厚 1.1	黄灰色～赤褐色	緻密。砂粒やや多量	内外面ナデ調整／無釉	常滑／ 15 世紀前葉～中葉
第 214 図 13 図版 102- 1 -13	瓦質 土器 鉢	２区表土	口縁部 ～体部	高 [5.7] 口 (27.2)	灰色	緻密	内外面ナデ調整、外面一部ケズリ／内面下半平滑／捏鉢／無釉	中世

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 214 図 14 図版 102- 1 -14	銅製品 煙管 吸口	２区表土	完形	銅	7.1	1.0	1.0	5.7	小口側の厚さ 0.6㎜、口元側の厚さ 1.5㎜。	
第 214 図 15 図版 102- 1 -15	銭貨	表採	完形	銅	2.3	2.3	0.2	1.8		銘不明

第 84 表　中世以降遺構外出土遺物一覧

第４章　調査のまとめ

第１節　旧石器時代

城山遺跡では、これまで４地点から、立川ローム第Ⅳ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層を出土層準として、８か所の石器集中地点と、９基の礫群が出土している（註１）。ここでは、既報告の石器集中地点と礫群に報告順の連番を付与しながら（第８５～87 表)、各旧石器出土地点の成果を１）立地、２）石器集中地点、３）礫群の視点で踏まえ、第 96 地点の意義を考えてみたい。

第 42 地点は、遺跡の中央西端に位置する。立川ローム第Ⅳ層上部（第１文化層）と、Ⅶ層（第２文化層）を出土層準とする石器集中地点２か所が確認されている。各石器集中地点で接合資料は確認されていない。１号石器集中地点は、石器 19 点である。器種は、抉入石器１点、剥片 18 点である。石質は、抉入石器が頁岩であるのを除いて、剥片は全て黒曜石である。２号石器集中地点は、石器 10 点、礫１点の総数 11 点である。器種は二次加工剥片１点、剥片８点、砕片１点である。石質は、二次加工剥片が砂岩、剥片が安山岩３点、チャート１点、頁岩３点に分かれる。砕片はチャートである（尾形･深井･青木　2005)。

第 63 地点は、遺跡の南東端に位置する。立川ローム層Ⅵ層を出土層準とする石器集中地点３か所が出土している。石器の石質は全て黒曜石である。３号石器集中地点（1 号試掘坑）は石器９点、礫６点の総数 15 点である。器種は、接合して１点となる二次加工剥片２点と、剥片７点である。４号石器集中地点（２号試掘坑）は、石器 26 点、礫１点の総数 27 点である。器種は、二次加工剥片４点、石核１点、剥片 21 点である。石核には二次加工剥片４点と剥片７点が接合する。５号石器集中地点（５号試掘坑）は、石器３点である。器種は剥片である（尾形・徳留・坂上・青池・鈴木　2011)。

第 62 地点は、第 63 地点と近接し、遺跡の南東端に位置する。立川ローム層Ⅳ層上部を出土層準とする散漫な分布の６号石器集中地点を検出している。石器は５点である。器種は、ナイフ形石器１点、剥片４点である。石質は、ナイフ形石器が頁岩、剥片が頁岩２点、黒曜石１点、報告書記載なく不明１点である（尾形・徳留・深井・青木　2012)。

第 71 地点は、遺跡の北東端に位置する。立川ローム第Ⅴ層上部～Ⅳ層下部を出土層準とする石器集中地点２か所と礫群９基が出土している。石器集中地点は母岩を共有する。７号石器集中地点（１ブロック）は、石器 49 点である。器種は、スクレイパー３点、二次的剥離のある剥片２点、不規則剥離のある剥片３点、剥片 23 点、調整剥片４点、砕片３点、石核 11 点である。石質は、頁岩 17 点、チャート 31 点、黒曜石１点である。８号石器集中地点（２ブロック）は、石器 12 点である。器種は、不規則剥離のある剥片１点、剥片８点、調整剥片２点、石核１点である。石質は全てチャートである。礫群は、調査区が異なる２か所の礫群を視覚的に細分して９基としたものである。礫群１（礫群１Ａ～１Ｆ：１～６号礫群）は、総点数は 422 点である。完形礫は 161 点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩 338 点、チャート 80 点、ホルンフェルス４点である。重量別の組成では 50g 未満が 111 点、50 ～ 100g 未満が 101 点、100g ～ 250g 未満が 164 点、250g ～ 1000g 未満が 40 点、1000 g 以上が６点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの 162 点、表面に付着物が認められるもの 311 点である。礫群２（礫群２Ａ～２Ｃ：７～９号礫群）は、総点数は 173 点である。完形礫は

53 点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩 135 点、チャート 33 点、ホルンフェルス 5 点である。重量別の組成では 50g 未満が 51 点、50 ～ 100g 未満が 48 点、100g ～ 250g 未満が 53 点、250g ～ 1000g 未満が 19 点、1000g 以上が 2 点である。礫表面･破断面の状態は、表面が赤化するもの 72 点、表面に付着物が認められるもの 140 点である。（尾形・大久保・中山・二瓶・稲村・加藤　2013）。

城山遺跡の旧石器地点の立地は、いずれも遺跡の端部にある。第 96 地点も遺跡の北西端に位置する。特に柳瀬川を望む遺跡の北端で石器集中地点の規模が大きい傾向にあると言えるだろう。礫群がこちらだけに残されていることも考えれば、相対的に長い集落が営まれたのは、こちら側だったと考えられよう。ただし、遺跡の北端に位置する第 71・96 地点と、それ以外の 42・62・63 地点では文化層が残される出土層準が異なっており、必要な遺跡立地が、狩猟採集生活の遊動や生業活動の違いに起因する可能性もある。

城山遺跡の石器集中地点は、立川ローム第Ⅳ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層を出土層準としていたが、第 96 地点によって、立川ローム第Ⅶ下～Ⅸ上層に遡ることが明らかとなった。また、立川ローム層第Ⅳ下～Ⅴ層段階で最も主体となる石質が黒曜石であることも明確となった。第 96 地点から出土した黒曜石は産地推定を実施し、麦草峠産であることが判明した（株式会社東京航業研究所地球科学分析室　2020）。今回対象とした資料に加えて、既報告の黒曜石についても産地推定を実施すれば、城山遺跡における旧石器時代の利用黒曜石産地の変遷や、産地別構成比の時期的変化を明らかにすることができるだろう。加えて、指摘される黒曜石利用の傾向や画期、提案されている黒曜石獲得モデルについても、議論が可能となるかもしれない。

城山遺跡の礫群は、遺跡の北側だけに認められる。同じ北端で同時期の 71 地点と 96 地点でも、ナイフ形石器にみる狩猟具の残され方や、調理施設と考えられる礫群の規模は異なっているようである。

石器集中地点（調査地点）	出土層準	ナイフ形石器	スクレイパー	抉入石器	楔形石器	石核	二次加工剥片	微細剥離剥片	調整剥片	剥片	砕片	合計
1 号石器集中地点（第 42 地点 1 文）	Ⅳ上			1						18		19
6 号石器種中地点（第 62 地点）	Ⅳ上	1								4		5
7 号石器集中地点（第 71 地点 1 B）	Ⅳ下Ⅴ上		3			11	2	3	4	23	3	49
8 号石器集中地点（第 71 地点 2 B）	Ⅳ下Ⅴ上					1		1	2	8		12
9 号石器集中地点（第 96 地点 1 文）	Ⅳ下Ⅴ上	7		2		4	1	1		84	22	121
10 号石器集中地点（第 96 地点 2 文）	Ⅴ下Ⅵ上					2	1			38	9	50
3 号石器集中地点（第 63 地点ＴＰ１）	Ⅵ						2			7		9
4 号石器集中地点（第 63 地点ＴＰ２）	Ⅵ					1	4			21		26
5 号石器集中地点（第 63 地点ＴＰ３）	Ⅵ									3		3
2 号石器集中地点（第 42 地点 2 文）	Ⅶ						1			8	1	10
11 号石器集中地点（第 96 地点 3 文）	Ⅶ下Ⅸ上	1			1					58	12	72

第 85 表　城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別器種組成

石器集中地点（調査地点）	出土層準	黒曜石	チャート	頁岩	安山岩	碧玉	砂岩	不明	合計	備考（接合例・ＯＢ産地）
1号石器集中地点（第42地点1文）	Ⅳ上	18		1					19	接合なし・不明
6号石器種中地点（第62地点）	Ⅳ上	1		3				1	5	接合なし・不明
7号石器集中地点（第71地点1Ｂ）	Ⅳ下Ⅴ上	1	31	17					49	接合10例・不明
8号石器集中地点（第71地点2Ｂ）	Ⅳ下Ⅴ上		12						12	接合なし
9号石器集中地点（第96地点1文）	Ⅳ下Ⅴ上	89	6	3	22	1			121	接合6例・麦草峠
10号石器集中地点（第96地点2文）	Ⅴ下Ⅵ上		45	5					50	接合1例
3号石器集中地点（第63地点ＴＰ1）	Ⅵ	9							9	接合1例・信州系？
4号石器集中地点（第63地点ＴＰ2）	Ⅵ	26							26	接合1例・信州系？
5号石器集中地点（第63地点ＴＰ3）	Ⅵ	3							3	接合なし・信州系？
2号石器集中地点（第42地点2文）	Ⅶ		1	4	4		1		10	接合なし
11号石器集中地点（第96地点3文）	Ⅶ下Ⅸ上	2	68	2					72	接合1例・小片不明

第86表　城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別石質組成

礫群（調査地点）	出土層準	点数	重量・平均重量g	完形礫	破砕礫	50g未満	50～100g未満	100～250g未満	250～1000g未満	1000g以上	赤化（点数・%）	付着物（点数・%）	破断面赤化（点数・%）	破断面付着物（点数・%）	備考
1号礫群（第71地点1Ａ）	Ⅳ下Ⅴ上	46	-	11	35	29	7	8	2	0	18（39）	26（57）	-	-	接合10
2号礫群（第71地点1Ｂ）	Ⅳ下Ⅴ上	11	-	2	9	7	0	2	2	0	7（64）	10（91）	-	-	接合4
3号礫群（第71地点1Ｃ）	Ⅳ下Ⅴ上	140	-	57	83	29	31	62	14	4	44（31）	109（78）	-	-	接合19
4号礫群（第71地点1Ｄ）	Ⅳ下Ⅴ上	83	-	35	48	14	24	39	6	0	34（41）	66（80）	-	-	接合12
5号礫群（第71地点1Ｅ）	Ⅳ下Ⅴ上	120	-	43	77	31	31	43	13	2	49（41）	84（70）	-	-	接合17
6号礫群（第71地点1Ｆ）	Ⅳ下Ⅴ上	22	-	13	9	1	8	10	3	0	10（45）	16（73）	-	-	接合17
7号礫群（第71地点2Ａ）	Ⅳ下Ⅴ上	29	-	6	23	13	6	7	3	0	12（41）	17（59）	-	-	接合17
8号礫群（第71地点2Ｂ）	Ⅳ下Ⅴ上	107	-	40	67	28	29	37	12	1	46（43）	90（84）	-	-	接合9
9号礫群（第71地点2Ｃ）	Ⅳ下Ⅴ上	36	-	7	29	10	13	8	4	1	14（39）	32（89）	-	-	接合4
10号礫群（第96地点1文）接合前	Ⅳ下Ⅴ上	301	21124・70	18	283	184	58	44	14	0	270（90）	80（27）	250（83）	54（18）	接合44
10号礫群（第96地点1文）接合後	Ⅳ下Ⅴ上	156	20686・133	21	177	80	9	34	31	1	131（84）	52（33）	114（73）	27（17）	
11号礫群（第96地点3文）接合前	Ⅶ～Ⅸ	22	3489・159	8	13	11	1	4	4	1	14（64）	4（18）	7（32）	0	接合2
11号礫群（第96地点3文）接合後	Ⅶ～Ⅸ	20	3487・174	10	9	9	1	4	4	1	13（65）	4（20）	6（30）	0	

第87表　城山遺跡出土礫群の出土層準別集計表

第２節　縄文時代

今回の調査で、縄文時代の遺構は、住居跡 11 軒、集石土坑２基、土坑 17 基、ピット７基を検出した。住居跡の内訳は、縄文時代前期の住居跡が５・７～９・12 Ｊの５軒、中期の住居跡が４・６・10 Ｊの３軒、前期から中期と思われる 11・12・13 Ｊの３軒である。11 ～ 13 Ｊは、重複により、出土遺物の帰属が困難で、詳細時期がわからなかった。前期の住居跡である７～９・12 Ｊからは、覆土中から貝類が出土した。ここでは、出土した貝類をみていくことにする。

①海産・淡水産貝類について

縄文時代の住居跡から出土した、貝類の種類と出土量を第 88 表に示す（12 Ｊは出土量が少ないため除外した）。貝殻が出土したのは、７Ｊと８Ｊは、住居跡の覆土中から、９Ｊは、柱穴と考えらえるＰ１・２からである。出土量は約 30㎏と、７Ｊが断然多い。マガキとヤマトシジミは、３軒とも共通して出土しており、また、出土量の割合も他の種類の貝に比べ、圧倒的に高く、主要な貝種といえる。ウネナシトマヤガイも共通して出土しているが、ウエネナシトマヤガイは、マガキ礁を棲息地とすることがあるので、マガキに混じって採集されたものと考えられる。ハマグリも、出土量が少なく、ヤマトシジミと混棲することがあるので、ヤマトシジミに混じって採集された可能性がある。ヤマトシジミ、ハマグリは汽水域の砂泥底に生息し、マガキも、汽水域に生息するウネナシトマヤガイと一緒に出土していることから、これらの貝殻は河口付近で採集されたものと考えられる。おそらく、城山遺跡の立地する舌状台地の北側に、古東京湾にそそぐ柳瀬川の河口が位置していたのだろう。

オオタニシ、チリメンカワニナ、マツカサガイ、イシガイは淡水に生息する種類である。淡水棲なので、マガキやヤマトシジミに混じったわけではなく、また、自然に混入することもないため、当時の人々が目的をもって、採集したことは間違いない。海産貝類に比べれば、出土量は非常に少ないので、淡水産貝類はあまり食さなかったのであろう。

７Ｊでは、マガキとヤマトシジミが互層状に堆積する状況が観察された。この互層状の堆積は多い所で、３単位が確認できた。仮に、マガキとヤマトシジミの採集が、通年ではなく、季節性を持って行われたとすると、少なくとも３年間をかけて堆積したものと推測される。

②陸産貝類について

次に、陸産貝類（カタツムリ）も確認できたので、それらをみていくことにする。第 89 表が、住居跡から出土した陸産貝類の一覧である。黒住耐二の研究（黒住　2009）によると、貝塚土層中から出土した陸産貝類は、「周辺の植生から貝塚に集まってきて繁殖したり、短距離を流されてきもの」であり、「陸産貝類の組成から、貝塚形成時の古環境を推定することが可能」である。陸産貝類の生息環境によって、林内生息種（森林の中に生息する種）、林縁生息種（林の縁にすむ種）、開放地生息種（草原や開けた灌木林にみられる種）という３つの生息場所類型を設定している。今回の調査で確認された陸産貝類の生息場所類型は、ヒメベッコウマイマイ、ヒメコハクガイ、オカチョウジガイ、ニッポンマイマイが開放地生息種、ヒダリマキゴマガイが林縁生息種、マルシタラカイは記載がないため類型不明である。

７Ｊから出土した陸産貝類は、全て開放地生息種であることから、貝層形成時には、周辺が開けた環境であることがわかる。８Ｊは、林縁生息種のヒダリマキゴマガイが 58％をしめ、林に近い場所であっ

たことが推測される。９Ｊは確認された陸産貝類は、２個体だけだが、全て開放地生息種である。９Ｊが、７・８Ｊに比べ、陸産貝類の出土量が少ないのは、９Ｊで貝類が出土したのは、柱穴と考えられるＰ１・２からであり、住居跡の覆土中から出土した７・８Ｊよりも、貝層が埋没するまでの時間が早かったためと考えられる。７Ｊと８Ｊには、幼貝がみられることから、この場で、産卵していたことがわかり、ある程度の期間、貝層が露出していたことの証左となる。７Ｊと８Ｊの時期は、諸磯ａ式期、９Ｊが諸磯ａ～ｂ式期で、やや遅れるが、３軒ともほぼ同時期とみることができる。貝層は、廃絶された住居の窪地に貝類を廃棄することによって形成されるので、人が居住していた時期よりも後であるが、まだ埋まりきっていない、つまり、人が住まなくなってから、あまり時間がたっていない時期に形成されたと考えることができる。陸産貝類の生息環境からは、７・９Ｊが開けた集落の中心部に近く、８Ｊが集落の縁辺に位置していたことが想定される。

③城山貝塚との関係について

城山貝塚は、「縄文時代前期という大雑把な捉え方しかできないうちに破壊消滅した」とされる（志木市　1990）。市史編さん事業の一環で実施された分布調査では、貝類が表面採集されている。貝の種類は、カワニナ、オオタニシ、アラムシロ、ヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ、オオノガイ、サルボウ、アサリ、オキシジミ、ウネナシトマヤガイで、ヤマトシジミが主体、次いでマガキが多いということである（志木市　1984）。本調査地点から出土した貝類と共通するのは、カワニナ（本調査地点ではチリメンカワニナ）、オオタニシ、ヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ、ウネナシトマヤガイである。本調査地点では、イシガイが出土しており、それ以外は、全て採集資料の中に含まれている。また、本調査地点ではヤマトシジミよりマガキの方が、出土量が多いが、ヤマトシジミとマガキの２種類が主体的である点は共通する。貝種の構成が類似することから、貝の採集地も同じであったと思われる。

本調査地点と城山貝塚は、遺跡が立地する舌状台地北端部の、本調査地点が西側、城山貝塚が東側に位置する。これまで、城山遺跡では縄文時代前期の住居跡は、第 46 地点（２Ｊ）と第３地点（３Ｊ）で検出されている。どちらも、城山遺跡の中でも南側に位置し、貝類は確認されていない。貝層が形成されるかどうかは、単純に、採集地からの距離の影響が大きいものと思われ、台地の北端部に、貝層を伴う住居跡が集中することが予想される。

	マガキ (g)	ヤマトシジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナシトマヤガイ (g)	オオタニシ (g)	チリメンカワニナ (g)	マツカサガイ (g)	イシガイ (g)	合計
7 J	23287.5	6400.5	9.3	53.0	3.6	0.8	3.0		29758.0
8 J	677.0	26.6	11.2	1.6					716.4
9 J	2426.6	1398.8		2.4	17.7	21.1		4.5	3871.1

第 88 表　縄文時代住居跡出土貝類一覧

	ヒメベッコウマイマイ	ヒメベッコウマイマイ（幼貝）	ヒメコハクガイ	ヒメコハクガイ（幼貝）	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ（幼貝）	マルシタラカイ	ヒダリマキゴマガイ	ニッポンマイマイ	合　計
7 J	68	29	16	7	26	37	7			190
8 J	6	1	3	1		2	1	19		33
9 J	1								1	2

第 89 表　縄文時代住居跡出土陸産貝類一覧

第３節　弥生時代中期～古墳時代前期

今回の調査では弥生時代中期後半の住居跡（10Y）が調査された。当該期遺構は志木市内で初めてであり、焼失住居跡からの出土で一括性も高く、土器のみでなく石器のセット関係も把握でき資料的価値が高い。以下、遺物の諸特徴を見て、その問題について述べてみたい。

図化した土器の器種は壷・広口壷・高坏・甕・台付鉢・異形土製品、石器は抉入柱状片刃石斧・扁平片刃石斧・石庖丁様石器・砥石・石皿・凹石・編石である（第 81 ～ 84 図）。

まず土器についてみてみたい。文様が認められるのは壷・広口壷・高坏である。

壷は単純口縁と受け口状口縁が認められる。単純口縁のものは頸部に横位沈線と鋸歯文を重ねるもの（１）、頸部と胴部中位に横位沈線を施すもの（３）が認められる。

受け口状を呈するものはいずれも口縁部に二個一対の縦長の貼り瘤が 4 単位めぐると考えられる。口縁部に縄文を施すもの（５・６）と、無文とするもの（２・７）がある。頸部から胴部に文様帯を持つかは不明である。11 は頸部より上を欠くが、胴部上半部に沈線で区画せず縄文により連続する三角文を描く。

広口壷は胴上半部に幅広の縄文帯を持つもの（15）と受け口状の口縁部に鋸歯文を描き赤彩するもの（16）が認められる。

高坏（17）は口縁部が強く外側に屈曲し内面に鋸歯文を描き、刺突を充填している。

壷を基にこれらの特徴をまとめると、無文土器が一定量組成する。文様を持つものは、文様帯が狭く胴上部および頸部に集中する。このような特徴を持つ遺構一括資料としては、周辺では朝霞市新屋敷（台の城山）遺跡 6 号住居跡、富士見市南通遺跡 02 号住居跡が挙げられる。比企地域では寄居町用土平遺跡 12 号住居が挙げられる。

新屋敷遺跡では頸部に櫛描文波状文と上下を沈線で区画した内部に縄文と沈線を施すものが出土している。南通遺跡では、縄文のみ及び沈線区画＋縄文を施文し、本遺跡と同様に櫛描文が組成から欠落している。用土平遺跡も同様に櫛描文を欠いている。ただし先に挙げた 12 号住居跡以外では壷・甕の多くの土器に櫛描文が施文される。

本遺跡の横位沈線は区画線としての役目が形骸化しているのが特徴である。１も頸部下端に区画線である横位沈線が欠落している。３はおそらく栗林系の土器の影響で区画内の文様が欠落したものであろう。

これらのことから宮ノ台式土器の後半、安藤広道編年（安藤　1990・1996）のⅣ～Ⅴ期前半に相当するものと考えられる。ただしⅤ期になると羽状縄文が卓越する状況が見て取れるが、今回の調査ではそれに該当する資料は認められない。これが単なる遺構における偏りか、それ以前に位置づけるべきものであるかは今後の課題となろう。いずれによせ今回の調査で宮ノ台式土器分布圏の外縁部に位置し、他型式との接点が多分にみられる地理的特性から今後型式間の平行関係を考える上で貴重な資料となろう。

異形土製品（35）

かつて金井塚良一氏により木履形土器として報告されたものに近い（金井塚　1965）。五領遺跡に近

接する東松山市柏崎の住宅地から出土したものである。伴出した土器から、金井塚氏は弥生時代後期末の前野町式期のものと考えている。中期中葉では小敷田遺跡 11 号方形周溝墓から出土したものもこれらの類例の一種と考えられる。形状からヒョウタンなどの容器を模したものと考えたい。

石器について

抉入柱状片刃石斧（36・37）は２個出土しているが、刃部に研ぎ直しが認められ、長期にわたり使用していた様子が見て取れる。扁平片刃石斧（38）は更に顕著に長期にわたり使用していたことがわかる。石材に関しては抉入柱状片刃石斧に関しては相模川流域の石材、扁平片刃石斧に関しては長野県方面の石材との鑑定を受けた。本遺跡では榎田型磨製石斧の出土を見ないが、それらの流通形態とともに注目される。

第４節　古墳時代後期

今回の調査では、古墳時代後期の遺構は、住居跡 19 軒を検出した。同時期の住居跡の重複は、以下の２例のみである。

（旧→新）　313 H→ 314 H　305 H→ 321 H

ここでは､時期を推定できる土器が出土しなかった 302 Hを除いた 18 軒の住居跡の土器をみていき、住居跡の時期を推定することとする。

301 号住居跡（第 91 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～３)･甕（４～６）である。３は深身の坏か、あるいは、小型の壷や甕の可能性がある。また、全て、在地系土師器（尾形　2006）である。

１・２は口縁部と体部との境に稜を持つ、無彩系有稜坏である。１は底部に木葉痕がみられる。底部に木葉痕が残るのは、志木市の土師器編年（尾形　2001）では、７世紀初頭から中葉とされている（註２)。４は長甕で、下半部を欠損するが、残存する下端部がすぼまりはじめているので、口縁部に最大径を持つものと考えられる。長甕が口縁部に最大径を持つものは、７世紀中葉に出現している（尾形 2012)。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と考えられる。

303 号住居跡（第 95 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～６)、壷（７)、甕（８～ 13）である。

１は、いわゆる比企型坏（水口　1989・尾形 1999）で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器（尾形　2008）と考えられる。推定口径が 11.6㎝と小型化がみられることから、おおよそ７世紀中葉に比定される。２は、口縁部が内湾気味に立ち上がり、口縁部の内外面に赤彩が施される。胎土は入間系土師器とも在地系土師器とも異なり、また、他の遺物より古い様相を呈す。３～ 13 は胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。３は黒色系有稜坏、４は無彩系有稜坏である。底部に木葉痕がみられ、７世紀初頭から中葉に比定される。５・６は粗雑なつくりの坏で、６世紀前葉ころからみられはじめ、７世紀前葉以降、出土量が増える傾向にある（尾形　2012)。７は、赤彩が施され、胎土

が２に類似し、入間系土師器・在地系土師器とは異なり、２同様、他の土器より古い様相を呈す。８は長甕で、口縁部に最大径を持つことから、７世紀中葉～末葉のものと考えられる。２・７は古い時期の遺物の流れ込みで、他の土器から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と考えられる。

304 号住居跡（第 99・100 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器壷（１）、土師器坏（２～４）、鉢（５～８）、甕（９～ 18）、甑（19）、ミニチュア土器（20）である。

１は産地不明須恵器壷類の頸部片である。２～20は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。２・３は黒色系有段坏、４は無彩系有段坏・５は無彩系有稜坏である。３が推定口径 11.6㎝、４が推定口径 11.3㎝と小型化した段階のもので、７世紀中葉頃に出現する。６～８は、黒色系の鉢で、浅鉢タイプのものである。９～ 16 は長甕で、口縁部に最大径をもつものが多く、７世紀中葉～末葉に比定される。19 の甑は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の形態である。６世紀末葉ころ出現し、７世紀を通してみられる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉～末葉と考えられる。

305 号住居跡（第 104 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器甕（１）、土師器坏（２・３）、鉢（４）、甕（５～８）、ミニチュア土器（９）である。

１は産地不明須恵器甕の頸部片である。２は、いわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が 12.1㎝と小型化がみられることから、おおよそ７世紀前葉から中葉に比定される。３～８は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。３は無彩系有段坏で、推定口径 12.0㎝と、小型化が進む段階のもので、７世紀前葉から中葉に比定される。５～７は長甕で、６は胴部を大きく欠損するが、残存部位から口縁部に最大径をもつものと判断でき、７世紀中葉～末葉の所産と推測される。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と考えられる。

306 号住居跡（第 108 ～ 110 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器蓋（１・２）、坏（３・４）、短頸鉢（５・６）、フラスコ形長頸瓶（７）、短頸壷（８）、甕（９）、土師器坏（10 ～ 13）、甕（14 ～ 22）である（註３）。

１～９は、湖西窯跡産の須恵器である。湖西窯跡編年（後藤　2015）を参考にすると、１は、天井部の調整技法が「同心円形」のヘラケズリを施すＤ形式と考えられ、口径が 11.8㎝、天井部と口縁部の境に稜を設けることから、合子状坏蓋Ｄ１ａに分類される。２は天井部を欠損するため調整技法が不明である。推定口径が 11.4㎝、天井部と口縁部の境に沈線を設けることから、合子状坏蓋Ｃ３ｂあるいは Ｄ１ｂと推測される。３・４は、底部の調整技法が「同心円形」のヘラケズリを施すＤ形式、３が推定受径 11.4㎝、４が推定受径 13.0㎝であることから、合子状坏身Ｄ１に分類される。１・３・４がⅣ－１中期に比定され、時期は、おおよそ７世紀前葉と推測される。７のフラスコ形長頸瓶は、７世紀初頭に出現し、７世紀末葉ころ長頸瓶に形式変化することから、７世紀代の所産と考えられる。８の短頸壷は、７世紀前葉に出現する器種である。

10 はいわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が 11.8㎝と小型化がみられることから、おおよそ７世紀中葉に比定される。11 ～ 16 は、胎

土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。11・12 は、無彩系有稜坏、13 は黒色系有段坏である。14 ～ 16 は長甕で、14 は口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と推測される。

湖西窯跡産須恵器は、蓋（１）・坏（３・４）から７世紀前葉、土師器は主に坏（10）と甕（14）から７世紀中葉の所産と推測される。湖西窯跡産須恵器が土師器より１段階古い時期であるのは、生産地と消費地との違いや伝世的な要因によるものと捉え、本住居跡の時期は、７世紀中葉と考えられる。

308 号住居跡（第 113 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～３）、転用甑（４）、壷（５）である。

１は、いわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が 11.2㎝と小型化がみられることから、おおよそ７世紀中葉に比定される。２～５は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。２は無彩系有稜坏、３は黒色系有段坏である。４は長甕の底部を打ち欠いて穿孔し、甑に転用したものと思われる。５は口縁部に弱い段を持つ。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と考えられる。

309 号住居跡（117 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～３・７・８）、高坏（４）、甑（５・６・14）、甕（９～ 13）である。

１は、いわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。口径が 14.8㎝と大型であり、６世紀中葉から後葉の特徴を持つ。２は小針型坏で、体部が小さく、口縁部が外湾しながら大きく「八」の字状に開き、口径が 18.8㎝と大型なことから、坏ⅡＣ類３段階に分類され、６世紀後葉に比定される（劔持　2000）。３は黒色系の坏で、内面に半円を組み合わせたような円形と放射状の暗文が施されている。５は、単純口縁を呈する、筒抜け式のもので、胴部中位にやや膨らみをもつ。この形態の甑は６世紀初頭に出現する。６は不明瞭な複合口縁を呈し、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴のものである。この形態の甑は、６世紀前葉に出現し、７世紀初頭まで存続する。１～６は、次の７～ 14 に対し、古い様相を呈すものである。１と２から６世紀後葉の所産と推測される。

７～ 14 は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。７は無彩系有段坏で、推定口径が 12.0㎝と小型化へ進む段階のものとみられ、時期は、７世紀前葉から中葉に比定される。８は無彩系有稜坏で、深身の椀タイプである。９は長甕で、胴部中位に最大径を持つものと思われる。14 は筒抜け式の甑である。７～ 14 の新しい様相の土器群は、７世紀中葉に出現する、口縁部に最大径を持つ長甕がみられないことから、７世紀前葉の所産と推測される。

本住居跡からは、６世紀後葉（１～６）と７世紀前葉（７～ 14）の、大きく２時期の土器が出土した。出土状況をみると、６世紀後葉とした土器が比較的下層から出土している。このことから、住居跡の時期は６世紀後葉で、新しい時期の土器は、住居跡を土器捨て場として利用した際に堆積したとも考えられる。しかし、９の長甕が、貯蔵穴（Ｐ５）の底面付近から出土していることを重視し、本住居跡の時期は、７世紀前葉と推測した。

311 号住居跡（第 121 ～ 123 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～９）、鉢（10・11）、甕（12 ～ 26）、甑（27・28）、ミニチュ

ア土器（29）である。

１～29は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。１～３・５は黒色系有段坏、４・７～９は黒色系有稜坏、６は無彩系有稜坏である。１のように、底部に木葉痕を残すものは７世紀初頭から中葉にかけてみられる。７は、口径が10.8㎝と小型化が進み、７世紀中葉ころに出現する。長甕では、口縁部に最大径をもつもの（13・14・19）を含み、７世紀中葉～末葉の所産と考えらえる。28の甑は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや幅がある形態である。この形態の甑は７世紀前葉に出現し、７世紀後葉まで存続する。29は、長甕の底部を穿孔し、甑に転用したものと思われる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と推測される。

312号住居跡（第126図）

本住居跡から出土した土器は、土師器甕（１～３）である。

１～３は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。１・２は長甕、３は丸甕である。１は口縁部ないしは胴部上半に、２は口縁部に最大径を持つ。口縁部に最大径を持つ長甕が出土していることから、本住居跡の時期は、７世紀中葉～末葉と推測される。

313号住居跡（第130～132図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～10）、鉢（11）、甕（12～26）、甑（27～29）である。

１・２は、いわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。１が推定口径13.0㎝、２が推定口径12.0㎝と、やや小型化したものが出現する、７世紀前葉に比定される。３～30は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。３・４は無彩系有稜坏、５～７・10は無彩系有段坏、８・９は黒色系有段坏である。５が推定口径12.5㎝、６が推定口径12.1㎝、８が推定口径12.8㎝とやや小型化がみられ、７世紀前葉から中葉の所産と推測される。11の甑は、単純口縁を呈し、口縁部が大きく開く形態である。この形態の鉢は、７世紀前葉ころに出現するものとされる（尾形　2012）。長甕では、口縁部に最大径をもつもの（13・14・17）がみられ、７世紀中葉～末葉の所産と推測される。28の甑は、単純口縁を呈する筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の形態である。この形態の甑は、６世紀末葉に出現し、７世紀末葉まで存続する。29は多孔式の甑である。

以上から、本住居跡から出土した土器の時期は、７世紀中葉と推測される。本住居跡は314Ｈと重複し、314Ｈに切られている。後述するが、314Ｈ出土土器の時期も７世紀中葉と推測される。切合関係を考慮し、本住居の時期は、７世紀中葉前段階と考える。

314号住居跡（第135図）

本住居跡から出土した土器は、土師器甕（１～７）、甑（８・９）である。

１～９は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。１～４は長甕、５～７は丸甕である。１・２の長甕は、口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と考えらえる。８の甑は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや幅がある形態である。この形態の甑は７世紀前葉に出現し、７世紀後葉まで存続する。９の甑は、内面に縦方向のミガキが施されていることから、単純口縁を呈する甑と考えられる。甑内面のミガキは、７世紀中葉を境に、「密」なものから「疎」へと変化する傾向がある（尾形　2001）。８にも内面にミガキが施され、８のミガキは９に比べ「密」である。両者が共伴している

のは、ちょうど「密」から「疎」への移行期にあたり、７世紀中葉の所産である可能性が高い。

以上から、本住居跡から出土した土器の時期は、７世紀中葉と推測される。本住居跡は 313 Ｈと重複し、313 Ｈを切る。先述の通り、313 Ｈ出土土器の時期も７世紀中葉と推測され、切合関係を考慮し、本住居の時期は、７世紀中葉後段階と考える。

315 号住居跡（第 142 ～ 145 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～ 21）、甕を転用したと思われる坏（22）、鉢（23）、甕（24 ～ 39）、甑（40 ～ 44）、ミニチュア土器（45 ～ 48）である。

１～３は、色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。１・２は、深身で、口縁部が内傾・直立するタイプである（尾形　2008）。３は、いわゆる比企型坏で、口径が 11.5㎝と、小型化が進んだ、７世紀中葉に比定される。４～ 48 は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。４・６・13 は無彩系有段坏、５・９は黒色系有段坏、７・10・11 は無彩系有稜坏、８・12・14 ～ 16 は黒色系有稜坏、17・20・22・23 は無彩系の粗雑品、18・19・21 は黒色系の粗雑品である。有段坏では 13 が、口径 11.6㎝と、有稜坏では、７が口径 11.2㎝、10 が口径 11.3㎝、16 が口径 11.3cm と小型化が進む段階のもので、時期は７世紀中葉と推測される。長甕では、29 ～ 32・34 ～ 38 が口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と考えられる。44 ～ 46 の甑は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甑は７世紀前葉に出現し、７世紀後葉まで存続する。47 の甑は、口縁部を欠損するが、複合口縁を呈す甑は、７世紀初頭で消滅するので、単純口縁を呈する可能性が高く、44 ～ 46 と同様な形態と思われる。44・47 は内面の縦方向のミガキが見られず、45 は「疎」、46 はやや「疎」な縦方向のミガキが施される。44 ～ 46 は、７世紀中葉から後葉の所産と推測される。48 は多孔式の甑で、形態は、単純口縁を呈し、深身で、口縁部が大きく開く鉢に類似する。この形態の鉢は、７世紀前葉から中葉にかけてみられるので、48 もこの時期に比定できるものと思われる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と推測される。

316 号住居跡（第 148 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏・甕である。この内、土師器坏（１）を掲載した。

１は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。黒色系有段坏で、口径 11.3㎝と小型化が進む段階のもので、時期は７世紀中葉～末葉と推測される。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉～末葉と推測される。

317 号住居跡（第 152 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器甕・フラスコ形長頸瓶、土師器坏・甕・甑である。この内、須恵器フラスコ形長頸瓶（１）、土師器坏（２～６）、甕（７～ 10）を掲載した。

１は湖西窯跡産とみられる。フラスコ形長頸瓶は、７世紀初頭に出現し、７世紀末葉ころ長頸瓶に形式変化することから、７世紀代の所産と考えられる。２～ 10 は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。２は黒色系有段坏で、口縁部を歪ませ、片口状に変形させている。３・４は無彩系有稜坏、５は無彩系有段坏、１は黒色系有稜坏である。４は推定口径 11.0㎝、５は推定口径 10.6㎝と、小型化がみられ、おおよそ７世紀中葉に比定される。長甕では、７が口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末

葉の所産と考えられる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と推測される。

318 号住居跡（第 153 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～５）、甕（６～７）、甑（９）である。

１・２は、いわゆる比企型坏で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。１が推定口径 11.5㎝、２が推定口径 10.7㎝と、小型化がみられることから、おおよそ７世紀中葉に比定される。３・５は無彩系有稜坏、４は粗雑なつくりの坏である。３の口径が 11.7㎝と、小型化がみられ、長甕では６が、口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と考えられる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と推測される。

319 号住居跡（第 157・158 図）

本住居跡から出土した土器は、土師器坏（１～９）、甕（10 ～ 13）、甑（14・15）である。

１～３は、色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。１は深身で口縁部が内傾するタイプ、３は扁平で口縁部が大きく外反するタイプである（尾形　2008）。２は、いわゆる比企型坏で、口径が 11.0㎝と、小型化が進んだ、７世紀中葉に比定される。４～ 13 は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。４・６は無彩系有段坏、５は黒色系有稜坏、７は無彩系有稜坏、８・９は黒色系有稜坏で深身の椀タイプである。６は口径 10.8㎝、７は口径 9.9㎝と、小型化が進んだ、７世紀中葉～末葉の所産と推測される。８は底部に木葉痕を残し、７世紀初頭から中葉に比定される。長甕は、10 だけであるが、胴部に最大径をもつものである。14･15 の甑は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甑は７世紀前葉に出現し、７世紀後葉まで存続する。14 は 15 よりもサイズが大きく、内面にやや「密」な縦方向のミガキを施す。15 には内面の縦方向のミガキがみられない。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉と推測される。

320 号住居跡（第 161 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器壷（１・２）、土師器甕（３）、甑（４・５）、鉢（６）である。

１・２は、産地不明ながら、胎土は類似し、同じ産地と推測される。３の長甕は、口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と考えられる。４・５は、底部を欠損するが、残存部位の形態から、単純口縁を呈する甑である可能性が高い。６の鉢は、単純口縁を呈し、深身で、口縁部が大きく開く形態である。この形態の鉢は、７世紀前葉から中葉にかけてみられる。以上から、本住居跡の時期は、７世紀中葉～末葉と推測される。

321 号住居跡（第 165 ～ 169 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器長頸瓶（１）、甕（２）、土師器坏（３～ 34）、鉢（35･36）、甕（37 ～ 58）、甑（59・60）である。なお、写真のみ掲載した、土師器坏（64 ～ 85）、甕（86 ～ 89・91 ～ 102）、甑（90・103 ～ 108）は、ここでは除外する。また、本住居跡は、遺物の出土量が非常に多いことが特筆される。

１は湖西窯跡産とみられ、フラスコ形長頸瓶ないしは長頸瓶の口縁部と思われる。２は甕の頸部片で、産地は不明である。３～９は、色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。３は、

口縁部外面と内面に赤彩が施され、口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。底部内面と体部に放射状のミガキを施し、非常に丁寧なつくりである。４～９は、いわゆる比企型坏で、口径は最小のもので 10.6㎝と、小型化が進んだ段階のものであるが、口径 13.0㎝とやや大ぶりの個体も残存することを含めると、時期は７世紀中葉から後葉に比定される。10 ～ 60 は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。10・11・21・26 ～ 28 は無彩系有稜坏、12・13・23 は無彩系有段坏、14・15・22・31・32・33・34 は黒色系有段坏で、33・34 は深身の椀タイプ、16 ～ 20 は黒色系有稜坏、24・25・29・30 は無彩系の粗雑品である。26 の口径が 9.4㎝、23 の口径が 10.0㎝、22 の口径が 10.6㎝と、小型化が進んだものを含む。時期は７世紀中葉～末葉と推測される。35 は浅鉢タイプ、36 の鉢は、深身で、口縁部が外反し、胴部に膨らみをもつ形態である。35 は７世紀中葉、36 は７世紀前葉から中葉にかけてみられる形態である。長甕は、40 ～ 45・48 ～ 50 が口縁部に最大径を持ち、７世紀中葉～末葉の所産と推測される。59 は、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の甑である。内面の縦方向のミガキが「疎」であることから､時期は７世紀中葉～末葉と考えられる。60 は単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甑は、７世紀前葉から後葉にかけてみられる。これらの出土土器の様相は７世紀中葉から後葉の特徴を示し、また、７世紀中葉とみられる 305 Ｈを切ることから、本住居跡の時期は、７世紀後葉と推測される。

第５節　平安時代

今回の調査で検出された平安時代の住居跡は、300 Ｈ、307 Ｈ、310 Ｈの３軒である。同時代の住居跡同士の重複はなく、それぞれ、30 ～ 40m ほど離れている。ここでは、各遺構から出土した遺物の特徴から、遺構の帰属時期をみていきたい。

300 号住居跡（第 172 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器坏、土師器甕である。小片のため図化できなかった。須恵器坏の底部を転用した紡錘車（１）を掲載しているので、それをみてみよう。

紡錘車の元となった須恵器坏は、胎土に白色針状物質を含み、南比企窯跡産とみられる。底部は回転糸切り離し後未調整である。また、坏としての底径は、残存している部分から復元し 6.1㎝を測る。底部の縮小化が進んでいない段階のものとみて、９世紀代の所産と推定される（古代の入間を考える会 2013）。

307 号住居跡（第 175 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器坏（１～５）、土師器甕（６）である。

１～５は、東金子窯跡産とみられる。底部が確認できるものでは、全て、回転糸切り離し後未調整である。口縁部から底部までが残る１～３について、口径と内底径の比をとると、１が 52％、２が 54％、３が 55％である。古代の入間を考える会による東金子窯跡の編年（古代の入間を考える会 2015）を参照すると、Ⅶ期に比定され、時期は９世紀中葉と推測される。６は、いわゆる「武蔵型甕」であり、口縁部の形状が「コ」の字状を呈するものである。桜岡正信氏の分類（桜岡　2015）を参照

すると、口縁部の形状が「コ」の字状を呈するのは、６～８段階で、年代は、９世紀前半から後半に想定されている。以上から、本住居跡の時期は９世紀中葉と推測される。

310 号住居跡（第 178 図）

本住居跡から出土した土器は、須恵系土師質土器坏（１・２）、高台付坏（３・４）、皿（５）、土師器の甕・鉢類（６・７）である。

須恵系土師質土器は、福田健司氏の提唱する、「土師器でも須恵器でもなく、一言でいえば焼成法・焼成温度において中間に位置する土器」で、「ロクロ土師器」と称されている土器を含むものである（福田　2017）。須恵器と共通する形態的特徴をもつので、試みに、東金子窯跡の編年を当てはめてみる。１の底部の再調整は、回転糸切り離し後未調整、口径と内底径の比は、38％である。Ｘ期に相当し、時期は 10 世紀初頭から前葉となる。須恵器編年の援用からであるが、本住居跡の時期は、10 世紀初頭から前葉と推測する。

第６節　中世以降

中世以降の遺構は、溝跡２本、道路状遺構１本、土坑 41 基、ピット 188 基を検出した。ここでは、Ｔ字形の平面形を呈す火葬土坑と、溝跡、道路状遺構に触れることとする。

（１）火葬土坑について

今回の調査で検出した 1073 Ｄと 1119 Ｄは、平面がＴ字形を呈し、焼土、炭化材、人骨片が出土したことから、火葬跡と考えられる遺構である。志木市内では、市内で初の検出となった、中野遺跡第 95 地点の 274・284・311・316・318 号土坑に次ぐ事例である。中野遺跡第 95 地点の調査成果（尾形　2017）では、埼玉県熊谷市（旧大里郡大里町）下田町遺跡Ⅱの調査報告書でまとめられた内容との比較を行っている。ここでは中野遺跡第 95 地点の調査成果と比較し、いくつかの項目に対し検討することとする。

①時期

出土遺物による時期の推定はできなかった。炭化材による放射性炭素年代測定を実施しているので、中野遺跡の測定結果もあわせ、以下に記す。

中野遺跡	274 Ｄ	14 世紀前半～中頃・14 世紀末～ 15 世紀前半／鎌倉～室町時代
	284 Ｄ	13 世紀末～ 15 世紀初頭／鎌倉～室町時代
	311 Ｄ	15 世紀初頭～ 15 世紀前半／室町時代
	316 Ｄ	14 世紀前半・14 世紀末～ 15 世紀前半／鎌倉～室町時代
	318 Ｄ	15 世紀初頭～前半／室町時代
城山遺跡	1073 Ｄ	13 世紀末～ 14 世紀末／鎌倉～室町時代

1119 D　14 世紀初頭～末／室町時代

②火葬土坑の規模

下田町遺跡Ⅱでは、長軸 80 ～ 130㎝、短軸 30 ～ 55㎝の範囲に収まっているとされる。中野遺跡第 95 地点では、長軸 98 ～ 142㎝、短軸 52 ～ 61㎝と、下田町遺跡Ⅱより、やや大きい傾向がある。本調査地点 1073 Dは長軸 110㎝、短軸 51㎝、1119 Dは 114㎝、短軸 55㎝と、下町田遺跡Ⅱにおける範囲に収まる。

③火葬土坑の主体部長軸方向

長軸方位は、1073 DがN－１°－W、1119 DがN－４°－Eで、両者とも南北方向をとる。また、焚き口である突出部の設置方向は、両者ともに西側に設けられている。

④人骨について

1073・1119 D、ともに、人骨の遺存状態は悪く、形を留めないものがほとんどであった。

⑤炭化材の出土状況について

中野遺跡で炭化材が「主体部長軸方向と同じ向きに並べられている状況」は、1073・1119 Dにおいても、繊維方向が確認できるものでは、長軸に沿うものが多くみられることから、同様の状況といえる。「坑底面に２本の横木状の丸木を短軸方向に向けて設置」する状況は、1073・1119 Dでは確認できなかった。また、1073・1119 Dでは、空気の通りをよくするための設備と考えられる、通気溝も設けられていない。1073・1119 Dは、中野遺跡の火葬土坑に比べ、材の組み方や土坑の掘方など、より簡易な構造といえる。

炭化材と人骨片との層位的な上下関係は、人骨片はおおむね炭化材の上部から出土している状況が確認できた。このことは、「遺体の下部に燃料材が敷かれていた」状況と想定されている。

本調査においても、炭化材の樹種同定を実施している。以下に、中野遺跡での結果もあわせて示す。

中野遺跡	274 D	エノキ属、タケ亜科
	284 D	エノキ属、タケ亜科
	311 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ
	316 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ
	318 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ、クリ
城山遺跡	1073 D	エノキ属、タケ亜科
	1119 D	クヌギ節、タケ亜科、イネ科

タケ亜科は全ての遺構から出土している。クヌギ節が出土しているのは、城山遺跡 1119 Dのみで、他の土坑はエノキ属が共通して出土している。樹種同定を委託した小林克也氏は、「タケ亜科とイネ科は着火材として、クヌギ節とエノキ属は燃料材として利用された」としている（付編Ⅱ）。また、1119 Dだけ、クヌギ節が使用されている背景を、「時期による周辺植生の違い」や「葬送儀礼の違い」であ

る可能性を指摘している。

（２）溝跡・道路状遺構について

68 号溝跡

68 Mは、調査区の北縁に位置する。敷地の北側には、現況で大木が存在し、大木を避けて調査を行ったため、68 号溝跡の検出は断続的なものとなった。東側ではほぼ東西方向に直線的に伸び、西側では、やや南西に向け、弧状に伸びる。また、北側の肩が調査区外のため、全幅は不明である。検出した範囲内での上幅は、最も広い所で 4.15m である。断面形は、数段の緩い階段状を呈し、概ね浅いＶ字形である。深い所で、確認面から 173cm 下がる。18 世紀後半とみられる肥前系の磁器碗（第 185 図１）、詳細時期は不明だが近世の所産と思われる、瀬戸・美濃系の陶器片（同図２）が出土しており、それらを掲載した。時期を推定できる遺物が少ないが、掲載した遺物から 18 世紀ころに埋没したものと考えられる。

69 号溝跡

69 Mは、調査区の南縁に位置する。ほぼ東西に直線的に伸びる。断面形は、緩い段掘りを有し、概ねＶ字形を呈す。上幅は最も広い所で、1.97m、確認面からの深さは、深い所で 0.88m である。遺物は、陶器が散漫に分布していた。第 188 図に掲載した１は、山茶碗系の片口鉢で、13 世紀の所産、２～４は、常滑窯跡産の甕で 13 世紀前半の所産と推測されるものである。69 Mは、1119 Ｄと重複しており、69 Mが完全に埋まりきった後に、1119 Ｄが構築されている。先述の通り、1119 Ｄは、出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行っており、14 世紀初頭～末（室町時代）という結果を得ている。出土遺物の時期も考え合わせると、概ね 13 世紀末～ 14 世紀初頭には、69 Mは埋没していたものと推測される。柏城が城として機能していたと考えられる 15 ～ 16 世紀（野沢　2005）よりも、古い時期の遺構となる。規模こそ幅 1.97m と、それほど大きなものではないが、溝の掘方自体はしっかりと掘り込まれ、断面が下部に緩い断を持つＶ字形を呈し、薬研堀としてよいかと思われ、城館に伴う堀として捉えられる。14 世紀代には 1073 Ｄや 1119 Ｄのような火葬が行われる、葬送の場所として利用されるので、柏城とは直接的には連続しない。溝跡１本からではあるが、柏城以前の城館の存在が想定される。

３号道路状遺構

調査区の中央を、東西に横断するように検出された。東側の調査区壁から４ｍほどの位置で緩やかに屈曲し、そこから西北西の方向へ直線的に伸びる。上幅は広い所で 0.97m、確認面の深さは、深い所で 20㎝である。覆土中に、４～５面の硬化面が確認され、硬化面の存在により道路状遺構と判断した。出土遺物や遺構の切合関係からは、時期の特定ができず、覆土の様相から、中世以降の所産と考えている。

［註］

註１　試掘坑から出土した自然礫を旧石器の可能性を検討して報告した報告書もあるが、最終的に自然礫と結論されているので除外した（青池編 2012）。

註２　１世紀を５区分し、それぞれ初頭・前葉・中葉・後葉・末葉と表記する。

註３　器種名は原則として、後藤健一氏の分類（後藤　2015）に従ったが、5・6 の器種名は、具体的な記述がされていないため、『愛知県史』（愛知県史編さん委員会　2015）で用いられている名称から、“短頸鉢”とした。

［引用文献］

安藤広道　1990「神奈川県下下末吉台地における宮ノ台式土器の細分―遺跡群研究のためのタイムスケールの整理－」『古代文化』第 42 集６・７号

1996「南関東（中期後半・後期）」『YAY ！（やいっ！）弥生土器を語る会 20 回到達記念論文集』弥生土器を語る会

愛知県史編さん委員会　2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』愛知県

2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県

2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』愛知県

稲村太郎　2013「調査のまとめ」『城山遺跡第 71 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』

江戸遺跡研究会　2001『図説江戸考古学研究事典』

尾形則敏　1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点―少地域を対象とした編年の確立に向けて―」『あらかわ』第２号　あらかわ考古談話会

2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（１）―５世紀から７世紀の坏形土器の変遷―」『あらかわ』第３号　あらかわ考古談話会

2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（２）―５世紀から７世紀の甑・甕形土器の変遷―」『あらかわ』第４号　あらかわ考古談話会

2005「中・近世について」『城山遺跡第 42 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 10 集　志木市遺跡調査会

2006「七世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義―武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例―」『埼玉考古Ⅱ』埼玉考古学会

2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識―（仮称）「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として―」『埼玉考古 43』

2012「第４章　調査のまとめ」『城山遺跡第 62 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 48 集　志木市教育委員会

2017「中野遺跡第 95 地点の調査成果」『市場裏遺跡第 23 地点　城山遺跡第 87 地点　西原大塚遺跡第 207 地点　中野遺跡第 95 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 68 集　志木市教育委員会

尾形則敏・深井恵子・青木　修　2005『城山遺跡第 42 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 10 集　志木市遺跡調査会

尾形則敏・徳留彰紀・坂上直嗣・青池紀子・鈴木伸哉　2011『城山遺跡第 63 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 46 集　志木市教育委員会

尾形則敏・徳留彰紀・深井恵子・青木　修　2012『城山遺跡第 62 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 48 集　志木市教育委員会

尾形則敏・徳留彰紀・村上孝司・青池紀子・矢作健二・石岡智武　2012『城山遺跡第 72 地点』志木市の文化財第 49 集　木市教育委員会

尾形則敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫　2013『城山遺跡第 71 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 54 集　志木市教育委員会

金井塚良一　1965「資料紹介　木履形土器（口絵解説）－埼玉県東松山市柏崎出土―」『考古学雑誌』第 50 巻第２号

黒住耐二　2007「陸産・海産微小貝類分析」『市原市西広貝塚Ⅲ』市原市教育委員会

2009「微小貝類からみた東京湾沿岸の巨大貝塚の時代」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』株式会社　雄山閣

劔持和夫　2000「築道下遺跡出土土器について」『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 245 集

小出輝雄ほか　1983『針ヶ谷遺跡群－南通遺跡第３地点の調査－』富士見市遺跡調査会遺跡調査報告書第 21 集

小久保撤・浜野一重・利根川章彦・山本　禎・高橋好信・田中正夫・岩瀬　譲・龍瀬芳之　1983
「埼玉県における古墳出土の研究Ⅰ－鉄鏃について－」『研究紀要』財団法人埼玉県埋蔵文化財事業団

古代の入間を考える会　2013『古代入間の土器と遺跡（Ⅱ）―須恵器坏の編年（９・10 世紀）―』
2015『南比企窯と東金子窯（Ⅱ）―東金子窯の開窯と９世紀の編年―』

後藤健一　2015『遠江湖西窯跡群の研究』

小林達雄　2008『総覧　縄文土器』「総覧　縄文土器」刊行委員会

桜岡正信　2003「武蔵型甕について―上野地域の生産と流通―」『高崎市史研究』17

志木市　1984『志木市史　原始・古代資料編』
1990『志木市史　通史編　上』

瀬戸市史編さん委員会　2001『瀬戸市史　陶磁史編６』瀬戸市

新宿区内藤町遺跡調査会　1992『内藤町遺跡』

田辺昭三　1981『須恵器大成』

谷井　彪・宮崎朝雄　1975『台の城山遺跡』朝霞市教育委員会

東京大学埋蔵文化財調査室　1999『東京大学校地内遺跡調査研究年報２』
2011『東京大学校地内遺跡調査研究年報７』

野沢　均　2005「中・近世における城山遺跡の総括」『城山遺跡第 42 地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第 10 集　志木市遺跡調査

橋本裕行ほか　1984「用土・平遺跡」『寄居町史　原始・古代中世資料編』寄居町教育委員会

増田　修・内山りゅう　2010『日本産淡水貝類図鑑　②汽水域を含む全国の淡水貝類』株式会社ピーシーズ

水口由紀子　1989「いわゆる“比企型坏”の再検討」『東京考古』第７号　東京考古学会

港区伊皿子貝塚遺跡調査団　1981『伊皿子貝塚遺跡』日本電信電話公社　港区伊皿子貝塚遺跡調査団

福田健司　2017『土器編年と集落構造－落川・一の宮遺跡の出自と生業を探る－』　株式会社ニューサイエンス社

村山　卓　2019『栗橋宿本陣跡Ⅰ』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財事業団

渡部　一　1990『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群遺跡調査会　鳩山町教育委員会

吉田稔　1990『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 95 集　南通り遺跡

株式会社東京航業研究所　地球化学分析室　2020『研究紀要』創刊号（特集：日本の黒曜石）　株式会社京航業研研究所

[付　　編]

自 然 科 学 分 析

Ⅰ．放射性炭素年代測定

伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・黒沼保子
（パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ）

１．はじめに

埼玉県志木市の城山遺跡 96 地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

試料は、弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Y から採取された炭化材 1 点（試料 No.23：PLD-41970）、中世の火葬墓 1073 D と 1119 D から採取された炭化材各 1 点（試料 No.220：PLD-41971、試料 No.245：PLD-41972）の、合計 3 点である。試料には、いずれも最終形成年輪が残存していた。

測定試料の情報、調製データは第 90 表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41970	遺構：10Y 遺物 No.C9 試料 No.23	種類：炭化材（コナラ属クヌギ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41971	遺構：1073D 遺物 No.C28 試料 No.220	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41972	遺構：1119D 遺物 No.C9 試料 No.245	種類：炭化材（コナラ属クヌギ節） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

第 90 表　測定試料および処理

３．結果

第 91 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、第 215 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が

68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す（第 215 図）。

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-41970 遺物 No.C9 試料 No.23	-27.90 ± 0.17	2102 ± 18	2100 ± 20	152- 95 cal BC (52.14%) 73- 56 cal BC (16.13%)	170-51 cal BC (95.45%)
PLD-41971 遺物 No.C28 試料 No.220	-26.59 ± 0.16	628 ± 17	630 ± 15	1303-1322 cal AD (33.31%) 1357-1367 cal AD (17.03%) 1380-1391 cal AD (17.93%)	1298-1327 cal AD (41.54%) 1346-1395 cal AD (53.91%)
PLD-41972 遺物 No.C9 試料 No.245	-29.43 ± 0.12	612 ± 17	610 ± 15	1306-1327 cal AD (31.14%) 1348-1364 cal AD (21.92%) 1385-1395 cal AD (15.21%)	1303-1367 cal AD (75.23%) 1380-1397 cal AD (20.22%)

第 91 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

４．考察

以下､各試料の暦年較正結果のうち 2 σ暦年代範囲（確率 95.45%）に着目して結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については（小林　2009）を参照した。

竪穴住居跡 10Y 出土の炭化材（試料 No.23：PLD-41970）は、170-51 cal BC (95.45%) の暦年代を示した。これは弥生時代中期後葉に相当する暦年代である。したがって、調査所見による推定時期の弥生時代中期に対して整合的である。

火葬墓 1073 D出土の炭化材（試料 No.220：PLD-41971）は、1298-1327 cal AD (41.54%) および 1346-1395 cal AD (53.91%) の暦年代を示した。これは 13 世紀末～ 14 世紀末で、鎌倉時代～室町時代の暦年代である。また、火葬墓 1119 D出土の炭化材（試料 No.245：PLD-41972）は、1303-1367 cal AD (75.23%) および 1380-1397 cal AD (20.22%) の暦年代を示した。これは 14 世紀初頭～末で、鎌倉時代～室町時代の暦年代である。どちらも、火葬墓 1073 Dと 1119 Dの推定時期である中世に対して整合的であった。

木材は、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回分析を行った試料は、いずれも最終形成年輪が残存しており、得られた最終形成年輪の年代は、木材が伐採もしくは枯死した年代を示していると考えられる。

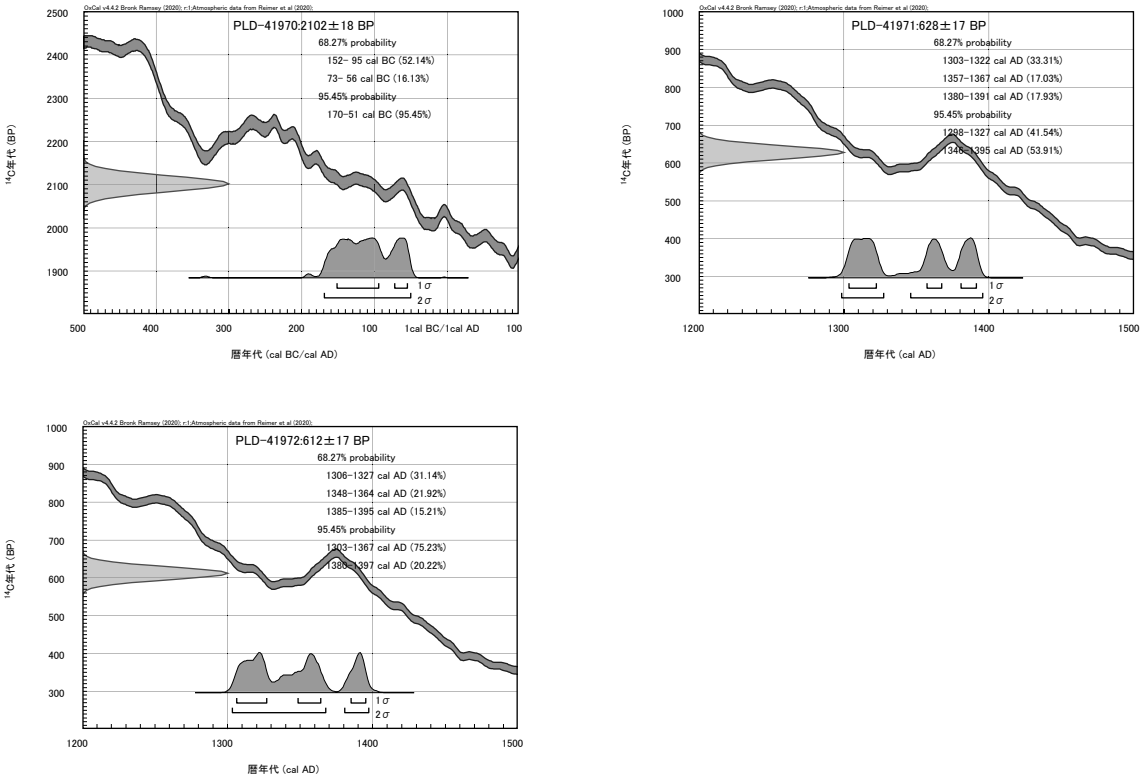
［引用・参考文献］

Bronk Ramsey, C. (2009)　Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一（2009）　近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣.

中村俊夫（2000）　放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20，日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)



第 215 図　暦年較正結果

Ⅱ．城山遺跡第 96 地点出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1．はじめに

埼玉県志木市の城山遺跡第 96 地点において出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている (放射性炭素年代測定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Yから 43 点、弥生時代後期の竪穴住居跡 9Y から 14 点、古墳時代～古代の竪穴住居跡 304 Hから 135 点、中世の火葬墓 1073 Dから 44 点、火葬墓 1119 Dから 19 点の、計 255 点の出土炭化材である。各試料について、同定前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のヒノキ科 1 分類群と、広葉樹のモモとエノキ属、クワ属、クリ、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、オニグルミ、ハンノキ属ヤシャブシ亜属（以下、ヤシャブシ亜属）、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、ヤナギ属の 10 分類群、単子葉のタケ亜科とイネ科の 2 分類群の、計 13 分類群が確認された。

コナラ節が 106 点で最も多く、クヌギ節が 72 点、エノキ属が 41 点、クリが 12 点、ハンノキ亜属が 6 点、タケ亜科が 5 点、クワ属が 4 点、ヤシャブシ亜属とヤナギ属が各 2 点、ヒノキ科とモモ、オニグルミ、イネ科が各 1 点であった。また、試料が微細で広葉樹までの同定に留めた試料が 1 点みられた。同定結果を第 92 表に、一覧を第 93 表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版 104 ～ 106 に光学顕微鏡写真を示す。

（1）ヒノキ科　Cupressaceae　図版 104　1a-1c(No.169)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ 1 ～ 15 列である。分野壁孔は 1 分野に 2 個みられるが、分野壁孔の形状が確認できなかったため、ヒノキ科までの同定とした。

ヒノキ科にはスギ、ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロなどの樹種がみられる。

（2）モモ　Prunus persica (L.) Batsch　バラ科　図版 104　2a-2c(No.140)

樹種／遺構	10 Y	9 Y	304 H	1073 D	1119 D	合　計
ヒノキ科			1			1
モモ			1			1
エノキ属				41		41
クワ属			4			4
クリ			12			12
コナラ属クヌギ節	28	11	17		16	72
コナラ属コナラ節	8		98			106
オニグルミ		1				1
ハンノキ属ヤシャブシ亜属			2			2
ハンノキ属ハンノキ亜属	6					6
ヤナギ属		2				2
広葉樹	1					1
タケ亜科				3	2	5
イネ科					1	1
合　計	43	14	135	44	19	255

第 92 表　遺構別の樹種同定結果

年輪のはじめに中型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合してやや密に散在する半環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は平伏、方形、直立細胞が混在する異性で、幅 1 ～ 5 列である。

モモの原産地は中国北部で、平安時代には果実を食用や薬用として利用するために日本列島でも栽培されていた樹木である。材は重硬で、切削加工等は困難である。

（3）エノキ属　Celtis　アサ科　図版 104　3a-3c(No.234)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 ～ 3 列が方形となる異性で、幅 1 ～ 5 列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとまって生育せず、現在では薪炭材などに利用される程度である。

（4）クワ属　Morus　クワ科　図版 104　4a-4c(No.97)

年輪のはじめに大型の道管が並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合し、斜め方向に断続的に複合する半環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端 1 ～ 3 列が方形となる異性で、幅 1 ～ 6 列となる。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し、日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

（5）クリ　Castanea crenata Siebold. et Zucc.　ブナ科　図版 104　5a-5c(No.83)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ～ 3 列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

（6）コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図版 104・105　6a-6c(No.12)、7a(No.11)、8a(No.51)、9a(No.103)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ～ 3 列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

（7）コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版 105　10a-10c(No.23)、11a(No.86)、12a(No.91)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ～ 2 列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の

広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靭で、切削加工はやや難しい。

（8）オニグルミ　Juglans mandshurica Maxim. var. sieboldiana (Maxim.) Makino　クルミ科　図版 105　13a-13c(No.10)

やや大型の道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合してまばらに散在し、晩材部では道管径が減じる半環孔材である。軸方向柔細胞は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1 ～ 4 列となる。

オニグルミは北海道から九州まで広く分布し、河岸や湿潤な平地の肥沃なところに育成する落葉高木の広葉樹である。材の堅さ、重さは中庸で、切削等の加工は容易である。

（9）ハンノキ属ヤシャブシ亜属　Alnus subgen. Alnaster　カバノキ科　図版 105　14a-14c（No.154）

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は 10 ～ 20 段程度の階段状である。放射組織は単列で、同性である。

ヤシャブシ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ミヤマハンノキやヤシャブシなど 4 種がある。材の硬さと重さは中庸である。

（10）ハンノキ属ハンノキ亜属　Alnus subgen. Alnus　カバノキ科　図版 106　15a-15c(No.49)

小型の道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと集合放射組織がみられる。

ハンノキ属ハンノキ亜属にはヤマハンノキやハンノキなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ヤマハンノキは山林部に、ハンノキは平地の湿地や河川などの湿潤地に多い。材の重さは中庸で、切削加工なども中庸から容易である。

（11）ヤナギ属　Salix　ヤナギ科　図版 106　16a-16c(No.6)

小型の道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管放射組織間壁孔は円形の単壁孔状となる。放射組織は上下端 1 ～ 3 列が直立する異性で、単列となる。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉大高木～灌木の広葉樹である。材は軽軟で強度が強く、切削加工などは容易である。

（12）広葉樹　Broadleaf-wood

道管が確認できたが、微細な試料であるため、作製できたのは横断面のみで、横断面でも年輪界が確認できなかったため、広葉樹までの同定とした。

（13）タケ亜科　Subfam. Bambusoideae　イネ科　図版 106　17a(No.197)

向軸側の原生木部、その左右の 2 個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には 12 属がある。

（14）イネ科　Gramineae　図版 106　18a(No.251)

向軸側の原生木部、その左右の 2 個の後生木部、背軸側の篩部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など 7 亜科がみられる単子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定までには至っていない。

4. 考察

弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Ｙではクヌギ節とコナラ節、ハンノキ亜属、広葉樹が、弥生時代後期の９Ｙではクヌギ節とオニグルミ、ヤナギ属がみられ、共にクヌギ節が多くみられた。試料は、焼けた建築材と考えられている。クヌギ節とコナラ節、オニグルミは堅硬な部類に属する樹種であり、ハンノキ亜属とヤナギ属は軽軟な樹種である。また、ハンノキ亜属とヤナギ属は水辺に生育する樹種である（伊東ほか，2011）。木取りをみると、堅硬な材、軽軟な材共に、芯持丸木状や半割状、みかん割り状で確認されており、顕著な使い分けは確認できなかった。

古墳時代～古代の竪穴住居跡 304 Ｈでは、ヒノキ科とモモ、クワ属、クリ、クヌギ節、コナラ節、ヤシャブシ亜属がみられた。試料は、焼けた建築材と考えられている。モモとクワ属、クリ、クヌギ節、コナラ節は堅硬な樹種であり、ヒノキ科とヤシャブシ亜属は軽軟な樹種である（伊東ほか　2011）。木取りをみると、軽軟な樹種であるヒノキ科は割れ、ヤシャブシ亜属はみかん割りないし半割状であり、堅硬な樹種との顕著な使い分けは確認できなかった。また、コナラ節では芯去削出状の試料が 5 点みられた。それらの試料については、建築材ではなく、木製品の一部であった可能性も考えられる。

城山遺跡第 35 地点で出土した古墳時代中期～後期の焼けた建築材ではクヌギ節やコナラ節が確認されており、傾向は一致する（伊東・山田編　2012）。

中世の火葬墓である 1073 Ｄではエノキ属とタケ亜科、1119D ではクヌギ節とタケ亜科、イネ科が確認された。試料はいずれも遺体を荼毘に付す際に使用された燃料材と考えられる。クヌギ節とエノキ属は、薪炭材として普通に利用される樹種である（伊東ほか　2011）。また、タケ亜科は火付きが良く、燃焼性が高い（室井　1973）。タケ亜科とイネ科は着火材として、クヌギ節とエノキ属は燃料材として利用されたと考えられる。

時期別に竪穴住居跡の建築材の利用傾向をみると、弥生時代中期～後期では、クヌギ節を中心とした堅硬な樹種が多くみられ、ハンノキ亜属やヤナギ属など水辺に生育する樹種もみられたが、古墳時代～古代ではコナラ節を中心とした堅硬な樹種が確認され、水辺に生育する樹種は確認されなかった。クヌギ節とコナラ節は、ほぼ同じ材質であり、選択的にクヌギ節とコナラ節を使い分けていたとは考え難い。古墳時代～古代になってコナラ節が主体となる傾向は、遺跡周辺の植生の変化を反映している可能性がある。

中世の火葬墓については、タケ亜科は 1073 Ｄと 1119 Ｄの両方で確認できたが、燃料材としては 1073 Ｄではエノキ属、1119 Ｄではクヌギ節で、異なる利用傾向がみられた。鳩ケ谷市の辻字宮地第 2 遺跡の鎌倉時代～室町時代の火葬墓の燃料材ではエノキ属が多く確認されており（伊東・山田 2012）、志木市周辺では、火葬墓にエノキ属が利用される場合が多い。1073 Ｄと 1119 Ｄで燃料材の樹種が異なる背景としては、時期による周辺植生の違いを反映している可能性や、葬送儀礼の違いである可能性などが考えられる。

［引用文献］

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂　2011『日本有用樹木誌』238p　海青社

伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学―出土木製品用材データベース―』449p　海青社

室井　綽　1973『ものと人間の文化史 10・竹』311p　法政大学出版局

遺構	遺物No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号
9 Y	C1	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C2	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C3	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C4	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C5	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C6	炭化材	ヤナギ属	芯持丸木	
	C7	炭化材	ヤナギ属	割れ	
	C8	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C9	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C10	炭化材	オニグルミ	芯持丸木	
	C11	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C12	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C13	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C14	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
10 Y	C1	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C2	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C3	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C4	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C5	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C6	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C7	炭化材	広葉樹	割れ	
	C8	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
	C9	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	PLD-41970
	C10	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C11	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C12	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C13	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	割れ	
	C14	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	半割	
	C15	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割	
	C16	炭化材	コナラ属クヌギ節	柾目	
	C17	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C18	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C19	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C20	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C21	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C22	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C23	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C24	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C25	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C26	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C27	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C28	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C29	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C30	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C31	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C32	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	割れ	
	C33	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り	
	C34	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り	
	C35	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り	
	C36	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C37	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C38	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C39	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C40	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C41	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C42	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	No.293	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
304 H	C1	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C2	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C3	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
304 H	C4	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C5	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C6	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C7	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C8	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C9	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C10	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C11	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C12	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C13	炭化材	コナラ属コナラ節	半割	
	C14	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C15	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C16	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C17	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C18	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C19	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C20	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C21	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C22	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C23	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C24	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C25	炭化材	クリ	柾目	
	C26	炭化材	クリ	みかん割り	
	C27	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C28	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C29	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C30	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C31	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C32	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C33	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C34	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C35	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C36	炭化材	クワ属	割れ	
	C37	炭化材	クワ属	割れ	
	C38	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C39	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C40	炭化材	クワ属	芯持丸木	
	C41	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C42	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C43	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C44	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C45	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C46	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割	
	C47	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C48	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C49	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C50	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C51	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C52	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C53	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C54	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C55	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C56	炭化材	コナラ属コナラ節	半割	
	C57	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C58	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C59	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C60	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C61	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C62	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C63	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C64	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C65	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C66	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C67	炭化材	クリ	みかん割り	
	C68	炭化材	クリ	板目	
	C69	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	

第 93 表　樹種同定結果一覧（1）

遺構	遺物No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号
304 H	C70	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
	C71	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C72	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C73	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C74	炭化材	コナラ属コナラ節	板目	
	C75	炭化材	クリ	板目	
	C76	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C77	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C78	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C79	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C80	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C81	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C82	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C83	炭化材	モモ	みかん割り	
	C84	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C85	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
	C86	炭化材	コナラ属コナラ節	半割	
	C87	炭化材	コナラ属コナラ節	柾目	
	C88	炭化材	コナラ属コナラ節	板目	
	C89	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C90	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C91	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割	
	C92	炭化材	コナラ属コナラ節	芯去削出	
	C93	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割	
	C94	炭化材	コナラ属コナラ節	芯去削出	
	C95	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C96	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C97	炭化材	ハンノキ属 ヤシャブシ亜属	みかん割り	
	C98	炭化材	クリ	芯持丸木	
	C99	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C100	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C101	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C102	炭化材	クリ	芯持丸木	
	C103	炭化材	コナラ属コナラ節	芯去削出	
	C104	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C105	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C106	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C107	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C108	炭化材	クリ	芯持丸木	
	C109	炭化材	クリ	芯持丸木	
	C110	炭化材	ハンノキ属 ヤシャブシ亜属	芯持丸木	
	C111	炭化材	クワ属	半割	
	C112	炭化材	ヒノキ科	割れ	
	C113	炭化材	コナラ属コナラ節	芯去削出	
	C114	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C115	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C116	炭化材	クリ	みかん割り	
	C117	炭化材	コナラ属コナラ節	半割	
	C118	炭化材	クリ	半割	
	C119	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C120	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C121	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C122	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C123	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	
	C124	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C125	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木	
	C126	炭化材	クリ	みかん割り	
	C127	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C128	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C129	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C130	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C131	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C132	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C133	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	

遺構	遺物No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号
304 H	C134	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C135	炭化材	コナラ属コナラ節	芯去削出	
1073 D	C1	炭化材	エノキ属	割れ	
	C2	炭化材	エノキ属	割れ	
	C3	炭化材	エノキ属	割れ	
	C4	炭化材	エノキ属	割れ	
	C5	炭化材	タケ亜科	半割	
	C6	炭化材	エノキ属	割れ	
	C7	炭化材	エノキ属	割れ	
	C8	炭化材	エノキ属	割れ	
	C9	炭化材	エノキ属	割れ	
	C10	炭化材	エノキ属	割れ	
	C11	炭化材	エノキ属	割れ	
	C12	炭化材	エノキ属	割れ	
	C13	炭化材	エノキ属	割れ	
	C14	炭化材	エノキ属	割れ	
	C15	炭化材	エノキ属	割れ	
	C16	炭化材	エノキ属	割れ	
	C17	炭化材	エノキ属	割れ	
	C18	炭化材	エノキ属	割れ	
	C19	炭化材	エノキ属	割れ	
	C20	炭化材	エノキ属	割れ	
	C21	炭化材	エノキ属	割れ	
	C22	炭化材	エノキ属	半割	
	C23	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C24	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C25	炭化材	タケ亜科	割れ	
	C26	炭化材	タケ亜科	割れ	
	C27	炭化材	エノキ属	割れ	
	C28	炭化材	エノキ属	芯持丸木	PLD-41971
	C29	炭化材	エノキ属	割れ	
	C30	炭化材	エノキ属	割れ	
	C31	炭化材	エノキ属	割れ	
	C32	炭化材	エノキ属	割れ	
	C33	炭化材	エノキ属	半割	
	C34	炭化材	エノキ属	半割	
	C35	炭化材	エノキ属	割れ	
	C36	炭化材	エノキ属	割れ	
	C37	炭化材	エノキ属	割れ	
	C38	炭化材	エノキ属	割れ	
	C39	炭化材	エノキ属	割れ	
	C40	炭化材	エノキ属	割れ	
	C41	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C42	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C43	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C44	炭化材	エノキ属	芯持丸木	
1119 D	C1	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C2	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C3	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C4	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C5	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C6	炭化材	タケ亜科	割れ	
	C7	炭化材	タケ亜科	割れ	
	C8	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C9	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	PLD-41972
	C10	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C11	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C12	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C13	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C14	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C15	炭化材	イネ科	丸	
	C16	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C17	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	
	C18	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ	
	C19	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り	

第 93 表　樹種同定結果一覧（2）

Ⅲ．城山遺跡第 96 地点出土黒曜石の産地推定

東京航業研究所　地球化学分析室

１．はじめに

埼玉県志木市城山遺跡第 96 地点出土の黒曜石遺物 91 点について、蛍光Ｘ線による非破壊分析で、産地推定を行った。

２．原理

黒曜石は、主として旧石器時代から縄文時代にかけて、石器の材料として大量に使用されている。しかし、その産出地点は限られているため、先史時代人は、直接採取に行くか、あるいは交易など様々な手段を駆使して黒曜石を入手し、その需要を満たしていたと考えられる。

この黒曜石は、産地毎に元素組成が異なるため、黒曜石製の石器の元素組成を測定することによって、その産地を推定することが可能である。産地が推定できれば、石器材料である黒曜石原石か、あるいは製作された石器が先史時代人によって運搬されたことについて、出発地点である産地と、最終到達地点である遺跡の位置が明らかとなり、具体的な人や物の動きを議論することが可能となる。

なお、測定に使用した蛍光Ｘ線分析法は、測定対象の表面にＸ線を照射し、表面に含まれている元素と照射したＸ線の相互作用によって、元素特有の蛍光Ｘ線が含有量に応じて発生することに着目し、この蛍光Ｘ線のエネルギー量 (波長) から元素の種類を、検出量から元素の含有量を求める方法である。

蛍光Ｘ線分析法については、以下の点に注意が必要である。

①相対分析法であるので、元素濃度を決定するためには、被検試料に対して組成と形状が類似した濃度既知の標準物質を予め測定し、これとの対比で元素組成を求める必要がある。黒曜石については、元素組成と形状が類似した標準物質が市販されていないため、一般的には組成は類似しているが形状が異なる標準物質を使用して元素組成を求めることとなる。

②蛍光Ｘ線分析法で正確な濃度を求めるためには、幾つかの前提条件を満たす必要があり、その一つに、測定物質の表面形状が平滑な平面であることがあげられる。産地の基準試料は研磨によって平滑面を作り出して測定しているが、遺物については加工することができないため、遺物の測定面は一般的には平滑ではあるが平面ではない。従って、厳密な意味で正確な濃度を求めることは難しい。

③遺物の表面には、風化によって変質した部分や土壌によって汚染された部分が存在している。これは、新鮮な剥離面が光沢を帯びていることに対して、遺物表面の光沢が弱いことからも明らかである。一般に水和層と呼ばれる黒曜石表面の風化層は、元素組成についても厳密な意味では本来の値とは異なっていることが予想される。

④元素ごとに検出限界は異なっており、検出限界以下の含有量では、たとえその元素が含まれていても非検出 (ＮＤ) となり、同様に検出限界付近では、その値が大きくぶれて、誤差が大きくなる。

⑤含有量が少ない元素については、十分な蛍光Ｘ線を得る為に一定の照射面積が必要である。しかし微細な剥片ではこの条件を満たすことができない。そのため、小破片の含有量が少ない元素については、検出できない場合や値が不正確になる場合がある。

⑥同様に、試料の厚さが十分に厚くない場合、照射したＸ線の一部が透過し、値が不正確になる場合がある。

⑦蛍光Ｘ線の検出強度は、測定値からバックグラウンドの値を差し引いて求められるが、バックグラウンドの設定は、元素ごとに一定の方式で行っており、個別の試料ごとに変更をしていない。したがって、測定限界付近の濃度の場合、検出強度が計算上、負の値として算出される場合がある。

このように、蛍光Ｘ線分析法で遺物を測定する場合には、幾つかの問題が存在しており、厳密な元素組成を求めることは難しいが、黒曜石の場合には、産地間の元素組成の差が著しいために、一定の誤差を前提とした上で、実用的な産地推定法が成立している。

なお、現在最も多く用いられている方法は、望月明彦氏によって提案された、Rb 分率と Sr 分率を用いる判別図によるものであり、ここでもこの方法によっている。

望月による方法の特徴は、標準試料をもとにして算出された元素濃度を用いるのではなく、各元素固有の検出強度を用いている点にある。この検出強度は、バックグラウンドは差し引かれているものの、重なり補正が行われていないため、元素濃度に必ずしも比例せず、各分析装置固有の値であるという問題点がある。しかし、産地推定に有効であることが多くの研究者の経験によって裏付けられている。ここでは、この判別図を望月ダイアグラムと称した。

３．操作

①エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置を使用して、被検試料である黒曜石の蛍光Ｘ線の強度を測定。

②地球化学分析室には、予め、原産地から採取した黒曜石基準試料が準備されており、その測定値が登録されている。

③黒曜石製の遺物試料を測定した値について、原産地の試料から想定した判別群と照合し、帰属する判別群を推定した。

④判別群の呼称は、原則として東京航業研究所 地球化学分析室編「日本の黒曜石」の記載に準拠した。

⑤判別群の推定に際しては、現在、最も普及している望月の方法を利用した。具体的には、Rb 分率として、横軸に (Rb × 100) ／ (Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr)、縦軸に (Mn × 100) ／ Fe を取った判別図を作成した。また Sr 分率として、横軸に (Sr × 100) ／ (Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr)、縦軸に log10(Fe ／ K) を取った判別図を作成した。なお、数値の単位は絶対濃度ではなく、蛍光Ｘ線の検出強度 (バックグラウンドを除去した積分強度) である点に注意されたい。

⑥２枚の判別図には、予め原産地から採取した黒曜石から求めた値によって各判別群のエリアを想定しており、遺物の測定値がどのエリアにプロットされるかによって、判別群を判断した。

⑦なお試料では、大きさ、厚さ、風化、あるいは汚染の問題があるために、原石から想定したエリアを大きく外れる場合がある。そのため、標準試料から求めた元素濃度でも、判別群への帰属を検討した。

４．測定条件

①測定には、リガク製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置ＮＥＸ－ＤＥを使用した。

②測定元素は、主成分元素は Na、Mg、Al、Si、 P 、 K、Ca、Ti、Mn、Fe の 10 種類、微量成分元素は

Rb、Sr、Y、Zr、Nb、Ba の６種類である。

③検出強度は、分析装置が算出した値を用いた。

④元素濃度は、主成分は酸化物濃度で、微量成分は元素濃度でそれぞれ求めた。

⑤測定時間は、各グループ 250 秒とした。

⑥Ｘ線管球は 60k Ｖ、12 W、Ag ターゲットのものを使用した。

⑦Ｘ線の照射径は 10㎜とし、ターレットを使用せず、１個体ずつ測定窓の上に設置して測定した。

⑧測定時の雰囲気は、ヘリウム雰囲気とした。

⑨Ｘ線が下面から照射されるエンドウインドウタイプなので、測定窓に４μm厚の専用プロレンフィルムを貼った。

⑩その他の条件については、第 94 表に示した。

５．結果

①黒曜石遺物 91 点の中には極小の剥片も多く、それらは分析の前提である十分な厚みをもたず、測定結果をもとにした考察には適さない。そのため本分析では、質量が 0.50g 以上の遺物 32 点について考察を行った。質量が 0.50g 未満の遺物 59 点については⑪、⑫、⑬に記した。

② 32 点の遺物から得られたＸ線強度を第 95 表に示した。また、Ｘ線強度から算出した元素濃度を第 96 表に示した。

③測定結果を第 216 ～ 219 図の望月ダイアグラムに示した。第 216 図は Rb 分率図、第 217 図は Sr 分率図であり、第 218 図は Rb 分率拡大図、第 219 図は Sr 分率拡大図である。各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物 32 点の値をプロットしたものである。

④望月ダイアグラム上のプロットを産地毎の黒曜石基準試料の分布と比較して推定した産地を第 97 表に示した。

⑤測定した遺物 32 点のうち、No.1、3、5、6、8 ～ 15、17、26、35、36、41 の 17 点は、麦草峠判別群と判定された。また、No.90 は恩馳島判別群と判定された。

⑥ No.91 は Rb 分率図で僅かに星ヶ塔判別群の値を外れたが、測定誤差の範囲内と判断し、星ヶ塔判別群と判定した。Rb 分率図におけるずれは、測定面が平滑ではないことによると考えられる。

⑦ No.7 は麦草峠判別群、大門川判別群の重複部分にプロットされた。しかし、大門川判別群の黒曜石には球顆が多量に含まれており、石器原材料として使用された例は報告されていないため、麦草峠判別群に属する可能性が高いと考えられる。

⑧ No.4 は大門川判別群と判定されたが、Sr 分率図では麦草峠判別群にも属し、Rb 分率図でも麦草峠判別群から僅かに下方に外れたにすぎないため、麦草峠判別群の可能性も否定できない。

⑨ No.29、32 の２点は大門川判別群と判定された。しかし⑦で述べたように、大門川判別群の黒曜石が石器原材料として使用された例は、これまでに報告されていない。２点の産地判定については保留としたい。

⑩ No.2、16、22、27、28、34、38、43、44 の９点は、Rb 分率図または Sr 分率図で僅かに麦草峠判別群の値をはずれたが、測定誤差の範囲内と判断し、麦草峠判別群と判定した。麦草峠判別群から僅かに外れているのは、風化あるいは測定面の凸凹によることが原因と考えられる。

⑪質量が 0.50g 未満の黒曜石遺物 59 点についても測定を行った。これは、微細な剥片を測定することによって、遺跡内での加工が把握できるためである。

⑫⑪の測定結果を第 220・221 図の望月ダイアグラムに示した。第 220 図は Rb 分率拡大図、第 221 図は Sr 分率拡大図である。各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物 59 点の値をプロットしたものである。

⑬プロットされた点の拡がり方から、これら 59 点は麦草峠判別群に属する可能性が高いと考えられる。特に Sr 分率図ではいくつかの外れ値はあるものの、多くが麦草峠判別群に属している。Rb 分率図では麦草峠判別群の下方に拡がるようにプロットされた。

⑭遺物が各判別群の定義範囲に該当すれば産地として推定可能であるが、多くの判別群では、未だ十分に分布範囲が確定されているとはいえない。複数地点からの試料によって範囲を確定させるとともに、風化の影響によるずれについても、データを蓄積する必要がある。

元素名	算出形態	測定条件	分析線	1 次フィルタ	管電圧 /k V	管電流 / μ A	測定時間 /sec
Na	Na2O	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Mg	MgO	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Al	Al2O3	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Si	SiO2	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
P	P2O5	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
K	K2O	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ca	CaO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ti	TiO2	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Mn	MnO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Fe	Fe2O3	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Rb	Rb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Sr	Sr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Y	Y	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Zr	Zr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Nb	Nb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ba	Ba	High-Z_F	K α	F	60.0	適宜設定	250

第 94 表　分析の各種条件

番号	Na-K α	Mg-K α	Al-K α	Si-K α	P-K α	K-K α	Ca-K α	Ti-K α	Mn-K α	Fe-K α	Rb-K α	Sr-K α	Y-K α	Zr-K α	Nb-K α	Ba-K α
1	0.380	0.278	27.1	383	0.023	0.92	0.364	0.164	0.218	6.28	2.49	3.50	0.95	4.43	0.261	5.60
2	0.193	0.314	18.8	285	0.015	0.83	0.341	0.147	0.204	5.92	2.33	3.31	0.91	4.25	0.213	3.92
3	0.417	0.293	28.2	395	0.028	1.04	0.406	0.177	0.245	7.06	2.76	3.87	1.05	4.89	0.253	5.58
4	0.403	0.299	27.6	382	0.031	0.88	0.370	0.166	0.214	6.39	2.37	3.63	0.94	4.59	0.226	5.41
5	0.505	0.283	31.5	432	0.026	1.07	0.423	0.181	0.243	7.02	2.85	3.76	1.08	4.76	0.270	5.59
6	0.262	0.300	22.2	324	0.023	0.97	0.382	0.165	0.220	6.42	2.58	3.36	0.97	4.24	0.211	3.98
7	0.403	0.297	28.2	389	0.018	0.98	0.409	0.180	0.233	6.87	2.64	3.93	1.01	4.81	0.260	3.49
8	0.372	0.312	24.9	356	0.061	0.97	0.401	0.191	0.232	6.83	2.59	3.67	1.00	4.58	0.247	4.13
9	0.549	0.304	32.7	438	0.037	1.04	0.427	0.216	0.245	7.27	2.76	4.06	1.10	5.24	0.268	5.24
10	0.491	0.290	30.7	423	0.031	1.00	0.401	0.175	0.240	6.89	2.63	3.87	1.05	4.92	0.246	5.63
11	0.404	0.278	28.1	398	0.019	0.98	0.390	0.170	0.230	6.78	2.65	3.83	1.00	4.75	0.267	4.75
12	0.515	0.279	31.3	432	0.018	0.96	0.380	0.161	0.219	6.46	2.54	3.55	0.99	4.52	0.235	5.00
13	0.337	0.297	25.4	363	0.015	0.92	0.363	0.158	0.220	6.24	2.63	3.44	0.97	4.32	0.242	5.71
14	0.420	0.278	28.9	409	0.032	0.98	0.372	0.154	0.217	6.30	2.63	3.27	0.96	4.19	0.225	5.10
15	0.258	0.310	21.4	317	0.020	0.89	0.343	0.151	0.207	6.07	2.46	3.38	0.96	4.30	0.231	5.15
16	0.616	0.287	35.9	483	0.045	1.13	0.448	0.189	0.250	7.45	2.95	3.87	1.10	4.95	0.270	6.05
17	0.517	0.286	31.9	436	0.044	1.02	0.418	0.186	0.239	7.01	2.47	3.54	0.94	4.31	0.234	2.31
22	0.648	0.272	35.3	458	0.047	1.04	0.419	0.181	0.236	7.02	2.61	3.60	1.00	4.56	0.255	3.52
26	0.584	0.370	32.5	444	0.026	1.05	0.614	0.182	0.248	7.30	2.78	3.92	1.06	4.91	0.269	4.45
27	0.364	0.307	26.5	370	0.038	0.93	0.389	0.162	0.215	6.46	2.39	3.50	0.93	4.63	0.233	2.68
28	0.398	0.276	26.3	366	0.029	0.91	0.369	0.157	0.204	6.16	2.19	2.95	0.81	3.57	0.181	2.33
29	0.459	0.279	29.9	415	0.025	1.00	0.424	0.178	0.236	6.95	2.59	4.34	1.03	4.97	0.264	3.59
32	0.417	0.302	29.3	387	0.034	0.88	0.387	0.186	0.216	6.53	2.30	3.73	0.90	4.38	0.225	2.84
34	0.603	0.320	34.6	461	0.053	1.06	0.435	0.192	0.259	7.33	2.72	3.73	1.04	4.73	0.266	3.47
35	0.437	0.348	29.4	397	0.031	1.01	0.441	0.175	0.234	6.80	2.66	3.56	0.98	4.42	0.234	3.86
36	0.579	0.297	33.9	452	0.040	1.05	0.439	0.174	0.240	6.96	2.74	3.74	1.00	4.42	0.241	3.19
38	0.419	0.307	28.7	396	0.033	0.99	0.398	0.177	0.234	6.76	2.65	3.48	0.99	4.50	0.248	3.27
41	0.424	0.269	24.5	314	0.048	0.88	0.437	0.360	0.215	6.14	2.29	3.35	0.89	4.14	0.248	3.65
43	0.246	0.341	21.8	303	0.028	0.85	0.362	0.154	0.199	5.94	2.06	2.92	0.78	3.62	0.215	2.61
44	0.495	0.316	32.3	407	0.055	0.97	0.403	0.189	0.238	7.15	2.50	3.78	1.01	4.79	0.250	3.87
90	0.493	0.276	29.5	402	0.028	0.81	0.396	0.138	0.337	6.14	1.64	2.16	1.07	2.95	0.277	2.46
91	0.594	0.271	34.0	457	0.030	1.21	0.334	0.109	0.366	4.91	3.86	1.30	1.59	3.18	0.379	1.75

単位は cps/ μ A

第 95 表　試料のＸ線強度

番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Ba
1	2.8	0.17	11.6	79.3	0.014	4.1	0.76	0.15	0.052	0.96	0.011	0.014	0.0018	0.012	0.00071	0.087
2	1.7	0.28	9.6	81.8	0.010	4.4	0.86	0.17	0.058	1.09	0.012	0.016	0.0021	0.014	0.00071	0.073
3	3.0	0.19	11.7	78.4	0.016	4.5	0.83	0.16	0.057	1.05	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00069	0.084
4	3.0	0.21	11.7	79.1	0.019	3.9	0.78	0.16	0.051	0.98	0.010	0.015	0.0018	0.012	0.00059	0.084
5	3.4	0.17	12.3	77.6	0.015	4.3	0.81	0.16	0.053	0.99	0.011	0.014	0.0019	0.012	0.00065	0.079
6	2.1	0.23	10.4	80.2	0.015	4.7	0.88	0.18	0.058	1.09	0.012	0.015	0.0020	0.012	0.00066	0.068
7	2.9	0.20	11.8	78.6	0.010	4.3	0.85	0.18	0.055	1.04	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00070	0.053
8	2.9	0.24	11.0	79.1	0.042	4.4	0.88	0.20	0.057	1.09	0.011	0.015	0.0020	0.013	0.00074	0.066
9	3.7	0.20	12.6	77.2	0.021	4.1	0.82	0.19	0.053	1.01	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00065	0.073
10	3.4	0.18	12.2	78.0	0.018	4.1	0.78	0.15	0.053	0.99	0.010	0.014	0.0019	0.012	0.00067	0.081
11	2.9	0.17	11.7	78.8	0.011	4.2	0.80	0.16	0.054	1.01	0.011	0.015	0.0019	0.012	0.00070	0.072
12	3.5	0.16	12.3	78.1	0.009	3.9	0.73	0.14	0.048	0.91	0.010	0.013	0.0018	0.011	0.00066	0.071
13	2.6	0.21	11.2	79.7	0.009	4.2	0.78	0.15	0.054	0.99	0.012	0.014	0.0018	0.012	0.00074	0.091
14	3.0	0.17	11.9	78.8	0.019	4.1	0.74	0.14	0.050	0.93	0.011	0.013	0.0016	0.011	0.00057	0.076
15	2.1	0.26	10.2	80.8	0.013	4.4	0.80	0.16	0.056	1.05	0.012	0.015	0.0020	0.013	0.00067	0.089
16	3.9	0.16	12.9	76.7	0.024	4.2	0.80	0.15	0.051	0.97	0.011	0.013	0.0017	0.011	0.00061	0.079
17	3.5	0.17	12.4	77.7	0.026	4.1	0.80	0.18	0.052	0.98	0.010	0.013	0.0016	0.011	0.00065	0.033
22	4.2	0.14	13.1	76.5	0.027	4.0	0.77	0.16	0.049	0.94	0.010	0.013	0.0017	0.011	0.00062	0.048
26	3.9	0.30	12.4	76.7	0.014	4.1	1.22	0.16	0.053	1.00	0.011	0.014	0.0018	0.012	0.00064	0.061
27	2.8	0.23	11.5	79.1	0.025	4.2	0.84	0.17	0.052	1.01	0.010	0.014	0.0018	0.013	0.00073	0.042
28	3.0	0.17	11.4	79.2	0.019	4.1	0.79	0.16	0.050	0.97	0.009	0.012	0.0015	0.010	0.00049	0.037
29	3.2	0.16	12.0	78.2	0.014	4.2	0.85	0.17	0.053	1.01	0.010	0.016	0.0019	0.012	0.00068	0.053
32	3.1	0.21	12.3	78.5	0.021	3.8	0.82	0.19	0.051	0.99	0.010	0.015	0.0016	0.011	0.00059	0.043
34	3.9	0.22	12.9	76.8	0.030	4.1	0.80	0.17	0.054	0.98	0.010	0.013	0.0017	0.011	0.00062	0.047
35	3.1	0.29	12.1	78.0	0.018	4.3	0.91	0.17	0.054	1.01	0.011	0.014	0.0017	0.011	0.00069	0.058
36	3.8	0.18	12.8	77.0	0.022	4.1	0.82	0.16	0.051	0.95	0.010	0.013	0.0016	0.010	0.00063	0.044
38	3.0	0.22	11.9	78.4	0.020	4.2	0.81	0.17	0.054	1.01	0.011	0.014	0.0017	0.012	0.00069	0.049
41	3.4	0.17	11.4	78.1	0.034	4.3	1.04	0.41	0.056	1.03	0.011	0.015	0.0018	0.012	0.00078	0.061
43	2.1	0.33	10.6	80.5	0.020	4.3	0.88	0.18	0.054	1.04	0.010	0.013	0.0016	0.011	0.00068	0.046
44	3.5	0.23	13.0	77.1	0.034	4.0	0.80	0.18	0.053	1.03	0.010	0.014	0.0019	0.012	0.00067	0.056
90	3.5	0.16	12.2	78.6	0.017	3.5	0.83	0.13	0.077	0.91	0.007	0.008	0.0026	0.008	0.00069	0.037
91	3.9	0.14	12.8	77.0	0.017	4.7	0.56	0.10	0.076	0.66	0.014	0.005	0.0028	0.008	0.00094	0.024

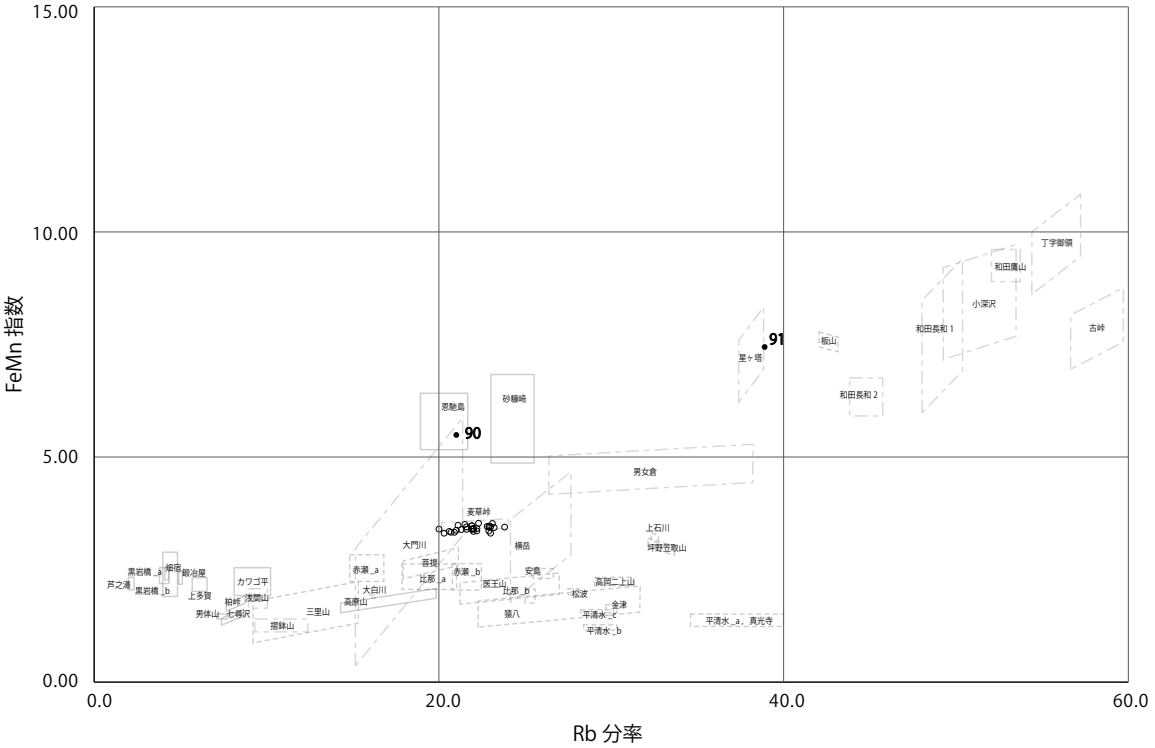
単位は mass%

第 96 表　試料の元素濃度

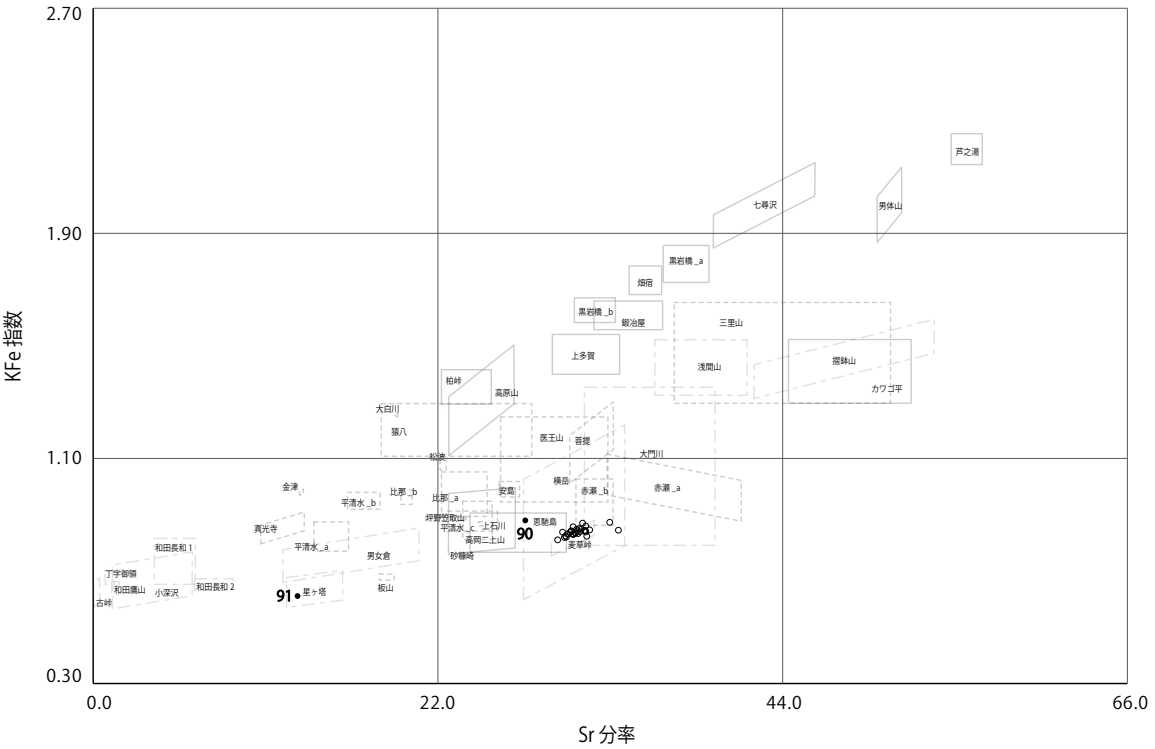
番号	遺構名	注記	黒曜石質量 /g	推定された判別群	図面の番号等
1	TP8	Ka96 TP8-168	41.53	麦草峠	
2	TP8	Ka96 TP8-166	19.64	(麦草峠)	
3	TP8	Ka96 TP8-160	11.25	麦草峠	
4	TP8	Ka96 TP8-140	8.64	大門川（？）	
5	TP8	Ka96 TP8-200	9.82	麦草峠	
6	TP8	Ka96 TP8-440	3.40	麦草峠	
7	TP8	Ka96 TP8-121	2.63	大門川（？）または麦草峠	
8	TP8	Ka96 TP8-165	5.43	麦草峠	第 13 図 4
9	TP8	Ka96 TP8-162	5.26	麦草峠	第 13 図 2
10	TP8	Ka96 TP8-170	10.13	麦草峠	
11	TP8	Ka96 TP8-164	34.55	麦草峠	第 15 図 11
12	TP8	Ka96 TP8-460	17.07	麦草峠	第 16 図 17
13	TP8	Ka96 TP8-169	49.71	麦草峠	第 15 図 12
14	TP8	Ka96 TP8-193	8.08	麦草峠	第 13 図 3
15	TP8	Ka96 TP8-146-2	18.67	麦草峠	第 16 図 14
16	TP8	Ka96 TP8-78	13.45	(麦草峠)	第 14 図 8
17	TP8	Ka96 TP8-148	0.59	麦草峠	
22	TP8	Ka96 TP8-135	0.69	(麦草峠)	
26	TP8	Ka96 TP8-103	1.03	麦草峠	
27	TP8	Ka96 TP8-96	0.62	(麦草峠)	
28	TP8	Ka96 TP8-206	0.69	(麦草峠)	
29	TP8	Ka96 TP8-201	1.00	大門川（？）	
32	TP8	Ka96 TP8-446	0.76	大門川（？）	
34	TP8	Ka96 TP8-98	0.53	(麦草峠)	
35	TP8	Ka96 TP8-95	1.12	麦草峠	
36	TP8	Ka96 TP8-99	0.61	麦草峠	
38	TP8	Ka96 TP8-70	1.07	(麦草峠)	
41	TP8	Ka96 TP8-459	0.68	麦草峠	
43	TP8	Ka96 TP8-153	0.78	(麦草峠)	
44	TP8	Ka96 TP8-156	0.75	(麦草峠)	
90	TP11	Ka96 TP11- カ	0.97	恩馳島	
91	4J	Ka96 4J-31	0.76	(星ヶ塔)	第 33 図 8

注：括弧なしは判定プログラムの結果、括弧つきは分析者が推定した判別群。

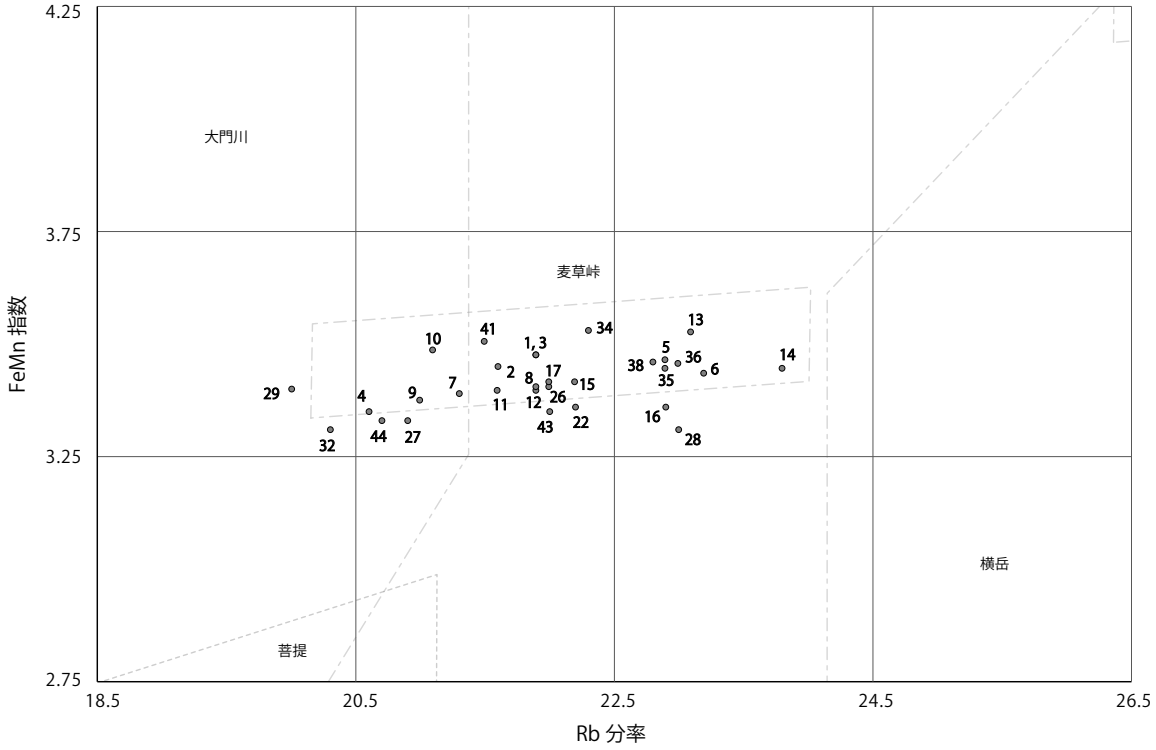
第 97 表　推定された判別群



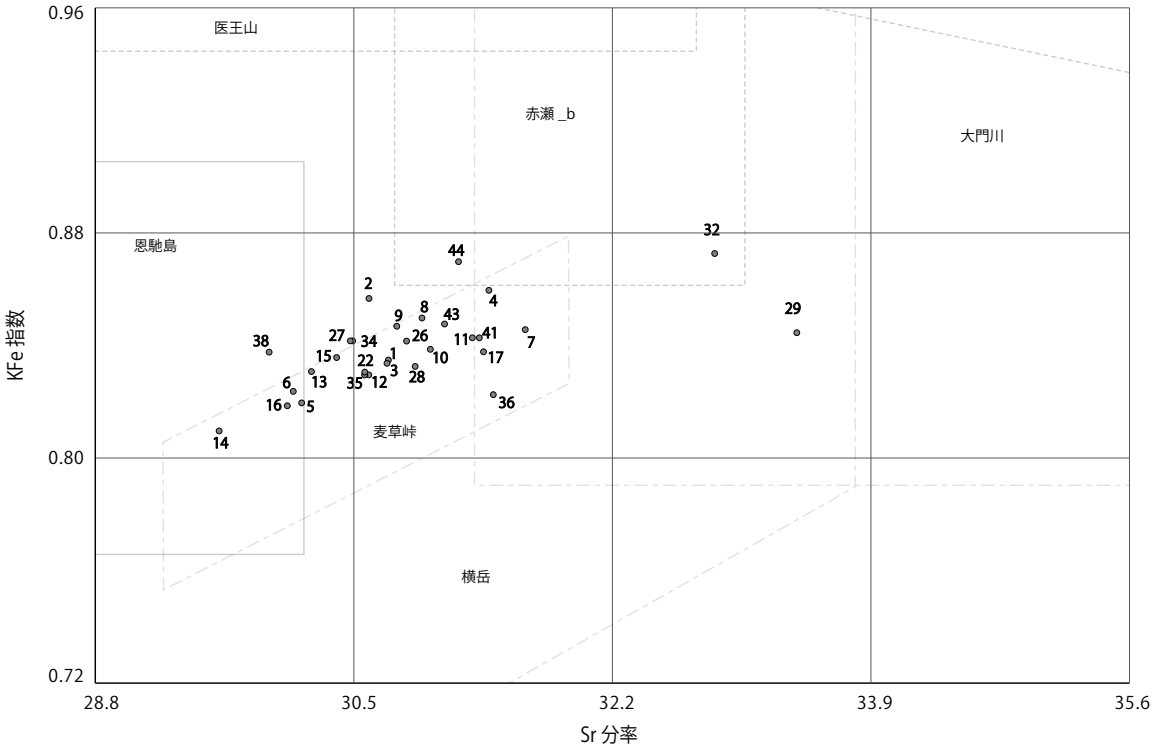
第 216 図　望月ダイアグラム（Rb 分率図／城山遺跡　第 96 地点）



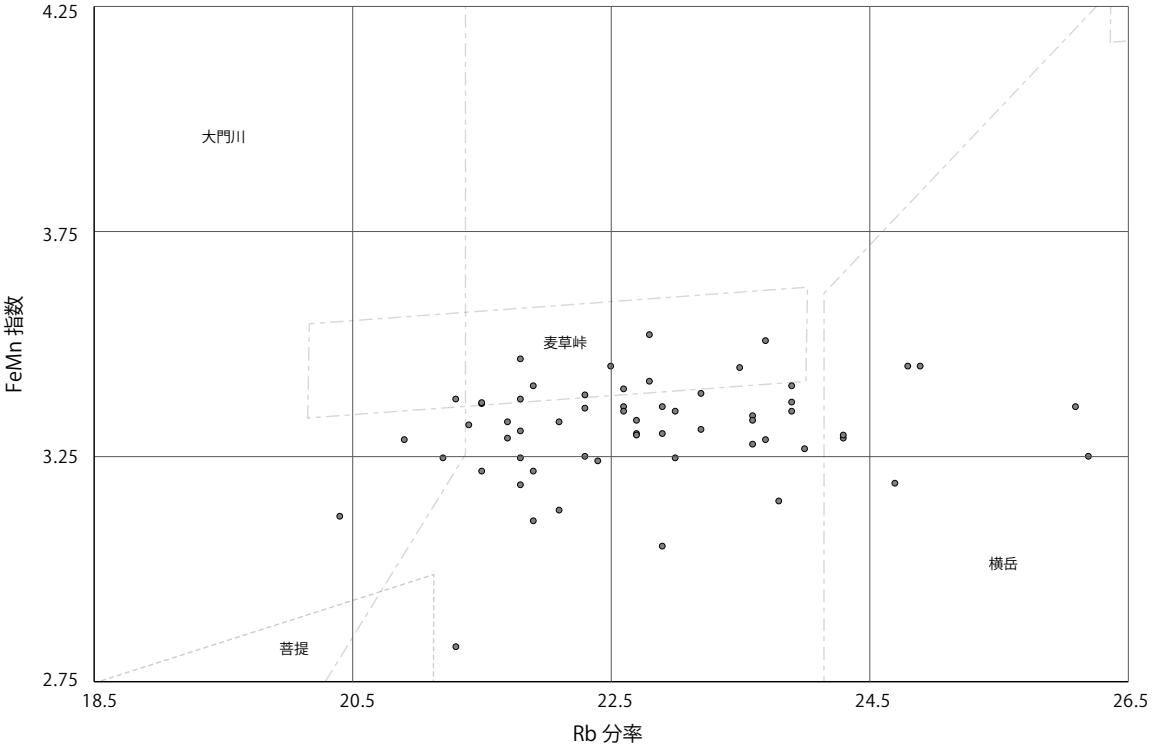
第 217 図　望月ダイアグラム（Rb 分率図／城山遺跡　第 96 地点）



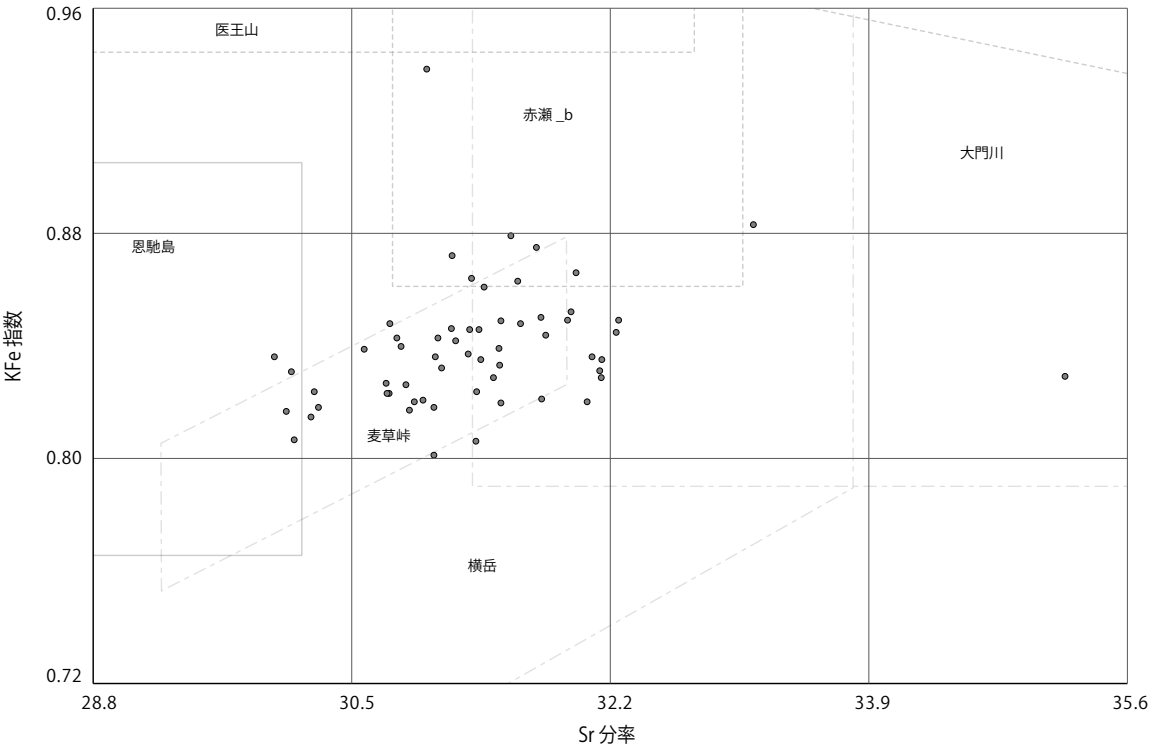
第 218 図　望月ダイアグラム（Rb 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）



第 219 図　望月ダイアグラム（Sr 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）



第 220 図　望月ダイアグラム（Rb 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）



第 221 図　望月ダイアグラム（Sr 分率拡大図／城山遺跡　第 96 地点）

図　　版

図版1

1．ＴＰ１北壁（南から）

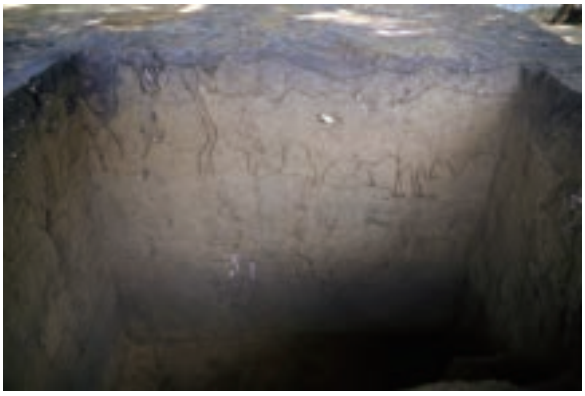
2．ＴＰ１西壁（東から）

3．ＴＰ２北壁（南から）

4．ＴＰ２東壁（西から）

5．ＴＰ３北壁（南から）

6．ＴＰ３西壁（東から）



7．ＴＰ４北壁（南から）

8．ＴＰ４西壁（東から）

図版2

1．ＴＰ５北壁（南から）

2．ＴＰ５西壁（東から）

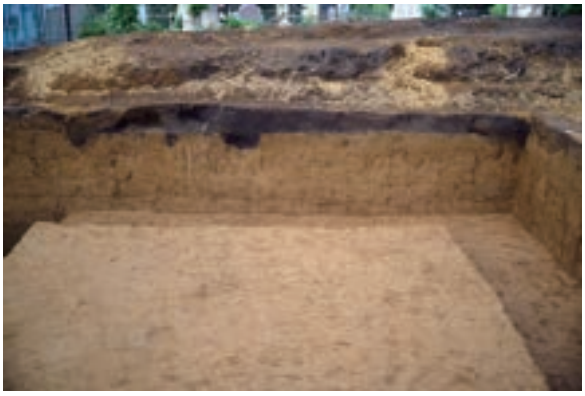
3．ＴＰ６北壁（南から）

4．ＴＰ６東壁（西から）

5．ＴＰ７北壁（南から）

6．ＴＰ７西壁（東から）

7．ＴＰ８北壁西側（南から）



8．ＴＰ８北壁東側（南から）

1．ＴＰ８西壁北側（東から）

2．ＴＰ８西壁中の南壁（北から）

3．ＴＰ８西壁南側（東から）

4．ＴＰ８東壁（西から）

5．ＴＰ９北壁（南から）

6．ＴＰ９西壁（東から）

7．ＴＰ 10 北壁（南から）

8．ＴＰ 10 西壁（東から）

図版4

1．ＴＰ 11 北壁（南から）

2．ＴＰ 11 東壁（西から）

3．ＴＰ 12 北壁（南から）

4．ＴＰ 12 西壁（東から）

5．ＴＰ２遺物出土状態（北から）

6．ＴＰ２遺物出土状態（西から）

7．ＴＰ７遺物出土状態（東から）

8．ＴＰ７遺物出土状態（北東から）

1．ＴＰ８　９号石器集中地点・10 号礫群（南から）

2．ＴＰ８　９号石器集中地点・10 号礫群（南西から）

3．ＴＰ８　10 号礫群（南から）

4．ＴＰ８　10 号礫群北側（東から）

5．ＴＰ８　10 号礫群東側（東から）

図版6

1．ＴＰ８　10 号礫群南側（南から）

2．ＴＰ８　10 号石器集中地点（南から）

3．ＴＰ８　10 号石器集中地点（東から）

4．ＴＰ８　11 号石器集中地点・11 号礫群（南東から）

5．ＴＰ８　11 号石器集中地点・11 号礫群（東から）

1．４号住居跡（西から）

2．４号住居跡掘方（西から）

3．４号住居跡炉跡（北から）

4．４号住居跡炉跡燃焼面（北から）

5．５号住居跡（南から）

6．５号住居跡掘方（南から）

7．５号住居跡遺物出土状態（西から）

8．５号住居跡遺物出土状態（南から）

図版8

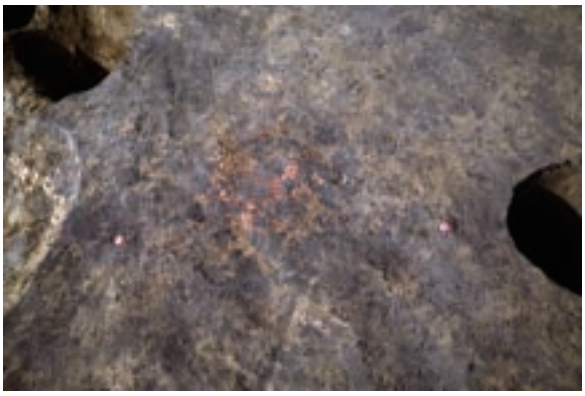
1．６号住居跡 (南から)

2．６号住居跡遺物出土状態（南から）

3．６号住居跡遺物出土状態（北から）

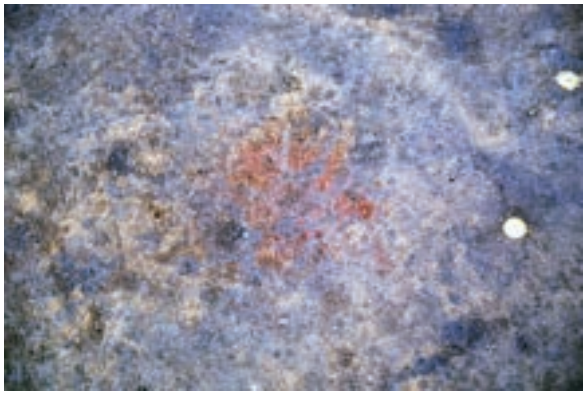
4．６号住居跡遺物出土状態（東から）

5．６号住居跡炉跡（南から）



6．６号住居跡焼土 (南から)

7．７号住居跡（南から）



8．７号住居跡炉跡（南から）

1．７号住居跡貝・遺物出土状態（南から）

2．７号住居跡遺物出土状態（南東から）

3．７号住居跡貝出土状態（南東から）

4．７号住居跡貝層断面（東から）

5．８号住居跡（東から）

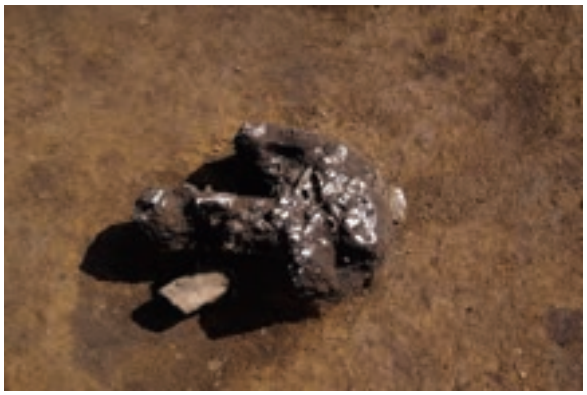
6．８号住居跡貝・遺物出土状態（東から）

7．８号住居跡貝・遺物出土状態（南から）

8．８号住居跡貝出土状態（東から）

図版10

1．８号住居跡貝出土状態（西から）



2．８号住居跡貝出土状態（西から）

3．９号住居跡（南東から）

4．９号住居跡掘方（南東から）

5．９号住居跡炉跡（南東から）

6．９号住居跡遺物出土状態（南東から）

7．９号住居跡遺物出土状態（南東から）

8．９号住居跡遺物出土状態（南西から）

1．９号住居跡遺物出土状態（東から）

2．９号住居跡遺物出土状態（南西から）

3．９号住居跡Ｐ１貝出土状態（南東から）

4．９号住居跡Ｐ２貝出土状態（南東から）

5．10 号住居跡（西から）

6．10 号住居跡炉跡（南東から）

7．11・13 号住居跡（西から）

8．14 号住居跡（西から）

図版12

1．12 号住居跡（西から）

2．12 号住居跡貝出土状態（西から）

3．12 号住居跡遺物出土状態（北から）

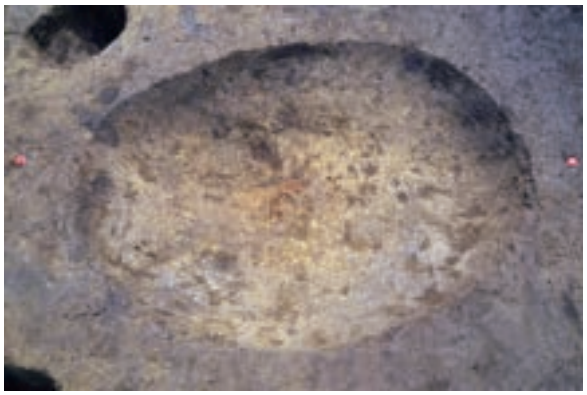
4．12 号住居跡遺物出土状態（南から）

5．６号集石礫出土状態（南から）

6．６号集石（南から）

7．７号集石礫出土状態（南西から）

8．７号集石（南西から）



1．18 号炉穴（南から）

2．19 号炉穴（北から）

3．20 号炉穴（南東から）

4．21 号炉穴（北東から）

5．22 号炉穴（北西から）

6．1086 号土坑（南から）

7．1095 号土坑（南から）

8．1095 号土坑遺物出土状態（南から）

図版14

1．1096 号土坑・1097 号土坑（西から）

2．1103 号土坑（東から）

3．1104 号土坑（南から）

4．1105 号土坑（南から）

5．1107 号土坑（北から）

6．1114 号土坑（南から）

7．1116 号土坑（南西から）

8．1117 号土坑（西から）

1．1121 号土坑（南から）

2．1125 号土坑（北東から）

3．1127 号土坑（北から）

4．1128 号土坑（東から）

5．1129 号土坑（東から）

6．1130 号土坑・187 号ピット（東から）

7．1131 号土坑（北西から）

8．189 号ピット遺物出土状態（南から）

図版16

1．８号住居跡（南から）

2．８号住居跡掘方（南から）

3．８号住居跡炭化物・遺物出土状態（南から）

4．８号住居跡炭化物出土状態（北東から）

5．９号住居跡（南東から）

6．９号住居跡掘方（南東から）

7．９号住居跡遺物出土状態（南から）

8．９号住居跡炭化物出土状態（南東から）

1．10 号住居跡（南西から）

2．10 号住居跡掘方（南西から）

3．10 号住居跡炉跡（南西から）

4．10 号住居跡焼土検出状況（南西から）

5．10 号住居跡貯蔵穴（東から）

6．10 号住居跡遺物出土状態（東から）

7．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）

8．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）

図版18

1．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）

2．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）

3．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）

4．10 号住居跡遺物出土状態（北西から）

5．10 号住居跡遺物出土状態（南東から）

6．10 号住居跡遺物出土状態（西から）

7．10 号住居跡遺物出土状態（北から）

8．10 号住居跡遺物出土状態（南から）

1．10 号住居跡遺物出土状態（西から）

2．10 号住居跡遺物出土状態（東から）

3．10 号住居跡遺物出土状態（南から）

4．10 号住居跡遺物出土状態（南西から）

5．10 号住居跡炭化物出土状態（南から）

6．10 号住居跡遺物出土状態（北から）

7．10 号住居跡遺物出土状態（北から）

8．10 号住居跡遺物出土状態（東から）

図版20

1．11 号住居跡（南から）

2．11 号住居跡掘方（南から）

3．11 号住居跡遺物出土状態（南から）

4．11 号住居跡遺物出土状態（東から）

5．1 号方形周溝墓（南から）

1．301 号住居跡（南から）

2．301 号住居跡掘方（南から）

3．301 号住居跡遺物出土状態（南から）

4．301 号住居跡遺物出土状態（南から）

5．301 号住居跡カマド（南から）

6．301 号住居跡カマド掘方（南から）

7．302 号住居跡（北西から）

8．302 号住居跡掘方（北西から）

図版22

1．302 号住居跡遺物出土状態（北西から）

2．302 号住居跡遺物出土状態（東から）

3．303 号住居跡（南西から）

4．303 号住居跡掘方（南西から）

5．303 号住居跡遺物出土状態（南東から）

6．303 号住居跡遺物出土状態（南から）

7．303 号住居跡カマド（南東から）

8．303 号住居跡カマド掘方（南東から）

1．304 号住居跡（東から）

2．304 号住居跡焼土・炭化物・遺物出土状態（東から）

3．304 号住居跡焼土･炭化物出土状態（西から）

4．304 号住居跡炭化物出土状態（北から）

5．304 号住居跡炭化物出土状態（東から）

6．304 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

7．304 号住居跡カマド（南から）

8．304 号住居跡カマド掘方（南から）

図版24

1．305 号住居跡（東から）

2．305 号住居跡掘方（東から）

3．305 号住居跡ローム検出状況（東から）

4．305 号住居跡遺物出土状態（北東から）

5．305 号住居跡カマド（南から）

6．305 号住居跡カマド掘方（南から）

7．306 号住居跡（南から）

8．306 号住居跡掘方（南から）

1．306 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．306 号住居跡遺物出土状態（南西から）

3．306 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

4．306 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

5．306 号住居跡カマド（南から）

6．306 号住居跡カマド掘方（南から）

7．308 号住居跡（南から）

8．308 号住居跡掘方（南から）

図版26

1．308 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．308 号住居跡遺物出土状態（東から）

3．308 号住居跡カマド（南から）

4．308 号住居跡カマド掘方（南から）

5．309 号住居跡（南東から）

6．309 号住居跡掘方（南東から）

7．309 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

8．309 号住居跡遺物出土状態（南から）

1．309 号住居跡カマド（南西から）

2．309 号住居跡カマド掘方（南西から）

3．311 号住居跡（南から）

4．311 号住居跡掘方（南から）

5．311 号住居跡遺物出土状態（南から）

6．311 号住居跡遺物出土状態（東から）

7．311 号住居跡遺物出土状態（西から）

8．311 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

1．311 号住居跡カマド（南から）

2．311 号住居跡カマド掘方（南から）

3．311 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

4．311 号住居跡生粘土断面（南西から）

5．312 号住居跡（西から）

6．312 号住居跡掘方（西から）

7．312 号住居跡遺物出土状態（西から）

8．312 号住居跡遺物出土状態（南西から）

1．312 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（西から）

2．312 号住居跡カマド遺物出土状態(南西から)

3．312 号住居跡カマド（西から）

4．312 号住居跡カマド掘方（西から）

5．313 号住居跡（南から）

6．313 号住居跡掘方（南から）

7．313 号住居跡遺物出土状態（南から）

8．311 号住居跡遺物出土状態（南東から）

図版30

1．313 号住居跡カマド（南から）

2．313 号住居跡カマド掘方（南から）

3．314 号住居跡（南から）

4．314 号住居跡掘方（南から）

5．314 号住居跡遺物出土状態（南から）

6．314 号住居跡遺物出土状態（南から）

7．314 号住居跡遺物出土状態（西から）

8．314 号住居跡カマド遺物出土状態(南西から)

1．314 号住居跡カマド（南から）

2．314 号住居跡カマド掘方（南から）

3．315 号住居跡（南から）

4．315 号住居跡遺物出土状態（南から）

5．315 号住居跡遺物出土状態（西から）

図版32

1．315 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．315 号住居跡遺物出土状態（東から）

3．315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

4．315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

5．315 号住居跡カマド（南から）

6．315 号住居跡カマド掘方（南から）

7．315 号住居跡カマド遺物出土状態（南から）

8．315 号住居跡生粘土断面（東から）

1．316 号住居跡（南から）

2．316 号住居跡掘方（南から）

3．316 号住居跡遺物出土状態（東から）

4．316 号住居跡遺物出土状態（北から）

5．317 号住居跡（南から）

6．317 号住居跡掘方（南から）

7．317 号住居跡遺物出土状態（北から）

8．317 号住居跡炉跡Ａ・炉跡Ｂ（南から）

図版34

1．317 号住居跡カマドＡ（南から）

2．317 号住居跡カマドＡ掘方（南から）

3．317 号住居跡カマドＢ（西から）

4．317 号住居跡カマドＢ掘方（西から）

5．318 号住居跡（北から）

6．318 号住居跡掘方（北東から）

7．318 号住居跡遺物出土状態（北東から）

8．318 号住居跡遺物出土状態（東から）

1．319 号住居跡（南東から）

2．319 号住居跡掘方（南東から）

3．319 号住居跡遺物出土状態（南東から）

4．319 号住居跡遺物出土状態（北東から）

5．319 号住居跡生粘土・遺物出土状態
（北東から）

6．319 号住居跡遺物出土状態（東から）

7．319 号住居跡カマド（南東から）

8．319 号住居跡カマド掘方（南東から）

1．320 号住居跡（南から）

2．320 号住居跡
粘土・山砂・遺物出土状態（南から）

3．320 号住居跡粘土・遺物出土状態（南から）

4．320 号住居跡生粘土断面（南西から）

5．321 号住居跡（南から）

6．321 号住居跡
貯蔵穴遺物出土状態（南から）

7．321 号住居跡カマド（南から）

8．321 号住居跡カマド掘方（南から）

1．300 号住居跡（南から）

2．300 号住居跡掘方（南から）

3．300 号住居跡遺物出土状態（南から）

4．300 号住居跡遺物出土状態（西から）

5．307 号住居跡（南から）

6．307 号住居跡掘方（南から）

7．307 号住居跡遺物出土状態（南から）

8．307 号住居跡遺物出土状態（東から）

図版38

1．307 号住居跡硬化ローム検出状況（南から）

2．307 号住居跡Ｐ１断面（南から）

3．307 号住居跡カマド（南から）

4．307 号住居跡カマド掘方（南から）

5．310 号住居跡（南から）

6．310 号住居跡カマド遺物出土状態（北から）

7．310 号住居跡カマド（西から）

8．310 号住居跡カマド掘方（西から）

1．68 号溝跡Ｃ・Ｄグリッド（東から）

2．68 号溝跡Ｅグリッド（東から）

3．68 号溝跡Ｆグリッド（東から）

4．68 号溝跡Ｈ～Ｋグリッド（西から）

5．69 号溝跡Ｄ・Ｅグリッド（東から）

6．69 号溝跡Ｆ～Ｋグリッド（西から）

7．３号道路状遺構Ｂ～Ｆグリッド（東から）

8．３号道路状遺構Ｇ～Ｋグリッド（西から）

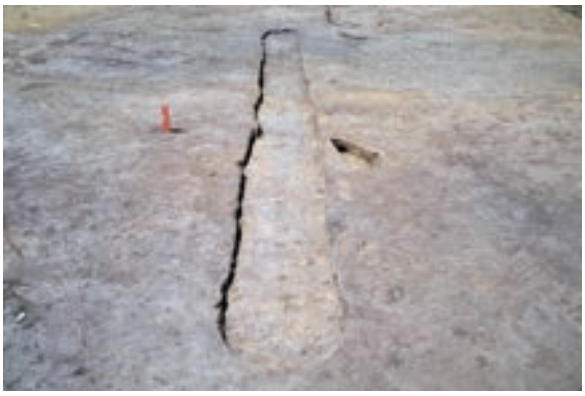
図版40

1．1090 号土坑硬化面検出状況（南から）

2．1090 号土坑（南から）

3．1092 号土坑（南から）

4．1109 ～ 1113 号土坑・145 号ピット（南から）



5．1077 号土坑（南から）

6．1078 号土坑（西から）

7．1084 号土坑（南から）

8．1089 号土坑（南から）

1．1098 号土坑（南から）

2．1075・1079・1080・1081 号土坑（南から）

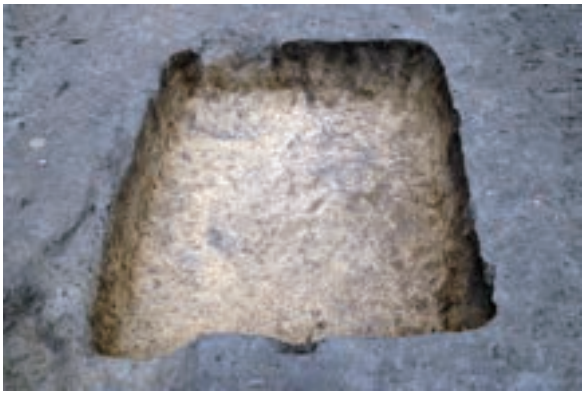
3．1076 号土坑（東から）

4．1083 号土坑（北から）

5．1085 号土坑（南から）

6．1087 号土坑（南から）

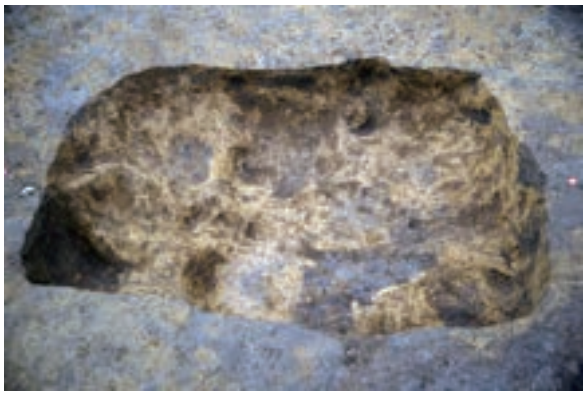
7．1088 号土坑（西から）



8．1091 号土坑（南から）

図版42

1．1093 号土坑（南から）



2．1118 号土坑（南から）

3．1120 号土坑（東から）

4．1124 号土坑（東から）

5．1126 号土坑（西から）

6．1074 号土坑（南東から）

7．1122 号土坑（東から）

8．1082 号土坑（北から）

1．1094 号土坑（北から）

2．1099 号土坑（南から）

3．1100 号土坑焼土検出状況（東から）

4．1100 号土坑（東から）

5．1101 号土坑焼土検出状況（南から）

6．1101 号土坑（南から）

7．1102 号土坑（南から）

8．1106 号土坑・141 号ピット（南から）

図版44

1．1108 号土坑（南から）

2．1115 号土坑（南西から）

3．1123 号土坑（東から）

4．1073 号土坑検出状況（南から）

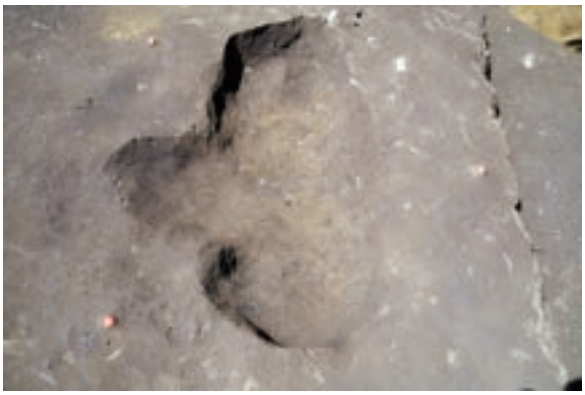
5．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）

6．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）

7．1073 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態（南から）

8．1073 号土坑焼土・炭化物出土状態（南から）

1．1073 号土坑焼土検出状況（南から）



2．1073 号土坑（南から）

3．1119 号土坑検出状況（南から）

4．1119 号土坑骨・焼土・炭化物出土状態
（南から）

5．1119 号土坑骨・炭化物出土状態（南から）

6．1119 号土坑（南から）

7．縄文時代遺構外遺物（168）出土状態
（北東から）

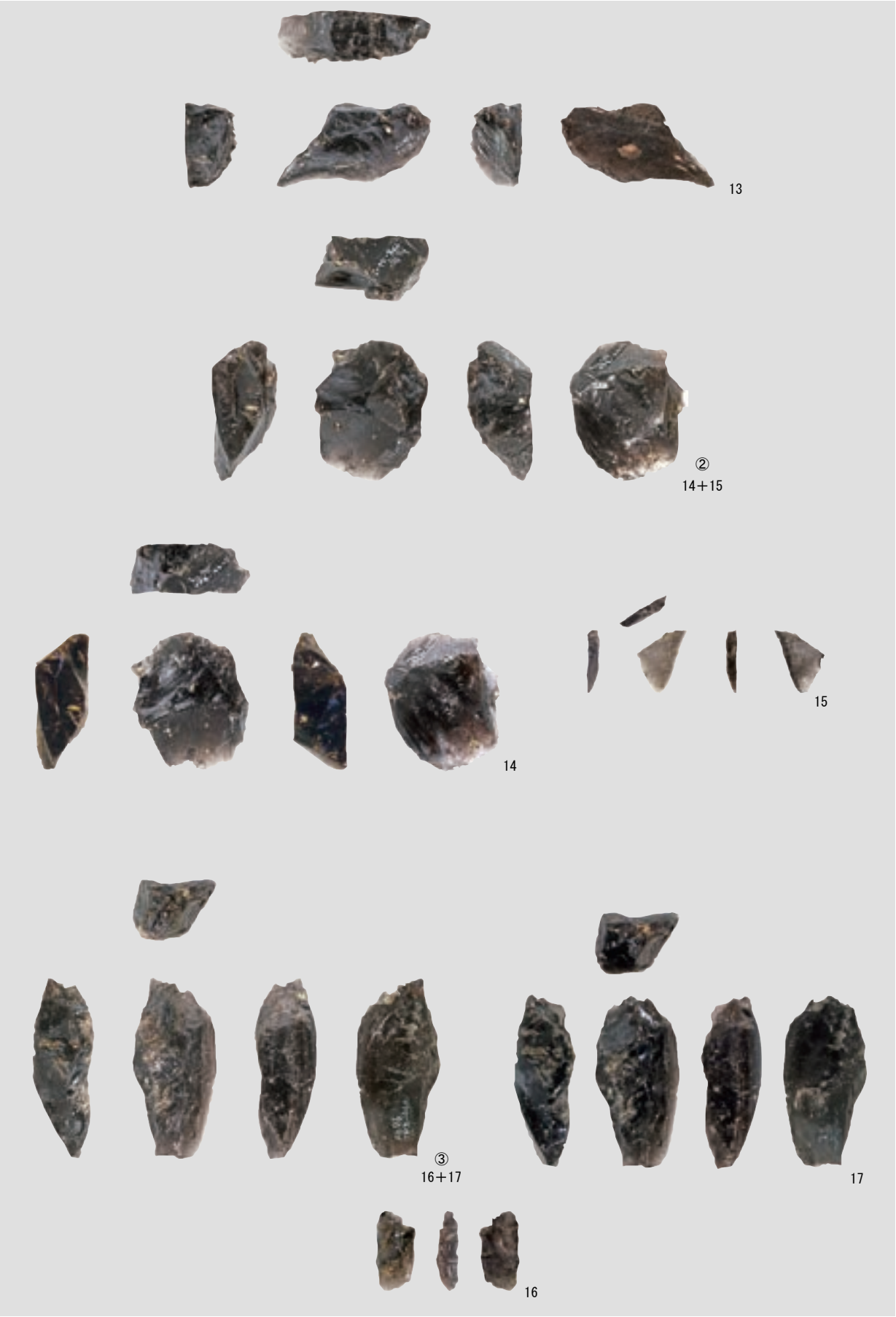
8．弥生時代中期～古墳時代前期
遺構外遺物（５）出土状態（東から）

図版46

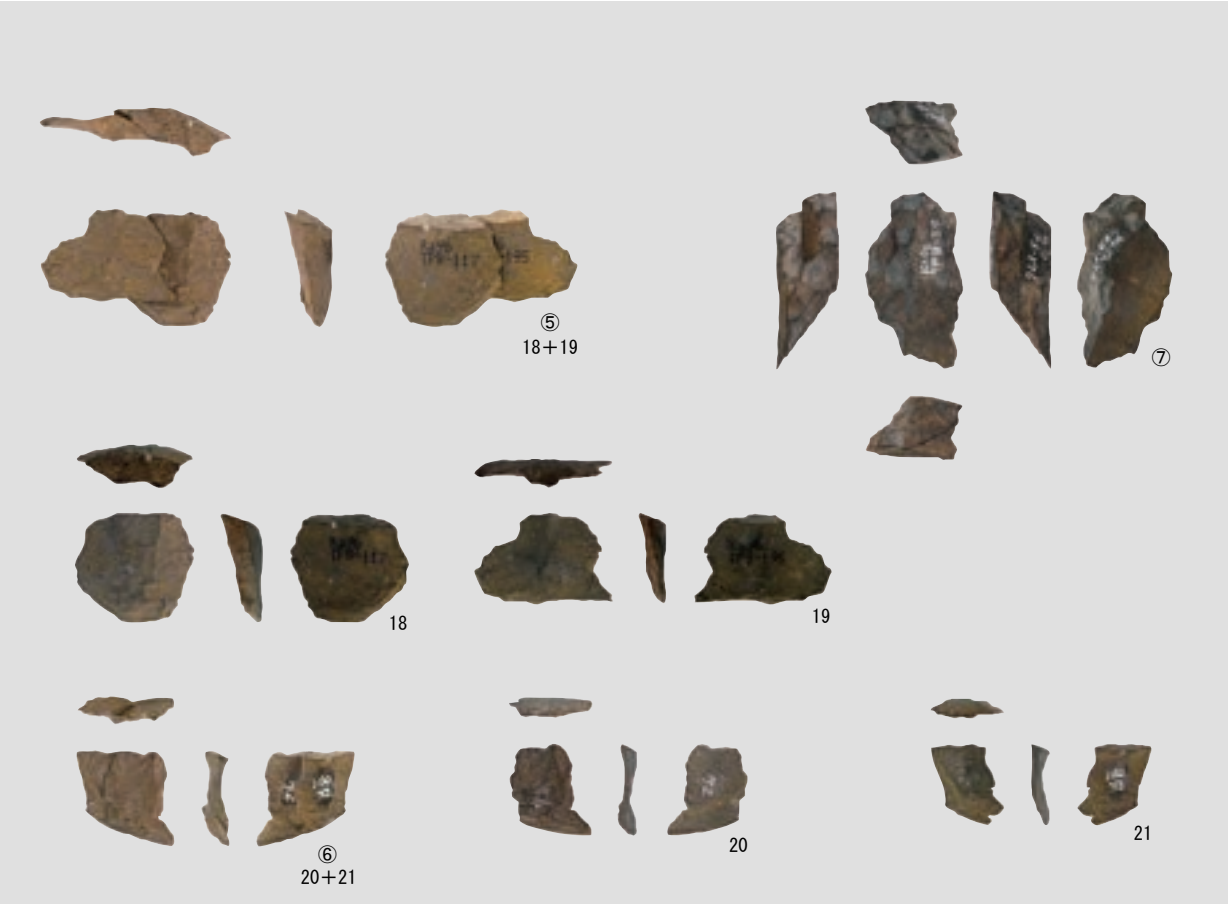
9号石器集中地点出土遺物1

9号石器集中地点出土遺物2

図版48



9号石器集中地点出土遺物3

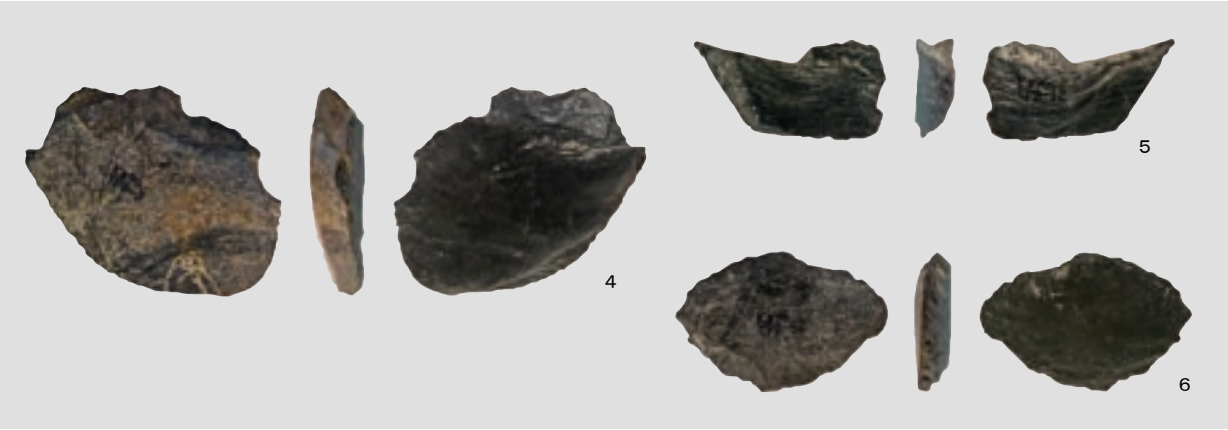


1．９号石器集中地点出土遺物４

2．10 号石器集中地点出土遺物１

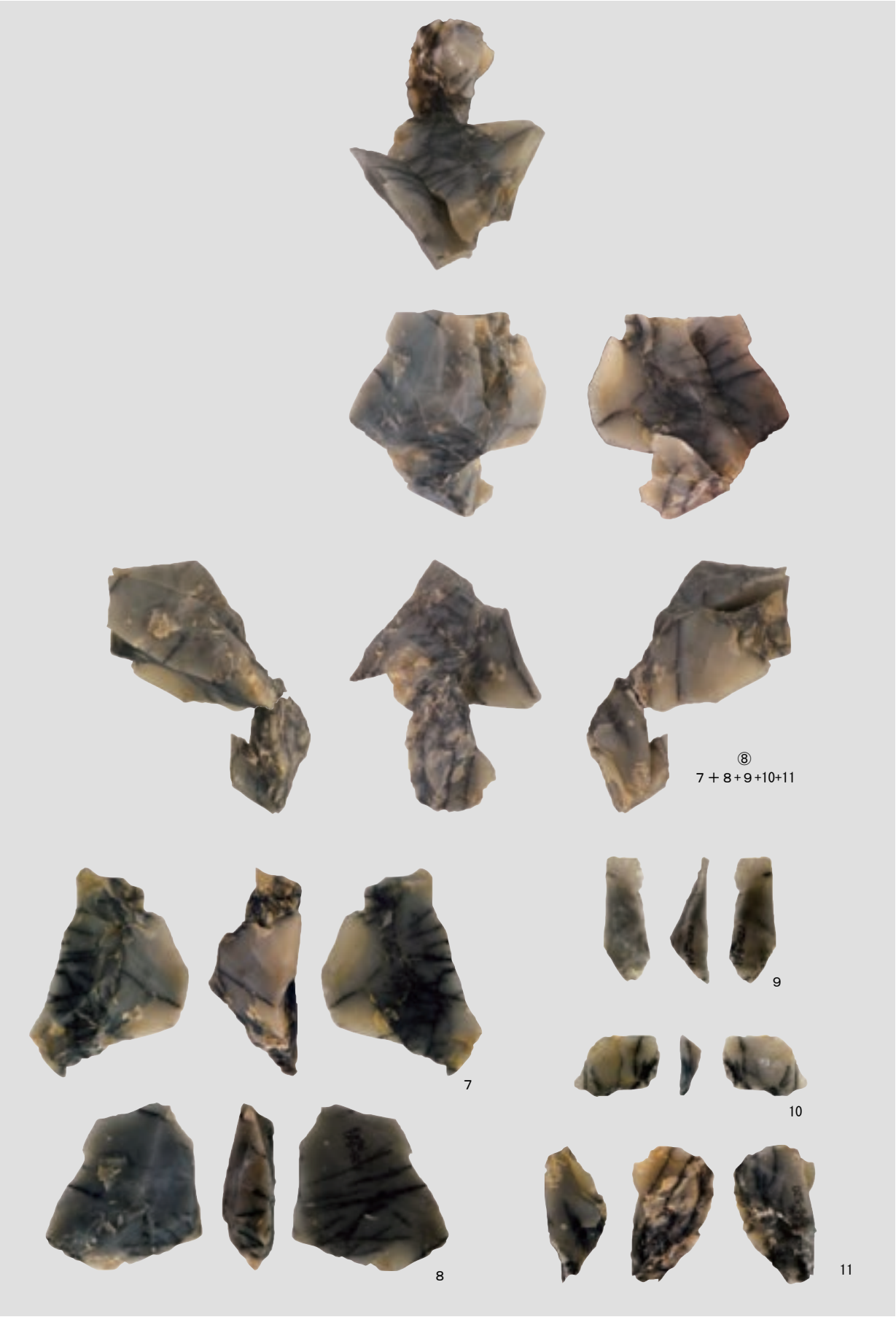
図版50

10 号石器集中地点出土遺物 2



1．10 号石器集中地点出土遺物 3

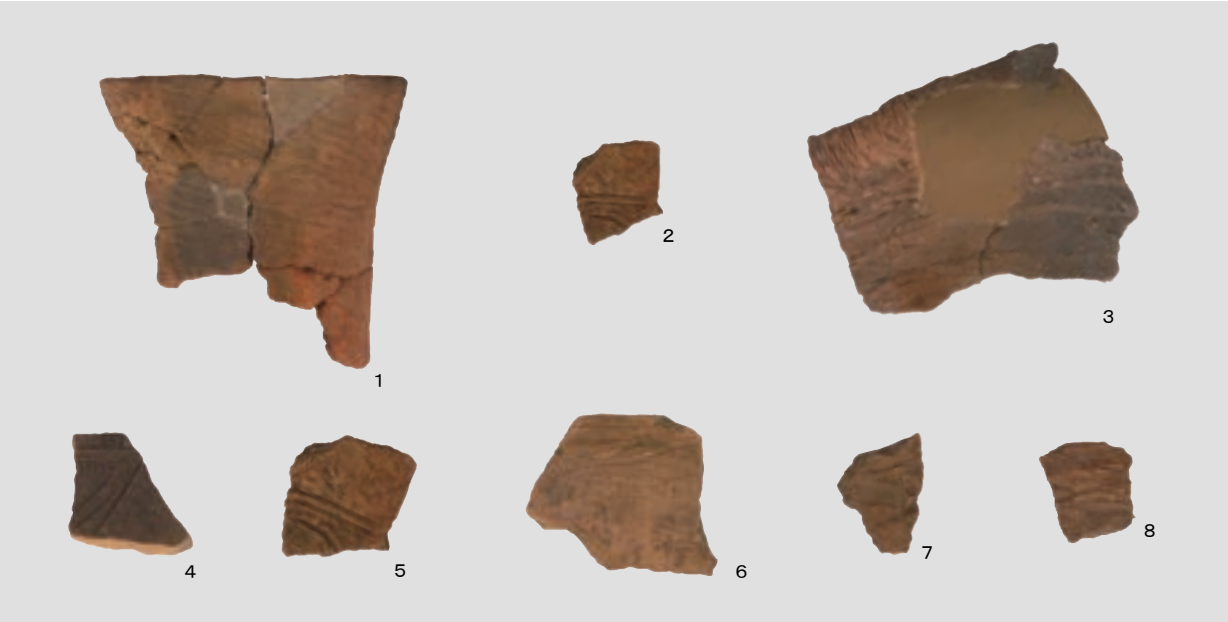
2．11 号石器集中地点出土遺物 1



11 号石器集中地点出土遺物２

１．旧石器時代遺構外出土遺物

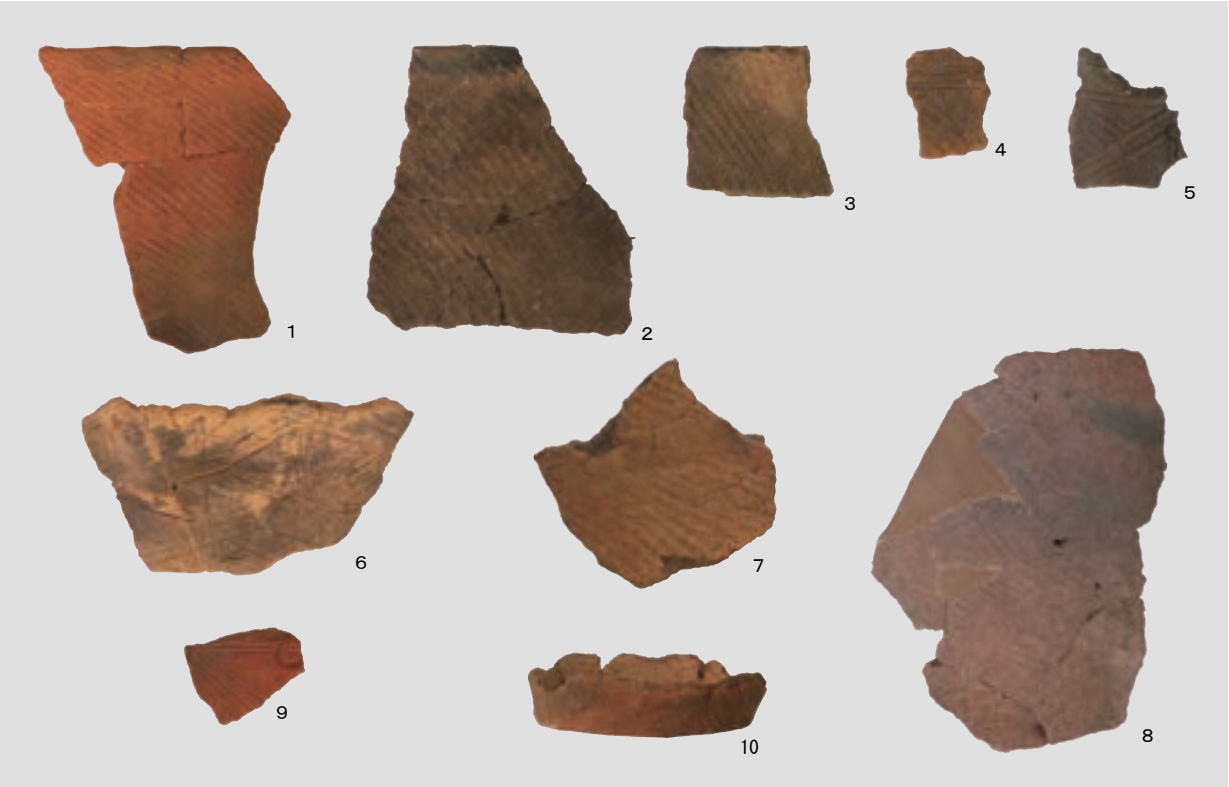
２．４号住居跡出土遺物



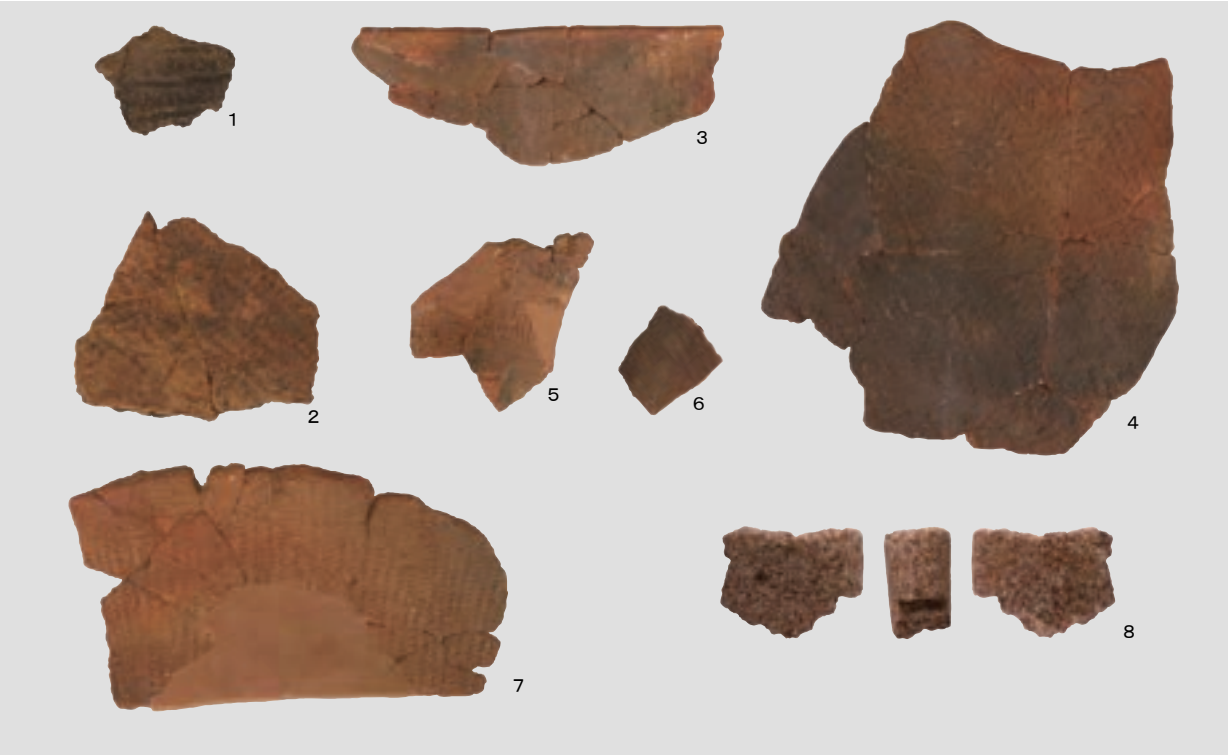
３．５号住居跡出土遺物

図版54

1．６号住居跡出土遺物



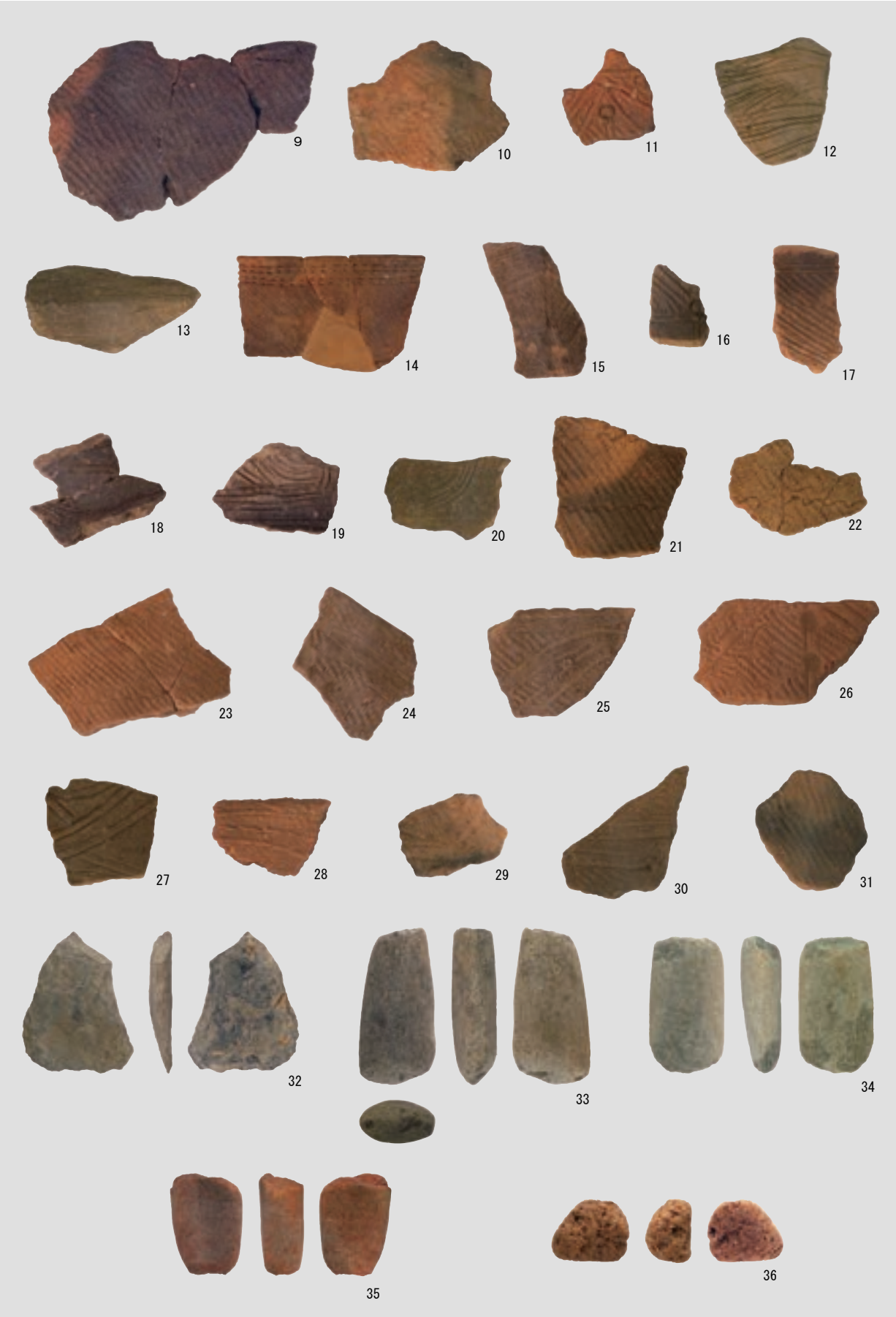
2．７号住居跡出土遺物



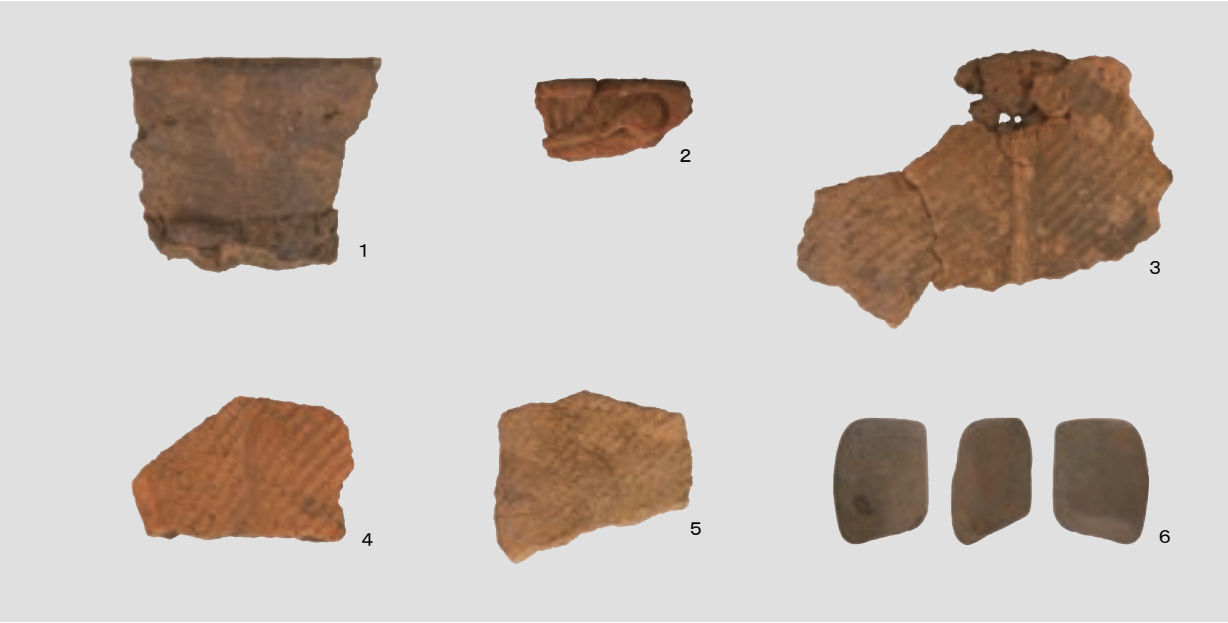
1．８号住居跡出土遺物

2．９号住居跡出土遺物１

図版56



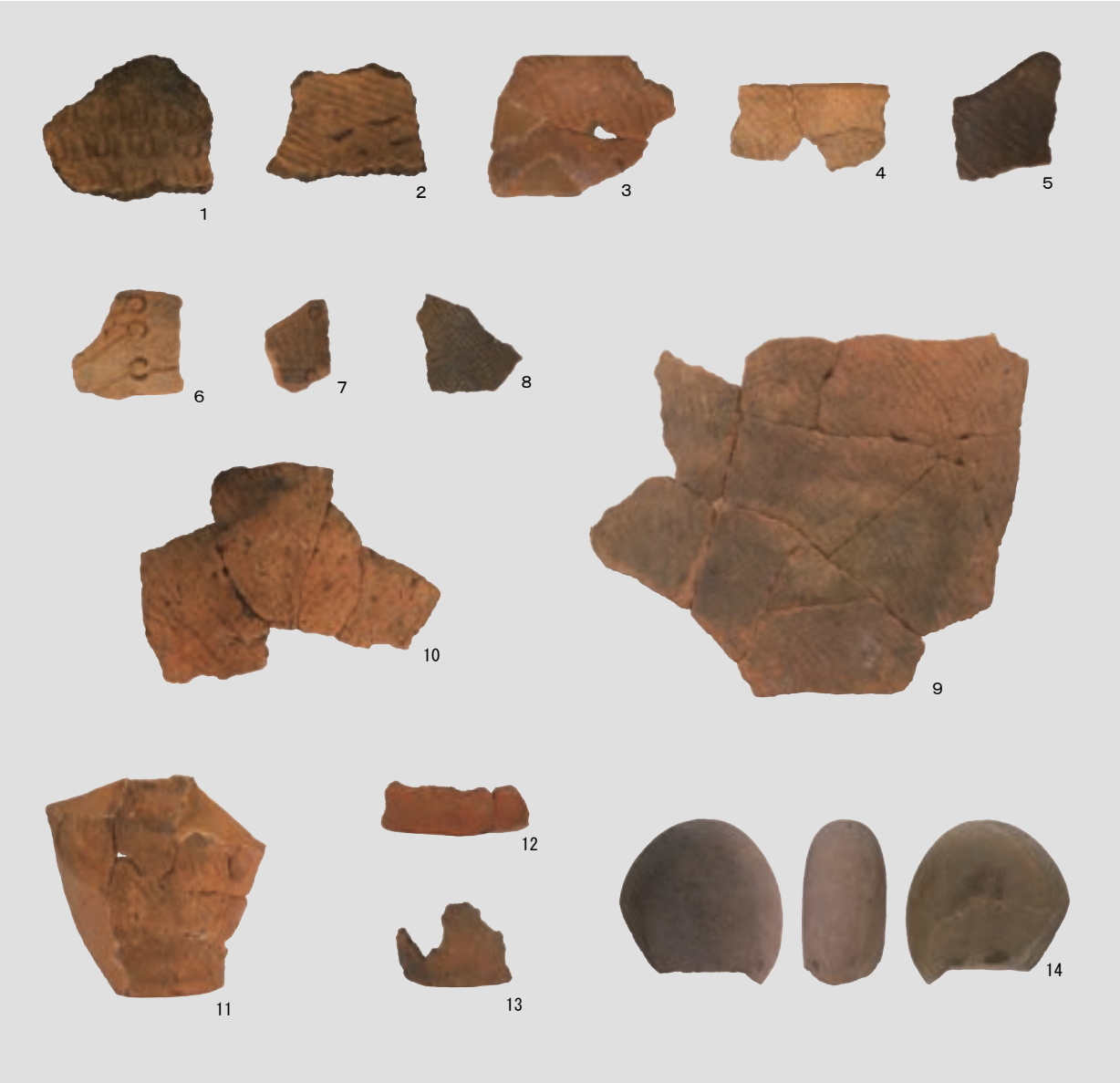
9号住居跡出土遺物２



1．10 号住居跡出土遺物

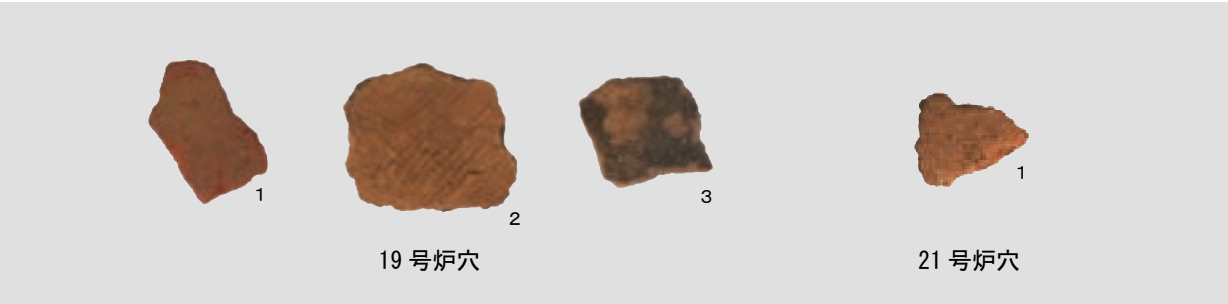
2．11・13・14 号住居跡出土遺物

図版58



1．12号住居跡出土遺物

2．6号集石出土遺物



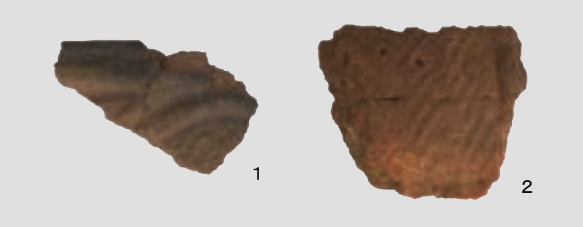
3．炉穴出土遺物

1．1095 号土坑出土遺物

2．1096 号土坑出土遺物

3．1097 号土坑出土遺物

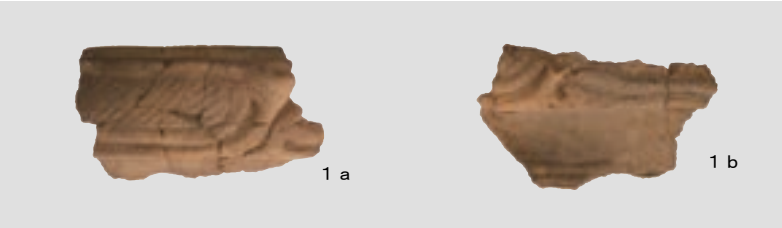
4．1121 号土坑出土遺物



6．1127 号土坑出土遺物

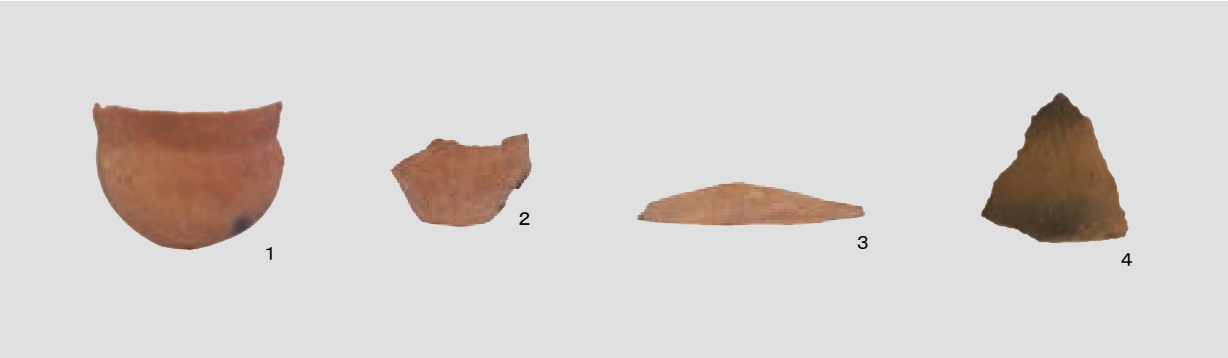
5．1125 号土坑出土遺物

7．1131 号土坑出土遺物

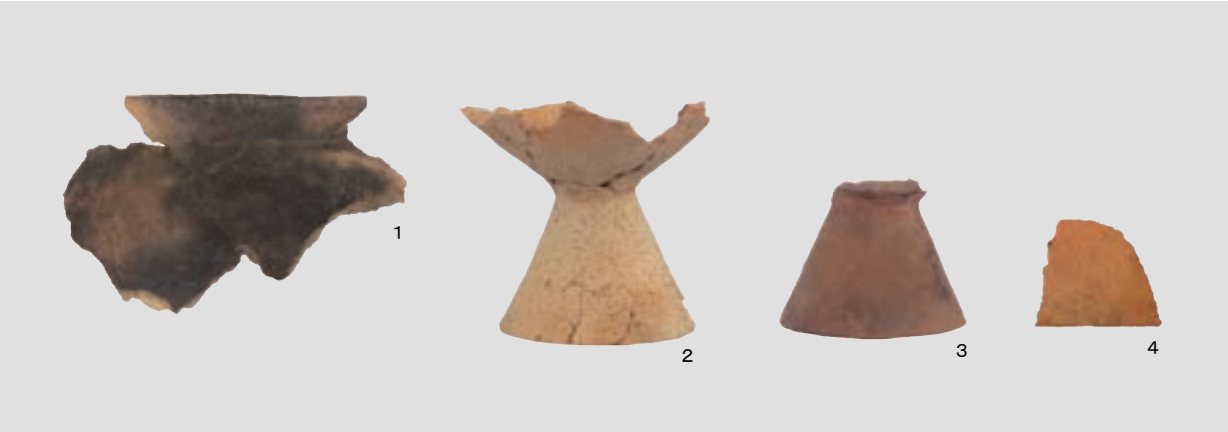


8．189 号ピット出土遺物

図版60



1．８号住居跡出土遺物



2．９号住居跡出土遺物

3．10 号住居跡出土遺物 1

10 号住居跡出土遺物 2

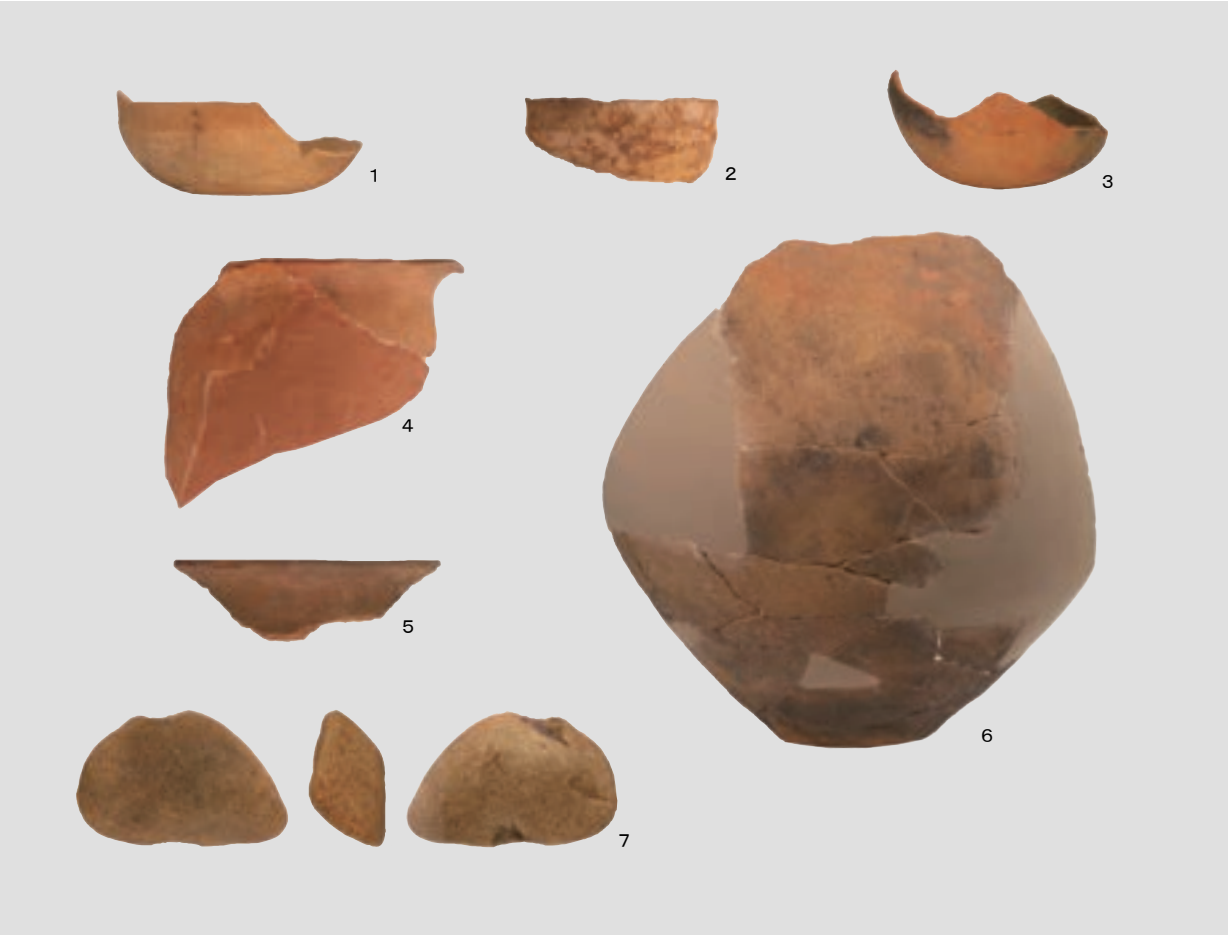
図版62

10 号住居跡出土遺物 3

10 号住居跡出土遺物 4

図版64

1．11 号住居跡出土遺物



2．301 号住居跡出土遺物

303 号住居跡出土遺物

図版66

304 号住居跡出土遺物 1

304 号住居跡出土遺物 2

1．305 号住居跡出土遺物

2．306 号住居跡出土遺物 1

306 号住居跡出土遺物 2

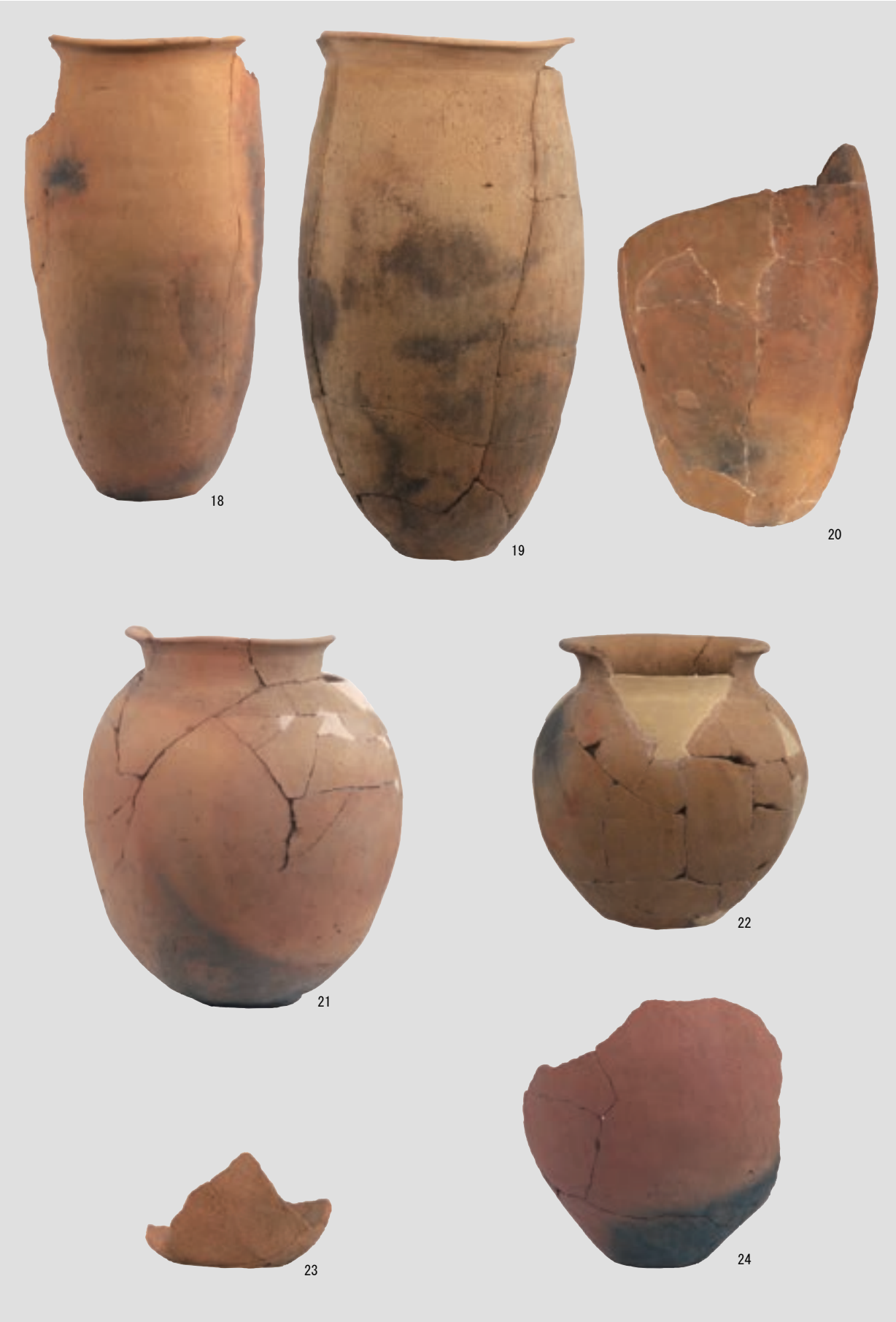
306 号住居跡出土遺物 3

1．308 号住居跡出土遺物

2．309 号住居跡出土遺物

図版72

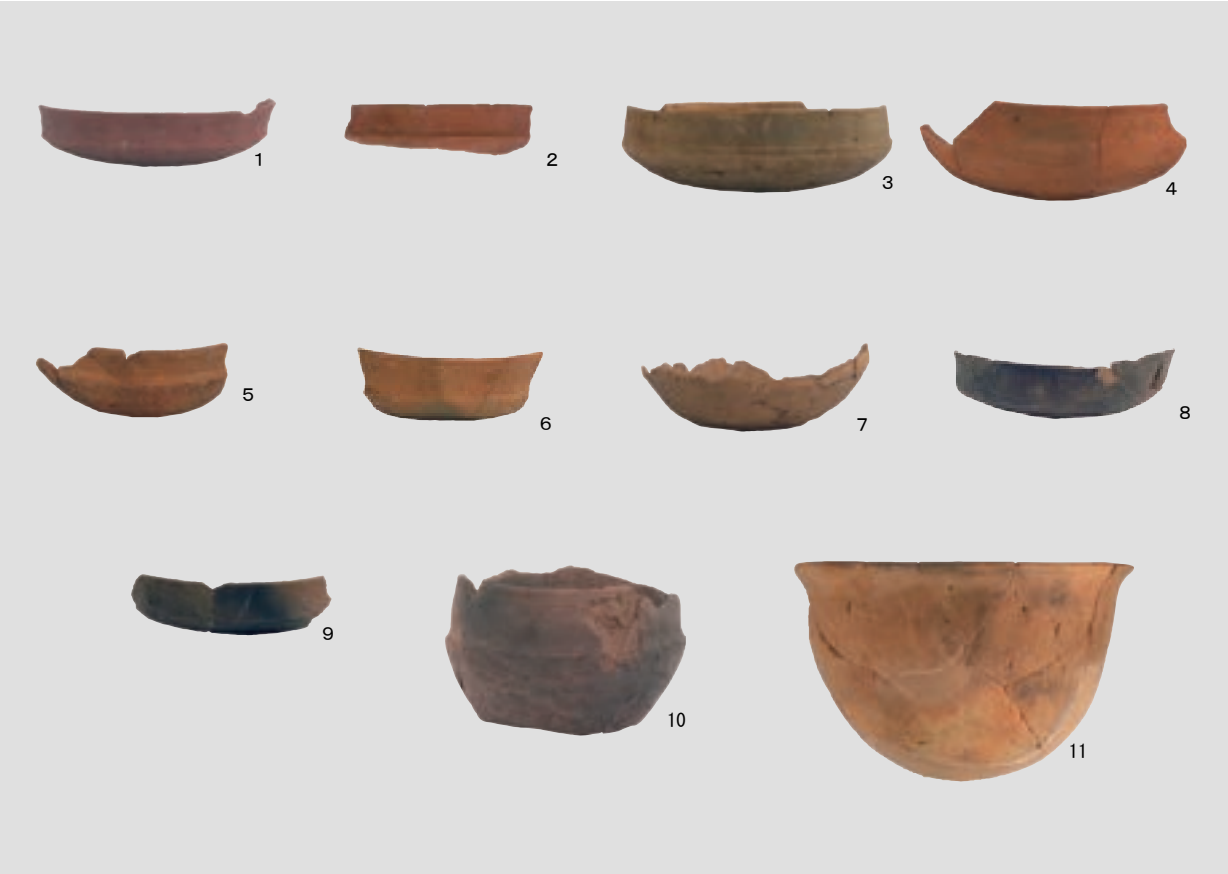
311 号住居跡出土遺物 1



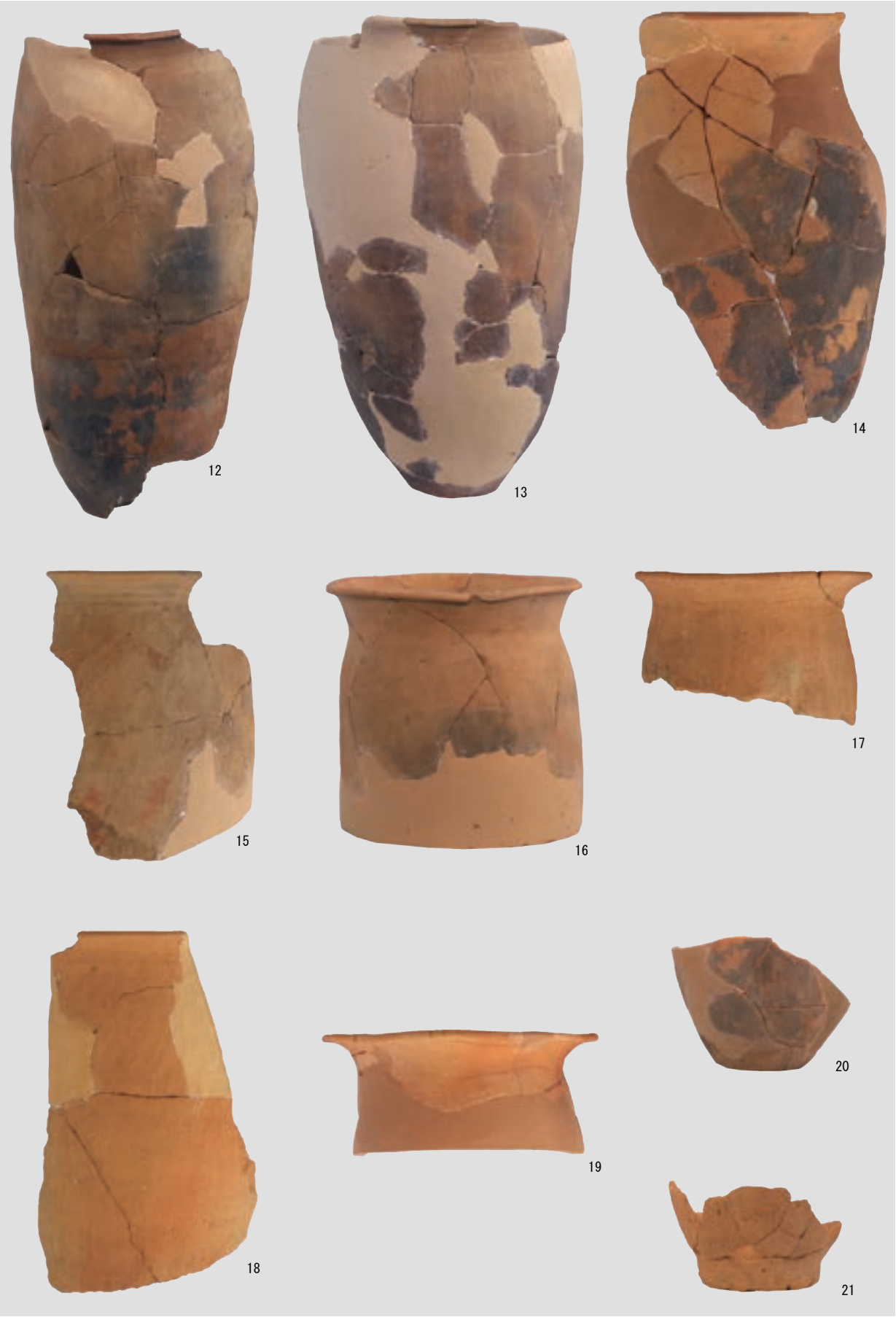
311 号住居跡出土遺物 2

311 号住居跡出土遺物３

1．312 号住居跡出土遺物



2．313 号住居跡出土遺物 1



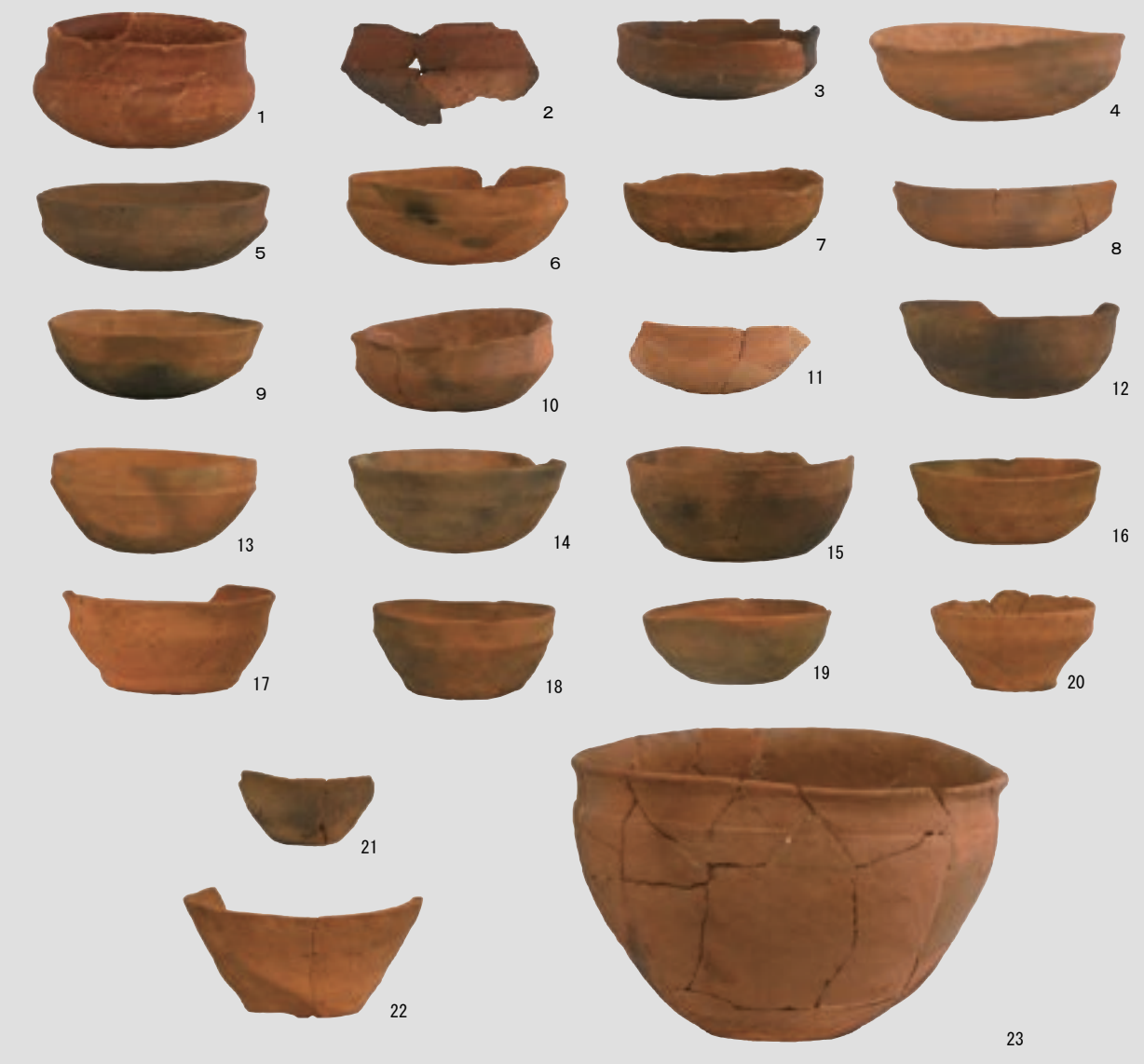
313 号住居跡出土遺物 2

313 号住居跡出土遺物 3

図版78

314 号住居跡出土遺物 1

1．314 号住居跡出土遺物 2



2．315 号住居跡出土遺物 1

図版80

315 号住居跡出土遺物 2

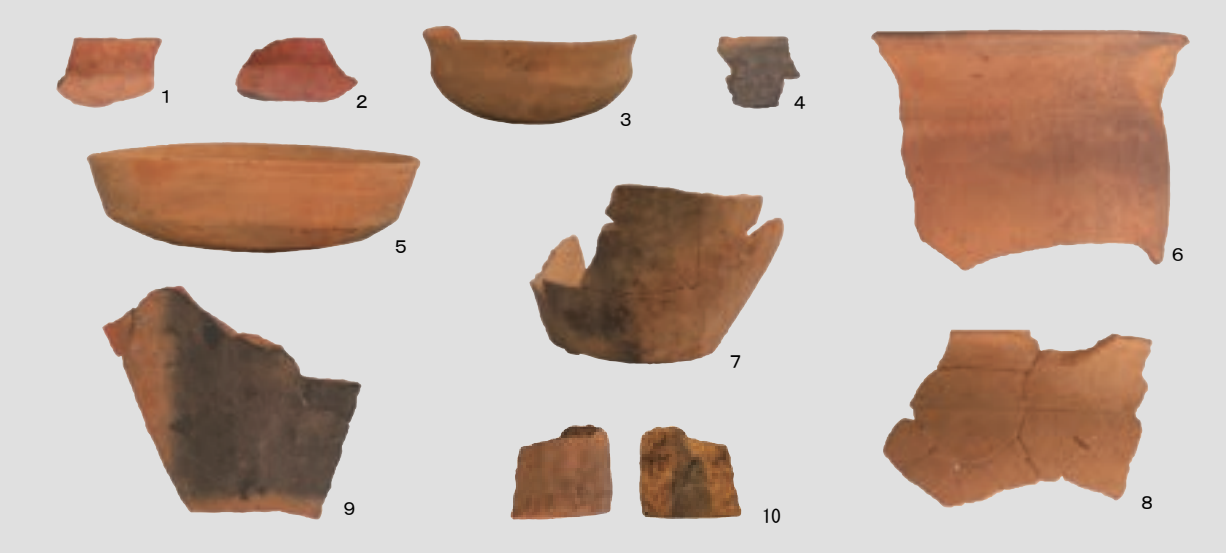
315 号住居跡出土遺物 3

図版82

315 号住居跡出土遺物 4

1．316 号住居跡出土遺物

2．317 号住居跡出土遺物

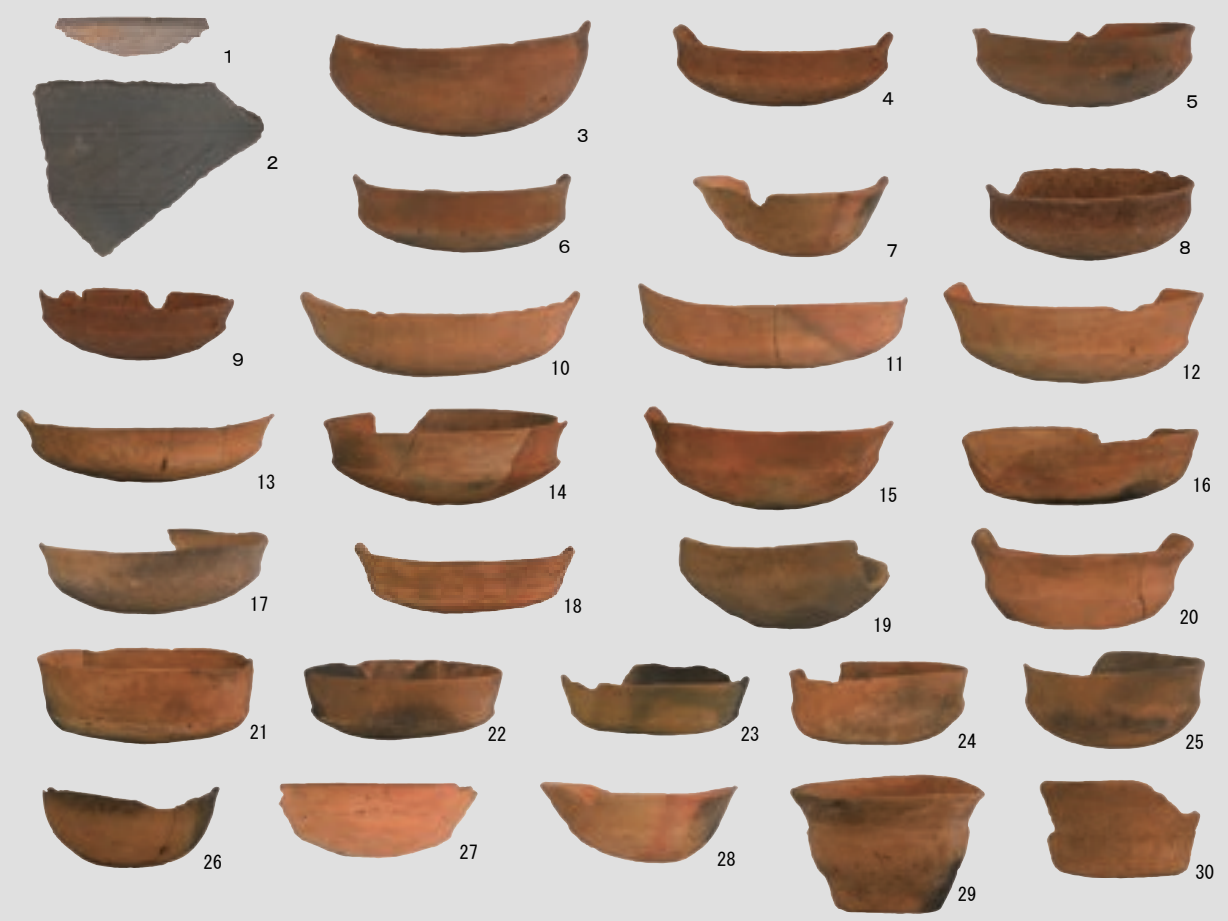


2．318 号住居跡出土遺物

図版84

319 号住居跡出土遺物

1．320 号住居跡出土遺物



2．321 号住居跡出土遺物 1

図版86

321 号住居跡出土遺物 2

321 号住居跡出土遺物 3

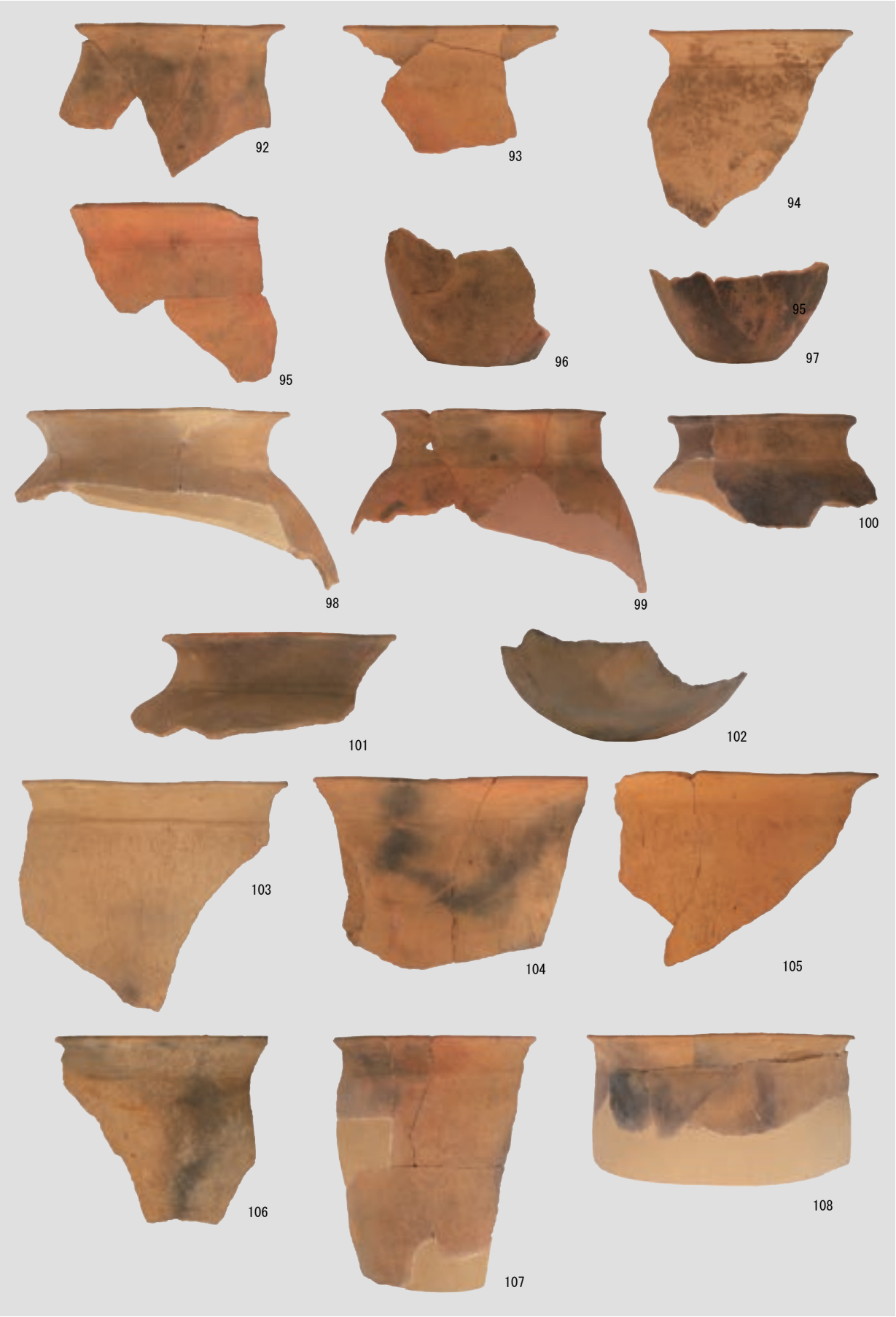
321 号住居跡出土遺物 4

321 号住居跡出土遺物 5

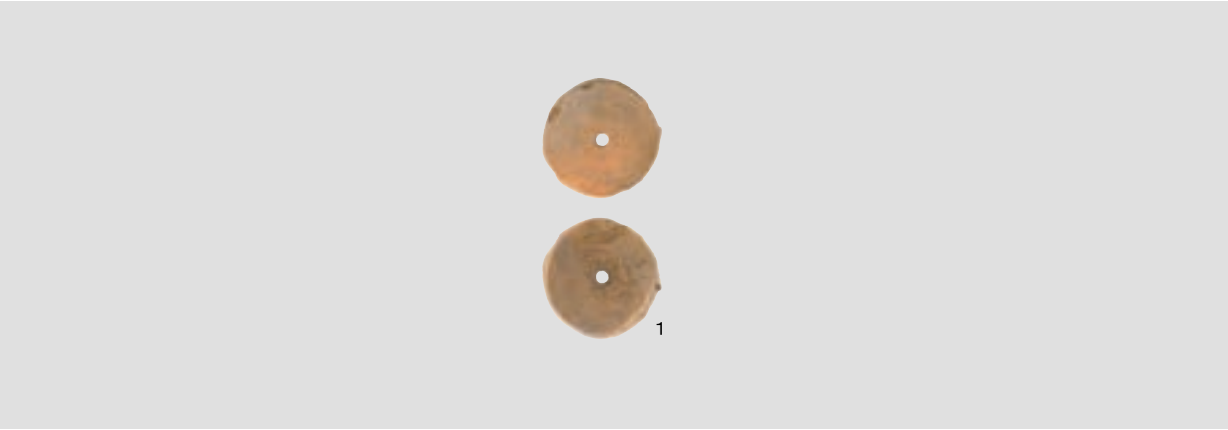
321 号住居跡出土遺物 6

321 号住居跡出土遺物 7

図版92

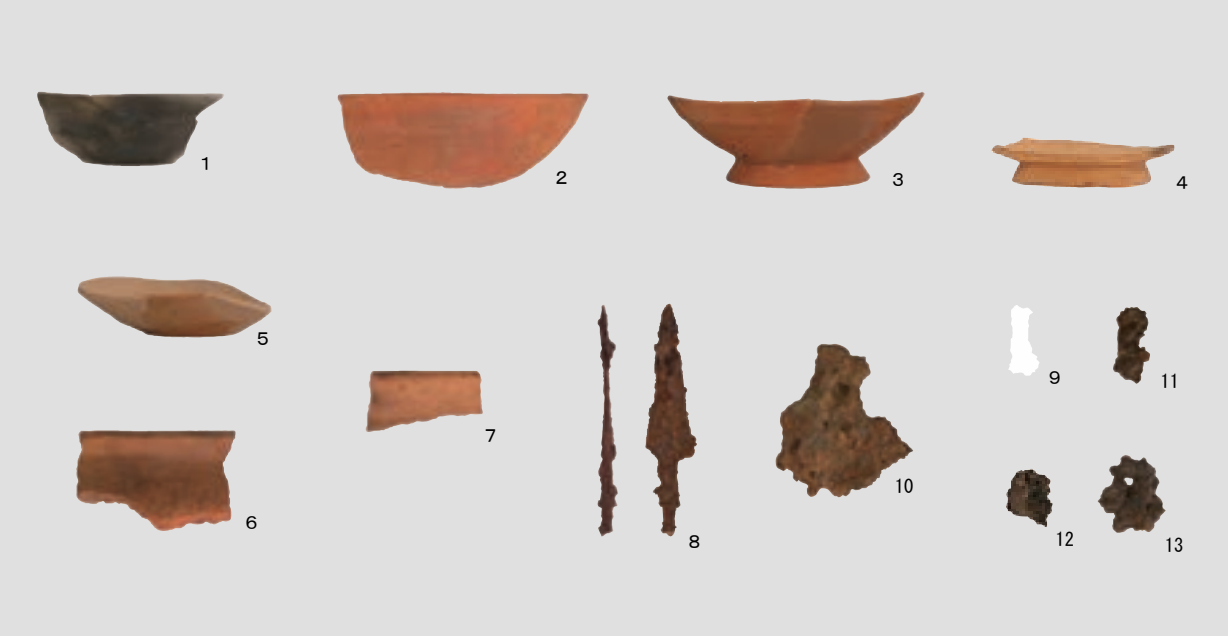


321 号住居跡出土遺物 8



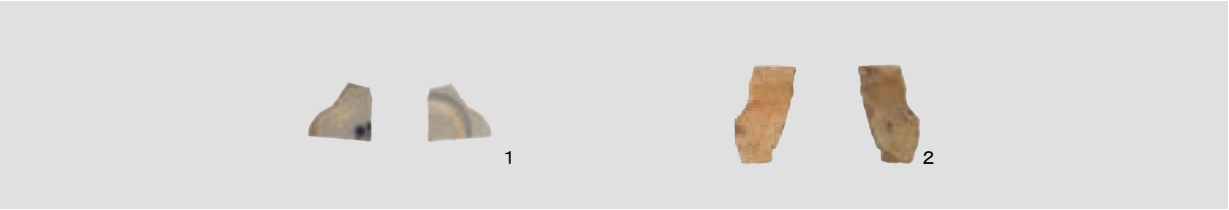
1．300 号住居跡出土遺物

2．307 号住居跡出土遺物

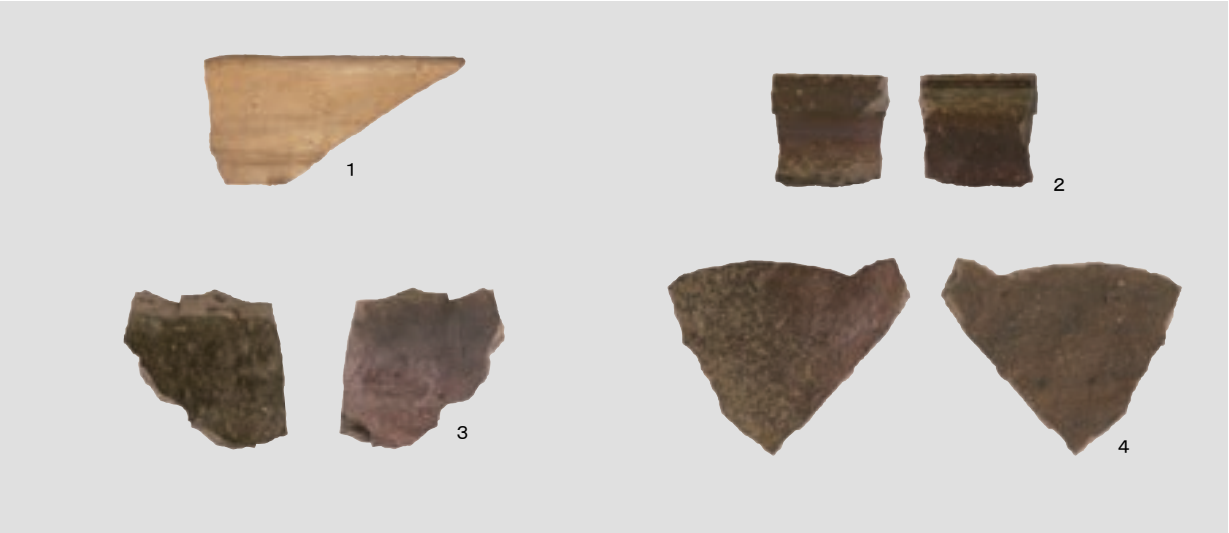


3．310 号住居跡出土遺物

図版94

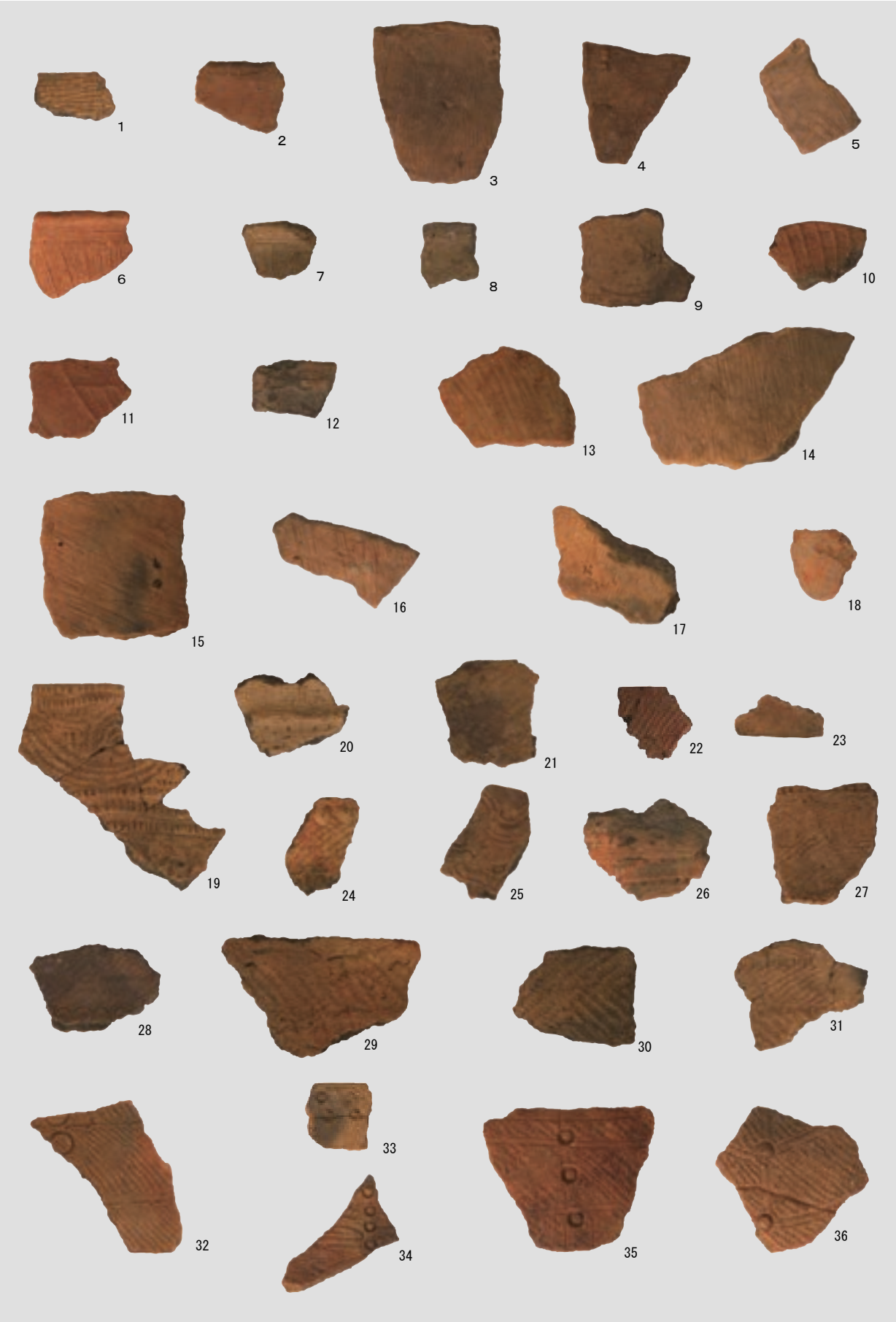


1．68 号溝跡出土遺物

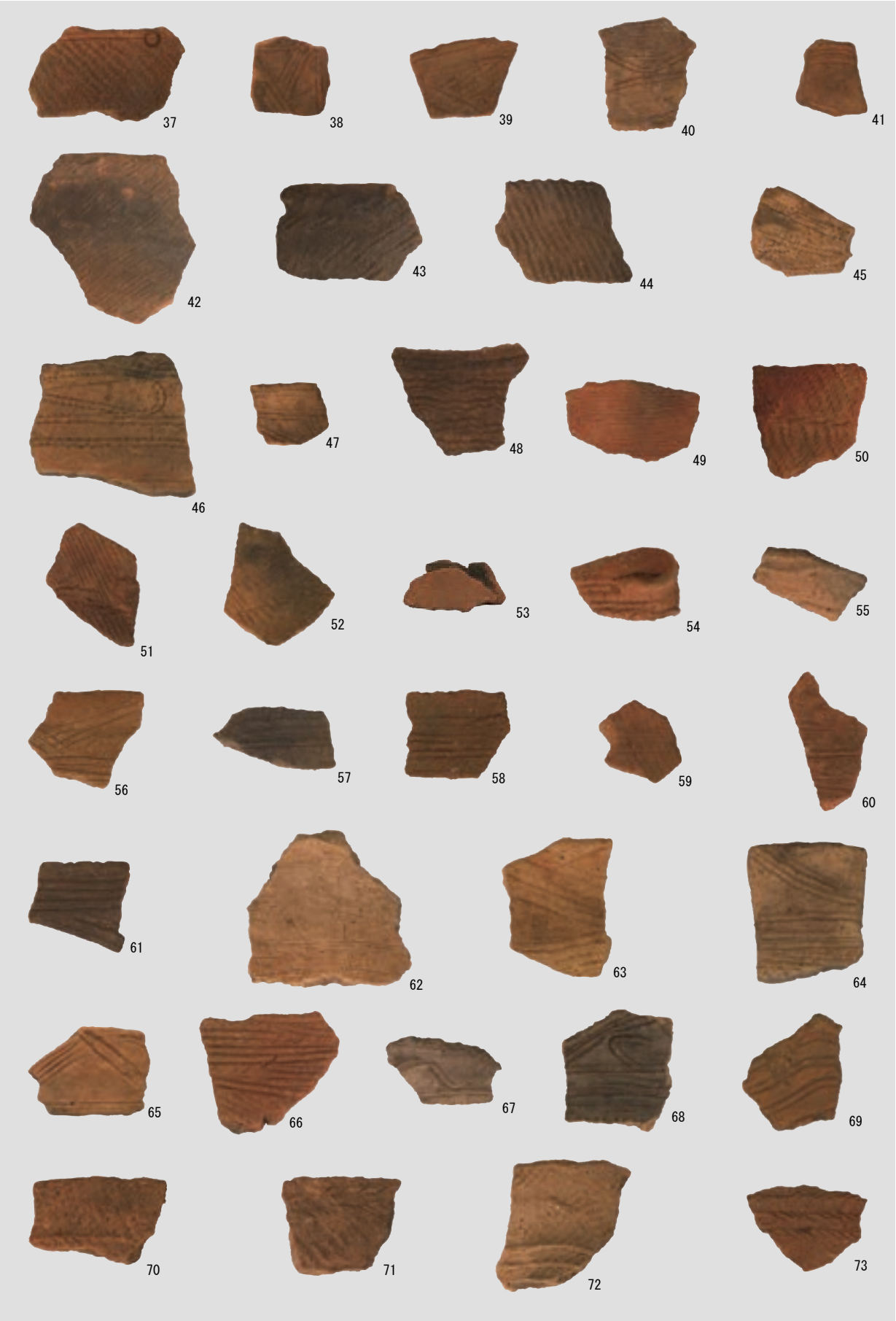


2．69 号溝跡出土遺物

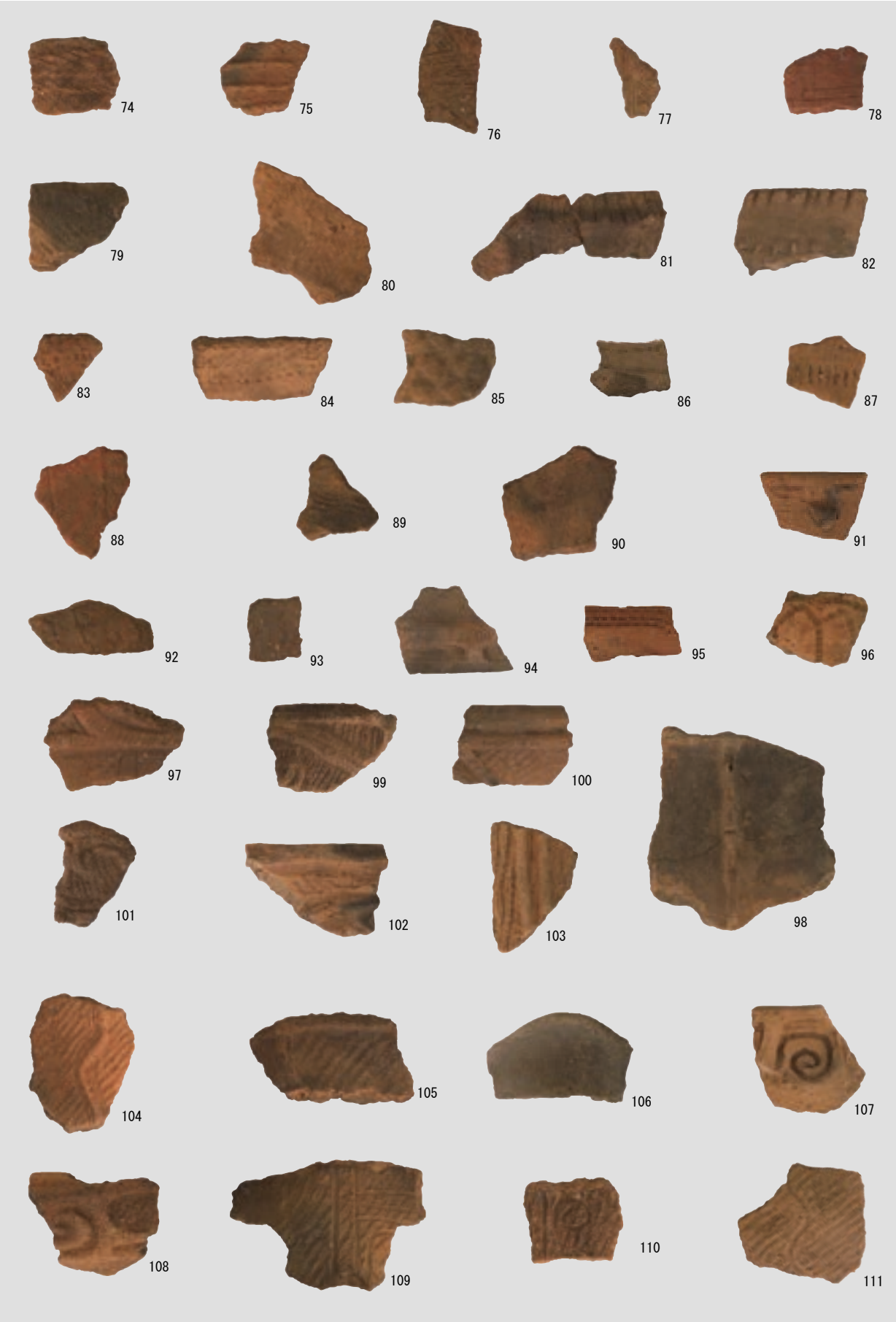
3．中世以降の土坑出土遺物



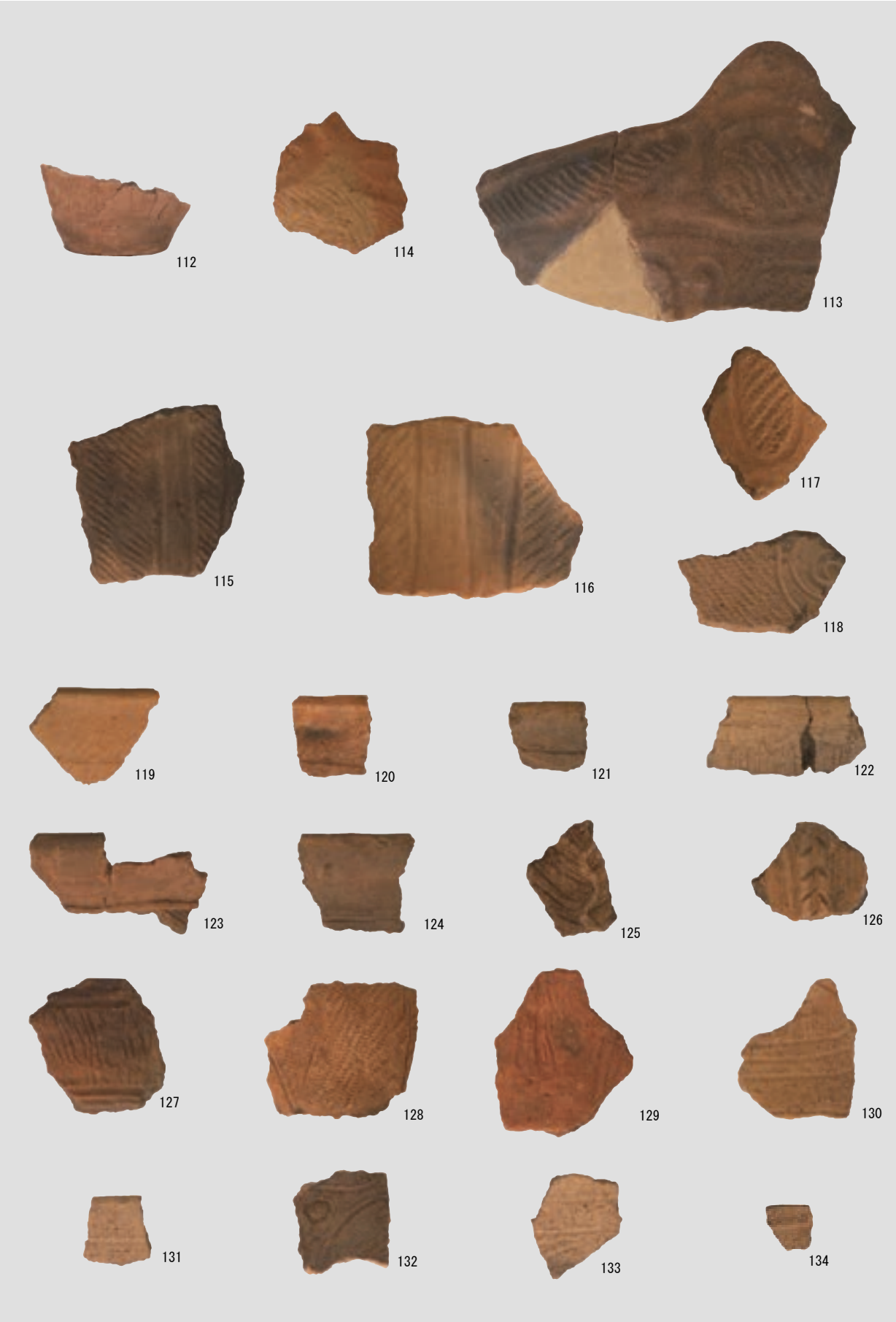
縄文時代遺構外出土遺物 1



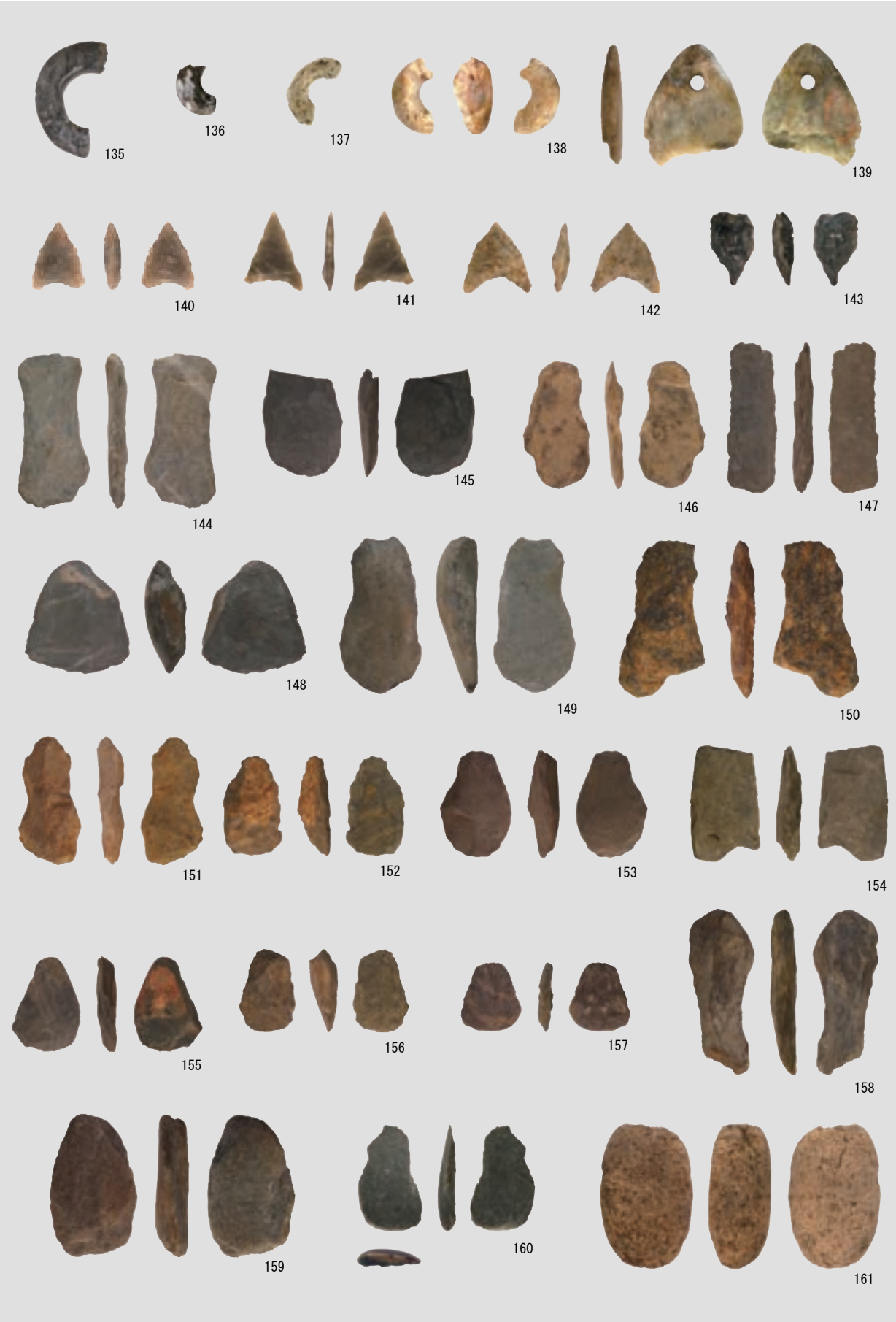
縄文時代遺構外出土遺物２



縄文時代遺構外出土遺物３

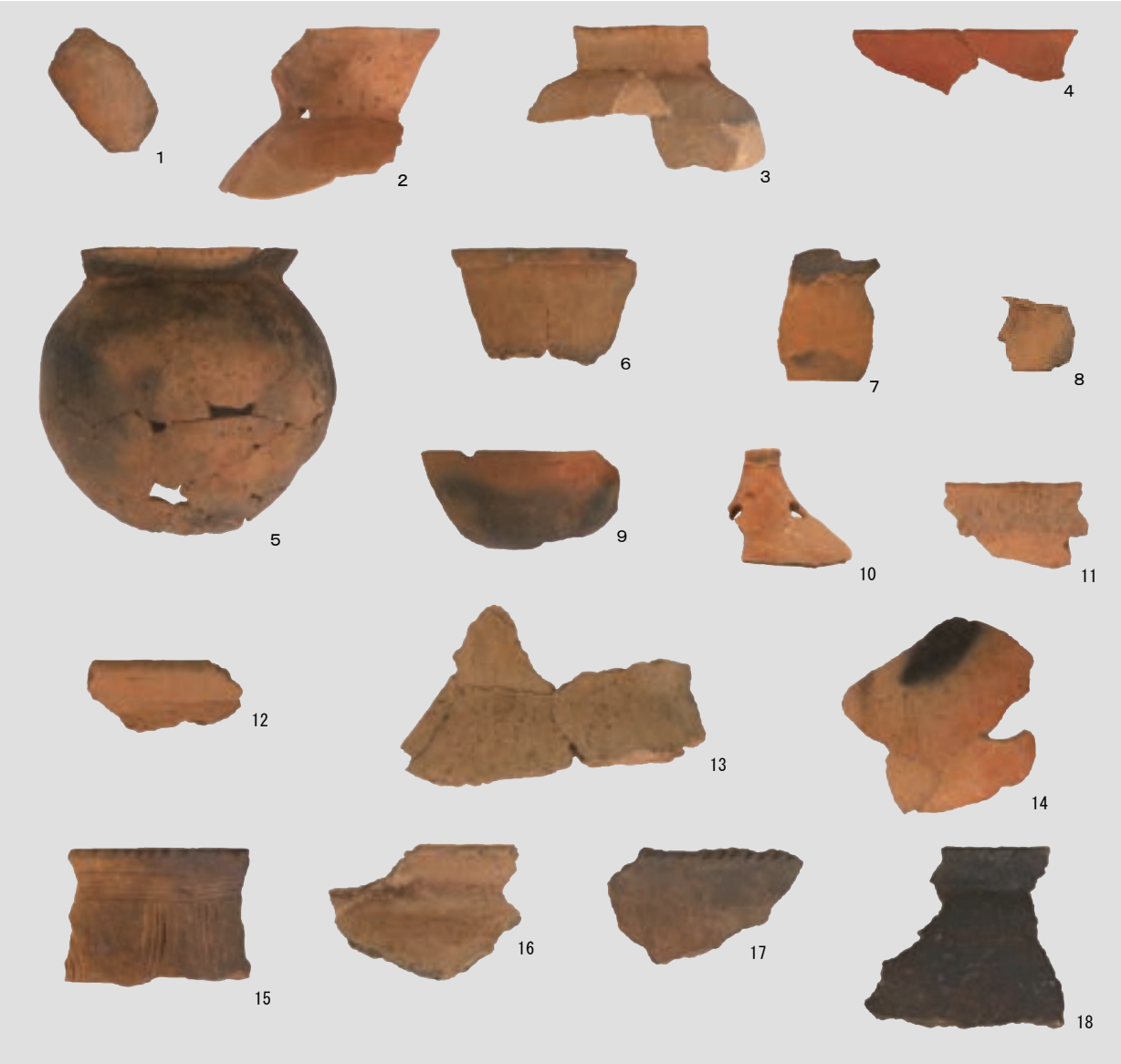


縄文時代遺構外出土遺物 4



縄文時代遺構外出土遺物 5

縄文時代遺構外出土遺物６



1．弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物

2．古墳時代後期遺構外出土遺物

図版102

1．中世以降遺構外出土遺物

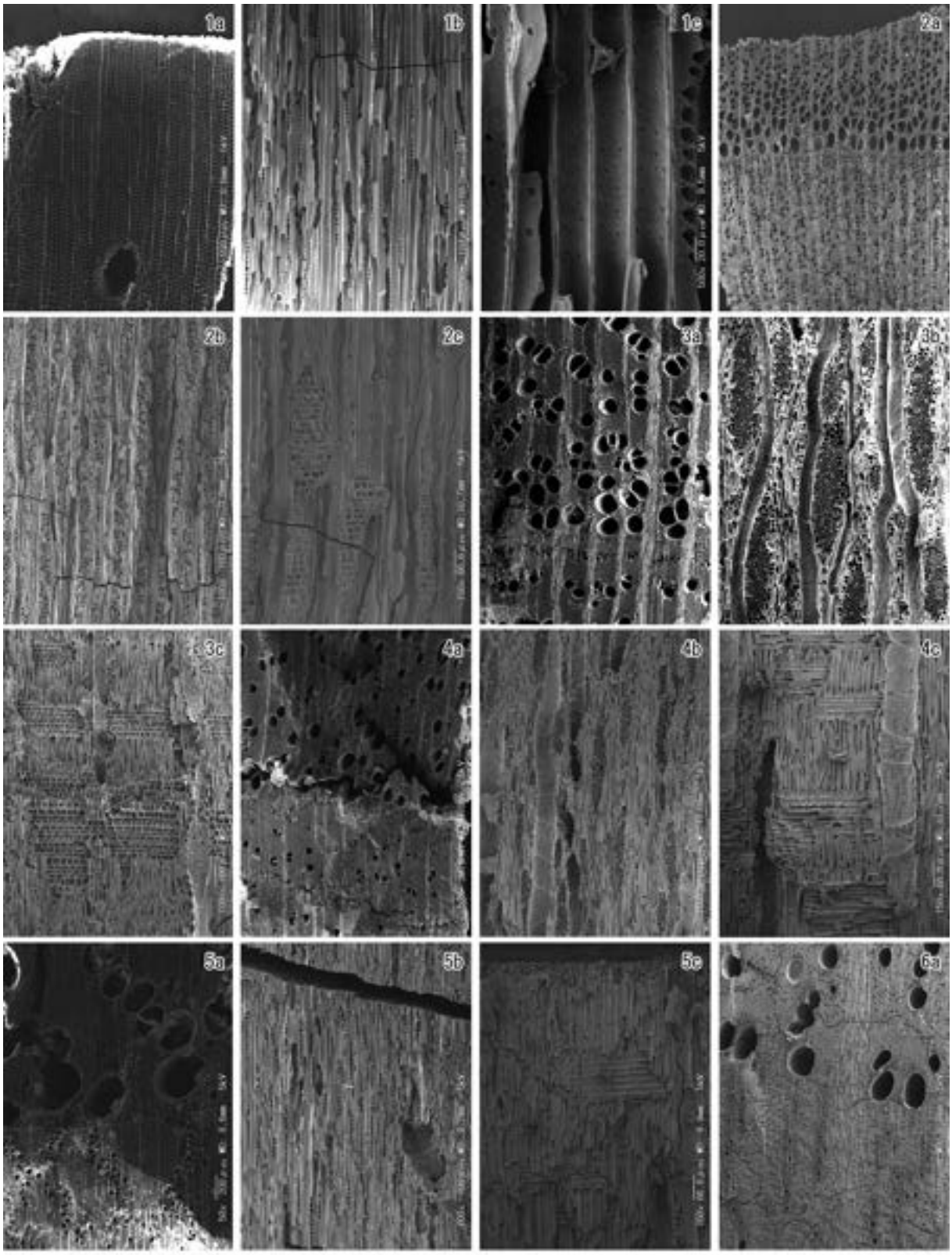
a：ヤマトシジミ（x0.5） b：ヤマトシジミ幼貝（x0.5） c：ハマグリ（x0.5） d：ウネナシトマヤガイ（x1） e：イシガイ（x0.5） f：マガキ（x0.5）

2．城山遺跡第 96 地点出土貝類

g：オオタニシ（x1）　h：チリメンカワニナ（x1）　i：魚類の顎骨か（x60）　j：魚類（タイか）の歯（x200）
k：魚類の椎骨（x200）　l：ヒメコハクガイ（x200）　m：マルシタラガイ（x200）　n：ヒメベッコウマイマイ（x200）
o：ニッポンマイマイ（x20）　p：ヒダリマキゴマガイ（x200）　q：オカチョウジガイ（x200）

城山遺跡第 96 地点出土貝類・魚歯・魚骨

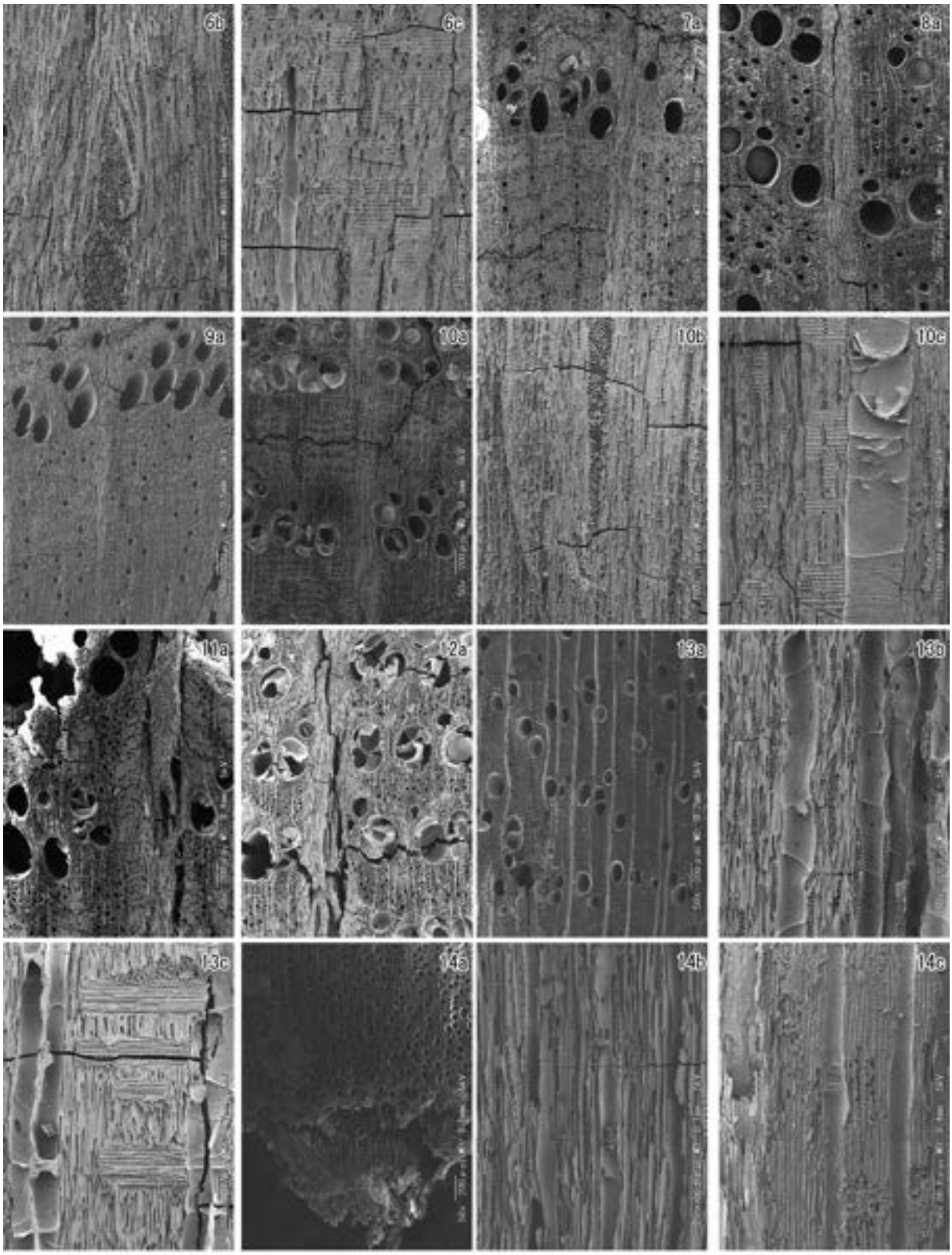
図版104



1a-1c. ヒノキ科 (No.169)、2a-2c. モモ (No.140)、3a-3c. エノキ属 (No.234)、4a-4c. クワ属 (No.97)、5a-5c. クリ (No.83)、6a. コナラ属クヌギ節 (No.12)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 1

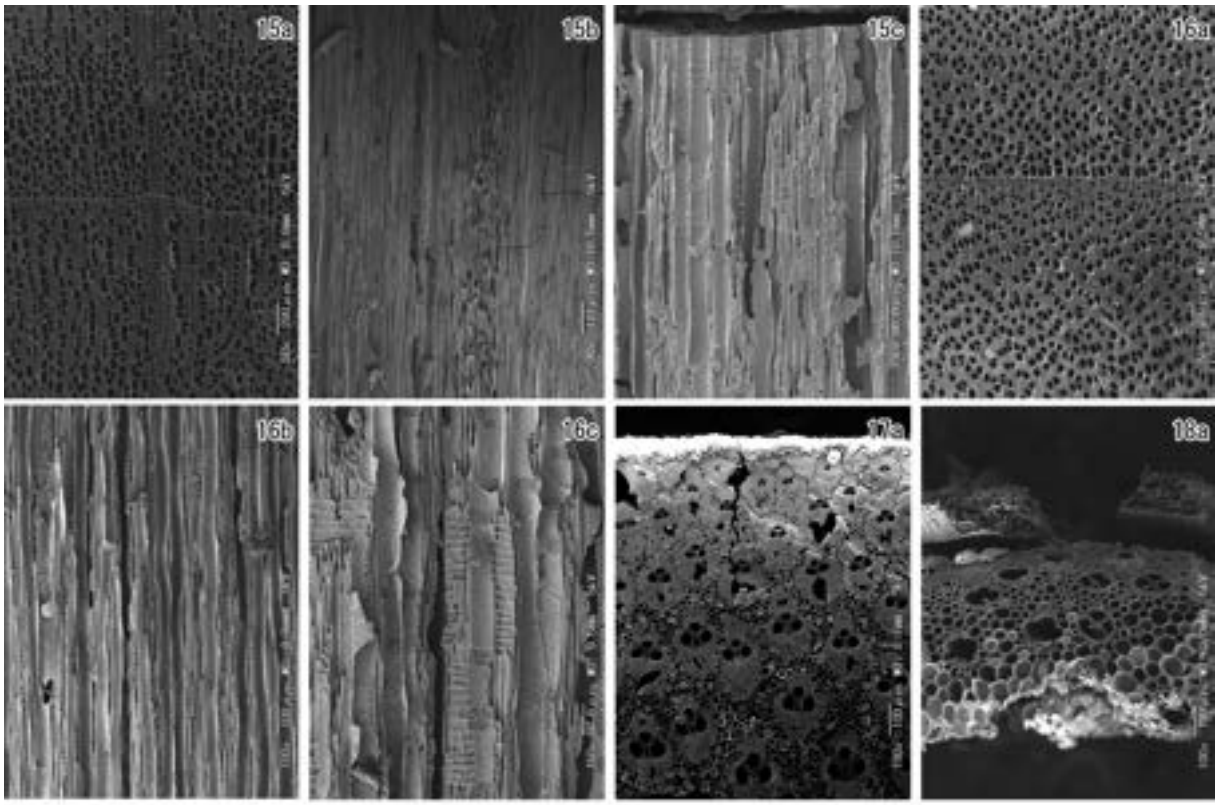


6b-6c. コナラ属クヌギ節 (No.12)、7a. コナラ属クヌギ節 (No.11)、8a. コナラ属クヌギ節 (No.51)、9a. コナラ属クヌギ節 (No.103)、10a-10c. コナラ属コナラ節 (No.23)、11a. コナラ属コナラ節 (No.86)、12a. コナラ属コナラ節 (No.91)、13a-13c. オニグルミ (No.10)、14a-14c. ハンノキ属ヤシャブシ亜属 (No.154)

a: 横断面 (スケール =250μm)、b: 接線断面 (スケール =100μm)、c: 放射断面 (スケール = 針 :25μm・広 :100μm)

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 2

図版106



15a-15c. ハンノキ属ハンノキ亜属 (No.49)、16a-16c. ヤナギ属 (No.6)、17a. タケ亜科 (No.197)、18a. イネ科 (No.251)
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 3

報　告　書　抄　録

ふりがな	しろやまいせきだい96ちてん
書名	城山遺跡第96地点
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第78集
編著者名	尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貴則・宅間清公
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL048（473）1111
発行年月日	令和3（2021）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （°′″）	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
城山遺跡（しろやまいせき） （第96地点）	志木市（しきし）柏町（かしわちょう） 3丁目1139番 3・4	11228	09-003	35° 49′ 59″	139° 34′ 07″	20190527 ～ 20191102	1,496	市営墓地 拡張工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山遺跡 （第96地点）	集落跡	旧石器時代	石器集中地点 3か所 礫群 2か所	石器 礫	縄文時代前期の住居跡（7～9・12Ｊ）から貝層を検出した。 市内ではじめて弥生時代中期後葉の住居跡（10Ｙ）を検出した。
		縄文時代	住居跡 11軒 集石 2基 炉穴 5基 土坑 18基 ピット 7基	土器、石器 土器 土器 土器 土器	
		弥生時代中期～古墳時代前期	住居跡 4軒 方形周溝墓 1基	土器、石器、土製品	
		古墳時代後期	住居跡 19軒	土師器、須恵器、鉄製品、土製品、石製品	
		平安時代	住居跡 3軒 掘立柱建築遺構 1棟	土師器、須恵器、鉄製品、土製品	
		中世以降	溝跡 2本 道路状遺構 1本	磁器、陶器	
			土坑 41基 ピット 188基	磁器、陶器、土器、鉄製品、銭貨	

要約	

今回の調査では、旧石器時代から近世に亘る、遺構・遺物が発見された。

遺構は旧石器時代の石器集中地点・礫群、縄文時代の住居跡・集石・炉穴、弥生時代中期～古墳時代の住居跡・方形周溝墓、古墳時代後期の住居跡、平安時代の住居跡・掘立柱建築遺構、中世から近世の溝跡・道路状遺構・火葬土坑などである。

遺物は、旧石器時代のナイフ形石器・剥片・礫、縄文時代の土器・石器、弥生時代中期～古墳時代前期の土器・石器・土製品、古墳時代後期の土師器・須恵器・鉄製品・土製品・石製品、平安時代の土師器・須恵器・鉄製品・土製品、中世～近世の磁器・陶器・土師質土器・金属製品などが出土した。また、縄文時代の住居跡からは、マガキ・ヤマトシジミを主体とする貝層を検出した。

志木市の文化財　第78集

城山遺跡第96地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　　行　　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日　　令和3（2021）年3月31日
印　　刷　　朝日印刷工業株式会社